

# 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告書

～子どもたちの豊かな成長と子育て家庭の暮らしを保障するまちへ～



平成 19 年 3 月

文京区保育ビジョン策定検討委員会



## はじめに——文京区保育ビジョン策定検討委員会報告にあたって

日本は「成熟社会」と称され、経済的に極めて豊かな国であることは、疑う余地もありません。にもかかわらず、親子を取り巻く暗い話題や悲しい事件が引きもきらないのは何故なのでしょう。

わが国では、かつては、子育て・子育ては当然のように家庭や地域社会で担われてきていました。しかしながら、高度経済成長期を経て、私たちが生活する地域社会は、お互いのつながりや助け合いといった機能を失っていきました。その結果、孤立した環境での子育てを余儀なくされ、子育てに不安や負担感を持つ親が急速に増えることにも繋がっていきました。このような環境では、誰もが楽しく子育てできるとは言えません。

これまで以上に、子どもを産み育てることを社会がもっと評価し、次代を担う子どもたちや親の子育てを社会全体で支援することを速やかに、そして、強力に推進しなければ、この状況は好転しないものと考えます。

文京区の保育が目指すべき方向性を明確にする、保育ビジョンの策定にあたって、ここに規定すべき内容について、公募区民をはじめとする 20 人の委員からなる、文京区保育ビジョン策定検討委員会で検討を重ねてまいりました。本検討委員会では、9回の委員会と4つのワーキンググループでの検討が行われ、このたび最終報告をする運びとなりました。

昨年 12 月に「文京区保育ビジョン策定検討委員会報告 中間のまとめ」を公表した際には、数多くのご意見が寄せられ、区民の皆さんの子育てや保育に対する関心の高さをうかがい知ることが出来ました。

この保育ビジョンの策定を機に、区民の皆さん一人ひとりが子育てのあり方や支援について積極的に関心を持ち、係わっていただけるようになることを、切に願って止みません。

平成 19 年 3 月

文京区保育ビジョン策定検討委員会

会 長 汐 見 稔 幸



## 目 次

第Ⅰ 保育ビジョン策定の基本的な考え方 .....	1
第Ⅱ 保育ビジョンにおける対象領域.....	2
第Ⅲ 保育ビジョンの位置づけ .....	2
第Ⅳ 保育ビジョン作成の背景 ～文京区の保育を取り巻く現状～ .....	2
第Ⅴ 文京区がめざす将来像.....	7
第Ⅵ 文京区がめざす将来像を実現する方向性.....	8
<b>Vision1 子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障 .....</b>	<b>8</b>
1. 子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」をはぐくむ.....	8
2. 家庭での子育てのありかたを見直す.....	9
3. 公園を遊びとふれあいの場にしていく.....	10
4. メディアとの関わり方を見直すー「電子メディア漬け」から「絵本好き」な子どもへ..	10
5. まちの環境整備を図る.....	11
6. 地域全体で子どもを見守るー子どもを育てるまちの一員として.....	12
<b>Vision2 子育て支援・親の支援 .....</b>	<b>13</b>
1. 利用者の視点に立ったサービスの提供をすすめるー必要なときに必要な支援を.....	13
2. 子育て情報の効果的な提供を行う.....	14
3. 区民との協働・協治による子育て・子育て支援を推進する.....	15
4. 養育サポートの充実を図る.....	16
5. 医療体制を充実させる.....	17
6. 施設の充実・整備を図る.....	17
<b>Vision3 親の就労・多様な生き方の支援.....</b>	<b>19</b>
1. 従業員の家族的責任を踏まえた新たな雇用・就労のありかたを創造する.....	19
2. 多様な生き方、ライフコースへの支援を行う.....	21
<b>Vision4 保育機能の中核としての保育園 .....</b>	<b>23</b>
1. すべての子育て家庭を対象とする保育園へ.....	23
2. 保育機能の中核にふさわしい保育園の具体的役割.....	24
3. 保育園の機能を高める.....	26
4. その他、長期的な視点から慎重に検討したい項目.....	28
第Ⅶ 保育ビジョンの実現に向けて .....	29

## 参 考 資 料

---

資料1	文京区保育ビジョン策定検討に向けた体制 .....	33
資料2	文京区の状況 .....	39
資料3	文京区の人口の推移・推計 .....	57
資料4	子育て支援先進事例集 .....	73
資料5	子育てしやすいまちに関するアンケート調査結果 .....	87
資料6	家庭で乳幼児を育てている保護者に対するグループヒアリング調査結果 .....	123
資料7	文京区立保育園保育士アンケート分析結果の報告書.....	137
資料8	文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ.....	321
資料9	文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめに向けた議論の整理 .....	347
資料10	文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめに対する区民意見 .....	371

## 第 I 保育ビジョン策定の基本的な考え方

子どもは未来の希望です。その子どもたちを豊かにはぐくむまちはまた、だれもが希望を持って生活できるまちでもあります。そして、子どもたちをはぐくむこと、その成長を見守ることは大きな喜びでもあります。

しかし、私たちを取り巻く現実には厳しいものとなってきました。私たちの希望であるはずの子どもたちは、今、子ども同士や異年齢との交流等のなかで、自主的に学び、成長していく機会や場が減少しているなど、かつてよりも厳しい環境におかれています。そのなかで、児童虐待やさまざまな問題の被害者として、心身ともに傷ついている子どもたちもいます。また、豊かな人間関係を体験できないまま、いじめや犯罪の加害者となる子どもたちもいます。

一方、今の親の暮らしからは、子どもをはぐくむことに喜びを見いだす余裕も失われかねない状況です。経済的、社会的に厳しい状況に直面する親たち、子育てと就労との両立で疲れている親たち、育児の大半を一人で担い、心身の負担に苦しむ親たちもいます。

この現実に対し、子育て力・教育力の低下として親個人や家庭内部の問題にとどめるのではなく、子どもを産み育てることを社会がもっと大切に思い、次代を担う子どもたちや親の子育てを社会全体で支援することを速やかに、そして、強力で推進していかなければなりません。

今、求められるのは、これまで以上に子どもたちを豊かにはぐくむまちなりのありようを大胆に描き、その未来像に向けて一歩でも踏み出すことです。

その際には、伝統的な性別役割分業の概念にとらわれることなく、男性も女性もともに家族としての責任を担い、社会での活動にも参画できるような支援を行っていくべきであり、画一的な家族像やライフスタイルを強調することがあってはならないと考えます。また、そこにおいてはいたずらに効率を追い求めてはならないとも考えます。

すべての子育て家庭が安心して暮らすことができ、すべての子どもたちが健やかに育つことのできる社会を築くために、「保育」を子どもの心身の豊かな育ちを保障する上でのさまざまな機能ととらえ、あらためてこれからの文京区の保育のめざすべき方向性を明確にするとともに、文京区のさまざまな人たちや団体及び区が、その方向性をともに確認しあいながら主体的に活動するため、文京区保育ビジョンを策定するものです。

## 第Ⅱ 保育ビジョンにおける対象領域

文京区保育ビジョンにおいては、「保育」を子どもの心身の豊かな育ちを保障する上での養育、教育双方を含むさまざまな活動、機能であるにとらえ、その強化の方向性を示します。子どもの発達成長を保障し、自立へと至るまでの過程に求められる福祉的かつ教育的視点をあわせもつ活動、機能を担う場は、保育園、幼稚園、小・中学校、学童保育、保健・医療分野、社会教育分野、さらには地域の多様な社会資源等、広範囲にわたるものです。また、それらは家庭、地域社会、行政のありようとも密接に関わっています。

このような重層的かつ広範囲な領域を踏まえ、本委員会ではまず、保育の方向性を示す足がかりとして、思春期へと至るまでの重要なステップである就学前の子どもたちに焦点をあわせ、検討しています。その際、未就学児を広範囲にカバーする施設として、従来から国、東京都、文京区レベルの施策において地域子育て支援の中核と位置づけられ、保育に関する多様な活動、機能を担ってきた経緯を持つ保育園に着目しています。

文京区における保育の方向性を示す上で、幼稚園の重要性はいうまでもありません。しかし、幼稚園のありかたについては、現在、国レベル、都レベルで議論がすすめられており、認定こども園等幼保一元化の方向性を含め、従来の教育機能のみならず、子育て支援機能等における位置づけ、方針がなお検討されている段階にあります。このことから、今後、本ビジョンで示されていく方向性が、保育園・幼稚園・小学校・社会教育の連携等、広範囲な領域で確認、接合され、子どもの心身の豊かな育ちを保障する総合的な施策・まちづくりへと発展していくことが大切だと考えています。

## 第Ⅲ 保育ビジョンの位置づけ

就学前の子どもに係る分野の基本理念・基本目標を示し、文京区地域福祉計画（「文の京」ハートフルプラン）及び文京区子育て支援計画（文京区次世代育成支援行動計画）の具体化及び計画の見直しの際の基本指針とします。

## 第Ⅳ 保育ビジョン作成の背景 ～文京区の保育を取り巻く現状～

近年の人口動態を見ると、ひと頃減少傾向にあった文京区の人口は、地価の下落などの要因を背景とした都心回帰などもあり、増加に転じています。特に乳幼児人口の増加率は総人口の増加率をやや上回るペースであり、保育園をはじめとする子育て支援サービスに対する需要が増加しつつあります。こうした変化への量的対応のみならず、とりわけ都心部での子どもや子育て家庭を取り巻く環境が厳しくなっている今、安心して子どもを育てる上で、経験豊富な人材、施設設備等に裏打ちされたより一層、質の高い子育て支援サービスも求められています。

また、文京区における合計特殊出生率は平成 18 年時点で 0.79 と全国平均を下回り続けており、長期的展望に立って、核家族化など家族の変化、地域社会の子育て環境の変化、働き方やライフスタイルなどの多様化等の社会変動に的確に対応した施策、社会全体での支援のありかたを再構築していくことが求められています。

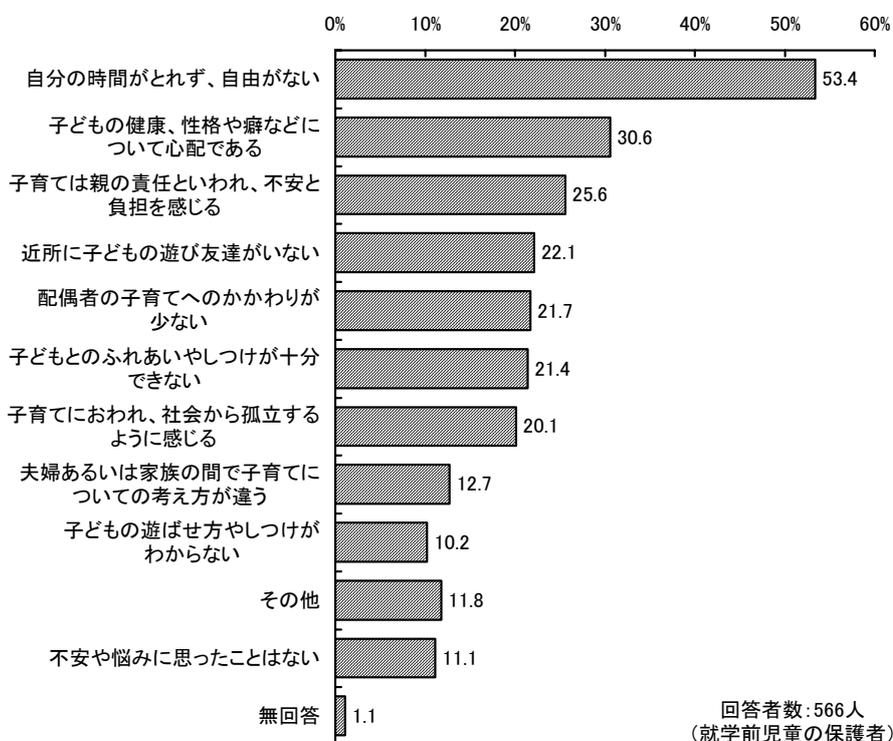
## ■ 地域社会のつながりの希薄化と子育てを負担に感じる人の増加

平成 16 年 3 月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査」では、子育てに不安や悩みを持つ人が多いことがわかりました。

就学前児童の保護者からは、「自分の時間がとれず、自由がない」「子どもの健康、性格や癖などについて心配である」「子育ては親の責任といわれ、不安と負担を感じる」「近所に子どもの遊び友達がいない」などが多くあげられています。

また、「子育てしやすいまちに関するアンケート」結果から、子育て世帯の状況についてみると、「仕事と子育ての両立・働き方」「子どもが病気の時」「自分の体調がわるいとき」「相談相手や支援者がいない」といったときに、子育てが大変、つらいと回答する人が多く、子育てを負担に感じざるを得ないような現状があることがわかります。核家族化で地域社会のつながりの希薄化がすすみつつあるなかで、こうした不安や悩みに対応する施策をなお一層、充実させる必要があります。

[ 子育ての不安や悩み ]



資料出所：「文京区子育て支援に関するアンケート調査報告書」（平成 16 年 3 月）

[ 子育てが大変(大変そう)、つらい(つらそう)と思った(思う)とき ]

順位	保育園保護者の回答	件数	主に家庭で子育て中の主婦の回答	件数
1	仕事と子育ての両立・働き方	21 件	自分の体調がわるいとき	15 件
2	子どもが病気のとき	20 件	交通機関や道路、遊び場の問題	12 件
3	保育園のこと	16 件	自分の時間がとれない・したいことができない	9 件
4	相談相手や支援者がいない	10 件	相談相手や支援者がいない	8 件
5	孤独に子育てをしていると感じるとき	9 件	保育園・幼稚園のこと	7 件
6	自分の時間がとれない	9 件	子育てに関する支援について	7 件
7	自分や家族の体調がわるいとき	8 件	出産後しばらくの間	5 件
8	子育てに関する支援について	6 件	経済的な負担	5 件
9	小学校のこと	5 件	仕事と子育ての両立	5 件
10	子育ての仕方のこと	4 件	周囲の理解がない	5 件
		回答者数 78 人	回答者数 49 人	

資料出所：文京区策定検討委員会資料第 21 号「子育てしやすいまちに関するアンケート調査結果」より抜粋

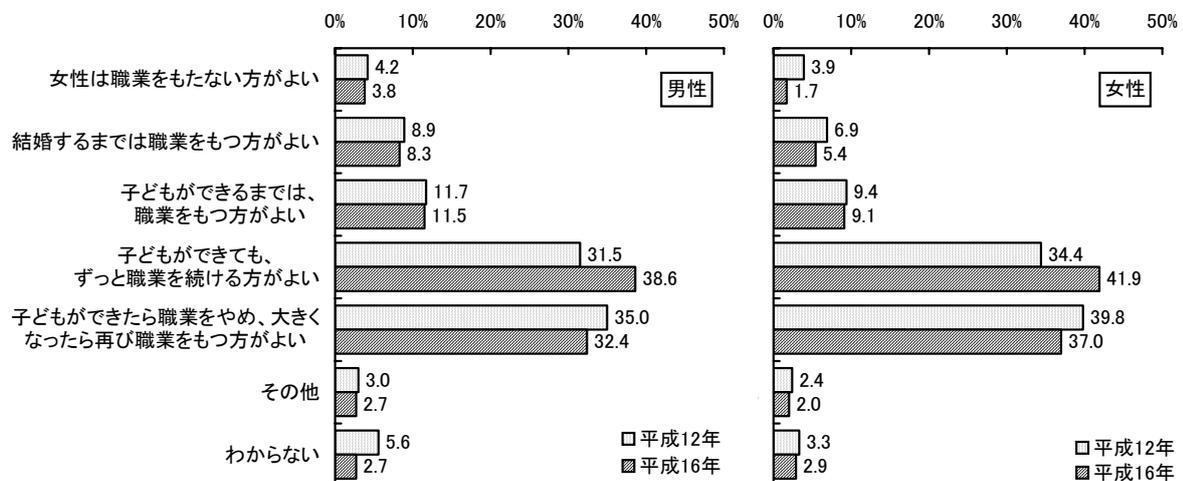
■ 働く親の増加と就労形態、労働環境の変化

働きながら子育てをする人たちが増えています。女性の就労に対する意識の変化のみならず、核家族・共働き家庭・一人親家庭など、親が就労する家族のありかたも多様化しています。

一方、30代・40代男性の4人に1人、同女性の10人に1人が週60時間以上働いているなど、子育て世代の長時間労働が問題となっています。また、パート、派遣等非典型雇用労働者の数も増加しており、不安定な労働条件と経済的条件を抱えて働く親も少なくありません。

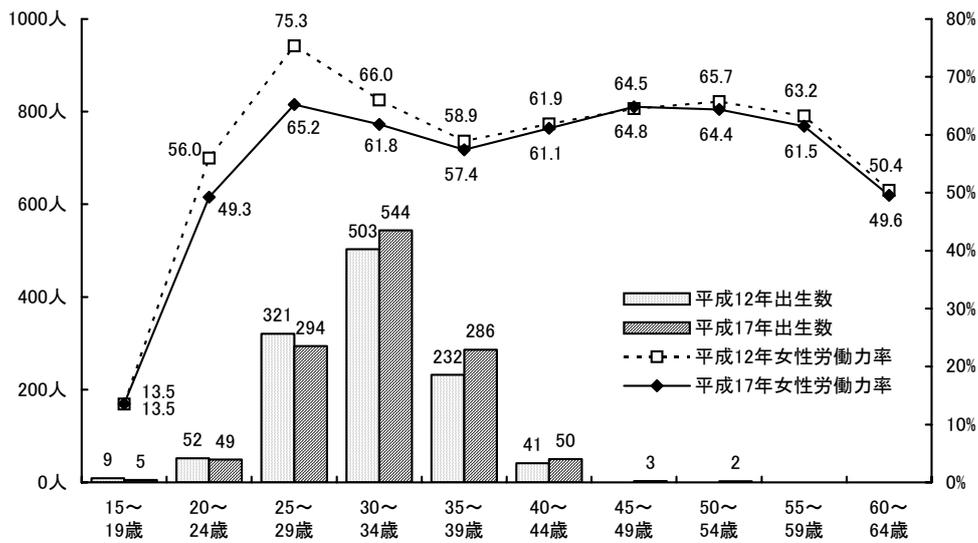
父親、母親が子育てを楽しみ、安心して就労できるよう、今後なお一層、就労形態の多様化、雇用、労働環境の変化に対応しながら、働く親の就労と子育てとの両立を支えていくことが必要となっています。

[ 女性が職業を持つことに対する意識 ]



資料出所：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

[ 文京区の女性労働力率と出生数 ]



資料出所：出生数：東京都「人口動態統計年報」、女性労働力率：総務省「国勢調査」

## ■ 多様な支援の必要性

都市化や車社会の進展などにより、地域社会から、子ども同士が安全・安心に遊び、地域の子ども集団、人間関係を軸に自ら学び、成長する機会や場が少なくなっています。このようなかつて地域社会が持っていた育児機能が失われつつあるなか、親が引き受ける育児課題はかつてなく膨大なものとなり、その課題もより一層、複雑化しています。地域社会から孤立した子育てをする親の育児不安、育児ノイローゼも指摘されているところです。

こうした問題への対応に加え、近年、児童虐待に関する相談件数も増えてきており、個々のケースの特徴や問題点をすばやく見極め、適切に対応できる専門性の高い支援が求められています。同時に、重度の障害だけでなく、軽度発達障害の子ども一人ひとりの課題を把握した個別の支援の充実、さらには、外国籍を持つ子どもたちへの支援などの充実が求められています。

[ 子ども家庭支援センターにおける児童虐待に関する相談者数の推移 ]

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
0～3歳未満	0人	5人	3人
3～就学前児童	6人	7人	15人
小学生	4人	17人	19人
中学生	1人	3人	4人
高校生・その他	0人	3人	1人
合計	11人	35人	42人

※ 平成 15 年度は、10 月 1 日から 3 月 31 日までの実績 (単位：実人数)

## ■ 文京区における子ども・子育て関連施策の実施経過

文京区では、地域福祉計画の中で、子育て施策を子育て支援計画と位置づけ、施策の推進を図ってきました。さらに、少子化対策の総合的な取り組みを推進するため、平成 15 年に「次世代育成支援対策推進法」が制定されたことを受け、平成 16 年度に、子育てに係る施策を総合・包括・拡充した「子育て支援計画（次世代育成支援行動計画）」を策定し、地域における子育て支援の取り組みをすすめてきています。

しかしながら社会環境の変化のスピードは速く、文京区ならではの施策を十分に実施するまでに至っていないのも現実です。

一方、国においても、少子化の背景にあるさまざまな要因についての分析、それに基づく対策に関する議論がなされるとともに、少子化に歯止めをかけるべく、さまざまな施策が実施されてきています。こうした国の制度も年度によって大きく変化しています。

## 第V 文京区がめざす将来像

すべての子どもたちが、のびのびと育ち、自立した大人へと成長していくことは、私たちの願いです。そして、子育てを取り巻く環境が変化し、厳しいものとなっているとしても、本来子育ては無限の喜びと将来への希望に満ちた営みであるはずです。

子どもを育てる人々が子育ての楽しさを実感することができるとともに、地域に暮らす人々が子どもと子どもを育てる人々を同じ温かいまなざしで見守り、応援することのできるまちをめざすことにより、子どもの育ちを保障していく必要があります。

### 将来像：「子どもたちの豊かな成長と子育て家庭の暮らしを保障するまち」

- 一人ひとりの子どもの幸せを第一に考える社会
- 安心して子どもを産み育てることができる社会
- 地域ぐるみで子育てを応援する社会

この将来像の実現に向けて、以下の4つの方向性を示します。

**Vision1 子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障**

**Vision2 子育て支援・親の支援**

**Vision3 親の就労・多様な生き方の支援**

**Vision4 保育機能の中核としての保育園**

## 第VI 文京区がめざす将来像を実現する方向性

### Vision1 子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障

---

子どもをあたたく包み込むまちのありかたが問われています。思春期を見通した子どもの育ちを考えると、子どもたちが家庭や地域で基本的な生活習慣を身につけ、健やかに成長できる環境を整えていくことが重要です。

同様に、文京区ならではの人的資源や施設、ネットワークを最大限活かし、安全・安心に子どもたちが遊び、学ぶことのできるまちにすることも必要です。そのためには、その力を活かす工夫がまちづくりにも求められます。

#### 目 標

#### 1. 子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」をはぐくむ

子どもの健やかな成長にとって、「食事」「遊び」「睡眠」は非常に大切であり、十分な配慮が求められます。子どもには望ましい生活リズムがあること、「食事」「遊び」「睡眠」が子どもの成長にとって極めて大切であるということについて、あらためて見直し、子どもが望ましい生活習慣を身につけられるように支援していく必要があります。

また、「しつけ」や「教育」の前提として、まず子ども自身が受け容れられていることを実感できていなければなりません。そのためには、他人とふれあい、交流していくことが重要であり、このことによって思いやりや信じあう関係、いたわりの心や愛情、社会性が芽生えることにつながります。そして、自然の中でのさまざまな体験を通じて、子どもは、本来の姿をみせ、考える力をはぐくみ、感性豊かで心身ともにたくましく育つことができます。このようなふれあいの中から、子どもたちは好奇心や探究心をはぐくみ、さまざまなことを身につけ、学んでいきます。

##### (1)子どもたちが、望ましい基本的な生活習慣を身につけられるように心がける

- ・安全性に配慮した「食事」、身体と五感を使った豊かな「遊び」、十分な「眠り」が子どもたちの成長には必要である。
- ・大人のリズムに子どもをあわせるのではなく、子どもにとって望ましい基本的な生活リズム＝「早起き → 朝食摂取 → 身体を使った十分な遊び → 早寝」を基本とした「生活のリズム」を整えるように心がける。
- ・必要以上の厚着をさせず、薄着での外遊びを心がける。四季折々の気候の刺激を経験・体感でき、体温や血圧の調節機能をつかさどる自律神経の発達が促されることにつながる。

## (2)子どもたちに、人との豊かなふれあいや自然とのふれあいの機会を与える

- ・子どもが「自分を好き」と思える心の土台づくりをすることが大切。そのために、まず、保護者をはじめとする大人との豊かなふれあいを通じて、大人に対する基本的な「信頼」（自分は受け容れられているという感覚）をはぐくむ。
- ・同年齢・異年齢の友だちと遊べる環境・ふれあう機会をつくっていく。
- ・動物や植物など生き物とふれあう機会をつくっていく。
- ・自然の中で、肌のふれあいや声のかけあいでできる外遊び・野外活動体験の機会をつくっていく。

## (3)子どもたちの日常生活に根ざした、内発的な「知」の成長を支える

- ・形式的な「知育」に偏ることなく、日常生活や人・自然とのふれあいの中から、自然に湧き出てくる、子どもの自発的で内発的な「知」への欲求を大切に、支える環境を整えていく。

## (4)子どもたちが一人の人間として自立していくための成長を支える

- ・「過保護」「過干渉」に陥ることなく、日常生活の中で、子どもが自分自身でできることを尊重し、認めることで、自立に向けた成長の過程を大切にする。

## 2. 家庭での子育てのありかたを見直す

子どもにとっては、家庭が第一番目の社会であるといえます。しかし、現実には父親は仕事に追われて、結局母親だけが一人で育児の責任を負わなければならない「密室育児」が、母親の孤立感・負担感を高めているともいわれています。家事や育児に協力できる、もっとも身近な存在としての父親の役割の重要性を訴える必要があります。

また、夜更かしなどで、無意識のうちに子どもを大人の生活につきあわせてしまっていないでしょうか。子どもの成長にとって望ましい生活習慣を再認識すべきです。

### 【施策のための具体案】

- ・「父子健康手帳」を配布し、父親として必要な知識や役割を学ぶ機会をつくる。  
（妊娠期間 40 週の赤ちゃんの成長と母親の体の変化にあわせ、父親ができるサポート、家事、妊婦体操、ベビー用品の準備、出産の兆候から産後までの出産のプロセスにそった具体的な夫のサポート、3 歳までの赤ちゃんの心と体の発達、我が子への関わり方等が具体的に書かれているもの）
- ・「家事・子育ては女性・母親がするもの」というような、旧来の性差による固定的な考え方を排していく。

### 3. 公園を遊びとふれあいの場にしていく

文京区には大小さまざまな公園があります。四季折々の自然に親しむ場であり、また、地域の人々が集う場でもあります。そうした公園を一層、子どもたちが地域の人と交流し、楽しめる場として整備していくことが必要です。

子どもの遊びは、親同士のつながり、地域のつながりにも発展します。文京区はビルや住宅が立ち並び、空き地が少ないことから、子どもが外遊びできる場の整備が必要です。区内には児童遊園も多くありますが、遊具自体をもっと小さい子ども遊びやすいもの、子どもがわくわくするような遊具に設置し直すことを検討すべきです。

また、保育園・幼稚園に通っていない親子が遊べて、かつ、親同士が交流できる場をつくる必要があります。

#### (1) 公園を整備・改良する

##### 【施策のための具体案】

- ・公園の一角に、子どもたちがいきいきと遊べる「はらっぱ」型のスペースを設ける。
- ・公園の遊具は、子どもたちがわくわくできる、発達・安全を考慮したものを設置する。
- ・専門家と利用者・地域住民の意見を聞き、より良い公園づくりをすすめる。

#### (2) 公園が子どもの遊び場や親同士が交流できる場となるような仕組みづくりをする

##### 【施策のための具体案】

- ・「私の公園」という意識を持てるよう、「ロードサポート」のような、近隣住民により公園の清掃や樹木の剪定、夜間の不審者対策などを行う仕組みをより一層活用して、コミュニティを大事にしようとする意識をはぐくむことにつなげていく。
- ・子育てに関する情報掲示板などを設置して、人が集まる場にする。

### 4. メディアとの関わり方を見直すー「電子メディア漬け」から「絵本好き」な子どもへ

現代社会において、電子メディアは身の回りのいたるところにあふれており、我々の社会生活に必要不可欠なものです。そして大人たちばかりでなく、子どもたちにとっても電子メディアは生活や遊びの上で、身近で日常的な存在となっています。

しかし、子どもたちが、長時間にわたりテレビ・ビデオ・DVD・テレビゲーム・携帯用ゲーム・インターネット等を利用することは、生活リズムの乱れ（夜更かし）や運動不足、双方向のコミュニケーションの不足をもたらすことにもつながります。

文京区には多くの図書館があります。電子メディアが氾濫している今、幼い子が絵本に親しむことは貴重な経験であり、また、子どもの豊かな心の成長に欠かせません。特に、区内のいくつかの図書館でも行われている絵本の読み聞かせは、子どもに読み手との直のふれあいをもたらし、子どもが他者の話を集中して聞く練習ともなります。そして、絵本に描かれている静

止画に親しむことによって、子どもたちの想像力が磨かれます。子どもたちは、お話を聞きながら、絵と絵の間の実際には目に見えない「絵」を、自ずと心に思い描けるようになるのです。

#### (1) 電子メディアの過度の視聴の弊害について啓発する

##### 【施策のための具体案】

- ・長時間にわたる過度の電子メディア視聴がもたらす影響について、保護者・区民に情報提供する。
- ・茨城県東海村、鳥取県三朝町、島根県雲南市久野地区で行っている「ノー・テレビデイ（ウィーク）」などの取り組みを参考にして、生活習慣の改善・親子のふれあいの時間を呼びかける。

#### (2) 図書館の活用を図る

##### 【施策のための具体案】

- ・図書館に、親が子どもに読み聞かせをできる専用スペースを設ける。
- ・平日の幼稚園降園後の時間や土・日曜に、親が子どもの年齢別に読み聞かせグループ活動ができるようにする。
- ・地域に読み聞かせボランティアを育成する。
- ・出版社などの協力により、親子向けのブックイベントなどを行う。
- ・平日の午前中など、家庭で子育てをしている親子が利用しやすい時間帯に、子ども向けのイベント（エプロンシアター、人形劇、紙芝居など）を行う。
- ・外国人の親子にも親しんでもらえるよう、英語をはじめ外国語の絵本の読み聞かせや絵本等を充実させる。
- ・児童館においても、図書館の活用を図っていく。

### 5. まちの環境整備を図る

平成 16 年 3 月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査」によると、子どもとの外出の際に困ることとして、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない」(66.6%)、「歩道の段差などがベビーカーや自転車の通行の妨げになっている」(58.7%)など、まちや施設がバリアフリーになっていないことがあげられています。また、「みどりや広い歩道が少ない等、町並みにゆとりとuringおいがない」(40.3%)など、まちの空間に、子どもが安心して過ごせる場が少ないこともあげられています。子どもの安全・安心を視野に入れたまちづくりが急務です。

**【施策のための具体案】**

- ・道路のバリアフリー化、電線の地中化、コミュニティ道路（ボンエルフ道路など）を設置する。
- ・都市計画のありかたを検討する。
- ・歩行者天国の実施：子どもたちが集える場を拡大する。
- ・エレベーターの工夫：公共施設をはじめとして、エレベーターをだれもが利用しやすいようにしていく。  
（例：操作しやすいボタン・見やすい表示を導入する、ベビーカーや小さい子どもといっしょでも乗り降りしやすい広さや動作のものにする など）

## 6. 地域全体で子どもを見守るー子どもを育てるまちの一員として

子どもが安全・安心に暮らせるまちづくりのためには、行政の取り組みがもっとも重要であるのは当然ですが、地域での取り組みも必要不可欠です。例えば、子ども連れで外出するとき、狭い道路に侵入してくる自動車や、歩道を猛進する自転車はとても危険です。路上での喫煙も、受動喫煙の危険性を考えれば気がかりです。そして、大人から子どもたちに積極的に挨拶や声かけをすることは、子どもたちが地域とふれあい、地域によって育てられていることを実感できる第一歩にもなります。

地域の住民のみならず、企業や団体などそれぞれが地域の一員として、お互いに気を配り、ルールやマナーを守って生活していくことも大切です。

**【施策のための具体案】**

- ・挨拶・注意など、子どもたちに対して声かけを行う。
- ・路上禁煙の実行を促進する。
- ・自動車・自転車の運転マナー改善をすすめる。
- ・「子育てにやさしい店」への取り組みをすすめる。  
（例：商店・企業等が親子連れにトイレや授乳場所を提供する、だれもが利用しやすいエレベーターを設置する など）
- ・地域の一員として「子どもの安全に配慮する企業」としての取り組みをすすめる。  
（例：狭い道路での営業車両（フォークリフト等も含む）の往来を必要最低限に止めるよう配慮する、企業に対して、安全なまちづくりをサポートするための啓発活動「子育てしやすいまちをいっしょにつくろう」「子どもを連れている人にやさしくしよう」「手伝おう」と呼びかける など）
- ・お寺などのスペースを、子どもたちのふれあいの場として活用する。
- ・「団塊の世代」をターゲットにしたネットワークづくりを推進する。
- ・さまざまな団体・個人の連携と地域における交流の場づくりを支援する。
- ・子育てサロン等、地域資源を活用した取り組みを拡充する。
- ・民生・児童委員、NPO、ボランティアなどの制度・活動を周知する。
- ・文京区の企業がNPOに助成、協賛する形で支援する仕組みづくりをすすめる。

## Vision2 子育て支援・親の支援

---

子育ての第一義的責任は、親・家庭にあることはいうまでもありません。しかし、子どもの発達、健康、しつけは子どもの年齢に関係なく、親の不安としてあげられています。

平成16年3月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査」では、「子育ては親の責任といわれ、不安と負担を感じる」とする親が、就学前の子どもを持つ親の4分の1にものぼっています。また、さまざまな事情により、緊急の支援を求める家庭も増加しています。

子どもの成長を保障する上で、子育ての負担を個人や家庭だけに押しつけていては、子どもたちが犠牲になってしまうことになりかねません。子どもの幸せを支援することは、決して親の利便性を優先することではありません。さまざまな事情で配慮を要する子ども、救いを求めている親や家庭を支援することは、子どもの幸せ、子どもの育ちを配慮することの重要な一部分であり、親の不安感を軽減するとともに、安心感をもって子育てする上で必要なものです。

未来の社会を担う子どもたちの成長を社会全体で支え、親と子どもが豊かな関係を結びあい成長していくために、子育て支援・親の支援を提供できる体制づくりが求められています。

### 目 標

#### 1. 利用者の視点に立ったサービスの提供をすすめるー必要なときに必要な支援を

文京区には、さまざまな親子がいます。①妊娠中の女性及び産褥期の母親と子ども、②母子家庭や父子家庭などの一人親世帯、③子どもが障害や病気等を持っている家族、④親が障害や病気等を持っている家族、⑤ドメスティック・バイオレンス（DV）、虐待の被害にあっている子（疑いがある場合も含む）、⑥外国籍、日本語を理解できない家族、⑦その他緊急な対応を迫られるケースなどです。

業務が縦割りのために、窓口が散らばっている行政の体制では、こうした親や子どもが必要なサービスを受けるための情報を得ること自体に困難を伴い、手続きの煩雑さのために、必要なときに必要な支援を受けにくくなりかねません。

子育て支援、子育て支援に関するワンストップ・サービスがぜひとも必要です。1か所に足を運べば、専門的な知識を持った職員が相談に応じ、受けられる支援内容をコーディネートしてくれるとともに、一度の手続きで必要な関連作業を終えることができる。そんなサービスが待ち望まれています。

## (1) 窓口一元化を推進する

### 【施策のための具体案】

- ・ 緊急に配慮を要するケースへの対応が迅速に行われるよう、複数の課にまたがっている支援について庁内窓口の一本化をすすめる。
- ・ 相談内容に適切に対応できる専門性を持った職員を配置する。
- ・ 千代田区の「チャイルド・ケア・プランナー」のように多様なサービスの案内を一元化し、利用者にサービス利用プランを提案する制度を整備していく。
- ・ 「子ども」や「子育て支援」に関連することをすべて取り扱い、もしくは関係部署と調整を行う部署を創設する（「子ども課」設置の検討）。

## (2) 専門的支援ができる職員の配置・育成をすすめる

### 【施策のための具体案】

- ・ 相談ごとに適切なサービスをコーディネートできる専門職員を配置する。
- ・ 児童相談所など他の機関との連携ができる能力を持った人材を採用・育成する。
- ・ 特に家庭で育児をしている専業主婦・主夫層向けの、子育て支援・親育ち支援のプログラム策定を行う地域保育士・ファミリーソーシャルワーカーを配置する。

## 2. 子育て情報の効果的な提供を行う

子育てに関する情報誌はたくさん発行されています。しかし、子育て真っ最中の世帯は多忙で、生活している地域の情報が得られることを求めています。そこで、地域の子育て情報がまとまって手軽に入手できるように、情報を集約し、発信していくことが大切です。

### 【施策のための具体案】

- ・ 1 か所に行けば、必要な情報が一括で閲覧できたり、入手したりできるようにしていく。
- ・ 子どもの参加できる行事、子どものふれあいの場、子育て支援、離乳食づくり・料理講座などさまざまな「子育て」に関する、区からの情報やNPO等民間からの情報などをまとめた冊子・ペーパー・ホームページなどを作成する。
- ・ パソコン・携帯電話で利用できる「子育てメール」により情報を発信する。
- ・ だれでも書き込める「子育てかわら版」を作成し、区民の間での情報交換の場を設ける。
- ・ 役所に関係のないネットワークを活用した情報発信を活用する。  
(例：メディア、ロコミ など)
- ・ さまざまな団体のネットワークを活用した情報発信を支援する。

### 3. 区民との協働・協治による子育て・子育て支援を推進する

子育ては家族を中心としつつも、公共的な営みとして位置づけていくことが必要です。そのためには、行政、企業、保育・教育機関、医療機関、地域社会そして区民が、子育て中の家族と一丸となって取り組むべきであるとの共通認識が必要です。

子育ての負担を個人や家庭だけでなく、社会全体で担わなければ、その負担と孤立感に耐えかねた親の子育て力は著しく低下し、子どもたちが犠牲になってしまうことにもつながります。それぞれの家族が必要とする支援に対して、きめ細かに対応できる体制が求められます。

#### 【施策のための具体案】

- ・ 既存の支援体制の連携を強化していく。  
地域でのニーズを発見し、適切な支援を行うために、保健師、保護課ケースワーカー等、行政の専門職と民生・児童委員（主任児童委員）等、既に地域で支援に関わっている人々との間での連携を強めるとともに、区民から見てわかりやすい体制とするため、長期的には現行の担当地域割りを見直すことも検討する。
- ・ 関連する機関のネットワークづくりをすすめていく。  
区内大学の教育、福祉、医療、保健関係の学部・機関のネットワーク化をすすめるとともに、区のサービスの委託などを行う。
- ・ 既存の区有施設を活用して、子育て活動団体の自主的な活動を支援していく。
- ・ 子育て支援に関わる団体・個人間の信頼関係の醸成をすすめていく。  
保育園、幼稚園、学校などの子育てに関連する機関、町会などの組織が話し合える場を設け、子育て支援の輪を広げる。そのために情報を共有し、信頼できる関係づくりをすすめていく。
- ・ 子育て・子育て支援に関わるNPOへの計画的かつ継続的な支援を開始する。  
一部の大きなNPOや市民活動団体だけを支援するのではなく、多種多様な区民の活力を利用できるよう、NPOの立ち上げ時の助成や活動継続のための助成などを行う。

#### 4. 養育サポートの充実を図る

都市化、核家族化の進展に伴い、子育ての不安を気軽に相談したり、いざというときに助けてもらえるような人が、身近に少なくなってきました。

家庭で乳幼児を育てている母親に対するヒアリング調査でも、「自分が急な病気のために子どもを見てくれる人がいない」「ちょっとした家事や育児の手伝いをしてほしいときがある」「自分の時間を持つことができない」などの意見があり、孤立した育児環境の中で、子育てに対する不安感や負担感を抱えている親への支援が急務となっています。また、母子家庭・父子家庭の増加など、家族の多様化に対応した養育サポートの多様化も必要です。

親や子の置かれている状況に応じた、支援のためのサービスを拡充していくため、行政をはじめ、さまざまな団体や個人が、相談や支援を行う体制を整備し、地域の中で安心して子育てができるよう、子どもたちの成長を社会全体で支えることが求められています。

##### 【施策のための具体案】

- ・ 子育て相談の充実  
地域の中で、子育てに関する相談を気軽に受けられる体制を整備していく。
- ・ 子育てひろばの拡充  
特に、保育園・幼稚園に通っていない親子に、安心して子どもを遊ばせることができるとともに、必要な情報提供と相談を受けられる場所として整備していく。
- ・ 児童館機能の充実  
新たなニーズに対応することで、機能の充実を図っていく。
- ・ 緊急一時保育の抜本的拡充  
国の予算の拡充状況等を踏まえつつ、全園での実施を検討する。
- ・ ショートステイ（短期間の24時間保育）  
親と子どもが豊かな人間関係をはぐくみ、安全・安心に過ごすために、区の事業として、ショートステイの実施を検討する。
- ・ 病後児保育の拡充・要件の緩和  
病後児保育実施施設を増やすとともに、感染性等の病気にかかった家族がいる場合に保育園で預かるというような、多様なニーズへの対応を検討する。
- ・ 出産後の支援  
親に子育てのノウハウがなく、子育てに慣れるまでが非常に大変である出産後3か月くらいまでの時期の支援体制を構築する。
- ・ 「2人目」を妊娠したときからの支援  
第2子以降を妊娠した際の、親や第1子の子育てに対する支援体制を構築する。
- ・ 緊急かつ継続的支援が必要な家庭への対応  
4か月健診等の場を、家庭で一人で子育てをしている人への支援・フォローの機会とする。また、出張による健診を実施し、同時にカウンセリングも行う。  
看護師による事前カウンセリングにより、支援メニューの提示とサービスの提供を行う。

- ・不適切な対応、育児放棄、虐待など、問題のある（問題になりそうな）家庭に対する予防と早期対応  
地域で見守ってくれる人たちやそのネットワークと行政との連携を図るとともに、制度・サービスのPRが行き届いているかのフォローアップについて検討する。
- ・子育て支援施策の実施にあたっては、利用者の声を活かしながら制度の改善を図っていく。  
（例：ファミリーサポート制度の充実、家庭で子育てをしている人でも気軽に預けられるベビーシッター制度 など）

## 5. 医療体制を充実させる

子育て中は、母子ともに医療にかかることが多い時期です。安心して医療を受けられることが、子育て中の不安の軽減につながります。

### 【施策のための具体案】

- ・母親への医療費控除  
乳腺炎の保険外治療など、保険がきかない医療費の補助の実施などを検討する。
- ・予防接種の補助  
おたふくかぜやインフルエンザの予防接種への補助は、子育て中の親の支援のみならず、子どもの健康、感染予防にもつながる。
- ・4 か月健診、集団予防接種などの実施場所の拡充の検討  
健診、予防接種等を保健センターや小児科以外の場所で行う可能性を追求する。

## 6. 施設の充実・整備を図る

### (1) 子育て・子育て支援の核となる総合施設を整備していく

保育園・児童館・子育てひろばなど、従来からある子育てのための施設について引き続き充実・整備をすすめていくとともに、区の支援サービス一元化のひとつのありかたとして、窓口やさまざまな施設が集約された、子育て・子育て支援の核となる新たな総合的施設の整備の検討を行うことも考えられます。

### 【施策のための具体案】

#### ① 施設に必要と考えられる主な機能

- ・個々の区民のニーズに応じて、子育て支援、子育て支援に関するサービスを総合的に提供できるようにコーディネートできる専門職による相談・支援。
- ・必要なサービスの利用登録が一度の手続きで完了するような支援エントリー・システム。
- ・年齢にあわせて十分に走り回ったり、遊べたりするような遊戯・運動施設。

- ・親同士の交流にも使え、子育て・子育て支援に係る市民活動団体も利用しやすい研修室、会議室、ホール、事務スペースの配置。
- ・保護者の事情で緊急に保育が必要な場合にも対応できる緊急一時保育、障害児レスパイトサービス。
- ・区内の保育、教育、福祉に関係する専門職やボランティアが、区内の大学との連携の下に行う研究・研修機関。

#### ②その他考慮すべき点

- ・区内のどこからでもアクセスしやすいこと（十分広く安全な駐車場の確保及びデマンド型交通などによる移動手段の確保）。
- ・建物はバリアフリーや建材の安全性にも十分配慮し、子どもの育ちを支えるような観点からの工夫がされたもの。
- ・基本的には区の直営施設として、個人情報保護に配慮し、一貫したサービスを提供する。

### (2)国や都の関連機関の誘致をすすめる

文京区は地下鉄網が充実しているなど、交通アクセスに恵まれた便利な地域です。このような地理的条件を活かして、渋谷区の東京都児童館や江東区の東部療育センターなどのような子育てに関する都や国の施設・関連機関の積極的な誘致をすることで、子育て環境の整備を図っていくことも考えられます。

### (3)子育て支援の視点から施設整備に取り組む

区が施設を設置する際に、文京区独自のガイドライン（施設設置基準など）をつくることも有用と思われます。

- ・障害の有無やその程度、性別の違い、国籍など、個別の状況に応じて発生する、多様なニーズに配慮した施設の整備をすすめる。

## Vision3 親の就労・多様な生き方の支援

社会の成熟化に伴い、人々の価値観も多様化してきています。しかし、自らが望む生き方を選択し、社会の中で自らが培ってきた経験を活かし、能力を発揮することは、子どもを持っていては望めないことなのではないでしょうか。

子を持つ親が、子どもの成長を見守り、家族との豊かな人間関係をはぐくみながら、地域や社会の中で一人の自立した大人としてさらなる成長をめざす——これは特別なことではなく、だれにでも保障されるべきことであり、そのための取り組みが望まれています。

### 目 標

#### 1. 従業員の家族的責任を踏まえた新たな雇用・就労のありかたを創造する

子育てや家庭生活との両立ができる就労環境が求められています。働く親にとって、子どもの成長を見守り、家族との豊かな人間関係をはぐくむ時間の確保は喫緊の課題となっています。同時に、就労は家族の経済的基盤を確保するのみならず、時間と努力をかけて得た能力を発揮し、自分らしい生き方を実現する営みです。こうした家庭生活と就労の双方が調和した暮らしを実現するためには、職場の環境整備が不可欠であり、そうすることによって、Vision1が掲げる子どもの豊かな育ちを保障することにもつながります。

育児休業や看護休暇をはじめとする各種両立支援制度の充実のみならず、伝統的な性別役割分業規範から派生した職場の慣習や意識によって女性を不当に処遇することや、男性が育児をあきらめざるを得ないような職場の雰囲気は、早急に改めなくてはなりません。多くの従業員が育児・介護などの家族的責任を抱えていることを前提にした、働きやすい労働環境づくりの促進、それに取り組む企業への積極的な支援が必要です。

##### (1)特に中小企業が行う取り組みへの支援を充実させる

###### 【施策のための具体案】

- ・ 育児休業制度取得促進などに取り組んでいる企業への補助金や、女性活用・パート労働者の均等待遇、両立可能な職場づくりなどに成果を上げている企業に対する入札制度での優遇措置。
- ・ 再就職を希望する母親、就学前の子どもを育てている母親を積極的に採用する企業への優遇措置。
- ・ 先進的な取り組みをしている企業への税制面での優遇等の制度導入の検討。
- ・ 先進企業に対する文京区独自の認定制度や表彰制度の創設。
- ・ 区内企業のみならず区民が勤務する区外企業についての支援の検討。

- ・従業員の両立支援に関して、区内中小企業間での情報交換、事例研究などを行う継続的なラウンドテーブルの設置と運営の支援。
- ・職住接近型雇用の実現に向けて、区内企業に勤める人への住居の斡旋やテレワーク導入への助言、助成。
- ・区内中小企業の女性活用、就業実態及び男女従業員の労働実態・家族生活に関する量的・質的調査を実施し、これを積み上げることで、既存の両立支援制度にとらわれないユニークな取り組みの発掘や、業態にあわせた両立可能な職場条件の検証。
- ・従業員の両立ストレスの軽減、メンタルヘルスの向上を目的とする育児・介護、離婚等に関するカウンセリングサービスやメンタルヘルスに関する相談窓口などの情報提供。
- ・区内中小企業で働く親の情報交換の場やネットワークづくり。

## (2) 支援策などの導入に関する積極的な情報提供・啓発を行う

### 【施策のための具体案】

- ・国などの助成制度の周知、活用を呼びかける。
- ・子育てをしている人が働きやすい・仕事と子育てを両立できる環境をつくること、結果的に企業の利益につながることを周知し、さまざまな制度の導入を呼びかける。  
(例：病児のための看護休暇、搾乳・授乳などの育児時間の拡充・確保、その設備設置の工夫 など)
- ・長時間労働の解消に向けた取り組みや工夫の紹介、呼びかけを行う。  
(例：ワークシェアリングの導入事例、ノー残業デー、サービス残業の見直しに向けた職務配分や職員配置の検証 など)
- ・経営者向けに、保育園・幼稚園の現場から見た親の両立についての実態を発信するとともに、保育の実践、施策について理解を深めてもらうシンポジウム、研修会等を開催する。
- ・男女の役割分担的考えの払拭、男性が育児に参加することへの意識改革への働きかけを行う。  
(例：共働きの男女のための両立支援セミナー、父子家庭の父親を対象にした両立支援セミナーの開催、子育て世代の夫婦コミュニケーション講座の開催 など)

## (3) 国に対して、一層の支援施策の充実と法令等の整備を求める

### 【施策のための具体案】

- ・子育て支援に関して企業に制約力のある目標を示すよう要請する。
- ・就業規則等の届出について、もっと定期的に申請させ、精査するシステムにしていくよう要請する。

## 2. 多様な生き方、ライフコースへの支援を行う

育児期のライフコースの選択はさまざまです。いったん就労を離れ、自宅での子育てに専念しながら社会と何らかの接点を持ちたいと考えている人もいれば、出産・育児等でのブランクを越えて、再び自分の培ってきた経験や能力を地域や社会で活かしたい、自分の夢の実現に挑戦したいと考えている人もいます。そうした人たちが求める地域、社会との接点のありようもさまざまです。子育てを通じて得た気づきをきっかけに専門的な知識を身につけたい、地域活動で役立てたい、再就職に向けて自分の培ってきた経験や能力をさらにブラッシュアップしたいなど、その思いは多様です。特に女性の場合、伝統的な性別役割分業規範から、家事・育児を一人で担い、社会との接点を絶たれて閉塞感に苦しむ人も少なくありません。

このような一人の自立した大人としてのさらなる成長や社会との接点を求める人に向けて、一時保育や養育サポート体制の強化など、Vision2 で掲げた子育て支援・親支援の整備をすすめると同時に、社会参加に向けたきっかけづくりや情報提供などの仕組みを充実させることが求められます。

### (1) 社会との接点を持ちたい人を支援する出会いと学びの場を充実させる

#### 【施策のための具体案】

- ・ 専門技能習得のための講座を開催する。
- ・ 子育て支援拠点で、親自身の世界を広げることを目的とした講座を開催する。  
(例：フラワーアレンジメント、カラーコーディネイト、ビーズアクセサリーづくりなど  
趣味の講座、ボランティア活動講座、語学講座、技術習得やブラッシュアップの講座、  
文京区内の大学との協力による市民講座 など)
- ・ 文京区内の地域・ボランティア活動との出会いの場をつくる。  
(例：活動リーダーとの懇談会、活動内容やアクセス方法についての説明会やセミナー、  
インターネットを利用しての地域・ボランティア活動に参加したい人への情報提供、関  
連ニュースを流す仕組みづくり など)
- ・ 家族的責任を持つ人が参加、活動しやすい地域・ボランティア活動のありかたを検討する。
- ・ 再就職やボランティア活動にチャレンジしている父親、母親を囲んだセミナーや懇談会を  
開催する。
- ・ 子育て中で短時間働きたい人向けの就職説明会（ハローワーク以外の場づくり）を開催す  
る。
- ・ 文京区内の企業経営者との出会いの場をつくる。  
(例：経営者との懇談会、職務内容や必要な技能についての説明会やセミナー など)
- ・ 企業への情報提供・働きたい人への情報提供を充実する。  
(例：働きたい人を登録したメーリングリストの作成、説明会やセミナー情報・関連ニュ  
ースを流す仕組みづくり、インターネットでの求人状況案内 など)

## (2) 多様なライフコースに対応した社会参加への仕組みづくりをすすめる

### 【施策のための具体案】

- ・ 中小企業団体等に働きかけ、再就職を願う親に対して採用等の情報提供を行う。
- ・ 中小企業団体等に働きかけ、文京区内の特色を活かした地域密着型の雇用の創出やマッチングシステムをつくる。  
(例：出版関連業務の経験のある区内の人材を登録し、区内の中小出版業者が在宅やスポットでの出版関連業務を発注する。語学を使った仕事の経験を持つ人材を登録し、文京区内の大学が主催する国際セミナー、シンポジウムでの翻訳、通訳補助の仕事を発注する。 など)
- ・ 大学等に呼びかけ、文京区内の特色を活かしたボランティア活動の創出やマッチングシステムをつくる。  
(例：海外での生活体験者などの人材を登録し、留学生の通訳・アパート探しの支援、子育て中の外国人への支援を行う など)
- ・ 文京区内の子育て支援拠点で活動するボランティアの育成、研修の機会を設ける。
- ・ 区内の公民館、センター等を利用しやすく整備する。

## Vision4 保育機能の中核としての保育園

---

子どもの健やかな成長を保障する、まちのあらゆる場所に広がるさまざまな保育機能を統括し、その中心となるのが保育園です。文京区の保育園はすべての子どもたちとあらゆる子育て家庭に開かれた保育拠点となります。子育てが困難になっている社会で生きる子育て家庭に必要な情報発信、親と子が心豊かな人間関係と暮らしを実感できる多様な支援の提供、都会での地域ネットワークの再構築など、保育機能の中核にふさわしい質と人材、設備を備えることが重要です。同時に、保育機能の中核としての保育園を行政、地域全体でもりたてていくことが必要です。

### 目 標

#### 1. すべての子育て家庭を対象とする保育園へ

##### (1)子どもたちの発達と成長を保障する

保育園の第一義的な役割は、子どもの人間形成とそれに関わる生活の基礎を身につける支援を行うとともに、発達に応じたさまざまな遊びと人との関係を通じて知的成長を保障することです。子どもたちの発達と成長を保障する役割を担います。

##### (2)親が多様な生き方を選択できるような支援を行う

就労のみならず、社会参加など親自身の多様な生き方を支援する役割を担っていくことが望まれます。また、親の疾病や急用などにも対応し支援していく役割を担っていきます。

##### (3)地域、家庭における子育て支援の拠点としての役割

保育園は、子育てを専門に行う施設です。子育てに関する相談を行うことで、安心して子育てできるまちづくりの役割を担っていきます。

##### (4)地域における子育て支援のネットワークの中核としての役割

地域では、町会、民生・児童委員、保健師、子育て支援NPOなど、さまざまな団体や個人が子育て支援の取り組みを行っています。こうした活動がつながりあい、点としての活動から線や面としての活動へと広がっていくことで、効果的な子育て支援の輪を広げていくことが大切です。そこで、地域の保育園がそのネットワークの中核としての役割を担うことが有効です。

## 2. 保育機能の中核にふさわしい保育園の具体的役割

保育園が現在担っている役割を引き続き果たしていくことはもちろんですが、新たな子育て支援策を効果的・機能的に行うためには、人的資源・物的資源を活用しながらその充実を図っていくことも大切です。

### (1) 子どもたちに対する責任を果たす

#### 【施策のための具体案】

- ・家庭、地域の子育て支援と親たちの子育て力を高めていく。
- ・入園している子どもたちの「育ち」＝「保育（養護）と教育」に責任を持って、その向上に努める。
- ・基本的な生活習慣を保障する。  
（例：生活リズムの維持・豊かな遊びの提供・電子メディアからの解放 など）
- ・先生や友だちとの、安心できる豊かな「ふれあい」の場を保障する。
- ・安全に配慮した「食事」を提供する。
- ・知育に偏ることのない、生活に根ざした保育園ならではのくみを提供する。
- ・産休明けからの子どもたちを対象とした施設であり、子どもたちの命と安全を保障する。
- ・保育園が持っている社会的、公共的な人的・物的資源の活用を図る。
- ・小学校にスムーズに入学し、楽しい学校生活が送れるよう小学校との連携を図る。  
（例：交流、情報交換、訪問活動、見学、参加 など）

### (2) 「子育てと仕事・社会的活動の両立」を支援していく

#### 【施策のための具体案】

- ・保護者の就労支援により子育てを支える。
- ・待機児童の解消に積極的に取り組む。
- ・延長保育などの長時間保育の取り組み（スポット利用）を充実する。
- ・病児・病後児保育、年末・年始・祝祭日保育への対応を図る。

### (3) 家庭・地域の子育てサポートを実施する

～家庭での子育てを支援し、子育てに関する知識や情報を提供・共有化する～

#### 【施策のための具体案】

##### ①具体的な子育て支援と相談を実施する。

- ・これから子どもを産もうとする人への援助、相談。
- ・出産後の相談、援助。
- ・子育ての悩みへの相談、援助。
- ・母親のリフレッシュへの援助。
- ・乳児を中心とした子育て体験学習（離乳食づくり等のノウハウの積極的還元）。
- ・園庭の開放・図書の貸し出し。 など

##### ②子育て支援ネットワーク。

- ・「ひろば」「支援センター」などとのネットワークづくり。
- ・子育て支援のボランティアのネットワークづくり。
- ・子育てに関係するサークルのネットワークづくり。 など

### (4) 災害時の防災拠点として位置づける

現在、災害時の防災拠点については、学校等を避難所として整備をすすめています。しかし、乳幼児は、大型の避難所では成人の避難者との生活リズムの違いからストレスを受けたり、体調に異変をきたしたりしやすくなります。また、災害時における乳幼児の親のストレスや悩み、不安への対応、災害時に駆けつける職務についている親、社会的活動を行う親とその子どもへの対応も必要です。平時、地域の子育て支援拠点としての役割を担い、地域の事情を把握する保育園を新たに防災拠点として位置づけることが求められます。

#### 【施策のための具体案】

- ・耐震構造とともに、避難に備えたゆとりのある園舎、園庭の整備。
- ・緊急時に的確な指示、対応ができる経験と専門性を兼ね備えた保育士の配置と養成。
- ・職員配置、ミルク・食料・紙おむつなどの保管スペースなどの整備。

### (5) 保育園を社会的・公共的資源(役割)として活用する

#### 【施策のための具体案】

- ・園庭の開放。
- ・小・中学生の体験学習、ボランティア活動の場。
- ・地域の高齢者（施設）との交流と子どもたちが伝統を学ぶ体験活動。
- ・幼児教育大学・専門学校等の学生の乳幼児体験と研究教育へのフィードバック。
- ・行事などを通して家庭で子育てをしている親子と保育園に預けている親子の交流。

#### (6)地域の文化を伝承していく ～子どもを介した地域コミュニティとの接点として～

##### 【施策のための具体案】

- ・散歩、園外保育などを通じて地域を知る機会を提供する。
- ・伝統的な遊び、地域の伝統行事、文化活動に子どもたちの参加・協力をすすめる。
- ・地域の人たちが保育園の行事等に協力し、子どもたちに伝承する。
- ・文化伝承のネットワークをつくる。

#### (7)親が多様な生き方を選択できるような支援を行う

##### 【施策のための具体案】

- ・親の就労を支援する。
- ・専業主婦も孤立せずに子育てができるように支援する。

### 3. 保育園の機能を高める

保育園が行う子育て支援策を有効なものとしていかなければならない一方、子育てをする上で子育て家庭や子どもが抱える課題も複雑になってきています。こうした課題に的確に対応していくためには、文京区全体の保育の質の維持・向上を図っていくことが大切です。

#### (1)高い保育技術と専門性を持つ保育士の確保と施設設備等の向上を図る

##### 【施策のための具体案】

- ・新たな人材の育成をすすめる。
- ・年齢の偏りのない人員配置により、高い「保育の質」を次世代へ継承していく。
- ・保育士の研修システムを確立する。
- ・ゆとりある労働環境を整備する。
- ・ゆとりある園庭、園舎等に向けた施設面の改善をすすめる。

#### (2)新たな子育て支援の役割を担う体制を強化していく

##### 【施策のための具体案】

- ・ソーシャルワーク体制を確立する。
- ・ボランティア受け入れに対しての具体的な方向を検討する。
- ・ボランティアの研修システムを確立する。
- ・幼稚園・小学校等との連携と地域における支援の場づくりをすすめる。
- ・小学校、幼稚園、保育園、町内会、祭りなどの連携をすすめる。
- ・小学校の先生、保健師、民生・児童委員など、地域の人たちが保育について話し合える場づくりをすすめる。
- ・小学校と保育園だけでなく、幼・保・小の連絡会を新たに創設する。 など

### (3)受け入れ体制を整備する

#### 【施策のための具体案】

- ①希望すれば保育園に入園できる体制をめざす。
  - ・保育園に入っていないと就労できない、就労していないと保育園に申し込めない、という悪循環を絶つ。
  - ・保育園入園の待機児をなくす。
  - ・育児休業後に、年度途中でも保育園に入れる制度を検討する。
  - ・通園距離への配慮、きょうだい別の保育園に通わざるを得ない状況を解消する。
  - ・潜在的な待機児童の解消のために、更なる施設の新設なども検討する。 など
- ②公設公営保育園を維持する。
  - ・現在 17 園ある公設園については、子育ての拠点として機能する「公設公営保育園」としてより一層大事に維持していく。
  - ・保育士が現在定員割れを起こしている状況を早期に改善し、配置基準通りに配置していく。
  - ・適切な人員の配置についての検討・目的に則した配置基準の見直しを行う。  
(役割の増加に伴う負担への対応)
- ③良質な民間の保育園・保育施設の参入に対する支援を行う。
  - ・私立認可保育園や認証保育所への補助の拡大について検討する。
- ④幼稚園や小学校等の区有施設の余裕教室や園庭・校庭を保育園が活用できるようにする。
- ⑤「保育の質」の内容と基準の明確化を検討する。
- ⑥保育園の利用に関しては、高所得者の保育料の費用テーブルの改定も聖域とせず、議論の対象にすることも考慮する。ただし、この費用テーブルの改定が、結果的に「保育の質」の低下につながるような変更でないように十分に配慮する。

#### 4. その他、長期的な視点から慎重に検討したい項目

##### (1)「文京こども園」設置を検討していく

###### 【施策のための具体案】

- ①2歳から幼稚園に通わせられる制度。
- ②幼稚園と保育園の垣根をなくして、同じ施設の中で育ちながら、「長時間」や「2時まで」など、親の生活にあわせて子どもの生活を保障する制度。
- ③幼保一元化という既成の概念でなく、①②を実現するための方策について、これまでの事例の検証を踏まえた上での特区申請の可能性。
- ④幼稚園と保育園の職員採用時に、保育士・幼稚園教諭両方の資格を持っている人を採用。

##### (2)保育園のクラス人数を減らす

日本のクラスサイズは保育が充実されている諸外国に比べると、大きいのが現状です（ここでは、先生と園児の割合ではなく、1つの教室で生活をともにする園児数のことを指します）。クラスの園児数を減らすことは、ゆとりある保育につながります。

## 第Ⅶ 保育ビジョンの実現に向けて

1. 保育ビジョンの推進にあたって、具体的な検討を行う場合は、区民参画により検討をすすめていく。また、検討にあたって以下の点が望まれる。
  - (1) 幼稚園、学童保育、その他の地域・まちづくり施策などとの接合・連携。
  - (2) 実現可能性について検討するための情報提供をするとともに、区民に適切な行政サービスを提供するための、統計データの整備と市民にわかりやすい図や表の提供（人口の増減や地域分布を示す図表の工夫、文京区内の幼稚園の実情とその利用者に関する統計、調査、データなど）。
  - (3) 行政サービスの現状、特に現場の実態把握、分析の実施。
2. (1)妊娠中の女性及び産褥期の母子 (2)一人親世帯 (3)子どもが障害や病気等を持っている家族 (4)親が障害や病気等を持っている家族 (5)DV、虐待の被害にあっている子（疑いがある場合も含む） (6)外国籍、日本語を理解できない家族 (7)その他緊急な対応を迫られるケース等、それぞれについて、親子へのきめ細やかで俊敏な対応ができるシステムの構築の検討を行う。特に、緊急一時保育、障害児の受け入れ体制については、早急に整備が必要であると認識されていることから、早期に検討を開始することが求められる。
3. 文京区の保育機能の拠点である保育園の機能維持と強化に向けて、保育園職員、保護者、専門家等をまじえて「保育の質」についての検討を行うことにより、文京区としての保育の質に関する指針の策定をすすめていく。
4. 予算措置の確保・予算の適正配分を図っていく。

支援策の質・量両面での充実を図るには、それに伴う負担が、現状の人的資源・物的資源の許容範囲を超えることがないように、人的・物的資源の投入を実現する必要がある。

わが国の子育てに係わる予算は、経済規模との比較（対GDP比等）で見た場合、先進国の中では少ない方であるが、文京区においては、こうした現状に拘泥することなく、先駆的な取り組みを実現していくことが望まれる。
5. 文京区の内外に対して積極的なアピールをしていく。

文京区において先駆的な試みの実現されるのであれば、そのことを内外に積極的にアピールすべきである。国全体が子育て支援策の充実に向かえば、また、そのスピードが速まれば、それだけ区単独の負担は軽減され、そこでできる余裕を、さらなる施策の拡充に振り向けることも可能となる。そうした実利面のみならず、自分の区に対してさらに誇りを持つこと、ひいては住民や職員に大いにポジティブな影響を与えることにもつながっていく。

## 6. 「子どもの育ち」に関する定期的な実態調査とそれを踏まえた議論の場を設定する。

思春期を見通した子どもの育ちを考えていくためには、文京区で子育てに直接・間接に関わっている主体（行政、家庭、保育園、幼稚園、職場、医療機関、地域住民等）が、絶えず「子どもの育ち」に対するそれぞれの責任を自覚し、協力しあっていく必要がある。

その際、以下の点が求められる。

- (1) 定期的に「子どもの育ち」や「子どもの生活習慣・生活環境」に関する実態調査を実施し、その現状を把握するとともに、その都度、問題の解決に向けて、各主体が対策について話し合う場を設定する。
- (2) 「子どもの育ち」をより長期的な視点から考えるために、この実態調査と議論は小・中学生をも対象に含めたものにする。

## 7. 地域のネットワークの再生

地域で安心して子育てをしていくためには、地域全体で子どもを見守り、子育てを支える環境づくりが求められていることから、町会などの従来からの地域活動・ネットワークに加えて、商店や事業所・NPOなどに、積極的に子育て支援の取り組みに加わってもらうよう働きかけ、支援をしていく。

## 8. 保育ビジョンの見直し

社会情勢の推移により、育児をめぐる課題や子どもの育ちにおける課題も変化していく。また、今後、子どもや子育て家庭に対する国、自治体レベルでの保育・教育・育児支援政策の転換も想定される。

それらによって将来、本ビジョンに規定する内容について実態にそぐわない部分が生じることも予想されることから、時機をとらえて改訂をすべきと考える。

その際、時代の変化に即応するのみならず、先見性のあるものへと適宜改訂していくことが望ましい。

その際、以下の点が求められる。

- (1) 本ビジョンの方向性を、保育園、幼稚園、小・中学校、学童保育、保健・医療分野、社会教育分野、さらには地域の多様な社会資源等と段階的に接合し、より包括的、総合的ビジョンへと発展させること。
- (2) 子育て支援利用者層の増減、年齢別、地域別変化や居住環境の変化を踏まえた中長期的ビジョンであることが望まれる。
- (3) 特に、保育園、幼稚園については、設置された地域の対象年齢層の増減に影響を受けることから、保育サービスを量的・質的に確保する上で、人口動態を地域別・年齢層別での確に把握しつつ、中長期的な展望に立って施設と人材の確保を検討されたい。

## 参 考 资 料



# 資料 1

---

## 文京区保育ビジョン策定検討に向けた体制

---

### 目 次

1. 文京区保育ビジョン策定検討委員会設置要綱 ..... 35
2. 文京区保育ビジョン策定検討委員会委員名簿 ..... 37
3. 文京区保育ビジョン策定検討委員会開催状況 ..... 38



# 1. 文京区保育ビジョン策定検討委員会設置要綱

18 文男保第 233 号平成 18 年 5 月 29 日区長決定

(設置)

第 1 条 文京区の保育行政全般に係る指針となる文京区保育ビジョン（以下「保育ビジョン」という。）に規定する内容を検討するため、文京区保育ビジョン策定検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、区長の依頼を受け、保育ビジョンに規定すべき内容について検討し、報告する。

(委員)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者のうちから区長が委嘱又は任命する委員 20 人以内をもって組織する。

- |                          |     |
|--------------------------|-----|
| (1) 文京区町会連合会の構成員         | 1 人 |
| (2) 文京区女性団体連合会の構成員       | 1 人 |
| (3) 文京区民生・児童委員協議会の構成員    | 1 人 |
| (4) 文京区青少年対策地区委員会連絡会の構成員 | 1 人 |
| (5) 文京区立保育園在園児の保護者       | 5 人 |
| (6) 文京区内の私立保育園の設置者又は管理者  | 1 人 |
| (7) 文京区内の認証保育園の設置者又は管理者  | 1 人 |
| (8) 公募委員                 | 4 人 |
| (9) 学識経験者                | 2 人 |
| (10) 区職員                 | 3 人 |

2 前項第 5 号に規定する委員は、別に定めるところにより募集する。

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は、委嘱又は任命した日から平成 19 年 3 月末日までとする。

(欠員)

第 5 条 委員に欠員が生じたときは、これを補充しない。

(会長及び副会長)

第 6 条 委員会に会長を置き、学識経験者の中から委員の互選により選任する。

2 会長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 委員会に副会長を 1 人置き、委員のうちから会長が指名する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第 7 条 委員会は、会長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

(幹事)

第 8 条 委員会に幹事を置く。

2 幹事は、区職員のうちから区長が指名する。

3 幹事は、委員会に出席するものとする。

(委員以外の出席)

第9条 会長は、必要があると認めたときは、委員以外の者に対し委員会への出席を求め、その意見を聴くことができる。

(会議の公開)

第10条 委員会は、公開とする。ただし、委員会の決定により、非公開とすることができる。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、男女協働子育て支援部保育課において処理する。

(委任)

第12条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、男女協働子育て支援部長が別に定める。

#### 付 則

この要綱は、平成18年5月29日から施行する。

## 2. 文京区保育ビジョン策定検討委員会委員名簿

	区 分	職名または推薦団体	氏名(敬称略)
会 長	学識経験者	東京大学大学院教授	汐見 稔幸
副会長	〃	ジャーナリスト	萩原 久美子
委 員	団 体 推 薦	文京区民生委員・児童委員協議会	佐々木 陽穂
〃	〃	文京区女性団体連絡会	大川 米子
〃	〃	文京区町会連合会	小林 信男
〃	〃	文京区青少年対策地区委員会	深谷 純子
〃	〃	区内私立保育園関係者(たんぼぼ保育園園長)	菅原 良次
〃	〃	区内認証保育所関係者(なかよしの家保育園理事)	飯田 恭
〃	〃	文京区認可保育園父母の会連絡会(～平成18年10月3日)	浦中 祥子
〃	〃	〃 (平成18年10月4日～)	安達 陽子
〃	〃	〃	高橋 修平
〃	〃	〃	高橋 万由美
〃	〃	〃 (～平成18年10月3日)	武田 克明
〃	〃	〃 (平成18年10月4日～)	森 吉弘
〃	〃	〃	久武 昌人
〃	公 募 委 員		紀野 美重子
〃	〃		藤田 くる美
〃	〃		安江 とも子
〃	〃		小林 大作
〃	区 職 員	男女協働子育て支援部長	大角 保廣
〃	〃	しおみ保育園園長	根岸 かをる
〃	〃	水道保育園園長	吉田 シズ子
幹 事		男女協働子育て支援部保育課長	久住 智治
〃		男女協働子育て支援部児童青少年課長	畑山 二男

### 3. 文京区保育ビジョン策定検討委員会開催状況

会議開催実績		主な審議内容等
第1回	平成18年9月15日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 策定検討委員会会長・副会長の選出について</li> <li>2. 策定検討委員会会長への検討依頼</li> <li>3. 委員紹介</li> <li>4. フリーディスカッション</li> <li>5. 今後のスケジュール並びに運営について</li> </ol>
第2回	平成18年10月4日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新委員紹介</li> <li>2. 文京区保育ビジョン策定に向けた検討課題について</li> <li>3. 調査について</li> </ol>
第3回	平成18年10月24日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文京区保育ビジョン策定に向けた検討課題について</li> <li>2. 調査について</li> </ol>
第4回	平成18年11月9日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文京区保育ビジョン策定に向けた検討課題について</li> <li>2. 調査について</li> </ol>
第5回	平成18年11月28日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ 骨子（案）について</li> <li>2. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ に向けた議論の整理について</li> </ol>
第6回	平成18年12月7日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ に向けた議論の整理について（第2グループ）</li> <li>2. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ （案）について</li> <li>3. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ での記載事項の整理について</li> <li>4. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ の記載に関する委員意見について</li> <li>5. 今後のスケジュールについて</li> </ol>
第7回	平成19年2月1日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「最終報告」の取りまとめについて</li> <li>2. 「中間のまとめ」に対する区民からの意見について</li> <li>3. アンケート等の実施結果について</li> </ol>
第8回	平成19年2月23日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「最終報告」の取りまとめについて</li> </ol>
第9回	平成19年3月2日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「最終報告」の取りまとめについて</li> </ol>

※「文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ」作成にあたっては、策定検討委員会委員による4つのワーキンググループでの検討作業が行われた（延べ12回開催）。

## 資料 2

---

### 文京区の状況

---

#### 目 次

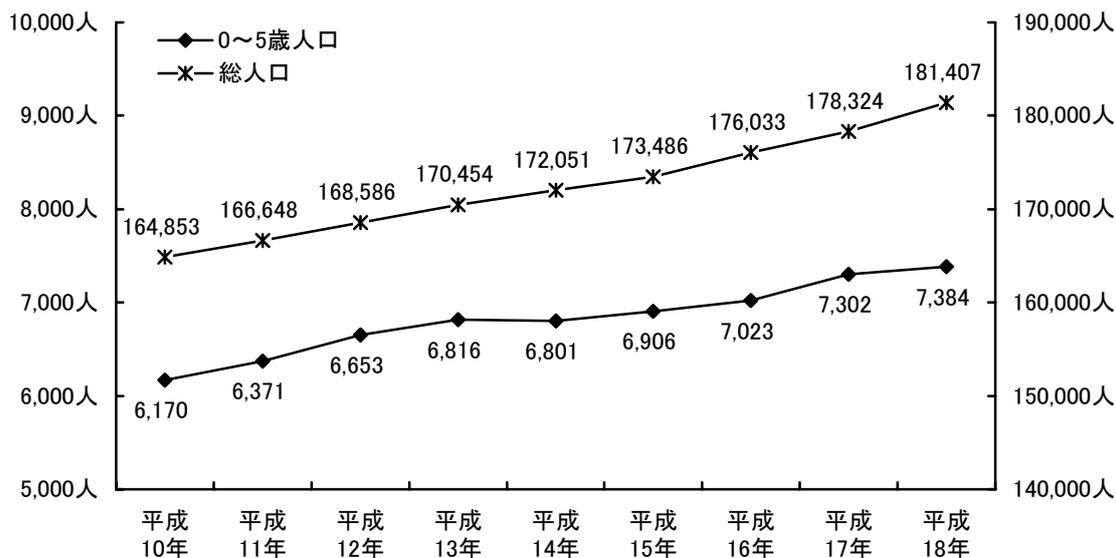
1. 総人口と就学前人口 .....	41
2. 出生数と合計特殊出生率 .....	44
3. 住まいの状況 .....	45
4. 就学前児童の保育状況 .....	46
5. 保育施設等の整備状況 .....	47
6. 子育て支援施設等の状況 .....	50
7. 個別の支援を必要とする家庭の状況 .....	53
8. 子育て環境(公園の整備状況) .....	56



## 1. 総人口と就学前人口

- ・ 文京区の総人口は、平成 10 年を境に翌年から増加に転じ、以降、増加し続けている。
- ・ これに伴い 0～5 歳の就学前人口も増加傾向にある。
- ・ 人口に占める 0～5 歳人口の割合は都内で上から 14 番目、23 区平均を下回っている。

[ 総人口及び 0～5 歳人口の推移 ]



単位：人

	平成 10年	平成 11年	平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年
0 歳	998	1,069	1,112	1,126	1,122	1,096	1,130	1,215	1,174
1 歳	1,000	1,043	1,111	1,170	1,142	1,152	1,128	1,214	1,251
2 歳	1,016	1,044	1,048	1,136	1,148	1,154	1,174	1,152	1,246
3 歳	1,061	1,082	1,083	1,103	1,158	1,176	1,182	1,224	1,188
4 歳	994	1,106	1,147	1,099	1,135	1,167	1,210	1,255	1,238
5 歳	1,101	1,027	1,152	1,182	1,096	1,161	1,199	1,242	1,287
合計	6,170	6,371	6,653	6,816	6,801	6,906	7,023	7,302	7,384
対前年増減	—	201	282	163	-15	105	117	279	82
総人口	164,853	166,648	168,586	170,454	172,051	173,486	176,033	178,324	181,407
0～5 歳人口の対人口比	3.74%	3.82%	3.95%	4.00%	3.95%	3.98%	3.99%	4.09%	4.07%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

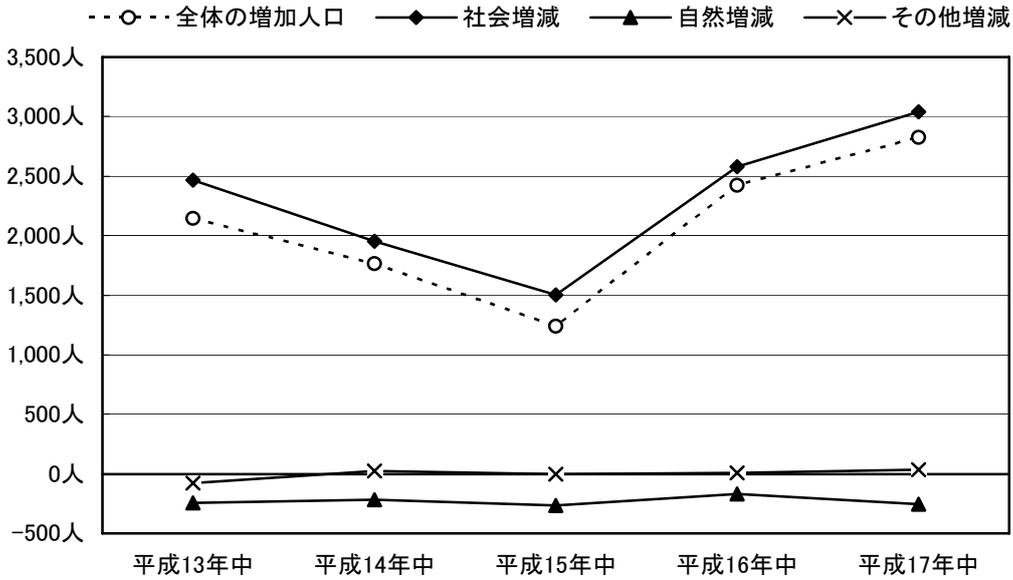
[ 0～5 歳人口の対人口比の 23 区比較 ]

	自治体名	比率		自治体名	比率
1 位	江戸川区	6.26%	14 位	文京区	4.10%
2 位	練馬区	5.16%	15 位	北区	3.99%
3 位	足立区	5.16%	16 位	目黒区	3.99%
4 位	江東区	5.11%	17 位	千代田区	3.95%
5 位	葛飾区	5.09%	18 位	杉並区	3.82%
6 位	大田区	4.74%	19 位	台東区	3.82%
7 位	板橋区	4.70%	20 位	渋谷区	3.74%
8 位	中央区	4.54%	21 位	中野区	3.62%
9 位	荒川区	4.53%	22 位	新宿区	3.59%
10 位	墨田区	4.53%	23 位	豊島区	3.43%
11 位	港区	4.42%	東京 23 区平均		4.60%
12 位	世田谷区	4.40%	東京都平均		4.81%
13 位	品川区	4.21%			

資料：東京都総務局「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」（平成 18 年 1 月現在）

- ・近年の人口の増加は、都心回帰により、転入が転出を上回ったことによる社会増に支えられている。
- ・年齢階層別にみると、25～44歳が増加していることがわかる。

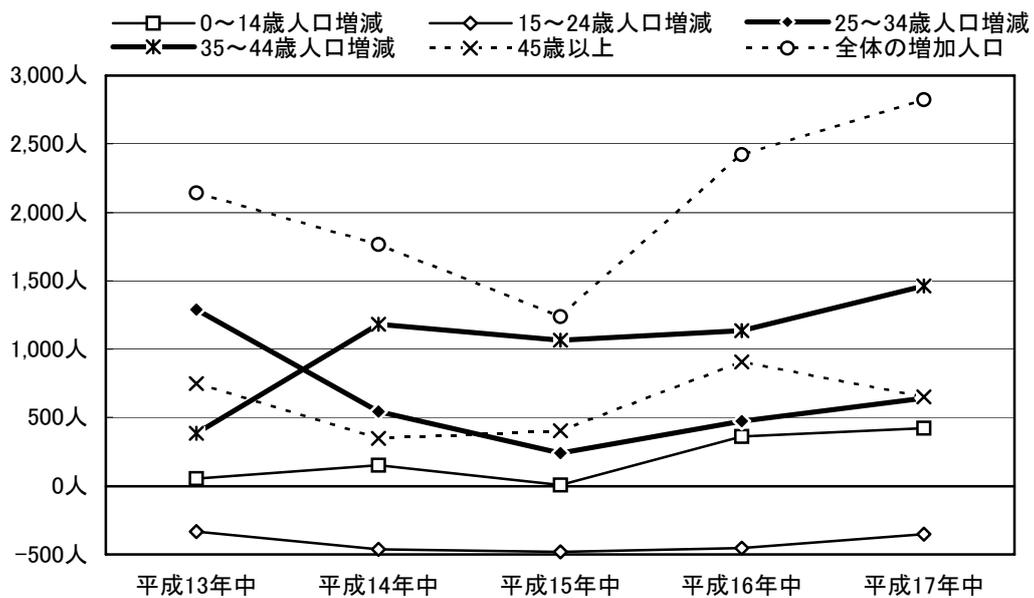
[ 変動要因別の人口の動き ]



資料：文京の統計

※「社会増減」は転入と転出の差、「自然増減」は出生と死亡の差、「その他増減」は外国人の増減

[ 年齢階層別の人口の動き ]

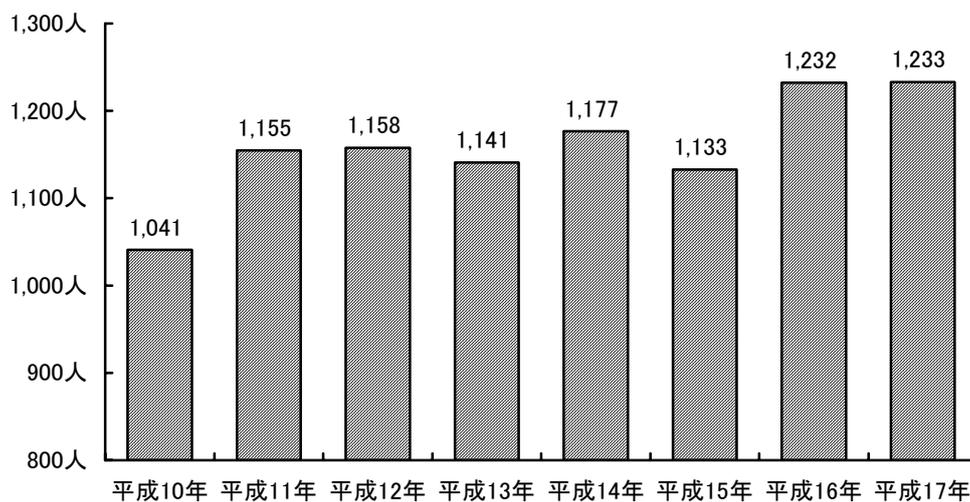


資料：住民基本台帳人口

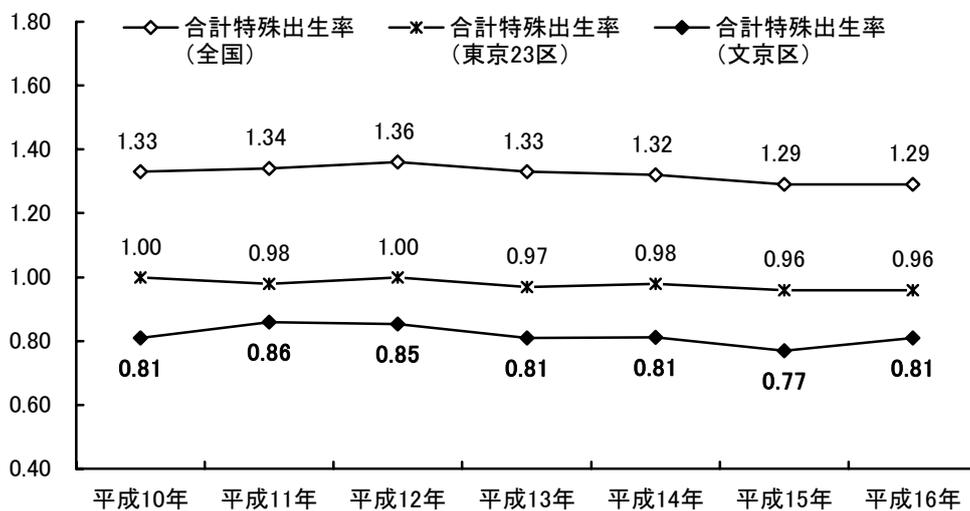
## 2. 出生数と合計特殊出生率

- 一人の女性が生涯に産む平均子ども数を表す合計特殊出生率は、平成16年で0.81と1.00を下回り、23区平均と比べても低い状況にある。

[ 出生数の推移 ]



[ 合計特殊出生率の推移 ]

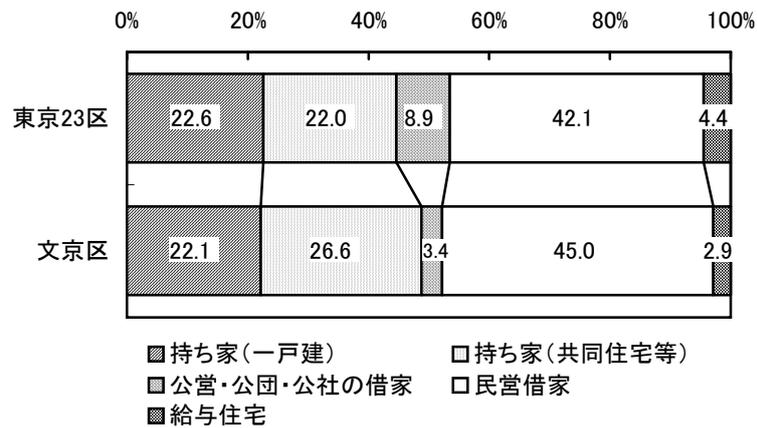


資料：文京区及び東京23区：東京都福祉保健局「人口動態統計年報」  
 全国：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」

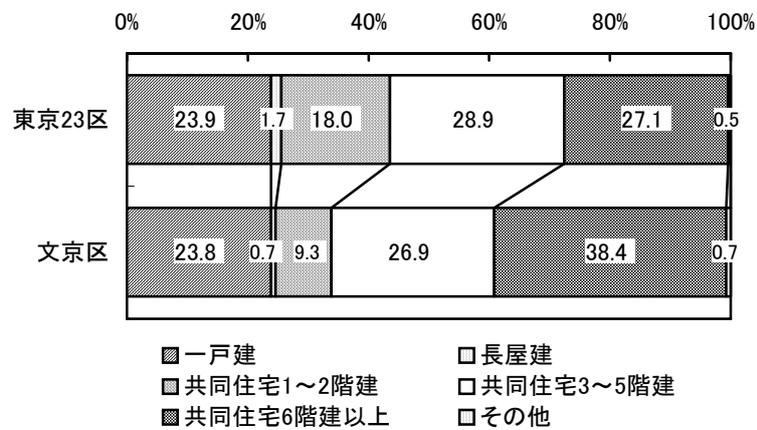
### 3. 住まいの状況

- ・ 文京区民が住んでいる住宅の4割強は、民間の借家。
- ・ 4割弱が6階建以上の高層住宅に居住している。

[ 住宅形態 ]



[ 住宅の階数 ]

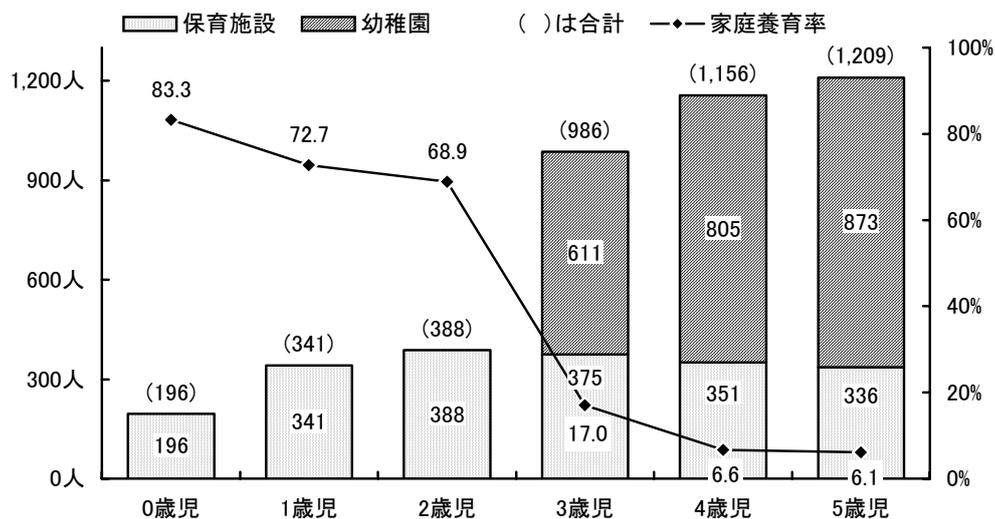


資料：総務省統計局「平成15年 住宅・土地統計調査」

## 4. 就学前児童の保育状況

- ・ 0歳児の8割台、1・2歳児の7割前後は、家庭で養育されている。
- ・ 0歳児の2割弱、1歳児以上の3割前後が、日中を保育園等の保育施設で過ごしている。

[ 就学前児童の保育状況 ]



※平成18年5月1日現在

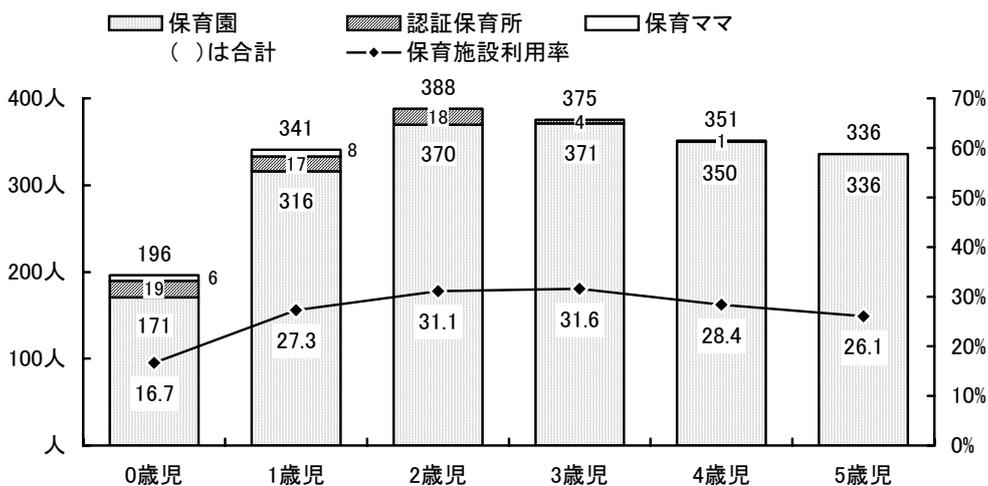
※文京区民の状況（管外委託児・区外への通園児を含み、管外受託児・区外からの通園児を除く）  
但し、国立幼稚園通園児数は含まれていない

※保育施設は、保育園、認証保育所、保育ママの合計

※家庭養育率＝年齢別保育サービス・幼稚園未利用者数／年齢別人口

（平成18年4月1日現在住民基本台帳人口）

[ 保育施設等の利用状況 ]



※平成18年5月1日現在

※保育園は管外委託児を含み、管外受託児を除く人数

※保育施設利用率＝年齢別保育施設利用者数／年齢別人口

（平成18年4月1日現在住民基本台帳人口）

## 5. 保育施設等の整備状況

### (1) 保育施設の整備状況

- ・ 文京区の保育園については、千代田区、中央区、港区と並び、公立保育園の割合が高いことが特徴。
- ・ 平成 18 年に保育園と幼稚園が一体となった施設(柳町こどもの森)が開設された。待機児童数は約 50 人となっている。
- ・ 保育園のほか、認証保育所、保育ママなどで、就学前児童の保育が実施されている。

#### [ 公立保育園整備状況 ]

		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4・5 歳	合 計	施設数
平成 17 年	定員数	144人	265人	316人	343人	616人	1,684人	19園
	園児数	144人	263人	307人	346人	636人	1,696人	—
平成 18 年	定員数	144人	273人	326人	356人	622人	1,721人	20園
	園児数	133人	271人	322人	348人	642人	1,716人	—

※各年 5 月 1 日現在

#### [ 私立保育園整備状況 ]

		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4・5 歳	合 計	施設数
平成 17 年	定員数	42人	44人	47人	18人	36人	187人	3園
	園児数	46人	46人	46人	23人	44人	205人	—
平成 18 年	定員数	42人	44人	47人	18人	36人	187人	3園
	園児数	38人	45人	48人	23人	44人	198人	—

※各年 5 月 1 日現在

#### [ 保育園整備率 ]

	定員数			整備率	公立保育園 定員の割合
	公立保育園	私立保育園	合 計		
文 京 区	1,684人	187人	1,871人	25.9%	90.0%
東京 23 区	77,060人	26,250人	103,310人	27.3%	74.6%

資料：第 38 回文京の統計（平成 17 年 5 月 1 日現在）

※整備率＝定員数／0～5 歳人口（平成 17 年 1 月 1 日現在住民基本台帳人口）

[ 保育園待機児童の状況 ]

		0歳	1歳	2歳	3歳	4・5歳	合計
平成17年	待機児数	15人	19人	3人	12人	19人	68人
	待機率	10.4%	7.2%	1.0%	3.5%	3.0%	4.0%
平成18年	待機児数	7人	33人	4人	4人	5人	53人
	待機率	5.3%	12.2%	1.2%	1.1%	0.8%	3.1%

※各年5月1日現在

※認証保育所・家庭福祉員（保育ママ）等で保育されている場合は、待機児童に含まれない

※待機率＝待機児数／園児数（各年5月1日現在）

[ 認証保育所整備状況 ]

		0歳	1歳	2歳	3歳	4・5歳	合計	施設数
平成17年	定員数	22人	23人	9人	8人	2人	64人	3園
	園児数	10人	20人	8人	3人	0人	41人	—
平成18年	定員数	25人	29人	12人	11人	2人	79人	3園
	園児数	19人	17人	18人	4人	1人	59人	—

※各年5月1日現在

[ 保育ママの状況 ]

		0歳	1歳	2歳	合計	保育ママ数
平成17年	定員数	—	—	—	30人	10人
	受託児数	14人	2人	3人	19人	—
平成18年	定員数	—	—	—	27人	9人
	受託児数	6人	8人	0人	14人	—

※各年5月1日現在

## (2) 幼稚園の整備状況

- ・ 幼稚園は区内に 26 か所。

### [ 区立幼稚園整備状況 ]

		3 歳	4 歳	5 歳	合 計	施設数
平成 17 年	定員数	90 人	410 人	410 人	910 人	10 園
	園児数	87人	266人	333人	686人	—
平成 18 年	定員数	90人	422人	422人	934人	10 園
	園児数	85人	270人	312人	667人	—

※各年 5 月 1 日現在

### [ 私立幼稚園整備状況 ]

		満 3 歳・3 歳	4 歳	5 歳	合 計	施設数
平成 17 年	定員数	670人	785人	790人	2,245人	16 園
	園児数	583人	560人	583人	1,726人	—
平成 18 年	定員数	670人	785人	790人	2,245人	16 園
	園児数	580人	596人	568人	1,744人	—

※各年 5 月 1 日現在

※園児数は、区内にある私立幼稚園の在園児数（区外からの通園児を含み、区外への通園児は含んでいない）

## 6. 子育て支援施設等の状況

- ・ 一時保育事業、病後児保育事業、ファミリー・サポート・センター事業、子ども家庭支援センターなどの子育て支援施設(サービス)の利用は伸びている。

### [緊急一時保育]

保護者又は家族が病気、出産等により緊急に保育に困る家族に対し、生後4ヶ月から小学校に就学前までの児童を「緊急一時保育所」で一時的に預かり保育する。昭和53年10月から保育員制度により開始(平成18年4月1日からは「緊急一時保育所」を3園で実施)。

- ①さしがや保育園(白山2-32-6) 定員3人
- ②しおみ保育園(千駄木2-27-8) 定員3人
- ③本駒込南保育園(本駒込3-11-14) 定員3人

受託理由	平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度	
	受託児	日数								
出産	13人	59日	16人	122日	26人	205日	28人	167日	24人	195日
病気	78人	390日	83人	501日	97人	503日	80人	513日	86人	365日
看護	35人	128日	27人	224日	48人	261日	15人	98日	35人	158日
待機	40人	581日	11人	149日	3人	44日	8人	124日	7人	99日
その他	121人	546日	103人	345日	120人	390日	119人	344日	192人	460日
合計	287人	1,704日	240人	1,341日	294人	1,403日	250人	1,246日	344人	1,277日

### [一時保育事業]

#### (1)一時預かり保育事業(キッズルーム)

- ・場 所:春日1-16-21(文京シビックセンター3階)
- ・開所日時:月曜～日曜の午前9時～午後10時(年末年始及び臨時休館日を除く)
- ・定 員:10人
- ・保育対象:満1歳から小学校就学前
- ・利用数:1日1回(3時間以内)、月10回まで
- ・利用要件:保護者が次のいずれかに該当する場合
  - ①学校等の行事参加 ②地域・社会・文化活動参加 ③通院、看護、休養及び冠婚葬祭

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
登録者数	345人	661人	1,048人
延利用者数	572人	1,179人	1,900人

※平成15年度は10月1日から3月31日までの実績

#### (2)目白台一時保育所・・・事業開始 平成18年5月

- ・場 所:目白台3-18-7(目白台総合センター1階)
- ・開所日時:月曜～土曜の午前8時～午後6時(国民の休日及び年末年始除く)
- ・定 員:12人
- ・保育対象:満1歳から小学校就学前
- ・利用数:月10回まで

## [病後児保育事業]

児童が病気の回復期にあり集団保育が困難な時期に、保護者が仕事等で保育ができない場合に医療機関で一時的に保育を行う（平成16年12月10日より開始）。

- ・場所：保坂こどもクリニック（保坂病児保育ルーム） 白山 5-27-12
- ・定員：4人

	平成16年度	平成17年度
利用者数	143人	679人
開設日数	72日	243日

※平成16年度は、12月10日から3月31日までの実績

## [ファミリー・サポート・センター事業]

緊急や私用の場合等、臨時的・単発的な保育需要に応えるため、子育ての援助を行う提供会員と援助を受ける依頼会員とからなる会員組織により、地域の中で子育ての相互援助活動を行う。

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
依頼会員数	410人	635人	864人	1,073人	1,298人
提供会員数	108人	142人	149人	164人	175人
両方会員数	21人	38人	40人	49人	56人
総活動回数	2,748件	4,892件	5,478件	5,745件	6,667件

## [子育てひろば]

保護者とお子さんが一緒に安心して遊びながら過ごすことのできる施設。子育て相談も行う。

- ・開 放 日：月曜日～金曜日
- ・開放時間：午前10時～午後3時
- ・場 所：①子育てひろば西片（元文京区立西片幼稚園）西片 1-8-15  
②子育てひろば汐見（元文京区立汐見幼稚園）千駄木 2-19-23

		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
西片	登録幼児数	515人	575人	579人	555人	625人
	延利用者数(幼児)	7,047人	7,858人	7,159人	6,162人	7,180人
	延利用者数(保護者)	6,097人	7,243人	6,683人	5,502人	6,061人
汐見	登録幼児数	573人	596人	616人	577人	566人
	延利用者数(幼児)	9,717人	10,040人	11,041人	8,894人	9,358人
	延利用者数(保護者)	8,779人	9,050人	9,746人	8,142人	8,624人

## [子ども家庭支援センター…事業開始 平成15年10月]

場所：春日 1-16-21 文京シビックセンター12階（「びよびよひろば」は3階）

### (1) 総合相談事業

対象：区内在住の18歳未満の方とその保護者等

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
一般相談延相談件数	241件	549件	555件
専門相談延相談件数	25件	42件	43件
児童虐待延相談件数(再掲)	82件	130件	155件
合計	266件	591件	598件

※専門相談：臨床心理士等による相談

### (2) 親子ひろば事業(びよびよひろば)

区内在住の3歳未満の親子が楽しく遊びながら、他の親子との交流や情報交換を図る場。  
利用時間：平日の午前10時から午後4時

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
登録者数	533人	1,070人	1,435人
延利用者数	3,616人	9,748人	10,855人

### (3) 子育て支援講座

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
開催回数	7回	13回	14回
延参加者数	151人	200人	201人

### (4) 親子ひろばの行事

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
開催回数	—	7回	7回
延参加者数	—	62人	206人

※平成15年度は、いずれも10月1日から3月31日までの実績

## 7. 個別の支援を必要とする家庭の状況

### (1)ひとり親家庭の状況

- ・ひとり親家庭等の子どもを対象とする児童育成手当(育成手当)の平成17年度の受給者数は、平成13年度時点の約1.5倍に増加している。

#### [ 児童育成手当(区の制度)受給者数の推移 ]

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
育成手当	811人	859人	1,142人	1,255人	1,213人
障害手当	53人	61人	50人	69人	73人

※各年年度末現在

#### 【支給要件】

①育成手当：18歳に到達した年度の末日以前の児童で次のいずれかに該当する児童

- (ア) 父母が離婚した児童
- (イ) 父または母が死亡した児童
- (ウ) 父または母が生死不明である児童
- (エ) 父または母に1年以上遺棄されている児童
- (オ) 父または母が法令により1年以上拘禁されている児童
- (カ) 父または母が重度の障害を有する児童(身体障害者手帳1・2級程度)
- (キ) 婚姻によらないで生まれ、父から扶養されていない児童

②障害手当：20歳未満で、次の程度の障害のある児童

- (ア) 知的障害で「愛の手帳」1・2・3度程度
- (イ) 身体障害で「身体障害者手帳」1・2級程度
- (ウ) 脳性麻痺または進行性筋萎縮症

## (2) 障害児の状況

- ・ 障害のある乳幼児に対しては、区立保育園・幼稚園での保育、心身障害者(児)福祉センターでの児童デイサービスを実施している。

### [ 保育園・幼稚園における障害児受け入れ者数の推移 ]

#### 区立保育園

	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
1歳児	0人	1人	1人
2歳児	1人	0人	2人
3歳児	2人	3人	1人
4歳児	3人	3人	3人
5歳児	6人	5人	4人
合 計	12人	12人	11人

#### 区立幼稚園

	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
3歳児	1人	3人	1人
4歳児	12人	5人	12人
5歳児	11人	13人	7人
合 計	24人	21人	20人

※各年5月1日現在

### [ 心身障害者(児)福祉センター 児童デイサービス事業利用者数の推移 ]

#### 乳幼児:入退所状況

	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	
年度当初在籍者数	20人	12人	14人	13人	15人	
年 度 内	入所者	8人	11人	9人	8人	12人
	延在籍者数	28人	23人	23人	21人	27人
	退所者数	16人	9人	10人	6人	13人
年度末在籍者	12人	14人	13人	15人	14人	

#### 乳幼児:年齢別延在籍者数

	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
0~3歳	16人	12人	5人	12人	15人
4~6歳	12人	11人	18人	9人	12人

※平成 15 年度から支援費制度に基づく児童デイサービスとして実施

### (3)子どもの虐待の状況

- ・子どもの虐待に関する相談者数は、年々増加する傾向にある。

#### [ 子ども家庭支援センターにおける児童虐待に関する相談者数の推移 ]

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
0～3歳未満	0人	5人	3人
3～就学前児童	6人	7人	15人
小学生	4人	17人	19人
中学生	1人	3人	4人
高校生・その他	0人	3人	1人
合 計	11人	35人	42人

※単位実人数

※平成 15 年度は、10 月 1 日から 3 月 31 日までの実績

## 8. 子育て環境(公園の整備状況)

- ・ 文京区の公園・児童遊園数は 113 か所。
- ・ 区面積に対する公園面積は都内で上から 15 番目、区民 1 人あたり公園面積は 16 位で、いずれも 23 区の中では低い。

[ 東京 23 区の公園整備状況の比較 ]

	自治体名	区面積に対する公園面積比率		自治体名	区民 1 人あたり公園面積
1 位	江戸川区	14.7%	1 位	千代田区	42.2 m <sup>2</sup>
2 位	千代田区	14.6%	2 位	江戸川区	11.3 m <sup>2</sup>
3 位	渋谷区	10.8%	3 位	江東区	9.5 m <sup>2</sup>
4 位	江東区	10.0%	4 位	港区	8.6 m <sup>2</sup>
5 位	台東区	7.6%	5 位	渋谷区	8.1 m <sup>2</sup>
15 位	文京区	4.6%	16 位	文京区	2.8 m <sup>2</sup>
東京 23 区平均		6.0%	東京 23 区平均		4.5 m <sup>2</sup>

資料：財団法人特別区協議会「特別区統計情報システム」(平成 17 年度)

## 資料 3

---

### 文京区の人口の推移・推計

---

#### 目 次

区全体の人口の推移・推計 .....	59
地域別人口の推移 .....	62
礪川地域 .....	63
大原地域 .....	64
大塚地域 .....	65
音羽地域 .....	66
湯島地域 .....	67
向丘地域 .....	68
汐見地域 .....	69
根津地域 .....	70
駒込地域 .....	71



## 区全体の人口の推移・推計

	H13	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
0-4歳	5,550	6,176	6,176	6,176	6,176	6,176	6,035	5,893	5,751	5,609	5,468	5,251
5-9歳	5,718	6,422	6,517	6,613	6,708	6,802	6,802	6,802	6,802	6,802	6,802	6,644
10-14歳	6,290	6,264	6,313	6,364	6,413	6,463	6,560	6,658	6,756	6,854	6,951	6,951
15-19歳	7,822	7,126	7,033	6,938	6,845	6,751	6,802	6,854	6,906	6,958	7,009	7,113
20-24歳	13,751	13,201	12,798	12,395	11,992	11,590	11,468	11,349	11,226	11,107	10,985	11,050
25-29歳	15,860	16,461	16,064	15,666	15,269	14,871	14,522	14,171	13,824	13,473	13,124	13,042
30-34歳	13,653	17,205	17,204	17,201	17,200	17,198	16,805	16,411	16,017	15,623	15,230	14,884
35-39歳	12,718	15,964	16,549	17,134	17,719	18,304	18,294	18,282	18,271	18,259	18,249	17,798
40-44歳	10,936	14,107	14,583	15,060	15,536	16,013	16,632	17,250	17,870	18,488	19,107	19,088
45-49歳	10,867	11,802	12,263	12,724	13,185	13,646	14,127	14,608	15,090	15,571	16,052	16,678
50-54歳	13,885	11,536	11,418	11,301	11,183	11,064	11,512	11,960	12,408	12,856	13,304	13,776
55-59歳	11,168	12,728	12,350	11,973	11,595	11,219	11,105	10,993	10,879	10,767	10,653	11,084
60-64歳	9,927	11,285	11,544	11,801	12,060	12,319	11,963	11,607	11,251	10,895	10,539	10,431
65-69歳	9,582	9,609	9,759	9,909	10,059	10,209	10,447	10,685	10,922	11,160	11,398	11,067
70-74歳	8,131	8,624	8,619	8,613	8,608	8,602	8,735	8,868	9,003	9,136	9,269	9,484
75-79歳	6,351	7,172	7,243	7,311	7,382	7,451	7,447	7,442	7,437	7,432	7,428	7,539
80-84歳	4,208	5,090	5,213	5,334	5,457	5,578	5,631	5,683	5,735	5,787	5,840	5,838
85歳以上	3,858	4,567	4,738	4,907	5,078	5,248	5,411	5,573	5,736	5,898	6,061	6,179
総人口	170,275	185,339	186,384	187,420	188,465	189,504	190,298	191,089	191,884	192,675	193,469	193,897
増加率			1.01	1.01	1.01	1.01	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
0-4歳率	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%	3.2%	3.1%	3.0%	2.9%	2.8%	2.7%
高齢化率	18.9%	18.9%	19.1%	19.2%	19.4%	19.6%	19.8%	20.0%	20.2%	20.5%	20.7%	20.7%

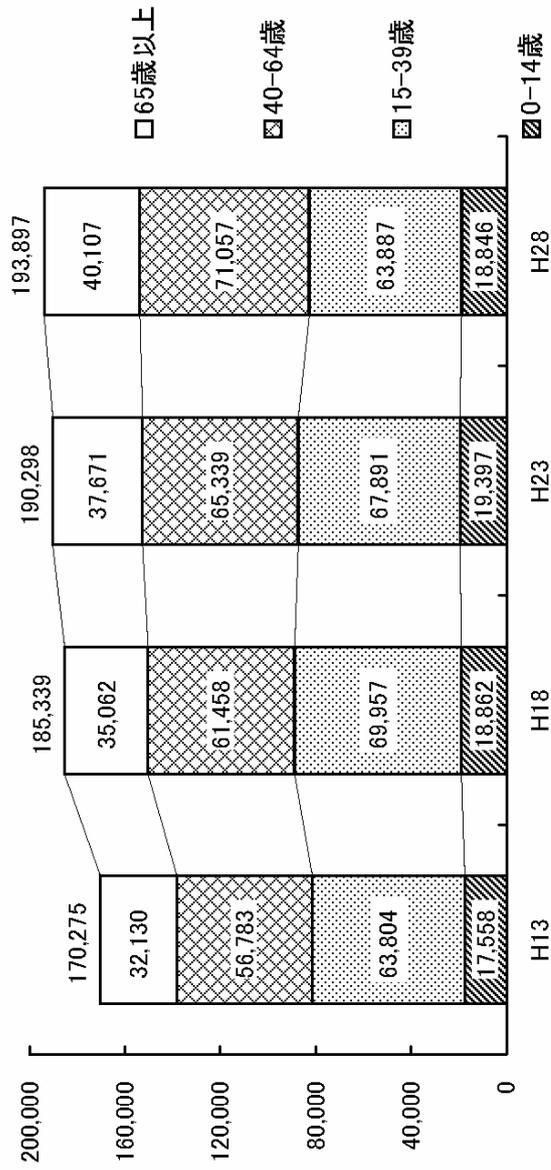
※単位：人（各年1月1日現在人口）

※平成13年は住民基本台帳人口。

※平成18年以降は、コーホート変率法により推計した推計値。推計条件は下記のとおり。

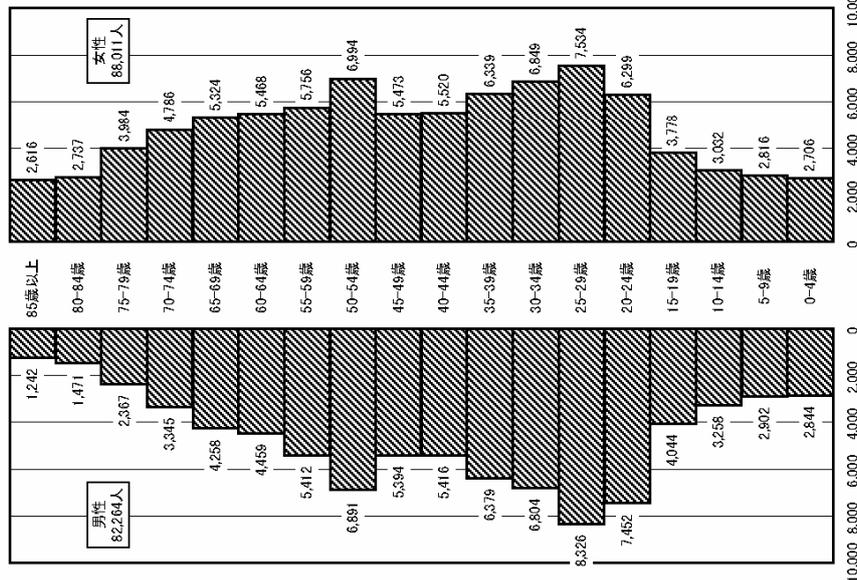
- ①平成12年と平成17年の年齢階層5歳ごと・男女別人口のコーホート変化率をもとに、将来5年ごとの人口を推計した。各年の人口は直線補完により導いた。
- ②0～4歳については、平成17年の0～4歳人口を25～34歳の女性人口で除した率を、将来5年ごとの25～34歳の女性人口に乘じて推計し、平成12年の国勢調査における全国の0～4歳の男女比を用いて男女に振り分けた。
- ③住民基本台帳人口と外国人登録人口は、上記の方法を用いて別々に推計・合算した。

# 人口の推移

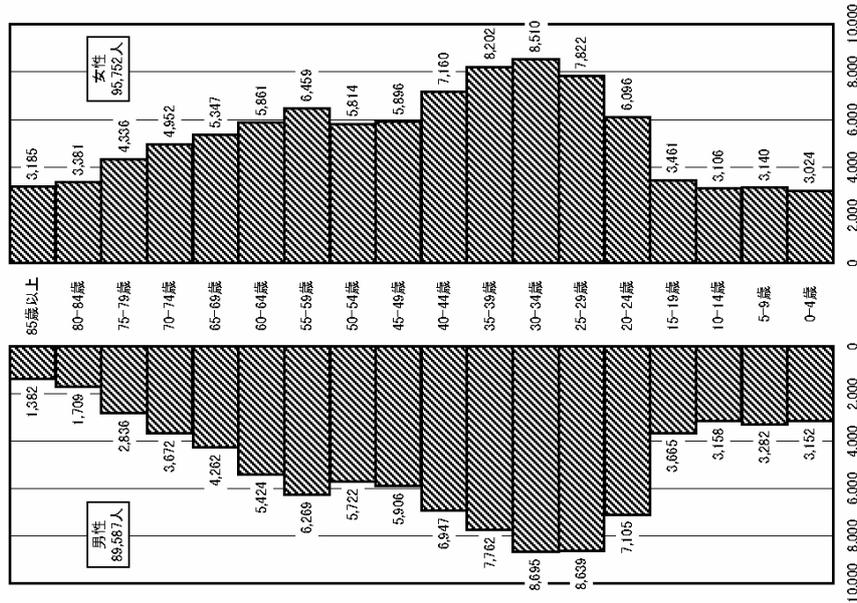


# 人口ピラミッド (区全体)

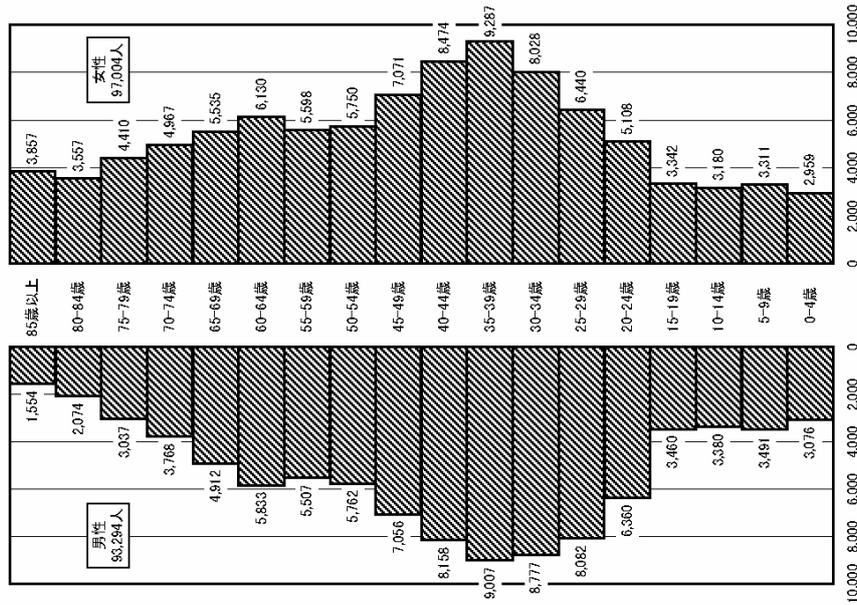
平成13年



平成18年



平成23年



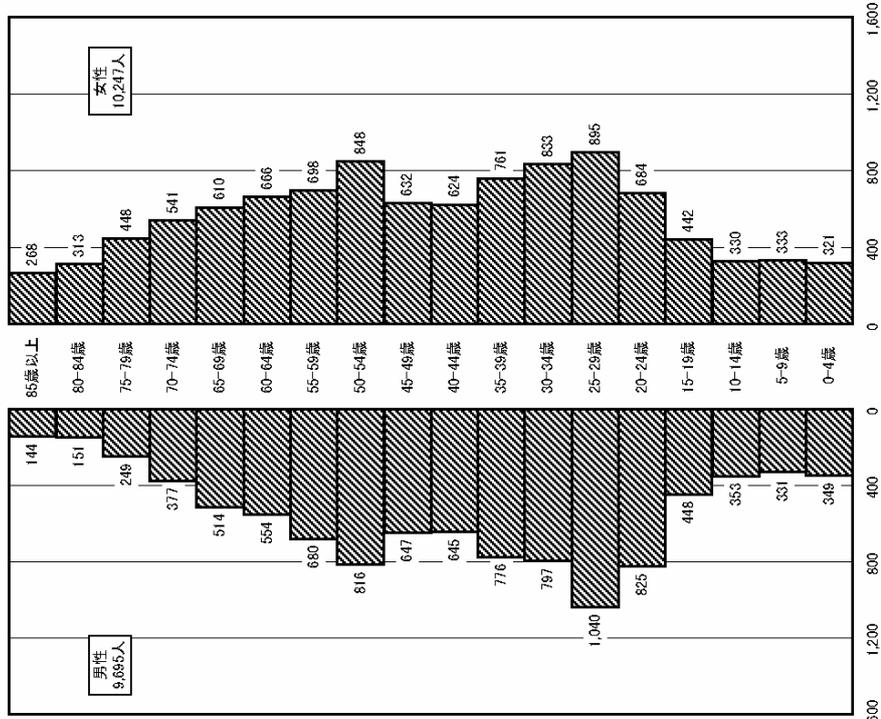
地域別人口の推移（実績）

	礪川地域		大原地域		大塚地域		音羽地域		湯島地域		向丘地域		汐見地域		根津		駒込地域	
	H13	H18	H13	H18	H13	H18												
0-4歳	671	905	1,041	1,142	927	1,015	537	643	472	548	391	427	476	443	271	259	764	749
5-9歳	664	770	1,175	1,213	1,007	1,088	549	636	488	530	455	490	412	495	209	224	759	874
10-14歳	683	774	1,211	1,210	1,101	1,084	630	582	574	547	507	474	493	457	235	195	857	785
15-19歳	890	833	1,383	1,274	1,368	1,195	957	768	704	602	592	543	577	516	292	243	1,060	898
20-24歳	1,509	1,455	2,280	2,061	2,434	2,229	1,674	1,532	1,445	1,446	1,120	1,066	1,002	839	629	509	1,660	1,481
25-29歳	1,935	2,017	2,718	2,600	2,649	2,659	1,569	1,640	1,765	1,982	1,313	1,169	1,257	1,228	735	695	1,920	1,820
30-34歳	1,630	2,410	2,466	2,871	2,276	2,833	1,316	1,736	1,360	1,829	1,076	1,272	1,234	1,262	592	690	1,703	1,993
35-39歳	1,537	2,143	2,382	2,744	2,183	2,483	1,198	1,482	1,138	1,523	945	1,112	1,120	1,227	554	643	1,662	1,790
40-44歳	1,268	1,914	2,055	2,434	1,868	2,305	1,068	1,371	1,000	1,297	824	1,019	962	1,130	463	564	1,428	1,703
45-49歳	1,279	1,443	1,967	2,036	1,866	1,934	1,083	1,117	1,084	1,085	773	829	912	934	410	461	1,494	1,426
50-54歳	1,665	1,371	2,485	1,849	2,260	1,835	1,434	1,115	1,487	1,117	990	787	1,077	875	632	421	1,857	1,440
55-59歳	1,377	1,722	2,031	2,368	1,749	2,155	1,103	1,418	1,263	1,456	834	965	873	1,023	463	620	1,475	1,782
60-64歳	1,220	1,333	1,841	1,870	1,597	1,630	943	1,029	1,068	1,234	680	790	809	815	450	435	1,320	1,381
65-69歳	1,124	1,169	1,750	1,699	1,521	1,491	905	885	1,093	1,000	734	641	761	764	409	430	1,286	1,218
70-74歳	918	1,053	1,568	1,590	1,297	1,375	759	809	910	983	600	687	670	696	345	384	1,064	1,165
75-79歳	697	797	1,219	1,359	952	1,116	577	646	720	823	491	529	540	596	286	318	870	940
80-84歳	464	600	762	964	667	734	404	478	469	604	319	399	365	450	193	228	564	713
85歳以上	412	475	762	827	616	725	356	452	448	541	309	341	302	425	191	220	463	626
総人口	19,941	23,182	31,097	32,110	28,335	29,882	17,058	18,316	17,486	19,147	12,953	13,538	13,841	14,171	7,359	7,539	22,206	22,783
増加率		1.16		1.03		1.05		1.07		1.09		1.05		1.02		1.02		1.03
0-4歳率	3.4%	3.9%	3.3%	3.6%	3.3%	3.4%	3.1%	3.5%	2.7%	2.9%	3.0%	3.2%	3.4%	3.1%	3.7%	3.4%	3.4%	3.3%
高齢化率	18.1%	17.7%	19.5%	20.1%	17.8%	18.2%	17.6%	17.7%	20.8%	20.6%	18.9%	19.2%	19.1%	20.7%	19.4%	21.0%	19.1%	20.5%

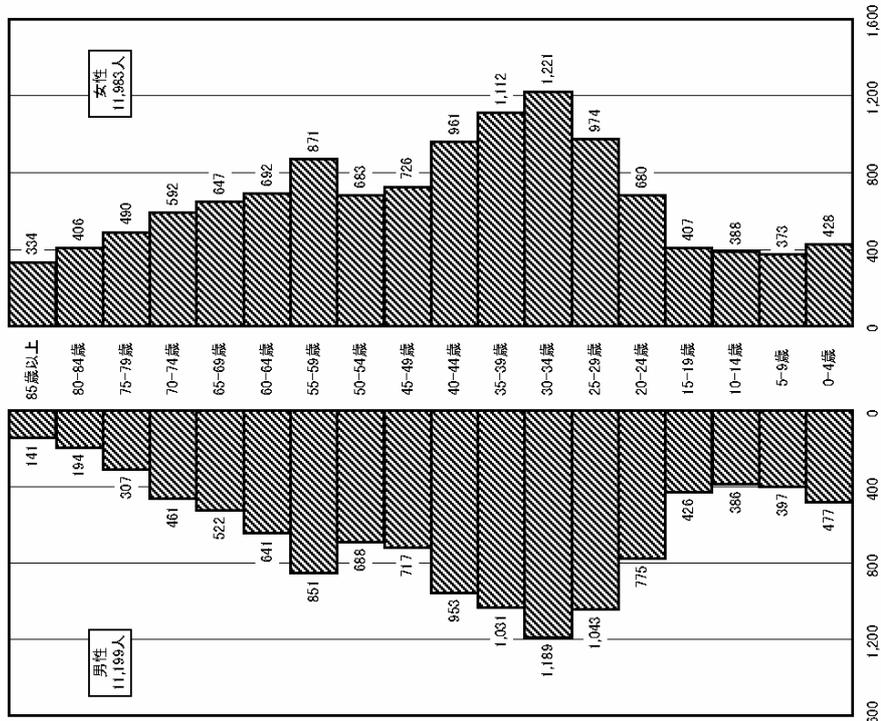
※単位：人（各年1月1日現在、住民基本台帳人口）  
 ※網掛けは、区全体の平均値を上回っている地域

# 礪川地域

平成13年



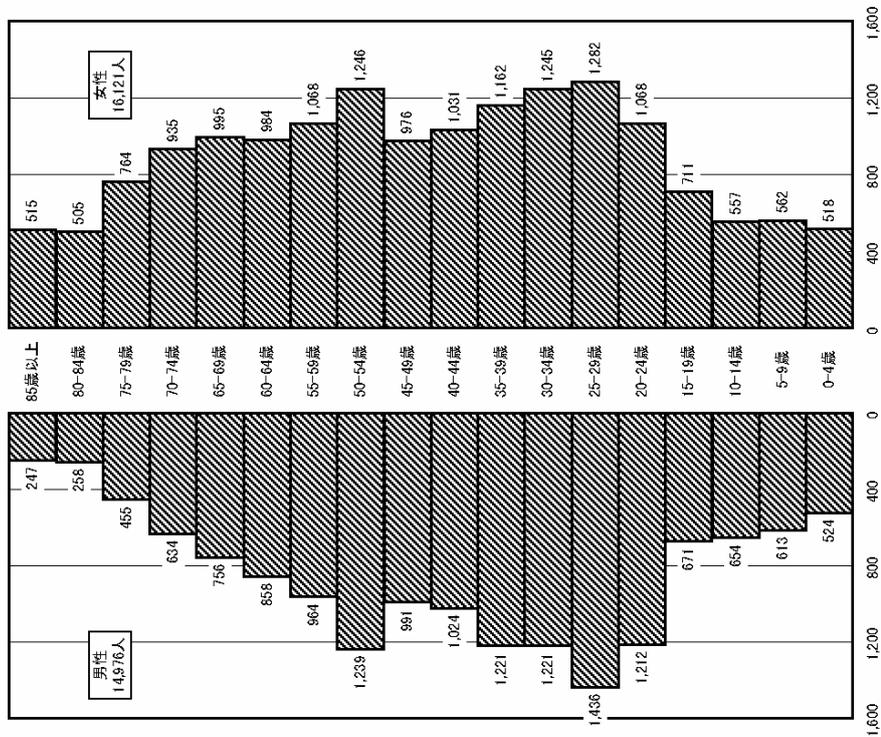
平成18年



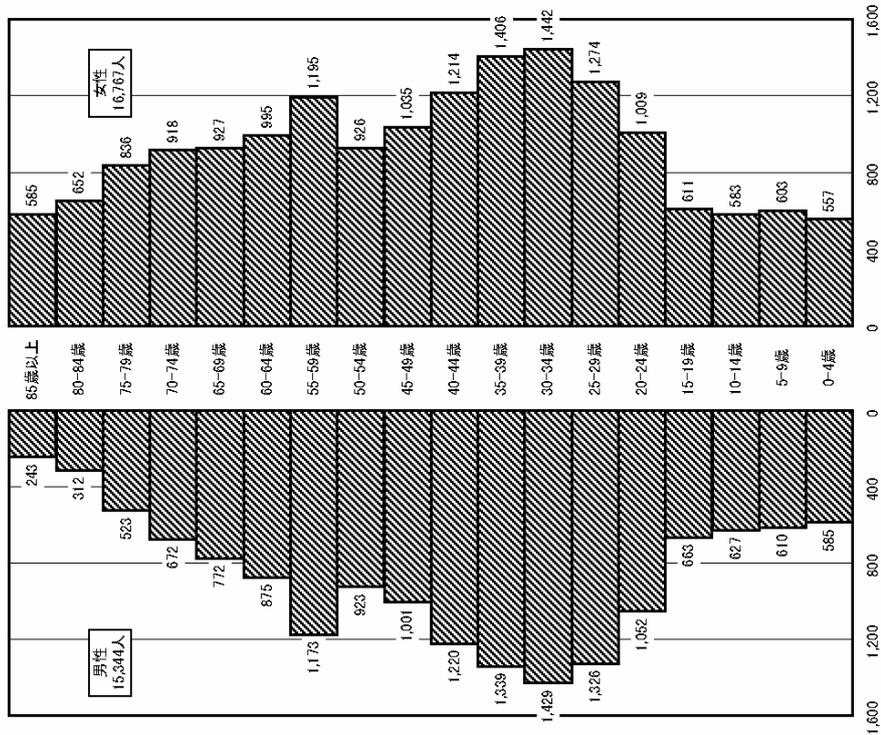
※後楽一丁目・二丁目、春日一丁目・二丁目(一部)、小石川一丁目・二丁目・三丁目(一部)、白山一丁目(一部)・二丁目(一部)・四丁目(一部)・五丁目(一部)、水道一丁目(一部)、本郷一丁目(一部)、西片一丁目(一部)

# 大原地域

平成13年



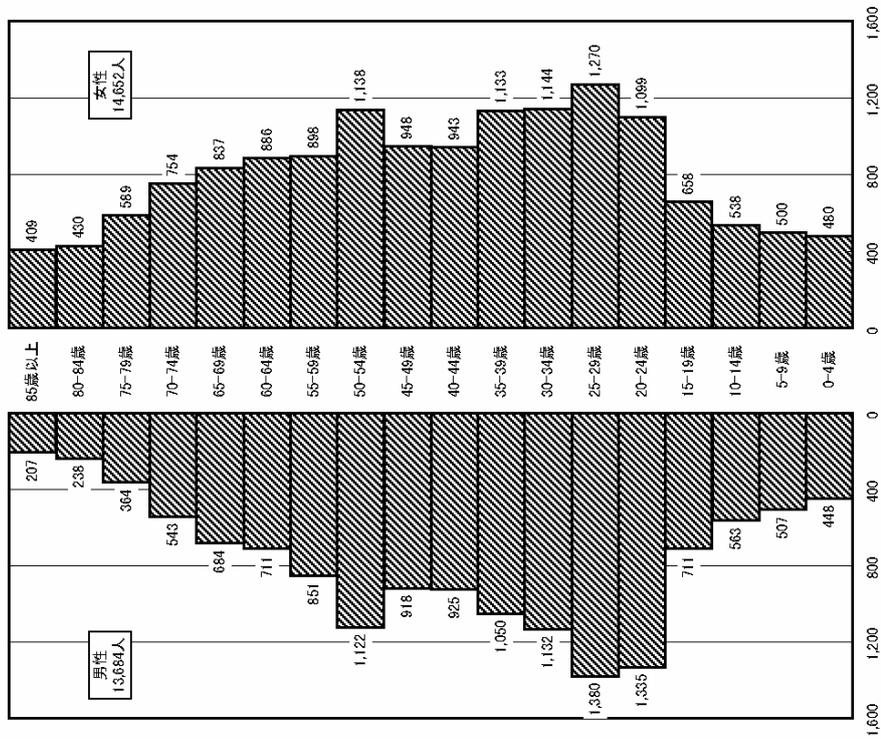
平成18年



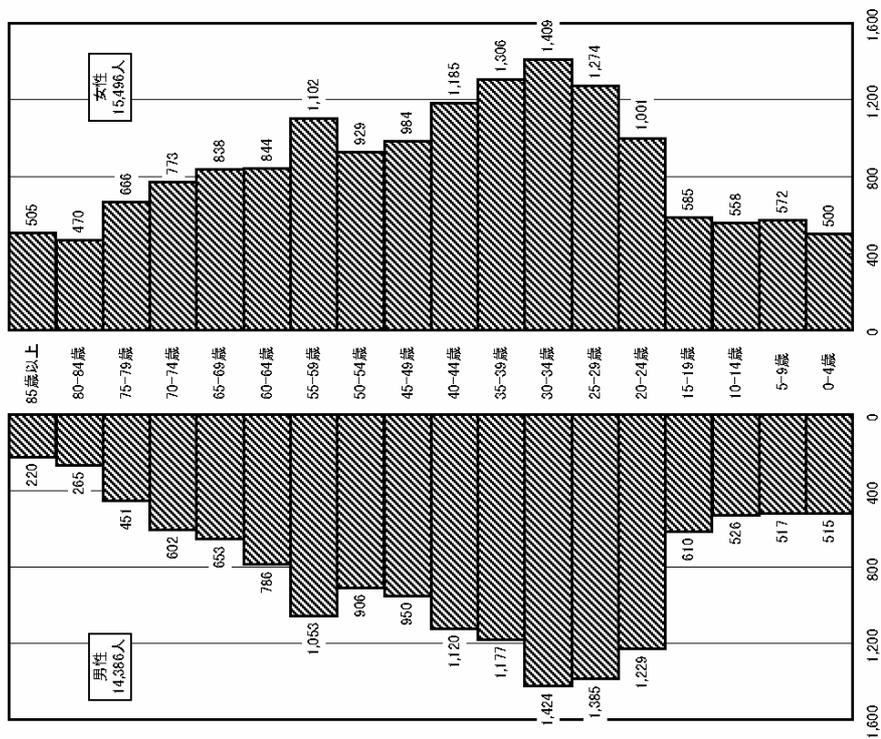
※小石川五丁目(一部)、白山一丁目(一部)・二丁目(一部)・三丁目・四丁目(一部)・五丁目(一部)、千石一丁目・二丁目・三丁目・四丁目・大塚三丁目(一部)・四丁目(一部)、本駒込二丁目(一部)・六丁目(一部)

# 大塚地域

平成13年



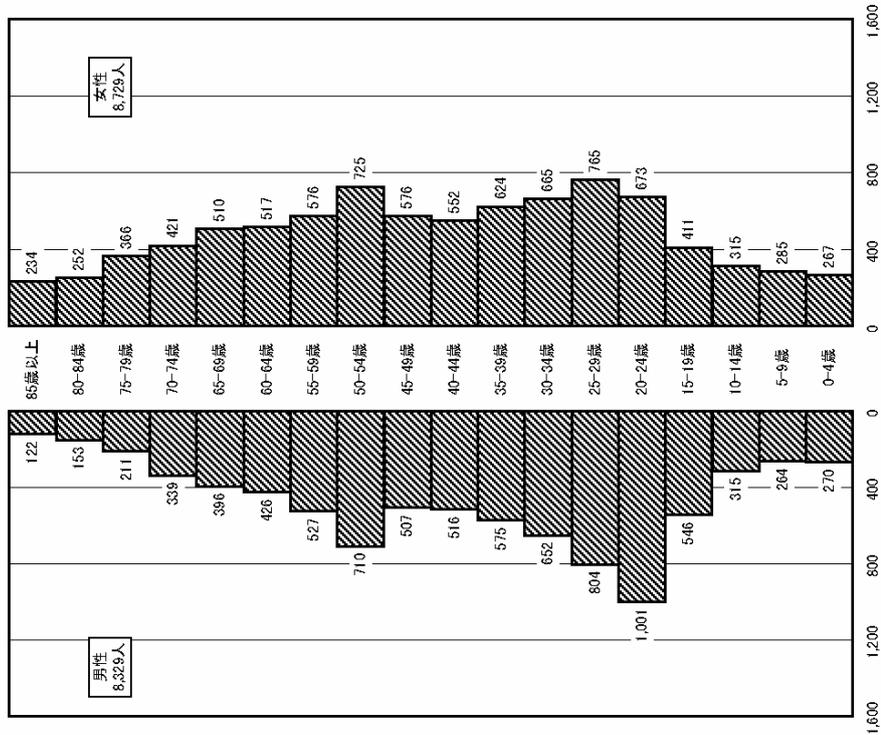
平成18年



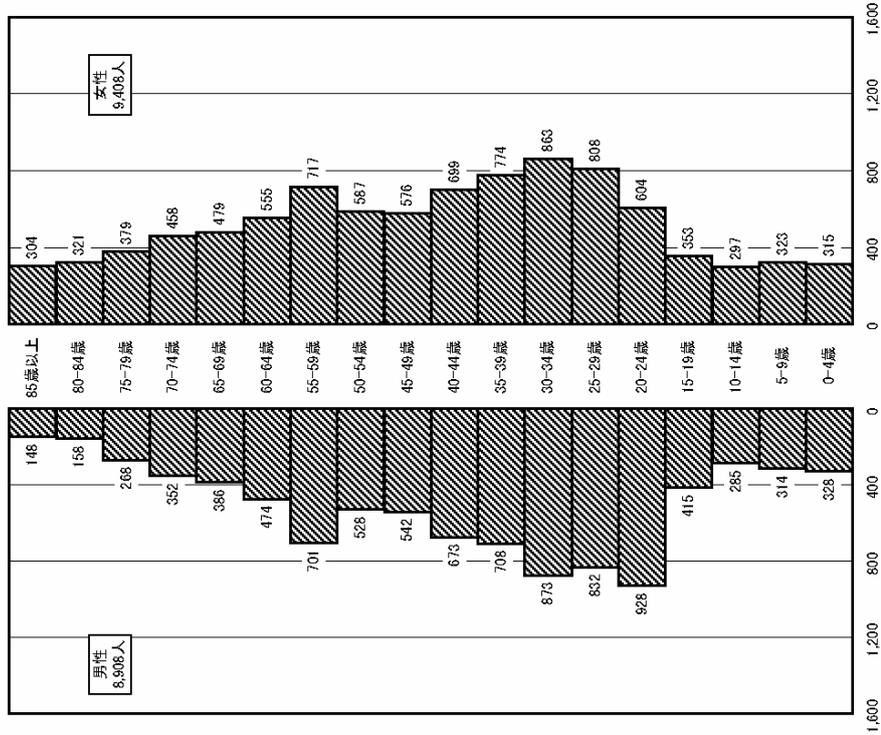
※春日二丁目(一部)、小石川三丁目(一部)・四丁目・五丁目(一部)、水道一丁目(一部)・二丁目(一部)・三丁目(一部)・二丁目(一部)・二丁目(一部)・三丁目(一部)・四丁目・大塚一丁目・二丁目・三丁目(一部)・四丁目・五丁目・六丁目・六丁目(一部)・音羽一丁目(一部)・二丁目(一部)

# 音羽地域

平成13年



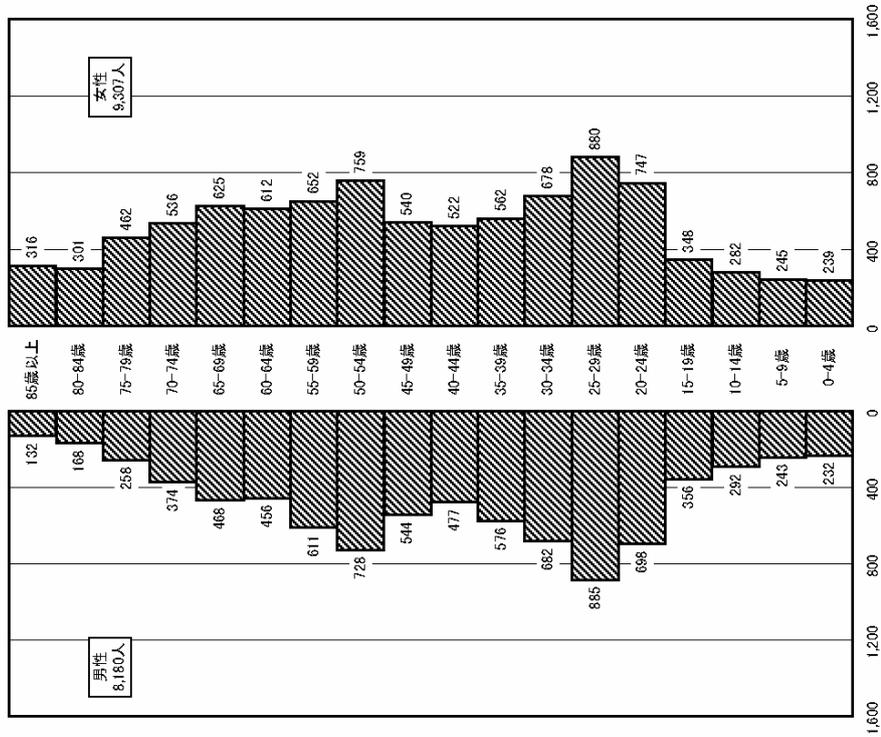
平成18年



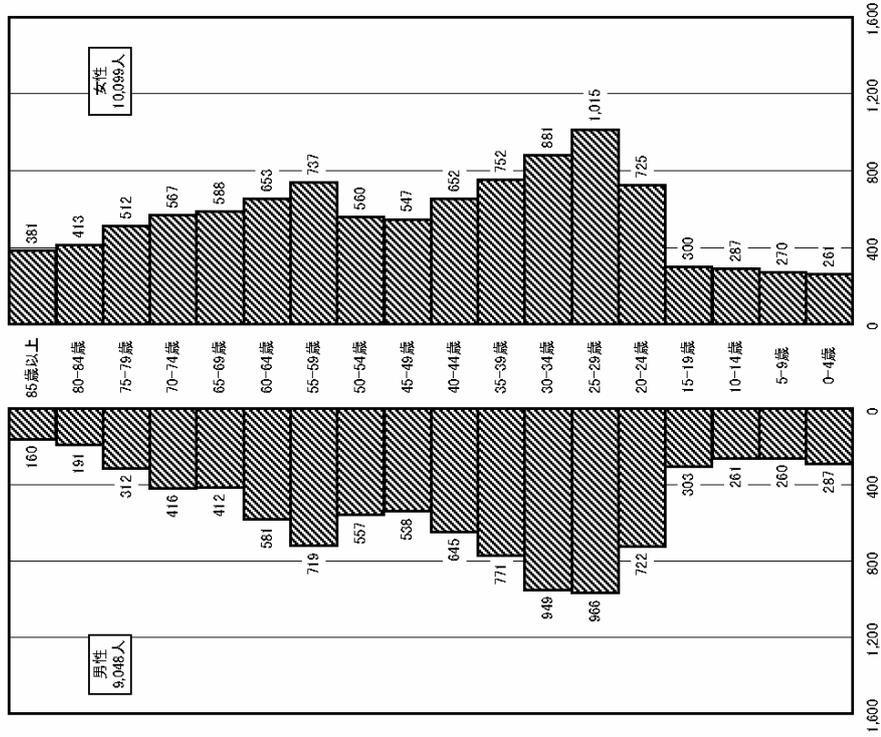
※水道二丁目(一部)、小日向一丁目(一部)・二丁目(一部)・三丁目(一部)、関口一丁目(一部)・二丁目・三丁目、目白台一丁目・二丁目・三丁目、音羽一丁目(一部)・二丁目(一部)

# 湯島地域

平成13年



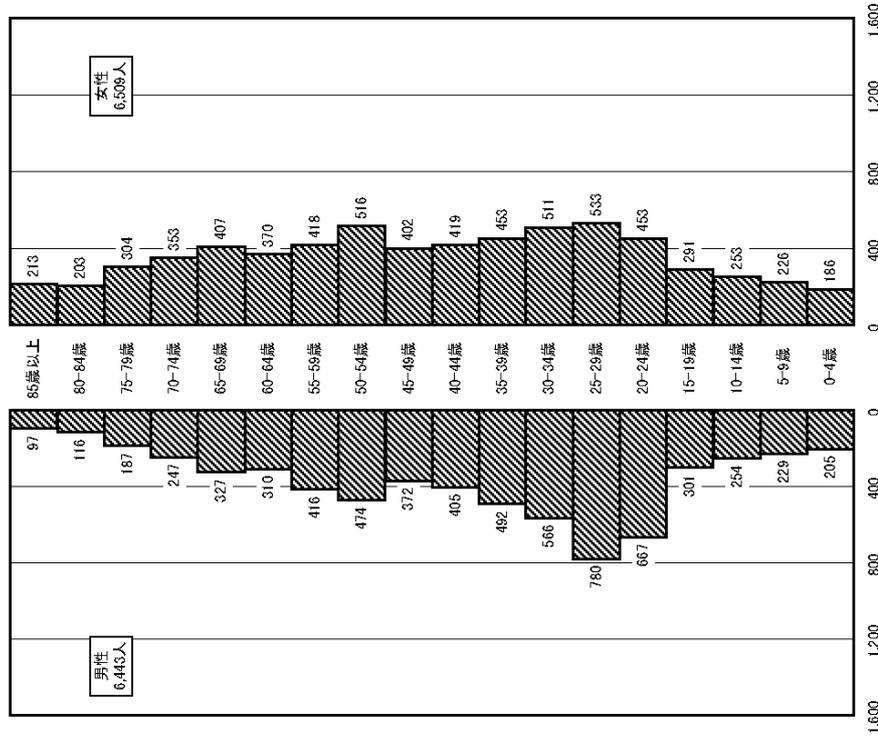
平成18年



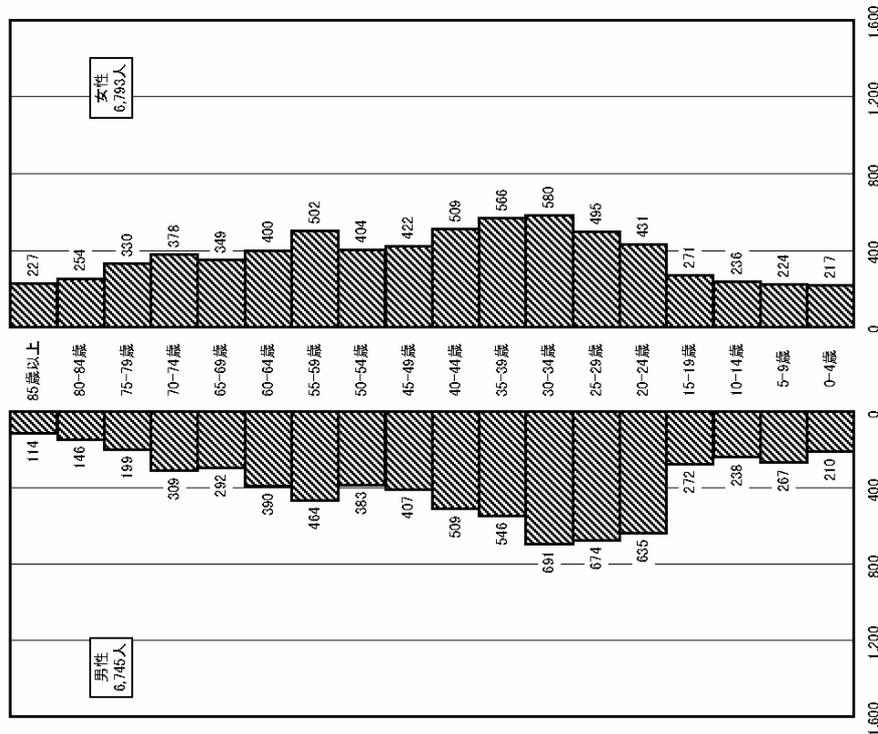
※本郷一丁目(一部)・二丁目・三丁目・四丁目・五丁目(一部)・七丁目・湯島一丁目・二丁目・三丁目・四丁目・西片一丁目(一部)

# 向丘地域

平成13年



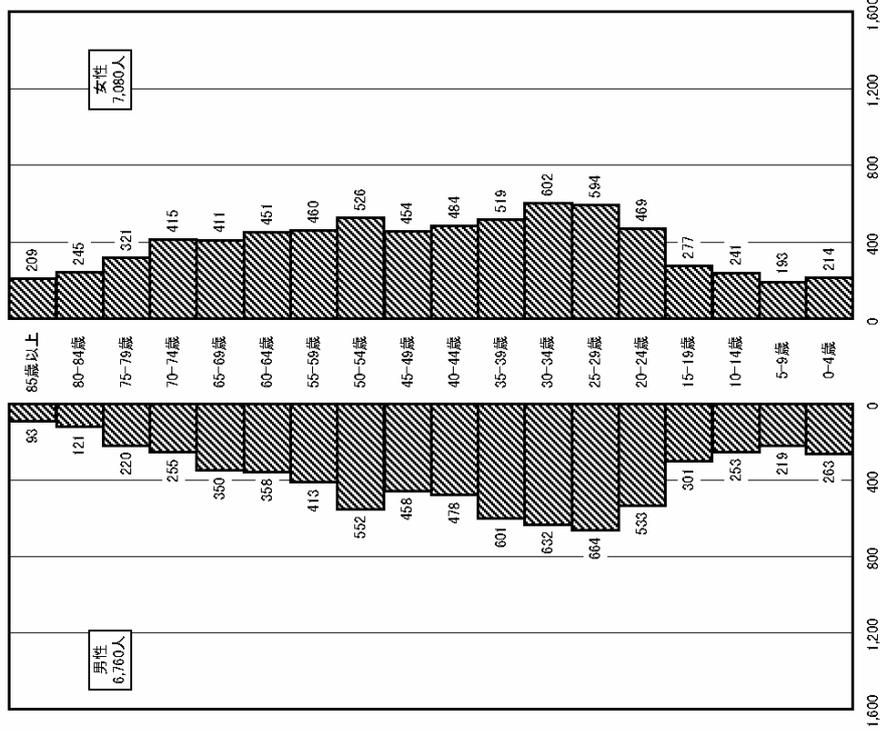
平成18年



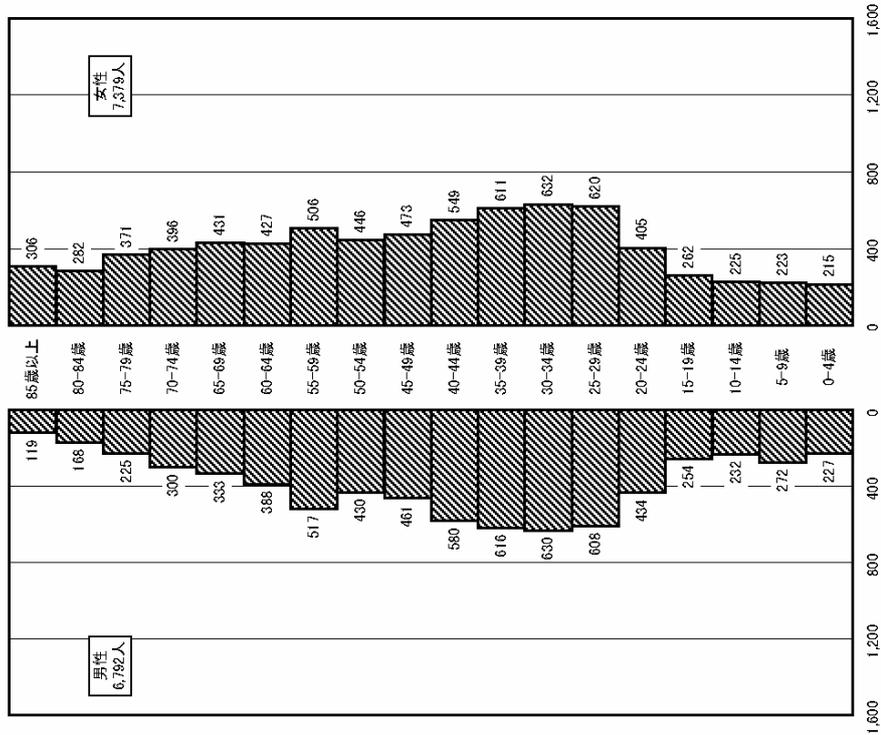
※白山一丁目(一部)、本郷五丁目(一部)・六丁目、西片一丁目(一部)・二丁目、向丘一丁目(一部)、本駒込一丁目(一部)

# 汐見地域

平成13年



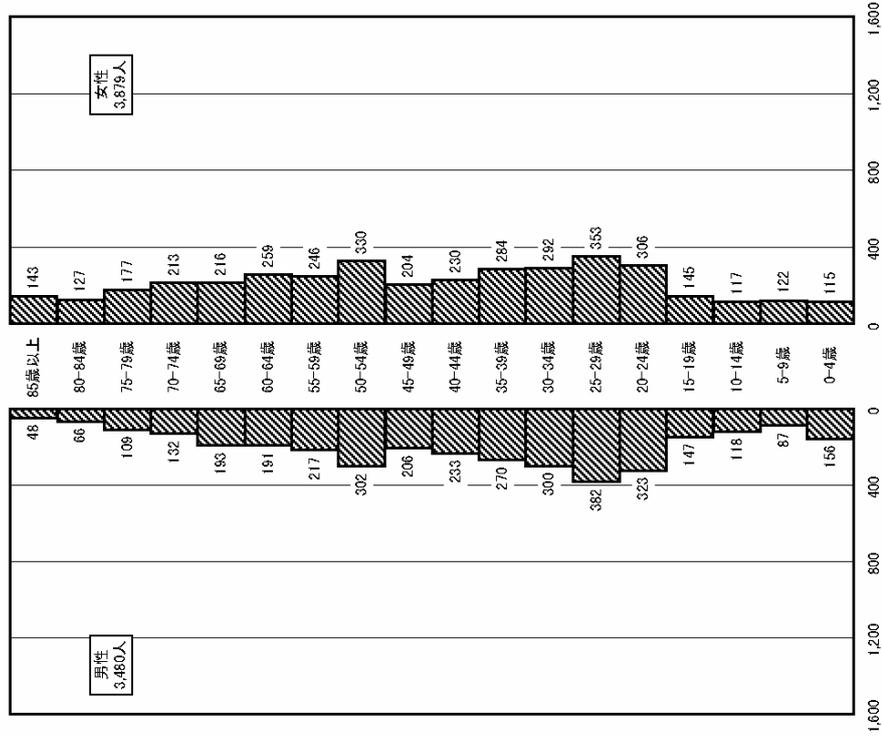
平成18年



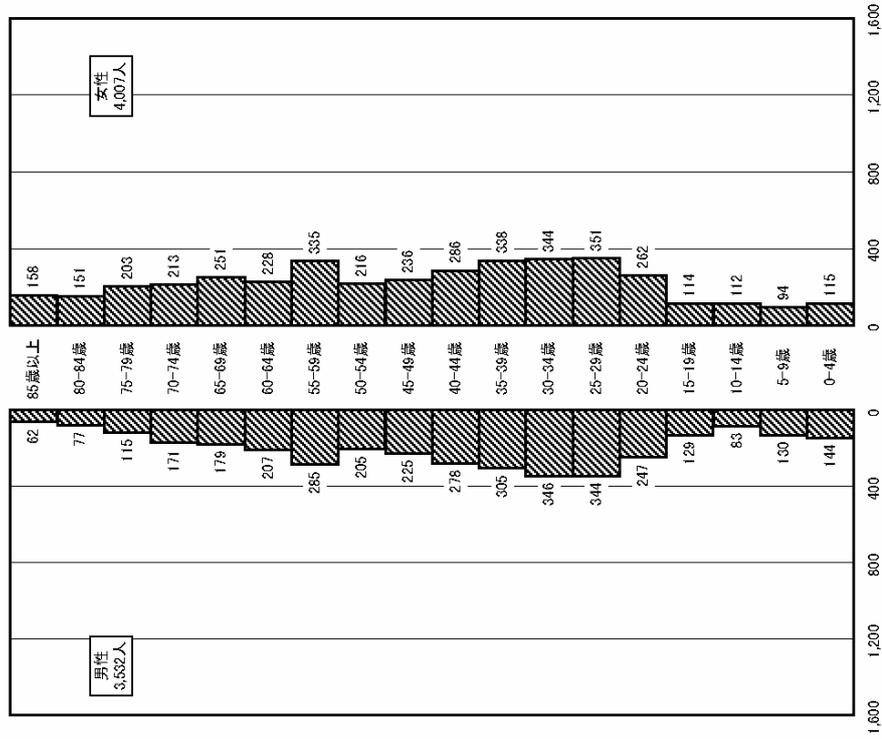
※向丘二丁目(一部)、千駄木一丁目・二丁目・三丁目・五丁目(一部)

# 根津地域

平成13年



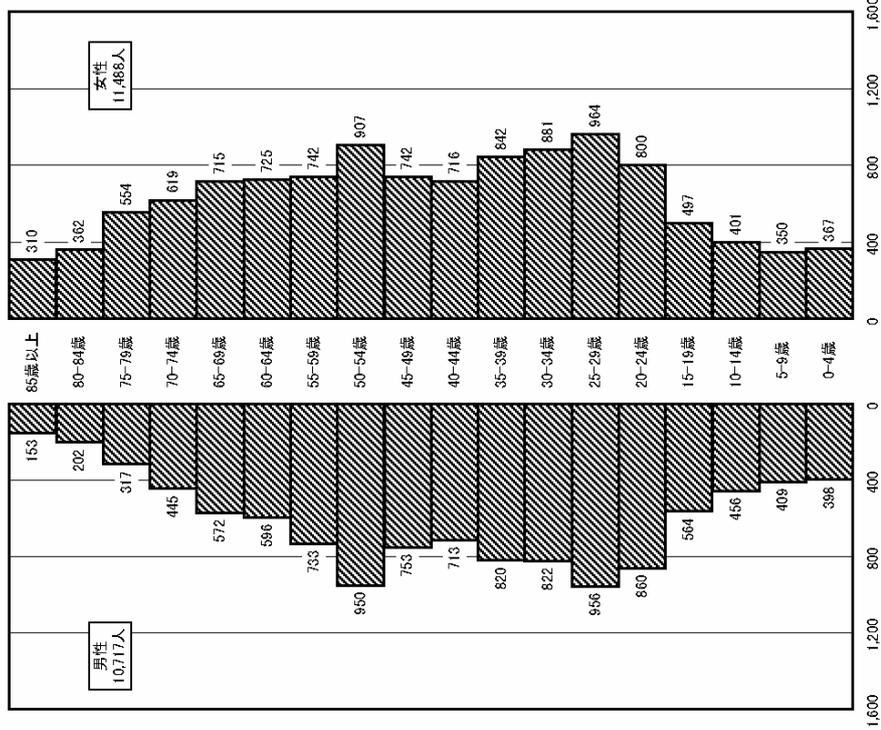
平成18年



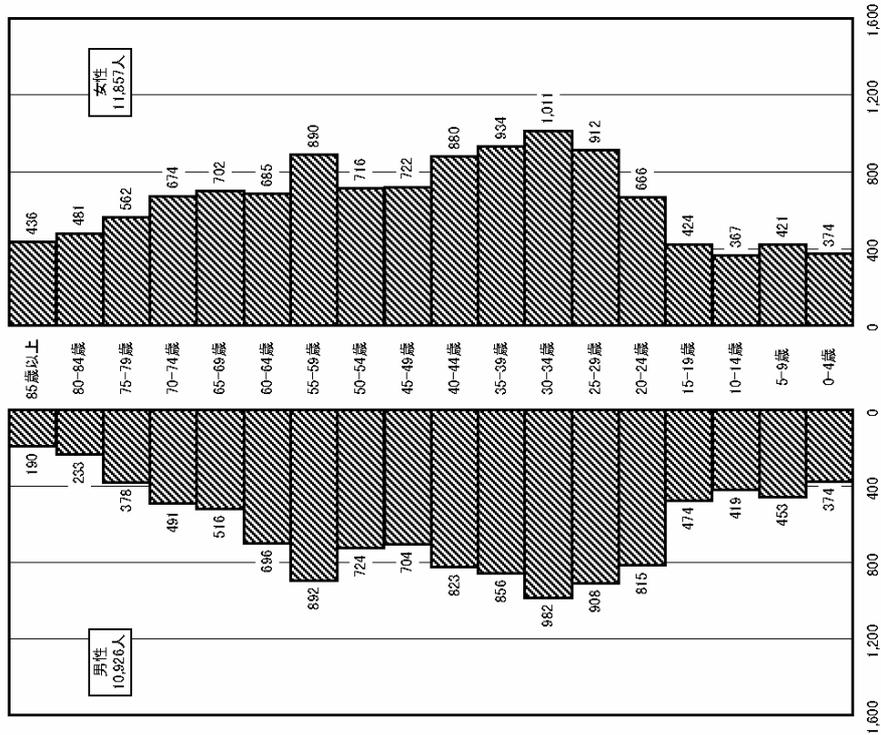
※弥生一丁目・二丁目、根津一丁目・二丁目

# 駒込地域

平成13年



平成18年



※向丘二丁目(一部)、千駄木四丁目・五丁目(一部)、本駒込一丁目(一部)・二丁目(一部)・三丁目・四丁目・五丁目・六丁目(一部)



## 資料 4

---

### 子育て支援先進事例集

---

#### 目次

■ 三鷹市子ども家庭支援センター.....	75
■ 江東区子ども家庭支援センターみずべ.....	75
■ 豊島区立子ども家庭支援センター.....	76
■ 京都市子育て支援総合センター こどもみらい館 .....	76
■ 大阪市立子育ていろいろ相談センター .....	77
■ 子育てひろば「あいぼーと」 .....	77
■ 武蔵野市立0123吉祥寺、武蔵野市立0123はらっぱ.....	78
■ コミュニティカフェ「ぶりっじ」 .....	78
■ NPOによる産中・産褥期の育児支援活動 .....	79
■ 世田谷区社会福祉協議会の子育て支援活動 .....	79
■ 江戸川区共育プラザ.....	80
■ みたか子育てねっと .....	80
■ 保育所・聖愛園(社会福祉法人路交館).....	81
■ 京都市 家庭教育支援.....	82
■ 京都市 絵本ふれあい事業.....	82
■ 徳丸・絵本絵本読み聞かせ会 .....	83
■ 保育所における幼児教育の推進.....	83
■ 世田谷区 子ども基金 .....	84
■ 埼玉県 ワーク・ライフ・バランス事業 .....	84
■ 子育てタクシー事業 .....	85
■ 子どもの早起きをすすめる会.....	85
■ 外国人の子育て支援事業 .....	86



■ 三鷹市子ども家庭支援センター

U R L	<a href="https://www2.kosodate.mitaka.ne.jp/chi/sien/SRV01103FR.html">https://www2.kosodate.mitaka.ne.jp/chi/sien/SRV01103FR.html</a>
実施主体	東京都三鷹市
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●のびのびひろばとすくすくひろばの2か所</li> <li>●のびのびひろばの事業内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談：18歳未満を対象とする子どもと家庭に関する総合相談。月～土曜の8時30分～19時。</li> <li>・親子ひろば ひまわり：0～3歳までの親子がいつでも自由に遊べるスペース。利用時間は火～土曜の10時～16時30分。</li> <li>・一時保育事業、トワイライトステイ事業、緊急一時保育事業、ショートステイ事業の相談・受付・調整。</li> </ul> </li> <li>●すくすくひろばの事業内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談：0～3歳までの子どもに関する相談。</li> <li>・わいわいひろば：0～3歳までの親子がいつでも自由に遊べるスペース。</li> <li>・サロンコーナー：ミルク用のお湯やお茶を用意。食事スペース。</li> <li>・あそびましょう：年齢別に遊びを企画。</li> <li>・子育てグループ室：子育てグループに活動の場を提供。</li> </ul> </li> </ul>

■ 江東区子ども家庭支援センターみずべ

U R L	<a href="http://www.kotomizube.jp/">http://www.kotomizube.jp/</a>
実施主体	東京都江東区（運営は社会福祉法人 雲柱社）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●区内4か所に子ども家庭支援センターを設置</li> <li>●うち1か所に児童虐待ホットラインを設置</li> <li>●各センターの活動内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び・ふれあいのひろば：0～3歳くらいの親子を中心に自由に遊びに来ることができる、遊びのひろば。開館時間はどのセンターも火～土曜（祝日除く）の10時～16時。</li> <li>・育てあいのひろば：誕生会、すくすく成長記録、井戸端会議、ひと言交流掲示板。</li> <li>・学びあいのひろば：母親・父親講座、子育て塾、グループ懇談会（グループ相談）、めだかクラブ（講習会）。</li> <li>・支えあいのひろば：ふれあい相談、面接・電話相談、専門相談。</li> <li>・わかちあいのひろば：掲示板や発行物での情報提供・交流。子育て情報の提供、かわら版“みずべ”の発行、情報交流コーナー。</li> </ul> </li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親、ボランティア、スタッフによる運営会議や掲示板等を通じた情報交換。</li> <li>・行事の企画や実行委員、講座（先輩ママの話）等への母親の参画。</li> </ul>

■ 豊島区立子ども家庭支援センター

U R L	<a href="http://www.toshima.ne.jp/~kodomo_e/">http://www.toshima.ne.jp/~kodomo_e/</a>
実施主体	東京都豊島区
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東部センターとわむと西部センターとむとむの2か所</li> <li>● 事業内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもに関する相談：ひろば相談、電話相談、面接相談、専門相談。</li> <li>・ 親子遊び広場：0歳～就学前の親子を対象に、遊びながら情報交換や子育てができる場。各種子育て講座や学習会も開催。 利用時間は月～日曜の10時～17時。</li> <li>・ 一時保育：対象は満10か月から就学前まで。月～金曜の9時～17時。保育料は500円/時間（週3日まで利用可）。ウェブ上で予約状況を確認できる。</li> <li>・ 地域組織化活動：子育てサークルやボランティアに無料で活動の場を提供。各種行事や講座を開催。</li> <li>・ 発達支援（西部センターとむとむ）：心身の発達に問題や障害のある子ども、その家族への、個別や集団での遊びを通じた援助。専門スタッフによる相談・個別指導・通所指導。</li> <li>・ 育児支援家庭訪問事業（東部センターとわむ）：産後1年までの間、必要な場合に家事・育児を支援するヘルパーを派遣。1回の妊娠で30時間まで。利用料は900円/時間。</li> </ul> </li> </ul>

■ 京都市子育て支援総合センター こどもみらい館

U R L	<a href="http://www.kodomomirai.or.jp/">http://www.kodomomirai.or.jp/</a>
実施主体	京都府京都市
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育、福祉、保健医療が一体となった子育て支援中核施設として平成11年に開設</li> <li>● 平日は9時～21時まで開館（火曜日休館、土日祝日開館）</li> <li>● 事業内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談事業：対面相談、健康相談、電話相談など、子育てに悩みや不安を持つ保護者のための総合相談。</li> <li>・ こども元気ランド：就学前の子どもと保護者の遊びと交流、相談の場。</li> <li>・ 研究・研修事業：あるべき保育・幼児教育についての実践的な調査・研究や、保育士・幼稚園教諭の研修。</li> <li>・ 情報発信：子育て講座、情報誌、子育て図書館、イベント等を通じた子育て情報の発信。</li> <li>・ 子育て支援ネットワークの構築：ボランティア（電話相談ボラ、子育て支援ボラ、絵本ふれあいボラ、地域子育て支援ボラ）の育成や子育て支援サークルの支援。</li> <li>・ 子育て図書館の開設、施設の使用貸し出し（有料）。</li> </ul> </li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民とのパートナーシップによる事業運営ーボランティア登録500人超ー毎日約30人が活動。</li> </ul>

■ 大阪市立子育ていろいろ相談センター

U R L	<a href="http://www.osaka-kosodate.net/">http://www.osaka-kosodate.net/</a>
実施主体	大阪府大阪市（運営は大阪市社会福祉協議会）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平日は 10 時～20 時まで開館（火曜日休館、土日祝日開館）</li> <li>●事業内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て相談：電話相談及び専門家による面接相談。</li> <li>・子育て支援講座：親への支援を図る講座（子育て支援講座、親子ふれあい遊び、調理実習等）や、「子どもの権利条約」の理念に基づく講演会やセミナー等。</li> <li>・子育て支援情報の提供：情報誌やリーフレットの発行、インターネットのホームページ等による各種子育て支援情報の提供。</li> <li>・子育て支援ボランティアの養成：養成と定期的な研修。</li> <li>・ファミリー・サポート・センター事業。</li> <li>・センター利用者のための一時的保育。</li> </ul> </li> </ul>

■ 子育てひろば「あいぽーと」

U R L	<a href="http://www.ai-port.jp/index.html">http://www.ai-port.jp/index.html</a>
実施主体	東京都港区（運営は特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成 15 年 9 月、幼稚園跡地を活用して開設</li> <li>●事業内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・つどいの広場「ひだまり」：会員制で子ども 1 人につき年会費 500 円（港区在住・在勤・在学の場合）。 利用時間は月～土曜の 10 時～16 時 30 分。</li> <li>・一時保育「あおば」：理由を問わない一時保育（会員制）。 対象は生後 2 か月～就学前まで。 利用期間は月～土曜の 6 時～21 時。 費用は 9 時～18 時は 800 円/時間。時間外は 1,200 円/時間。</li> <li>・派遣型一時保育：会員制。支援者は子育て・家族支援者養成講座認定者。理由を問わない、宿泊保育や病後児保育を含む訪問型の一時的保育。 対象は生後 7 日以降の乳幼児～小学校 3 年生まで。 費用は、通常の一時的保育で 900 円/時間。</li> <li>・子育て相談、各種講座（趣味の講座、子育て講座、食育関連講座、ライフデザイン・女性のための再就職支援の講座等）の開催。</li> <li>・子育て・家族支援者の育成：地域人材の育成（認定者は派遣型一時保育の支援等を実施）。</li> <li>・キッズ交流ガーデン：季節ごとに有機園芸を楽しむ事業。</li> </ul> </li> </ul>

■ 武蔵野市立0123吉祥寺、武蔵野市立0123はらっぱ

U R L	<a href="http://www1.parkcity.ne.jp/m0123hap/">http://www1.parkcity.ne.jp/m0123hap/</a>
実施主体	東京都武蔵野市（運営は武蔵野市子ども協会）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●0～3歳の子どもと親を対象にした子育てひろばとして、平成4年（0123吉祥寺）、平成13年（0123はらっぱ）に開設</li> <li>●0123吉祥寺の開館時間は火～土曜の9時～16時 0123はらっぱの開館時間は日～木曜の9時～16時 利用料は無料</li> <li>●活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひろば事業：子どもたちの自由な遊び、子ども同士の関わり合いの場。親同士が自由に気軽に交流し、子育てについて学び合う場。</li> <li>・つどい事業：親子で自由に参加できるイベント、子どもの年齢別親子の講座、親を対象にした子育てに関する講演会や講習会等。</li> <li>・相談事業：小児科医や教育専門家による相談。常時スタッフによる対応。</li> <li>・情報提供事業：子育て情報の図書、雑誌等による提供。情報交換掲示板による利用者同士の情報交換。通信・リーフレットの送付。</li> <li>・地域交流事業：ひろばの環境整備、遊びの提供、利用者への対応を含め、ボランティアの参画。市内各施設との連携・交流。</li> </ul> </li> </ul>

■ コミュニティカフェ「ぶりっじ」

U R L	<a href="http://www.cafe-bridge.net/modules/cafebridge0/">http://www.cafe-bridge.net/modules/cafebridge0/</a>
実施主体	特定非営利活動法人せたがや子育てネット（東京都世田谷区）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●下北沢の商店街に、NPOと区、商店街とのコラボ事業として、平成18年に開設</li> <li>●せたがや子育てネットは、インターネットによる子育て情報の収集と発信、子育てグループのネットワーク化等をめざして活動するNPO法人</li> <li>●ぶりっじの活動概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座や勉強会などが開催できる多目的スペース、料理教室も可能なコミュニティキッチン、一時預かり用スペースがある。</li> <li>・Happy☆Separation：理由を問わない一時預かりサービス。 対象は0～1歳6か月まで。定員8名。 利用時間は平日10時～17時。利用料は800円/時間（基本、会員）。</li> <li>・各種講座の開催。</li> <li>・子育て情報の発信。</li> </ul> </li> </ul>

## ■ NPOによる産中・産褥期の育児支援活動

U R L	<a href="http://www.na-ka-ma.com/amigo/index-j.html">http://www.na-ka-ma.com/amigo/index-j.html</a>
実施主体	特定非営利活動法人子育て支援グループ『amigo（アミーゴ）』 （東京都世田谷区）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●助産師、保育士等により設立されたNPO法人</li> <li>●事業内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報・交流の拠点としての「ふらっとサロン」の開設： 11時～14時まで。参加費200円。（世田谷区社協「子育てサロン」助成事業）</li> <li>・出産・子育てに関する企画、イベント： ベビーマッサージ、リトミック、マタニティヨガ、産後のボディーケア &amp; フィットネス、カラーセラピー等。</li> <li>・マザリング・ベル（産中・産褥期の育児支援活動・会員制）： 妊娠期の家事一般、お産期の産院への付き添い、入院中の家事一般、産褥期（産後3か月）の食事を中心とした家事、検診・外出の付添等。 入会金10,000円（2年間有効）、コーディネーター料5,000円。 訪問開始2時間4,000円、以後1000円/時（平日）。</li> <li>・地域と子育てのネットワークづくり。</li> </ul> </li> </ul>

## ■ 世田谷区社会福祉協議会の子育て支援活動

U R L	<a href="http://www.setagayashakyo.or.jp/index.htm">http://www.setagayashakyo.or.jp/index.htm</a>
実施主体	東京都世田谷区社会福祉協議会
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域支えあい活動として、平成13年にスタート</li> <li>●子育てサロン <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域子育ての経験者や子育て中の親が、自宅や支え合いの活動拠点で週1～月1回、一定時間を親子一緒に過ごしながら遊び、母親の育児不安や閉じこもり、社会孤立の解消をめざす活動。</li> <li>・社協は活動費の補助、活動情報や活動の場の提供等の支援を展開。</li> </ul> </li> <li>●ふれあい子育て支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育ての援助を受けたい方（利用会員）と援助を提供する方（援助会員）の地域住民の支えあいにより、子育て中の世帯を支援する事業。</li> <li>・援助会員は、社協が行う研修を受けた後、活動を開始。</li> <li>・援助内容は、保護者が子どもの世話ができない時（病気、仕事、介護、リフレッシュ、社会参加など）子どもを預かる。</li> <li>・利用時間は7時～21時、利用料は800円/時間。</li> </ul> </li> </ul>

## ■ 江戸川区共育プラザ

U R L	<a href="http://www.city.edogawa.tokyo.jp/shisetsu/plaza/index.html">http://www.city.edogawa.tokyo.jp/shisetsu/plaza/index.html</a>
実施主体	東京都江戸川区
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●区内 6 か所の児童館を改修、平成 17 年度より、共育プラザとしてリニューアル</li> <li>●中学・高校生の活動支援、子育て支援、さまざまな世代間の交流など、乳幼児から幅広い世代が集う共育・協働の実践の場として展開 (小学生には、全学校で放課後活動の場「すくすくスクール」がある)</li> <li>●子育て支援事業の内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てひろばを常設：全共育プラザに常設の子育てひろばを開設。</li> <li>・子育て情報コーナー設置：子育て掲示板による情報交換・ミニ知識コーナー・パソコンによる情報検索等。講座・講習会の実施など。</li> <li>・いつでも子育て相談：専門スタッフによる随時相談。</li> <li>・サークルづくりの支援</li> <li>・らっこひろば：幼児と保護者が一緒に遊戯や工作等を楽しめる講座。</li> </ul> </li> </ul>

## ■ みたか子育てねっと

U R L	<a href="http://www.kosodate.mitaka.ne.jp/">http://www.kosodate.mitaka.ne.jp/</a>
実施主体	東京都三鷹市（運営は株式会社まちづくり三鷹）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民と市と民間の協力により、子育ての情報や人、施設、サービスなどをトータルに提供するホームページ</li> <li>●自治体と地域の諸機関が協働で運営</li> <li>●みたか子育てねっとの内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・メールによる子育て・子ども相談室。</li> <li>・子育てナビ：ケース別に利用できる市の子育て制度やサービスの案内。保育園・幼稚園の空き情報や申請方法の案内。</li> <li>・子育てコンビニ：NPO法人が運営する、市民参加による地域の子育て情報サイト。</li> <li>・子育てひろば：子育て情報の交流の場となる電子掲示板。</li> <li>・ファミリーサポート：ファミリーサポート事業の案内。</li> </ul> </li> </ul>

■ 保育所・聖愛園(社会福祉法人路交館)

U R L	<a href="http://www.rokoukan.or.jp/">http://www.rokoukan.or.jp/</a>
実施主体	社会福祉法人路交館（大阪府大阪市）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育所 聖愛園 <ul style="list-style-type: none"> <li>・たてわり保育（0歳児、1・2歳児、3・4・5歳児）</li> <li>・産休・育休明け保育</li> <li>・延長保育（6時30分～8時30分、16時30分～22時30分）</li> <li>・夜間保育所との連携による深夜2時（26時）までの保育</li> </ul> </li> <li>●夜間保育所 あすなろ（宿泊あり） <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本保育時間（14時～22時）</li> <li>・延長保育（7時～14時、22時～26時）</li> </ul> </li> <li>●地域子育てセンター事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時保育（対象：6か月～就学前）</li> <li>  昼間一時保育（9時～19時）</li> <li>  夜間一時保育（14時～26時）</li> <li>  休日一時保育（日曜・祝日・年末年始、9時～19時）</li> <li>  一時的宿泊保育（18時～翌朝7時）</li> </ul> </li> <li>・子育てパワーアップ講座</li> <li>・共同子育てサークルぶくぶく（園の空き保育室を活用した子育てサークル）</li> <li>・子育て教室どんくま（保育園・幼稚園に入っていない子どもの友だちづくり）</li> <li>・あすなろ広場（園庭等を使った親子の遊び広場）</li> <li>・ふれあい広場（保育所の施設や行事開放）</li> <li>・ちょっと体験保育（保育所体験）</li> <li>・地子セ通信の発行</li> <li>●ひよこルーム <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員制の病後児保育（入会時20,000円、月2,700円＋保育料・利用料）</li> </ul> </li> </ul>

■ 京都市 家庭教育支援

U R L	<a href="http://www.edu.city.kyoto.jp/kateitiiki/">http://www.edu.city.kyoto.jp/kateitiiki/</a>
実施主体	京都府京都市教育委員会
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭の教育力向上サポートチーム <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A や家庭教育アドバイザーを含む家庭の教育力向上サポートチームを設置し、「子育て語り合いサロン」や父親の子育てサークル「おやじの会」、「子育てサポーター養成講座」等を実施。</li> </ul> </li> <li>● 子育て語り合いサロン <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の教室等を活用して気軽な雰囲気の中でお互いの子育ての悩みなどを語り合う井戸端会議風の子育て教室を実施。 対象は市立小学校・中学校・総合養護学校・幼稚園の保護者。</li> </ul> </li> <li>● おやじの会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 父親の子育てへの参加を促すため、学校単位での父親によるサークル活動を奨励し、子どもに関わる種々のふれあい活動や地域との合同行事などを実施。 開設場所は市立小・中・総合養護学校・幼稚園 166 校。</li> </ul> </li> <li>● 子育てサポーター養成講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親への子育てに関する助言や子育て交流事業の企画・推進をはじめ、子育てネットワークの運営などの活動を担う人材の養成。全 5 回。</li> <li>・ 対象はおやじの会や子育て語り合いサロン活動者、P T A 会員等。</li> </ul> </li> </ul>

■ 京都市 絵本ふれあい事業

U R L	<a href="http://www.city.kyoto.jp/hokenfukushi/kenkozosin/kenko.html">http://www.city.kyoto.jp/hokenfukushi/kenkozosin/kenko.html</a>
実施主体	京都府京都市
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保健所で実施する 8 か月児健康診査の際に、ボランティアが乳児とその保護者を対象に、絵本の読み聞かせを実施</li> <li>● おすすめの絵本等を紹介した冊子を、8 か月児健康診査を受診者全員に配布</li> <li>● 絵本の読み聞かせは、「こどもみらい館」で育成した絵本ふれあいボランティアを活用</li> </ul>

■ 徳丸・絵本絵本読み聞かせ会

U R L	<a href="http://tokuyomikikase.hp.infoseek.co.jp/">http://tokuyomikikase.hp.infoseek.co.jp/</a>
実施主体	徳丸・絵本絵本読み聞かせ会（東京都板橋区）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●板橋区徳丸地域のママにより発足</li> <li>●活動概要             <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回、10時30分より集会所で、生後2か月から就学前の子どもとそのお母さんを対象に開催。</li> <li>・スタッフは14名、ほとんどが子育て中のママ。</li> <li>・内容は、スタッフによる絵本の読み聞かせ、手遊びやリズム体操、エプロンシアターやパネルシアターなど。</li> </ul> </li> </ul>

■ 保育所における幼児教育の推進

実施主体	東京都大田区
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幼児全体の教育推進の機関として教育委員会事務局に、幼児教育センターを設置（平成17年度）</li> <li>●同センター職員が保育園を巡回し、幼児教育を実施。あわせて幼稚園教員の資格を持つ保育士を対象に、幼児教育の要素を取り入れた保育を行うため研修を実施</li> <li>●区立幼稚園全園（9園）を平成21年度で廃止。施設及び職員は、区の幼児教育・子育て支援の充実に活用予定</li> </ul>

■ 世田谷区 子ども基金

U R L	<a href="http://www.city.setagaya.tokyo.jp/020/d00009413.html">http://www.city.setagaya.tokyo.jp/020/d00009413.html</a>
実施主体	東京都世田谷区こども部
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域が支えあう共助による子育てのしくみ。地域の子育て活動等を支援するための資金として、子ども基金（規模3億円）を設置</li> <li>●補助事業の種類             <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て活動体験の課題や意見集約活動（「子ども基金」の周知活動）</li> <li>・子育て支援を目的にした人材育成活動や知識・技術向上の取り組み</li> <li>・子育て支援に関する調査研究や広報啓発活動</li> <li>・地域や家庭における子育て支援を目的とした活動</li> <li>・子育て活動を目的としたネットワークづくり</li> <li>・青少年の非行防止・健全育成活動や知識・技術向上</li> <li>・子どもの自立支援活動</li> </ul> </li> <li>●補助事業の概要             <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成要件：事業計画、経費予定などの提出、審査</li> <li>・助成対象者：区内に活動拠点がある団体もしくは区民である個人等</li> <li>・交付上限額                 <ul style="list-style-type: none"> <li>3年以上継続して活動している団体＝100万円</li> <li>活動期間が3年未満の団体＝20万円</li> <li>個人への助成＝5万円</li> </ul> </li> <li>・交付回数：1事業あたり3回まで</li> </ul> </li> </ul>

■ 埼玉県 ワーク・ライフ・バランス事業

U R L	<a href="http://www.pref.saitama.lg.jp/A03/BF00/kosodate/kosodate1.htm">http://www.pref.saitama.lg.jp/A03/BF00/kosodate/kosodate1.htm</a>
実施主体	埼玉県子育て支援課
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●埼玉県ワーク・ライフ・バランス研究会を設置、平成17年10月に「これからの「ワーク・ライフ・バランス」を考える」を報告</li> <li>●10月をワーク・ライフ・バランス推進月間とし、セミナー、広報等による普及啓発を推進</li> <li>●ワークライフバランス推進員の設置             <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内企業・事業所に対する、県等からの情報受け入れや企業からの情報発信の窓口となる推進員選任の普及。</li> </ul> </li> <li>●県による支援内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークライフバランス推進員セミナー等の開催</li> <li>・企業訪問等による出前講座の実施</li> <li>・子育て支援に関わる国、県、市町村の動向等の情報提供</li> <li>・他企業・事業所の事例等の紹介</li> <li>・子育てNPOの活動の紹介</li> <li>・企業からのニーズへの対応</li> <li>・県ホームページ等による企業・事業所PR</li> </ul> </li> </ul>

## ■ 子育てタクシー事業

U R L	<a href="http://www.npo-wahaha.net/">http://www.npo-wahaha.net/</a> (NPO法人わははネット) <a href="http://kosodate-taxi.com/">http://kosodate-taxi.com/</a> (全国子育てタクシー協会)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● NPO法人のわははネットが企画して花園タクシー（高松市）のドライバーを養成、平成16年9月からスタート</li> <li>● その後、香川県内では9社が子育て支援タクシーを展開（平成18年10月現在）</li> <li>● 平成18年6月、「全国子育てタクシー協会」設立：子育て支援タクシーの全国普及に向け、ドライバーの養成・研修等を展開</li> <li>● 平成18年9月、長崎県諫早市10社で子育てタクシーがスタート</li> <li>● 子育て支援タクシーのサービス             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児と保護者が同乗する「かんがるーコース」：車内にチャイルドシートを設置、子育て情報誌など必要な冊子やリーフレットの提供等。</li> <li>・ 子どもが1人で乗る「ひよこコース」：保育園や学校、塾の送迎等。</li> <li>・ 急なトラブル・夜中の移動などの「ふくろうコース」：夜間や休日の当番医への搬送等。</li> <li>・ 子どもの救命救急や児童福祉に関する講習、保育実習を受けた乗務員が対応する。</li> </ul> </li> </ul>

## ■ 子どもの早起きをすすめる会

U R L	<a href="http://www.hayaoki.jp/index.cfm">http://www.hayaoki.jp/index.cfm</a>
実施主体	子どもの早起きをすすめる会
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの早起きを進めるために、医師等により設立</li> <li>● 活動内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページ上、登録した会員の支援、情報交換</li> <li>・ 子どもたちの睡眠に関わる情報の整理・公開</li> <li>・ 保育園、幼稚園、教育機関等における講演会、シンポジウムの開催</li> <li>・ 子どもの生活に関わるすべての機関、子どもの家庭に対する啓蒙・支援</li> </ul> </li> </ul>

■ 外国人の子育て支援事業

U R L	<a href="http://www.tabunka.jp/tokyo/">http://www.tabunka.jp/tokyo/</a>
実施主体	特定非営利活動法人多文化共生センター東京
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多文化子育てネット           <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士、保健師、児童館職員、ボランティア、NPO、行政等が、外国人親子の抱える様々な問題の解決に向けて課題を共有するネットワーク。</li> <li>・研修会・フォーラムの開催、メーリングリストによる情報交換、子育て情報の蓄積とウェブでの公開など。</li> </ul> </li> <li>●外国人親子の居場所づくり           <ul style="list-style-type: none"> <li>・台東保健所やセンターで、外国人親子が集まり、友だちをつくったり、おしゃべりする交流会を開催。</li> </ul> </li> <li>●外国籍児童の日本語・教科の学習支援</li> <li>●「たぶんかフリースクール」</li> <li>●多言語生活相談</li> <li>●高校進路ガイダンス</li> <li>●多文化理解教育・セミナー・フィールドワーク</li> <li>●通訳・翻訳事業</li> </ul>

## 資料 5

---

# 子育てしやすいまちに関するアンケート調査結果

---

### 目 次

1. 調査の実施概要.....	89
2. 回答結果① .....	90
3. 回答結果② .....	107

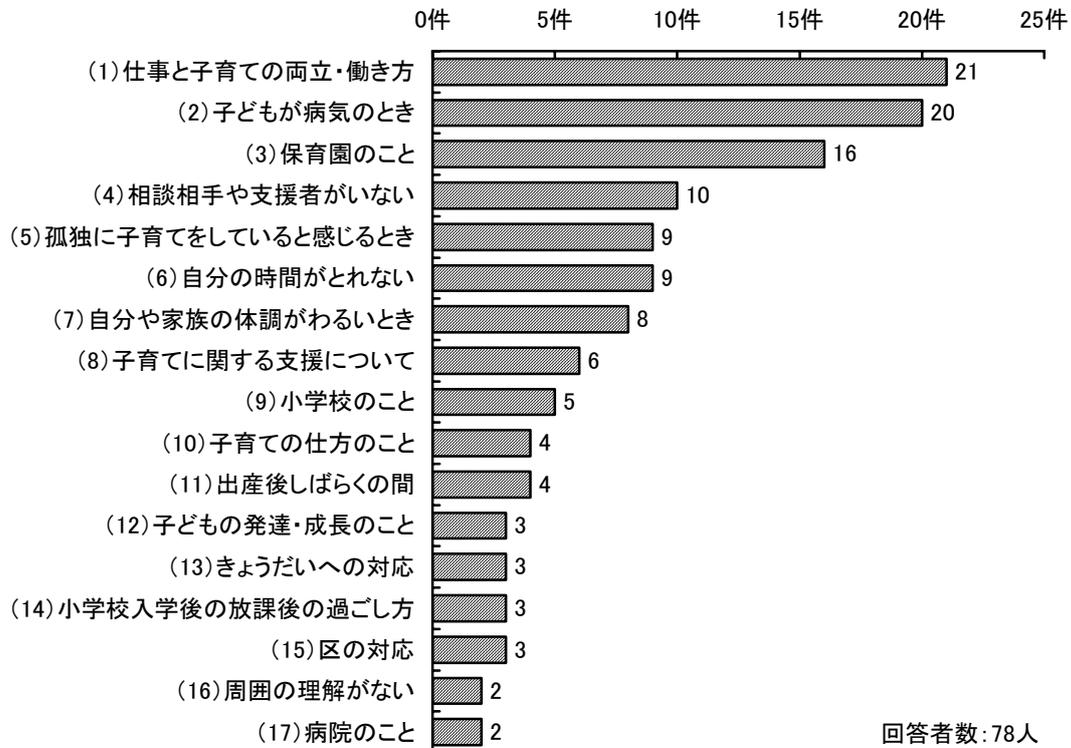


## 1. 調査の実施概要

調査目的	保育ビジョンの策定にあたり、乳幼児を育てている保護者の子育ての状況、子どもの育ちや子育てしやすくするために必要としている支援等について把握する。	
調査方法	①文京区認可保育園父母の会連絡会が、加盟する父母の会メンバーに対して実施。	②第2グループのメンバー経由(家庭で子育て中の主婦が主)での配布並びに緊急一時保育実施保育所(区立保育園3か所)利用者・ぴよぴよひろば(シビックセンター3階)利用者・病後児保育施設、小児科医院(区内医院1か所)利用者に対して、アンケート用紙を配布・郵送回収。
実施期間	平成18年10月	平成18年11月6日～ 平成19年1月19日
回答者数	78人	49人

## 2. 回答結果①

1. 子育てが大変(大変そう)、つらい(つらそう)と思った(思う)のはどういう時？



### (1) 仕事と子育ての両立・働き方 (21 件)

- 仕事との両立。核家族で夫婦とも民間企業勤めです。会社では当然会社への貢献を求められ、私が子育てしていることがハンデだとされています。でも産みっ放しでは子どもを産んだ意味がないし、子育てをしていることで得られる能力もあるはず。そしてこの先日本を担う世代をきちんと育てたい。こういう話はなかなか企業には理解されないんですね。
- 友人で、出産したばかりで本当は1年間の育児休暇をとりたいのだけれど、1年たつと保育園に入れなからと、3ヶ月、4ヶ月で職場復帰したいへんな思いをしているのをみると、この国の保育行政はどこか間違っていると感じます。
- とても不規則な仕事の為、保育園だけでは対応出来ない。実家も近くでは無く、いざ！という時(子どもの病気、けが...)は仕事をキャンセルするしかなく、信用ががた落ち。仕事が出来ない→収入が激減。三人子育ては辛いです。
- 仕事と子育ての両立。兄、妹が別々の保育園なので余計に大変と感じる。
- 保育園、小学校、自分の職場と行事が重なりやりくりが大変なこと。
- 子どもが病気しやすく、仕事を休みがちになり、結局パートにした。
- 子どもを産み育てる際直面する問題は、産休をとる際、働いているので代替職員がアルバイトになってしまうことや、職場の方々の事務分担が増えてしまうことです。
- 子どもができた喜びとともに、「いつ会社に伝えたらいいか」「どうやって職場復帰の道筋をつけたらいいのか」非常に悩みました。私たちには、夫婦2人で子育てをしていく他はなく(身内のヘルプはありません)、その時勤めていた会社は、子どもを生んだ後も会社に所属し続けるケースは私が初めてでした。妊娠したことを告げると同時に、どうやって職場復帰するつもりか、できる限り影響がないように調べたことそのままを上司に伝え、自信があるように振舞っていましたが、内心は不安でいっぱいでした。当時は、身近なところに子どもを持ちながら働き続ける人もいませんでしたので。その後、出産月の関係で保育園に入園することができず、保育ママさんをお願いすることになりましたが、生後4カ月で職場復帰するのが精一杯の休暇期間でした。職場に復帰してからは、子

どもが熱を出したら私が仕事を休む以外にない状況の中で、結果として、同じ会社に居続けることはできませんでした。職場が零細企業で私のような社員を抱え続ける余裕がないという理由と、私自身も、無理して会社員生活を続けることができなかつたためです(2人目を生んだとき「あと何人生むつもり？」と真顔で同僚に聞かれたのも、ちょっとしんどかった)。フリーとなって仕事を始めたとき、上司に「子どもが熱を出しまして…」と言わなくていいだけで、こんなにラクなんだ！とこれまで、有形無形に感じていたプレッシャーの大きさに改めて思いが至りました。子どもを持ち、育てることの幸せは、人生の中で初めて感じたかけがえのない喜びです。こんなふうな幸せがあるというのは、子どもがいないときには想像もつかず、子どもを持つ人を見ても、「たいへんそう」とは思っても、「幸せそう」と思ったことはありませんでした。しかし同時に、「もっと時間を気にせず仕事をしたい！もっと思いっきり仕事したい！」という思いがふつふつと湧いてきて、夫にぶつけてしまうこともあります。子どもを持ちながら仕事をするのは、仕事の世界ではマイナスが多いです。仕事先の人に「お母さんは家にいるのが一番」と言われ、「それなら私に仕事を依頼するのはどうなんだ？」と怒りに襲われたこともありますし、子どもがいることをなるべく話さないようにした時期もありました。でも、常に現実がこちらの意図を裏切るというか、どうしてもはずせない仕事の日に子どもが熱を出し、キャンセルしなければならなくなったり、夜や土日の急な電話で子どもがいることが分かってしまったりして、「隠す」のはやめることにしました。子どもがいないが仕事を続けることが、介護が必要な人を抱えて仕事をするのが、当たり前前の社会になり、身近にもっと増えてくるようになればいいと思っています。そして、どこへでも子どもを連れていけるようになれば、もっといいのになあ、と。

- 仕事が終わらないのに、お迎えのために途中で打ち切り会社を出る。もちろんPCを持ち帰り、子どもが寝静まってから仕事を再開する。自分の仕事の仕上がりを待っている人がいるとき、非常に辛い。子育てが辛いというより、人生全体に無理があるなど感じる人が多い。
- 家事育児負担(終日勤務に加え、平日は家事・育児の全てを独りで負担しなくてはならない)。
- サービス業の為、急遽夜や休日、店に子ども達を連れて行き、仕事をしなければならぬ時は、親子共々つらいです。3人まとめて預けるのは難しく、1人欠けても泣いてしまう子ども達の気持ちを考えると、それも出来ません。
- 一人目の出産のときには、産後も同じように共働き(会社員・常勤)が続けられるかが不安だった。保育園に入園するにも、誕生月によって空きが無く、4月の募集までどうしたらいいのか悩んだことも。我が家の場合は、入園できるまでの数ヶ月、実家の手助けでなんとかかりましたが、母親にとって、子育てと仕事の両立は厳しい問題。
- 責任ある立場で勤めていた職場に、育休を3ヶ月早く切り上げて戻ったときは、6時まで働けないから正社員ではいられないと言われ、15分早く帰るために泣く泣くパートになりました。産休、育休を認めてこれ以上一人だけわがままを言うのならいてくれなくてもいいと言われました。
- 産休、育休がうまく取れるかが最初の心配事でした。子育てと仕事の両立が本当に出来るのか？3歳になるくらいまではよく病気になり、仕事を休みづらく大変でした。
- 母親の家事と仕事との両立。
- 職場復帰が大変だった。
- 働いていると時間に余裕がなく、人間として未熟なため子どもに対して普段よりしかってしまう気がします。本音はある程度のお金時間に余裕がありだといいなと思います。
- 仕事を思いっきりしたいのに保育園が長時間預かってくれない。出産がキャリアアップを阻む。
- 職場復帰後1年くらいは子どもも体調を崩すことが多く、育児と仕事の両立の難しさに悩みました。
- 母親の就職。産休や育休をもらえない人は実質家計はマイナスになります。
- 仕事の面で、子どもがいなかったり独身者は無駄に残業もできるし出世する。子どもがいると時間や仕事内容を制限されてしまい出世できず給料も増えない。子どもが多く金銭的に必要な家庭は給料が低い上に、税金や医療をはじめとした制度等も悪い状況。親の気持ちの余裕もない家庭やこんな世の中で、子どもたちが善良に育つとは思えない。

## (2) 子どもが病気の時(20件)

- 病気の時はいかに困る。今は母親が非常勤だからまだいいが、両親が交代で休むしかないのが限界がある。
- うちの家庭は母子家庭なので、病気になった時に近隣に身内がないので大変です。
- こどもの病気が一番心配。病気の時にかかる小児科の選択。病気の際の保育など。
- 仕事をしていますが、子どもの急な病気の時がこまります。
- 子どもが病気の時。看病、通院も大変だが、仕事を休まなければならないのが困る。長いときは1週間位休まなければならない大変である。
- 子どもが病気で保育園に預けられない時に仕事を休まなければならないこと。祖父母が近くにいないので頼める人がいない。

- 保育園に行くようになって、病気で急に休むことになるとうれしいです。それが立て続けに二人だとどうしていいか……。病後児保育の方は遠くて連れていくのもどうかと思ってしまいます。
- 子どもの病気の時、初めての際には病状の軽さ、重さが分からずに医者へ急いだり、そして医者へ叱られたり、待たされたり、そして、発熱の際には元気でも保育園には預けられないので、仕事場に迷惑をかけたりして、周りに援助がないと非常に辛い。
- 子どもが小さいうちは、子どもの具合が悪い時でも仕事を簡単に休むことができず、子どもに無理をさせることもあり、それが一番辛いと思っていましたが、大きくなるにつれ、子どもの様子を十分、把握出来ていないのではないかと、不安に思うことがしばしば。
- 一歳児から保育園に通っています。二歳までは実家から離れていたため具合が悪くて保育園に行けなくても他に預けることが出来ず、仕事を休むしかありませんでした。
- 子どもが小さいうちは、子どもが病気になった際、休まねばならない職場への遠慮で、つらかった。預ける人がおらず、下の子が病気のために、上の子も毎日病院に連れて行かざるを得なかったのはつらかった。
- 子どもが病気になった時に長時間預けられるところがない。
- 子どもの具合が悪いときに、休暇がとりづらかったり預ける場所がない。あっても利用しづらい条件がある。
- 実家の援助を望めない状況ですので、子どもが病気の時は父母どちらかが仕事を休まねばならず、病気が長引くときはとても大変です。休日出勤をして仕事をカバーしなければならない時もあります。
- 子どもが病気になった際、近隣に祖父母がいない、ベビーシッターも突然は手配できないので、子どもの面倒を見てもらう人がいない。しかし、会社は代わりの人のいない締め切りのある仕事をしているため、突然は休めない。
- 身近に祖父母などがいないので、子どもが病気になった時仕事を休まざるをえずやりくりが大変です。2番目の子の産後も上の子の育児・家事など大変でした。
- どちらかが体調を崩したとき。
- 基本的にはそんなに大変・つらいと思っただけではありませんが、働いているため、仕事の多忙と子どもの病気が重なってしまうと、にっちもさっちもいなくなってしまう、大変だと思うことはあります。大変・つらいとあまり思っただけがないのは、子育てを共感・相談できる仲間や信頼できる親族が身近にいてくれるからだと思います。
- 最近大変なのは仕事が忙しい時に娘の具合が悪くなり、自分も体調を崩した時など。
- 我が家は子どもが多いので（3人＋来春誕生予定）、やはり一番は子どもの誰かもしくは親が病気などの時に困ります。うちは両家の祖父母が近所なので、何とかやっていますが、そうでない方はなお大変なのでは。

### (3) 保育園のこと(16件)

- 産休後、職場復帰するにあたって保育園入園が難しかった。
- 復職に際して、保育園探しが大変。
- 職場復帰を前に保育園に入れられない可能性があると思った時（通勤ルートを変えることも考え民間保育園も探したが、確保はできなかった。結局第3希望の公立保育園に滑り込めたのでほっとしたが）。
- 希望の保育園に入園できるか？
- 近所の保育園の空きがなく、遠くの保育園に通園しています。転園の希望を出していますが、転園先はパンク状態で、当然転園できる見込みがありません。待機児童がいる中、賢訳は言えませんが、入園希望の状況を見て保育園の収容人数を増やすなどの対応をしていただきたいと思います。
- 引越して保育園を転園の必要があるのに、転園できないこと。
- 出産後保育園に入れるかどうか確定しなかったこと。入園前に保育課の職員が朝9時30分に、独立したてで収入がほとんどなかった自営業の夫が本当に働いているのかどうか査察にきたときには、ここまでプライバシーを侵害され、疑われないと入園できないのかとたいへん不快だった。なぜ社会の子ども全員について、保護者が望めば保育園に入れる状況が作れないのかと思う。二人目についても、優先されると聞いてはいるものの、タイミングよく保育園に入れるかどうかかわからず、ためらっている。
- 区内保育園に入園できない（新規就職で点数が低かったせいもあり地元の区立保育園には入園できず、現在も他区の私立園に通わせている）。
- 最近気になるのが、兄弟姉妹が同じ保育園に通えないケースが増えていることです。保育とはチャイルドケア、つまり子どものケアであるわけで、その質は、保育所の中だけでなく家庭にもつながります。兄弟姉妹が異なる保育所に通う、家庭と子どもへの負担。これだけで、保育の質は劇的に下がるといってもいいのではないのでしょうか。
- 安心して子どもを預けることができる環境が少ない。地域によって、0歳児を受け入れる保育園が少ないので、仕

方がなく兄弟が別々となる家庭がある。毎日の送り迎え、行事が2倍になったり、重なったり、それもさることながら、何かあった場合、例えば災害など。避難場所がそれぞれ違うので、非常に不安になる。預ける場所がないことで、子どもを産み育てるのに躊躇することもあると思う。保育園だけでなく、その後の環境についても同様。本当に「子どもの立場に立って」行政が行われているのか、疑問が多い。

- ちょうど、子どもが3歳組の時、千葉から引っ越してきた。時期的にも夏の7月で待機児童とならざるを得なかった。とにかく託児所をということで、東京都認可保育所（完全に民間委託）に預けて仕事を続けたものの、毎月7万5千円の保育料はきつかったこと、また、この保育料を文京区にも相談したが、区は黙認していることにびっくりした。保育所での写真代も1枚130円と聞いてまたまたびっくりした記憶がある。
- 延長保育の時間。会社は6時まででしかも仕事柄、突然の残業もあり。定時で帰れるかどうか分からない。何とか仕事をやりくりし、急いで帰っても延長時間ぎりぎりである。保育園の数が足りない。4月に入園するために、法律的には1年保障されている育児休暇を削ってでも職場復帰するしかなかった。以上の理由から、ベビーシッターさんがいないと我が家は成り立たない。
- 仕事を休みたいわけではないのに仕事を休む法律ばかり充実している。その割には大学院に行きたいと思っても保育園では預かってくれないと区役所で言われた。
- 子育ては楽しいです。大変なのは、保育園民営化（又はコスト削減）対応。それから、ハコモノ行政ありきの小中学校の統廃合問題対応。
- 今は、保育園の耐震工事で明化小学校まで送迎しているので体力的にも時間的にも、また雨の日はタクシーなので金銭的にもかなり厳しい！！2月まで続くかと思うとゾッとする。
- 保育園で子どもが担任の先生と信頼関係が結ばず、子どもの気持ちが心配で仕事に手がつかないとき、非常につらいと思った。安心して預けられる保育園であってほしい。他の兄弟に比べて怪我が多い子は、遠足や行事のたびになんとなく不安。安全を確保できる保育園であってほしい。子ども自身が怪我が多い子なのか、10年前に比べて保育者の減少で子どもを見ていられなくなり、結果的に怪我が増えているのか分からないが、親としては原因に関係なく、とにかく不安。

#### (4) 相談相手や支援者がいない(10件)

- 周りに子育てのことを気軽に相談できる人がいなかったとき。同じくらいの子どものいる人と情報を共有できる機会が少なかったとき（地元ではないので近所に知り合いもあまりいなかった）。実家も遠く、家族も仕事が忙しかったり、日常的に子育てと一緒に関わってくれる人がいないとき。
- 協力者がいないこと。
- 急な残業や子どもの病気のとくに子どもを見てくれる人がいないこと。
- 休職中、子育てを相談する人がいなかった。
- 突発的な事情で子どもを安心して預けられる場所や人がいなかった。
- 実家が夫婦共に県外（共に祖母は他界）なので、子どもが病気の時や仕事等で帰りが急に遅くなる時に気軽に安心して子どもの世話を代わってもらえる人がいないこと。
- もうすぐ4歳になりますが、1歳になるまでが一番長く感じました。1歳過ぎて、保育園に預けるようになってからは、子育てについていつでも相談でき、自分の生活のバランスも取れてきたのですが、1歳までは預けることもできず、近所に同じくらいのお子さんが集まる場もなく、子育てを苦痛に感じることもありました。
- 産後、ちょっとした気晴らしをしたいときにどうしていいのかわからなかった（夫が多忙でみてもらえない）。そのときにファミリーサポートを知った。
- 今回が初めてのお産でした。実家の母はすでに他界していたので、何も解らないときに主人側の義母にかなり協力してもらって助かっています（いろいろアドバイスも貰えて）。実家が遠かったり、周りの援助が受けられないときは、子育ても楽しいと思うよりも、辛い・心配と不安要素が多くなると思います。例えば、子どもの原因不明の高熱とか、夜泣き、成長過程での遅れなど、いろいろな悩みは尽きないと思います。
- どうしても母親の負担が多い。社会全体が忙しすぎ。世の中の父親がもっと早く家に帰って、育児に参加できれば、母親も子どもももっとゆとりができてよいと思う。育児に参加したい父親もいるのに、それができない社会環境。法的に整備しても、それが実行できなければ、何も意味がない。

#### (5) 孤独に子育てをしていると感じるとき(9件)

- 一人で育てていると感じた時に辛いと感じます。子どもを生み育てるということは真っ先に、イコール生活なんですよね。夫婦であれば夫の家事育児の手伝いや祖父母の助言などがあると精神面や労力共に負担が軽減されます。いろんな人にかかわってもらい助けてもらえるとそれは子どもの育ちにも関係があることだと思います。みんなで

子育てができるという環境作りを。

- 孤立してしまうこと。
- 子育てが大変だと思うのは、子どもとずっと二人っきりで過ごす日中（密室育児）や、家事と育児の両立です。またそれを支えてくれる周囲の方々の協力が不可欠なことだと思います。物理的、体力的な協力のほかに精神的支えが一番不可欠です。子どもを産んで初めて「人は一人で生きてきたわけじゃない。」「自分の子どもは自分たちだけで育てているわけではなく、親も子も周囲の人々に支えられて日々生活を送ることができている。」と感じました。私達は協力し合って、皆、お互い様で、助けたり助けられたりしながら生きているということを強く実感しました。
- もう昔のことだが、赤ちゃんのときは社会と謝絶されるので、兄弟やインターネット、肉親の存在は不可欠だった。友人といっても一人目の場合はなかなかできなかったため、今思えば地域の赤ちゃん交流の場などにもう少し行ってもよかったと思う。
- 子ども（特に第1子）と1対1になったとき、泣き止まなかったり、ミルクをもどしたりすると、暗い気分になりました。こういうことが積み重なると虐待になっていくんだらうな、と実感しました。幸い、夫の協力や保育園に入園したりと、多くの手で育児をすることができ、泣いているのもかわいいと思えるようになりましたが、密室育児はとってあぶないと思います。
- 孤独な育児（夫は仕事で終日不在、休日出勤も多い、両親も遠方で、自分から仲間を求めて外出しない限り誰とも話す機会がなかった）。
- 子どもが0歳で育休中だったときは、普段の子育ては1人きりなのでとても孤独に感じました。子育て支援サービスなど、あったのかも知れないのですが、よく分かりませんでした。自然に子育て中の人や子育て経験者と話をできるきっかけを作ることができる場があればよいと感じました。子どもが歩くようになってからは、家の中にいるのは大変で、しばしば外に連れ出さなければなりません。やんちゃな男の子なので、なおさらです。でも近くにいくつか公園があっても、ゴミや吸い殻が散乱し、犬の糞が落ちていて、乳幼児は遊んでいません。もっと清潔で美しい公園があれば、安心して、自由に遊ばせられるのに、「これは汚い」「これは触っちゃだめ」と注意してばかりになってしまいます。公園以外の場所では車に気遣って「危ない」といつも気を配って注意しなければいけないので、本当に疲れます。
- 出産後まだ子どもが小さく、外出も出来ず我が子と二人きりで家にいた間、話し相手もいなかったため（ちなみに旦那は仕事が忙しくまったく頼りにならずでした・・・）。社会からとても孤立した状態で辛かったです。
- 子育てで、ものも言えない、泣きっぱなしの子どもと二人きりになるのが予想以上に辛かった。

#### (6) 自分の時間がとれない(9件)

- 自分の時間が取れないこと。
- 少しも自分の時間がもてない。
- 仕事のようにきまった休みがなく、疲れていても子どもの世話はしなくてはならず、ゆっくり休みたいと思うとき。
- 自分の時間がないこと。外出をしてもゆっくりすることができない。
- どこへ行くにも子連れ（日々の買い物も大変、自由な時間はゼロ、美容院にも行けなかった）。
- 一人目のときは何もわからず、泣き止まないはどうして！とこちらも泣きたくなったりしていました。あとは自分の時間をとれないこと。美容院に行く時間すらなかなかとれず辛かったです。
- 親自身の時間が持てないこと。父親の帰りが遅いときはすべて自分でしなければならぬので、夜自宅で仕事ができないこと。自分の心にゆとりがもてないと、子どもにも厳しくなってしまうこと。
- 夜帰宅してから食事の用意をして食べさせて、お風呂に入れて寝かせるまでがとても慌ただしい。子どもの睡眠時間と家族でくつろぐ時間の確保が難しく、ついせかしてばかりいる。自分の時間が全く取れないのがつらい。
- 自分の人生が子ども主体になり自己否定をしたとき。

#### (7) 自分や家族の体調がわるいとき(8件)

- 一番大変だったのは、子どもが2歳の時、私の流産、直後に子どもの入院が重なって、凄く参りました。流産で入院中は祖父母の助けを借り、子どもの入院では流産間もない身体で付き添い入院。病院の方針で父親の付き添いは認められず、私の負担感が子どもにも良くなかったと思います。
- 家族の入院時（病院は基本的に子どもの入室を禁止しているため連れて行けず苦労した）。
- 体調が悪いとき（自分が）、子どもの相手をしてくれる人がいなかったとき。現在は保育園にお願いできて助かっています。
- 自分の体調が悪いとき。

- 親が病院へ行くのも子連れでは大変だと思いました。
- 自分が病気の時。
- 自分が病気になったとき。
- 正直な気持ちとして、毎日がつらい。子どもがいなければこんなに苦しい思いをしなくてすむのと思う。例えば、親が何日も高熱が続いて、もしかしたら入院かもしれないといった場面で、その週の土曜日一日だけ預かってもらえないかと保育園にお願いしたら断られた。子どもがいる限り熱なんか出すなと言われたようだった。

## (8) 子育てに関する支援について(6件)

- 夕方～夜に、大学関係の仕事が重なる時・出張の時、身近に頼れるヘルパーさんがいないことや、大学で提供されている保育サービスがそういったニーズに全くかなっていないこと。たとえ、人に頼むことが可能であったとしても、連れまわされる子のストレスや負担を考えると、本当に難しいです。
- 平日夜に用事がある際、旦那、実家以外で預けるにはハードルが高い。一時保育にいきなり、は知らない先生だらけで、きつとつらだろう。いつもの保育園の先生に見てもらえるのは安心だが…。保育園主催の保育を語る会などで、いつもの先生が見ていてくれるのはとてもありがたい。
- 子どもは二人とも7月生まれ。自営業なので育児休暇はなく、9月には仕事の一部、復帰しました。その時、一番困ったのは、1歳未満の赤ちゃんの預け先が皆無に等しいことです。この時期、認証保育所はどこもいっぱいです。一時保育も空きなし。結局、預け先がみつからず、下の子のときはベビーシッターを利用したが、その費用は1回預けるだけで、1万円を超えます。仮に、毎日、利用すると、月20万円以上の出費になります。しかも、仕事をするためには不可欠な出費にもかかわらず税制上、経費として認められない。
- ファミリーサポートの認知度が低く、探しても見つからなかったり、折角見つけても「雨の日はちょっと…」とか別の子が入っていたりと、断られたりするので利用しにくい。下の子が体が小さいと言う理由で保育園入園を断られ2年育休を取っていた時、職場から週に2日だけでも働いてほしいと言われ、緊急一時保育に週2日あずけたいと相談に行くと、仕事はあずけられる理由に入っていないと断られたことも納得いきません。なぜなら他に預けられている子どもたちは母親の習い事が理由だったためです。何が優先なのか、意味がわかりませんでした。
- 子育て広場や保健所は歩いては行けない距離で、児童館は歩いては行けますが、ハイハイの頃に行ったら、大きい子ばかりで萎縮して帰ってきた覚えがあります。シビックセンターにある一時預かりは1歳以上でないと利用できず、また仕事では利用できなかったのも、不便でした。ちょうどスタートした頃の頃で保育士さんも不慣れだったせいか、保育の仕方にも不安を感じました。
- 本駒込6丁目の自宅からは比較的近所にある地域センターで、ボランティアの婦人会による乳幼児の母と子を集めた会がありましたが、子どもとの遊びの合間に偏った思想を押し付ける啓蒙活動のようなレクチャーが度々入るためとても行く気が起きず、参加している他の母子も3～4組しかおらず、もっと母子中心で自由に参加出来る会を地域センターで開きたいと思っても、その思想を押し付けてくる団体に介入されそうで諦めた経緯があります。

## (9) 小学校のこと(5件)

- 子どもが小学校に入って、「保育園出身の子は反抗的」「保育園出身の子は落ち着かない」と言われることが辛い。→保育園では、「何故そうしなくてはいけないのか」を丁寧に説明してくれて、子どもなりに先生の指示を理解していたから従えたが、学校の先生は「なぜ」を伝えずに従順を求める。子どもに「従順になれ」とは、親として言えない。
- 先生に従わない、反抗的、落ち着きがないなどの子どもがいると、「親の愛情が足りない」「親がもっと子どもに接すればいい」など、家庭の問題にしようとする人が、小学校の先生にも、保護者にも多いのが辛い。→親も努力していても、子どもの育てにくさや、先生との相性などもある。その子の親だけに責任を押しつけるのではなく、たくさん手や目や声かけが必要な子がいたら、それを前提として、先生を加配するなり、先生同士のチームワークを作るなり、その子の親が孤立しないように親同士も助け合うことが必要だと思う。
- 小学校で、先取り学習をしている子どもを中心に授業が進み、先取り学習していない子は置いてきぼり、という状態が辛い。→真面目に学校に行き、宿題をきちんとやれば、勉強が身に付く、というカリキュラム、それができる教員配置であって欲しい。結局、お金をかけて塾に行かせるか、親が付きっきりで勉強を教えなければ勉強が身に付かない、というシステムでは、経済的にも精神的にも子どもも人数は望めなくなる。
- 小学校に行ったら、お母さんが家にいることを前提とした運営（「明日までに〇〇を持ってきて下さい」とか、保護者参加を求める学校行事の日程告知が1～2週間前になってから来る、学校行事が朝でも夕方でもない中途半端な時間に設定される＝一日仕事を休まざるを得ない、など）がなされているのが辛い。→社会人として人にももの頼むときの最低限のマナー（時間的余裕をもって告知する、相手の都合も考える）に配慮した運営をしてほしい。

- 小学校行事などが平日に集中していることです。近所づきあいも、多様な年齢や人々なのでとても難しいです。

#### (10) 子育ての仕方のこと(4 件)

- 何を食べさせたらいいのか迷うことばかり。毎日の食事には頭を悩ませています。夜早く寝かせたいが、保育園から帰るとどうしても 10 時過ぎてしまう。生活リズムを前倒しにしたいがなかなかできない。
- 産まれて育て始めて直面する問題は、自分も子どもも 2 か月くらい自宅にこもりっぱなしで、他のお母さんがどうやって育てているのかと情報を得にくいことです。
- 保育園に通う前、昼間仕事をしつつ育児をしている際、まだ 0 歳児の子どもがむずがって泣いてどうにもならなかった時。一人で煮詰まって、困り果てていた。今思えば、5~10 分でも散歩に出れば良かったのだが、発想の転換がスムーズに出来ないほど疲れてしまう時は本当に子育てに辛さを感じる。大変だと感じるのは、目に見えにくい心の成長をどうサポートするかと悩む時。今も「これで良かったのか」を自問する日々。
- 一人目の時は子育てについて何も知らなかった事にびっくりしました。生後 1 ヶ月過ぎてから単発的に仕事を開始したのですが、すぐに乳腺炎になりかけたりと何かがおきてから対処するしかないことだらけでした。先輩ママたちの話をもっと聞けるような生活を子どもの時からしていたり、妊娠中にうかがえる機会があるとよかったのにと思っています。

#### (11) 出産後しばらくの間(4 件)

- お互いの実家の援助にはかなり恵まれているが、生まれてしばらくのマタニティーブルーの時期。この感情は自分ではどうしようもなかった。
- 1 番大変だったのは出産後 1 ヶ月間(母乳が足りているのかどうか分からず、際限なく授乳して乳首の痛みがひどくなった時、夜中の授乳後、子どもがなかなか眠らなかった時など)。
- つらいと思ったのは、産後の自宅療養中、ちょっと買い物にもいけなかったこと(体がつらいのと、子どもを一人きりにできないため)。自分が病気になるって動けないのはどうしようもありません。子どもの相手ができません。子どももベッドで寝ているうちはいいのですが、一人遊びもできない間は大変でした。
- 生んで 1 年以内、出産後の体調の戻りが悪いのにもかかわらず、子どもがどんどん遊びたがるのでそれに応えてやるのが大変でした。歩く事が辛いので、ベビーカーやバスを使って遠くまで出かける子育て広場のような施設が近所にも欲しいと思いました。

#### (12) 子どもの発達・成長のこと(3 件)

- 産休で乳児と二人っきりで家にいたとき、自分が子どもに話しかけないと子どもの言葉の発達が遅れるのでは、と不安で、義務的に一生懸命話しかけるのが辛かった。→乳児期の未だ眠ってばかりいる赤ちゃんを抱えた母親が集える場が必要。少し大きい子(1 歳以上)の広場などはあるが…。
- 障害児であった、という意味では、何処まで周りの方に援助をお願いしていいのかを悩みました。言ってしまうと簡単だったのですが、そこまでが大変でした。買い物や気晴らしも出来ず、密室育児にならないように休日も子どものために出来るだけ刺激を与え、発達を促すように努力をしました。その為いつも疲労困憊。
- 子どもの発達段階にあわせた悩みがあるとき。

#### (13) きょうだいへの対応(3 件)

- 下の子が生まれると、どうしても下の子にかかりっきりになってしまい、上の子には、お兄さん(お姉さん)になったのだから、がまんしなさいとか、がんばりなさいとか、そんな対応しかできない時期がありました。子どもを見る人が自分しかおらず、片時も下の子を離すことができないのです。それで、上の子が情緒的に不安定になり、悪循環で、その状況からどう抜け出したらよいか分からない時期がありました。
- 子どもは 2 歳違いがベストと信じて生まれました。年子はありえないし 3 歳以上離れると一緒に遊べないし、子育て期間も長くなり職場復帰には不利だと思ったからです。でも実際は 2 歳違いだったためにこんなにも大変だったのだと思っています。一番大変なのは「寝かしつけ」でした。下を寝かそうとする時間に 2 歳の長女が足にしがみつき「抱っこ、抱っこ」と泣き喚くのに、何度切れたことでしょう。蹴り倒しても投げ飛ばしても起き上がってしがみついてくる長女、あれは間違いなく虐待でした。
- 2 人目、3 人目の出産のときの上の子の面倒を見るのが、大変。

#### (14) 小学校入学後の放課後の過ごし方(3 件)

- 卒園後、小学校入学後の放課後対策が今から心配。0 歳児の保育料程度までなら負担できるので、民営化も含めた

学童保育の質の向上を求める。

- 育成も小3までなので、放課後の過ごし方が心配です。
- 4年生になったときに育成室がなくなる。放課後や夏休みなどの過ごし方が心配。

#### (15) 区への対応(3件)

- 上の子の出産が1月下旬、復帰を1月当初からということにしました。子連れで入園相談に行った際、ハナっから1月に普通の保育園の欠員があるはずがない、無理！の一言で、相手にして貰えませんでした。当時、実家が目白台にあったので、目白台の緊急一時保育所に入れました。バスで音羽に出て、毎朝実家に預け、お祖母ちゃんの出勤もあるので、そこから保育所に預けて貰い、帰りはお祖父ちゃんが一旦実家に連れて帰り、実家までお迎え、3ヶ月でしたが大変でした。最近の入園相談は少し改善されてきているようですね。
- 行政には、こどもを育てやすい環境、こどもの育ちを十分に配慮した施策を実施することがどんなに大事なことであるかを判って頂きたいです。将来に大いなる不安を覚えます。
- 2人目を出産する前、保育課の窓口で2人目の保育先を相談しにいった時の対応、一生、忘れません。「お母さん、いつ仕事に復帰されるのですか。自営業なので、復帰されないと、上のお子さんが保育園に在籍する要件がなくなり、退園させられますよ」という一言。「2人目が生まれておめでとう」という一言の前に、上の子が保育園を追い出されるかもしれないという説明を受け、保育課に対する不信感が一気に高まりました。

#### (16) 周囲の理解がない(2件)

- 出産前に一番つらかったことのひとつは、妊婦に対する思いやりのなさです。妊娠9ヶ月でおなかのすいかのように膨れ上がっているにもかかわらず、電車ではだれも席をゆずってくれません。優先席の前に立っても、です。二人子どもを産みましたが、席を譲ってもらえたのは通算で5回にも満たないです。生まれたあとも、小さな子どもとその親に対する社会の冷やかさには落胆を飛び越え怒りすら感じるようになりました。シビックセンターだってそうです。授乳室を使うのに、なぜ名前を記入しないといけないのか。オムツ替え台が整備されておらず、区との協議を傍聴の時に、やむなく給湯室の流し台を使っておむつを替えました。赤ちゃんをおんぶして少子化委員会を傍聴した時は、休憩時間中にベンチで授乳をしました。
- 子育てに関する社会の目が厳しい。「いじめが多いのも、少年犯罪が多いのも、今の親の育て方が悪い」といわれるのが、本当につらい。いじめも、少年犯罪も社会も勝ち負け社会にした社会全体の責任。子どもがいない人にも、子育てが終わっている人にも、子どもたちに温かい目を向けてほしい。

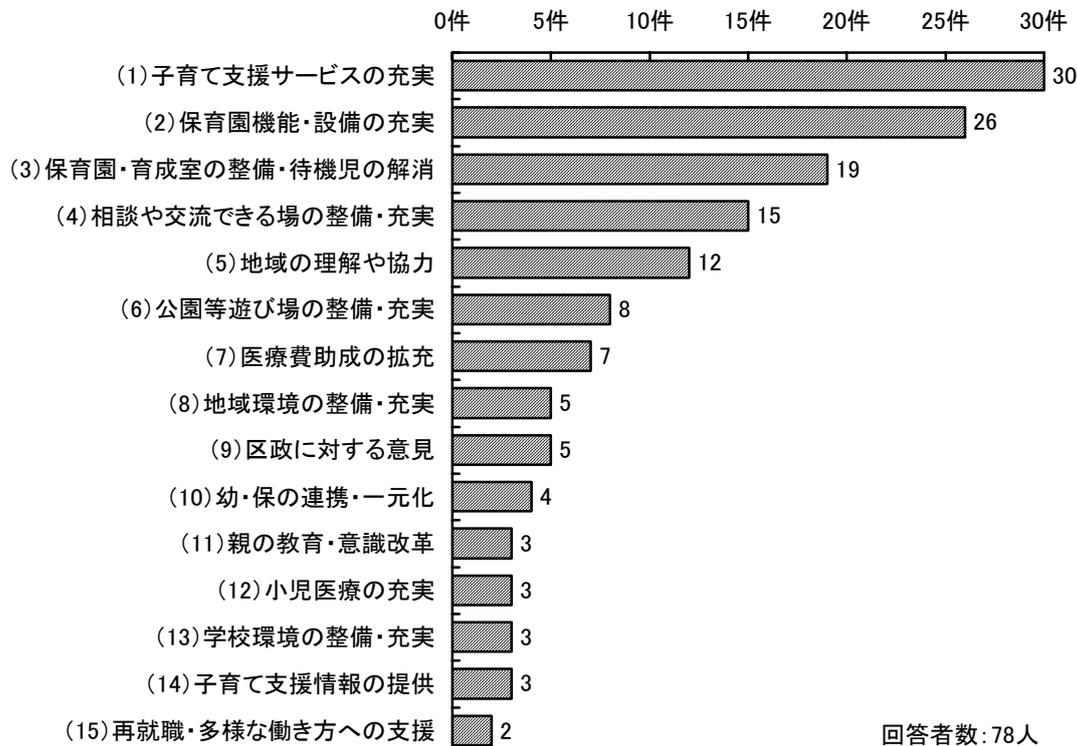
#### (17) 病院のこと(2件)

- 土日やっている病院が少ない。
- 信頼できる産院の確保や子どもの病院。

#### (18) その他

- 幼児を狙った犯罪が多く、外で自由に遊ばせられない。一人で外出させられない(来年から小学校通学なので不安。アメリカのように通学にも成人が付き添わなければならない社会になりそう)。
- 小学生になって、子どもが自分より先に帰宅することになり、寂しい思いをしていることが、時々、会話でわかる時。子どもが他人に迷惑をかけた時。
- 保育部長の発言にたいして、保育園に通わせている子どものほうが出生率が高い、というのは関係ないと思います。私は専業主婦だったとしても3人もうけようと思っていたし、就業しているのは「子どもはいつか自分の世界をもって巣立っていく」ものだと思い、自分自身の世界も大切にしようと思い、職についています。子どもにばかり集中してしまうと、ほかの子と比べたり、と自分の子どものおとっている部分にばかり目がいきってしまう、というもあります。子の数はその夫婦の考えであり、恵まれているからでは必ずしもないと思います。
- 自分の思い通りに子どもが動いてくれないとき。
- 送り迎えの時や運動会、お祝い会で他の子どものおじいちゃんやおばあちゃんの姿を見ることも、私にとっては辛いことです。最も辛いのは、保育園行事である祖父母の会です。我が家からは参加することは無く、それでも乳児クラスの時は辛いと思っているのは私だけで良かったのですが、幼児クラスになると子どもも自分のおじいちゃんとおばあちゃんは来ないということで寂しさを感じている様子で、なおさら辛くなります。
- 親同士の関わり方の難しさを感じています。
- 病院や習い事などの送迎。保育園と小学校のギャップ。

## 2. 子育てしやすいマチにするためにはどうしたらよいと思いますか？



### (1) 子育て支援サービスの充実(30件)

- お迎えから晩ご飯までとか、それだけでも気兼ねなく頼めるようなサービスが手近にあるといいな、と思います。あるいは、大学まで送ってもらおうとか。それだけで、全然違うだろうと感じます。
- 親のちょっとした外出や仕事のときに、安心して利用できる一時預かり施設を増やす。
- 病院へ行くとき、体調が悪いときなど、一時的に子どもを預かってくれるところは必要だと思う。2人目、3人目をつくろうと思った時、自宅でずっと小さい子を見ているというのは、なにかと不便が多くなる（買い物、お風呂、食事の支度など）。
- 前日までの申し込みで、半日とか9:00-16:00位の時間帯で、下の子を預かってもらえるサービスがあるとありがたいです。親が病気だとか、保育ができないような事情があるとかではないので、傍目にはそれほど差し迫った状況には見えないケースだと思いますが、自分の当時の状況からいって、あると本当にありがたいと思います。半日一日、上の子としっかり向かい合うことで、上の子が安定して、お姉さん(お兄さん)としてがんばろうという気持ちも生まれて、それによって母親も気持ちが安らぎます。悪循環から抜け出して、家の中がうまくまわっていくきっかけになると思います。
- 保育園には1歳児クラスから預けています。うちはまだ一人っ子なので、異年齢児との交流から言葉遣いやマナーなどを学んだり、いい刺激にもなっています。しかし、保育園は原則、共働きが条件なので専業主婦の人は保育園には預けられず、なかなか息抜きもできないと思います。そういうときに文京シビックセンターにある3階の“ちょっと預ける”制度の場所があったり、就業者で子どもが病気になっているときでも、どうしても仕事に出なければいけない状態の中で、病児を預けられる病院などがもっと普及すれば、子どもも産みやすくなるし、働きやすくなるのではないのでしょうか。
- 子育てに協力的でない夫のため、自分が美容院に行くために、新幹線に乗って大阪の実家まで帰る、という話を聞いたことがあります。そんなことのないように、人間関係がきちんとできた上で、安心して子どもをちょっと預ける場所が確保されていたらいいと思う。また、同じような観点から、出産後の「母親学級」のようなものを継続的にやったらどうだろうか？それも、なるべく近い場所で行うのがいいと思う。働いていない親としては、子どもが幼稚園に上がるまでがとても大変なので、それまでの期間について、何らかの方策を考える必要があるように思う。
- 幼稚園の空き室、閉園幼稚園などを利用した一時保育サービスの設置。基本的に一時保育とそうでない場合の保育は、現状では別の場所の方が利用しやすいと思います。

- 日常は安心して保育園に預けられるのですが、緊急に日・祝日に預けられる一時保育があれば助かります。父母連に加入している17園の保育園の保護者（その保育園の役員を筆頭に）がローテーションでその地域の保育の場所を確保し、時間を決めて保育をする。
- 宿泊を伴う緊急一時保育を整備する。親の病気、葬祭などへの対応、被虐待児の一時保護など。採算の取れない事業であることを前提にした事業運営が必要。虐待してしまう親に対する支援プログラムの整備（カウンセリング、ワークショップなど）。
- 文京区にも24時間体制の保育施設が欲しい。病中・病後の対応できる施設も…。
- もっと仕事を持つお母さんへのサポートを増やしてほしい。病後児保育や一時預かりの場所が増えると助かります。
- 病後児保育ができる機関増加、病後児保育時間の延長も考えて欲しい。
- 病後児保育ルームの増設、時間の延長も認めて欲しい。一時預かり施設の増設。
- 病後児保育の場所をもっと増やして欲しい。
- 病児保育をもっと増やす（預かる人員、時間など）。
- 病後児保育をもっと充実させてほしい。区内に1件では少ない。豊島区のように、産後支援（ヘルパー派遣）をしてほしい。
- 病気の子を預かってくれる施設があれば有り難い、と感じますが、病気の子を置いて仕事に行くには、親としての葛藤もあります。親の“気持ち”も一緒にフォローもしてくれるような安心して預けられる環境が必要。
- 子どもの熱が何日も下がらず病後児保育に申し込みをしましたが、キャンセル待ちで結局預けることができませんでした。文京区全体で1ヶ所は少なすぎます。病後児保育の増設を望みます。
- ファミリーサポートの充実を。ベビーシッターは高額。しかし我が家ではシッターを頼まないと現実的にお迎えが間に合わない。職場復帰する際、ファミリーサポートにも登録したが、毎日の利用など、提供会員が少なすぎてとても無理とにべもなかった。文京区はたとえば、地域のお祭りが盛り上がるように、地域のつながりが生きている。その地域と連携をとって、地域ぐるみで子育てをサポートしてくれる状況をつくって欲しい。地域でお互いが知り合えれば、防犯にも役立つ。
- ファミリーサポートも時々利用させていただいているのですが、「ちょっと預ける」という感覚には程遠く、よっぽどでない頼めません。金額的にはお安いと思います。
- ファミサポでは週3日しかあずかってもらえないし、シッターだと家にあげないといけないので、とても嫌なのでたのめません。
- ファミリーサポートセンターのような中途半端な制度ではなく、依頼会員のニーズにきっちりこたえられるベビーシッターサービスの整備が急務です。民間のシッターサービスは料金が高いうえ、1、2時間預かってもらうことができません。たとえば、区とどこかのシッターサービスが提携（あるいは区でサービスを新たに整備）し、例えば1500円の料金のうち、区が500円の補助を出し、利用者が1000円負担。最低2時間からでもサービスが利用できるようなしくみがあれば、一時保育の需要の相当部分は満たせるはず。一方、在宅で預かるのが困難な方もいるので、シビックのキッズルームなどで利用者が契約したベビーシッターが利用者の子どもをみる、という新しい仕組みがあってもいいのではないのでしょうか。つまり、区は安全な「場」だけ提供し、その中で提供されるサービスは区民と事業者で埋めていくというもの。
- 区ができることとして提案したいのは、これだけ暇そうにしているお年寄りが周りにたくさんいるのだから、地域の子育て支援についてファミリーサポートなど、利用できるシステムをもっと広めてほしい。あてにならない祖母より、隣のおばあさんが保育園にお迎えに行ったら夕ご飯を食べさせてくれたら近いし楽だな〜。地域交流もできるし。と思います。
- 夫や実家に代わるサポーター制度を作る（自分で出向かなくとも、それぞれの家庭にサポーターを割り当てる、または保育園のような場所に週1回以上、通う制度を設ける＝内向きな母親を家に籠らせないようにするため）。サポーター、または特定保育園が一時保育を気軽に受け入れられる体制を整える。サポーター制度の延長で、家事援助なども行えるようにする、また保育園の送り迎えや病後なども気軽に預けられる「他人おばあちゃん」のような存在が欲しい。文京区はファミリーサポートシステムがほとんど機能していません。提供会員が少なすぎ、事務局の対応も悪くやる気も感じられません。私は台東区の依頼会員でもありますが、驚くほど内容に差があります。一度他区の体制など勉強されてはいかがですか？文京区はお金持ちが多くお互いが助け合おうという精神が低いのでは？と感じずにはられません。
- 家事を安く代行してもらえる仕組み。
- どうやって子育てしていいか悩んでいる人も多いと思うので、保育園以外の親子（乳児）にも、積極的な子育て支援（保育園体験やあそびを教える）が必要で、そのために区は予算や整備（受け入れ施設や保育者の確保など）を行うなどする。

- 産後保健師さんが訪問してくれますが、とっても安心できました。密室育児にならないように、継続的に訪問してくださいとお願いしています（私の場合は保育園に入園できたので必要ありませんでしたが）。いつでも来ます、と言ってくれますが、とりたてて困っていることもなく、わざわざ来てもらうのも悪いか、と思いましたので。
- 年齢にあったイベントなど。少し前に区が講演会を催していたが、確か「子どもと離れてリフレッシュ」みたいなことをかいていたのに、講演時の子どもの保育は有料というのは、親切ではないと思う。そういった内容の時にこそ、誰でもが利用しやすいように、保育無料で、多くのお母さんに講演を聞いてもらい、リフレッシュしてもらうべきだと思う。
- 子育て系の保健所のセミナーなどを平日ばかりではなく土日でも欲しい。
- 各地域で子育てが終わった人と専門性をもつ保育士・保健師などがグループでお泊まりも可能なハウスを運営する。点在させる事によりいつでもどこからでもどんな理由でもアプローチでき、保育園、幼稚園にもそこから通う事ができる。

## (2) 保育園機能・設備の充実(26件)

- 現在子どもは保育園に通っているが、経験豊富な先生たちに見守られ、また同じ年齢のみならず様々な年齢の子どもたちとともに生活することで、とてもいい形で成長させてもらっていると感じている。親の立場としても、保育のプロにみてもらっていることの安心感があり、非常に助けられていると感じるし、子育てが楽になっていると思う。就労していない人も保育のプロに短時間でも見てもらえるようなしくみがあれば、すべての子どもを持つ親にとって、子育ての大変さを軽減できるし、子どもにとっても親だけでなく様々な人と関わる機会を持つことで、経験が広がるのではないかな。
- 文京区には立派な公立保育園があり、先生方にはずいぶん助けていただいています。この公立保育園の豊かな保育を削るのではなく、これをより充実させて、施設と保育士を増やし、より多くの保護者が利用できるようにすれば、少子化も虐待も減るのではないのでしょうか？何より、先生方に余裕がなければ豊かな保育はできません。保育は市場化に馴染むものではありません。コスト削減ではなく、子どものより豊かな未来のために、どうやったら豊かな保育ができるかを考えていけるような区になってくれたらと思います。
- 保育園は、共に育ちあうことができ、また異年齢の友達とも接することができ、刺激をもらいあい、心が豊かになる素晴らしいところ。また、どの家庭も、どの園にいても、均等の教育（サービス）を受けられることも素晴らしい。母がどんなに家庭で頑張っても、体験させてあげられないことがたくさんできる。これからの子どもの育ちのためにも、今の公設公営保育園はなんとしても維持してほしい。保育園は「コスト」がかかる場所ではなく、未来をはぐくむ「投資」の場である。
- 地域で子育てすること。保育園の先生方の知識を、文京区の財産とみなし、保育園という名前を取り払って、地域全体のサポートをする核になる施設にしてほしい。例えば、保育園機能を残しながら地域の人たちが集まれる場にする。子どもが多く集まる分、おじいちゃんおばあちゃん世代の人にサポートしてもらう。
- 子どもを産んだからすぐに親になれるわけではありません。子育てには、経験とたくさんの子どもの見てきたことがとても大きな力になります。私は、保育ママさんや保育士の先生方にたくさんのことを教えていただきながら、ようやく親をやっているようなものです。不安や疑問を持ったとき、そのような方々からのアドバイスや、同じ保育園に通わせている人の「ウチの子もそうなのよ」という言葉にどれだけ助けられたかわかりません。保育園や保育ママさんのような公的援助は、仕事をする・しないに関わらず、専業主婦の家庭でも受けられるようにしたいと思います。地域のすべての子どもたち開放された保育園にはできないのでしょうか。
- どこかの自治体では、乳幼児健診を保健センターではなく、自分の家から一番近い保育園で受けられると聞いたことがあります。そこでは、地域の子どもたちを担当する保育園が決まっているとか。保健センターでも子育て相談や子どもの発育状況を把握することをしてしていますが、小さい子を持った親がそこまで行くことすら大変です。歩いて行ける距離にある保育園の中でその機能を果たすこと、また、預けたい時にちょっと預けることができれば、素晴らしいことだと思います。
- 防犯の点もあるのですが、保育園の子育て支援、門が閉まっていて正直なかなか入りづらいと思います。保育園を子育て支援の拠点にするのであれば、もう少し地域と関わるようにしていった方がいいと思います。
- 保育園、児童館等、子ども対象施設とそのスタッフの質向上。
- 保育園については、とにかく保育者の質を保って欲しい。保育のスキルはもちろん、人格的にも優れた保育者をそろえて欲しい。そのためには、社会で平均以上、公務員でも優遇された給与体系を整えて欲しいと思う。幼稚園教諭より保育園の保育者のほうが給与が低いなど、言語道断。大事なところには、きちんとお金をかけるべき。
- 仕事を持っているものとしては、保育園の問題は常に心配。上の子どものおときは入園に関する情報も少なく、入れるかどうか出産前から不安だった。また今度はせっかく入園できたと安心していただけに、民営化の問題を知って、子どもの生活環境が脅かされるのではないかと常に心配がつきまとっている。民営化に反対ではないが文京区の保

育行政に安定的なポリシーが見えないため、今後子どもを安心して預けられるのかますます不安。仕事をしているものにとっては、安心して仕事を続けながら子育てする(あるいは子どもを産もうという動機が補強される)には、保育園の入園が確保され、また質の高い保育が受けられる保障があるという状況が何よりも必要。そうでないと子どもを持つことに二の足を踏んでしまう人も少なからずいるのでは。

- 保育園がもう少し柔軟性があったほしい。保育士の人数が少ないようで、余裕なく見える。
- 子育てしやすいためには、安心して預けられる場所が必須。私にとって保育園ですが、この10年間にだいぶ変わりました。先生数が減り、先生が忙しそうで大変に見えます。以前はもっと先生とお話できたのに。延長保育ももっと充実してほしいです。
- 保育園の防犯関係を見直してほしい(送迎の際の確認、警備員、男性の保育士を増やすなど)。
- 保育園は社会性がつき、異なる年齢の子どもと接することができずばらしい。また安心して預けられる、そして安全が確保されていることを望みます。
- 保育園・幼稚園の先生方にはプロとしての専門性や経験をふまえたお話を、もっと気軽に話せるような機会があるといいと思います。異年齢の子どもだけではなく、異世代間のつながりも良いと思います。
- 小さい子を保育園に預けるのは不安が多かったものの、実際に通い出すとお友達ができるし、生活面の自立も促されてよい経験です。親も余裕を持って育児ができると思います。しかし保育園はソフト面(先生方の接し方など)は安心できるものの、ハード面が悪いと感じることが多いです。時代遅れとしか思えない外観の保育園が多いし、新しい保育園は狭いです。区役所や都心のオフィスビルとのギャップの大きさに憤りさえ感じてしまいます。
- 「子育てしやすい町」。非常に難しいですが、「大変なこと」にも書いたように、子どもを安心して産み育てる環境があるかないかが重要だと思う。そのためには、保育園の充実・環境整備、地域の交流とサポートが必要だと思う。
- なんでもかんでも保育所に機能を持たせようとするのも、だれの利益にもなりません。一時保育と通常保育は相容れないものである(とくにスペース的に大きな制約のある文京の保育所の場合)ことは、米軍が実施した保育園改革でも証明済み。多様なニーズを追い求めるだけでなく、そのニーズを満たす適切な器が何なのかをきっちり見極める必要があります。
- 区立の保育園で、15時間くらいの保育をして欲しい。朝6時から夜9時くらいなら、子どもの睡眠にそこまでマイナスにはならないと思う。キャリアアップのため、育児休暇中に大学院に行く場合なども保育園で預かって欲しい。
- 保育園は、毎日楽しく通っています。上のクラスの子、下のクラスの子とも交流があるので、大家族のようです。安心して預けて働いています。先生方も本当によくやって下さっています。保育園のソフトや教育面にこそ公的補助が必要だと思います。いらぬ箱物にお金をじゃぶじゃぶ使うのはやめましょう。
- 働いていても子どもを預ける場所がない。また働いていなくても、子どもを預けて集団生活させたほうが、子どもにとっても良いことだと思う。3歳から幼稚園に預けることはできますが、それ以前にも預ける場所があっても良いと思う。子どもと1対1ではしつけなどもなかなか難しく、ストレスもたまり、虐待やノイローゼなども起こりやすいと思う。
- 幼稚園、保育園とも、必要なときに必要なだけ、保育を受けられるよう、かつ、幼稚園も保育園も、将来の立派な市民を育てる、という視線で存在して欲しいと思います。そのためには、幼児教育をもっと必要不可欠なものとして、思考や教養の土台を作る、位の視点で行って欲しいと思います。そうすれば、自然と、保育士、幼稚園教諭が、一生誇りを持ってできる仕事にならなければいけないし、それに見合った社会的地位が必要だと思います。
- 保護者の負担を軽減することが重要だと思います。たとえば、おむつに全部名前を書く、着替えを4着用意する、夏のプールの準備に、着替えとおむつをタオルでくるんで所定の場所にゴムバンドでとめて置くなど、細かな負担が大きいです。以前、引っ越し前に通園していた保育園では考えられないことです。お役人的な前例主義ではなく、どんどんと現場を改善していくような動きを期待したいです。
- 保育園の存在はとても大きいし助かる。0歳児のときは仕事をしているため預けることに抵抗もあったが、夜7時すぎまで預かってくれるのでなんとか仕事を切り上げて帰ってくる事ができる。
- 保育園は親にとって、オアシスです。たまたまよい先生にめぐり合っているからかもしれませんが、子どもに自分の気持ちを表現させる、いろんなことをやる気にさせる、社会生活の基本(マナー、相手の話をきく、相手の気持ちを考える、気持ちよくすごす)など、本当に子どもを導くのがうまいと思います。親のお手本とも思えます。
- 保育園の良いところは、子どもの幼さや弱さを受容し、共感しながら、成長を促す、気の長〜い関わり方をしていること。福祉職と教育職の基本発想の違いを感じる。

### (3) 保育園・育成室の整備・待機児の解消(19件)

- 働くお母さん達のためにも保育園や育成室を増園(もしくは先生の人数を増やし、現状園で預けられるようにする

＝待機児童を少しでも減らせる)。

- 保育園、育成室の待機児童をなくし、働く親をサポートして欲しい。
- できれば保育園や学童保育は希望すれば必ず入れるようにしてほしい。
- 公立保育園そのものの拡充（新規増設、敷地拡大などによる定員増加）。
- 待機児童は当然ゼロにする、途中入園も常時可能なように十分な保育施設を増設（民間委託はダメ）する。
- 保育園をもっと増やす。
- 保育園の数を増やすこと。
- 保育園、育成室の延長時間の拡大、受け入れ人数枠拡大を。
- 保育園の数を増やし、親がゆとりをもてるようになれば、少子化も防げ、虐待などもなくなると思う。
- 共働き世帯にとっては待機せずに、保育園に入園できることが望ましいです。保育園の良いところは異年齢交流が盛んなことです。一人っ子や長女、長男にとっては上級生を身近に感じたり頼もしく感じることができるし、上級生にとっては下級生に対して加減しながらの付き合いが学べる良い機会だと思います。何かと弱者に対する犯罪が多い世の中ですが、人と人の関わりについて、思いやりについて、学べる機会を増やすことは重要だと思っております。
- とにかく保育園の数が足りません。25%の整備率が妥当とは思えません。コストセンターとしてとらえるのではなく、将来に向けた先行投資という考えをまず保育課に持って欲しいです。逆に、その投資を怠るのは責任放棄であり、区民からみれば大きな機会損失となります。その責任を区にはもっと自覚して欲しいです。そうでなければ何も変わりません。
- 「待機児童の解消」は絶対必要だと思う。それだけでも、誇りに思える行政ではないかと思える。地区によってばらつきがあるかとは思いますが、これから入園を迎えようとされる園児達に対しては、現状に柔軟に対応できる増設や保育士増員することで、その年その年の必要な保育施設の数を是非確保してあげていただきたい。
- 保育園の数が少なすぎる。共働きの家庭は、今や半数を超えるはず。しかし、母が働くには保育園の存在が必須。元来子どもは授かりもの、そして育児休暇も1年あるにもかかわらず、保育園入園のために、計画出産をしたり、育児休暇を切り上げなければいけない現状はおかしい。区として働く母を責任をもってサポートして欲しい。それが、少子化対策にも絶対つながるはず。
- 出産後の母親へのサポートや、子どもを安心して預けて働けるよう、保育園や学童保育の充実などを望みます。これらは、やはり行政が責任をもって行うべきことで子どもの育ちに関することに安易に市場原理を持ち込まないで欲しいと思います。また、最近では、子どもをまきこむ悲しい事件も多いため、防犯対策なども気になります。
- 小学校4～6年の間も、預かってもらえる機関が欲しい。
- 育成も小6まで必要！
- 育成室も待機児童がいるらしいが、今から不安。働く親にとっては、育成室に入れなければ、仕事をやめるしかない。仕事は今の時代、一度辞めたらなかなか再就職は難しい。核家族化している今の時代の働く母親を心底サポートしてほしい、と思う。繰り返しになるが、それが少子化にもつながると思う。
- 学童保育の終了時間が他の区よりも早く、働いている母親にとって精神的にも負担がかかるので、もう少しどうにかならないか。
- 育成室が、もっと「家庭」の代わりとなるような場所になるといいな、と思います。

#### (4) 相談や交流できる場の整備・充実(15件)

- 各地域に、子育て駆け込み寺のような、悩んだり、困ったりした時に相談に行ける場が欲しい。そこには、世話好きのお仲間おばさんのような方がいて（団塊世代の知識や能力・経験を生かすことができる）、この相談にはこの方を紹介して、といったコーディネートをお願いできたら素敵だと思う。地域の教育力も上がるし、挨拶が飛び交う、不審者を地域でチェックするような雰囲気もでき上がるのではないかとと思います。
- どんなことでも話し合える場所がほしい。「お互い様」といえるような他人とのコミュニケーション作りができる環境。子育ての知識を高めたり共有できるような講座やサークルがあるといい。
- 子ども達同士が触れ合えて、ママ友達ができる場所や情報交換ができる場所が増えればいいなと思います。
- 育児においても様々な相談機関や利用しやすい施設がある。
- もっと、お母さんお父さんが駆け込みやすい場所があればいいと思います。
- 家庭で一日中育児をしていた3年間は、やはり密室育児になりがちだった。当時住んでいたのは文京区ではないが、公共の育児広場のようなものは、月に2、3回程度の開催だったので、いつでも利用でき、就学前児の子育てについての専門家が常時駐在しているような施設があればさらによいと思う。

- 子育て関連の悩みをメールで子育て経験者、保健師や保育士など専門家（OBも含む）などにいつでも相談できるサービスもあるとよい（日中決まった時間しか相談の電話ができないと仕事や子どもの相手などで忙しく電話しにくいので）。そういうメール相談で子どもの虐待などの恐れが見つかった場合には継続してサポートできる体制もあるとよい。
- 現在の保健センターでの「子育て相談」は最悪です。カウンセラーと1対1で相談するよりも、たくさん子どもたちと一緒にいる自分の子を見る、他の親と話をすることが、子育ての不安をなくすことになり、親の知り合いを増やすことが、密室での育児を防ぐことになると思います。
- 子どもは2人とも1歳から保育園に通園しているのですが、小さなうちから大勢の子どもたちと接することで、いろいろなことを覚えてきたり、刺激を受けることも多いようです。特に異年齢の子たちとの交流は、兄弟で遊ぶような感覚を味わえる、貴重な場だと思います。たとえば、保育園以外にも、小さな子どもたちが自由に遊べる場を多く提供してもらえると、子どもたちの交流にもなりますし、親同士の情報交換もできます。現在も子育て広場が区内数ヶ所にあるとは思いますが、大人だけの行動範囲としては近いものでも、小さな子を連れて行くには遠いかな・・・と結局利用できる人が地域限定ではもったいないですね。区内の空き施設を使ってもっと多くの場を提供してもらいたいです。
- 学校とは切り離れた児童館の充実を提案します。乳児期から近所のお母さんや子どもとの社交場として毎日でも行きたい場所です。通学路が暗かったり遠かったりする場合も多く、学校とは切り離して地域の中に場所を作るべきだと思います。
- 児童館での引き続き、午前の会だけでなく、午後も親子で楽しめるようなメニューを増やす。0歳児のお母さんも気軽に参加できるような会をもっと町内会の掲示板などに貼る（わらべうた・体操・絵本の読み聞かせなど）。区報にどんどん情報を載せる。びよびよ広場も良かったが、なんとなく閉塞感があった。保健所で離乳食作り・幼児食作りの会などを増やす。地域のボランティアさんに、もっと児童館や小学校の校庭開放で小さな子が遊べるような環境作り。ただ、どんなに宣伝しても、来ない人は来ないですね。保育園は異年齢で遊んだり、関わったりする機会があり、子どもは楽しいようです。先生も保護者のことをいろいろな意味で助けてくれるので本当に助かっています。
- 児童館などで赤ちゃん連れが集まりやすい企画を多くする。また、それらの情報をホームページ上で見られるようにする。
- 子育てが大変だと思うのは、人のうわさや雑誌の情報にまどわされることがあるからだと思います。また、どこにどういった相談をすればいいのかわからないのも不安をあおる原因だと思います。
- 母と子の集まりを政治的な婦人団体等に牛耳られないよう、区が主催する会を設けて欲しいと思います。根津の地域センターで集まっていた「ひよこの会」では、場所を借りるために会費を集めて集まっていましたが大変盛況でした。こういった集まりこそ区に率先して場所を提供していただきたいと思います。
- 子育てしている人が交流できる場を作るだけでなく、誰でもアクセスしやすいようなものにしていくことが必要だと思う。具体的には、物理的に拠点をたくさん作ること、またそういう場所があることがもれなく子どもを持つ人に分かるようにしていく、その場を適切に調整できるスタッフの配置（例えば保育士などのプロや子育て経験者等）など箱物や場所を設定して終わり、ではなく、運営面でのきめ細かさ、継続性も重要だと思う。

#### (5) 地域の理解や協力(12件)

- おもにセキュリティ面で、地域の人とのコミュニケーションをもう少し増やしたい。マンション暮らしなのであまり地元の人とはやりとりがないので、保育園などを通してもっと仲間を見つけたい。不審者や子どもへの犯罪は、互いに見知らぬものであることから発生すると思うので、皆がもう少し地元の人を知り合うことが大切だ。
- 地域にどんな子どもがいるか、どんな人がいるか、皆が関心を持てる町にしたい。子どもを持っていない人や普段かかわらない人とも、子どもがかかわったり、子どもに関わってもらえるような場があるといい。地元の人の仕事取材に行くとか、交流の場を設けるとか・・・。子どもを育てることは特別なことじゃないし、子どもは特別な存在ではない。皆子どもから大人になっていくんだから、大事な未来の社会の一員として考えられるようなムードがほしい。
- 地域ぐるみの子育てサポートシステム。
- 近所ぐるみでの子育てが理想です。安全安心の面から、子どもも顔見知りの多い町のほうが、どこに遊びに行っても安心できると思います。また大人の目が多いほど犯罪防止に役立つのではないかと思います。
- 顔の見える関係を築く。保育園への行き帰り、自然と言葉を交わすようになった近所の人達との、ほんのちょっとした子どもに関わるやりとりが、子どもにとっても親にとってもプラスになっている。顔の見える関係を深くするのがベスト。顔を合わせる機会を意識的に作っていくことが大事。例えば周辺商店街のお祭り・イベント情報を頻繁に保・幼・小に流す（以前、毎日通っている商店街のイベント情報が至近の人達にしか伝わってなくて、後で「ど

うして来なかったの？」と言われて残念だったことがあった)、もしくは至近の高齢者施設や自治会と合同イベントをするなど、“連携”を高める。

- 町内には、子どものこと、子育てのことを気軽に話したり相談できる人が身近にいてくれるとありがたい。保育園に通っていれば、先生方や他の保護者との交流を通じて、子育ての参考にしたり、癒されたりする機会が得られるが、そうでない場合、孤立した親たちはどのようにして機会を作るのか？お隣のおばちゃんのような人が、ときどき教えてくれたり助けてくれたりすると、本当にありがたいと思う。もっと、子どもをやさしく暖かく受け入れる雰囲気を作って欲しい。
- 地域のつながりがあるとだいぶ違うと思います。
- 子どもが1人で歩いていても安全な町にする為にも地域住民の活用がもっと必要である。
- 保育園では敬老の日の頃に祖父母の会を開くことになっているようですが、我が家以外でもおじいちゃんやおばあちゃんに来てもらえず寂しい思いをしている子どもはいると思います。いつもお世話になっている祖父母への感謝の気持ちを表すためのようですが、それは家庭でできることです。運動会もお祝い会も両親と同様に見ることはできますし、普段の様子を見たいということであれば保育参観の時にも祖父母の参加は可能だと思います。現状の祖父母の会よりも地域との交流を通して、お年寄りを敬う気持ちを教えては如何でしょうか？
- 普段から顔見知りになるように挨拶をする。
- 地域で子育てするという意識への広報活動→区の予算増。地域での子どもに関する行事(ボランティア)等を増やし、人と関係(面識)をつける→子どもを見守る目(人)を多くする。
- 大人が子どもの幼さ、弱さを、見守り、共感的に関わり、成長を待つ、という意識改革・啓蒙(特に教育委員会以下教育公務員、保護者を対象に)が必要。子どもを叱ったり、抑えつけたりして服従させることを是とし、強圧的なしつけをしない親を責め、孤立させる風土が、親を孤立させていると思う。

#### (6) 公園等遊び場の整備・充実(8件)

- 子どもだけで外遊びさせられるような環境づくり。
- 身近な公園・遊び場の提供。
- 子ども達が安全に安心して遊べる場の提供(公園も見通しを良くする)。
- 子どもが安全に遊べる大きな公園を作って欲しい。
- 子育てしやすい街のためには、公園の整備を切に希望します。公園こそ民営化して、隅にカフェを併設したりして、地域の人々がつい寄りたくなるような場所、そして子どもを安心して遊ばせられるような場所にして欲しいです。今の状態では場所の無駄遣いです。
- 子どもが安心して遊べる場所を確保する。遊べる場所とは、整備されたところだけでなく、ただの原っぱ(都内では厳しいですが)、広〜い場所で走り回れるだけでもよいのだと思います。最近では廃校になった小学校などの跡地を、プレーパークとして活用している自治体もあります。
- 小さな子どもを連れていても危なくなくて遊べる場所がもっと増えればいいなと思います。大人も同時にゆっくりできるならなおいいですね。
- 文京区は意外と公園があり、子どもと楽しんで遊んでいるが、休日でも遊べる児童館がない。実家(埼玉県上尾市)には、休日でも遊べる児童館が充実していて、体育館もついていて幼児が遊べる大きくやわらかいボールなど、たくさん遊具も有る。最近2館目ができたそう。使い勝手もとてもいい。

#### (7) 医療費助成の拡充(7件)

- 乳児医療費を小学校終了時までにする。
- 子どもの医療費無料の年齢アップ。
- 例えば小学生の医療費を無料化。
- 医療費も小学校6年生まで助成してほしい。
- 小学校6年生まで医療費をタダにして欲しい。
- 他の区では実施していますが、医療費の補助の拡大(←これって大きいと思います)。
- 未就学児童の医療費が自己負担ゼロと言うのはとてもすばらしいが、それ以降も病気やケガは続く。義務教育終了までそうしてもらいたい。自己負担ゼロが家計も親の子育ての中の精神状態も安定させる。

#### (8) 地域環境の整備・充実(5件)

- 小学生が子どもだけでも安心して歩ける町にしてほしい。たとえば、挨拶運動の徹底、街灯を増やす、警察や地域の人のパトロール強化などを。
- 変質者が出たり、泥棒が出たりしない安全な街になれば子育てしやすくなると思います。
- 安心して赤ちゃん連れで出かけやすいようなまちづくりをしてほしい(例: 駅にはエレベータとおむつ換え場所を設置。今不便なのは三田線春日駅)。
- 通園・通学・通勤時のまず思うこと。それは、きちんとした歩道の確保。歩道に自転車が置いてあることも多く、その上、歩道そのものが狭く、危ない(歩道の幅や電信柱が歩道の真ん中にある)。
- 子ども連れで入れるよう、広い座敷のある喫茶店や飲食店がもっともっと増えるといい。子どもがいても親が楽しめる場所をもっと作ってほしい。

#### (9) 区政に対する意見(5件)

- 区長によい方を選ぶ。区議会議員も、党に流されることなく、しっかり考えをもってほしい。区の幹部にもまっとうな人を入れる。
- 区長の一曰せんせい体験。区の子どもに関わる部署の人はもとより、区民に存在をアピールしたいのなら、区長が「一日保育士(一日園長ではない)」「一日小学校の先生」など、年に最低1回ずつ、区内全園・全小学校で過ごすと思う。そこから、子育てしやすい町への何かが生まれるかも知れない。
- もっと住民の意見が区政に反映できるシステムを作ってほしいと切実に思います。区の職員のための行政ではなく、住民のための行政をやってほしい。
- 税金、医療をはじめとした制度の充実。保育施設や職員の柔軟性を切望します。前例踏襲ばかりで新しい試みをしていない、他の自治体を真似するだけの施策などでは意味がない。また、「文の京」自治基本条例に基づく協働協治というならば住民の意見は必要不可欠ではないのでしょうか？
- 本物の保育ビジョンを考えるなら特区申請ぐらいする覚悟で区には取り組んでほしい。

#### (10) 幼・保の連携・一元化(4件)

- 保育園、幼稚園、小学校、すべての管轄の部署が、縦割り組織を超えて繋がりあい、真剣にトータルに「子どもの育ち」を考えてほしい。たとえば、保育園・幼稚園から、小学校入学に際し「この子はこんな個性の子」のような申し送りがあったら、小学校の先生も、子どもの理解の役に立つのでは、とか。
- 保育園でも、保育にとどまらず、きちんとした教育を受けさせて欲しい(幼保一元化が良い)。保育園にも教諭を置いて欲しい。
- 公立よりも私立の幼稚園に人気がかたよっているように感じるので『公立幼稚園』撤廃。その分を私立幼稚園、公立保育園への補助にまわす。
- 幼保一元化。保育園ベースで。幼児教育は不要。それよりも看護師と栄養士の配置のほうがずっと重要だと思う。親以外の人(保育園の先生、学童保育の指導員)が、継続して子どもの成長を見守り子どもに長く関わってくださることが、親にとっても何よりも心強い。健康、遊び方、しつけ、食事の与え方についても、見知らぬその場限りのカウンセラーではなく、子どものことを日頃からよく見ている先生方や看護師さん栄養士さんに相談できることがどれだけ助けになっているかと毎日思う。母親の仕事の有無に関係なく、多様な大人がひとりひとりの子どもに継続的に関わる機会が、区内のすべての家庭に平等に保証されることを切に望む。

#### (11) 親の教育・意識改革(3件)

- 親に「親の資質」を身に付けさせる教育。
- 親は、子どもの生活リズム(朝起きて夜寝る)に合わせた働き方を。22時までの残業が可能な保育サービスを求めるのではなく、子どもと夕食を食べ、団らんし、その後、子どもが寝ている間に早朝というか深夜から働いても良いのではないかと親が要求するサービスに答える方向で、子どもの福祉を害する保育改革がなされることのないようにしてほしい。
- 保護者同士、我が子以外にも声を掛けたり、注意したりできる関係を築けたら良いと思います。人それぞれに考え方の違いがありますので難しいと思いますが、話をする機会を増やすことで少しは改善されるのではないのでしょうか？プライベートで、というのは人付き合いの得手不得手もありますので、保育園等の協力が必要だと思います。

## (12) 小児医療の充実(3件)

- 小児科専門医師のいる診療所の充実。小児科医の当直する病院の充実。
- 小児専門医院を増やすこと。
- 医療面でも診察時間の延長があると嬉しいと思います。

## (13) 学校環境の整備・充実(3件)

- 安心して子どもをその地区の学校へ通わせることができる環境が整っている町に住みたいと感じています(具体的には、先生の質が良く、学校設備が整っており、教育方針を保護者にわかりやすく説明してもらえるような学校)。
- 小学校1、2年生は区内全小学校全クラスで、2人担任制に加配する。これにより、ポーターの子どもも排除せず一緒に成長することができるようになる。「元気すぎる子」の親も肩身の狭い思いをしなくて済むようになる。全ての子どもについて、特別支援教育で導入される個別指導プログラムを作成し、障害のある子もない子も一人一人にあった援助(学力の定着、人とのコミュニケーション能力の向上など)を受けられる体制をつくる。
- 学校の配置見直しは困りものです。少人数が良くて今の学校に通っているのに見直されて大人数になったら先生がちゃんと見てくれるのかとても心配です。

## (14) 子育て支援情報の提供(3件)

- 文京区の保健所主催で3-4ヶ月の赤ちゃんを集めた交流会や離乳食講習をやっていたが、この告知を区報や文京区HPに載せてほしい。とにかく徒歩圏内に友達ができるのが重要だと思った。子どもが居るとなかなかPCを開けないので、携帯のサイトやメールに、交流会やイベントなどの情報があると嬉しい。児童館は行ったことないですが、児童館のイベントも載っていると利用したかも。
- 子育て支援関連情報は子育てポータルなどWebで一元管理・提供されていて、予約や申し込みもWebや携帯電話からできるとよい。
- 子どもがいる家庭に、その地域での子育て支援状況を妊娠時や出産時、転入時に教えてくれればいいのにと思いますが。調べるのもなかなか大変ですから。

## (15) 再就職・多様な働き方への支援(2件)

- 出産等で退職した女性の復職支援として保育サービス付研修サービスやeラーニングサービスなどもあるとよい。
- 時短やワークシェアリング、働き方を少しスローにできる環境があれば、子どもにも余裕を持って接することができると思う(←これは「子育てしやすい町」とはちょっと違いますが)。

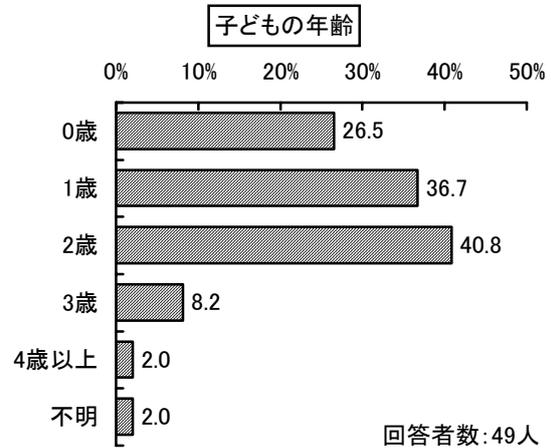
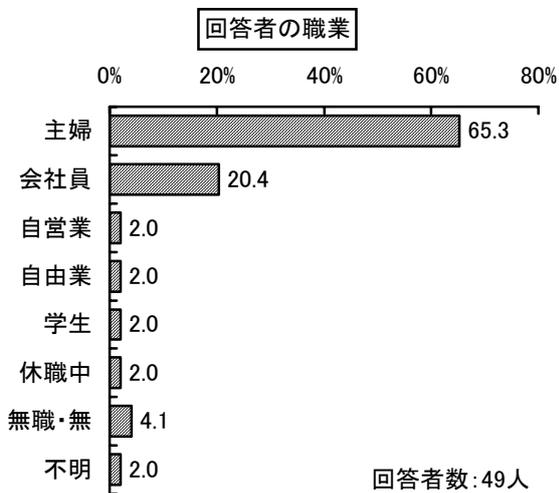
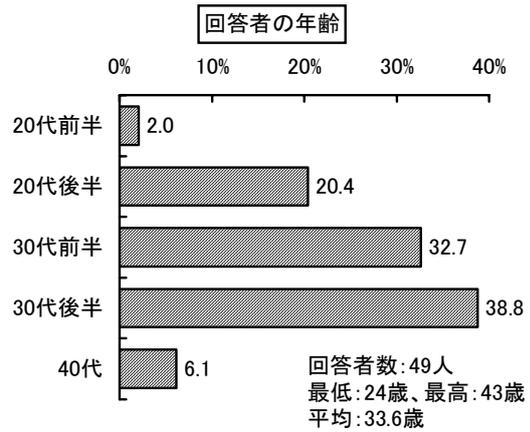
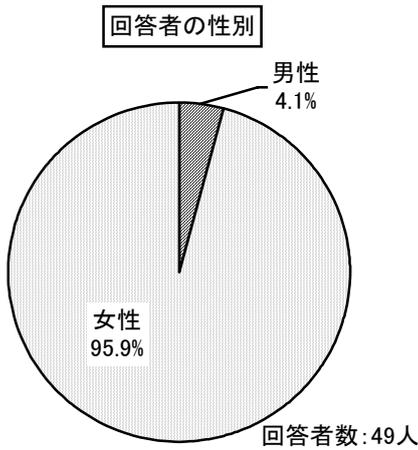
## (16) その他

- 出産、子育てが「人生の中抜け」にならないようにしたいです。子どもを産んで育てるのが当たり前で、それがデメリットにならないよう、自分の選択肢が尊重される社会だといいですね。
- 会社がやらなきゃ区が手当てを出して父親の子育て育児休暇支援をするべき。父親の帰りがだんだん遅くなり、子育ての負担、家事の負担は母親に重くのしかかり、父親は家事・育児下手になり悪循環を生み出しています。
- 先日、配られた金券はそのときは嬉しいと思うけど単発なものなのであまり意味はないいつも思います。
- 行政、地域、保育園、すべてが「おもいやり」の気持ちで持てる余裕があることを望みます。
- 区が出産・育児をサポートする万全な体制をアピールできていれば、安心できるかと思います。体制というのは、金銭面(通院・入院の助成金など)や生活面(たまには親もリフレッシュできるように一時保育の充実、公園設備など)など色々あげられるかと思います。
- 保育園に行ったおかげで、子どもだけに友達ができたのではなく、親同士も友達になれ、育児の悩みや仕事の愚痴なども話したり、ストレスも解消できる。また、近くに知り合いがいなかったのが、知り合いができたことは色々安心です。小学校入学は心配だったが、友達がいることは子どもも親も少し安心になった。またそれほど規模の大きな学校でないのが、先生とも意思の疎通がはかれたのはよかった。

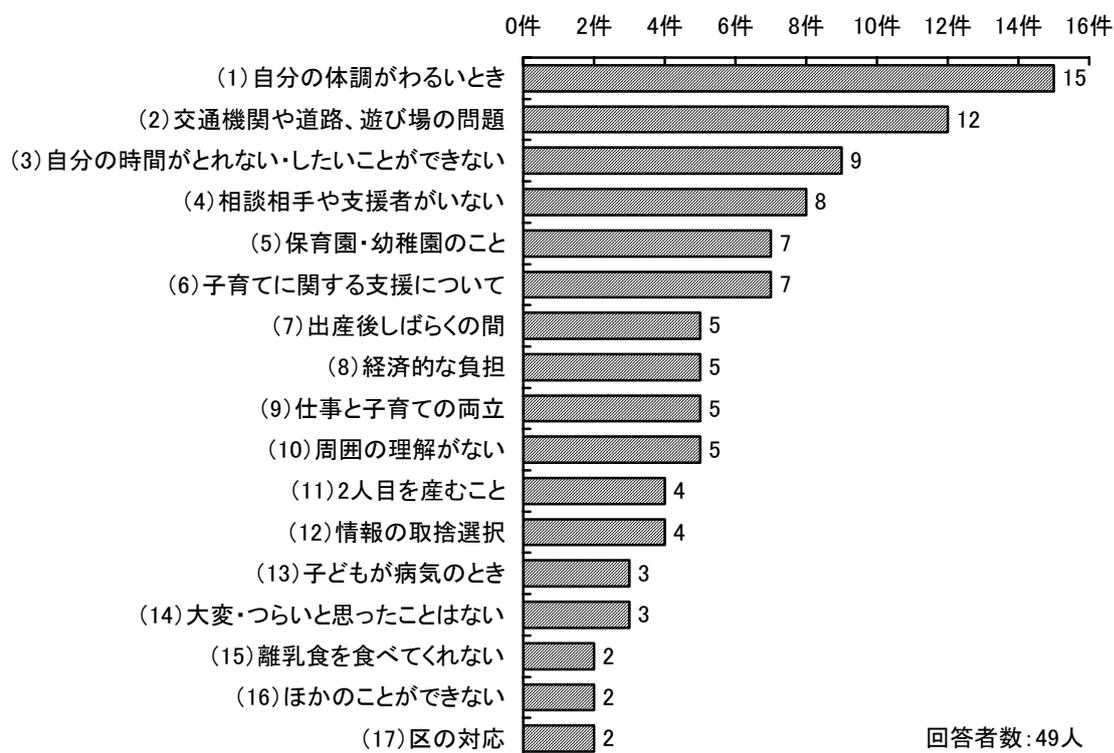
### 3. 回答結果②

[ 回答者の基本属性 ]

- 回答者数は 49 人。
- 回答者の性別は、95.9% (47 人) が女性
- 年齢は、約 4 割が 30 代後半で、平均年齢は 33.6 歳
- 職業は、65.3% (32 人) が主婦。
- 子どもの年齢は、2 歳が 40.8% (20 人)、1 歳が 36.7% (18 人)



# 1. 子育てが大変(大変そう)、つらい(つらそう)と思った(思う)のはどういう時？



## (1) 自分の体調がわるいとき (15 件)

- 風邪をひいてしまい、母乳のため薬も飲めず、夜中まだ何回か授乳してた時。
- 子育てが大変つらいと思ったのは、自分が病気になったり、子どもが重い病気にかかったりして、育児に支障がでた時。我が家は、夫婦ともに実家が遠方で、両親の援助も望めないで、子どもの出産から約 2 年間、2 人だけで何とか子育てをしてきた。私が病気になった時は、育児に支障をきたし、夫が会社を休む等して、何とか乗り越えてきた。
- 体調をくずした時。子どもは、ようしゃなく色々要求している。
- 最初につらいと思った事は、自分自身の体調が悪くなってしまった時。持病の腰痛（ギックリ腰）がひどくなり、全く動けなくなってしまった。その時は、実母が比較的近くに住んでいる為、全て母にお願い出来たが、もし、お願い出来ない状況にあったらと考えるととても不安になる。
- 主人と 3 人家族のため、助けをお願いする人が近くにいない。自分の体調がよくない時などは、とても大変に感じる。
- 病気をした時、どう対処していいか迷う事がある。
- 実家が遠いため、子どもが病気の時や自分の体調が優れない時の不安が大きい。近くに頼れる親類がいない。
- 自分の体調が優れなくても休めない。
- 自分が風邪をひいたり、具合が悪いときに子どもの世話をする時が一番辛い。
- 自分自身が病気のときの育児。
- 子ども、もしくは自分が病気になった時。
- 自分が病気の時、また引越しの時などに誰か 1~2H でもいいから、子どもを見ていてほしいと思っても気軽に預けることが出来ない時。
- つらい時は、自分の具合が悪い時でも育児をしなくてはならないので、風邪をひかないよう注意した。
- 自分の体調が優れない時。気軽に病院に行くことも出来ない。
- 私の実家が名古屋で、主人の実家が大阪な為、自分が病気になった時とかに、子どもを預けられず、困ったことがあった。早朝から預かってもらえる施設があったら助かる。子育ては大好きなので 2 人目も欲しいが、そういう問題が解決できないとふみこみにくい。

- 自分の体調が悪いとき、誰も頼りにできず、子ども（2人）と3人になるときがつらかった。近場に両親はいるものの仕事をしているため、そうたびたびは見てもらえず、主人も仕事を家に持ち帰ることも日常茶飯事。ベビーシッターは1時間3,000円と聞き、なかなか預けるといいうのも自分に許しがたくて…。

## (2) 交通機関や道路、遊び場の問題(12件)

- ベビーカーで移動が多くなり、歩道を通る時に歩道が傾いているので、とても押しにくく大変である。できれば平らにしてほしいと常々思う。
- 駅構内に階段しかないところが多く、ベビーカーでの移動が大変（駅員さんで手伝ってくださる方はほとんどいない）。
- 交通機関で階段しかない所があり、ベビーカーで移動するには大変だった。
- 狭い道なのに車通りが激しい道を通らないといけな場所に住んでいるので、子どもが車にぶつからないか心配。
- 歩道に停めてある自転車が邪魔でベビーカーで通りづらい。子どもを歩かせても前後からくる自転車の人をよけるためにいちいち立ち止まらなくてはいけないし、危ないので迷惑な場所に停めてある自転車をもっと頻りに撤去してほしい。
- 公園で遊ばせたいと思っても、そこを家(?)のように使っている方が多いので、なかなか遊ばせることができない。
- 子どもを遊ばせる場に児童館がある。しかしこの児童館、未就学児は午前中の時間に限られているのがほとんどだ。子育て広場も利用するが、西片は急な坂の上であり、体調によっては行く事すらためられる。幼稚園を開放している所も、お弁当を食べたら解散か、お弁当を食べられる日にも限りがあるものばかり。隣接した千代田区、新宿区、豊島区には、幼児が一日過ごせる施設がある。
- 下の子が小さいときから上の子と2人を連れて遊びに行くところがあまりなく困った。
- 子どもが安全に遊べる場所を探すのが大変。
- 子どもが歩くようになって、家の中にいるより、外に出てお友達と遊ぶことが多くなったのは良いが、やはり、雨が降っていたり、これから冬になり寒くなってくるので、外出が困難。でも、だからと言って一日中家の中にいると泣くので天候によってつらいと思う事がある。
- 子どもとずっとふたりきりで家に閉じこもらざるをえない時（天気が悪くてお散歩に出られない。遊びに行ける場所がない）。
- 遊び場のこと。文京区の児童館は古い施設が多く、規定も多くて使いづらいので、私達は新宿区や豊島区の遊びやすい児童館をよく利用している。子どもがハイハイ～ヨチヨチ歩きくらいの頃は、公園にも行けず、曜日や時間を決められている児童館しか行けず、とても不自由だった。今でも夏休みなど大きい子どもたちが多い時期は、暗に“幼児は来ないで欲しい”という意味のポスターが貼られ、遊び場所に困る。

## (3) 自分の時間がとれない・したいことができない(9件)

- 近所に家族がいなくて、子どもを預けられず、歯医者や美容院など自分の用事を済ますことがなかなかできない。
- 自分の時間がほとんど、とれなくなったことが一番つらい。どこへ行くにも子どもと一緒になので、時々自分一人の時間が欲しくなる。
- 辛いなぁと思ったのは、自分の時間がなかった事。2歳になった今でも自分の時間はほとんどないが、乳児の時は母乳の時間などがあり、なかなかゆっくり出かけられなかったが、最近は子どもと一緒に出かけられるようになり、だいぶ気持ちが楽になった。
- 当然の事だが、自分の時間がなくなる事。
- 日々成長する子どもとの時間はとても楽しいものだ。しかし、専業主婦は子どもと離れる時間がないのも現実だ。働いていれば通勤電車の中で本が読める。ランチだって一人で食べられる、と仕事の大変さはともかく、うらやましく感じることもさえる。
- 周りの人々からは、落ち着いた育児をしているように言われるが、私自身は全くそのように感じることはない。子どもに対してどう言ったら（褒めたら、叱ったら）いいのか、何を食べさせたらいいのか、ダメなのか、落ち着いた考える時間もないので、その都度できる事をやっているが、正直自信があってやっている事はあまりない。でも子どもは元気に育ってくれているので、寝顔を見てホッとしている。自分のストレスの軽減ということもあり、仕事を少しずつやっていきたいと考えているところだ。現在は子どものお昼寝の時に少しずつやっている。また、夫の休日があれば、夫にも子どもと1日遊んでもらい、私の時間にしてもらうよう協力してもらっているが、限界がある。急に依頼があり1～2週間程忙しくなるという感じなので、急な仕事でも一時的に子どもを預ってくれる

保育施設を探し始めているのだが、自分に合ったものが見つからない。子どもとして学ぶ事もたくさんあるので、保育園に預けるのではなく自分の時間をつくるために（仕事、買物など）サッと対応してくれるような場所をつい探してしまうが、病気や風邪の時でも緊急事態でも予約が必要との事で、子どもを預ける事は少しあきらめているところもあるが、子どもとやっていきたいと思う。

- 今でも大変と思うのは、一日中気が抜けないことである。少しでも一人で息抜きしたいと思う時がある。あとは、細かい悩みで（夜泣きや離乳食など）、同じ状況のお母さんなどと話せる場があれば、気が楽になる。
- たまには一人きりになりたいと思うことがある。いざ一人になると子どものことが気になって仕方ない。なんやかんや不平不満を聞いてくれるお友達（母、主人）がいるので、楽しみながら子育てしていると思う。
- 自由な一人の時間がまったくない。

#### (4) 相談相手や支援者がいない(8件)

- 自分一人で問題を抱え込んだ時、相談する相手（グチを言うだけでも）や時間がないと、辛くなる。
- 子どもが熱を出した時など外出できず、買物や家事など手伝ってくれる人がいないのが大変である。
- 仕事復帰する際に、一人で登録や手配をしたので、相談できる人がいなかった事。
- 自宅で絵を描く仕事をしている。出産までは体の変化に左右されていたが仕事はできていたのだが、出産してからはほとんどできなくなった。家での仕事なので出産後もできるものだと思っていたが、育児が生活のほとんどとなり、仕事をやる時間はほとんど・・・というかほぼできない状態になってしまった。妊娠中に子ども（赤ちゃん）をどうやってお世話するのか、育てていくのか、人から話を聞いたり本を読んだりなど自分なりに情報を集めていたのだが、いざ子どもが産まれて世話を始めてみると、本当に何から何まで自分一人でやらなければならない、想像よりもずっと大変だった。夫も毎日帰りは夜 12 時近くになるので、日常の中で一緒に子どもの世話をするという状況にはならず、1 日のほとんどの時間を子どもと 2 人で過ごす事になり、初め（出産してすぐ）はそれがとても辛く感じた。子どもは本当にかわいいのだが、辛い気持ちやイライラした気持ちは 1 日のうち何度かあり、今でもどうしたらいいのか、どうやってストレスを解消したらいいのか考えている。子どもは悪くないのにイライラして子どもに当たってしまう事もあり、後になって後悔しているが、その時は気持ちを止める事ができない。
- 辛いことは、1 人で子育てすることだと思う。核家族で夫の帰りが遅いと子どもとずっと 2 人きりで、何から何まで 1 人でしなければならぬのが大変。家族の協力は大事。昼間は、ピヨピヨ広場などへ行き、2 人きりの時間を減らし、気分転換をするようにしている。本当は、近所の児童館で過ごしたいが、乳幼児が遊べる安全な場所はほとんどなく、午前のみ使用とされているため、乳幼児の児童館難民がたくさんいる。
- 近くに頼れる人がなくて、ちょっと面倒を見てもらって用事をすませたり、ということが困難な時。
- 乳児のとき、急にどうしても外出しようと思っても、預ける人がいなかったために、主人に休みをとってもらったこともあったので、預けられる所があればいいと思った（ファミリーサポートは登録していないとだめだったので、急なものはできないとあきらめた）。
- 核家族で夫が仕事で帰宅が遅く、子育ての負担が自分（妻）にのしかかる時。

#### (5) 保育園・幼稚園のこと(7件)

- 保育園に入れるか不安。
- 学生だから、フルタイムの人より保育園入園、延長保育などの優先順位が低いとき（学生には有休がなく、経済的に厳しいにも関わらず）。
- 体を壊したため保育園への入園を申請したが、枠が限られており恒常的に付近の保育園を利用する事が難しいのが辛い。
- 保育園の問題。私のように出産前はパート勤務だった者は、出産を機に仕事を辞めざるを得ず、復職したくても出来ない状態にある。夫の収入だけでギリギリの生活を送っているのに、区立保育園はいっぱいで、保育料の高い私立の保育園をすすめる。どこからそのお金を捻出できるというのか。私の周りにはいる区立保育園に入れている方々は、たいがい夫婦とも正社員で収入も高く保障もある。そんな人達ばかりではないと思うが、働きたくても働けないのに“専業主婦は気楽でいい”などと言われたり、区立保育園の待機の順番が後回しにされたりするのはひどいと思う。
- 保育園に入れるかどうかわからないとき。家から近い保育園に入れなくて、通いづらいと感じる保育園でも、入園できるだけでありがたいと思わなくてはいけないとき。
- 二人目を考えても、兄弟姉妹で別の保育園に通わなくてはいけない状況が当然だと知ったとき。
- 近くの幼稚園に入園させたいと思っているが、ここは 2 年保育。私立の幼稚園は 3 年保育だが、通園することを

考えると近所が一番だし、ここだと坂を登らずに通うことができる。区立幼稚園も 3 年保育の実施を検討してほしい。3 年保育にするのはすぐに無理なら、週 3 日でも午前中預かり保育を行ってほしい。

#### (6) 子育てに関する支援について(7 件)

- 気軽に預けることができず、病院に行くにもちょっと考えてしまうときがある。保育料の安い施設があると助かる。
- 仮に預けられても病気の時は迎えにいかなくてはならないので、病気でも預けられる施設が欲しい。
- 一時保育の問題。再就職のためにも大学や区の生涯学習講座などに通いたいとき、また 2 人目 3 人目を妊娠した時、自分が病気になった時など、一時保育の施設が充実していないと思う。あっても場所が遠い、保育料が高い、規定が厳しいなど、とても預けにくく感じる。
- 区の緊急一時預かりは、2 ヶ月前に登録が必要だという事で、急な発病には、対応できないし、民間のベビーシッターは費用がかかると聞いている。今は、まだ子ども一人なので何とか頑張れるように思うが、今後、第二子を考えた時、このまま何の支援もなしに子育てができるのか、とても不安である。特に出産前後に上の子が、確実に保育園等に入れるのか、産じょく期の育児、家事、自分自身の心身のケアについて、とても不安を覚える。
- 文京区には一時預かりできる施設が少ないと思う。シビックセンターのキッズルームも 3 時間を上限としているので、家からや目的地からの道のりを入れると 1~2 時間しか活動できない。場所、預け時間の選択がもっとできるようになると助かる。
- 専業主婦家庭では、保育園が特別な事情がなければ利用できず大変である。3 年以上間をあけるにも結婚年齢が高い(遅い)人にとっては、出産年齢も気がかりである。そのような事情から 2 人目をあきらめる人もいないかと思う。少子化に真剣に取り組むのであれば、子どものみならず、子育て当事者(専業主婦)の負担軽減も大きな課題であると思う。
- 出産後の産じょく時期のサポート(親の助けが求められない環境だったため)を手配するのが大変だった。出産後の大きな不安の 1 つだった。核家族化が進んでいるため、私のような環境の人は、たくさんいる。夫婦 2 人で産じょく期を乗り越えるのは、大変なことなので、福祉サービスや区の行政サービスを行って欲しい。もちろん有料で OK。

#### (7) 出産後しばらくの間(5 件)

- 出産してから 3 ヶ月健診までが、とにかく大変で全てにおいてつらかった。何もかも初めてな上に体調も良くないので、ノイローゼになった。私は、実家が近かったため、話し相手がいたから乗り越えられた。健診の時に児童館や図書館のイベントを知り参加。そして友人もできて気が楽になった。出産して 1 ヶ月、できれば、出産直前くらいの方に案内をするようにすると精神的に助けてあげられると思う。私ももっと早く参加したかった。
- 産まれてみないと、どんなタイプの赤ちゃんかわからないので、最初は行き当たりばったりで毎日が大変。特に産後明けの夜泣きは体力的にしんどかった。自分が具合が悪くなくても赤ちゃんのおむつや授乳は定期的にはやらないといけないので、疲労がたまると一方だったし、赤ちゃんは具合が悪いと甘えて抱っこばかり求めるので、腰は常に痛む日々…。人見知り時期は誰を見ても泣くので、皆に謝りっぱなしでした。
- 子育てが大変だったのは、生まれて 10 ヶ月くらいまで。夜泣きで寝不足が続いた。
- 夜泣き、泣き止まない時。子どもと二人っきりで誰とも話さない日がある時。
- 新生児の時は、ちょっとしたことが気になり不安だったが、すぐ近くに相談できる人がいたので助かった。

#### (8) 経済的な負担(5 件)

- 病院の出産費用の高額さ。50 万円かかった。
- 経済的な事が大変。これから大きくなるにつれ、もっとお金がかかるので、頭を悩ませている。
- 私は文京区に越してきたとき、不妊治療をしていた。当時まだ補助金等もなく、経済的にも体力・肉体的にも相当追い詰められていたので、断念をした。その時、自分の心の整理をつけるため、自分自身に言い訳して「こんなに『お受験熱』の高い区で子どもなんかできて苦勞するだけだ」と思っていた。それから 1 年後くらいに、奇的に子どもを授かったが、その心配は今現在も引きずっている。もちろん今はそんな先の話よりもっと身近な問題がある。
- まだ小さいうちは、粉ミルク、紙パンツ、紙おむつ等、かさばる物、重い物が 2 人分一緒に必要であり、買物も大変だし、金額も一気に高額出費で大変。
- 医療費の事。せめて小学生までは無料化して欲しいと思う。

### (9) 仕事と子育ての両立(5件)

- 仕事を休む事が難しい時。子どもが風邪をひいていてお世話を頼める人がいない状況の時(身内が近くに住んでいないため)。
- 仕事との両立。自分は家事、育児、仕事、全てをきちんとするのが当然と思われる事。
- 保育園は夕方まで見てもらえるが、小学校に上がったなら自分で児童館へ行くか、高学年になるとそれも終わる。一方会社は概ね「子どもが小学校に上がるまで」は時間減もあるが、小学校に上がるとなくなるので、両立は困難になりそう。
- 仕事と育児のバランス。
- 心配なのは、仕事復帰後の両立。大変そうだ。保育園等の預けられる施設は空きがないと聞く。もっと枠を増やして欲しい。

### (10) 周囲の理解がない(5件)

- 駅にせっかくエレベーターが設置されていても、若い方や健康そうな方々がたくさん乗り、ベビーカーだと乗れず、次が来るまで待つことになることが多い(嫌な顔をされることもあるが、優先して下さる方は滅多にいない)。
- 街で出会う人々の意地悪な言葉や態度(ベビーカーを邪魔そうにしたり、露骨に嫌な顔をされる。勿論、優しい言葉をかけてもらうときもあるが)。
- 少し混み始めた電車やバスにベビーカーで乗れないのも大変である。荷物が大きい上に子どもを抱えてベビーカーを持つのは体力的に厳しい。たまに「狭いんだから乗るな」みたいなことを言われることもあり、悪いことをしていないのに肩身の狭い思いをすることもある。
- 隣近所の理解。
- 子連れの外出。子どもがさわいだときに白い目で見られるときなど。外食にも行きづらい。

### (11) 2人目を産むこと(4件)

- 下の子を産むとき、臨月近くになり上の子の面倒を見るのが大変で、産前産後預けられる保育サービスを利用しようと思ったが、空きがなく利用できなかった。
- 現在第2子を懐妊中。主人、私の両親共に60歳を越えているが仕事を持っているため里帰りもマンパワー不足で意味がない。そこで第1子の保育園入園で対処しようと考えたが、現実には厳しいものだった。区立保育園、認可保育園共に待機の状態、受け入れがない。フルタイムで働く人に比べ、出産は入園条件としての点数も低く、可能性はさらに低いものとなっている。少子化対策は働くママのためのもの?と疑問を抱かずにはいられない。専業主婦でも子どもを育てる、産むことにかわりはない。出産の時期だけでもサポートしてもらえるシステムが欲しいと思う。
- 現在は子どもが一人なので何とかなると思うが、2人目を産むことは慎重になってしまう。
- 子どもを産む決心については、1人目は仕事の状況で決めた。2人目は、どうしようか悩み中。妊娠すると自分の体調だけでも大変なのに育児も休めないと思うと、なかなか産む決心がつかない。シビックのキッズコーナーがもっと使いやすくなれば、もう少し安心して踏み切れると思う。

### (12) 情報の取捨選択(4件)

- 今は、いろいろな情報が手に入る時代。その中で、どの情報を自分の子育ての中に上手く取り入れていくかというのが難しいと思う。子どもを育てるということは、決して楽な事ではなく、毎日、毎日がこれでいいのかと考え、悩みながら子育てしている。自分も一緒に毎日成長しているような気がする。
- 初めての経験なので最初は何かから何まで大変だった。今は育児に関して色々な情報があるが、情報がありすぎて迷ってしまうときもあった。両家の母には事情があり子どもの世話を頼めなく、主人は自営業なので朝から夜中過ぎまで仕事なので、本当に一人で子育てをしている状態だった。
- 100人いれば100の意見・アドバイスがあるので、初めは自分がどれを選ぶかに悩んだ。
- 病院の情報。
- 利用出来るサービスがあっても情報が人から教えられる事が多く、使いたい時にすぐ利用できず大変だった。

### (13)子どもが病気のと看(3 件)

- 風邪等、1 人が体調が悪いと、まだ小さいので一日中私(母)にへばりつき、何もできないし、他の 2 人のこともあり、大変だ。
- 休日等に小児科などが近くにない場合などは、非常に困る。言葉が出来ない時期の子どもの病気は、親にとって一番の不安事である。
- つらいのはやはり赤ちゃんが風邪をひいて息苦しそうにしていたり、吐いてしまいぐったりしている姿を自分がみることしかできないときかな。

### (14)大変・つらいと思ったことはない(3 件)

- あまり子育てで辛いと思ったことはない。主人が育児に協力的なので、家族一緒に楽しみながら子育てしている。ある程度、旦那様も育児に協力すれば、神経質になるお母さん方も色んな負担が軽減されるのではないだろうか。
- 子育ては大変そうと感じた事はあまりないように思う。確かに体力的には疲れたりして一日休みたいと感じるときもあるが、子どもといると、野菜を多く摂ろう、明日も早いからと、夜遅くまで起きることも少なくなった。でも子どもを持って近頃感じることは、「子育てって大変でしょう?」と言われる事(周りの人、近所の人)。その言葉を聞くと「はあ〜」と逆に疲れてしまう。「子育てって楽しいでしょう!!」この言葉だと「楽しい〜」と元気になると思ってみたり。メディアでも「子育てって楽しい」っていうニュースばかりだと、人間は単純なので、世間もそうなっていくのでは、とふと思う。
- 現在は育休中なので、子どもと向き合うのは苦ではない。

### (15)離乳食を食べてくれない(2 件)

- 育てて、はじめて直面する問題は、私は、完全母乳で育てており、6 ヶ月過ぎから離乳食を始めたが、なかなか食べてくねず、これでいいのか〜と悩んだ。でも、いずれは食べるようになる。今は、2 歳。まだ、母乳を飲んでいるが、食事もわりと食べてくれる。
- 離乳食や食事を食べてくれなかった時。

### (16)ほかのことができない(2 件)

- 家事との両立。
- 2 歳をすぎ昼寝をしない事が多くなり、最低限のことをするのが精一杯だ。もう少し時間があれば、掃除や片付けをしたい。

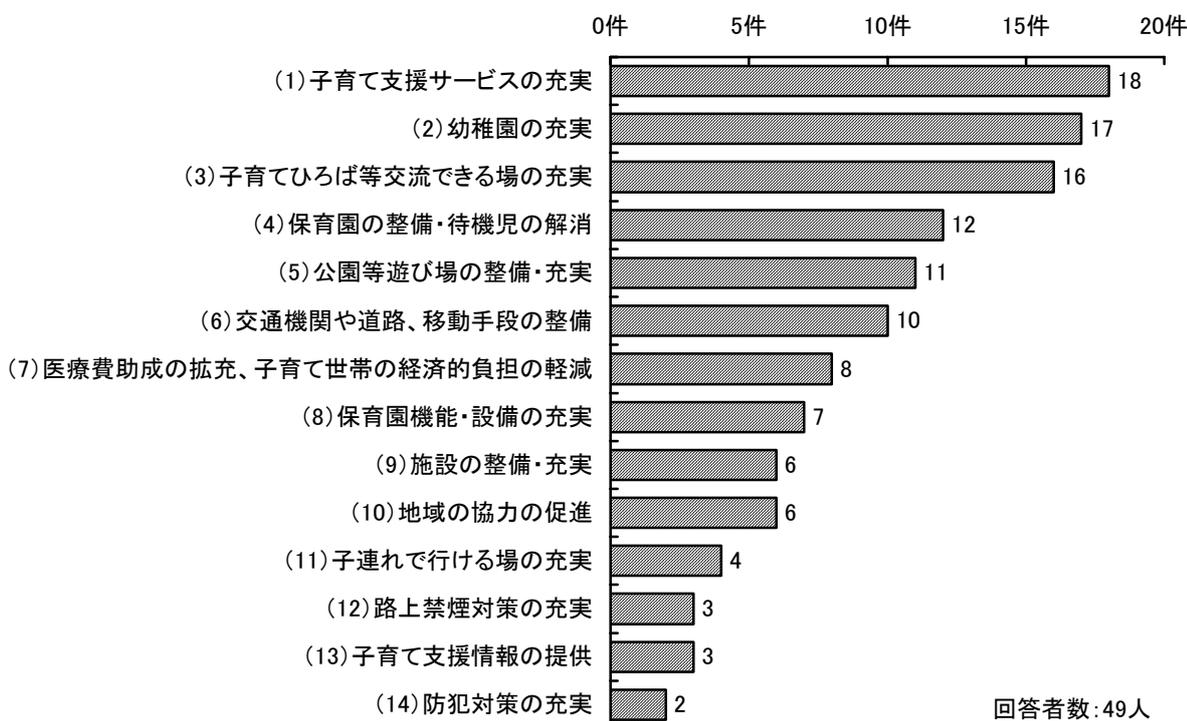
### (17)区への対応(2 件)

- 近年では核家族が増えてきているのに、区への対応はできてなさすぎると思う。私は 2 人目がおなかの中にいる時に文京区に引っ越してきた。家は、主人も私も実家が沖縄、千葉と遠いため、あまり手伝いにこれる状況ではないので、せめて風邪をひいた時にでも子どもを見てくれたりするところはないかなと思ひ、2 人目を出産して出生届を出すのに区役所に行った時の事。まず区への職員の何人かに「こんな小さい子どもなのに外に連れて歩いて!」と言われた。来たくて来ているわけではないし、どうしてそんな言い方を区の方に言われなければならないのか疑問だった。その後、風邪の時に見てくれるようなものはないかを聞いたところ、風邪になって初めて預ってくれる施設に行き、登録手続きを踏む、といった内容のものを聞かされた。子どもがいて具合が悪いのに、どうやってその場まで行く元気があるのか、そんなに動く元気があるのならわざわざ預けない!!産んだ後というのはガクッと体力が落ちるので、実家に頼れない人は必ず産後何回も動けないくらいの深刻な病気になる。産後うつにもなりやすいし、周りに頼れる人がいないならなおさらだ。1 時間でもいいから家に来て子どもの面倒を見てくれた事で救われる事もある。区の方たちの対応の悪さに正直びっくりした。関心がないというか、そういうところから改善しなければよくならないのでは?この話を保健師さんにしたところ、とても対応よく答えて聞いて下さって、下の人の声は区長にまで届かない、という事も言っていた。もっともって言いたい事はたくさんある。形だけでなく行動に出してほしい。
- 子育てを祖父母が手伝ってくれるのが当然という対応をされたとき(子どもが病気のと看、保育園のお迎えが遅くなる時など、うちは実家が遠方で手伝ってもらうのは困難)。

## (18)その他

- 第1子の幼稚園へのお迎え(14時)のとき、第2子と3子は昼寝の時間で、(ほぼ毎日)誰もいなくなる家に寝ている2人を置いて、ダッシュで往復するのが大変。そして第1子が友達のうち遊びにいくと約束している日など、泣きたくなる。寝ていた2人が戻る前に起きて泣いていたこともしばしばあり、トラウマにならないか心配している。
- 引っ越してすぐの妊娠だったため、病院を探すのに少し苦労した。
- 子どもの成長が遅いのではないかと、どこか悪いのではないかと、不安な時。
- 年子で下の子どもは1ヶ月なので今はよいが、これから先は大変。いろいろな事を考えてしまう。また、今は働けないが、父親がお店を一人でやっているので手伝いたいと思うが、今のままでは不安である。今預けている子どもを半年後も預かってもらえれば、大変幸せと思う。
- 子育てはなるべく若いうちにと、今3人いてつくづく体力的(自分の)に感じている。
- 社会からとりのこされていると感じる時。
- 夫婦2人で出かける機会が全くもてないとき。
- 子どもを出産するまでは、無事に産まれれば“ゴール”のような気持ちがあり、そこから大変な事が“スタート”するとは考える余裕がなかった。今、娘は、2歳9ヶ月になり、だいぶ楽になったが、2人目を産む予定はない。子どもは嫌いではないが、かわいいと思えるのは、自分自身の精神状態がベストの時、病気の時看病していて、もし、自分が妊娠していたり、下の子がいたら自分でやる自信がない。自分の年齢を考えると体力的にも自信がない。近所に児童館、公園もあり、恵まれているが外出(電車に乗って)は、子連れは大変だ。

## 2. 子育てしやすいマチにするためにはどうしたらよいと思いますか？



### (1) 子育て支援サービスの充実(18件)

- 病気の時など、家事を手伝ってくれるヘルパーさんが利用できるようになれば有難い。
- 病児保育ルームを利用している。病気回復期にとっても助かる。もっと増やしていただくと需要が高まると思う。
- 病児保育のできる保育園を増やしてほしい。
- 公的補助はベビーシッターさんなどを利用しやすくしていただけたら、と思う。
- 近くの幼稚園や保育園に一時保育の枠があるといいなと、どうしても思ってしまう。
- 子どもを気軽に預けられる場所の設置（例えば、全ての保育園で一時預かりをするなど）。
- 一時預かりについて（一度も利用した事はないが）、もう少し低料金で預ける事が出来るとうれしい。
- ふみちゃんのおうちは、3時間→4時間利用できるように変更して欲しい。3時間では、髪の毛を切りにも行けない。
- 一時預かり保育の休日への対応（月～金の勤務の人だけでなく、不定休勤めの人もいるので休日も預かってくれるとありがたい）。
- 育児の支援を増やしてほしい（これが一番の願いである）。これは、他のお母さん達とも話題になるが、シビックの一時預かりが使いづらい。預けたい時は、「美容院」「通院」という方が多い。でも「3時間だと足りないから預けられない」と皆さん口をそろえて言っている。「それなら目白に」と思われるかもしれないが、実際、子どもを連れていっただけで大変。仕方なくベビーシッターに頼む方も多い。せめてあと1時間延ばしてほしい。私も2人目を考えるにあたり、通院がすごく心配である。予約制でない所も多いので、あと1時間は、預かっていただくと間に合うと思う。あと3日前からの予約だが、せめて前日（できれば当日）とかにしてほしい。子どもは、夜泣きがつきもの。「1時間でも休みたい」ということがよくあるが、3日前からだと思えない。当日または前日なら利用しようと思う。よくびよびよ広場に行くが、いつもキッズルームは空いていてもったいない。「できれば一時預かりと1日預かりとの選択制、無理ならもう少し長く預かってほしい。あとは、1回3時間10日ではなく、1ヶ月30時間という規定にするとか。予約は、せめて前日まで受け付けてほしい。」これが、他のお母さん達とも一致する意見である。
- 子どもを預けるのに料金が高い。3時間で2,500円もかかると気軽に預けるのは、無理だと思う。
- 区役所のキッズルームを少し大きくして、6ヶ月くらいから預かってくれるととてもありがたい。
- 病児保育、ベビーシッター、一時預かりなどの充実。

- 子どもの一時保育や保育ママなどの制度があるが、事前に予約、登録が必要なので、急に今すぐ預って欲しい時にどこにもそういう場所がないので困る時がある。
- 地域センターの職員の方には申し訳ないが、一日中暇そうにしている方がいるのなら（そう見える）、一時預かり的なことをしてもらえるとありがたい。
- 過日、突然送られてきた子育てアシスト文京おかいもの券、とても助かった。今後も定期的に（年に何回か）続けて欲しい。
- 電車に乗って外出する時、サポートしてくれるボランティアがあれば、子連れでの外出が楽しくなる。自分が買い物している時、近くの公園で1時間ほど遊ばせてくれるなど・・・。
- 0歳児の施設がとても少ないみたいで、しかも料金が高いので、あずけたくても中々入れられないのが現状みたいなので、もっともっと補助金を増やしてもらえれば、出産をしようとする人も出てくると思う。少子化現象が、問題になっている今、真剣に考えて行かないと大変な事になると思う。

## (2) 幼稚園の充実(17件)

- 幼稚園は、地元（近く）が良いのだが、抽選でなくなると良い。勉強のためだけでなく、身体作りもあるので、日当たりもよく、園庭で遊べるのがよい。
- 3年保育が主流の現在、区立の幼稚園は、2年の所が多い事がとても不思議である。それに加えて、3年幼稚園でも（小日向台町幼稚園）、入園出来る人数が少なく抽選、ほとんどが兄弟（姉妹）枠で埋まってしまうというのは、疑問に思う。区立ならば、希望すれば確実に入園できる制度に是非してほしい。
- 区立の幼稚園、是非3年保育にしてほしい。
- 公立の3年保育の幼稚園を増やしてほしい。
- 春日の付近では3年保育の幼稚園が少ないと思う。
- 公立幼稚園は2年保育なので近所であっても3年保育を希望しているので、残念。平日、入園前の子ども達に開放していただいて、楽しく遊ばせてもらっている。
- 幼稚園は、もっと区立を増やしてほしい。できれば3年保育のものがいい。
- ぜひ区立幼稚園の3年制の充実公的補助を。少しずつマンションも建設されているので、子どもの数が増加してきているように感じるので検討してほしい。
- 区立の幼稚園が3年保育でたくさんあるといい。倍率が高く入園させるのが困難な上、選択肢が少ない。保育園もなかなか入れないと聞き、民間の保育園は保育料も高いので困る。もう少し安価の保育料で、気軽に預けられる施設がたくさんあると助かる。
- 幼稚園、保育園とも、その場所により入園できる子どもの年齢がまちまちなので、全部同じにしてくれたらいいと思う。家の近くに入園させたい良い幼稚園があっても、2年保育、3年保育などの理由で行けなくなってしまっている。
- 区立幼稚園の保育内容を充実させ（特色を持たせ）、私立と比較できるくらいにしてほしい。また、保育時間終了後も一部私立のように有料でも預かり保育や課外保育（英語や体操等）を実施してほしい。
- 幼稚園入園で仕事を持つことを考える主婦も多いが、幼稚園は受け入れ時間が短く、就職は現実的ではない。幼稚園に延長保育を設ける事で、保育園か幼稚園かの選択も広がり、保育園への児童の集中も緩和できるのではないだろうか。
- 地方のように、14時降園という中途半端な時間ではなく、16時～17時まで預って欲しい。
- 私立と区立幼稚園の保育料の差が大きいので、私立にもっと公的補助をしてほしい。
- 幼稚園など、園庭を開放して下さる所が多く、とても良いことだと思う。
- 幼稚園の未就園児開放はとても助かっている。公園は人がいないことが多く、安心して遊べる環境ではないこともあり、幼稚園をよく利用している。
- 今、子どもが遊びに行っている幼稚園では、園内で菜園をしたり、動物を飼ったりと、とてもいい経験ができている幼稚園だと感じている。

## (3) 子育てひろば等交流できる場の充実(16件)

- ぴよぴよ広場のような衛生的で子どもが楽しく遊べて、母親同士も気分転換できる場所がたくさんあると嬉しい。ただ、1歳過ぎて歩くようになると、ぴよぴよ広場では充分遊べないので、もう少し広々と遊べる場所をつくって頂きたい。又、土日雨の場合の遊び場がないので、土日でも使用できると嬉しい。

- ぴよぴよ広場はとてもよいので、各地域に同じような施設が出来るとよい。
- ぴよぴよ広場のような施設の充実。ウレタンマットやすべり台等の遊具も設置し、プレイスペースがあるとよい(子どもが身体を動かして遊べるとよい)。
- 子育て広場、ぴよぴよも、もう少し広くスペースをとり、交流の場を持ちたい。そこで母親たちが学べる事も大切だ。そして具体的に訓練を受けた人がまた地域の子育てママとして、託児のサポートをしたり、相談にのる、遊びの提案など、社会にも参加出来ると嬉しい。
- 児童館や図書館以外にも親子で集える場があるといい。土曜日の過ごし方に結構困っていたりする。
- 児童館に乳幼児の部屋を設置して欲しい。現在児童館には、乳幼児を遊ばせる清潔で安全な部屋はなく、AMのみ使用となっているため、利用できない。AMは、家事等で外出できず、結局遠くにあるぴよぴよ広場まで通っている。あるいは、小学校などの空教室を利用するなど。
- 午前中は、児童館や幼稚園など遊ぶところはあるのに午後はほとんどなく、あっても3時、4時で終わってしまうので、5時半くらいまで遊べる場所がほしい。できれば、体育館ぐらいの広さがあって、滑り台など遊具がある室内があったら良いと思う。晴れていれば公園などに行くので、天気の良い時、午後からの遊び場所が全くないのが今の現状だと思う。
- 育児中の人達が集まる場や機会を増やす。他の区よりも児童館でのイベントが少ない気がする。リトミックや触れ合って遊ぶイベントが毎週ある児童館が増えたら嬉しい。ぴよぴよ広場がもう少し広い、または、ねんねの子と走り回れる子が分かれて遊べるスペースを作ってもらえると良いと思う。外遊びを安心してできる場が少なく、みんな悩んでいる。どこか建物の屋上とかにお庭でもできて、シビックみたいにオートロックがあれば、安全面、衛生面(犬のフンとか)も安心である。
- 幼稚園の園庭や児童館をよく利用している。大変助かっているのだが、夏休みなどの長期の休みの間や土日は利用できなかったり、児童館は学童保育が始まると、私のような1~2歳児を連れた親子は利用できない事がある。「小学生が来る事で幼児は安全に遊べない」という理由で入館を断られる事もある。色々な子どもや親子が安心して長時間利用できる(できれば安価で)施設があると本当に助かる。
- 区役所内ぴよぴよ広場に行くための手段がバスしかなく、そのためにたまにしか行けない。児童館の「0歳児あつまれ！」も週1の午前中だけなので、子どもの朝のお昼寝にぶつかったり、家事をしているうちに終わってしまったりでなかなか参加できずにいる。ぴよぴよのような施設をもっと各所に作ってほしい。子育てアシスト券も、豊島区に近い我が家は、ペビー用品を池袋で買うので活用できていない。金券よりも施設を充実させてほしい。もしくは、図書カードやクオカードのようなどこでも使える金券にしていただけると嬉しい。
- ぴよぴよ広場は0~3歳向けなのに狭く、動けるようになってくると遊びに行けない。シビックセンターの中に幼稚園前の子どもが遊べるスペースがあればいいと思う(例えば、空中庭園前のベンチのスペースの隅に室内のおすべりなどの遊具を置くなど)。
- 児童館等の場はとても素晴らしいと思う。こういったところにボランティアでいらなくなった(自宅での)玩具を提供すればいいと考えるが、受け入れの対策がまだされていないようだ。
- 文京区ママ達の現状。「最近どこで遊んでるの？」幼稚園入園までの子どもと初めて外に出て、そろそろ他のママ達と育児についての情報交換をしたいと思う大切な時期である。その頃に、子どもを連れて行っても良いなと思える所は、シビックセンターのぴよぴよ広場くらい。でも、スペースは狭いし、混んでいて、2歳くらいの子供達も走り回っていて、わざわざ行きたくなくなる程ではない。他のママとゆっくり子育てについて語れて、0歳児も赤ちゃんも静かにお昼寝できる広いスペースがある施設があればなあと思う。次に1歳児からは、ハイハイやヨチヨチ歩きが始まる。児童館はどこも床が汚いので、ハイハイは無理だと感じる。しかも小学校の終る頃に学童の子ども達も来るので、1歳児の遊び場はなくなり、帰らざるをえなくなる。西方の子育てひろばは、終園が3時なのでもう少し、延ばして欲しいし、施設を新しくして欲しいと感じる。という事で、文京区のママ達の中には、少しでも安全で、安心、きれいで落ち着ける場所を求めて、他区の施設にまで足を運ぶ人が少なくない。新宿区、豊島区、千代田区等の施設は、前述の項目をほとんど満たし、子育て支援の場として、とてもよく機能しているように思う。しかし、最近では他区からの受け入れに差別化を図る所が出てきている。遊び場とは、単なる子どもを遊ばせるだけの場ではなく、育児に行き詰ったママ達の息抜きのも場であったり、大切な育児情報の交換の場でもある。文京区にも、良い施設はあると思うが、本当に充実していれば、わざわざ遠い他区にまで足を運ぶママ達は、いないと思う。今ある現状の施設をもう一度見直して、他区に負けない子育て支援の場をママ達の声も取り入れて作ってほしい。
- 公的補助があればあるだけ助かるが、無料の親子体操教育やリトミック教室などをやってくれるといい。幼稚園や児童館でもやっているが場所が狭いので、広い会場などで月1回でもしてくれると他のお母さんや子ども達と知り合えていいと思う。
- 今年の9月から、児童館のなかよし体操と後楽幼稚園のなかよし広場を利用している。両方とも毎日実施してく

ださっており、子どもも楽しく過ごしており、なによりも母親同士の付き合いが広がることに喜んでいる。

- 小さい子が参加できる集まりなどの情報や公的な場での主催。同じような人達と知り合えれば話もできて立場を共有できる。

#### (4) 保育園の整備・待機児の解消(12件)

- 少子化といいながら、保育園の待機児童が多すぎる。枠をもっと増やせないのか。
- 保育園入園枠を増やし、核家族世帯の子育ての負担を軽減してほしい。
- 区立の保育園に入れていないので、認証保育所を利用しているが、料金面と交通の便が悪いので、できれば待機児童を解消してほしい。
- 保育園は待機児童がいなくなるよう、また、出産などの短期の預け入れに対応できるよう、施設の拡充を望む。
- 保育園の待機児童を減らしてほしい。
- 保育園の受入数及び延長枠を増やしてほしい。
- 駅に近い保育園がもっと増えれば便利。
- 駅周辺にもっと保育園をつくり（または民間保育園を誘致し）、働く親の送迎をしやすくする。
- 保育園を増やす。定員を増やす。
- 保育園について、100%入園出来る事が理想である。
- 待機児童ゼロへの工夫（大型のマンションも増加しているので、今後待機児童が増加すると思われる）。
- 保育園を増やしたり、幼稚園の延長をしたりはどうか。

#### (5) 公園等遊び場の整備・充実(11件)

- 子育て広場、児童館等遊べる場所があり助かった。でも、外での遊びとなると公園が小さく遊具が少ないのが残念。
- 他の地域に比べて公園の汚さが、目につく。私は、わざわざ車で別地域の公園に行っている。
- 近くの江戸川公園にある砂場であそんでいるとうんちのような、おしっこのような臭いが強くした。他のお母さん達もそのような話をしていた。日光があたっていたので（砂場）それで強く感じたのだと思う。夜になると野良ねこがトイレがわりに使っているらしい。子どもが砂場で遊ぶので、それ以来砂場遊びはやめた。他の公園（家からは遠い）では、砂場にネットをはっている公園があった。やはり、子どもを遊ばせられるいい環境を整えてほしい。
- 公園内の見まわりを昼間でもしてほしい（遊具の上で寝ている人やお酒を飲んでいる人がいると子どもを遊ばせられないので）。
- 公園の砂場の衛生管理をしてほしい（ネットが張ってあってもあまり効果がないので）。
- 公園の遊具が比較的小学生、幼稚園児向けのもが多く、小さい子が遊べるものが少ない。
- 子供とお母さんが安心して遊べる公園がほしい。ぴよぴよみたいに登録した人しか入れないようにして、多少お金を払ってもいいと思っている。
- 子連れで安心して行ける公園（ホームレス対策した）や、商業施設（映画館や子供用品店）、また使いやすい児童館を増やしていただくと、もっと子育てしやすいまちになるのではないだろうか。
- 公園は雑草が生えっぱなしになっていたり、ホームレスがいたりして、安全に遊ばせられない。遊具の数も少なすぎる。公園の数は多いのに、安心して遊べる所が少ない。
- 子どもが遊びやすい公園を整備する。
- できれば土日にも遊べる場所（雨に関係なく）室内があればいいと思う。雨の日はどこにでかけてよいやら。力がありあまっている。

#### (6) 交通機関や道路、移動手段の整備(10件)

- 水道端図書館前の道路の傾斜がきつく、ベビーカーはもちろん子どもも歩きづらそう。
- 最寄駅「江戸川橋駅」のエレベーター設置が中止になりとても残念。子連れでも駅使用がとても苦痛である。これは、子どもにも大人（高齢者）にも優しい街に必要な条件だと思う。
- 東池袋の駅にエレベーターがないのでとても不便。
- 江戸川橋の駅を利用している。役所のカだけではどうにもならない事は承知しているが、エレベーター設置のために何か働きかけをしていただけたら、と思う。子連れだけでなくお年寄りの方にもやさしい町であるために、必要

なものだと思う。

- 駅にエレベーターの設置がなく困る場合がある（例：江戸川橋）。このような駅は区で出資してでも設置すべきではないだろうか。子連れと高齢者が利用しやすくなる。
- 町について。子どもを連れて歩いていると、一人で歩いていた時には気付かなかった多くのことに気付かされる。ベビーカーは道路の段差でつまずき、放置自転車にはばまれる。この放置自転車、文京区は本当に放置しすぎだと思う。豊島区は池袋、目白駅が全国ワースト 1 位になったためか、シルバーボランティアの方を中心に連日撤去し、駐輪場を営み、現在は本当にすっきりした町に変わった。文京区もこれに倣うべきだと思う。
- 銀行や店など段差をなるべくなくす。
- 道ではよく自動車に直面する。
- 都営バスが走っていないような順路に区内の主要箇所（区役所、公園、病院等）を巡回するバスがあれば助かると思う。
- 文京区も他区のように園バスを走らせてほしい。

#### (7) 医療費助成の拡充、子育て世帯の経済的負担の軽減(8 件)

- 医療助成の対象を小学生まで引き上げて欲しい。
- 区内でも多くの区で医療費の助成を改正している。中学 3 年生まで医療費のかからない区もあるほどだ。文京区も改正を望む。特に歯は定期健診にかかるお金もバカにならない。大きな意味で医療費削減にもつながるよう、せめて健診費などは無料にして欲しい。
- 医療費助成期間の中学卒業までの延長。
- 医療費を小学 6 年生まで無料にして欲しい。
- 子育ては、非常に精神的にも大変である。特に子どもが病気になった場合は、大きな心配もある上、仕事の都合をつけなければならないなど、多くの困難を伴う。その上に、医療費は経済的、更に精神的負担となっている。是非、中学卒業時までの医療費の公的負担を希望する。
- 妊婦健診に保険がきくようになってほしい。
- せっかく「文京区おかいもの券」が支給されても、子育てに関係ない物を買うために使えてしまうため、地元商店街の地域振興に貢献するためのものという感がある。それならば、子育て世帯を直接減税した方がいいのではないか。
- 育休で保育園に入れず、民間の託児所にやむを得ず預けなくてはいけない人のために、せめて月に 5000~1 万円の補助をしてほしい。

#### (8) 保育園機能・設備の充実(7 件)

- 保育園は、親から離れて多くの子どもと時間を過ごすという意味で、非常に有意義な時間であると思う。また、親が他の事を行なう上で時間を作ることも出来る。この様な意味で非常に大切である。一方、共働き家庭等でなければ、常時利用出来ない事は、非常に残念である。もう少し、小規模で数が多く地域に根ざしている事が理想と考える。
- 公立保育園でも土曜日預かりを行って欲しい（有料でもよいので）。現在は、土曜日勤務の方などの利用のみになっている。同じく、延長保育も、事前契約者以外も臨時的に利用できるようになるといい。
- 保育園の施設を新しくきれいなものにする。
- 区立保育園の先生にゆとりがほしい（担任の先生は忙しすぎて、実際に子どもに関わっているのは非常勤の先生の方が多く感じる）。
- 仕事復帰予定で育休中だが、上の子は保育園に行っている。上の子がいるときは彼が最優先になり下の子はほっておかれることが多かったり、自分の体調が悪い時に保育園は助かっている。生活のメリハリや対人関係を築く上でも良いと思う。
- 今、保育園に通っているが、大変良い環境で良いと思う。

#### (9) 施設の整備・充実(6 件)

- ~私が望む子育て支援のための公的施設~以下の項目にあてはまる施設を文京区在住者が、自転車、バギー、バス等で行ける場所に 2~3 ヶ所設置する。①幼児期（0~1 歳）、2 歳以上の幼児、小学生以上の子どもと年齢別の部屋を設置。②ハイハイ等するので、乳幼児が遊べる清潔で安全な部屋づくりとおもちゃの設置。③冷暖房、オム

ツ換え、授乳室、ミルクを作れる設備、昼食ができる施設、乳幼児用ベッドの設置等の環境充実。④自転車、バギー置き場の充実。⑤施設そのものが、子育て支援の場として機能し、レクリエーションやセミナー開催を企画し、情報発信の場となる。⑥子育てについて相談にのれるカウンセラーを常時置いて、育児相談ができる場を作る。⑦緊急時の子どもの一時的預かりを、当日でも受け入れてできるよう実施。⑧子ども達が外遊びできるよう、野外に遊具、砂場、水遊び施設を作る。⑨1歳児、2歳児対象の育児サークルをつくる。⑩母親達によるイベントや催し物の運営における活動の場の提供。⑪施設は、年中無休で、どの区の人でも使用できる。

- 上と下が2歳しか離れていないので、2人を連れて遊びに行くことになるが、公的な施設でもトイレの整備がされてなかったり、遊ぶところが限られてしまう。児童館のトイレに補助便座もないのは、おかしいと思う（できればベビーキープもほしい）。
- 児童館や保健センター等、子どもの集まる施設をもっと明るい雰囲気、きれいにしてほしい。
- 本郷保健センターの場所が遠いし不便なので、もう少し便の良いところに移ってほしい。
- 公的な証明書等を発行してくれる出張所を復活させてほしい。
- 乳児健診や歯科健診を受ける保健センターを選ばせてほしい（せめて、初回に選び、その後は同じでもいいので）。
- 区営のプールを作ってほしい。

#### (10) 地域の協力の促進(6件)

- 地域のおじさん、おばさんなど声かけをしてくださると助かる事（気分が楽になる）があるので、お母さんからも積極的に話しかけるのが良いと思う。子どもの遊び場に時間のある地域の人が入れる場があればいいと思う。安全管理の面で難しいかと思うが・・・。
- 各町内会で、幼児対象だけではなく、乳児も対象にした催しも行ってほしい。母子で一番孤独な時期が就園前の時期なので。
- 現在私もマンション住まいで、居住者、また近隣の方との接点がほとんどない。幼稚園や保育園をもっと地域に開放して人を集めたり、園のボランティア活動などで地域に密着させていくとよいのではないだろうか。
- 世間ではいかに長く保育をしてくれるところが（預り保育）いいと言われているようだが、本当にそうなのか。疑問に思う。もちろん経済的な事もあるが、家族のつながりが希薄になっている今、「みんなで家に早く帰って家族団らんしようよ！！」と思うのである。「手作りの料理を食べようよ」と思うのである。地域でお父さんの交流会、おじいちゃん、おばあちゃん、子ども達の交流会、使用されていない児童公園を菜園にしたり、おいも掘りをできたりしたら、とっても楽しそうではないかと思う。埼玉などでは保育園とご老人の施設が一緒になり、子ども達とご老人達の交流の場がある。もちろん様々な問題もあると思われるが、文京区にはご老人の方々も多くいらっしゃる。おじいちゃん、おばあちゃんからわらべ歌を教えてもらったり、子ども達は肩を揉んであげたりなどなど、お互いが生きる力といたわりの心が学べるのではないかと思う。現代の子ども達は与えられるものが多すぎて、もちろん当たり前のようにもなっている。心が置き去りにならないように、将来自分からご老人や障害を持った方々に手をさしのべられるような、やさしい大人になれるように、小さな頃からの経験が大切なのではないだろうか。  
\*おじいちゃん、おばあちゃんは（自分たちの）何か買ってくれる人、おこずかいをくれる人ではなく。
- スーパーやバスでおばあさんに声をかけてもらえたりとチョイチョイお年寄りとの交流はあっても、結局その場限りなので、大塚フレッシュママみたいな感じで、地域のおばあちゃん達も集まってふれあいができれば理想的！同じママ同士の集まりも大切だが、色々なタイプの赤ちゃんを見てきた視野の広いお年寄りのアドバイスはとても役に立つと思うので。
- イベントや行事の際に、近所の方との共同作業をしたり、専門的な方との交流もあると、子どもも色々な体験ができてよいと思う。

#### (11) 子連れで行ける場の充実(4件)

- 親が食事をしている時、子どもが遊ぶ場所（江戸川区西葛西にあるSKIPKIDS）のような所が文京区にもあれば、息抜きできる。
- 子どもを遊ばせながら、親はランチやお茶を楽しめる場があれば、とても嬉しい。
- 子ども連れで行けるレストランがほしい（禁煙で）。
- 子育て用品のリサイクルショップの大きな店があればいい。

#### (12) 路上禁煙対策の充実(3件)

- まず、東京でよく見かける「歩きながらのタバコ」を廃止すべきだと思う。
- 文京区の禁煙も(区全体)お願い出来たら嬉しいなと思う。
- 歩きタバコを禁止する。

#### (13) 子育て支援情報の提供(3件)

- 母子手帳をもらう時、妊娠中、産後に使えるサービスについて教えてほしい。
- 妊娠中、出産後に子どもの通える幼稚園や保育園(公立や私立なども含めて)を相談できたり、提案していただいたり、個別に相談してもらえる窓口があると、とても助かると思う。子育てのビジョンを自分なりに家計的にも組み立てたいと思っていたが、上手に情報を得る事ができずにいる。
- どこにどんな病院があるとかのマップがあるといい。

#### (14) 防犯対策の充実(2件)

- 子育てしやすい町というのは、環境設備、公的補助などいろいろあるが、最終的に子どもや家族が安心して暮らせる、犯罪のない町という事だと思う。幸いな事に今までそういう危険な目にあった事はないが、色々な話を聞くので、心配になる事がある。
- 防犯ベルを持ち歩かなくてもいいよう、地域の目が届く社会になるといい。

#### (15) その他

- 公的補助も大切だが、主人の帰りが早い方が精神的に楽。育児休暇を取得するのは、まだまだ少数だが、取得しない人が出せないなど、考えが変わらなければ少子化は止まらないと思う。
- 小学校の学区をなくしてほしい。
- 幼稚園・保育園に通う年代も義務教育にして欲しい。
- 最近の小学校の統廃合等の話を聞くが、子どもは色々な面で影響を受けやすく、大規模な体制で教育を行うより、地域と密着した小規模なものを公的な学校には求める。単純な経済性による統廃合には、反対である。公的機関の意味がない。削減するのは、他に先行するものがあると思う。



## 資料 6

---

# 家庭で乳幼児を育てている保護者に対する グループヒアリング調査結果

---

### 目 次

- |                 |     |
|-----------------|-----|
| 1. 調査の実施概要..... | 125 |
| 2. 調査結果の要旨..... | 126 |



## 1. 調査の実施概要

調査目的	保育ビジョンの策定にあたり、保育園や幼稚園に通わせず、家庭で乳幼児を育てている保護者の子育ての状況、子どもの育ちや子育てしやすくするために必要としている支援等について把握する。	
調査方法	グループヒアリング調査	
対象グループ	第1回 2歳4か月～2歳9か月の子どもの 母親:7名	第2回 6か月～2歳2か月の子どもの 母親:9名(含む外国人2名)
実施日時	平成19年1月12日(金) 11:00～12:45	平成19年1月19日(金) 11:00～12:30
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てで苦勞していること・困っていること</li> <li>・子どもの育ちのために・子育てしやすくするために、必要と思うこと</li> </ul>	

## 2. 調査結果の要旨

### (1) 第1回ヒアリング:「子育てで困っていること・必要な支援について」

#### ◆養育サポートについて

##### ○家事援助サービス

・家事援助サービスがあるといい。両親など気軽に頼める人は近くにいないので、自分の調子がちょっと悪いとき、時間がほしいときなど、家に来て2~3時間みてもらえると、1か月に1回でも楽。4~5か月のときはおむつがたくさん必要で、トイレットペーパーも買うときなど、ベビーカーを押して、とても大変だった。一時保育は預けられるのは1歳くらいからだし、6か月くらいの子どもを連れて外に出て帰る、というのは手間、負担。

##### ○緊急一時保育・一時保育

・現在、2人目を出産間近で、実家（埼玉）に帰る予定だが、文京区の緊急一時のシステムは、1か月間、3つの保育園で各3人までしか預けられない。そのことを知らず、緊急一時保育に申し込みなかったら、家族が遠くにいる人は、上の子どもも含めて自分ひとりで見ることになる。私が風邪をひいたりしたら、子どもも私もイライラして大変な状況になると思う。その日に言えば、半日でも1日でもみてくれるところがあるといい。

・台東区では、2か月間くらい、1日1000円前後でみてくれるシステムがある。そういうサービスを利用すると子どもも楽しく、親もゆっくり下の子をみることができ、健康的な子育てができると思う。働いているママさんだけでなく、子どもを産んだ後やつわりの時期など、高額でなく低額でみてくれるシステムがあるとよい。

・文京区の一時的保育は高い。自分は働いていないから2500円は大きい。2回利用したら洋服が買えると思ってしまう。どうしようもない場合は仕方がないが、息抜きのためには利用しがたい金額。息抜きできる時間が必要だが、自分がみればただ、と思うと結局息抜きはできない。

・両方の両親とも都内に住んでいるので来てもらうこともできるが、歳をとってきている。これからは「ちょっと助けて」と言えなくなってくるので、一時保育を充実してほしい。

・5日前に登録しないといけないのでは、緊急一時保育になっていない。夏に引越しをした際、両親も手伝いに来てくれなかったし、主人も仕事が忙しかったので、前日1日だけでも4時間くらいみてほしいと思い、緊急一時保育を利用しようとしたが、病気が冠婚葬祭でないとだめと言われた。目白台の一時保育所を紹介されそこに登録をと言われたが、まだ5日前だったが、土日は含まない5日前ということで登録できなかった。結局、徹夜して子どもを寝かせつけながら準備をした。結果的に対応できたからよかったが、それで倒れていたらどうするのかと思う。

・子どもが0歳児の一番手のかかる時期に、私は3回病気になった。そのときは、主人の会社が近く、すぐに戻って来てくれたのでなんとか乗り切れた。これまで一時保育、緊急一時保育など区のサービスを使ったことはない。みんなの話を聞いたり、そこまでしていいものやらと自分の中で歯止めがかかったりして……。ただ、サービスが使いやすいものであれば、もうちょっと気持ちも変わったと思う。病気などで育児できないことで不幸になるのは子ども。例えば、近くの保育園にその日の朝や前日電話すれば、受け入れてくれる体制があれば、すごく気持ち的にも楽になると思う。他区では、保育園全園で緊急一時保育を実施しているところが4区くらいある。文京区は3園だけ。なぜ文京区ではできないのかと、いつも主人とも話をしている。

・急なときに支援してくれる人がいない。母の時代は隣に鍵を預けて、「今寝ているからちょっとみていて」ということもできたが、今は隣にどんな人がいるかわからないし、わかっていてもちょっと怖かったりして頼むことはできない。まちのコミュニティもできていないので、頼れるマンパワーが近くにいない。

## ○2人目以降の妊娠・出産に対する支援

・今、2人目を産むかどうかで、毎日悩んでいる。両方の両親とも大阪だし歳をとっているのも、手伝ってもらってはみこめない。また、2人目を妊娠している人の生活をみていると大変だと思う。保育園もなかなか利用できない、ということも聞いたし、自分だとどうか考えてしまう。緊急一時保育の利用や、2人目を産むときは保育園に入れる優遇措置などがあれば、考え方も違ってくると思う。迷っている人もいっぱいいるのでは。

・2人目を産むときは、1対1から1対多数の関係になるわけなので、思い切りが必要。  
・2月に第2子を出産予定。両家の両親とも仕事をしているので、1人目のときは里帰りしなかった。やはり2人目となると、1人目は外に出て走り回らないとだめなのに、新生児を連れて公園にも行けないし、寒い時期に出産することを考えると、2月、3月をどう乗り切るのが妊娠したときからの課題になっている。家族だけで子育てできるかと考えると、昼間だけでも2歳4か月になる上の娘を預けようと思い、産前産後5か月間は保育園に入る資格があるということなので、12月1日からの入園手続きをしたが、待機児童がかなりいるということで、全部断られた。また、2月、3月は年度替わりなので、出産による一時的な利用だとしても、保育園の新規入園受付は制度的に一切しない、と言われた。緊急一時保育で1か月を限度に預かれるかもしれない、と言われたが、私が住んでいる目白台からは、緊急一時保育を実施している3園はどこも遠い。結局、ぎりぎりのところで認可保育園に空きが出て、2月1日から入れることになったのだが、娘をみる人がいないから、2月まではどうあっても出産できない状態にある。主人と話すのは、今の段階で保育園の利用が決まっていなかったら、不安で精神的におかしくなったかもね、ということ。緊急一時保育しか利用できず、しかもそれがしおみ保育園だったとすると、遠いので何かあってもすぐに会えないし、怖いなと思って。妊娠中をずっと上の子の保育園の心配ばかりして生活していたと思う。そういう不安がないようにしてほしい。2月1日までに産気づいてしまった場合も、すぐに子どもを預かってくれる緊急一時保育があれば、主人が帰ってくるまで上の子を見てもらうことができるが、ひとりで産気づいたときにはどうしよう、というのがあって、今からすぐに連れてきてください、というところが近くにないと、本当の意味での緊急一時ではないと、身近に感じている。今回、出産を控えなければ、保育園について保育課の方とここまで話すこともなく、待機児童が多くて大変、ということもわからなかったと思う。これでは2人目を躊躇する方も多いただろうと思う。

### ◆保育園について

・1人保育園に入っていると、2人、3人産んでも兄弟も預けられる。共働きだと点数が高くて、優先的に保育園に入れるが、専業主婦はポイントは低く、妊婦でもなかなか入れない。裕福だから働いていない、というわけではないのに。1回入ってしまえば制限なしではなく、年度ごとに利用の見直しをするなどしてほしい。

### ◆医療費の助成について

・現在は、就学・までは医療費はかからないが、他区では、中学生までなど、どんどん広がっている。だんだん病気はしなくなるが、歯科検診などにお金がかかるようになる。これからどんどんかかってくるので、医療費の助成を充実してほしい。せめて小学生までにしてほしい。それも2人目、3人目の子どもを育てることにつながるのではないかと思う。  
・医療機関については、救急もちゃんとしているし、総合病院もあるので、充実していてよいと思う。

#### ◆遊び場(公園・児童館など)について

・目白台に住んでいるが、朝から夕方まで安心して遊ばせられるところがない。現在、週に1~2回、みんなで集まっている場に参加しているが、毎日行きたいくらい。今は自転車に乗っているが、ベビーカーを押して出かけるのは大変だった。充実した児童館が身近にあるといい。

・文京区の公園は遊具が少なく、充実していない。子どもも楽しくない。児童遊園はたくさんあるが、住宅地の公園は静かで怖い。住処にしている人もいるし。大きい公園に行くが、遠い。他区の公園に行ってしまう。

・教育の森公園は、小学生むけなのか夕方は混んでいるが、午前中は人が少ない。遊具がいっぱいあるのに。ベンチのまわりや遊具のまわりにタバコの吸い殻が捨ててある。子どもは拾ってしまうので、すごく怖い。

・千代田区の禁煙条例のようなものに文京区でも取り組んでほしい。歩きたばこはちょうど子どもの顔にあたる。子どもは危険を察知してよけることはできないし、やけどではすまない。

・0~1歳のときはハイハイで、公園にも行かれない。児童館は、午後は大きい子がいるから危ないと、利用時間が午前中に限られている。夏休み・春休み・冬休みは午前中も行かれない。また、お昼ご飯が食べられず、午前中で帰ってくださいと言われると、午後どこで遊べばいいのか困る。結局、電子レンジやポットやお皿が用意してある、他区の児童館に行く。新宿区ではビルごと児童館で、フロアごとに利用年齢がわかれている。そこまで完備するのは無理でも、もう少し考えてほしい。

・児童館施設が老朽化している。アスベストなどの問題が心配。子どもがハイハイしている場所は、ストッキングだとひっかかりそうな場所だし、暖房がなくガスファンヒーターで十何畳を暖めていて、寒いのに子どもは滑るから裸足にして、と言われる。電子レンジも古いものでも1台あれば、夏、保冷したお弁当を持って行き、その場でチンできるのに、お弁当を持って行くこともできず、外で買ったりしている。そういう不便がある。

・在宅で子どもを育てている家庭は多いはずなのに、一生懸命外に出てきてコミュニケーションをとっている人は決まっているとか、いつも顔ぶれがいつしょ。その人たちに会うと、合言葉のように「どこで遊んでいるの?」と言っている。返ってくる言葉は、千代田区、新宿区、豊島区など。「私たち、ジプシーのようにさまよっているよね」という話になる。豊島区では、一時保育のほか、遊具も充実している、母親同士がレクリエーションできる場もある、ママサークルをつくれる場もある複合施設として子ども家庭支援センターがあるが、文京区にはない。予算をとる、税金を投入するのは難しいかもしれないが、そうした子ども家庭支援センターのような施設を、廃校にする小学校などを有効利用してつくってもらえたら、ぜんぜん違うと思う。

・文京区の児童館は使いづらい。「畳の部屋がありますから」と言ってくれるが、2歳くらいになると畳の部屋では遊ばない。ホールに出たがるのだが、お兄ちゃんたちが遊んでいる。児童館は学童のために建てられた施設だから、私たちが無理を言うのも引け目があり、言いづらい面もある。

・児童館ジプシーになっている私たちを救ってほしい。文京区の児童館に他区の人が来ていることはほとんどない、魅力がないのだと思う。他区の施設を利用する場合にはいい顔をされないこともある。税金を払っているわけではないので、向こうとしては使う権利はないですよ、ということになる。それは当然、仕方ないとは思いますが。

・年齢に応じて、安心して1日遊べる場所がない。「午前中ここの施設で遊んで、ご飯を食べたら、午後はどここの幼稚園の〇〇会に行こう」というのが1日の過ごし方で、はしごしないと1日が過ごせない。1日中さまよっている。自転車で坂道を移動しているので、一度雨がふると友だちに会えないし、子どもと2人でもんもんと過ごすことになる。

#### ◆交流(コミュニケーション)・仲間づくりの場づくりについて

・夫がフリーランスで仕事をしており、子どもが生まれてしばらくはちょうど時間があるときで、水道児童館が近くにあるが、去年の6月まで行ったことはなかった。ふみちゃんのおうちには、友人が連れて行ってくれたのだが、職員の方から「おすわりのできない子はまだ来ちゃだめ、小さいのでまだ来るのは早い」と言われてしまい、それ以来、足が向かなくなかった。それで、夫に交代でみてもらったり、小石川後樂園の年間パスポートを買い、遊びに行っていた。友だちはいなかったが、主人がいたから助かった。6月にたまたま出会った人から「児童館に行こう」「幼稚園において」と誘われ、行くようになったら、子どもも楽しいので「行く、行く」と言い、それで初めて子どもから開放された。初めてのところに行くのは勇気がいるのに、ふみちゃんのおうちでは、最初のきっかけのときに、親切なのかもしれないが、あまり対応がよくないと感じてしまった。

・児童館に初めて行った日も、たまたまみんなでお出かけに行った後で写真を配ったりしていて、ひとりぼっちになってしまった。初めて来た人の自己紹介をする機会はないし、職員さんによってはみんなに紹介してくれる人もいるが、ない場合もある。私も、初めての人には声をかけてあげたいと思うが、すーっと帰ってしまう人も多く、外で会ってもなかなか声はかけられない。自分も拒否された経験があるので、逆に拒否されたように感じて児童館に来なくなってしまった人をみかけると、「いらっしやい」と言ってあげたいがなかなか言えない。こうやって集まると、子育て世代はいっぱいいるんだ、と思うが、普段はわからない。

・近所に子育て世代がいるかどうか、同じマンションにいるかすらわからないのが現実。児童館で会って話して初めて、近所であることがわかることもある。そのくらい近所づきあいが希薄。

・地域に根付いた子育ての場がないから知り合う機会もないし、まわりのことがわからない。

・お祭りなどの行事も町内でやっているが、あまり知らされていないので参加できない。マンションに住んでいると町内会費を払っていないので通知は来ない。まち自体の関係も希薄だから、マンション住まいではなおさら。

・私が住んでいるマンションは規模が小さく、4組くらい週に1回くらい会うが、外に出ているのは自分だけ。1人は公園でだけ遊んでいて、あとの2人は全く外に出ない。行ってもなかなかなじめないよう。子育てをしていると同じ悩みを抱えているので友だちになりやすいと思うので、そういう場所があればと思う。小日向台の児童館を利用しているが、場がもったいない。なんとかお昼のスペースをつくってもらったが、それでも2~3時には帰ってくださいという感じ。2~3時くらいからまた会話が盛り上がってきて、色々な悩み相談も出てくるのに。お昼の時間はすごく重要な時間だと思う、情報交換ができるなど。

・水道児童館は、お弁当を食べる場所はないし、食べていいかどうか書いてないし、聞けない。

・久堅児童館の0・1歳の集まりに何度か行ったが、もともとの輪ができていて、初めて行っても紹介もない。受け入れ側の体制を考えてほしい。私は大塚ママができて、ようやく地域の近くの友だちに会うことができたが、それまでは同じ人とばかり遊んでいた。

・フレッシュママのような場・機会がいっぱいあるといい。みんなそこで知り合い・顔見知りになっているので。

・フレッシュママがあるから来てください、といっても、バスでとなると、2~3か月の子どもを連れて行くのは大変。また、月1回でなく毎週あるといい。それが楽しみだったので。

・フレッシュママで友だちができて、月1回しかないのも、各お家に集まろうとなるが、やはり限界がある。誕生会、クリスマス会、七夕会などをみんなですりたいと思うのだが、場所がない。

・地域センターも、場所は貸してくれるが飲食禁止でお祭り騒ぎはできない。パパも来れていい雰囲気になると思うのに。せめてもう少し集まれる場を貸してくれると、集まりやすい、遊びやすい。

・子ども家庭支援センターのような大きいものがあれば、すべてそこに集約できてよい。緊急一時保育も全園にあるとありがたいが、全部が全部保育園に、では保育園もアップアップになってしま

うと思う。区にセンターが2か所くらいあれば、今までの悩みは解決されるという気がする。

- ・高齢の方の病院や施設利用などとあわせてでいいので、巡回バスがあるといい。
- ・シビックセンターにあるびよびよひろばは、狭いし、部屋の感じが暗い。狭いから子ども同士が接触してしまって、1歳になるくらいまでが限度。このビルにあればだけのスペースしかないというのはもったいない。アクセスがいいところなのに。
- ・私たちはまだ子育て2年目、3年目。子どもが育って行くのと親が育つのは表裏一体だと思う。母親側からこういう施設を増やしてほしい、緊急一時を増やしてほしい、ということ言うと、昔はそうでなかったとか、親の便宜だけ図って子どもはどうなの、という意見もあると思うが、親が育つのと子どもが育つのはいっしょだと思うので、そこを切り離してはいけないと思う。こういうふうに話しているときに親が育つ、コミュニケーションする場を通して、「こういう考えもあるよ」ということで親も育ち、それがまた子どもにも返ってくると思う。もっとコミュニケーションの場を重視して考えてほしい。今は集まる場所もない状態だし、決まったグループだけで入園・までいってしまうのはもったいない。地域にはいいお母さんがいっぱいいるので。

#### ◆子育て支援策全般について

- ・自分は高齢出産だったが、やっぱり体がきつい。産むのは産めるが育児がきつい。そういう人は自分くらいかと思ったが、顔ぶれをみているとそんなに年齢は変わらない。文京区のお母さんの年齢は全体的に高いと思うので、他の区に比べて子育て支援施策を充実してほしい。文京区のママさんは真面目で、母乳だけでなど、育児に一生懸命がんばっている人が多いので。
- ・教育がいいということで文京区に移り住んで来る人もいるが、文京区で産む人はどうするのか。都心回帰でマンションも増え、子育て世代も増えてきているので、支援を充実してほしい。小学校にあがるまでの支援が足りないと思う。
- ・これまで子育て支援というと働くお母さんへの支援だった。これからは在宅育児に関する支援を充実してほしい。在宅なのだから子育てが仕事、と言われればそれまでだが、24時間365日同じ相手と3年間いてごらん、と言いたい。働くお母さんは保育園に子どもを預け、お金は払っているにしても、その分自由な時間を得ている。私たちはコーヒー1杯飲むのにも苦労している。
- ・私たちはそもそも社会との接点がない。働くお母さんたちは社会との接点があるので、その点で不平や不満が表に出やすいのでは。私たちの不満はこういう場がないと訴える機会がない。

#### ◆幼稚園について

- ・3年保育を実施する区立幼稚園を増やしてほしい。
- ・児童館での話題は幼稚園をどうするか、ということばかり。坂がないし、近いのは区立幼稚園なので、区立幼稚園に入れたい人が多い。私立幼稚園が定員割れでつぶれては困るという理由で、区立園を増やせない、という話を聞くが、それはどうなのかと思う。区立幼稚園は定員が少ない。小日向台町幼稚園は兄弟枠の関係で、4人しか募集しなかった。
- ・青柳幼稚園は2年保育だが、10人以上集まらないとその年度はスタートしないらしい。区立なのだから、行きたい人がいれば何人でも運営するのが当たり前ではないか。
- ・区立幼稚園でも子育てひろばのようなものがある。それもいいが、まず幼稚園運営をきちんとしてほしい。
- ・児童館の仲間で結託して、「今年はこの幼稚園に申し込もう」としないと、幼稚園運営自体がされない可能性がある。みんなの意向を聞かないと幼稚園が決められないこと自体、おかしいと思う。
- ・私立は3年保育が多く、みんな早く手を離したいので私立幼稚園に入れてしまう。4歳から区立保育園に編入という子どもも慣れているのにかわいそう。そういう人もけっこういるらしいが、幼稚園はとりあえず3歳は私立に入れておくか、というところではないので、編入するというのでは

意味がない。区立を全部 3 年保育にすればいいのでは、と思ってしまう。しかも、人数が少ないと運営されないなんて、まったく意味がない。

・後楽幼稚園に入れようと思って、3 歳児の間 1 年を過ごしているのに、受け入れない、ということになったらどうするのか。また一から幼稚園探しで、今度は幼稚園ジプシーになってしまう。悩みはつきないが、そんなことで悩まないといけないのはおかしい。9 月から 11 月は、幼稚園の問題でみんなぴりぴりしている。

・区立幼稚園は近いので、区立幼稚園に入れたい。小学校といっしょになっているところもあり、小学校にあがったときも友だちと馴染んでいてよい。

・それが地域、地域に根ざした教育だと思う。遠い幼稚園に入れて、小学生になったら学区があるからと近くの小学校に引き戻されるのでは、地域のつながりがない。中学校は希望で行けるので、またぶちっと切れてしまう。何か一貫性がない。その一方で、小石川中学と小石川高校がくっついて一貫性を求めているたり、どこに一貫性を求めているのか、区がやりたいことがわからない。住んだ地域で、安心して幼稚園から中学校まで行けるようにしないと。いつも次どこに行こう、とそればかり悩むことになる。

・知り合いは、上が小学校で下が 2 歳。将来礪川小学校がなくなるが、金富小学校も 2 クラスなので礪川と合同になるかもしれない。下の子のことを考えると、これからどうなるかわからない学校に行くより、マンモス小学校に行った方がいいから、4 月から引っ越すということだった。安心して幼・小・中まで行けるようにしてほしい。

・私立に入れるわけではなく公立に行くのに、進路に迷うのは困る。常に行き先を見極めないと、安心できないしあぶれる可能性がある。早く動かないと、という脅迫観念がある。

・子どもが減っているからこそ、区立幼稚園を充実してほしい。文京区は教育がすごい、と言われるが、現実には幼稚園すら困っている。

## (2)第2回ヒアリング:「子育てで困っていること・必要な支援について」

### ◆相談・情報について

・子どもを産んでから、どこになにがあるのか、どこで遊ばせたらいいのか、どこに行ったら同じくらいの月齢の子どもをもつお母さんに会えるのか、子どもが0~1歳の間はキリキリして過ごしていた。そういうときに駆け込み寺的な、相談できる場が身近にほしい。子どもを産んでからは体調を崩すことが多くなったが、夫も仕事が忙しく、そういうときにどうしたらいいかわからずとても困った。あらかじめ相談できるところがわかっているとありがたい。

・私は保健師さんに電話して聞いている。親身に相談にのってくれる。私は子どもを産む前に体調が悪くて、不安定な時期があった。そういうときは保健師さんに電話して相談にのってもらった。保健師さんは忙しくて、つかまらないこともあるので、ホットラインのようなものがあってもいいのかなと思うこともある。

・他の区では、どこどこで不審者がいたというメーリングリストによる情報発信があるらしい。子育てについても、そういうものがあればいい。

・メールなら携帯を使った情報提供がいい。携帯で見れるか、地域の掲示板とか、紙のものがいい。パソコンに向かう時間はなかなかとれないので。

・子育て家庭向けの区報があったらいい。区報は色々なことが書いてあって見にくい。シニア向けの話題が多く、子どもの情報が少ない。

・情報は、児童館でママさんから聞いたりというくらい。サービスはよくわからない。児童館に行くようになってわかるようになった。

・新宿区では区のサービス以外のものも含めた、いろいろな子育て関連情報が載っている冊子がある、という話を聞いた。文京区でもぜひそういうものを作ってほしい。

・悩みはたくさんあるが、保健師さんからは、話を聞いてくれるより、言われてしまう。アドバイスをたくさんしてくださるが、それよりも、こっちの話を聞いて、いっしょに考えてくれる人がほしい。話してしまえば、楽になるので。相談することに対して、10くらいの課題を与えられてしまうことがあるが、それだとかえって不安になり、相談しなければよかった、となってしまう。相談の場では、私たちの話をじっくり聞いてほしい。自分の子育てをほめて認めてもらいたい。そういう機会を健診のときなどにつくってほしい。けなされるより、ほめられたい。方向を示してくれるのもいいが、まずは、ほめて、安心や励ましがほしい。そうであれば、親も励みになる。

・保健師さんでも子どもがいる・いない、年配・年配でないがあり、人によってアドバイスや態度がぜんぜん違う。保健師さん教育も必要。私たちは聞いてほしい、ストレスがたまっている、といことを前提に話をしてくれると、すかっとして帰ることができると思う。

・保健師さんに、実はいろいろ相談したいことがあるのだが、電話も苦手だし、直接ならなんとかなるが、行かないとできないから相談できない状態。勇気を出してお母さんに話しかけて聞いて…という感じで情報を得ている。情報はなかなか入手できない。外国人なので電話は苦手。

### ◆養育サポートについて

#### ○緊急一時保育・一時保育

・子どもを産む前に想像していたのと違い、現在は自分の時間が全くもてない状況。自宅でできる仕事をフリーでしているが、子どもを産んだ後でも少しでもいいから仕事を続けていないと、復帰が難しいと感じている。保育所に預けることは考えていなかったが、一時的に預かってくれる保育場所があるといい。一時的な保育場所が自分の仕事等にあったところと思っている。

・週2日程度の日数で預かってもらえるところを探しているが、今は預かってもらうところが見つからない。結局、保育園にも応募したが、フリーであるがゆえに、条件的には難しい状態にな

っている。

・フリーで仕事をしており、自宅で作業できたらいいと思っているが、子育てをしながらだと時間が取れず、仕事はできない。軽く家で仕事してみたが、子育てをしながら仕事をするのは、体力的に困難。しかし、ずっと保育園に預けるという決心はついていない。私の場合は、1日のうち2～3時間程度、保育してもらえる場所で、仕事にも対応できる。そうした予約ができる一時保育の場所がほしいと思っている。預けないで家で仕事するのはきつい。

・一時的に預けられる先を確保すること、生活に補助がないことをどうにかすること（児童手当もほんの少しである）、そのあたりをどうにかしてほしい。緊急一時保育は冠婚葬祭などの理由に限られている。気軽に預けられる場所がないと、大変という気持ちがあり、気持ちの面であせってしまう。

・都会は、実家とはなれて暮らしている家族が多い。夫と2人で子どもを育てるとなると、本当に大変。自分が風邪を引いたときとか、大きな病気ではないときに、子どもは休ませてくれないし、夫も仕事は休めない。簡単に預けられるところがあればいい。

・託児はとても大事と考えている。1日中ではなく、半日でもいいから託児できるところがほしい。半日ならば、もっとたくさん子どもが入ることができるのではないかな。

## ○2 人目以降の妊娠・出産に対する支援

・仕事をしないと、環境は裕福というわけではないから、2人3人はこのままでは産めない。

### ◆医療費の助成について

・不妊治療に対する経済的支援もしていくべきだと思う。やっと1人産んで働こうとしているところでいっぱいなのに、2人目、3人目をつくらうなんて絶対にありえない。経済的な支援という、もっと見せかけではなくて、子どもをつくるというところから考えていかないといけないのではないかなと思う。

### ◆産じょく期について

・子どもが産まれてから2か月くらいは、気合で乗り切った。だれも手伝ってくれる人もいないし、今だけだからがんばるしかないと思い、がんばった。

・私は乳腺炎を繰り返したり、なかなかおっぱいが出なかったりして、週に1回くらい、子どもを産んだ病院に行っておっぱいマッサージをしてもらったり、いろいろなアドバイスをもらっていて、それでとても助かった。子どもが2～3か月のときは、どこにも出かけられないお母さんが多いと思う。私は、親も近くにいなかったのも、病院の看護師さんが親代わりようになってくれ、病院に行くのが楽しみだった。

・文京区の辺りでは、おっぱいマッサージなどは有料。入院しているときは相談にのってもらえるが、予約制だし有料だし、見ていただく、という感じでつらかった。

・私が乳腺炎になったときは、子どもを産んだ病院でないところでは、産んだ病院に相談をして、と言われ、対応してもらえなかった。

・私は逆におっぱいが出なくて、おっぱいが出るようにマッサージをしてくれるところに行ったが、30分のうち20分くらいはずっとしゃべりまくり、ずっとぐちを聞いてもらった。つらかったが、その人のおかげで乗り越えることができた。

・おっぱいの問題はけっこう大問題。出るなら出るで大変かもしれないが、おっぱいが出ないことで、母親として失格なんじゃないか、と感じてしまう。

・母乳が出づらくて苦勞した。母乳をあげないと自分自身にも罪悪感があるし、まわりも何気なく「おっぱいな？」と聞くが、出ない人にとっては、プレッシャーだったりする。

#### ◆保育園について

・保育園については、保育園が少ないという印象。保育園数、募集人数の少なさにびっくりしている。復帰するのに、預かってもらえないということになると、自分が追い詰められるような気がする。

・今は、保育園が一番の課題。実家や勤務先が近いため、保育園にはなかなか預けられないのではないかという不安がある。実家が近くても、親が高齢だったりして、実際には面倒をみてもらえないことがある。親に預けられない家庭の事情があっても、それを考慮してもらえないというのは問題。保育園の入園は点数で判断するのであろうが、私たち一人ひとりの深刻さを反映できていないと感じている。

・実家の近くに住んでいるには、それなりの理由がある。文京区は家賃も高いし、家を借りて住むことが大変。それで子育てしてくださいといっても、困難。親の近くに住まないと、生活面で成り立たないということもある。親が近くにいるからといって、保育園に入りにくいというのはおかしい。

#### ◆遊び場(公園・児童館など)について

・公園で遊んでいるときに、怪しい人がいることがある。話しかけられたりなど、怖い思いを何度か経験した。子どもは公園で遊びたがるのが普通であり、安全な公園が必要。安全対策としては、見回りをするとか、とにかく何かしてもらわないと困る。

#### ◆交流(コミュニケーション)・仲間づくりの場づくりについて

・外国人として、同じくらいの子どもをもつママさん同士でコミュニケーションできる機会がない。言葉が同じママさんたちと話せる場・交流できる場がほしい。

#### ◆幼稚園について

・現在、苦勞しているのは、文京区の幼稚園について、園の送り迎えのバスがないこと。私の場合、上に子どもがいるが、上の子の送り迎えをするにも、下の子がいるので本当に大変。園バスをつかってほしいと願っている。

#### ◆労働環境について

・夫婦で子育てしている我が家では、夫が頼り。いつも5時半になると夫に「迷惑メール」をしている。夫は行政の仕事をしているのに残業がある。みんなのお手本になって、早く帰ってこないといけないよ、と言っている。パパは残業をしないということにすれば、本当にいいのにと思う。

・私は休職に入る前に人事部門にいたので、休業される方が復帰できない、という話を聞いたりしていたが、いざ自分のことになって、こういうものなのかと実感した。会社では、○曜日は○時に帰りましょうということをやっているが、実際には難しい。事実、いつも帰りは遅い。会社は、社会のために子育て支援する、子育てしている家族を支援する姿勢をだすべき。

・一時預かりは夫の代わりのようなもの。会社も変わらないと、夫は育児ができない。

・私の場合、上司には子どもがいなくて、子育てについて困っている状況をどこまでわかってもらっているかが不安。

#### ◆まちづくりについて

・子どもと行きやすいレストランや喫茶店などあればいい。コーヒーを1杯飲んでいる間だけでも、子どもをみてもらえるところがあるとうれしい。

・子どもを育てる基盤がない、と子どもを産んで初めて感じた。文京区は坂が多いので、幼稚園への自転車での送り迎えさえ危ないと思う。子育て支援の目線をどうしたらいいのかなと思う。自分が子どもを持たないと駅の大変さも体験できなかった。区だけの問題ではないが、なんとかしてほしいという気持ちがある。ベビーカーを押してブロックは歩きにくい。生活の基盤を整備する視点が、すべて大人の目線・大人中心で決められてしまっている。もっと子どもの目線で考えてほしい。

・文京区は坂道が多いので、ベビーカーが斜めになったりして危ない。道を整備すること、歩道を確保することが希望。

・ベビーカーを押してトイレに行きたいときは、ベビーカーもいっしょに入ってしまったほうが私も楽。公園などでも多目的トイレを整備してほしい。女子トイレでなく、多目的トイレであることが重要。

#### ◆家族や周囲の理解・協力について

・年配の方のさりげない一言に傷つくことがある。アトピーでしっしんになっていたりと、かわいそうね、などと言われる。相談する相手がいないこともつらかった。

・おじいちゃん、おばあちゃんにも教育を受けてほしい。今は風邪でもお風呂に入れてもいいとお医者さんに言われることがあるが、逆に上の世代の人におこられたりする。

・自分の母親でもギャップを感じることもある。予防接種してくると今日お風呂に入れちゃだめよと母は言う。医者を入れてもいいと言う。育児の方法や常識もどんどん変わっているので、夫も含めて、家族教育をしないとだめかなと思う。

・うちは離乳食をおばあちゃんがチェックする。励みでもあり、ストレスでもある。離乳食を6か月から始めたのだが、おばあちゃんからは5か月で始めなさいと言われ、その1か月間は、すごくストレスがたまった。同様に、おばあちゃんは、おやつはバナナがいいというが、保健所では南の果物はできるだけ後でと言われた。でもおばあちゃんはバナナをすすめる。

・子どもに日焼け止めを紫外線対策としてぬっていたが、義理の母がそれを見て後になって言われて、そのときは「ずれ」を感じた。これからも「ずれ」は出てくるし、今もそれを感じている。

・老人会などで子どものこと、子育てのことなどを勉強してほしい。孫に好かれるための本があるくらいだから、おじいちゃん、おばあちゃんの「子どもの子育てに参加したい」という気持ちを活かすことも重要。

・子どもが生まれる1か月前に母がなくなり、夫と2人で子育てをしている。生まれた後、どうやって乗り切ったのかは忘れたが、つらかった。夫がいるとき、珍しく子どもがニコニコと機嫌のよいときがあった。そのとき、夫は「今のうちに、家事をやったら」と言った。すごく頭にきた。夫は子育てのことをわかっていない。

・夫教育をしてほしい。夫に悪意はないが、子育てについて理解してもらうのに時間がかかる。

・両親学級に夫をひっぱっていった。子育てに関する家族教育を区でやってほしい。

・家族や夫は、子育てについてわかっていない部分がありすぎる。まずは夫に理解してもらう教育が大切。

・我が家では、子育てをしていく中で夫が変わってきた。子育てをする、ということが私の仕事で、大変なことをしている、ということを知ってもらえるようになった。そうなることで、自分も子どもに優しくなれ、がんばれていると感じる。



## 資料 7

---

# 文京区立保育園保育士アンケート 分析結果の報告書

---

### 目 次

I. アンケートの問題意識と特徴.....	139
II. アンケートの企画・実施・分析の経過.....	139
III. アンケートの分析結果.....	139
IV. 付記.....	158
付録資料① 調査票.....	159
付録資料② 回答一覧.....	170



# 文京区立保育園保育士アンケート 分析結果の報告書

報告者

特定非営利活動法人なかよしの家

理事 飯田 恭

正会員 飯田 陽子

## I. アンケートの問題意識と特徴

本アンケートの第一の目的は、文京区立保育園保育士の先生方に、日ごろ接している子どもたちの様子・生活習慣・生活環境（とくに「生活リズム」「食生活」「友だち・先生・家族とのコミュニケーション」など）について、家庭での育ちも視野に入れながら回答・記述していただくことであった。

本アンケートを発案した報告者兩名は、保育園児の保護者でもある。私たち保護者は最近、保育園利用者アンケートなどを通じて、保育園や保育士に対する評価を行う機会が多い。しかし他方、私たち保護者は家庭等において、子育て主体としての責任を十分に果たせているのであろうか。その点について、長年にわたり、毎日長時間子どもたちと接していらっしゃる保育士の先生方から、是非とも忌憚のないご意見（問題点の指摘）をいただき、それをもとに、私たち保護者が自らの子育てのあり方を見つめ直すことができれば、という思いから、本アンケートの実施に踏み切った（付録資料159頁、調査票1頁「アンケートへのご協力のお願い」参照）。その意味で、本アンケートは「問題発見」のための調査である。

もっとも、アンケートの結果浮かび上がってきた「子どもの育ち」に関する幾多の問題は、保護者ないし家庭の努力だけで解決できるものではないと思われる。今回の文京区保育ビジョン策定をきっかけとして、区、保育園、幼稚園、地域住民、企業、小中学校、関係の専門家などが家庭と協力して問題解決のための方策について議論を始め、それが実行に移されることを切望する。問題のしわ寄せを受けているのは、人生の基礎を築く上でかけがえのない時期を過ごしている「子どもたち」にほかならない。

第二に、本アンケートでは、保育園の現状や保育園が今後担うべき役割について、文京区保育ビジョン策定との関連で、文京区立保育園保育士の先生方のご意見を伺うこととした。

## II. アンケートの企画・実施・分析の経過

- |            |   |
|------------|---|
| 平成18年10月4日 | 報告者兩名が協働で案出したアンケート素案を、飯田恭が第2回保育ビジョン策定検討委員会に配布・提示。   |
| ～11月6日     | 報告者兩名が調査票案を作成し、吉田シズ子委員（水道保育園園長）・コモン計画研究所・久住智治保育課長・小野寺素子保育計画調整担当からコメントを受けつつ修正を重ねる。11月6日に調査票完成。 |
| ～11月下旬     | 久住課長・小野寺担当の仲介で、アンケート実施。   |
| ～12月12日    | 全回答のデータ入力及び単答式回答部分の分析を、コモン計画研究所が実施。   |
| ～平成19年2月1日 | 記述回答部分について、報告者兩名が分析を進め、2月1日の第7回保育ビジョン策定検討委員会にて分析結果の概要を中間報告。                                   |
| ～3月        | 報告者兩名が分析を継続、完了。   |

## III. アンケートの分析結果

### 1. 注意

以下、本アンケートの分析結果について報告するが、とりわけ記述回答部分の分析結果報告について予めお断わりしておきたい。記述回答部分に関しては、287名の回答者から、しばしば長文で、多面的な要素・ニュアンスを含む回答をいただいた。報告者は、ここから読み取れる主要な傾向を出来る限り正確に捉え、提示しようと努めたが、本報告にさまざまな限界があることも事実である。まず、限られた紙幅の中ですべての論点をすくいあげられたわけではなく、重要であるにもかかわらず言及しえなかった論点も少なくない。また、報告者による回答の分類は、あくまで一つの分類であって、決して絶対的なものではない。別の分類の仕方も当然ありうる。さらに、仕事と子育ての合間をぬって膨大な記述回答の分析を行ったため、少なからぬ誤りも含まれていると思われる。

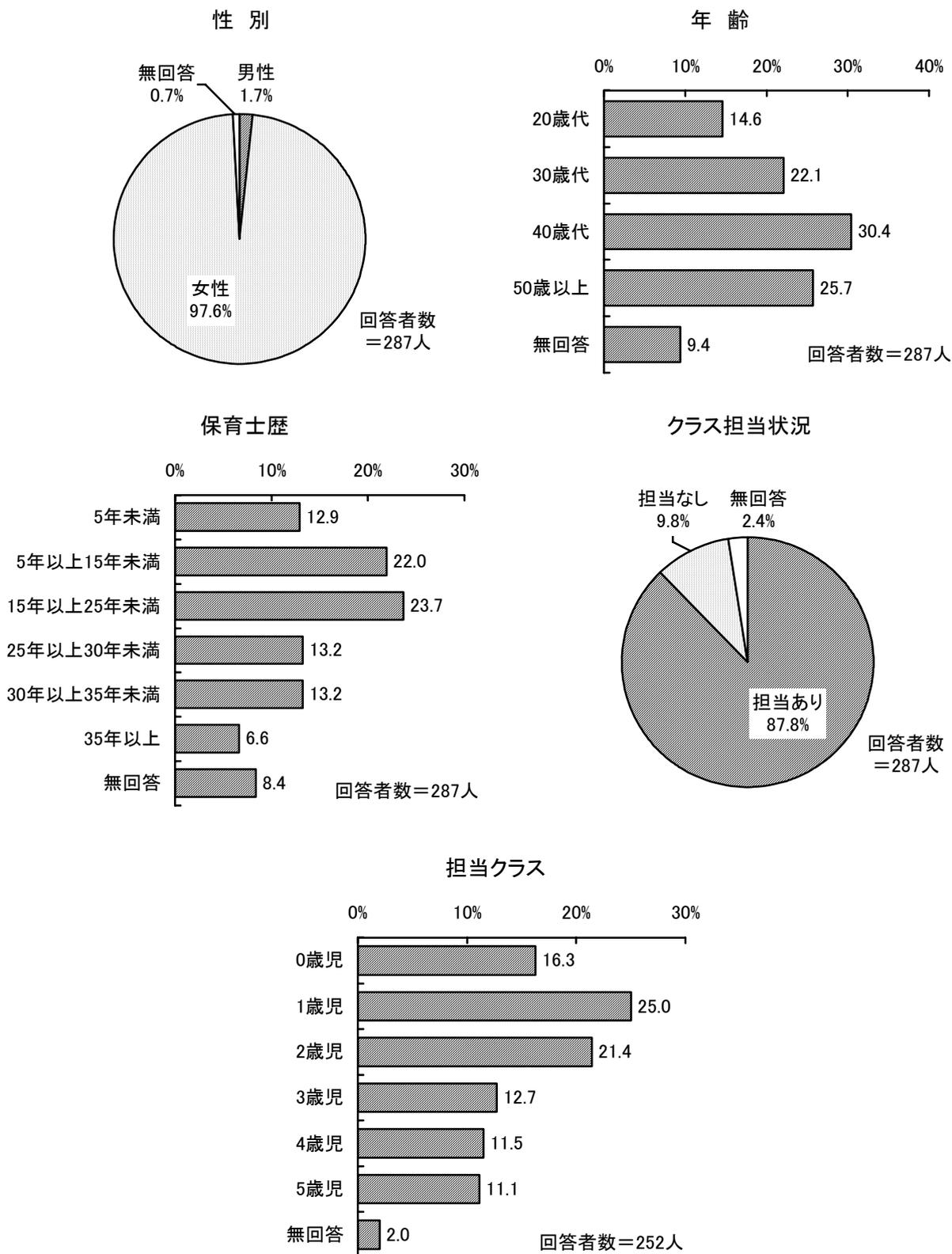
そこで、読者が本報告を検証できるように、付録資料として、記述回答のほぼすべてを掲載した。もとより本アンケートは個人が一切特定できない形で行われたが、それでも公開に支障があると思われるものについては、適宜文意を損なわぬ形で加工したり、場合によっては削除した。是非とも付録に収められた「生の声」をご参照いただきたい。

## 2. アンケート対象者(回答者)について【設問(1)(2)(3)】

アンケート対象者：文京区立保育園（公設公営園のうち柳町保育園を除く17園）に勤務する保育士  
366名（保育士資格保有者。内、正規職員273名・非常勤職員93名）

アンケート回答者数：287名（回答率78.4%）

アンケート回答者内訳：



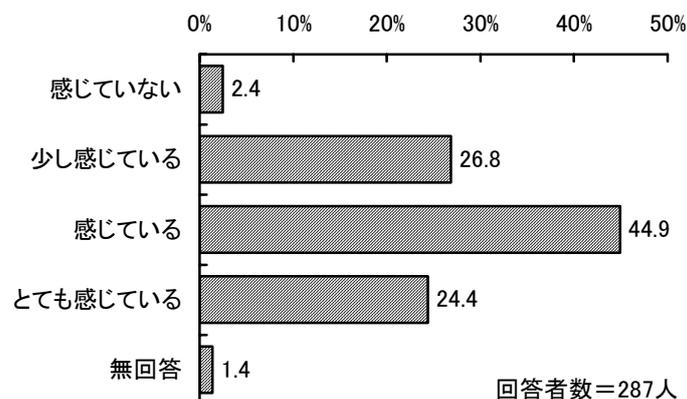
### 3. 回答の分析

#### 3-1. 子どもたちの日ごろの様子・生活習慣・生活環境について

##### 3-1-1. 「生活リズム」について

###### 【設問(4)】

子どもたちの「生活リズム」に（どの程度）問題を感じているか、というこの設問に対する回答は次表の通りであった。



また、回答の年齢別・担当クラス別の内訳は次表の通りであった。

		回答者数(人)	感じていない	少し感じている	感じている	とても感じている	無回答
全体		287	2.4	26.8	44.9	24.4	1.4
年齢別	20歳代	41	4.9	43.9	39.0	12.2	0.0
	30歳代	62	3.2	30.6	38.7	27.4	0.0
	40歳代	85	2.4	22.4	50.6	24.7	0.0
	50歳以上	72	1.4	25.0	44.4	27.8	1.4
担当クラス別	0歳児	41	4.9	36.6	36.6	22.0	0.0
	1歳児	63	0.0	31.7	44.4	22.2	1.6
	2歳児	54	0.0	24.1	57.4	18.5	0.0
	3歳児	32	6.3	18.8	50.0	25.0	0.0
	4歳児	29	0.0	27.6	41.4	31.0	0.0
	5歳児	28	3.6	14.3	57.1	25.0	0.0

###### 【設問(5)】

この設問は、設問(4)で問題を多少とも感じている(2, 3, 4)と答えた回答者に、子どもたちの「生活リズム」に関して、日ごろ感じている問題点と(あれば)その解決の取り組みについて記述していただくものであった。回答総数は273件であった。

## (1)「夜型」の生活リズム

まず、生活リズムの問題に関する記述の中で、**圧倒的に多いのが、「夜型」の生活リズムになっているという指摘**である。273 件の回答のうち、210 件までもが、「就寝時刻の遅さ」を明示的に指摘している。就寝時刻に関する具体的な言及もあるが、夜 10 時台、11 時台に寝る子は多く、深夜 12 時台、1 時台、2 時台に就寝する子どもさえいると指摘されている。

**夜更かしが子どもたちの保育園での生活にどのような影響を及ぼしているのか**、という点について、数多くの具体的記述が寄せられた。

**午前中の生活**については、次のような問題が数多く指摘されている。

- ・朝ごはんを食べてこない（食欲が出ない、食事の時間がない）。
- ・睡眠不足や欠食の結果、不活発になる（「ボーッとしている」、「ゴロゴロしている」、「午前寝」をする、「お腹がすいたと言う」など）
- ・早起きができないため、そもそも登園時間が遅い（10 時～11 時になって登園するケースもあり、園での午前中の活動に支障を来す）

**午後の生活**についての指摘は必ずしも多くないが、夜更かし・朝寝坊の子どもは、午後になると元気になり、午睡時にあまり眠れない。すると夕方、お迎えの頃になって眠くなり、「夕寝」をする。その結果、夜になると眠れず夜更かしをする、という悪循環の指摘がある。

**遅寝になる原因**として、次のような点が比較的多く指摘されている。

第一に、**保護者の「寝かしつけ」ができていない**、という点。

寝かしつけの重要さを分かっているにもかかわらず、「子どもの要求等に大人がふりまわされ、なかなか寝かせられなかったりといった状況」が見られるばかりでなく、そもそも「寝かしつけ」の意識が希薄であり、「子どもが寝るのを待っている」保護者、「眠くなったら寝ればよい」と考えている保護者もいる、との指摘がある。

第二に、**保護者の夜型の生活に子どもをつきあわせてしまっている**、という点。

長時間労働で親（特に父親）の帰宅が遅いなか、親の帰りを待っていたり、眠ろうとしている子を起こしてしまったりするケースが特に多い様子が見える。「親とのふれあい」の時間は大切なので一概にダメとは言えないが、そのために遅寝になる傾向がある、という指摘がかなり多い。

それ以外にも、子どもを居酒屋に連れて行く、子どもと一緒にテレビの深夜番組を見る、なども大人の生活に付き合わせている現状が指摘されている。

この問題の解決のためには、親（家庭）の努力が不可欠であるという意見が多かった。そして、親に対して、生活リズムがホルモン分泌に及ぼす影響などについて啓発を行う必要があるという声もあった。

他方、「社会全体」で考えていかないとこの問題は解決しない、という指摘も多かった。とくに長すぎる労働時間を見直すことが不可欠であるという声が多かった。

また、具体的な解決策として、とにかく朝は早く定時に起こす習慣をつける、保育園での午睡の時間を短くする、「ノーテレビデー」を実施する、などの案も出された。

## (2)不規則な生活(リズムの乱れ)

「夜型」についての言及ほど多くはないが、不規則な生活リズムを憂える声が、273 件の回答のうち 10 件から上がっている。

多少夜型でも「その家庭なりのリズムがあれば」まだよく、むしろ保護者の生活が不規則なために、リズムそのものが乱れていることが問題だ、という指摘があった。

## (3)「月曜日の疲れ」

以上は、生活リズムを日単位でとらえた意見だが、そのほか、週単位での生活リズムの問題について指摘する声も比較的多かった。273 件の回答のうち 23 件が、この問題に触れている。

とりわけ、「ゆとりのない休日」→「月曜日の疲れ」というパターンの指摘が多い。その背景には、土日大人につき合って一日中外出し、昼寝をしない、などの事情がある。ともあれ、休日で狂ったリズムを、平日の保育園生活でかろうじて取り戻す、といった状況があるようだ。

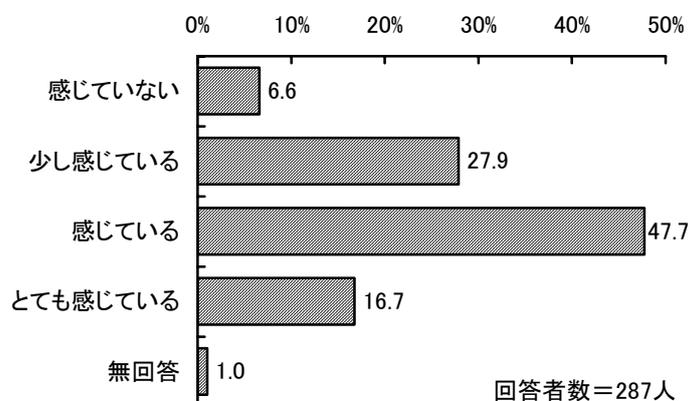
## (4)その他

「塾や習い事など、早期教育の影響を受け、子どもたちの生活が時間によって小刻みに区切られ、忙しくなっているように感じている」、などの指摘もあった。

### 3-1-2.「食生活」について

#### 【設問(6)】

子どもたちの「食生活」に（どの程度）問題を感じているか、というこの設問に対する回答は次表の通りであった。



また、回答の年齢別・担当クラス別の内訳は次表の通りであった。

		回答者数(人)	感じていない	少し感じている	感じている	とても感じている	無回答
全体		287	6.6	27.9	47.7	16.7	1.0
年齢別	20歳代	41	9.8	43.9	34.1	12.2	0.0
	30歳代	62	9.7	27.4	51.6	9.7	1.6
	40歳代	85	5.9	27.1	47.1	20.0	0.0
	50歳以上	72	4.2	25.0	48.6	22.2	0.0
担当クラス別	0歳児	41	2.4	29.3	48.8	19.5	0.0
	1歳児	63	9.5	30.2	44.4	15.9	0.0
	2歳児	54	5.6	29.6	55.6	9.3	0.0
	3歳児	32	9.4	25.0	43.8	21.9	0.0
	4歳児	29	0.0	31.0	34.5	31.0	3.4
	5歳児	28	7.1	21.4	60.7	7.1	3.6

#### 【設問(7)】

この設問は、設問(6)で問題を多少とも感じている(2, 3, 4)と答えた回答者に、子どもたちの「食生活」に関して、日ごろ感じている問題点と(あれば)その解決の取り組みについて記述していただくものであった。回答総数は259件であった。

食生活についても厳しい指摘が多かったが、他方、「食に対しての考え方は多種多様で、各家庭で大きく違う現状にある」、「食へのこだわりがある方、ない方ととても差があるようです」、「今年のクラスの子ども達は、好き嫌いなく、よく食べている。家庭でも頑張っている様である」、などの声も多い。食生活の状況は各家庭によって相当のバラツキがみられることがうかがえる。

## (1)朝食の問題

まず、259件の記述回答のうち82件が、朝食に関する問題点を指摘している。

そのうちの大半は、**朝食をとらない、あるいは朝食が不十分な子どもがいる**という指摘である。このことは、生活リズムについての記述において、就寝時刻が遅いために朝食をとれない、という指摘が多かったことと対応している。

また、朝食をとる場合でも、「**おやつのような内容**」（菓子パン・ヨーグルト・チョコ・アイスクリーム等々）であるということを心配する声が多かった。また、朝の慌しさの中で、**忙しい朝食**を余儀なくされている子どもの姿も浮かぶ。「登園中に、自転車・バギーの上で朝食をとっている」ケースを疑問視する声が複数上がっている。

「朝食に関しては、食べてこない子、登園途中道々食べてくる子がよくいるが、ほんの少しでも家で食べてこられるようになってほしい。お腹がすいてつらいのは、子どもですよ。」これは、一回答者の切実な訴えである。

朝食を食べてこない子に対し保育園側が対応しているケースもある。「保護者には、話しながら、園として、そのような子どもにせんべい1枚食べても元気がでるので・・・食べさせることもあり。」

## (2)偏食

次に、74件の回答が、子どもたちの「偏食」を問題視している。

その背景には、**苦手なものも含めて「食べさせる」**のではなく、**好きなものだけを「食べてもらっている」**状況、つまり親が子どもの食を管理できず、子どもの「言いなり」になっている状況がある、という指摘が多い。

また、「**保育園では、苦手なものも頑張るが、家では食べなくても許されてしまう**」と指摘し、保育園と家庭の「両方での統一した進め方」を呼びかける声もある。これは、親の「保育園任せ」の傾向に関する少なからぬ指摘とつながる問題であろう。

## (3)咀嚼力の弱さ・低下

さらに、36件の回答が、子どもの「咀嚼力の弱さ・低下」についてふれている。

**食べ物を噛まずにいつまでも口にため、その挙句、丸のみしてしまう、あるいは逆に出してしまう（「オェツとなる」）**、というような現象が起きているとのことである。

その背景として、子どもが嫌がるので硬い食べ物を家庭で与えていないのではないか、という指摘や、次に述べる離乳食の問題（離乳のステップの遅れ）について指摘する声が多い。

## (4)食事の内容の問題

食事の内容（メニュー）については、上に見た朝食に限らず、食事全般に関して、様々な心配の声が寄せられている。

第一に、離乳食の進め方について、21件の回答が問題を指摘している。特に、**母乳・粉ミルクだけに頼る期間が長くなっていること、ベビーフードへの依存度が高まってきていること**、が問題視されている。その結果として、**離乳のステップを適切に踏んでいけず、離乳が遅くなり、咀嚼力の発達が遅くなってきている**、という現象が出てきているようである。

第二に、**カップラーメン・レトルト食品・外食・コンビニ弁当・ファストフードなどに偏りがちな傾向**について、子どもの食の安全（「添加物のこわさ」など）という観点から、少なからぬ心配の声が上がった。

第三に、**スナック菓子やジュースなどの過度の摂取**を指摘する声も多かった。また関連して、低年齢からの虫歯の発生についての指摘もあった。

以上の点はいずれも、親が「**手作り**」することが少なく、また「**手作り**」する余裕がない、という指摘と、少なくとも部分的には関係している。「お母さんの手料理でスキなのは？」との問いかけに、「ごはん」「ウィンナー」と答える子も出てきているという。しかしまたその背後には、「**男性や父親〔に〕家事と育児ができない人間が多い**」中で、「**母親の家事、育児、仕事〔の〕負担が重くなっている**」という問題もある。

## (5)食事のマナーの問題

29件の回答は、食事のマナーの問題にふれている。

食事中の落ち着きのなさ、箸の持ち方の悪さ、行儀の悪さ（手づかみ、「犬ぐい」など）のほか、「いらなくなるとポイ！！と捨てたり食器をなげたり」するなど、食べ物を粗末にする傾向も指摘されている。

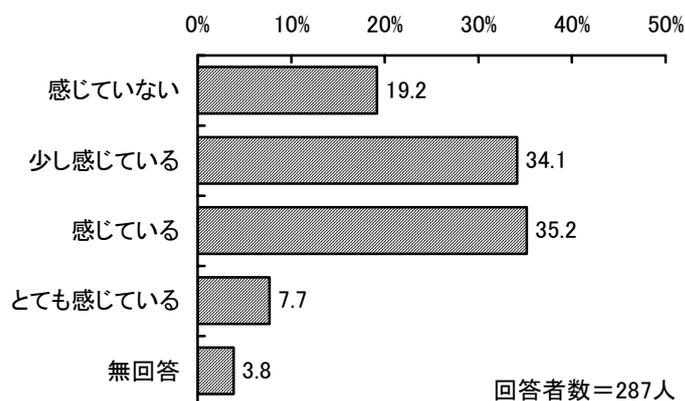
(6)その他

孤食の問題、テレビを見ながら食べていることの問題、なども指摘された。

3-1-3.「友だちどうしのコミュニケーション」について

【設問(8)】

子どもたちの「友だちどうしのコミュニケーション」に（どの程度）問題を感じているか、というこの設問に対する回答は次表の通りであった。



また、回答の年齢別・担当クラス別の内訳は次表の通りであった。

		回答者数(人)	感じていない	少し感じている	感じている	とても感じている	無回答
全体		287	19.2	34.1	35.2	7.7	3.8
年齢別	20歳代	41	26.8	43.9	22.0	4.9	2.4
	30歳代	62	29.0	33.9	30.6	4.8	1.6
	40歳代	85	15.3	30.6	36.5	14.1	3.5
	50歳以上	72	12.5	34.7	45.8	5.6	1.4
担当クラス別	0歳児	41	22.0	41.5	34.1	2.4	0.0
	1歳児	63	31.7	33.3	30.2	1.6	3.2
	2歳児	54	16.7	44.4	27.8	7.4	3.7
	3歳児	32	12.5	40.6	31.3	15.6	0.0
	4歳児	29	17.2	24.1	31.0	20.7	6.9
	5歳児	28	7.1	21.4	60.7	10.7	0.0

【設問(9)】

この設問は、設問(8)で問題を多少とも感じている(2, 3, 4)と答えた回答者に、「友だちどうしのコミュニケーション」に関して、日ごろ感じている問題点と(あれば)その解決の取り組みについて記述していただくものであった。回答総数は213件であった。

## (1) 友だちとの関わりの中での「問題」

友だちどうしのコミュニケーションに関する問題として、**思いが通らないとすぐに「手が出てしまう」「かみつく」「切れる」「乱暴する」**などの指摘が52件の回答に見られた。

これは必ずしも低年齢に限ったことではなく、「年長児」や「4・5歳でも」そうした傾向が見られるとの指摘もある。また「すぐに手をだしてしまい、それをいけない事だと思っていない（だって〇〇したかったから）」ケースもあるという。

49件の回答において、**相手の気持ちを考えずに自己主張する、自分を押し通す、自己中心的で思いやりにない**、という類の指摘があった。もちろん、乳幼児は多かれ少なかれ自己中心的であろう。しかし次の回答は、保育園での指導の困難さを具体的な描写でもって伝えている。

「友達を人と思わぬところがある。通る場所に人がいると踏んでいく。注意をし、相手の痛みを知らせると『そこに居るのが悪い』と言う。『通らせて』『どいて』ではなく『ジャマ!!』という言葉をよく聞く。言葉づかいがとてもキツイものが多く、怒鳴るように話す。根気のいることである。その都度、双方の思いを伝え、自分の痛みは、相手の痛みでもあることを知らせていく。丁寧な対応をしていくため、職員の確保は必要だ。」

以上のような状況の中、子どもたちの間で**ケンカやトラブルは絶えない訳だが、それを一概に「問題だとは言えない**という声もある。「もちろんトラブルは多くありますが、それも含めて発達過程なので、『問題』とは感じていません」。

むしろ、一人っ子が多くなっている状況の中で、**集団生活の中でのケンカやトラブルは成長のための良い経験だ**と捉える意見も少なくない。**だがその良い経験ができるか否かは保護者次第だ**という声も寄せられた（以下に引用）。

「子どもたち自身は、『コミュニケーションの練習中』の年齢なので、上手にコミュニケーションがとれないのがあたりまえの事だが、練習中であることで『あって当然のトラブル』を保護者がどうとらえるか、が今の保育園の課題と思われる。・・・」

実際、「『噛まれた』ことだけを問題視してくる保護者がいらっしや〔り、〕『これは成長していく時にみんな通る道、お互い様』というところがなかなか理解していただけない方もいらっしやいます」という声、「『ケガをさせてはいけない』というのがあり、思いのままにけんかをさせてあげられない。もっと自分たちで解決していく力をつけていかなければいけないと思う」という声、「現実にはケガをしないことに気を配り、経験が十分できているか問題を感じる」という声などが上がっている。

そして設問(15)では、「トラブルを起こす子」に対する共感に満ちた回答も寄せられた（以下に引用）。

「トラブルを起こす子に限ってか、友だちとのコミュニケーションに悩む子が多い。それを知った時には驚いたと共に嬉しい気持ちにもなった。子どもも、今のままではよくないと感じていて、何とかしたいという考えはあるらしい。そうした子どもの気持ちに寄り添っていきたいと思う。生活習慣や環境は保育士、保護者と協力しあっていくことが一番理想的だ。保護者会や勉強会など積極的に開き、話しあうことが必要だと思う。」

## (2) 友だちとの関わりを回避する傾向

以上のように、子どもたちが関わりあう中で起きるケンカやトラブルは、コミュニケーションの練習の機会でもあるのだが、回答からは、園児たちの中に、友だちとの関わりを好まない、またそれを回避する傾向がみられることが伺える。

まず、「一人遊び」を好む、とか「友達との遊びに興味を示さない」といった傾向が気になりだという回答が12件寄せられている。

また、**子ども同士の間よりも大人との関わりを好むとか、子ども同士の間においても大人の仲介を求めたがる**、といった類の回答が9件あった。

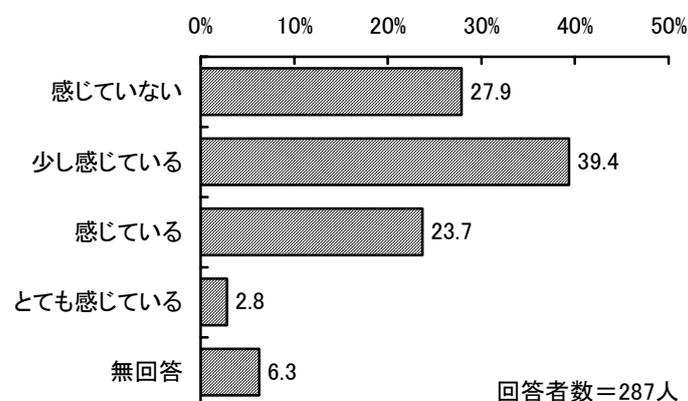
## (3) その他

テレビやメディアの影響が言葉に表れる（親がきちんと選ぶべき）、という指摘もあった。

### 3-1-4. 「先生とのコミュニケーション」について

#### 【設問(10)】

子どもたちの「先生とのコミュニケーション」について（どの程度）問題を感じているか、というこの設問に対する回答は次表の通りであった。



また、回答の年齢別・担当クラス別の内訳は次表の通りであった。

		回答者数(人)	感じていない	少し感じている	感じている	とても感じている	無回答
全体		287	27.9	39.4	23.7	2.8	6.3
年齢別	20歳代	41	34.1	36.6	19.5	0.0	9.8
	30歳代	62	35.5	45.2	16.1	1.6	1.6
	40歳代	85	27.1	32.9	31.8	2.4	5.9
	50歳以上	72	20.8	45.8	23.6	5.6	4.2
担当クラス別	0歳児	41	26.8	46.3	24.4	2.4	0.0
	1歳児	63	33.3	38.1	20.6	1.6	6.3
	2歳児	54	37.0	40.7	16.7	1.9	3.7
	3歳児	32	31.3	40.6	15.6	6.3	6.3
	4歳児	29	17.2	37.9	27.6	3.4	13.8
	5歳児	28	10.7	42.9	42.9	0.0	3.6

#### 【設問(11)】

この設問は、設問(10)で問題を多少とも感じている(2, 3, 4)と答えた回答者に、「先生とのコミュニケーション」に関して、日ごろ感じている問題点と(あれば)その解決の取り組みについて記述していただくものであった。回答総数は177件であった。

この設問に対する回答は、大きく言うと2つの種類に分かれる。1つは、子どもに見られる傾向を描写したもの、もう1つは大人(保育士・保護者)の側の問題を指摘したものである。

## 【A】子どもに見られる傾向

### (1)「甘え」について

保育士とのコミュニケーションにおいて見られる子どもの傾向に関する回答のうち、多くのものが「甘え」に触れている。

まず、子どもたちが保育士に「ベッタリ」と甘えてくる、保育士から離れない、保育士を独占しようとして（保育士の1対1対応を求め）友だちと争う、という類の回答が24件ある。そのような傾向は幼児クラスについても指摘されており、「抱っこ」「おんぶ」「膝に座る」「胸を触る」「手を握る」などといったスキンシップを保育士に求めるケースが多いという。

もっとも、甘えを素直に表現できず、保育士に対し、すねたり、ためしたり、「バカ、シネ、ブッコロス」などと暴言を吐いたり、けったり、たたいたり、物を投げたりするケースもあるという。

なお、10件の回答は、親よりも保育士に甘える傾向を指摘し、**保育士への甘えが、家庭で甘えられない分の「補完」なのではないか**、という問題提起をしている。

以上のような、ある意味で過度の「甘え」を問題視する回答がある一方で、保育園児は「母親的な安心感」を保育士に求めるものであって、そういう「素の自分を出せる」環境をむしろ大切にしたいという回答もあった。

### (2)保育士を避ける

しかし中には、甘えを求めて保育士に積極的に働きかけるのではなく、むしろ、**保育士とのかかわりを避けたり、それに緊張を覚えたりする**子どももでてきている。保育士と目（視線）を合わせない子（6件）、声をかけられたりすると素知らぬ振りをする子、常に顔をうかがう子、（乳児でも）スキンシップを嫌がる（それに緊張感・抵抗を示す）子などの存在が指摘されている。

### (3)友だち感覚、大人を大人と思わない

8件の回答が、子どもたちが**保育士と友だち感覚でつきあっている**、子どもたちが「**大人を大人と思わない**」という類のことを指摘している。「年齢が高くなるに従って言葉遣いにも気をつけて接することが以前の子どもたちはできていたと思える。今は友だちづきあいである」という声、「社会的に子どもを過保護にしすぎているのではないか」といった声が、30代の保育士からも聞こえてくる。

単に、上下関係がなくなり、友だち感覚になった、ということに解消されないような言動もみられる。ある保育士の経験を引用しよう。

「大人をなめている子どもがいます。『大人が子どもを怒ると虐待だよ』と、しら一つとした顔で話している子どもがいました。根底では先生の事を信頼できないという気持のあらわれかもしれません。」

### (4)その他

挨拶が出来ない、話が聞けない、落ち着かない、などの指摘もあった。

## 【B】大人(保育士・保護者)の側の問題点

### (1)保育士の余裕のなさ(人手不足感)

園児と保育士との関係について、大人の側の問題を指摘する回答も少なくなかった。中でも多かったのは、**人員配置上、保育士に余裕がなく、1人1人の子どもたちに十分にかかわってあげられていない**という声であり、15件の回答に見られた。「ひとりひとりのおしゃべりにゆっくりとつき合う時間がなくて申しわけなく思っている。手のかかる子、かかわり方がむずかしい子にふりまわされているのが現状である」との声もあった。保育士を独占したがりが、1対1対応を求めてくる園児が多くなっていく中で、また保護者への対応が以前にもまして求められる中で、ますます保育士の余裕のなさに拍車がかかってきているようである。

人員不足の結果、「用を足しているだけで終わってしまう保育になりかねない」という心配も寄せられている。

### (2)保護者と保育士との「行き違い」

保護者と保育士との間に「行き違い」があると、それが子どもの保育士との関係に大きく影響する、という声もあった。

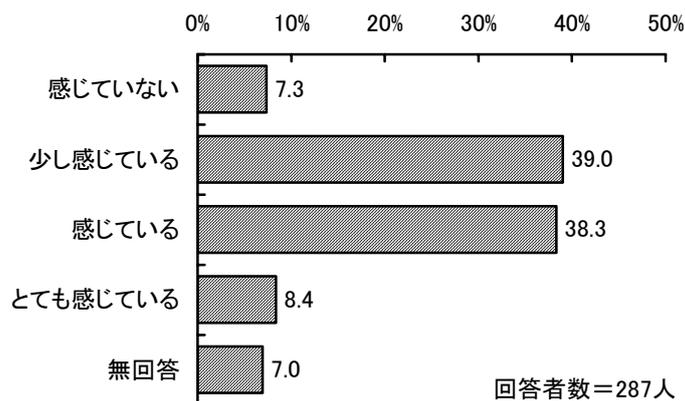
### (3)その他

保育士自身の質をもっと向上させなければならない、必ずしも能力が十分でない保育士もいる、という声も寄せられた。『先生とのコミュニケーション』は決して子どもが悪いのではなく、先生の問題です。子どもを育てていく能力のない保育士を見極めていく事もこれからは大事だと思います。」

#### 3-1-5.「家族とのコミュニケーション」について

##### 【設問(12)】

子どもたちの「家族とのコミュニケーション」について（どの程度）問題を感じているか、というこの設問に対する回答は次表の通りであった。



また、回答の年齢別・担当クラス別の内訳は次表の通りであった。

		回答者数(人)	感じていない	少し感じている	感じている	とても感じている	無回答
全体		287	7.3	39.0	38.3	8.4	7.0
年齢別	20歳代	41	7.3	41.5	41.5	7.3	2.4
	30歳代	62	9.7	43.5	35.5	8.1	3.2
	40歳代	85	7.1	35.3	40.0	10.6	7.1
	50歳以上	72	6.9	45.8	34.7	6.9	5.6
担当クラス別	0歳児	41	4.9	51.2	39.0	2.4	2.4
	1歳児	63	11.1	33.3	46.0	3.2	6.3
	2歳児	54	3.7	51.9	29.6	7.4	7.4
	3歳児	32	15.6	34.4	25.0	12.5	12.5
	4歳児	29	6.9	27.6	44.8	13.8	6.9
	5歳児	28	7.1	21.4	50.0	17.9	3.6

##### 【設問(13)】

この設問は、設問(12)で問題を多少とも感じている(2, 3, 4)と答えた回答者に、子どもたちの「家族とのコミュニケーション」に関して、日ごろ感じている問題点と(あれば)その解決の取り組みについて記述していただくものであった。回答総数は232件であった。

食生活について、しばしば家庭による格差が指摘されたのと同様、子どもの家族とのコミュニケーションについても、「取れている家庭と取れていない家庭が極端である」、「コミュニケーションを大切にしている家庭と忙しさの中で流されてしまっている家庭との格差がある」などといった声が出ている。

### (1) 親子がふれあう時間が少ない

まず、**忙しくて親子がふれあう時間が少ない**という問題を指摘した回答が、60件にも上った。

とくに**父親の帰宅時間が遅く、子どもとのかかわりが希薄だ**という指摘は多い。「父親が子どもを全く見られない。父親と子で過ごす時間が少ない。〔そしてそのことを〕母親もまた諦めている事が多い（父はダメ）」という。「乳児期、幼児期、主体的に家庭にて育児の中心になるのは母親だが、とても多忙であり時間がなく、一日忙しく追われているのではないか。育児には父親も参加することは当たり前だが、帰宅時間が遅い事で、気持ちはあっても現実的には難しい状態にあるようだ。日本中の父親が残業をしないで帰宅すると、少しは母親のストレスも解消されるだろうか。」「朝早くから夕方遅くまで保育園にいて、家族とのコミュニケーションが取りづらくなっている。社会全体で子育て期間中は就労時間を短縮すべきである。一部の企業ではやっているようであるがそれが全国的に広がる事をのぞむ。」このように、**社会全体での労働時間の見直し**を訴える声は多い。

ただし、親子のふれあいが少ないことの原因は、社会の仕組みばかりでなく、**仕事を優先する親の姿勢**にもあるとの声もある。「親の職業にもよるとは思いますが、親自体『子どもの親』〔であること〕を第一優先とせず、自分の仕事を第一と考えるようになってきている現代社会の風潮があるように思います。そういう意味で淋しい想いで親子離れ離れで過ごす子どももいます。」

いずれにせよ、仕事に追われた余裕のない生活は子どもたちの上に自ずと影を落とす。「遅くまで園に預けられ、お迎えにくると『早く早く』と追い立てられ、家に帰っても『早くしなさい』と追いたてられるような生活を送っていることに問題を感じます。」

### (2) 親子関係の「アンバランス」—その両極

また、多くの回答が、親子関係が「アンバランス」で、その形が大きく二つの極に分かれていることを指摘している。

まず、25件の回答が、**親に甘えられない、親に気を遣う、家で「いい子」になっている**、という子どもたちの傾向を指摘している。あるベテラン保育士は時代の変化を次のように書き記している。「家庭ではわがままを言って親を困らせるけれど、保育園や学校など集団の生活の中ではそれなりに感情をおさえて生活できるというのが以前の様子だったと思うのですが、逆転をしている子が見られるようになってきている。親の前ではいい子で、他人にはやりたいことをやってしまう。」こうしたケースが「少しずつ、増えているように思う」という声は他にもある。

そして設問(15)では次のような具体例も寄せられた。

「子どもが親に対して気をつかい何も言えない。登園して母親がいなくなって初めて頭が痛い、おなかが痛いと言ってきたりする。いつからと聞くと、『家にいるときから』。お母さんに言ったのか聞くと『言っていない』との答え。どうして保育士に言えることが母親に言えないのか。また、迎えが遅くなった母親をかばって、『今日はお母さんたくさん仕事があるんだわ。本当は延長番に入りたいのだけれども入れないの。だから遅くなったりするの!』。このようなことを言っている。子どもの気持ち。本当は母親に訴えたかっただろうに、言えない状況。これほどまでに自分の母親に気を使わなければ生きていけない状況を考えていきたい。子どもの代弁者になる事も必要だが、すべてを話す事でわかってくれる母と、逆に子どもに対してつらくあたるなど、いろいろなことを考え専門の機関とも連携をとりながら、子どもの育ちを考えていかなければいけない。」

ともあれ多くの回答が、親の前でいい子になっている分、保育園でわがままになる、と見ているが、このことは、保育士に対する甘えが、家庭で甘えられない分の「補完」なのではないか、という上で見た指摘と対応する。

一方、それとは正反対に、**子どもがわがままを通し、親が子どもの「言いなり」**になっている、という類の指摘が19件ある。

いくつかの回答は、「自由」とか「個性」を尊重する時代的風潮の中で、子どもの意思を尊重すると言いつつ、**実は親が子どもに「振り回されている」**と見ている。特に判断能力のまだない年齢の子どもに対しては、親がしっかりと方向を指し示すべきだという指摘があった。

「**子どもと戦う事が大変**なので、子どもの意思を尊重する」ことになるのでは、との声もある。「親は子どものいいなりで、『先生の言う事はきくのですが…』とよく耳にします。まだ4~5歳の年齢で親の言う事を聞かなくなってしまう、将来どうなるのでしょうか。もっと、我が子に対しての、自分の思いをストレートに伝え、戦う（変な意味ではなく）事も大切だと思います。それはすごく、大

変なことですが。」

### (3)子どもとの日常的な「向かい合い」の不足―「外出」や「電子メディア」への依存

さらに、日常生活の中で子どもと「向かい合う」ことの少なさを指摘する声も多い。

まず、休日に外出することが家族のふれあいだと思っている（「勘違い」している）のではないか、という類の指摘が15件あった。

つまり、「テーマパーク」「アミューズメントパーク」「イベント会場」「遊園地」「話題のスポット」「旅行」などに「出かけること」が家族のコミュニケーションだと考える人が多い、という指摘である。中には、「休日の過ごし方を聞くと、保護者（大人）の興味や娯楽が中心となり、競馬場のキッズルームで半日を過ごしたり、イベントや祭事等で一日が終わってしまうなど、家族とコミュニケーションをとったり休養とは程遠い過ごし方を強いられている事もあるようだ」。

こうした傾向に対し、むしろ「家族でゆっくり過ごす機会、話す機会を持つことが大切なのではないでしょうか」という声が多い。また、土日の外出で子どもたちが疲れてしまい、上述のように生活リズムが乱れることを懸念する回答も多かった。

また、とくに外出しない場合でも、家族が互いに向き合ってコミュニケーションを図ることなく、テレビやDVDをみて過ごしているケースが多い、という指摘も14件あった。

その他、家族のふれあいよりも「習い事」を重んずる傾向も問題視されている。また、親が保育園に「むかえにきて帰るまで、携帯で話をしている場面を多々みることもある」という指摘もある。

## 3-1-6. 虐待について

### 【設問(14)】

この設問は、虐待（ネグレクト・心理的虐待も含む）に関して、日ごろ感じている問題点と（あれば）その解決の取り組みについて記述していただくものであった。

この設問に関しては、いくつかの具体的な事例が寄せられたほか、この問題に関する個々の保育士の考え方や取り組み姿勢についての記述が、実に多様な形で寄せられた。具体的な事例は、プライバシー保護の観点から削除した。それ以外の記述については、付録資料226～236頁を参照いただきたい。

## 3-1-7. その他

### 【設問(15)】

この設問は、子どもの様子・生活習慣・生活環境について、設問(4)～(14)までで書き足りなかったことを記述していただくものであった。回答総数は133件であり、既出の論点と重なる回答が多かった。以下では、必ずしも以上に尽くされていない点を紹介するにとどめたい。

まず、子どもたちの体力・運動能力が弱くなっていることを心配する声が、6件あった。外遊びが少ない、登降園がすべて自転車であるために歩く力が育っていない、小さなケガの経験が少ないために大きなケガを防ぐ方法を身に付けていない、などの指摘があった。

また、親（家庭）が、様々な理由により、子育ての責任を果たしていないという類の指摘は、設問(15)に対する回答に限らず非常に多くの回答に見られるが、他方で、「親が変わる」のは難しい、との見方も強い。そうした中、「親が変われば子どもも変わる」という発想から「子どもが変われば親にもわかってもらえる」という発想に転換しよう、という提案が2件の回答にあった。まずはとにかく保育園の側で、子どもの生活をとのえていくという決意が示されている。

## 3-2. 保護者の態度・行動・子育て姿勢について

### 【設問(16)】

この設問は、日々の保育をする上で困る保護者の態度や行動について記述していただくものであった。回答総数は201件であった。

#### (1) 保育士(園)を子育てのパートナーと考えていない

まず、子育てをめぐる、家庭と保育園とが協力関係を築くことが大切なのに、それが出来ていないという類の回答が数多くあった。

まず、14件の回答が、親が育児について「保育園任せ」になっているという問題を指摘している。すでにみた離乳食でも、食事でも、おむつトレーニングにしても、保育園に「頼りっぱなし」の家庭があるという指摘である。子どもがなにか悪いことをしていたとき、叱らなかつたり、「先生に叱られるよ」と言っ、何がいけないのかを自分では伝えない、という事例も挙げられている。

一方、それなのに、保育園(士)への要求ばかりが大きい。そして、何かあると、保護者と保育士との間で解決するのではなく、すぐに区(保育課)に苦情を言う、という類の指摘もあった。

また、「保育園は保育園」「家は家」と割り切り、あまりコミュニケーションをとらない保護者もいるとの指摘もある(「子育て支援」の「一方通行」)。

#### (2) 保育士とのコミュニケーション上の問題

保護者が挨拶をしない、という点を指摘した回答が、17件あった。「挨拶をしない親が驚くほど多い」という声もある。挨拶をしないというのは、子どもについても指摘されていたことである。「まずは大人から手本となり子どもたちにも自然と身につけられるようになってほしい」という希望も寄せられた。その他、保育士に言葉で伝えず、連絡帳で処理してしまうケースが多い、などの指摘もあった。

#### (3) 自分の子がよければよい(「お互い様」という意識がない)、過保護

上記の「友だちとのコミュニケーション」のところで若干論じたが、トラブルがあったとき、我が子のことばかり考えてしまい、「お互いさま」という意識がない親が多いという指摘が、11件ある。「特定の子を名指しして、自分の子どもと近付けないようにしてほしいと訴えてくる」例もあるという。

また、ほんの小さな怪我也ダメ、虫刺されもイヤだ、という類の要求をもつ過保護な親が多いという指摘もある。「怪我をさせないでほしい、虫に刺されないようにしてほしいなど、保護者からの様々な要求があり、こちらとしても朝登園してきたままの状態でお子さんを保護者の方にお返ししたいのは日々思っていることですが、こう要求が多いと、保育をする上で制限してしまうことも増える上、こちらの精神的負担も大きいことはあります。また、例えば、転ぶことで転び方を学んだり、虫がいるというのは緑がたくさんあることだったり、保護者に伝えていかななくてはいけないことも必要なことだと思うので、そういったことを理解していただければと思います。」

#### (4) その他、日常の園運営で困ること

病気(感染症も含め)の子どもを保育園につれてくる、登園時間が遅い、持ち物や時間などの約束が守れない、保育料を払わない、などの問題が挙げられた。また、親が保育士を「～ちゃん」と愛称で呼ぶため、保育園では「先生」と呼ぶように指導しているのと齟齬が生じて困る、という声もあった。さらに、設問(17)だが、子どもの前で先生や友だちの悪口・批判を安易に口にしないで欲しいという要望も寄せられた。

### 【設問(17)】

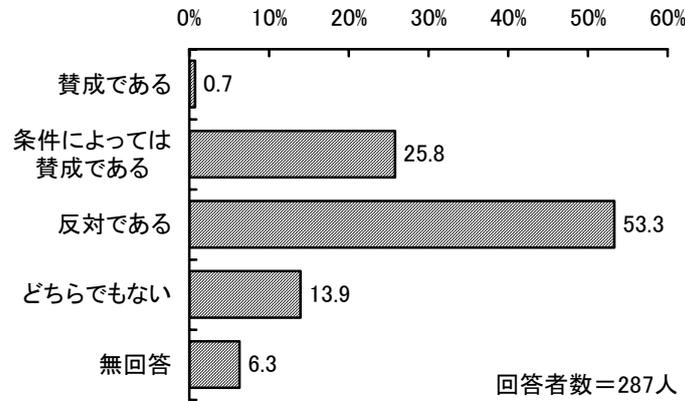
この設問は、保護者の子育て姿勢で、子どもにとって問題だと感じる点を記述していただくものであった。回答総数は192件であり、大半が既出の問題点と重なり合っていた。付録資料250～258頁を参照いただきたいが、とくに、大人が子どもの言いなりになっている、躰が出来ていない、物事の善悪を教えられていない、という論点が目立った。ひとつの事例だけ引用。

「友達との喧嘩の際、子どもが友達にパンチをくらわせた。友達が泣きべそをかくのを見て我が子は笑っている。しかし、母親は注意しないため、保育士が注意した。この状況に母親は『買い物に行くんだから、ごめんねしなさい』という。これでは、子どもは何も学ばない。何がよいのか、悪いのかさえ、身につけないでしまう。」

### 3-3. 保育園の役割について

#### 【設問(18)】

保育園児の保護者が「夜間におよぶ長時間保育」を望む場合、それをどのように考えるか、というこの設問に対する回答は、次表の通りであった。



また、回答の年齢別、担当クラス別の内訳は次表の通りであった。

		回答者数(人)	賛成である	条件によっては賛成である	反対である	どちらでもない	無回答
全体		287	0.7	25.8	53.3	13.9	6.3
年齢別	20歳代	41	0.0	31.7	41.5	19.5	7.3
	30歳代	62	0.0	25.8	56.5	14.5	3.2
	40歳代	85	1.2	21.2	67.1	5.9	4.7
	50歳以上	72	1.4	29.2	41.7	19.4	8.3
担当クラス別	0歳児	41	0.0	22.0	61.0	12.2	4.9
	1歳児	63	0.0	31.7	52.4	12.7	3.2
	2歳児	54	0.0	24.1	57.4	16.7	1.9
	3歳児	32	3.1	15.6	50.0	18.8	12.5
	4歳児	29	3.4	24.1	48.3	13.8	10.3
	5歳児	28	0.0	14.3	67.9	7.1	10.7

「夜間におよぶ長時間保育」について「条件によっては賛成である」と答えた回答者に、**賛成の条件**を問うたところ、概ね次のような回答が寄せられた。

- ・保護者が一人親である場合
- ・保護者が夜間勤務に従事している場合（残業ではなく）
- ・保護者が仕事をしている場合（リフレッシュではなく）
- ・月・週・日当たりの保育時間の上限を設定した上で
- ・親が病気など、緊急の場合（その他、子どもが親と共に家庭にいたることが望ましくない場合）
- ・「二重保育」を依頼している家庭に限って
- ・保育園が子どもの生活リズム・生活習慣を育てる体制を整えられた場合
- ・保育園が安全の確保等のため、十分な人員配置をできる場合

「夜間におよぶ長時間保育」に関する意見を自由に記述していただいたところ、220件の回答が寄せられた。

夜間保育を真に必要とする保護者に配慮すべきだ、という声は少なからずあり、また、「二重保育」を受けるよりは同一園で長時間保育を受けられたほうが良い、という声も存在した。

しかし他方、夜間におよぶ長時間保育には反対論や慎重論も非常に多かった。

129件の回答は、それを子どもにとって良くないと見ている。なかでも、生活リズムが現在以上に乱れてしまうこと、集団生活の負担などにより現在でも疲れている子どもたちがさらに疲れてしまうこと、また親と過ごせないことによる子どもの心の問題（寂しさなど）、などを心配する声が多かった。大人＝仕事のニーズが子どものニーズと対立する構図が浮き彫りにされている。

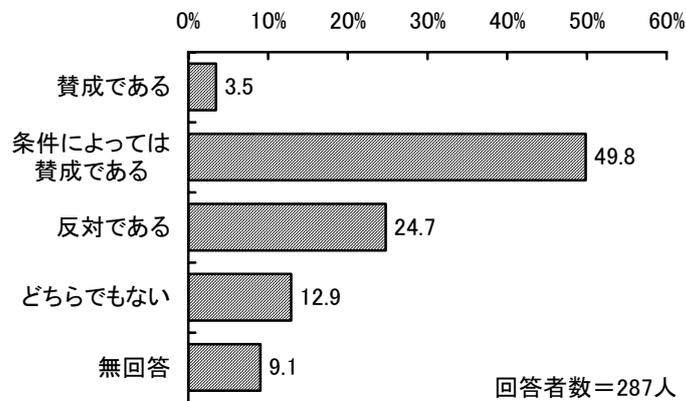
また、社会全体（企業や国）が子育て中の親の労働時間を短縮するよう努力すべきである、という意見が38件寄せられた。つまり、長時間労働社会に保育園側が合わせるのではなく、むしろ社会の側が、現在の開所時間ですむような適正な労働時間を守るべきだ、という意見である。

さらに、現在以上に保育園の開所時間を長くすれば、親がさらに長時間働いたり、必要がないのに安易に子どもを預けたりする傾向を、ますます助長するのではないか、という心配の声が19件上がった。その中には、時間がある程度限られているからこそ、親が子どもとの時間を作るために、「自分でなんとかしなくてはと考え」、「なんとかやりくりし」、「努力する」のであり、子どもには「一生けん命がんばっている母の背を見て育ててほしい」、という声も含まれていた。

その他、事故がおきる可能性が日中以上に高くなる、保育士の生活が壊れる（保育士の労働が重くなる）、などといった意見も寄せられた。

### 【設問(19)】

保育園児の保護者が、就労以外の目的で、「リフレッシュ等を理由とした一時的な保育」（調査票では表現の仕方が異なっている。付録資料166頁参照）を望む場合、それをどのように考えるか、というこの設問に対する回答は、次表の通りであった。



また、回答の年齢別、担当クラス別の内訳は次表の通りであった。

		回答者数(人)	賛成である	条件によっては賛成である	反対である	どちらでもない	無回答
全 体		287	3.5	49.8	24.7	12.9	9.1
年 齢 別	20 歳代	41	7.3	48.8	19.5	17.1	7.3
	30 歳代	62	6.5	54.8	22.6	12.9	3.2
	40 歳代	85	1.2	52.9	30.6	5.9	9.4
	50 歳以上	72	1.4	43.1	26.4	18.1	11.1
担 当 ク ラ ス 別	0 歳児	41	2.4	58.5	17.1	17.1	4.9
	1 歳児	63	0.0	52.4	25.4	17.5	4.8
	2 歳児	54	5.6	46.3	29.6	7.4	11.1
	3 歳児	32	6.3	59.4	15.6	12.5	6.3
	4 歳児	29	3.4	48.3	20.7	10.3	17.2
	5 歳児	28	3.6	46.4	28.6	14.3	7.1

「リフレッシュ等を理由とした一時的な保育」について「条件によっては賛成である」と答えた回答者に、**賛成の条件**を問うたところ、概ね次のような回答が寄せられた。

- ・保護者が一人親である場合
- ・保護者が通院・看護をしている場合や急病の場合
- ・精神的な緊急事態の場合
- ・リフレッシュすることにより、きちんと子どもに向き合うことができるなら
- ・子どもを連れて行くことが困難な用事の場合
- ・正規の保育時間内なら（早番・遅番にかからない範囲）
- ・時間・回数制限つきで
- ・保護者が居場所・連絡先をきちんと知らせた上で

「リフレッシュ等を理由とした一時的な保育」に関する**意見**を自由に記述していただいたところ、171件の回答が寄せられた。

まず、「リフレッシュ等を理由とした一時的な保育」は、**実質的には現行の体制の中でも行われている**、という指摘がかなりあった。つまり、仕事が休みの日でも子どもを預けたり、預けている間に仕事以外のことをしたりする事実は現状でもあるという指摘である。**そのため、リフレッシュ等を理由とした一時的な保育を行う上でこれだけは守ってほしいという条件（約束事）に関する言及が多く**、その大半は、上述の「賛成の条件」と重なり合う内容であった。とくに、子育てでストレスをためている親が多い中、親がリフレッシュをはかることで子どもにとってもプラスになるならば、必ずしも「リフレッシュ等を理由とした一時的な保育」に反対しない、という意見が 26 件ほど出された。その中には、リフレッシュは虐待防止につながるという指摘もあった。

他方、反対論や慎重論も少なくなかった。

まず、子どもがそれを望むのか、保育園生活で疲れている子どものストレスはどうなるのか、という、**子どもの側に立った意見や、保護者の保育園任せを助長するという意見**など、設問（18）に寄せられたのと同様の意見が数多く出された。これらの意見と関連して、次のような指摘もあった。

「子どもに気持ちがむいていなくて、自分の楽のため、リフレッシュなどを理由にあたりまえに連れてくる親は、増えてきている。子どもにその反動があきらかに出ている時は伝えていっているが、それを問題と感ぜない人が多い。」

また、保護者の自由な時間は、夫婦間（家庭内）でしっかり話し合い、やりくりをし合って捻出していくべきなのではないか、という意見が 13 件出された。この意見は、一人親家庭に対しては「リフレッシュ等を理由とした一時的な保育」を認めるべきだという上述の声と対応している。

さらに、**保育園に入れない子どもの家庭との不公平**を指摘する声も 4 件あった。つまり、子どもが保育園に入れない家庭では、育児ストレスはさらに大きいにもかかわらず、保育園児の家庭にだけリフレッシュの機会を与えることは不公平という意見である。ただし、不公平だから「リフレッシュ等を理由とした一時的な保育」はやめた方がよいという意見がある一方で、両方に（すべての家庭に）リフレッシュ等を理由とした保育を受ける機会を認めた方がよいという意見もあった。

最後に、**そもそも保護者はどうしてそんなに子育てをストレスとばかり感じ、避けようとするのか**、という根本的な疑問が、少なくとも 10 件提示された。その中には、就学までの短い期間くらい自分の楽しみはがまんできないのかという声、どうして「子育ての楽しさを感じないのか、と怒りさえ感じる」という声、「大変でしょうが、子どもとの時間を少しでも多くとってほしいと思います。成長の瞬間を他人に一番に見せてしまう事が、ほとんどでは、悲しい事ではないでしょうか？」という声もあった。

「子どもを育てる時、自分の時間がないのは当然のこと。一人になりたい、少しでいいから喫茶店に入りたいと思うが、その大変な時期をのりこえるから、子どもの成長はさらに、よろこびになると思う。小さいうちに、手がかかるのは、あたりまえ。大人もがまんをしながら一人前の親になると思う。何でもかんでも受け入れていくことが、子育て支援とはいえないと思う。」

### 【設問(20)(21)】

設問(20)は、保育園児以外の子どもを、保育園で在園児と一緒に「緊急一時保育」「一時保育」という形で預かることについての利点と問題点を、設問(21)は、「緊急一時保育」や「一時保育」をどのような施設において、どのような条件で行うべきと考えるか、という問いであり、それぞれ 221 件と 191 件の回答があった。

「緊急一時保育」は、本アンケート実施の 7 ヶ月前から区立保育園 3 園で始められたばかりであり、実際に「緊急一時保育」に関わったことのある職員は 3 園の中でも一部に過ぎないことから、回答者の間に十分な周知がなされていたわけではないと思われる。このような状況の下でご回答いただいたため、一般論、具体的な現場からの声、まだ判断できないという声など、様々なレベルでの回答が混在することとなった。いずれにせよ、緊急一時保育の必要性については広く認識されており、また、十分な人員・スペースの確保によるしっかりとした受入体制の整備が、在園児と緊急で入ってくる子どもとの双方にとって不可欠だという声が多い。具体的には、付録資料 273～287 頁を参照いただきたい。

### 【設問(22)】

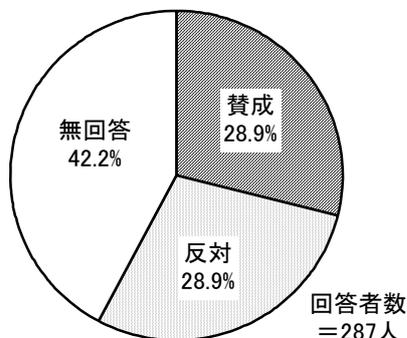
幼保一元化施設の利点と問題点を問うこの質問には、平成 18 年度にスタートした「柳町こどもの森」を念頭に置いた回答、より一般的なレベルでの回答、経験がないので何とも言えないという回答など、様々なレベルの回答が、合計 199 件寄せられた。子どもどうしのかかわりがより広がる、などのメリットが指摘される一方で、幼稚園（児）と保育園（児）との間の壁が歴然と存在することに由来する様々な問題点（保育園児の生活が細切れになる点、園児たちの中で給食と弁当の違いがあったり、午睡の子と降園の子が混在する点など）が指摘された。具体的には、付録資料 287～295 頁を参照されたい。

### 【設問(23)】

「認定子ども園」についてどのように考えるか、というこの設問に対しては、「子どもにとって望ましい環境」を維持できるのか、「保育の質」を維持できるのか、といった疑問や懸念を中心に、様々な回答が合計 167 件寄せられた。付録資料 295～300 頁を参照いただきたい。

【設問(24)】

家庭で保育を受けられない（「保育に欠ける」）子どもと家庭で保育を受けられる子どもがともに毎日を過ごす通園施設を設置することに対する賛否を問うたところ、次表のような結果となった。賛成・反対が完全に同数であり、無回答が最も多かった。



また、回答の年齢別、担当クラス別の内訳は次表の通りであった。

		回答者数(人)	賛成	反対	無回答
全体		287	28.9	28.9	42.2
年齢別	20歳代	41	29.3	29.3	41.5
	30歳代	62	25.8	37.1	37.1
	40歳代	85	30.6	28.2	41.2
	50歳以上	72	29.2	23.6	47.2
担当クラス別	0歳児	41	26.8	31.7	41.5
	1歳児	63	36.5	20.6	42.9
	2歳児	54	20.4	35.2	44.4
	3歳児	32	31.3	28.1	40.6
	4歳児	29	24.1	27.6	48.3
	5歳児	28	35.7	28.6	35.7

賛成の回答者にはどのような施設がよいかの提案を、反対の回答者にはその理由を求めたが、付録資料 300～306 頁にあるような、合計 187 件の回答が寄せられている。

## 【設問(25)】

「保育に欠ける」子どものみならず、文京区の子ども全体の子育て支援に関して、保育園にはどのような可能性があるか、というこの設問に対し、多様な回答が合計 185 件寄せられた。

地域に開かれた園として、「保育に欠ける」子どものみならず、保育園に通っていない子どもの子育て支援をも担うべきだという声は多く、具体的なアイデアも出されている。

他方で、現行の限られた人員ではとても新たな機能は担えないとして、予算措置を要求する声も強くある。また、いまなお待機児が存在する（「保育に欠ける」子どもの受入も十分ではない）という指摘もある。

さらに、「子育て支援」というが、それがただ「保護者の子育てを楽にさせよう」という方向にのみ進み、「全てをまかせる」ような保護者をつくり出すことに対する疑問の声も上がっている。子育て支援は、むしろ保護者（家庭）が子どもを「育てていく力」（子育て力）をつけるための支援であるべきだ、という意見である。その点を次の回答は分かりやすく表現している。

「どこまでが子育て支援なのか！保護者の工夫や努力をとりあげてしまうのではないかという不安！投げかけてあげて共に考えることは大切ですが、支援しすぎて、苦勞の末につかんだ親の喜びまでとりあげることにならないかと不安です！塩梅がとても難しいと思います。」

また、保育園は「保育に欠ける子ども」を「預かる場所」ではもはやなくなっている。保育園は、『社会性』や『公共の場』『マナー』を考え、教わる場所になってきている」のであり、「簡単な生活のルール・コミュニケーション」を学ぶ「学校に入る前の集団施設」として、地域における役割を果たしているのだ、という指摘もあった。

回答は、以上のような論点を超えて多岐にわたる。付録資料の 307～314 頁を参照いただきたい。

## 【設問(26)】

その他、自由な意見を募ったところ、付録資料 314～319 頁のような意見が寄せられた。そこには、本アンケートに対する批判や感想なども含まれている。

## IV. 付記

最後に、日々の勤務でお忙しい中、多くの記述を要するこのアンケートに懇切なご回答をお寄せ下さった文京区立保育園保育士の先生方に、心より感謝申し上げます。また、しばしば同じような傾向の質問が続き、先生方に不必要なご苦勞をおかけしてしまったことに対し、この場を借りてお詫び申し上げます。

また、本アンケートの調査票作成・分析・報告書作成に際して、多くの方より貴重なアドバイスと多大なるご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。

## 付録資料① 調査票

平成 18 年 11 月 6 日

文京区立保育園保育士の先生方へ

### アンケートへのご協力をお願い

去る 9 月に、文京区保育ビジョン策定検討委員会が設置され、文京区における保育のビジョンをつくり上げるための議論がはじまりました。

私は、区内本郷にある東京都認証保育所「なかよしの家保育園」の理事として、保育ビジョン策定検討委員会の委員を務めております。飯田恭と申します。

乳幼児期（0～5 歳）は、人生の基礎を築く上でとても大切な時期です。このかけがえのない時期の子育てを、大人の都合にあわせるのではなく、「子どもにとって、子どもの成長にとって、どのような子育てが望ましいか」を第一に考えた文京区保育ビジョンをつくりたいと考え、その実現のために努力するつもりでおります。

私たち大人がまず第一にすべきことは、子どもの成長にとって、ごくあたりまえだけど、とても大切な生活習慣・生活環境を整えてあげることであると思います。具体的には

- ① 基本的な生活のリズム（「早寝・早起き」→「朝食の摂取」→「日中の十分な運動」→「早寝・早起き」・・・）
- ② 母乳保育を含めた、安全で自然な食事
- ③ 豊富な人間どうしのふれあい（他者の気持ちや意見をよく汲み取り、自分の気持ちや意見を他者に伝達するためのコミュニケーション能力や豊かな感性の獲得）

以上の三つの柱が子どもにとって大切なのだと思います。

この観点からすると、先生方をはじめ保育園職員の方々の多大なご尽力により、文京区立保育園に通っている子どもたちの保育園での生活はとても恵まれているといえるでしょう。けれど、家庭での生活はどうでしょうか。私は、「なかよしの家保育園」の理事であると同時に、「なかよしの家保育園」と「区立保育園」に子どもを通わせる保護者でもあります。果たして、私たち保護者が本当に「子どもの育ち」を真剣に考え、子育ての主体である保護者として責任ある行動をとれているのか疑問に感じることもしばしばです。現に、各種の調査は、家庭において子どもたちに、大人の都合に合わせられることによる生活リズムの乱れ、乱れた食生活、親・きょうだい・友だちとのふれあいの乏しさ、電子メディアへの過度の依存、被虐待などといった問題がかなりの程度みられることを指摘しています。ゆえに私は、今回の文京区保育ビジョン策定が、私たち保護者が自らの「子育て」の姿勢を問い直すきっかけになることを切に望んでいるのです。

そこで、長年にわたり、毎日長時間子どもたちと接していらっしゃる保育園の先生方が、日ごろ、子どもたちの様子や生活習慣・生活環境をどのように見、また感じていらっしゃるのか、ぜひ忌憚のないご意見を伺い、保育ビジョンに反映させたく、今回のアンケートをお願いする次第です。

さらに、委員会では、就労している保護者の家庭以外の子どもたちにとっての保育園の役割についても検討することになっています。この点について、実際に保育園で勤務していらっしゃる先生方がどのようなお考えをお持ちなのか、どのような可能性や問題点があると感じていらっしゃるのかについてもお教えいただき、「文京区の子どもたち全体の保育」についてのビジョンを策定する際の参考にさせていただければ、と望んでおります。

毎日の勤務でお忙しい中、大変恐縮ですが、以上のような趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力いただけましたなら幸いに存じます。なお、アンケートの結果につきましては、私が、NPO 法人なかよしの家正会員などの協力を得つつ、責任をもって集約・分析して報告書にまとめ、文京区保育ビジョン策定検討委員会に提出する所存です。また、報告書にまとめられた「先生方の声」は、適宜、保育園の父母の会やその他公の場において、子育てのあり方を見つめ直すための材料として、有効に活用させていただきたいと思っております。なお、言うまでもないことですが、アンケートは、個人はもとより勤務先の保育園も特定できない形で行われます。忌憚のない率直なご意見をお寄せいただけましたなら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

文京区保育ビジョン策定検討委員会委員  
飯田 恭

● 先生ご自身についてお伺いします。

(1) 先生の性別, ご年齢, 保育士歴をお教えてください。

性別: 1. 男性, 2. 女性 (該当する番号に○印をおつけください。)

ご年齢: ( )歳

保育士歴: ( )年

(2) 先生は現在クラスを担当されていますか。

1. はい, 2. いいえ (該当する番号に○印をおつけください。)

(3) (2)で「はい」とお答えの方, 現在ご担当のクラスは何歳児クラスですか。

( )歳児

● 子どもたちの日ごろの様子・生活習慣・生活環境についてお伺いします。

☆生活のリズムについて

(4) 子どもたちの「生活のリズム」について, 日ごろ問題を感じていらっしゃいますか。次の4つの選択肢のうちから該当するものを1つ選び, その番号に○印をおつけください。

感じていない          少し感じている          感じている          とても感じている  
1          …          2          —          3          —          4

(5) (4)で2, 3, 4を選ばれた方にお尋ねします。子どもたちの「生活のリズム」について日ごろ感じている問題点を具体的にお書きください。また, その問題の解決にむけて, どのような取り組みが必要だと思われますか?ご提案があればお書きください。

(Empty response area for question 5)

☆食生活について

(6) 子どもたちの「食生活」について、日ごろ問題を感じていらっしゃいますか。次の4つの選択肢のうちから該当するものを1つ選び、その番号に○印をおつけください。

感じていない                      少し感じている                      感じている                      とても感じている  
1                      …                      2                      —                      3                      —                      4

(7) (6)で2, 3, 4を選ばれた方にお尋ねします。子どもたちの「食生活」について日ごろ感じている問題点を具体的にお書きください。また、その問題の解決にむけて、どのような取り組みが必要だと思われますか？ご提案があればお書きください。

( )

☆人間どうしのふれあいについて

(8) 子どもたちの「友だちどうしのコミュニケーション」について、日ごろ問題を感じていらっしゃいますか。次の4つの選択肢のうちから該当するものを1つ選び、その番号に○印をおつけください。

感じていない                      少し感じている                      感じている                      とても感じている  
1                      …                      2                      —                      3                      —                      4

(9) (8)で2, 3, 4を選ばれた方にお尋ねします。子どもたちの「友だちどうしのコミュニケーション」について日ごろ感じている問題点を具体的にお書きください。また、その問題の解決にむけて、どのような取り組みが必要だと思いますか？ご提案があればお書きください。

[ ]

(10) 子どもたちの「先生とのコミュニケーション」について、日ごろ問題を感じていらっしゃいますか。次の4つの選択肢のうちから該当するものを1つ選び、その番号に○印をおつけください。

感じていない                  少し感じている                  感じている                  とても感じている  
1                  …                  2                  —                  3                  —                  4

(11) (10)で2, 3, 4を選ばれた方にお尋ねします。子どもたちの「先生とのコミュニケーション」について日ごろ感じている問題点を具体的にお書きください。また、その問題の解決にむけて、どのような取り組みが必要だと思いますか？ご提案があればお書きください。

[ ]

(12) 子どもたちの「家族とのコミュニケーション」について、日ごろ問題を感じていらっしゃいますか。次の4つの選択肢のうちから該当するものを1つ選び、その番号に○印をおつけください。

感じていない                  少し感じている                  感じている                  とても感じている  
1                  …                  2                  —                  3                  —                  4

(13) (12)で2, 3, 4を選ばれた方にお尋ねします。子どもたちの「家族とのコミュニケーション」について日ごろ感じている問題点を具体的にお書きください。また、その問題の解決にむけて、どのような取り組みが必要だと思われますか？ご提案があればお書きください。

( )

**☆虐待について**

(14) 「虐待」という観点から子どもたちを見て、日ごろ感じている問題点があれば具体的にお書きください。ここでは「身体的虐待」だけでなく、「保護の怠慢・拒否(ネグレクト)」や「心理的虐待」も含めてお答えください。また、その問題の解決にむけて、どのような取り組みが必要だと思われますか？ご提案があればお書きください。

( )

☆そのほか、子どもの様子、生活習慣、生活環境について

(15) 以上にお伺いしたことのほかに、子どもの様子、生活習慣、生活環境について、日ごろ感じている問題点があればご自由にお書きください。また、その問題の解決にむけて、どのような取り組みが必要だと思われますか？ご提案があればお書きください。

( )

● 保護者の態度・行動・子育て姿勢についてお伺いします。

(16) 保護者の態度や行動で、先生が毎日の保育をするうえで困ったことはありますか、あれば具体的にお書きください。

( )

(17) 保護者の「子育て姿勢」で、子どもにとって問題だと感じることはありますか、あれば具体的にお書きください。

[Empty response area for question 17]

● ● 保育園の役割についてお伺いします。

(18) 現在、保育園児の保護者が「夜間におよぶ長時間保育」を望む場合があります。「夜間におよぶ長時間保育」についてどのようにお考えですか、該当する番号1つに○印をつけたうえで、ご自由にご意見をお書きください。

1. 賛成である
2. 条件によっては賛成である

具体的に

3. 反対である
4. どちらでもない

ご意見

(19) 現在、保育園児の保護者が、通常保育に加え、さらに(保護者の自由な時間を確保するためなど)就労以外の目的で子どもを保育園に預けることを望む場合があります。このような「勤務時間外保育」についてどのようにお考えですか。該当する番号1つに○印をつけたうえで、ご自由にご意見をお書きください。

1. 賛成である
2. 条件によっては賛成である

具体的に

3. 反対である
4. どちらでもない

ご意見

(20) 保育園児以外の子どもを、保育園で在園児と一緒に「緊急一時保育」や「一時保育」という形で預かることについて、利点あるいは問題に感じることなどをご自由にお書きください。

(21) 保育園児以外の子どもの「緊急一時保育」や「一時保育」について、具体的にどのような施設で、どのような条件で行うべきだと思いますか。ご自由にお書きください。

(22) 幼保一元化施設「柳町子どもの森」のように、保育園児が日中の一定時間を幼稚園児と同じ施設内で過ごすことについて、利点あるいは問題を感じることを、ご自由にお書きください。

(23) 現在「認定子ども園」が作られようとしています。「認定子ども園」に対してなにかご意見があればご自由にお書きください。

( )

(24) 保護者の就労などにより家庭で保育を受けられない(「保育に欠ける」)子どもと、家庭で保育を受けられる子どもがともに毎日過ごす通園施設を設置することについて、賛成ですか、反対ですか?該当する番号1つに○印をつけたうえで、賛成とお答えの方は、どのような施設がよいか具体的にご提案ください。また、反対とお答えの方は、その理由をお書きください。

1. 賛成
2. 反対

( )

(25)「保育に欠ける」子どもの保育という現在の基本的役割のほかに、保育園には今後、文京区の子ども全体の子育て支援に関して、どのような役割を果たす可能性があるとお考えですか。ご自由にご意見をお書きください。

( )

● その他

(26) これまでの質問とは別に、なにかご意見がございましたらご自由にお書きください。

( )

以上です。ご協力どうもありがとうございました。

## 付録資料② 回答一覧

### (1)【設問(5)】「生活リズム」について感じる問題点・必要と思う取り組み

<p>時々0歳児でも夜12時近くまで起きている子どもがいるが、0歳児のうちならば、親御さんへ生活のリズムを改善を話していくと、普通のレベルまで戻りよい方向に向かうが、親の生活時間が夜型で、年齢が高くなっていくと、生活のリズムを改善していくのは難しくなると思う。保育園で小さいときから生活している子どもは整っている子どもが多いと思うが、途中から家庭より入園してくる子どもの中には、夜型睡眠、食事の好き嫌が多いなどの子どもがいる。</p>
<p>親自身が生活のリズムについて重要視していない事。保育園などが声を上げて、受け止めてもらえない。母親の妊娠中の母親学級だけでなく、出産後にも生活の仕方等を知らせていく場をもつ。一度始めてしまった生活を変えるのは難しいので。</p>
<p>「午前中、寝不足で元気に遊ぶことができない子ども」「休み明け、疲れがたまっているのか、イライラしている子ども」が多いような気がします。子どもの生活が大人の「生活リズム」に振り回されているという事が原因だと思います。お忙しい親御さんが多い中で、時間の調整はとても難しいと思いますが、やはり子どもの生活のリズムを確保できるような生活のゆとりが大切だと思います。</p>
<p>私たちが子育てをしていく上で当たり前と思っているような事（寝かしつける、離乳食のあげ方、休日の過ごし方、オムツの当て方等々）ひとつひとつを丁寧に知らせていかないと、わかっていない保護者が増えてきている。寝かしつけ・・・子どもが眠くなるのを待っていて寝かしつけず「寝ない人です」と言ってくる。食事・・・親が朝食をとらないので子どもも食べて来ず、食べてきて下さいというと、菓子や牛乳だけだったり、片手にパンを握り締め、食べたら保育室に連れてくる。朝は子どもが起きるまで寝かせておく。また、自分も一緒に寝ていて登園が10時を過ぎる。保育時間が長時間化している中では、夜型傾向になっていくのはある程度仕方がない面もあるが、その中でどう時間を工夫し、子どもにとってどんな生活リズムが望ましいのか、そのためにはどうすればいいのか、保護者はわかっていると思わず、ひとつひとつ細かくアドバイスが必要。</p>
<p>寝る時間が大変遅く、朝はいつまでも寝かせておく。やはり大人の都合ではなく、時間をきちんと決めるべき。まずは早起きからスタートするべきである。</p>
<p>夜型の子が多い。登園が10時過ぎないと、今では各クラスに何人もいるのが当たり前になった。その都度、生活リズムの大切さを知らせていくが、保育園でも努力している所を示す事も大切。</p>
<p>夜寝るのが遅い子どもが増えてきているのでは？。親の就労時間も長く、親自身が夜型人間が多く、子どももそれに付き合うことが多くなってきているのでは？。いかに12時前の睡眠が重要であるかを知らせていくことが必要だと思う。</p>
<p>生活のリズムが乱れ、安定していない。夜型になっていて、朝起きられない。親の都合に子どもが合わせられていたり、放っておかれる。生活のリズムの大切さを認識していない。生活のリズムが規則正しい時、乱れている時の影響を具体的に知らせることで、大切さを認識してもらうことが必要。データ等あるといい。</p>
<p>大人の生活に子どもを合わせている。就寝時間が遅くなっている。1歳児クラスであっても10時11時に寝る。また、うまく寝かしつけられない親が増えており、0歳児クラスの時、車に乗っていると眠るからと、夜子どもを連れてドライブに出かけるという話を聞いた。夜型で仕事をしている親は、子どもを早寝早起きの生活習慣にするのは難しく、祖父母など第三者の協力が大いに必要だと思う。</p>
<p>親の生活リズムで生活している。親が出かけたいところに、出かけたいときに、と親の都合で外出したり、がある（次の日ゆっくり休むなどしない。平日の夜に外出するなど）。親に話をするなど働きかけていく（根本的な意識を変えるのは難しいとも思われるが）。</p>
<p>大人中心の生活形態となり、特に0歳児の睡眠は翌日の機嫌の良し悪しから始まり、一日中食事にも影響するなど、さまざまなデメリットを引き起こしています。大人が気遣って（生活リズムを作って）あげなければならない。時期を大切に、休日の過ごし方や食事のとり方を考えていって欲しいと思う。まずは、朝の（出来るだけ同じ時間に）起きることから始めていって欲しい。</p>
<p>かなり前から感じていたが、全体的に夜型の傾向にある。社会全体が多種多様、女性の社会進出も大いに影響していると思えるが、仕事が忙しく家庭でゆとりを持ち生活する事の基盤が失われつつあるように思われる。寝る事、食べる事、人間が生きていく上で最も大切な事がおろそかにされ、目に見える成果のみが評価につながる時代だが、少なくとも幼い児童を育てる時期の母親が忙しすぎる。両親共に早く家庭に戻れるような（幼児期、小学生も）社会にしていく事が先決だ。</p>
<p>朝10時くらいから子どもたちが外に出たり散歩に出かけたりと活動が始まりますが、その時刻になっても登園できない子どもがいる（毎日ではないが）。朝ゆっくり起きると、昼寝の時間に眠れない。子どもにとっては保育園に来るとあわただしく準備し、昼寝の時間も苦痛だと思う。親と話し合い、早起きの習慣をつけてもらおうと良いと思う。</p>
<p>就寝時間、起床時間が遅い。親の勤務時間のこともあるので企業努力が必要であると考えます。育児休暇の延長、短縮勤務等。家庭における昼寝時間において、子どもが寝るのを待っている状況が多い。時間になったら寝かす等、母親自身の意識を変える。</p>
<p>就寝時間が遅く、朝起きる事が出来ないため、登園が遅かったり、午前中の活動が出来ない。月曜日には子どもが疲れている。</p>
<p>親の生活時間に合わせ生活している子どもが多い。早寝、早起き、朝食をきちんと食べる事が大切だと思うが、なかなかその大切な事が実行できていない。親の就労時間も長くなっているのが関係しているのでは。繰り返し生活リズムの必要性を親に伝えていく。</p>

<p>人間本来のリズムが崩れてしまっている。親が遅くまで起きている。子どもは自然に眠くなると、一人で寝ると思い大人の生活につき合わせてしまい、リズムの崩れた夜型の子どもを作っている。子どものリズムは親である自分たちが作ってあげることが大事である事を知らせ、わかってもらい、受け入れながら指導していく事が大事である。</p>
<p>子どもにあった生活リズムでなく、大人の生活を優先している。例えば、夜遅くまで遊びに行ったり、飲みに行く場連れて行く。遅く寝るので朝起きられず登園が遅い。10時、11時に登園する子もいる。また、それも起きられないのか、休みが続く子もいた。保護者に何度話しかけていっても、難しかった。</p>
<p>夜更かしする子が多い。 決めた時間には、食事や入浴や寝かしつける事が大切だと思う。規則正しい生活が必要だと思います。</p>
<p>就寝時間の遅さ。</p>
<p>夜寝るのが遅い（リズムの整っている子もいるが、整っていない子に対しては）。朝起きれない。食事（朝食）を食べない。夕食も軽視されていると思う。日々の生活のリズムを考えてもらうきっかけをつくり、徐々に改善してもらえるよう気長に話し合い、園の方でも調整し、共々で作っていけるようにする。</p>
<p>子どもが寝たくないというので、深夜12時、1時と保護者がつき合い、そのため起きる時間も朝9時になり、登園してきた時もボーッとしていて、なかなか遊びに入ることができない子がいる。保護者にもクラスの担任が早起きするよう伝えているが、なかなかよくなる。それでも、すこしでも早く来た時は、子どもを褒め、保護者にもその時その時で話しているようである。</p>
<p>幼児（0、1、2歳）でありながら、就寝が遅く、大人と一緒に過ごしている子が増えてきていると感じています。大人が子どもの時間に合わせるのではなく、大人の時間に子どもが付きあわされているといった方がいいのかも知れません。大人も苦労して寝かしつけることもせず、眠くなったら寝れば良いという考えもあり、生活のリズムのとらえ方が家庭でも、大きく変化しているのが現状だと思います。早寝早起きとわかっていても、実際にできない家庭もあり、せめて目覚める時間は一緒にしましょうと呼びかけています。</p>
<p>去年、5歳を担当していて感じたことですが、テレビの深夜番組を親と一緒に見ている子がいたことに驚いた。夜更かしをして、朝起きられず、保育園にもずいぶん遅い時間に登園してくる子もいた。子どもの生活のリズムを直すためには、親への教育が必要と感じている。</p>
<p>特に5歳児は就学に向けて、早寝早起きの生活リズムをつけていって欲しいと思っているが、親の意識が「学校に行ってから…」と思っている方が多い。子どもが苦労することをもう少し子どもの立場で考えて欲しい。朝の登園時間を後半に向けては、9:00登園を心掛けて欲しいことを伝え、活動のデイリープログラムを少しずつ朝の活動から子どもにも意識をもたせられるように工夫している。</p>
<p>夜寝る時間が遅い。遅くとも9:30頃には、眠れるようにする。眠れるように絵本をよんであげたり、側についてあげる。子どもが眠くないと寝かさない。子どもが寝ているからと言って、起こさず、毎日違った時間におきてくる。毎朝、同じ時間におこすようにするとよい。</p>
<p>夜ねる時間が遅いと、日中の活動や午睡に影響があるように思います。</p>
<p>就寝時間が11時、12時となる子がいる。朝や午睡明けにすっきり起きられない子がいる。</p>
<p>夜型の生活リズムになり、夜11時、12時まで起きている子が増えている。保育園の午睡時間の問題もあるが、保育時間が長くなり、降園もおそいため、夜型になってしまうのではないかも思われる。 午睡時間に対しては、保育園側で話し合いを持ってきている。その子のリズムに合わせてたり3時には、起こす方法など取ってきているが、まだ、工夫する必要もある。 保護者の就労時間については、国全体で働く母親の就労時間について考えていくべきだと思う。</p>
<p>家での生活リズム（週末）を月～金の間の園生活のリズムで整えていっている様に感じている。どうしても、大人主体になりがちの様である。</p>
<p>親の生活時間と全く同じになっている子が多い（朝遅い→登園も遅く、早く登園している子と2時間以上違う。すぐに遊べず、ボーッとしている時間が多い。なかなか体が温まらない）。行事などで、その日だけ早く登園するが、テンションをあげるのには大変。 保護者への働きかけは常に行っているが、なかなか無理の様子。食事、午睡など子どもに合わせ、時間を時々ずらしたりしている。</p>
<p>眠る時間が遅く、睡眠時間が短くなっている。しかし、現代では、仕方のないことだと思います。でも、小学校へ向けてということもあり、せめて、早起きの習慣はつけていった方が良いのでは…と思います（子どもの睡眠は、脳の働きに影響があるので）。</p>
<p>夜型の生活。大人の生活リズムに合わせている為、朝起きることができず、日中の活動が充分に出来ない（ボーッとしている、食欲がないなど…逆に朝食をとらずに登園、おなかがすいて泣くなど…）。保護者の仕事の都合もあるだろうが、子どもの生活リズムを崩さずに規則正しい生活リズムを作ってあげることが大切。</p>
<p>保護者の生活時間にあわせて子どもの時間になっていない。仕事が忙しく夜にしか会えないから眠ろうとしている子を起し遊んでしまったり、子どもの生活についてもっと考える必要がある。1人1人の保護者に子どもの生活のリズムの大切さを知らせ、子どもにあわせるようにしてもらおうよう働きかけが必要である。</p>
<p>夜型の生活になり、朝が遅くなっているため、朝食は少ないようでお腹空いた～と言ったり、早食いであまり噛まないようにみえる。</p>
<p>家庭で夜、子どもがなかなか寝なかつたので、朝起きられず、登園が遅くなった、という場面を見ることがあります。しかし、子どもが「寝ない」のではなく、保護者が「寝かせていない」のではないかと疑問に思うこともあります。以前、0歳児でも連絡帳を見ると、寝るのが23時、遅いときは24時という家庭がありました。子どもは、放っておいても寝るものではない。保護者が子どもに心を寄り添って寝かせることが大切だということを知らせていく必要があると思います。</p>

<p>社会全体が夜型化している影響が大きい生活習慣の乱れがみられる。深夜親につれられてコンビニ、食べ物屋、カラオケなど…どこまでいくのか？どんどん身体のリズムは変になり、成長ホルモンも十分に分泌されなくなり、疲れてしまう。学校へ行くようになれば、学力にも影響…。大人自身も生活習慣を見直していかなければ大変な問題になっていくと思う。</p>
<p>大人の都合につき合わせられ夜型になりつつある。生活習慣の躰なども家庭ではなく園に求めることが増えてきている。</p>
<p>親の仕事のため、夕食の時間が遅くなり、就寝時間も遅い。そのため、朝起きられず、保育園への登園も遅くなり、遊び、食事、午睡において、すべてずれていく。</p>
<p>0歳児の時から、11時位に寝たりする子もあり、夜型になっていることを痛感する。午前中は、ボーッとしていることもあり。母親の仕事が専門職の方が多く、また、役職も高い方もいらして、時間が長く仕事に携わっているのが現状です。そのような方に、早寝早起き、子どものリズムと大人のリズムは別にと、話をしても頭では理解されても現実的には、そのしわ寄せが子どもに向けられることもあるので、保育園では、現状を長い目で受け止め、生活のリズムについては直していくのが、今は必要かと思えます。子育ての中で社会が、小学校低学年までのお子さんを子育てしている親には、残業をさせないとか、5時には仕事が終われるように配慮するとか、などが必要かも。</p>
<p>各家庭の生活時間が違うので、仕方ないと思っている。解決にむけては、保護者や家庭との協力と前向きな話し合いができる関係をつくること。</p>
<p>就寝時間が23時過ぎる幼児が多く見られる。保護者の勤務時間に子どもがあわせられている傾向。朝起きられず、朝食も少し口にしての登園の時もあるようで元気がなく、活発に遊ぶ姿が見られない。保育によっていつもより早めの登園をお願いする事があるが、遅れることがある。就学に向けて、早寝、早起きの習慣の話を子ども達にしている。今の登園時間よりかなり早い時間になる事など分かりやすく話す。</p>
<p>寝る時間が遅く、寝不足のため、午前中ずっとゴロゴロしたがる子もいる。朝、起きられないため、朝食を食べずに来る子もいるようで、他の子に比べ、エネルギー不足なこともある。</p>
<p>保護者の都合で寝かせたり、朝起こしたり、寝たままにしたり、リズムが乱れている部分。根気よく子どもの育ちについて保護者に伝えていく。</p>
<p>夜型の生活になってきているように思う。その為に朝から疲れている子もいる様子である。食事朝から食べるのが1番いいと思うが、食べて来ない子もいるので、昔から、早寝、早起き、朝ごはんという言葉があるが、大切な事だと思う。子どもに合わせた生活リズムを作っていく事が、大事な事だと思う。</p>
<p>朝食を食べていない。又は、朝食べられない子が多いと思えます。大人の生活リズムになってしまっていると思う。親子で休日を楽しく過ごせることは、とても良い事です、結果、月曜日から体調を崩したり、機嫌が悪かったりしています。</p>
<p>夜型の生活となり、睡眠時間が短くなっている。睡眠時間が短いことは、子どもの成長（体はもちろん心も）に大きな弊害となっていると思う。大人の生活リズム、社会全体のリズムを変える必要があるのではないかと。就労時間を子育て中は、短くできないものであろうか。</p>
<p>保護者の仕事によっては、夜遅くまで営業している。大人中心の生活でつつい子どもも巻き込んでしまっていて、夜型の子がいます。結局、起床も遅く、登園も遅く、何となく午前中はぼんやり、給食あたりから段々と元気になってくる。午睡も、もちろん気持ちよく入眠できないというパターンです。しかし、朝ゆっくりと親子の対話（かかわり）をもっていると思うと生活改善は難しいと思えます。</p>
<p>今、担当しているクラスの子は、早朝保育の登園がほとんどであるが、就寝時間は遅めである。全体的に夜型傾向にあるように思われる部分も多い。園では、早めに布団に入れてあげるとか、3時までには目覚めさせることを心掛ける。</p>
<p>夜に寝て、朝起きるといった基本的なリズムが崩れてきている。休日になるとそれが出来ず、次に登園してくると体調や機嫌に表れている。 保護者と共に取り組まなければならないが、子どもだけ、規則正しい生活をさせる事ができないので、難しい事項である。</p>
<p>登園児不機嫌で親から、なかなか離れられない。ささいなことでも、おこりっぽくイライラ落ち着きがない。あくびをしたり、AMの活動にのりきれない。集中できない。ゴロゴロ寝転び。依頼心が強く、甘えたがることが多い。 ひとりひとりのリズムに合わせ、休息、睡眠が十分取れる環境作り（物的、人的手立て）。</p>
<p>特に食に関してですが、好物は食べるが、嫌いな物はまったく食べない。そのような子どもは、生活の場においても嫌がる事が多く、偏食やそのような好き嫌いへの対応の難しさを感じる。逆に偏食がなく、何でも食べる子は、生活の場においてもそれほどひどいこだわりはないように感じられる。</p>
<p>保護者の生活スタイル、生活リズムに合わせさせられていて、週末休んでも疲れて、月曜日に登園することが毎回だったり、フレックスタイム出勤の時間に合わせて、生活リズムが身につかなかったりする点。→“朝の光を浴びることの重要性”や“体内生活リズム、体内時計は乳幼児期につくられる”ということを科学的根拠を提示しながら、知らせていく。→子ども自身に寝る時間、起きる時間を覚えさせ、意識をつけていったりする。長時間保育が強いられている子ども達には、ホッと安心できる環境の中での、休養ややすらぎが必要なのだと思う。</p>
<p>大人の生活時間につき合わせられ、夜遅くまで起きている子が多い。朝、起きられず、無理やり起こされ、朝食もそこそくに園へ連れてこられる。連絡帳などを通して生活リズムの大切さなどを話している。</p>
<p>夜型が増えている。時間におわれ朝食を食べながら登園、午前中ボーッと活気がない。社会の仕事全体が夜型になっている。大きくは就労時間の改善が必要。 各家庭で子どもだけは早く寝かせるような工夫。夕食時間の工夫（朝のうちに半分仕上げ、夕方帰ってからすぐ食べられるように！）。TV、DVDなど刺激の強いものを避け、眠れる雰囲気づくり。親自身夜型の改善。</p>

<p>夜型になっている。就寝時間が12時近くで起床が8時頃で、朝、起きれない子がいる。保護者の就労時間が夜型になっているので、夕飯を食べる時間も8時近くなる家庭あり。そのため、どんどんズレこんでしまうとのこと。 せめて、就学前までは、残業や就労時間を短縮し、6時頃までには、お迎えができる方がよい。家庭でも夜型にならないよう、母親も朝早く起きて仕事をし、夜は、9時には子どもと一緒に就寝するのが、理想。</p>
<p>就寝時間が11時過ぎということは気になるが、お迎え時間も遅く、夕食は時間も遅くなっているため、子どもの生活時間を中心に考えてほしいこと、睡眠時間の大切さ、発達にも影響がある事などを話していつている。</p>
<p>大人が夜寝る時間が遅いため、それに続き、子どもも寝る時間が遅くなっている。それにともない、朝、起きる時間も遅くなり、早寝早起きのリズムが崩れている。日中、光をあび、体内リズムをリセットする。</p>
<p>夜型になっている。⇒子どもに合わせた生活を大人もする。好きなTVをみれない、家事が押し寄せになる。大変なのは、子育ての中の一時的なことであることを知らせ、大人も我慢したり、子どもに合わせ自ら、体内時計をきちんとしたリズムに合わせる。</p>
<p>就寝時間が10時を過ぎている子が結構います。そういったお子さんは起床時間も7時～8時近くといったゆっくりの起床なのですが、ゆっくり起きたお子さんは、午前中の活動の後の食事、午睡時間になっても眠くないので、ほとんど寝れません。すると、夕方お迎え時頃になると眠くなり、6時か7時くらいに夕寝する子。又は、そのまま朝まで食事、お風呂も入らず眠ってしまうことがあります。夕寝した子は、8時、9時には、まだ眠くなく、寝るのが遅くなってしまいます。睡眠リズムの乱れが、食事の乱れにもつながっていくと思うので、忙しい朝、少しでも子どもが眠っていてくれることは家事や朝の支度をすませる中、助かることかもしれません、早寝、早起きのリズムを作ってあげてほしいと思います。</p>
<p>朝、活気がなく遊びに入れず、ゴロゴロしている子がいる。保護者の方も「夜なかなか寝てくれない、朝なかなか起きてくれない」と困っている話を聞く。朝食をとってくる事も難しそう。大変だけど、朝は決まった時間に起こして朝食を食べることが、まず、第一の解決策。第二は、夜みんなで10時頃には、床につくこと。</p>
<p>夜型の生活、大人中心の生活により遅くまで起きている。食事、朝食が抜かれている。食欲がなく食べてこない。無気力、自分の事として考える機会がない。全て親が先に先にと解決している。</p>
<p>一昔前は、月曜病といって、日曜日に生活リズムがみだれ、月曜日は朝からの調子が今一つでしたが、今は朝の時間帯にまだ前日の疲れが残っている様子が目につきます。やはり、早寝早起きは、子どもにとって、生活の基礎パターンだと思います。出来るだけ、早く寝かせ、朝食をしっかり食べさせて、会話をする方が、親は大変だと思いますが、リズムはとりやすいのではと思います。</p>
<p>生活リズムの崩れ。夜型になっている（親の生活に合わせている）。23時以降の就寝の子どもがめずらしくない。登園後も眠気のため、活動できない。昼食後から元気に活動的になる。 保護者の就労時間の短縮（制度化する）。長時間保育、二重、三重保育の子どもをなくす。保護者の意識を改善する。子どもに同等の付き合いをさせている。</p>
<p>保護者の方の勤務時間が遅く、夕食から就寝までの時間がかなり遅くなっている。その為、朝はスッキリ目覚めず、朝食も食べられない。その為、午前中の活動にも影響が出ている。 家庭にも子ども達の様子を丁寧に伝え少しでも、時間を整理して子どもに合わせた生活時間にしてもらうことが大切ではないかと考える。</p>
<p>月、火曜の園児の動きは横になっていたりと、ささいなことでも大泣きしたり、イライラしている姿がある。曜日が過ぎていくにつけ、動きが活発になり、イライラもなくなってくる。土、日の過ごし方に問題があるのではないかと？ 子どもの状態に合わせ無理なく過ごし、タイミングを見て風、ひかり、まわりの景色のかわりを感じ全身で動くような環境に参加させていく。</p>
<p>夜型で朝、眠そうに、もしくは眠りながら登園する子がいる。22：00以降に就寝する子が多い。</p>
<p>保護者の就労時間も関係していると思いますが、夜型が多く、朝起きる時間も遅く、ボーっとしている子、朝食が食べられない子など。 朝、遅くまで寝かしているため、いつまでもリズムが変わらないので、朝、早めに起こし、徐々に生活リズムを朝型に変えていく努力が必要ではないでしょうか。 保育園での活動も、体を使い、戸外遊び、散歩などの活動を取り入れ、体を動かす→程良い疲労感→早めの就寝につながるよう考えていく必要があると思います。</p>
<p>就寝時間が、年齢が低いにも関わらず、夜中12：00をこえてしまっても平気という家庭が多い。そのため、朝も起きられない悪循環になっている。それにより、食生活、朝食、子どもの活動ほかにも影響を及ぼしている。やはり早寝早起きの大切さを感じる。</p>
<p>食事・言葉づかい（「てめー」「バカヤロー」など）・睡眠について。どれに関しても、家庭の事情（仕事内容 etc・・・）があるので、園としては「こうしてください」「この方がよいですよ」というようなことは言いがたいところがある（本当はそれができる関係が望ましいが）。しかし、クラスだより、園の掲示板などで「見やすい」興味を持ってもらえる方法で、「何が大切か」「どうしてなのか」ということを、公に伝えていくことが、今後一層大切になってくると感じます。家庭でできなくても、大人（保護者）が認識しているのといないのでは大きな差があると思うので。</p>
<p>就寝時間の遅さ：子どもの就寝時間の重大さ（成長の上で）を手紙や保護者会で伝える。 社会的なことですが、子どもを持っている親の帰宅時間を、会社が責任を持って早くするなど。 休日の過ごし方：大人のペースでハードな時間での休日の過ごし方が目立つ。たよりや、保護者会などで伝えていく。</p>
<p>遅寝遅起きの子ども。 日中の活動量を多くする。戸外遊びを多くする。保育園での休息の時間は3時で起こす。保護者に朝できるだけ早めに起こし、日光を浴びさせてもらう。</p>
<p>就寝時間が遅くなっている子どもがいる。朝食の内容、排便のリズム。 保護者との学習会や、学びあう場の設定をする。日常的なちょっとした会話を通してのヒントや、保護者会などの議題。</p>

<p>午前中の活動が十分できていない。食欲がない。午睡が十分でない。 家庭にその日の子どもの様子を伝えながら、原因を話し合ったり、アドバイスをする。</p>
<p>年齢が低い子どもでも夜型のリズムになっている子が目立つ。就労時間が長く帰宅が遅くなり、それともなっていてすべてが遅くなっているということも考えられるので、社会全体が子育て中の人に対する理解を深め勤務時間を短くできるような援助ができるとよい。どんな工夫ができるか情報交換をする。 親子でふれあう時間を作ろうとして遅くまで起こしているケースもあるが、ふれあいを大事にするために恒常的に遅くしては生活リズムが乱れてしまう。別の方法を考えていくとよい。 生活リズムが子どもの成長にとっていかに大切なものなのかを理解せず、大人のリズムや都合に合わせてしまっている。どういう影響があるのかなどを伝えていく。</p>
<p>夜型生活リズムのお子さんたちが多く、日々生活の中で繰り返し、ていねいに、その都度場をとらえながら、対応しています。</p>
<p>生活リズムができていない。夜いつまでも起きている。親中心の生活に子どもをひきこんでいる。乳児、0歳児からテレビを見せたりしている。</p>
<p>夜型の生活の子どもがとても多い。特に低年齢でも大変遅くまで起きていることがあり、大人と同じ生活リズムの子もいる。また土日明けにはとても疲れていると見られる子が多数います。大体は外出や長時間のビデオなどの影響もあるように思われる。 取り組みとして、園側としては午睡の見直しや個々に合わせた生活の仕方の工夫、家庭としては個々の家庭へというよりは（それはこれまでも行っている）全体で取り組めるノーテレビデーの実施等も必要。</p>
<p>就寝時間が遅い（大人と同じ生活リズム）。成長ホルモンなど子どもの必要な時間をとれない。疲れやすい、次の日の活動に入りづらい（朝からゴロゴロ、あくびなど）。情緒の面でも不安定だったりイライラ、またキレやすい。 DVD や TV、PC などの時間が多い。本当に必要であるか？まだ現実と映像の区別がつかないままその世界を見ている。刺激が多く、また映像が早く、感受性が豊かな時期にはマイナスの影響が多い。子どもは興味を持つが、その時間の他者とのコミュニケーションはほぼない。成長に必要な体を動かすなどの経験が少ない。体の機能が必要な時期に経験なく過ぎる子が多い。転びやすい、ケガしやすい、動くのを嫌がる、体力が低下。 専門職としてのアドバイザー（家庭への啓蒙）。また、生活時間、専門知識をもって成長を保証する指導、また保育。</p>
<p>就寝時間が遅い（11：00～8：00）。18人中2名程度だが、0歳児クラスより続いている。今さらなおせないと思うが、就学時に困ると思うので、やはり親の意識を変えていただくしかないと思う。 長時間保育の子が多い。ほとんど毎日早番～延長番と言う子が10名程度。日中落ち着かなかつたり、歯止めがきかなかつたり姿が見受けられる。 親の就労時間なので、解決策は難しいが、休日のときにその分子どもの気持ちを受け止めることでもずいぶん違うと感じるが、現実には厳しい。</p>
<p>夜型の大人のリズムになっている子が増えている。 園での子どもの姿（様子）を知らせ、年齢なりの生活リズムはどうあるべきか、望ましいリズムを機会あるごとに伝えていく。</p>
<p>親が忙しくなってきたりすることもあるのか、睡眠時間が短くなっているように思える。0歳クラスでは10時に入眠したり、幼児では12時に入眠の現状。遅寝の子は朝がーっとしていることが多い。早起きすることからはじめてみては。</p>
<p>親の都合に合わせて夜遅くまで起きていたり、朝食を抜いてきたり、遅い時間に登園したりすることや、休日に朝から一日出歩いてばかりいて、身体を休める時間がないということなどに問題を感じます。</p>
<p>非常に感じています。社会事情も変化してきているのですが、夜型リズムになっている家庭が増えています。早番の子どもより遅番の子どもが確実に増えています。 保護者会や個別に働きかけたり、子どもの日中の生活への影響など遊ぶ姿や保育の課題（計画）など伝えながら、早起きの大切さを話す。早く仕事を切り上げさせる。後始末、洗濯などやってあげるなど父親にも育児に関心をもってもらうよう、コミュニケーションを大切にしていく。 夜遅く、8時以降などに外に連れて歩くなどもってのほか。翌日に支障をきたすことなど、具体的に話してみる。</p>
<p>夜型の生活リズムの子が多く、中でも11：00～深夜1：00ごろの就寝の子がクラスに2～3名いる。保護者の勤務時間により仕方ない家庭もあれば、親の都合で遅くなっている家庭もあるが、子どもたちにとって乳幼児からの生活リズムはとても大切で、健康な生活をするためにも、支援 or 指導をしていく必要があると思う。</p>
<p>遅寝遅起き。大人の都合での生活が主になり、小さいときに大事な生活リズムを整えてあげられない。 親の職種によりある程度は仕方がないが、生活のリズムの大切さを親に根気よく話していくしかないと思う。</p>
<p>大人の生活時間にされている子どもたち、休み明けの子どもたちはとても疲れている。しかし親も子どもとの平日ではできないふれあいを考えているのだということを理解してあげなければとも思う。</p>
<p>夜9時台に寝ている子は1・2名、10時～11時半数、他11時台、1・2名はAM1～2時台に寝ている。朝は遅く、起こせない。10時過ぎに登園の子もいる。子どもにふりまわされて寝かせつけられない。早めに起こして、機嫌よく食事をさせ、登園させることができないが目立つ。</p>
<p>まず、就寝の時間がとても遅いです。乳幼児が寝る時間とは思えない10時11時まで起きている子は多いです。夕方、遅くまで園にいる子に限らず、早く帰る子でも遅いのはなぜか。 子どもにとって生活リズムが大切と日々、伝えているが、改善される例はとても少ない。社会全体の問題ともいえるのでは。</p>

<p>就寝時間について、9時前に布団に入り寝かせてもらっている子が少ない。親と大人が一日のリズムとして就寝をとらず、子どもが眠くなって寝付くのを待っている様子がうかがえる。子どもの育ちの中において、質の良い睡眠が必要と思えるが、改善はとても難しい。保護者には「早起き早寝」を呼びかけている。保育園における午睡が子どもたちの就寝時間を遅くしていると思う人が多い。食事・入浴・入眠前の毎日の絵本読み・お話等意識している人もいるが、父親の帰り（母親も）が遅く、子どもたちが布団に入るころ帰り、一緒にひと時を過ごしているようだが、そのふれあいの時間を朝にと思う。社会全体の夜型が子どもたちにも関係しているので、真剣に社会問題として考えていかないと、子どもたちの健やかな育ちにはつながらない。育児の工夫が欠けている。家族一緒に食事が少ないと思える。</p>
<p>睡眠時間が短くなっている。夜型生活になっているためと思われる。親子で過ごす時間が少ないためか、夜に重点がおかれているようである。親の就労時間が長くなったり、フレックスで朝ゆったり、夜遅くまでというふうに変化していると思われる。親の就労時間は変えられないので、その中でどう時間を作り出すのかを話し合い、子どもに負担のかからないように努力してもらおうしかないのではないかと思います。</p>
<p>0歳児クラスということで、比較的今のところ生活リズムの乱れはそれほど大きくないが、やはり、子どもが眠くなるまで起こしている家庭が増えてきているように感じられます。そして、年齢が高くなるにつれて夜型が増えていきます。まず大人がリズムを作ってあげることが基本と感じます。</p>
<p>大人と同じように一日を過ごし、夜型になっている。睡眠時間の少なさ、常に眠く疲れている、疲れているから体を動かすのを嫌がる、動かさばと思うように体が動かさずケガをする、など不具合がおきてくる。</p>
<p>全体的に夜型になってきて、迎えが遅くなってきています。体内時計を大切に、子どもにあったリズムを求めます。</p>
<p>いろいろな家庭があるので入り込むことはできないが、保育園でおきなえることができたらおきなっていきたい。例えば家庭での睡眠時間が短ければ、園での睡眠の確保をするなど、対策を考えていきたい。</p>
<p>夜遅くまで起きている子どもが増えてきているように感じる。そのため朝もなかなか起きられず、子どもたちの中にはしっかり朝食が取れない子も見られる。早寝早起きの習慣をつけることが一番だと思う。また家事を後回しにしてでも子どもを先に寝かせるなど、なかなか難しいとは思いますが、子ども中心の生活を考えていくことが大切だと思う。</p>
<p>睡眠のリズムが崩れているためか、午睡時に入眠しにくい子がいると思う。また保護者のリズムに子どもが合わせてしまい、子どもが疲れているように感じる。解決策は、保護者と話をすることで、園での様子を密に伝えて、リズムを整える意識につなげていくことだと感じる。</p>
<p>就寝時間が遅いため、朝すっきり起きられず、朝食も食べられない。保護者にもっと生活リズムのこと、大切さを話し、働きかけていかなければいけない。</p>
<p>就寝時間が遅く、その分朝の起床時間に響いている。「朝起きれないので」と10時過ぎに登園してくるお子さんもいるが、保育園でこそそれでよいかもしれないが、学校に通うようになったときにはたぶん修正できなくなってしまう。夜遅くなってしまうのは、各家庭の生活リズムがあるから仕方ないとしても、朝だけは定時に起きる（起こす）事を習慣にすべきだと思う。（一定時間の）午睡で補い、なお足りなければ夜も早く眠くなると思う。</p>
<p>夜寝る時間が遅くなっている子が増えている気がする。6～7時過ぎの迎え後、またそれ以前であっても迎え後一緒に帰り、食事、お風呂などを済ませ、家の人と遊ぶことを子どもたちが求めるからだろう。それを思うと寝る時間が遅くなるのは仕方なくも思える。せめて就学前の子どもをかかえる保護者の就労、育児の保障として、正規雇用でも短縮できるということが社会の中で認められるといいとも考える。この考えではすべての子どもたちの生活がカバーできるとはやはり思えない。</p>
<p>塾や習い事など、早期教育の影響を受け、子どもたちの生活が時間によって小刻みに区切られ、忙しくなっているように感じている。幼少期は早寝早起きをはじめ、家族がそろって食卓を囲み、コミュニケーションを交わす時間を多くとる。たっぷりと楽しむことと味わうことができる生活リズムが、後の学力や集中力に影響すると考えている。子どものテレビ番組、ゲームなどは、大人が責任、適切な判断力をもって与えるようにして、一日の生活の時間に多くのゆとりをもつことは、大人が工夫してすすめていくべきだと思う。</p>
<p>子どもの「生活リズム」が大人の「生活リズム」とどうかしているように感じます。就寝時間が遅くなり、睡眠時間が減少し、元気に一日をスタートさせることが困難になっているように思います。保護者の職種、勤務体制、勤務時間等多様化しているためその点も考慮した上で互いに歩み寄れる範囲で協力を仰いでいけたらと思います。その上で、午睡時間、睡眠時間等も今後検討が必要になってくるかと思っています。</p>
<p>夜型になっている就寝時間が遅いため、朝起きられない。午前中ボーとしていて、午睡後活発になる。就学に向け、親に朝型の生活リズムに意識を変えてもらう。生活リズムが脳の発達に与える影響を話し理解してもらう。</p>
<p>夜、遅くまで起きている。朝決まった時間に起きられない。朝食を食べない、または朝食が遅い。→給食で栄養がとれなくなる、または不十分になる。いろいろな食材に触れられなくなり、好き嫌いが増える。満足感が得られないと、安心して眠ることができない。→悪循環。個人差はもちろんあると思いますが、家庭との連絡を密にしていけばいいと思う。</p>
<p>保護者の就労が厳しく、クラスの中に8人延長の申請の子がおり（現実、希望があっても枠があるので、何とかやりくりしている様子）、早朝保育にも関わっているため、疲労感あり。集団数も多いため、年齢が高くなると集団生活を主にしていくので、生活、遊びにのりきれない（言葉として正しくありませんが）お子さんもおり、複数担任はしているが、個別に、少数で関わってあげる時間が少なく、日々悩んでいる。子どもの日中のストレス、家庭におけるストレスがとても強くなっている。子どもの姿として、床に寝転ぶ、指を吸う、ひざを抱える、宙を見ている、友だちとのトラブルが頻繁、手が出やすい、など。</p>

<p>就寝時間が遅く、なかなか朝起きれなかったり、と大人に合わせての生活が多く感じる。生活リズムの大切さを保護者の方に理解を得て整えてもらう。</p>
<p>大人の生活リズムに合わせて、例えば、就寝時間が遅くなり、朝がすっきりと目覚められず、園での午睡もなかなか入眠できず、目覚めも悪い…という子が多いように感じる。親の意識を変えることも大切だと思う。</p>
<p>夜型が多い。年長児であるので、起きる時間は7時ごろにし、今から習慣づけていくことがいいのかなあと、個人面談のときなど話し合うことがある。</p>
<p>就寝時間が全体的に遅くなっている。子どもの要求等に大人がふりまわされ、なかなか寝かせられなかったりといった状況が多い。保護者会ではプリント等配布し、一緒に話し合いをしたりしたが…。</p>
<p>親に合わせた生活をしているので、夜型になっている子が多いと思います。 解決方法としては、保護者会を通じて子どもの体内時計について話し、早寝早起きしてもらうことをお願いする。</p>
<p>どちらかというと夜型の生活になっている子どもたちが増えていることを感じます。子どもたちの生活に合わせるのではなく、大人の生活が基本になっているのでは？と思われる家庭もあります。反対に、大人側が、生活のリズム（例えば、今は食事の時間、寝る時間など）をつくっていかないと、子どもがイヤといったことを聞かないと、言い聞かせられず言いなりになって時間がずれていく家庭もあります。1歳児クラスにおいても、寝かしつけられない状況もあります。画一的に何時には寝た方がよいとは言えない面もありますが、それぞれの家庭で規則的な生活リズムをつくっていきけるよう、機会をつくって、生活リズムの大切さを伝えていく必要があると思います。</p>
<p>親の仕事の時間によって登園時間や就寝時間が決まってしまう子がいる。ふだんは9:30前後の登園だが8:30だったり10:40だったりする。土曜保育もしているため週6日の保育園、日曜日は習い事だったり親の仕事についていたり親中心なところが気になる。親は子どもに対して申しわけないと思いつつも変えないのだから、園としてはその子が保育園で心地良くすごしていけるように園でのリズムをこわさないようにするしかできない。</p>
<p>早寝早起き、規則正しい生活が生活リズムをつくっていくものだと思いますが、比較的夜型で寝るのが遅いことから朝起きられず午前中の活動に支障をきたすことが目立ちます。又、保育園の休みの土、日は特にそれが顕著に表れて月曜日に疲れている子どもたちが多いです。まずは生活リズムが安定していないと心身共に健康でいられないことを実感しています。</p>
<p>就寝時間が遅く、朝眠そうにしていたり、朝食をほとんど摂らないで登園する子がいる。園での子どもの様子を伝えながら、早寝、早起き、生活リズムを整えることの大切さを看護師や園医との連携をとりながら知らせていく。保護者自身が気づき改善していけるのがベストだと思うが。</p>
<p>朝まだ目が覚めていない状態で登園している。昼食を食べながら眠くなってしまふ。朝起きるのが遅いためか、午睡時眠るのが難しい。家と保育園が連携して、リズムを作っていけるようにできたらと思う。</p>
<p>遅寝、遅起になっている子が増えている。大人のリズムで生活している部分があり、子どもの意志を尊重といい、けじめがつけられない所があるような気がする。子どもの生活を中心に考え、親自身の生活も考えていかなければいけないと思う。朝型の生活に心がけていく事が必要では。</p>
<p>子どもが心身共に健やかに育つ為には生活リズムがとても大切な事であるという認識が希薄な社会になっている。組織の中で働く保護者の大変さもあるが「よく食べて」「よくねて」「よくあそぶ」というあたり前の生活が保障できない。親の生活時間に合わせられている。そのことに気づいても変えられない生活スタイルがある。☆子どもとのコミュニケーションが大事といって夜遅く帰宅した父親がおこして遊んでしまう。☆夫婦の役割分担といって遅い時間に入浴をする。起きられない→かわいそうだといっていつまでも寝かせておく。生活のメリハリがつけられない姿もある。</p>
<p>就寝時間が遅い(22~24時以降の子が大半)→起床が遅い・できない→朝食を摂らない→登園が遅い→日中の活動が少ない…と悪循環となってしまう。朝の遅れは保護者の就労時間の余裕もあると思われるが、父親にも協力してもらうなどして、まずは、家族で就寝する体制を作ってもらうなど声かけしたりしている。4歳児クラスなので、今から小学校へ向けての生活リズムを整えることの大切さも伝えている。</p>
<p>平日は園に通うことによる一定のリズムで生活しているが、土日(休日)は、保護者と一緒に外へ出掛けるため昼寝をしないお子さんが多い。出掛けるのは悪いことではないが、月曜日に朝から子どもが「つかれた」とつぶやく程ふり回すのはいかなものかと思う。また父母の就労で朝早くから夜遅くまでいる子については、週末どうしても疲れてくるので、昼寝を長目にとらせる等それぞれの体力に合わせた配慮をしている。園でできるのはその程度。保護者の意識、価値感様々なので、苦言する時はあるが、解決はとても難しい。</p>
<p>夜ふかし→十分な睡眠時間の確保。週明けに疲れている。※親の都合に合わせてしまうのは、仕方がないが、その後のフォローを考えてあげて欲しい。 子どもにとっての“生活リズム”の大切さを、きちんと保護者に説明する。</p>
<p>〈問題点〉就寝時間が遅く、したがって朝起床の時間に起きにくく、朝食までの時間が短くほとんど食べずに登園、午前中エンジンがかからずイライラしたりしているのが(友達とトラブルになる一要因)、生活リズムの乱れによって見られる。寝不足だと日中ボーとして遊びに集中できない。 〈解決策〉親もできるだけ一緒に早寝早起きをする。早く寝かせるには早く起こすことである。毎日同じ時間に食事→入浴→就寝などを心がけると子どもも安心して生活するので心身ともに安定することにつながる。</p>
<p>園でのリズムは今ほどくに問題点として挙げられないが、各々の家庭において、家族と同じリズムとなってしまうことが多い。例として夜ふかし、TVの見すぎ等(家事の間にみているTV)。 とりくみとしては面談で話していくこと、保護者の意図をくみとりつつ今必要なことを伝えていく。</p>
<p>朝の登園が遅い。夜の就寝時間が遅いので、朝起きられない。ただ仕事が夜型になりつつあり、夜7:30のお迎えで10時に寝なさいというのは、やはり難しいということも感じている。園での受け入れは、何時でも受け入れている。</p>
<p>生活のリズムが出来ていない。夜型だけでなく親の都合で生活をしているのでリズムが出来ない。休み明けは特にひどい。生活のリズムが一番大切だということ機会あるごとに具体的に知らせていく。</p>

<p>保護者の就労時間が長い夜型になっている。しかしながら、それでもその家庭なりのリズムがあれば（尋常な）心配がないように思う。問題としては保護者が不規則のため、それに子どもをまきこんでいる状態だと思う。問題解決に向けては、一定時間に、保育園に連れてこれる状態にできるよう、支援していくと共に、工夫を重ねていきたい。</p>
<p>私が子どもの頃は小学生まで8～9時には寝ていましたが、最近は、3歳の子どもでも、平気で10時まで起きていたりします。保護者の帰りが遅いと、夕飯も遅くなり、必然的に寝る時間も遅くなりがちですが、寝る時間が遅いと朝スッキリと起きられなかったり、十分に睡眠時間がとれなかったりしてしまうので、できることなら、早く寝た方が良いと思います。しかし、忙しい保護者と子どもにとっては、夜が唯一ゆっくりにできる時間で、じっくり関わることができる時間であり、それが子どもにとって大切であったりするので、一概に「ダメ」とはいえないと思います。</p>
<p>それぞれの家庭で、努力されている様子が伺える。家庭の就労状況による、仕方のない面がある。その中でできる限り生活のリズムを整えていく必要があると思う（なるべく夜型にならないよう、朝早く目覚めるように工夫する）。</p>
<p>その家庭によってリズムが違い、中には大人中心のリズムの中で生活している子もいるようである。登園する時間が遅く、園生活のリズムにもりきれずに一日が終わってしまったり…。保護者に向けて、“子どもにとっての生活リズムの大切さ”を折にふれて伝えていっているとは思いますが…実践につなげていくことはなかなか難しい…。</p>
<p>就寝時間が遅く睡眠不足だったり、ギリギリまで寝ているため、調子がでないままの登園となる。活動の中心となる午前中に活力が湧かなかつたり、友だちとのトラブルが多くなったりする。休日の過ごし方でも大人の都合で計画され、休養もないままに疲れた状態で週明けを迎えることとなる。降園から寝るまでの過ごし方、親子での触れあいを大切にしつつも子どもたちの生活をj考えて早目に就寝するようにするにはその家族なりの工夫が必要である。また、大人の生活スタイルに合わせるのではなく、子どもには大切な子どもの生活リズムがあることや工夫について折ごとに知らせていく。</p>
<p>就寝時間が、驚異的に遅い子どもが、多くなっている。乳児でも23時、0時それ以上の子どもがいる。寝る時間が遅くなると起床時間も遅くなり、生活リズムが崩れてしまう。午前中眠そうにしている子どもも多くなっている。睡眠時間の短い子どもも気になる。大人（保護者）が寝かしつける事ができない。また大人と同様の生活をさせてしまっていたりする。日本の狭い居住空間の中で、大人と子どもと一緒に生活しているので、しょうがない部分もあるかと思う。しかし眠る環境を大人が、作らねばいけないと思う。犠牲になる部分がある事を大人は認識しなければいけないと思われる。大人も子どもも一緒に生活サイクルにしているのをj変えなければいけない。メリハリのある生活にした方がよい。</p>
<p>「早寝、早おき、朝ごはん」が、できていない家庭が多いので、その難しさを感じている。</p>
<p>大人の生活習慣の乱れに、子どもも影響されている。夜12時すぎに就寝。夜遅くまで外出。自営業の家など、夜が遅く、朝も遅い。そのため保育園にいつも遅く登園する。大人が遊びたいと子どもを色々な所に連れていく→月曜に疲れきっている時がある。ゲームばかりする、ゲームを与えるのが早い。解決、親に生活リズムについて知ってもらふ必要がある。しかし、一対一に話をするのは、難しいので、保護者会などで「生活リズム」について、改めて考えてもらうよう話す。また話し合う必要があると思う。</p>
<p>家庭の問題です。保育園でできることにはかぎりがあります。</p>
<p>深夜2時頃まで起きているので朝起きられない。登園後も午前中は寝ている事が多い子がいる。</p>
<p>日頃、祖父母が面倒を見ている0歳児です。両親が帰宅してから、じっくりと関わっているのは良いのですが、夜の時間が大人と同じリズムになり登園後すぐに眠くなってしまい、午前寝をします。午前のゆったりりのびのびと過ごし、体を動かす心地良さや楽しさを味わう時間は、寝おきで、機嫌が悪い状態ですごす事になってしまいます。家にいる時は子どもとじっくり関わりたいという両親の気持ちも大切にしながら、祖父母・家庭と連絡をとりながら、楽しく過ごせるように工夫して、関わっています。朝食を保育園で出して、昼寝の時間も早くすると、全員が9時までに登園し、午後も十分な活動ができるようになったという例がありました。このことから、早寝、早起きなどを保護者に伝えていく時には、保育園での生活を見直した上で、必要だという事を理解してもらう事も大切だと考えています。</p>
<p>両親の就労に関係するところもあるが、就寝時間が遅い（夜型）、朝食をしっかり食べてこない。登園が遅い。乳幼児にとっては十分な睡眠時間が必要、そのためには早寝早起きが必要、一定した生活リズムが必要、子どもというより、大人の姿勢、努力が必要な面もある。</p>
<p>大人の生活にあわせ寝る時間が遅く、起きる時間が遅くなっている。再度保護者に声かけ協力をお願いしている。子ども達が朝の園での生活に期待が持てる様、遊びの準備に気を配っている。散歩、集団あそび等の時間が短くなる→1人1人好きなあそびをじっくり行う時間が短くなる等のバランスが難しい。午睡後なかなか起きられない児が増えている。乳幼児の健康作り、生活リズム等保護者と共に勉強会や、プロジェクト作り等していく。</p>
<p>①就寝時間が遅い→②そのため早起きができない→③朝から食欲がでない（食事の時間がない）→④午前中の活動が充分にできない（機嫌が悪い・ハキがない）→⑤午後になり元気になる→⑥遅寝のくり返し。 《取り組み》大人と同様の生活リズムにさせない。帰宅してからの生活習慣をつける。遅寝をして朝寝不足でも、朝一定の時間に起こす。</p>
<p>おとな主体の生活リズムになっている家庭が多いように感じる。全体に夜型になっている。特に父親の仕事がいそがしく、帰宅時にふれあいをもとうとすると、かなり遅い時間帯になる様子。充分な睡眠がとれていないと、ぐずって、スムーズに遊ぶことができなかつたり、午前寝が必要となり、園での活動が他児とずれてしまつたりする。</p>
<p>夜、眠る時間が遅い子が多い（10：30をすぎたり、遅い時は12：00近くなつたりする）。家庭への働きかけも大切だが、同時に園にいる間に、メリハリのある生活ができるよう活動に配慮する。</p>
<p>就寝時間が遅い子がいる。その為朝起きるのも遅くなる。子どもも大人と同じよう夜型になっていると思われるので9時頃には眠りにつくような雰囲気をつくり早寝早起きの習慣が身につくようにしていく。</p>
<p>大人中心の生活を基本に夜型の傾向にある。忙しい父親が遅くに帰宅。（親も含めて）子どもとしては父とすごしたいのは分かる。しかし本来子どもの体内リズムというのを理解しなければならない。保育園での努力だけでは無理がある。家庭との協力が必要。朝は決った時間にきっちり起こし、朝食は必ず食べさせる事が基本。大人もけじめが必要。</p>

<p>①夜型になり就寝時間が遅くなっている。②夜、遅くまで起きているため朝、起きられない。③朝、起きられないため登園時間が遅い。④登園時間が遅いため午前中、充分にあそぶことができない。⑤あそぶことができないため、不満足になり、又他の子どもたちとの関わりに差がつき、楽しむことができない。 上記に挙げたことについての原因、解決策は。夜型になったのは保護者が夜型により子どもは大人のリズムに合わされていると感じます。①と②を繰り返すことで子どもにとっての保育園での経験やあそびに支障をきたすと感じます。ようするに保護者（大人）は子どものリズムを考え（大人とはちがうリズム）なくてははいけないと思います。</p>
<p>生活リズムが乱れている子が増えている。PM10時～12時の間に寝て、AM8時すぎに起きるという「遅寝、遅起き」の子が増え、保育園には10時すぎに登園する。その子は、午前中は、ボーッとしていることが多く、午後になると元気になる子がいる現状である。保護者会や個人面談の時、「友だちとの関わりが見られているので、早めに登園してじっくりあそべるようにしてほしい」や「早寝、早起き」のメリット等を具体的にかみくだいて話しているが、大人のリズムに合わせている為、中々実施できないようである。又、子どもが眠くなるまで起こしていたり、寝かしつけられない保護者もいる。保護者の姿の変化も感じられるこの頃である。今後も生活リズムの大切さを知らせながら、保育園時代にしっかりと生活リズムを整え、小学校の生活になっても困らないことを幼児クラスの保護者には伝えていくことも必要であると思う。又、生活リズムが子どもにどれだけ影響するかハッキリ伝える必要があると思う。</p>
<p>問題点①子どもの生活時間は大人とは別のもの、という常識が親御さんにはない（積極的に働きかけない）。②大人の生活時間が夜型にならざるを得ない社会状況である事。③TV、ビデオの問題。 取り組み①子どもは大人と全く別の生活が必要という意識、自覚を促す→早寝、早起。②科学的にホルモン分泌等が成長とかかわる事実を示しつつけること。③TV、ビデオが乳幼児に与える害を示し啓もうすること。</p>
<p>生活リズムは生活習慣で早寝早起きは、よい習慣として、その後も社会の一員となり、長い人生を心身ともに健康に生きていく基礎になっていくのだと思う。実際保育園の場でも、小さいながら社会の場として生活していく時に、早寝早起きの習慣がついていなかったり、大人の都合で、生活リズムがまちまちだった場合は、園の生活の中で、意欲的にすごせないことが多い。小さければ小さいほど、安定した生活リズムは重要で、そのくり返しの生活の中、子どもが安心し、心地よいと思い、自己表現をしようと周りに意欲的に働きかけていくのだと思う。最近は医学的にも早寝早起きは、成長ホルモンを促し、又、イライラをおさえる物質（セロトニン）を出し、心の安定もはかってくれるといわれている。しかし、今は、社会が競争社会になり、効率化が求められ育児へむける時間が厳しく、就労時間も夜型になっている。住宅事情もあり、早寝早起きが親のストレスとなることも。解決策は、その家庭ごとに異なり、ただ早寝早起きをすすめるだけでなく、家族の協力者も必要である。親への啓蒙と社会からの子育ての理解が増えてくれればよいと思う。早寝早起きの習慣を作るにはとにかく、朝決まった時間に起きることで、体が慣れていくとのことでした。</p>
<p>食生活、就寝時間。</p>
<p>就寝時間が遅いお子さんが1名居ります（23時に就寝）。精神面・身体発達面での問題はありますが、午前中の活動が不活発で、朝の受け入れ時に泣く事が多いので、保護者の様子を見ながらも少し早く就寝する事の大切さを伝えている（朝食を食べない事があるという事で、もう少し早く寝て、早く起きると食べられるという旨）。</p>
<p>就寝時間が遅くなっている。保育時間も長くなり、お迎えが遅い子ども達が増えているので、家に帰るのも夜、それからお風呂、夕飯になると、どんどん時間がおされ、寝るのも遅くなっている。家に帰れば親も支度で忙しく、なかなか子どものリズムに合わせられないのも事実。遅く寝れば当然朝も起きられず、その繰り返しになってしまう。だんだんと親の都合で夜型になっていると思う。早く寝かすには、親の努力が必要。放っておいても、子どもは自分から寝ないので、どれだけ睡眠が子どもにとって大事か、プリント等にして保護者に伝えていくしかないと思う。</p>
<p>睡眠時間帯が夜型。遅寝遅起きの子がいる。おやつ後の方が表情がいい。</p>
<p>12時近くに眠る子ども何人も見られ、朝機嫌が悪い子が多い。その為、友達とのトラブルも見られる。保護者にも話しをしていっているが、家で生活は変えられないとのこと。保育時間がのびるほど、もっと生活リズムがくずれてくると思う！</p>
<p>夜型の子どもが多くなり、朝の目覚めが悪く、動きも悪くなってきている。保護者もフルタイムの勤務の人が多くなり、通勤時間もかかってしまうことなども考えられるが、保護者の中には、保育園でのお昼寝があるので、遅くなってしまいうという声も出ています。配分ではなるべく、身体を休めるということで時間を短くするようになど配慮している。保護者の人達の時間配分等に変えるということは出来ないと思われるが、それぞれの家庭で出来ることをしていくように、働きかけたり助言していく必要はある。</p>
<p>就寝する時間が遅くなっていて、起床から登園まで、身体が目覚めていない子どもがいる。 家族の団らんを重視しながらも、眠る環境を作る意識を家庭でもつこと。</p>
<p>午前中はアクビをしたり床にゴロゴロする子ども達が多く、歩いてつまずいたり、頭をぶついたり体がまだ起きていない子が多いように感じ、夜型になって午後から活動的になる子が多い。それによって朝食を食べていない子、便が毎日コンスタントに出ない子もみられる。 解決としては、保護者に早寝早起きを声かけていく必要はあるが、保育園の中でできることは、昼寝の時間をあまり長くならず、家で早く寝られるようにすること。また夜型が多い中、保育の内容も、午前中の活動をひかえめにして、午後活動も多く取り入れたい。</p>
<p>社会環境の影響もあり、生活のリズムは、崩れていると思う。親の仕事の時間やリズムにも関係があると思うが、大人の生活時間で動いていると思う。朝、登園前まで、ぎりぎりまで、寝ている子どももいて、登園してからも、身体も、気持ちもペースにのせるのが、大変だと思う。</p>
<p>夜、寝るのが遅く朝、起きられずに午前中の遊びが十分にできない為、気持ちが満足できていない姿が見られる。そういう環境の中でも子どもの気持ちが満足できるように、配慮し、又家庭との協力により取り組んでいく。</p>
<p>睡眠の乱れが特に気になる。遅く眠り、遅く起きる。研究者の裏付けを求めながら、啓蒙に努めたい。</p>
<p>やはり就寝時間がどうにも遅いという事です。お迎えが7時すぎて夕食、お風呂～就寝としようがないのか？とも思いますが、保育園では、なんとかカバーできて学校に行ってから？と思います。</p>

<p>特に感じたのは、グループ面談の時1つのグループから「夜なかなか寝ない、そばについていても（30分ついていても）寝ない」と言う話があったり、夜なかなか寝ないから午睡を早目に起こしてくれないか？と言う親からの申し出があったりし、よりこまかく様子を見てみると、夜型になっていること、努力が少ないことなど感じました。クラス全体的に言えることなので、保護者会の時に話をして行こうとも考えています。</p>
<p>夜型。生活リズムの幅（時間）がちがう。例、睡眠時間が短い、ずれている。</p>
<p>子どもたちの生活が夜型になっている。最近になって早寝、早起きすることで、脳の発達がいろいろ言われているので、生活リズムを正常なものに戻していきたい。社会が子どもたちから、父や母との触れあう時間を取り上げている。就学前までは父や、母の労働時間を短縮すべきである。父親の単身赴任など問題外である。</p>
<p>夜型生活で朝起きる時間が遅い。子どもの脳にとって、成長にとっての医学的な資料を保護者に読んでもらい理解してもらったり、改善するために家庭でできることをアドバイスする。 朝食抜き。一定時間に3度食べる大切さを、資料を提示すると共に働きかける。与えることは親の義務という厳しいことも言いながら、一方で簡単にできるメニューなどのレシピを見せるなど応援する必要がある。</p>
<p>居酒屋、コンビニ等で夜遅くまでいる風景は前はみられなかったことです。保護者会等で睡眠、生活リズムについて、話しますが、その時はうなづくのですが…。普段気をつけている方のほうが、より気をつけて下さいます。それでもいい続けていきたいと思えます（解決策の1つとして）。</p>
<p>今のクラスの子ども達は、早番、延長番に入る子が多く比較的早寝早起きの子が多いです。2～3人の子が親と共に起きていて、11：00過ぎまで起きている子がいる。親と接する時間が短いので、親と一緒にいたい気持ちが強く、個々に話してもなかなか寝る時間が変えられない。 親の労働時間短縮。</p>
<p>就寝時間が遅い。勤務上仕方がない場合もあるが、寝かせつけるのが苦手な保護者も増えているので、生活リズムの大切さを知らせると共に、具体的なアドバイスもしていく。</p>
<p>朝食のメニューが菓子パン等、簡素化していること。8時起床など、不規則。</p>
<p>朝よりあくびが多い。一日一回、全体的な活動を始める前に話をする時間を設けているが、あくびが多く、話が入っていない。各家庭に子どもの様子を伝え、どうしたらリズムがかわるか一緒に考えるようにしている。</p>
<p>大人の生活時間が主となり、子ども本来の生活リズムがどこまで受止められているか、考えているのかと思われることが多いです。そのような保護者に対しては、ある程度の生活リズムの目安を伝え、出来る範囲での努力をお願いしています。</p>
<p>便利すぎる時代に食生活や睡眠など、子どもの生活にしわよせがきている。</p>
<p>親の生活リズムにあわせて、子どももリズムが作られてきているように感じている。</p>
<p>現在のクラスは登園時間の早いお子さんが多く、半数以上が8：30までに登園しています。その点、就寝時間の遅いお子さんは少ないのですが、中には12：00過ぎに就寝という子もいます。もうすぐ就学ということを考えたら、昼寝のない小学校生活は睡眠不足になってしまうかもしれません。</p>
<p>夜型の生活リズムのお子さんが多く、午前中の活動にのりきれなかったり、機嫌の悪いことが多かったり、朝の分離時にグズる子も多い。朝1時間がないため排便を保育園でする子も多い。 取り組みとしては、忙しい保護者の方が多いので、生活リズムを聞いたうえ、就寝時間を早くできるように話しをしたり、できる部分での改善策を共に考える。</p>
<p>夜型になっている子どもが多いと感じます。朝起きて、目が覚めずに、登園し、朝食も取っていないので、活動がなかなか出来ない。散歩に行っても、往路で疲労を感じる子が多い。親の仕事の時間帯が遅くなっていることもあるが、子どもを寝かせることが出来ない親が多い。子どもの睡眠のメカニズムや、自然には眠れない子どもには、大人が、睡眠のリズムや状況を作ることが大切だと思います。</p>
<p>生活リズムが全般的に夜型になっているように思う。大人のペースに合わせた生活や、寝る前のDVD鑑賞等が増加しているのでは？子どもの成長に大切な睡眠（早寝早起）を心掛けさせる為にも、大人が心して“けじめ”をつけさせていくべきではないかと思う。</p>
<p>夜、成長ホルモンなど、子どもにとって大切なものが多く出る時間帯があり、その時眠っていないとホルモンがあまり出なくなってしまうと、以前研修で聞きました。やはり夜型になっていることは気になってしまいます。しかし、仕事が終わって保育園に迎えに来て、すぐに食事を作って入浴…となると、どうしてもあまり早く眠るようにするのは難しい場合もあるのでは？とも考えてしまいます。</p>
<p>夜、寝るのが遅く、朝起きれない子が多い。家庭と連絡をとり、早く寝るよう勧める。ex、絵本を1冊みたら布団に入る、などと約束をするよう提案する。</p>
<p>夜型になっている。前文にありましたように基本的な生活リズムが大事かと思えます。</p>
<p>夜型の子どもが多いのおどろいた。話にはきいていたが、クラスに10：00以降に寝る子がいて、そういう子は朝もボーっとしていたり、ねむたそう。</p>
<p>夜寝るのが遅く、朝が起きられず登園時間が活動の終わり頃や食事前になってしまう。子どもに日中友達と色々な経験をさせてあげたいので、生活リズムについての話を保護者にしていき、重要さをわかっていただき、早寝早起を（それに近いもので）実践できるようにアドバイスして励ましていく。</p>
<p>夜型の子が増えている。夜遅くまで起きているので、朝起きられず食事でも食べれずに登園して来る子がいる。10時におなかすいて動けなくなったり「おなかすいたよ～」と言われるとせつなくなる。また、朝ゆっくりで、午前中活動に取り組めない子も気になる。夜遅い→朝起きれない→午前中フラフラでけがをする。午睡が出来ず夕方ぐずる。→長時間保育の見直し。会社側が、子育て中の女性への配慮。</p>

<p>全体的に遅型になっていると思います。大人の生活時間や就労時間が長くなっているため仕方ない部分もありますが、子どもたち中心の生活リズムは大人が努力しないと難しい問題があります。個人だけでは解決出来ない、社会全体が小さいお子さんを持つ親がもう少し早く帰れるようになれば良いのですが…。</p>
<p>子どもの生活が夜型になっている。寝る時間がおそい。おそくまでビデオ、テレビを見ている。朝おそく起きるので、朝食を食べてこない。休日は親のリズムに合わせられ、一日中出かけるとか、午睡をしないとか。親の意識を変えていく取り組みが必要だが、難しい。</p>
<p>朝食をとらなかつたり、夜遅い子がとても多いと思います。夜型の生活になるのはしょうがない部分もありますが、やはりまだ小さいうちはできるだけ大人ではなく、子ども重視のリズムで考えてほしいと思います。夜眠れない場合はおもしろい朝早く起こすとリズムもなおってきます。</p>
<p>全体的に夜型になっている子が多く、朝なかなか目覚められず、登園の遅い子がふえています。大人たちのライフスタイルが夜型となり、仕事も厳しくなっている中、とても難しい事だと思いますが、乳幼児期に生活のリズムをつけるということはとても大切な事だと思えます。大人への自覚をはなしていきたいと思えます。</p>
<p>就寝時間が遅い。朝から疲れている様子だったり、あくびをしている。</p>
<p>連絡帳に書かれている、起床時間と就寝時間が毎日同じ時間ではなく、2時間以上も差がある時がある。睡眠時間は子どもの成長において大変重要な時間なので、そこがしっかりしていないと、保育園でよく遊べなかつたり、ゴロゴロしてしまつたり、食事や午睡の時間もずれてしまう。クラスや園の掲示板や便りなどに、月齢・年齢に応じた一日のモデルプランを作成して保護者に知らせる。不規則な生活がもたらす子どもへの影響を詳細に伝える。時間の有効な使い方のアドバイスをする。</p>
<p>夜型の生活の子が多くなり、寝るのが遅く、朝も起床が遅くなり朝食が簡単になっていたり、とっていない。基本的な生活時間帯の大切さを、保護者に知らせながらも親の協力なくして、出来ない。子どもにも、言い聞かせをする。けじめをつけさせながら、生活時間を送れるようにしてほしい。</p>
<p>保護者の仕事が優先の傾向にあり、夜遅くの食事、子どもと接する時間もなく、朝になりねむたい目をこすりながら泣いて親にうたてても「ママお仕事だからね」の答え。子どもは怒りをぶつけるところなし。保育園でグズリ保育士に抱いてもらい、一日をのりこえろと言う生活。解決は親が子どものことを、もっとふりかえってみるチャンスがないかぎりかわらないと思います。</p>
<p>問題点、平日は保育園に登園しているということで、ある程度同じ時間に起き、大体同じ時間に寝るという生活であり、日中も睡眠、食事、運動と規則正しく過ごしています。しかし長時間保育でなのか？週末になると（年齢が低いということもあります）疲れが見られる子も多いです。ところが休日はいろいろな経験をさせたいと思う親心もあると思えますが“大人の都合やペースで外出する”ケースが多く、週明けは機嫌が悪かつたり午睡後なかなか目覚められなかつたりという姿がよく見られます。休日の午睡が夕方になってしまつたり、外出先の移動時、交通機関の中で睡眠をとつたりなど、リズムが乱れるケースが多い。</p>
<p>両親共に就労し、時間的拘束のある仕事をしている場合、多少なりとも大人の都合に合わせざるを得ませんが、日中、集団生活を送る為に子ども達に、出来る限り規則正しい生活リズムを整えて頂く事が必要であり又、規則正しい生活リズムが子ども達の体力、精神面、意欲等、様々な所に影響することを理解し、園生活とのリズムを調整して下さる事をお願いします。</p>
<p>大人の生活の時間帯に子どもをふりまわしている。就寝がおそく、起床がおそい、又は、機嫌よく起きられず朝食が摂れない。社会が子育てのために就業時間を見直す。これまでの観念の転換が必要だと思う。</p>
<p>就寝が遅い為、朝起きられず登園時間も遅くなり、一斉保育などで体を動かすことも少なくなっている。就寝が遅いが早起きな児は朝からボーッとしており活動も遅くなりがちである。問題の解決に向けて、日中によく体を動かすよう促すこと。保護者に早寝、早起きの習慣づけを呼びかけること。午睡時間を就寝が遅い児は長くとりすぎないようにすることが必要だと思います。</p>
<p>大人の生活リズムを変えられずに、子どもにつきあわせてしまっていることが少なくない、と感じられます。子どもにとって十分な睡眠時間、早寝、早起きが、心身の発達にいかにか大切なことか知らない…または、わかっている出来ないことが多いようです。正しい生活リズムで過ごすことのメリット、重要性、正しいリズムで過ごせるコツなど、保育士の立場から伝えていくことが大切かと思えます。大人の都合も大切なことと理解しますが、乳幼児期の数年間でも子どものための調整していけると良いと思えます。就労時間の短縮など、子育てしている家庭を援助する社会であることが望ましいです。</p>
<p>保育園に入っているお子さんは、生活リズムがつきやすい環境にあると思います。子どもにとって生活リズムは、乳児の時期に大人が関わり習慣づけていくことで身につけていくものです。でも全体的には、大人の生活時間に子どもを合わせて、夜型の人が多いです。「早寝早起き」の大切さは、日頃から話題になったり、日々の情報からも理解されていると思えます。しかし実行できない様です。「ねかしつける」ことをしない。「ねかしつける」ことが出来ない。それは、TVの影響もあると思えます。また、大人の考え方（価値感）の相違もみられます。また一方、勤務時間も遅くまでだったり、物理的に早く寝かせられない環境もある。やはり、社会全体が夜型になっている。よいことではない。今後は、夜は活動しない。乳幼児をかかえている人は4：00頃に仕事が終わるようにする制度も必要だと思う。</p>
<p>大人のペースで過ごしてしまい、夜型の傾向になっている子は、午前中の活動では、意欲がなく、ゴロゴロしていたり、ボーッとしていたり、あくびも多い。又、午睡後からは、元気になり、夕方に向かうにつれて、はしゃぐ姿が目立つ。そして、家に帰ってから興奮してしまい寝ないという悪循環を感じる。→生活リズムの大切さを話す理解して下さらない方もいるので、父母の会主催で、講演会を行うと良いのではないかと、保育士の意見を聞かない方も、講師の話しならば、意識が変わるかも知れない。</p>
<p>夜10時前に就寝する子はほんのわずか、11時前後が殆んどという現状です。親の職種の多様化で一概に「何時に寝かせましょう」と言えませんが、園に来て午前中から生あくびが出て、午睡後から元気になってくると子ども達等を見てみると、脳の発達面からも含めてどうなるんだろうと思う。子どもが眠くなるまで待っているという声もよく聞きます。</p>

<p>乳幼児期の生活リズムは大人が作っていくものだと考えますので、保護者にも働きかけていかなければいけないと思っている。</p>
<p>夜遅くまで起きている為、保育園に来て、朝から横になってゴロゴロしている。保護者の都合によって登園時間がバラバラで、子どもがうまく自分のリズムをつかめないでいる。 保育参観など、日中の子どもの様子を見る事ができる機会をふやし保護者が生活リズムの大切さを知る事ができるようにする。</p>
<p>今、子どもの生活リズムは大人中心になっている子どもが、ほとんどです。夜は11時頃寝て、朝は8時に起き、寝起きが悪く、何も食わずに保育園にくるので、午前中は、活気がなく、ボーッとしていて、お昼寝後は水をえた魚のように元気になる...という状況です。保護者の方々には少しでも、早く寝て、朝は早く起こし、身体を朝型にする事が子どもの成長にもいいとお話していますが、なかなか、現実とはかわりありません（保護者の方も、自分のライフスタイルを変える気はないようです）。</p>
<p>親の就労時間が長くなっている社会的傾向の中、子ども達も夜型になってるように思う。夜寝るのが遅いと朝は起きられず、登園時には、ぐずったり、午前中の活動にも、ボーッとしたりしている。早寝早起きできるようなリズムを作っておける事が必要だと思う。又、不機嫌のまま、午前中をすごすことになる。</p>
<p>寝る時間、食事の時間など、親のペースに合わせて不規則である家庭が多い。特に休日は昼寝がなかったり、体調を気にせず外出する。月曜日から疲れた顔や体調が悪化して登園することがある。</p>
<p>一言で言うなら社会全体が夜型になっているので、子ども達も当然夜型があたり前になっている。そこが1つの問題点である。夜がおおければ朝起きられない、朝から気力がなく年齢の低い子は、更に不機嫌な状態で一日をすごさなければならない。生活リズムをつけないてはならない年齢に身につかない。それは子どもの問題ではなく、それをとりまく大人の問題である。これが第2の問題。 保育園では午睡の時間を、例えば年長なら、早目に起こして、夜の睡眠時間をたっぷりとってもらうようにしてこちらの努力を保護者にアピールしている。</p>
<p>やはり、子どもの年齢に準じた睡眠時間を確保し、活動の時間をふまえた上での、規則正しい生活を組み立てる必要があると思います。以前、大人中心の生活リズムを続け、眠ったままの子どもを抱きそっと保育園においていき、11時近くまで眠ってから活動を開始するという家庭がありましたが、子どもにとって精神的にも健康面においてもマイナス面が目立ち、いつも不気嫌な活力のない子どもでした。乳幼児期は特に子ども中心に生活時間をかえる必要があると思います。</p>
<p>保育園が休みの日には、決った時間に午睡をさせず、眠くなったら寝かせる為、夕方から夜にかけて眠り、夕食、入浴が深夜になったり、朝まで寝てしまい、夕食入浴しないという家庭がある。脳の発達には休息が必要なことと、子どもは寝かしつけることが必要であり、自然に任せてはリズムは作られないことを知らせていくことが大切。寝かしつけについて方法を知らせる。</p>
<p>睡眠時間について、夜の寝る時間が、とても遅くなっている。10：00は早い方で、12：00くらいのお子さんも多い。そのため、朝登園時から、とても元気がなく、午前中は元気が出ず、すわりこんでいる時間が多かったり、とても機嫌が悪い状態になってしまう。午睡後に、急に生き生きとして、生活的になるというパターンのお子さんがある。保育園の生活の中で午前中に、幼児になると、設定保育があり、そんな時に集中できずテールにふせて眠そうにしている。保護者たちの就労時間が長くなり、お迎えの時間も遅くなっている傾向にある。早くねかせようとしても、家に帰ってから食事、入浴などの時間を考えると、9：00にねるのは当然無理な状態。保育園側で睡眠の大切さを知らせることをするものの、そうできない社会の状況もある。しかし、そのしわよせは子ども達に行ってしまうので、本当にこの矛盾の流れには悩んでいる。</p>
<p>夜、とても遅くに眠る子が増えてきていると思う。また、夜遅いために、朝もなかなか起きられず、登園後しばらくは体も頭も目覚めずにボーッとしまっている。保護者も子どもの就寝時間を気にはしているものの、早目に寝かしつけようとはせず、眠くなるまで自分は別の事（家事や仕事など）をして待つという状況が見られる。子どもに、早く眠ることの大切さを話すと共に、保護者にも保護者会や面談などで伝えていくことが必要だと思う。</p>
<p>保護者（大人）の生活リズムになっているのか、夜、遅くまで起きていて、朝、なかなか起きられない子が多いように感じます。食事（朝食）も食べてこない子がいるようで、給食の時には味わうこともなく、一気に食べ終えています。保護者の方々も仕事が忙しいとは思いますが、子どもと向き合う時間を作り、子どもに合わせた生活リズムを作ることが大切だと思います。</p>
<p>親の都合にあわせて生活になっている。自分が朝食抜きだから食べさせないとか、夜いつまでも起こしておくなど、親が自分たち中心にしている。乳幼児のうち、子どもに合わせた生活リズムにしてほしいと思うが、“子ども”について、親がよくわかっていないと思う。保育園が大切さを伝えても、なかなか理解してもらえないことが多い。親たちは、子どもの成長・発育についてどう考えているのか、こちらが聞きたい。</p>
<p>大人中心の生活になり、夜遅くまで起きている為に朝なかなか起きられずにいて、午前中ボーッとしている子が目立つようになってきている。午睡後、ようやく生きいきしてくるといった子どもも近年増えてきているようです。起こされやっとな保育園に朝食も食わずにやってくるため、散歩に出かけても「疲れた」「お腹すいた」ということになります。また「朝食を食べない主義」と言う保護者もいたりする中で、子どもの生活リズムづくりは年々難しくなっています。だからこそ乳幼児期の生活リズムの大切さを、保護者会等でくり返し話しをしていくことだと思う。</p>
<p>大人中心の生活になっているように思います。仕事の関係でやむをえない場合もあることは知っていますが、夜眠るのが11時～12時という子がとても多くなっています。寝るのが遅いのでかわいそうだからと朝、ゆっくりおこしている親も多いので、早起きから始めた方がよいと思っています。また、親にしてみれば保育園の昼寝があるからという気持もあるので、昼寝の時間、寝かせ方を工夫する必要もあると考えています。</p>
<p>生活リズム、昔から陽のぼると共に目覚め体内の時計を整え、しっかり動かしながら活動し、陽が落ちると共に眠る、この自然の摂理に増々離れていく現代。やはり子ども達の身体、心に異変が起きていくのは当然と感じざるを得ない。大人が忙しく相手が出来ない。せめて、早寝、早起きを心がけようとしても、時間に余裕のない勤務形態。今や保育園では、負いきれないところに来ているように思う。程度の良い子育て放棄と言えるのではと私は思う。</p>

<p>せめて保育園での生活習慣、あそぶ（活動）・食事（マナーも含めての食育）・睡眠・情緒・人間関係を自律させて、幼児期の人間形成を確立させるべし。取り組みを怠らず、保護者にその大切さを示し伝え、共に育てていくべき、働きかけをしていく（いやがられても子どものためである）。</p>
<p>2歳児なのに夜11：00頃にならないと寝ない…。朝は7：00～8：00起床。保護者に面談や会えた時に話をすると、「そうなんです。寝ないんです…」でなかなか前進しない。なので午睡は3：00でもなかなか起きれずとてもグズる。集中力なし、散まんなことがある。保護者ももっと子どもの生活リズムの大切さ、脳が作られるなどを認識してほしい。保育園のうちは午睡があるが…。</p>
<p>夜、寝るのが遅いため、朝、ボーっとしていることが多い。親の都合で、出歩いたり、外出しているため、子どもがふりまわされている為、つかれやすい。→保育士が常識を、常識と思わず、一から伝えるつもりで、教えていく。園での様子を伝える（つかれていることなど）。</p>
<p>夜型生活の子が多く、0歳児でもPM11時過ぎまで起きている子もいる。朝は、起きぬけで登園し食事や朝の仕度もままならない子もいる。</p>
<p>起床・就寝時間が一定でない（午睡も含む）。親の理解が必要←睡眠・生活リズムについての重要性を伝えていく。</p>
<p>おそ寝、おそ起きで、遅く登園してくるので、保育での経験ができなかったり、遊びの中にすぐに入っていけなかったりという子もいる。親が意識を変えて、子ども中心の生活を心がける事が必要だと思います。</p>
<p>問題点：保育時間が長く、生活リズムが夜型の為、遅寝遅起になっている。朝食をとらないでくる子どもも多く午前中いらいらすことが多い。 解決策：日中、戸外に出て思いっきり体を動かし、昼食をとり、午睡がスムーズにできるようにしている。朝の時間は少人数グループで遊ぶなど、（時間のとれる時は）落ちついて過ごせるように工夫している。</p>
<p>少数の例で、全員にあてはまることではないが、その少数が、大きくリズムのズレた生活をしている家庭であるケースが多く、声かけや、保護者の共感をえていく事が難しい。子どものリズムは、園では変えられないことが多いので、上手な保護者への声かけが必要だが、難しい。</p>
<p>保護者の生活時間に合わせて生活している子が多く、寝る時間（睡眠時間）などが不規則で遅い子が多くなっている。食事朝食をきちんと取っていなかったり、ジャンクフードで栄養のバランスをきちんと取ってない子がいるように感じられる。テレビを長時間、見ている。</p>
<p>休み明けや、日によって怒り易かったり指吸いが多い日があり、食後布団に自分から入りあつという間に眠ったりするなど、いつもと違う姿がある時や、保護者から直接リズムが乱れているという話を聞いた時に感じる。個別に対応出来る時には、少しでも早く眠れるようにしたり、きちんと起こす（眠った後）ことでいつものリズムに整えていく。</p>
<p>生活リズムが夜型になっている。また、子ども主体ではなく、大人の生活リズムに子どもが合わせられている。保護者に睡眠、生活習慣の大切さを伝え、アドバイスをしていく。</p>
<p>大人（親）の都合に合わせた生活時間で過ごすことで子どもに無理をさせている。何年も（0歳で入園して幼児クラスになっても）保護者に生活リズムの大切さを伝え続けているが改善されない。生活リズム、睡眠、食事がいかに大切かということ、科学的な結果（数字等）で示さないと効果が無いのか？示しても意味が無いのか？どんな取り組みをしてよいのか悩んでしまう。</p>
<p>夜型が多く、朝が遅い→朝食が食べられない→午睡が寝付けられない→起きる時間になっても起きられないなど→親のリズムではなく（都合ともいえる）、子どもの生活を大切に考えるよう働きかけていくこと。朝早く起こし、日中思いっきり体を動かし（太陽にあたる）、眠くなるように活動をする。</p>
<p>夜型の家庭が多く、子どもの寝る時間が遅く、朝起きてすぐ登園する為、朝食を食べて来ない子どもがいる。親と話す機会を多くもち、子どもたちの寝かしつけ方、朝の食事の大切さなどを話し、子どもの為を共に考えていく様にしていく取り組みが必要だと思います。</p>
<p>大人の都合に合わせたリズムで、夜は遅くに寝かしつけ起床が遅い。当然朝食もとらずにそのまま園へ連れてくる。食事、できあいのもので済ませ、バランスよくとか、かみごたえのあるものを出したたりなども考えない、極たんな野菜不足など。 個人面談や保育参観の機会をもち、保護者に園での子ども達の様子を見ていただいたり、保育士（担任）との細かい面談で、少しずつ親子さんにリズム改善をお願いしていく（根気よく）。栄養士さん、看護師さんにもご協力頂き、両方の視点からも各年齢で必要な事を話して頂くなどの取り組み。</p>
<p>夜遅く寝て朝も起きるのが遅く、登園してもスッキリせず遊びに入っていけない、お昼寝までもたない。</p>
<p>両親の就労時間が長かったり、兄・姉の生活にあわせていたり、父母の生活に流されたりで、就寝が遅いお子さんが目立ちます。具体的には→保護者会で、父母同士、この事について話しあってもらうなど、父母に早寝早起の理論的な話をしつつ、その家庭にあった対処の仕方を父母といっしょに考えつつ、園でもできる事をしていきたいと思う。園でできる事、例えば、午睡を早めに起こす。遊びの活動量をふやすなど。 家庭では、就寝前に親子でじっくり過ごす時間をつくり、子どもの気持ちが満たされた上でねつけるよう、様々な方法を提案する。</p>
<p>夜遅くまで起きていて、朝遅くまで寝ている、夜型の子が多くなり、午前中の活動などボツとしていたり、友達との関わりも薄くなってしまふ。又、遊ぶことに意欲的になれば、ゴロゴロしている姿が多い。 家庭のリズムを保護者の方がどう考えているかが、即、子どものリズムになっていくので、大人側の意識が大切だと思います。すぐというのは無理でも少しずつ、生活を変えていくことの大切さを知らせていくことだと思っています。</p>
<p>就寝時間の遅い子どもが多いように思います。大人の生活リズムに合わせてしまふ。忙しい中であっても、やはり子ども中心の生活リズムに合わせてほしいと思います。乳幼児期の生活リズムは学校に行っても影響していきますし、修正していくのがなかなか大変です。その日、その時期だけでなく、将来を見ずえた考え方をすべきです。</p>

寝る時間が遅くなっている。早く寝させる事ができない。子どもの時間がなくなり、大人の時間になっているので早く寝させる事が必要である。
夜型になっている事が大きな問題であり、親も子どもを寝かしつけられない事なども問題だと思う。眠れないから、寝ないからとビデオや TV、または夜の散歩、ドライブなど、どう子どもに関わって、生活リズムをつけていけばよいのか？とわからない保護者が増えている。子どもは眠くなれば勝手に寝るから、それまで待つという親もいるが、大きくなればなるほどに生活リズムをつけにくくなる事を知らない。 私達は生まれる前からおなかにいる時から生活リズムは始まっている事を知らせて、どういう生活をおくる事が子どもの成長に大切なのかを知らせる必要がある。
夜遅くまで起きている子が多い。食事を食べてこなかったり、少ししか食べていない。登園が遅くすぐに給食の時間、午睡の時間になり十分な活動ができなかったり、食べられない、眠れない。
社会状況、保護者の勤務時間も夜型になっているので、全体的に規則正しい生活習慣が身につけにくいのではないかと感じる。例えば、コンビニエンスストア等24時間営業のお店もあり、時間を気にせずお買物をしたりする状況がある。子どもにとっては、生活リズム、日中、日没など睡眠リズムが脳の発育に影響があるとも聞くが、家庭でできない状況があるので、集団生活である保育園での生活をあらためて見直しながら、今後、家庭とも連絡をとっていく必要があると考えられる。
今年度の現在のクラスで生活リズムについて、気になるお子様はいません。珍しいクラスです。しかし、それまでのクラスでは毎年、生活リズムがおかしくなっていることに問題を感じていました。0歳児でさえ毎日、夜中の2、3時に寝るのがあたりまえで、各クラスに12時過ぎの就寝の子が1人や2人はいます。このような状態で日中、保育園でどう過ごすか想像はつくと思います。親の言い分としては、「父親の帰りが遅いので戻ってくると遊んでしまう」「保育園で昼寝をするからねない。親が寝るまで一緒に起こしておく、寝かしつけない(中々寝ないと言う)」。大きなところでは社会の形態、特に男性の働き方が変わらないと家庭のなりたちが変わらない(現在は子どもが大人の生活に振りまわされている気がする)。
0歳児から夜、遅くに寝ている子が多い。保護者が寝かしつけようとする姿が強みられないので、寝かせないと寝ないことを知らせていく。
生活リズムが崩れると疲れやすくなったり体調を崩しやすくなるので、小さい時からの生活習慣は大切に思う。園のリズムで合せて、日頃生活していくことは大事だが、家庭のリズムということ崩さないように園で整える。安心してすごせる場が、園もしくは家庭と区別してあり、それぞれですごせることが一番だと思う。
0歳児でありながら保護者、大人の就労時間に合わせて午前0時前後の就寝時間になることのある子どもがいるという事。保護者を追いつめるのではなく、いっしょに何か工夫はできないか考えていけるように会話を持つようにしている。社会全体として考えなければならない事(就労時間、残業等)という難しさも多く、厳しい現状です。
遅型の生活になり、夜、寝るのが遅くなって来ている。親の生活リズムになり、子どもの生活リズムがみだれてしまっている。子どもは子ども親は親で、子どものリズムを十分考え、あわせながら、生活する時期があると思う、子どもが小さい時は特に感じます。
夜寝るのが遅い。しっかりと食生活をしていない。親子の関係がギクシャクすることで保育時間が伸びたり、就労できないのに保育する時間が長かったりする。
大人の都合に合わせたリズムになっているので就寝時間が遅くなっている。本当に忙しく大変ななかですが、まずは子どもが一番先、という考えを持っていかれるとよいと思います。
保護者中心の生活で、夜遅くまで起きていたり、遊びに行く所も子どもの事を考えて…というよりも自分たちが楽しめる場所に連れて行く(カラオケとかスキーに行っても子どもはキッズルームへ預けるなど)家庭が割と多い様な気がします。
夜寝るのが遅く朝も起きるのが遅い。不規則な生活になっている。解決にむけて園での様子を知らせる。
生活リズムが親の就労、家事などを中心にまわるのは当り前のことですが、忙しい一日の中で子どものリズム、家族のホッとする時間帯などがどのくらいとれるのでしょうか。保育園の午睡が影響あるのか、夜の就寝に時間がかかるという声を聞きます。早寝、早起きは大事ですが、実行するのは難しいです。でも、せめて外食、カラオケ、夜のコンビニ、家でのゲーム、テレビなど大人の工夫で改善されることがあり、それを(子どもの生活リズム)つけていくのも大人の役目だと思います。本来の子どもらしい生活を送っていれば、リズムが身につけてくるのではないのでしょうか。
大人の時間に合わせて、夜、寝る時間が遅くなってきている。朝も早く起きれない。自分で起きれない、決まった時間に起きれない。午前中は、頭が働かず、ボーっとしていることもある。
夜型の大人の生活に合わされている事が多いと思います。また、週末など休日も大人中心の生活をしていることで疲れ、その疲れをひきずって翌日登園してくる事も多いと思います。保護者の方だけの問題ではなく、勤務先の状況などもありすぐに改善されるのは難しいと思いますが、生活リズムを整えることの重要性を社会全体で認識してゆくことが根本的には大切だと思います。
年齢が上れば上る程、リズムが乱れてるように思います。比較的保育園に来る子どもは、朝が早く、規則正しい生活をしていますが、中には夜遅くまで起きていて、ゆっくり起床・登園する子もいます。そうなると、昼間の活動は目覚めたばかりで動けません。親の意識の問題が大きいかと思います。夜ふかしを認めず、体内時計を正常にしてあげる事が大切なのでは…。
家庭での、睡眠時間が以前に比べ、短くなった気がする。特に、就寝時間が22:00~21:00の子が多いのが気になる。朝、目覚めがわるいまま、登園したり、日中、ぼんやりとしていることがある。 子どもに必要な、規則正しい生活リズムの大切さを、機会をとらえて、親に知らせていく。
大人のリズムにあわせた生活をしている子が多く、疲れていることがある。就寝時間も23時がざらである。又、休日は大人のストレス解消に付き合う形で、人ごみへのショッピング、カラオケ、居酒屋などに行っている子もいる。平日に出来上がっているリズムが休日で崩れて、月曜に登園、また1からやり直しになってしまう。共働きで、帰ってきてごはん、お風呂と忙しいとは思いますが、せめて10時までには就寝できる様にしてあげて欲しい。

<p>社会全体が夜型になっていく中で、保育園も保護者の就労形態、生活スタイルを受容し「子どもの生活のリズム」についての発信が少なくなっている現実がある。保護者が安心して働き、子育てをするための支援として様々な状況を受け入れながら、園の中で出来ることは何か・課題。</p> <p>一方では子どもの育ちを支える面で「生活のリズム」について、見える形での発信と具体的な保育の場面では一人一人の生活の中で、一斉ではない対応が出来るよう保育形態を考えていくこと。</p>
<p>園での運営上のこともかかわる問題なのですが、園では集団生活の体制上、どうしても、食事の時間、おおよその午睡の時間が決まってしまうと、個々の状況への配慮に限界があります。その中で、しばしば起きるのが遅く、朝食の遅かった子の場合園での午前食との間があまり開かず、あまり食べられない、ということがあります。園生活のリズムと家庭リズムの不調和という意味では、コミュニケーションをとりながら調整していくしかないのではないか、と思います。</p>
<p>生活全般が忙しく夜型である。</p>
<p>保護者の方の勤務形態の多様化により、降園後の子ども達の生活も様々であり、保護者対応や連絡帳等から生活リズムなど伺い知る範囲では子ども中心でないもの(事)が多いと感じる。祖父母や親せきなど身近な協力者のいる家庭では、子どもの生活に少しでも沿うことは可能であっても、ベビーシッター等利用の家庭には難しいものを感じると共に併せて、保護者の精神的フォローをすることで、多少良い方向に向かうことができる時もある。現在も今後も問題解決にむけての取組みについては、課題が大きいと感じている。</p>
<p>夜、眠る時間が遅いこと。</p>
<p>夜型の生活リズムに傾いている(24時間化がすすみつつある世の中)→「夜ふかしすると睡眠不足になる」という問題がある。生活のリズムは赤ちゃんの時代から積み重ねていくことが大切かと考える。その為には昼間しっかり体を動かして遊ぶこと、又、できるだけ戸外(太陽の下)でたくさん遊ぶこと→ごはんもよく食べる→ぐっすり眠れる。</p>
<p>子どもは小さいうちから生活の環境、リズムなど大事なのでなるべく規則正しい生活をする事で身体的に情緒的にも成長していくので考えて、なるべくやっていったほうがよいと思う。学校に行ってからなどリズムが正しくなれないので少しずつやっていくといいと思う。</p>
<p>社会全体が夜型になり、コンビニに夜、買い物に行ったりする事も多くなっているようだ。園で休息をとるなどして、なるべく快適にすごせる様にしている。</p>
<p>生活リズムが大人中心になっている。子ども中心の生活を心掛けるべき。</p>
<p>子ども達の睡眠時間が遅いと感じる。夜早くねるためには、朝、早く起きる習慣を付けた方がよいと思う。</p>
<p>各家庭には、色々と事情があり、保護者方の生活のあり方が子ども達に影響することは多々あります。年齢が小さな時には、それでも仕方ない部分はあると思いますが、就学が少し見えてくる年齢になった時には、子どものリズムを考えていただきたいと思うことがあります。</p>
<p>就寝起床時間のずれ、夜遅く、朝起きられない等(寝かせる努力をしているとは思えない内容の記述がある)。食事については、内容も(朝、菓子パンであったり、単品だったり)さることながら、登園途中食べながら・・・といった点など。保護者へ意識を持ってもらうことこそ、また、生活リズムの大切さを科学的なデータなどを基に話していくことなど、その家庭の事情に合わせてのアドバイスは必要と思われます。</p>
<p>大人のペースに子どもを合わせていること。大人が子どもを持つことで、ひとりではない、大人だけの生活ではないことを自覚して、変わっていかねばならないものを変えないでいることが問題と思われる。大人が変わればリズムが整う子は多い。</p>
<p>夜更かしが多い。そのせいか、寝起きが悪い。大人の生活リズムが夜型になり、子どもも一緒になっている。保育園、学校などで眠る事の重要性を話している。</p>
<p>就寝時間が遅くなっている。 朝食をとって来ない等大人の生活に子どもが付き合っている感があり、そのひずみが保育園生活に表れている。保護者の意識を高めていく方法、やはり、子どもの育ちで大事なことを5年後、10年後を見据えて話しをしていくべきである。</p>
<p>夜寝るのが遅く、朝、起きられず、眠い状態で登園となること。保護者の方々が起きている時間まで、起こしていたりしているようなので、早く布団に入る習慣をつけ暗くして、保護者の方も一緒に横になれればなって、寝かしつけ地道にやっていくよう声をかけていく。</p>
<p>就労時間が夜型になっている為、子ども達も夜型になっている。朝は、ぎりぎりまで眠りについていて、食事は寝起きて食べられない状態での登園では、ないかと思いますが。</p>
<p>夜遅くまで起きています。朝起きれない。大人の生活リズムにつきあっている。乳児期からリズムがくるっている所では、保育者として家庭状況まで入っていけない所で、難しい。幼児に就学に向けての話しをしている。</p>
<p>大人の生活の見直しが一番大切だと思います。そのためには、根気よく啓蒙していくしかない・・・のかな・・・。 遊びについて、受身的な遊びが多い。体を動かす機会の少なさ。体力、筋力、反射力のおとろえ。工夫する力の不足。 睡眠について、夜更かし。朝起きられない。朝、体と脳との目覚めに時間がかかる。</p>
<p>気になるのは、やはり夜型の子が増えているのでは？というところですか。親の生活リズムも遅くなっていることと、それに合わせてしまっているというところでしょうか。それでも、まだ、保育園に通っている子は良い方なのかもしれません。</p>
<p>夜寝る時間が遅く、大人の生活リズムに合わせすぎているのではないかと思われる。親とのコミュニケーションの中で話しをしたりすることが大切である。</p>
<p>大人のリズムに合わせる様になってきて、夜遅くまでおきていたり、朝食を食べてこない子もいれば、反対に家事の為(?)に早く寝かせ子どもとのスキンシップの時間が少なくなったりしている気がします。もう少し、子どもの様子を見て、その時のその子に対して何を今するべきなのか、もう一度見つめ直しながら生活していきたい。必要に応じて家庭と保育園の間を密にして何でも言い合える様になるといいと思います。</p>

夜寝る時間が遅かったり、睡眠のリズムがバラバラである子が多い。規則正しい生活リズムの大切さを保育士が伝えていたり、保護者がそれを知る機会を持つことが必要だと思う。
基本的な生活習慣が確立出来ていない事。年々、大人中心の生活リズムになりつつある危険性を感じています。保育園でしっかり遊び、食事を摂っている、午睡もしているということで、残りの時間帯についての親子のふれ合いや食卓を囲むこと、寝ることなどが、おろそかになってしまう部分があるのではないかと思います。子どもの一日の様子をトータルに見られるのが一番なので、体調の維持、管理が子どもの元気に通じること。身体の成長や心を育てていく上で、何が大切なのか、一つ一つ具体的に取上げて根気よく話していく。その場面は、連絡帳であったり、送迎時であったり、個人面談でじっくり話しが出来る場であったり、おたよりに中にも組み込ませている。

## (2)【設問(7)】「食生活」について感じる問題点・必要と思う取り組み

保育園で生活している子ども達は、薄味、食品の多種を経験している。しかし、家庭での食事の様子を連絡帳から見て感じることは、家庭での食事の重要性を親が感じていないことが気にかかる。
親の意識。
「朝ごはんを食べていない」「食事中のマナー」が気になります。時間がなく子どもが一人で食事をとっていることも少なくないと思います。朝、少し早く起き、家族そろって食事を取る。夕食も週に一回は、と日にちを決め、家族そろって食事を取る日にちを決めて、マナーを教えていく。食事を通してコミュニケーションをとることが大切だと思います。
離乳食をあげるのを面倒がり、いつまでもミルク、母乳のみを続けている。そのため入園時、食事を食べられない子が増えている。保護者にアドバイスし指導もしていくが、保育園である程度上手に食べられるようにしていく事で保護者がやる気になるケースもあるので、本来家庭で行うべきものという意識を少しずつ変えていく。
家族で食べない(一緒に)。だらしのない保護者が増えている。好きなものだけ毎日同じでもそれだけ与える。
好きなものだけを食べている。野菜、硬いものなど、子どもが好まない物は食べさせていない。給食に出るメニューはほとんど食べられない子が、家庭から来た子に多い。少しずつ食べる事を経験させて、食べ物に慣れさせていく。
偏食の子が保育園に通い始め、全く食べられなかったり、強く嫌がる姿が多く見られた。保育園と家庭とが連携し、繰り返し繰り返し食べられるように促していく。
食の大切さ、食育の必要性が希薄。心も身体にも必要な栄養としての食事としてのとらえ方。早い、手軽、便利で貧しい食品、食卓、食事の風景。本物の味、おいしい物はゆっくりと手間がかかるもの。豊かな環境、手間隙かけて作られるものを食べる喜びや、本物の味、おいしさを伝えるににくい現状。好きなものだけ、一品だけしか食べない。また、それを本人のためと、言う人もいない環境。変化が伝わりにくい。食べる事、食育の大切さを伝えていく発信地が必要。身体にいい食事、心豊かな食事、食べる喜びに、日本の文化を伝えていく事が必要。食べものへの感謝、作り手への敬意、流通によって見えないことを伝えていくことも伝承。本物の味、とりたて、できたてのおいしさも伝えていく事が出来るとよい。安心、安全なもの。
朝ごはんを食べないで来る。咀嚼しないで飲み込む(又は飲み込まず口にためる)。栄養バランスの偏り。親たち自身の食生活の見直しが必要。個人面談、保育参観、保護者会、日々のアドバイスの中で食育の大切さを伝えていく。
好きな物しか食べない。野菜が苦手な子が多い。よく噛まずに食べる。逆に噛み切れない。噛んで飲み込めない(口の中のためる)。果物を自分の前歯で噛み切ろうとしない(小さくきったものを口に入れたがる)。家庭で「食べない」からあまり食べさせていない(特に野菜)との事を言う親が多いが、「食べさせる」という意識で少しずつ食べるように向けていってもらいたい。「食べさせる」という事をさせるのはとても根気がある毎食毎食の繰り返しなので、親自身がこの『根気』をもって出来るように働きかけていければと思う。
現在担当している子ども達に特に感じている。連絡帳に記載されている家庭での食事のメニューに「クッキー」「バナナ」「プリン」と毎日のように記入されている事に驚く。そしてその末尾には必ず「母乳」又は「ミルク200ml」などと書かれている。1歳半を過ぎ、保育園で完了食を食べている子でも、食器を使わない食事である。母親には機会があるごとに保育園での食事の様子や献立を見るように伝え、個人面談や栄養士の立場から食事の大切さをアドバイスする場を設けるが、現実にはなかなか改善されない。今度保護者会等で簡単に作れる離乳食のレシピを紹介したり、保護者同士、意見交換する場を提供し、もっと「食育」に対して関心を持って欲しいと思う。
好きなものを好きなだけ食べる環境にある家庭が多いように思える。子どもの嫌がることはせず、言い聞かせたりする中での親としての働きかけが弱い。また、親自身もその状況に対して努力する姿は少なく、子どもの食べたいものを準備する傾向があり、「食べてもらっている」。朝食は菓子パン又はバナナだけはいいほう。時間に追われて食べない子もいる。食べ物を残す事に抵抗がない。食材を育てる部分からスタートする事は、食べる意欲につながるように思える。
偏食の子が多い。足が横に出てしまい、よそ見をしてこぼす子が多い。保育園としては、一口でも食べるよう声かけしたり、「このお皿をピカピカにしようね」と励ましたりして、出来るだけ全量食べるようにする方向にもっていこうとしている。家庭での食生活も見直してもらい、「食」の大切さを伝えていくと良いと思う。
好き嫌いが多い。嫌いな食品を細かくして入れる等の努力(家庭で)。食事の姿勢、マナーが悪い。硬いものが苦手な子が多い。
食べるということに意欲が感じられない。時間をかけて食べるより、時には一定量を食べなくても終わりにし、おなががすくということを感じさせることも必要だと思う。咀嚼力が弱い。
親子そろっての食事をしていない。食に関心を持っていない。食生活は日常生活をしていく上でとても大切な事なので、具体的に例を挙げ、親の理解できる範囲で話をしていく。職に関心を持ち、親と一緒に食卓を囲む楽しさを伝えていく。

朝食をとらない家庭が増えており、子どもに朝食を食べさせて登園させてくださいと話をする、自分は小さいときから朝食をとったことがないため、どのようにしたら良いのかわからない。離乳食の作り方を問う前に、まず母親自身が取ることを指導しなければならない。また、手軽な食材が多い中、本来の素材の味を知らせる努力が必要。
1歳児で母乳をやめられない子が多い。2歳6か月の子もいる。好き嫌いが多く、家では好きな物だけしか食べられない。園では全量食べている。朝食を食べてこない。
食物アレルギーの子が多くなったように思う。家でもちゃんと食物の管理をしているのだろうか？。また、保育園だけに任せないで家庭でもしないと意味がないと思う。
炭水化物を多く摂っているように思う。
朝食を食べない。外食が多い（作らない）。嫌いな物は、食べなくても良い（乳児期からの努力がなされていない）。食は、生きるもと。身体をつくり、維持する物なので共に考えていきたい。
朝食を食べてきていない子が保育園でもいることにショックを受けた。保護者の仕事の関係で食べられなかった子もいれば、起きるのが遅く食べさせられなかったという子どももいた。食べてこなかった日に昼食を少し多めに食べさせたり、遅く起きた子に関しては、“早く起きようね”とその都度声をかけていき、朝食の大切さを意識させている。
昔に比べてみると、保健所や病院でも離乳食の進め方はゆるやかになり、保育園に入園してから、月齢が高くても食べていないのが現状です。保護者の方も、手作りで離乳食をつくる方はほとんどなく、ベビーフードにたよっているのが現状だと感じています。食物の大きさ、やわらかさ、固さ、切り方など、入園式や行事の時、又は、保育参観などで実際に見てもらい、目や味わって経験することを園側が意識的にプログラムすることが必要ではないかと感じています。
国からも食育について、いろいろな角度から知らせていく工夫が大切。
朝食を自転車の上でとっていたりする。食べないで来る。簡単でもよいから、家でイスに座って食べるようにする。
御飯、おかず、汁物と順番に食べるのではなく、一品食べ（御飯だけ先に食べてしまう）が目立つ。好き嫌いもあるとは思いますが、古くから言われる「三角食べ」の指導をし、バランス良く食べることの大切さを知らせていく。
かまない子が増えてきている。又、お菓子やミルクでおなかをいっぱいにしていない子もいる。ストレスで食に走る子もいるので、よく噛んで満腹感を感じるようにすることも必要。
朝食が簡単である。あるいは、とれていない。保護者会などで朝食の大切さを知らせるため、栄養士や看護師にも専門的なところから話してもらっている。
味の濃いものなどが大好き。食事の仕方が単品食。バランス良く食べられない。幼児の早いうちから、「体を作る要素」など話ながら、保育園での食事をきちんと食べさせている。家では、口にしない野菜なども保育園の集団の中では、色々な要素がプラスされ食べられるので、1回でもきちんと食べられればいいかなと思う。
自分達が食べているものが何なのか、わからないまま食べていることがある。「何味？」と聞いても「わからない」と答える子がいる。魚がであれば、何という名前の魚であるかを伝えたり、おやつ時にムシパンなどがでると「何の味がする？」と聞いたりしながら、子どもと関わっている。
規則正しく食事をとらない。朝食を食べない。コンビニやファミレス、ファーストフードを好み、食材の本来の味は受けつけない。園の食事は、とてもバランス良く考えられたもの。手がこんでいる物は、仕事を持っている保護者には、難しいかもしれないが、手作りの味を知ってほしい。
手作りの人がほとんどいない。作り方がわからない、離乳食など作り方や量など知らせていく必要がある。朝食をとらない保護者が多く、子どもも朝食らしい朝食をとっていない。簡単に朝食の作り方など知らせるパンフレットを作ってはいかががでしょう。朝食も大切さも、もちろん知らせるべき。
やわらかい物を好み、少し固くなると食べない。濃い味を好む。揚げものはよく食べるが、和食は苦手な子が多い。
間食（お菓子）を子どもが求めるがままに与えて、多量に摂っているのではないかと見られる家庭があります。子どもは、「アイス食べたんだ」などうれしそうに話してくれますが、栄養、食事量などは、大人がしっかり管理しなければならないことを伝えていく必要があると思います。
朝、早く起きてごはんを食べることが普通。食事が元気に働くためのエネルギーになることをきちんと伝えていく家庭の生活であってほしい。なんでも、いつでも、手に入ることは続かない。地球温暖化、エコロジーについてなども大切なこと。私達も教えていく。
朝食を食べてこない子や野菜や果物が苦手な子が多い。
朝ごはんを食べないでの登園、午前中から疲れている。元気がでない。散歩に行ってもすぐ疲れたなど…。保育園でも、簡単な朝食の作り方、少し入れることでも元気になる食べ物紹介など、栄養士を中心にプリントであったり保護者会などでお話している。保護者には、話もしながら、園として、そのような子どもにせんべい1枚食べても元気がでるので（1歳児は、10時のおやつ、2歳児牛乳などとなっている）食べさせることもあり。
食事のマナー。日々忙しい中で、食事の時のマナーを家庭で伝えるのは難しいと思うし、各家庭ごとに価値観が違うので仕方がないと思う。解決策は、家庭との信頼関係と協力体制。
食が細い幼児が目立つ。何が好きかの問いにお菓子と答える子が意外と多いのに驚く。
偏食。食わず嫌い。食べ物で遊んだり、食べ物を粗末にする。保育園では、苦手なものも頑張るが、家では食べなくても許されてしまう場合もあるため、両方での統一した進め方が必要。
朝食、牛乳、パン、ヨーグルト、バナナが毎日という家庭が多い。栄養のバランスより親の手抜きが優先されている家庭が多い。咀嚼力、食生活が乏しくなっている。

<p>食育という事も今、呼ばれています。家庭での食事、一緒に作ったり、家族がそろって食事をするという事が、どの位できているのだろうか?と思います。食べるということは、命をつなぐことで大切な事なので、もう一度食育(家庭での)考えてみていいのでは?と思います。</p>
<p>朝食を食べてこない。食べることに意欲がない。</p>
<p>朝食を食べていない子。親子共、朝起きれないのでそうなってしまうのであろう。</p>
<p>家庭で食事を作り、その日のことを話しながら、ということの大切さを感じていない保護者もいるようです。週1、2回ある家族の家に集まり、子どもは、かなり興奮状態で食事をとったり、遊んだりという姿がみられるようです。たまにはよいと思いますが、結構頻繁なので、日中の子どもの様子が落ち着かなくなったり、大人同士の会話が必要以上に子どもの耳にも入り、よい影響を与えないような気がします。ゆっくり家族で食事をするのがいいと思うのですが。</p>
<p>噛まずに飲み込んでしまう。朝食をしっかり、食べていない。野菜嫌いの子が多い。</p>
<p>栄養過多の一方、バランスが悪く、自分の好むものばかりになっている。園での1食でフォローができるとも思えないが、先の学校給食や自らでの摂取を考えられるように教えていく事は必要で、現在なされている栄養指導などを続けていく必要がある。</p>
<p>朝食をしっかり食べていない。食べたい物を食べたい時に食べる。好き嫌い、偏食、ムラ食い。食べることに意欲が見られない。</p>
<p>個人差はあるが、それぞれの苦手な食べ物がある。それは、ブロッコリーだったり、油揚げだったり、肉だったり、トマトだったり、グラタンであったり、本当に多岐にわたる。それに対して、少しだけでも食べたらほめて、量を減らして食べられたことへの自信をつけさせていくことが大切である。その結果、他の生活の場面でも自信を持って生活することができるように思う。</p>
<p>マナーが身につかないこと。“マズイ”という言葉が多く使われること。</p>
<p>好き嫌いが多い。食べ物を粗末にする子が多い。咀嚼が弱い。食べられる有り難さ、作ってくれた人への感謝の気持ちを伝えたい。固い物もしっかりと噛んで食べる事、味わう事を伝えたい。</p>
<p>コンビニ、できあがりの品、ファストフード店の利用など、家庭でゆっくり食事をする時間が少ない。作ることの時間の工夫がない。作ることそのものが、負担感を感じる親が多い。夜型生活で朝が起きられず、パンを口の中に入れて登園や、牛乳のみなど単品食いの子もいる。大きくは、せめて小学生低学年まで育児時間の延長(食卓をかこむ時間を早くできる)。生活リズムの改善(親子共に!)。食事のつくり方等を保護者に丁寧に伝える。</p>
<p>朝食抜きの子がいる。外食が多い(父親が迎えで、夕食はほとんど)。レトルト食品、ファーストフードが多い。食事時間がズレている。</p>
<p>朝食を食べずに登園してきたり、外食についても一家団欒といった、家庭が少なく、親子の関係もそういった事で余裕のない生活になっているので、社会的に子どもを大切に思うような国になればと思う。</p>
<p>孤食、個食が増え、家族で同じ食卓を囲んで食べるという経験が少なくなっている。濃い味付けのものが多くなり、生活習慣病などになりやすい体ができしまっている。</p>
<p>ファーストフードを小さな時から、食べている。個食の傾向。</p>
<p>0歳児は、ミルクから離乳食、そして、大人と同じ物を食べられるようになっていく過程なのですが、大人(親)自身が食に対する意欲がないためか、おざなり傾向に感じます。果汁などから少しずつ段階を上げていく離乳食は、月齢の高低に関わらず、保育園が初めてという家庭が多いです。母乳やミルクをあげている期間が長く感じます。初めて離乳食を口にする子は、異物にイヤがる事が多く、根気よく進めていくことが大切ですが、やはり日々忙しい保護者は、楽な方(ミルク)に依存気味です。食べないよりは・・・と思うのでしょうか。偏食に至っても同様で、野菜(食べない物の代表ですが)が持つ栄養価値を再認識して、食事をする時間はかかるとは思います。何でも食べられて、健康な身体づくりをしてほしいと思います。</p>
<p>うす味の食事習慣になっているか心配するし、孤食になっていないか親も考えて生活してほしい。</p>
<p>食に対する意欲に欠ける。少食、噛まないで飲み込みなど、様々な姿があるが、楽しんで食べている子が少ない(食べることに対して)。素材を知らせたり、収穫にたずさわるような環境を整えるように食育を啓蒙していく。</p>
<p>体の成長に必要という事ではなく、子どもが食べてくれるからという観点で食事をさせている様に思う。</p>
<p>①食事のマナーのなさ。②偏食。③1品食い。④菓子類を制限なく食べる。日頃の園での食事の中で、4点について指導していく。保護者との話しの中で、食べてくれればよい。子どもだけの孤食をさせている。伝える余裕がないなど、聞かれた。現代の保護者の状況、意識の持ち方を考慮し、園で出来る限り対応していくべきだと思う。ex) 朝食の対応も。</p>
<p>仕事に忙しい核家族家庭が多く、朝食をゆっくりとらずに登園。また、家族で食卓を囲む機会が減ってきている。その為、子ども自身も食に対しての意識が薄くなっているように思われる。1日3食の内、1食でも家族で食事をとれるように取り組むことが大切と思う。</p>
<p>親の嫌いなものは、食卓にでないとのこと。園児は、拒否し、投げたりして抵抗する。無理に食べさせず、まわりの食べている園児の姿を見せていくなかでスプーンで口に入れてもらい食べてみたりして、食べ物に慣れさせていく。保育士があせらず、ゆったりとした態度でかかわっていく。</p>
<p>朝食をしっかりとしてこない子どもが多い。</p>

<p>現在、担任しているクラスは、全体的に良く食べる方だと思いますが、家庭では、嫌なものは口にしようとしないうという話も聞きます。嫌いなものは食べてくれないため、食卓に出さなくなってしまう傾向がありますが、メニューから消さず、少しでも、味を経験できるようにすることが大切だと思います。また、食物と、体の関係についての話も、年齢に合った話し方をして子どもたちに意識させていくことが必要だと思います。</p>
<p>私のクラスでは、保護者の意識が高いのと、よく食べる子どもたちなので、朝食をとってこない子はおらず、また食欲がなく朝食をこられなかった子も、連絡帳を通して園の方に伝えてくださるようになっていく。食事に関しては、家庭での“おかし”の食べ方、また、断乳からの食事の変化などによる、ジュースの過剰なあたえ方（それによる虫歯）等、いろいろと一人一人の家庭によってケースはちがうものの、細かく問題を感じるところがある。しかし、園と家庭との「何でも話せる関係」や園側の通年における面接の受けつけなどによって、アドヴァイスをしていけるように思う。</p>
<p>家族で食卓を囲むことが少ない子がいる。食事のバランスが崩れている。できるだけ、バランスを整えてもらう。子どもの好みは変化することを伝える。食事の支度を子どもと一緒にしたり、食材を知らせる機会を持ってもらうようにする。</p>
<p>朝食の内容、時間、咀嚼力の低下。起床時間と登園時間にゆとりをもつ。朝食をしっかりと食べることが元気に過ごせる基本、など、保護者の認識を促せるような取り組み（保護者会、学習会、講演会、社会的な啓蒙）。</p>
<p>食べられない食材、食べたことがない食材が多いように感じる。咀嚼ができていない。子どもたちの様子を見ながら少しずつ慣れさせていく。「かみかみ」と声をかけながら咀嚼を促す。</p>
<p>朝食をしっかりと食べてこない子もいる。忙しい中でできる簡単レシピなどの情報提供をする。朝食をとることの大切さを知らせる。食べている子と食べていない子の日中の生活の中での姿を把握し、違いなどをわかりやすく伝えていく。</p>
<p>偏食がちな子が多く、いろいろな味、食品に出会う大切さを、ことこまかく具体的な例を出して、食べることによって体づくりと平行して対応しています。</p>
<p>食事らしい食事をしてこない。朝食を食べてこなかったり、ジャムパン・チョコパン・アンパンという甘味の強い菓子パンを食べさせたり、クッキー・ビスケットだったりする。夕食もレトルトや買ってくるものが多く、母親がご飯を作っている姿勢がみられない。</p>
<p>特に朝食がおそろそかになっている。朝から「おなかすいた」「気持ち悪い」と言う子もいる。午前中元気がないなどの様子がみられている。また夕食は家族揃ってが望めない家庭が多く（父または母不在）つい簡単になりがちのように感じる。園でも噛まない子、飲み込みの悪い子、野菜嫌いも多い。解決に向けては、園でできることは少ないが、具体的な工夫の仕方（調理方法やアイデア、その子に合った手法）を伝えていくこと、また生活リズム全体の問題として考えていくことを訴えたいと思う。</p>
<p>食品に対して意識が変わってきている（簡単にできる利便性）。乳幼児期必要なこと、①季節のものを食する②いろいろな食感を味わう③栄養を考えたバランスのとれた食④食事のマナーを知る⑤食することに対する感謝の思い（目の前に出てくる食はたくさんの人の手で支えられていることなど）。体を作る食の大切さ。いろいろな食品があふれる中、何を選んでいくか。専門的なアドバイス、また指導。親への啓蒙。子どもたちで生活の中で感じ育つ場。アレルギーなど個々の体に合った食。</p>
<p>定量食べられない。好き嫌いが多く。座る姿勢が悪い（身体が横向きで食べている）。</p>
<p>朝食を食べてこないため、午前中おなかがすいて活動が少ない。また昼食を食べるスピードが速い。睡眠も含め、「早寝早起き朝ごはん」を実施していけたらよいと思う。この本に書かれているように、園や各クラスで目標を決めて、一緒にやってみることが大切だと思う。</p>
<p>食生活の乱れを少し感じます。乳児のうちから外食をとることが多かったり、食事の前にお菓子を食べさせたり、一品料理や好きなものだけ食べさせるというような偏った食生活に問題を感じます。園でいろいろな野菜が食べられず、口に入れても噛んで飲み込めずに口の中に入れておけばなしたりします。無理強いせずにはせずに友だちとの楽しい雰囲気の中で少しずつ食べられるよう促したり、食べ物に関心をもてるようにするとともに、園での生活を伝えながら家庭でも栄養バランスを考えた献立作りをしてもらうなど話し合いをすることが必要だと思います。</p>
<p>朝食抜き、もしくは牛乳のみの場合をよくみかける。朝食にチョコパンなどの菓子パンを食べたという話をよく聞くことがある。外食せざるを得ない状況も理解できるが、出来合いの惣菜でも家庭で食べるのがよいと思う。ファーストフード、歩き食べなどの光景が多い。 （家庭での取り組み）小さなころから台所で調理する姿に触れられる。調理を手伝ったり、準備を手伝ってもらう機会をひとつでもよいので設けてみる。テレビなどは見ないで、食事にむかう。子どもが好き嫌いをすることを恐れず、根気よく。 （園からの取り組み）栄養士、調理師とのコミュニケーション。調理室の様子がみえることや、味、においなど豊かな献立に触れてもらう。</p>
<p>今のクラスの家庭は比較的母親が食事または料理を大切にしている方が多いため、好き嫌いも少なくよく食べていると思いますが、中にはミルクに頼って食事をほとんど作っていない、果物やジュースコーンフレークなどで朝食をすませている子もいて、そうした家庭には、保育士はもちろんですが栄養士や調理などの専門の方からのアドバイスなども必要だと思う。</p>
<p>朝食が乏しい。咀嚼しない子が多い。家族で一緒に食べない。</p>
<p>食事をすることは、人間にとって基本であるが、忙しいというのを口実に、便利なレトルト・冷凍、総菜屋さんのものを利用する機会が多いと思う。保育園では手作り、添加物を使わないなど、手をかけた給食作りであるので、子どもにはもちろん、保護者にも日々伝えていく必要がある。時に試食する機会も作り、その味を知ってもらっている。</p>

<p>寝ることと同じで、子どもの思い通りにさせてしまっている。まず基本的に楽しく食事ということ、家族団らん（母子だけでも）の中で食事をするということが、三食きちんと食べることの大切さがわかっていない親が多い。当たり前のことを親へ伝えることが難しい（プライバシー）。 祖父母が子どもの父母と子どもと一緒に面倒をみている。子どもがおなかにいるときの母親学級（父親も一緒に）をしっかりとやっていくとよい。</p>
<p>家族そろって食事をしている家庭が少ないと思われる。食事のマナーを親自身が気付かず、汁物は右、ご飯は左、箸の並べ方とはということすら気にしていない面も見受けられる。子どもたちは本来和食を好んでいる。保育園の給食をみるとよく食べている、と思われる。</p>
<p>朝食を食べなかったり、少量だったりしている。牛乳など、飲み物だけという子も多い。朝食は親が食べないということにも関係があるようです。一人ではほとんど食べたくないこともあるようです。 親に対しては簡単に作れるものや食べやすいものを話したり、栄養士作成のレシピを教えたりしている。園ではできるだけ昼食をしっかりと食べるように指導しています。食べることは楽しいということも教えていきたいと思っています。本来、食育は家庭でおこなわれるものだが、園でも食事をとっているのだから園でできることはしてあげたいと思っています。</p>
<p>食べないから作らない。よく食べるから好きなもの中心のメニューになる。大人と一緒に食べない（時間が遅い）から簡単なメニューになる。保育園で栄養をとっているから家庭では簡単にすませます。などがあげられます。 子どものためという以前に大人自身も食生活の見直し、楽しくおいしく食べるということを味わい考えなおす必要があるのでは…。</p>
<p>朝ごはんを食べてこない子もいます。一日の活力になる朝ごはんをしっかりと食べられる余裕を持ってもらいたい。 今はどこでもお金を出せば食べ物（惣菜など）がそろい、テーブルにならびます。せめて親子そろってテーブルを囲み楽しい食事をしてほしい。</p>
<p>体をつくっていく食事は大事なので、朝食、夕食をしっかりとってほしい。食事のマナーについて、家庭でのしつけが大事。がんばってほしい。</p>
<p>0歳児を担当しているが、ベビーフードだけのお子さんがいて、園の離乳食がなかなか進まない（噛めない）。栄養士と相談し園ですすめている簡単なレシピなどを教えてあげている。</p>
<p>朝食がしっかりとれていない。必要以上にお菓子をあたえてしまう家庭が見られる。おやつであれば、一日の量をしっかりと決めてはどうか。朝食は、朝少しゆとりがもてるとしっかりとれると思うので、10分でも早く起きられるとよいのでは。</p>
<p>偏食が感じられる。一度身につくと改善するのが容易でないと思うので、低年齢のうちに好き嫌いを減らしておける方がいいと思う。</p>
<p>手軽に作られたものが手に入るようになり、手作り感がなくなってきている。親が料理をするのを見る、聞く機会が少なくなっているように思う。</p>
<p>朝食を食べていない、またはおやつのような内容に驚かされる。また、好き嫌いの多さ。家庭でどんなに食わず嫌いがあっても、給食の時には苦手なものでも食べる指導をしたいが、家庭の理解、職場の理解を得るのは難しい。好き嫌が多い職員は、無理に食べなくてもいいという対応になりがちだが、山のように残った残飯を見ると、はたしてそれで良いのか不安になる。あらかじめ、量を減らし、「食べられた」という満足感から次の意欲につながるように思う。</p>
<p>食べないから、ということで水分もほとんどとらず、食事もしず登園してくる子がいる。保護者も自分も朝はあまり食べないから、という考えも聞かれるが、やはり保育園は空腹になりすぐに食べ物が食べられるという場所ではないので、一日のエネルギーとしてやはり朝食は食べてきてほしいと思う。忙しい中でも大人の食生活も見直したほうがいいのではないか。</p>
<p>アレルギーの子が多く、動物性たんぱく質の安全性について問題を感じている。0-157以降、集団給食はメニューに工夫が必要とされているため、生野菜などは出ることがない。家庭ではそのところが唯一おきなうことができると思うので、新鮮な野菜の味や香りを味わわせてあげてほしいと思う。</p>
<p>全体的に食べる量が少ないように感じます。また、野菜や豆類・海藻等の好き嫌が多く、味付けの濃いもの、肉類、甘いものを好む傾向が強いです。個々の生活リズム、活動量も関係していると思われるので、日頃保育の見直しとともに、「量は少なくともいろいろな品目を口にすること」を念頭に置くことが必要ではないでしょうか。また食べることの原点、作物を作ることを経験もたくさんさせてあげたいと思います。</p>
<p>苦手な食品に野菜、魚が多い。肉中心の食生活が伺われる。バランスの良い食事を取るよう親に働きかけていく。</p>
<p>好き嫌が多い。咀嚼ができない。味付けの濃いものを好む。食育についての知識を、大人がもつようにしていく。</p>
<p>忙しいこともあるが、睡眠との関係も多くあると思う。朝、目覚められず、また目覚めきっていない身体で、朝食を摂る。食事の内容についても、シリアル（CMなどの情報で栄養バランスが良いと言われていることも多い）・牛乳で済ませている面もある。 栄養士を含め、1日3回の食事についての話など提供したい。園内では、苦手な野菜を育てながら、自分たちの作った野菜として、やりとりし、食への興味が広がるよう対応。</p>
<p>虫歯が低年齢から発生している状況があるのは、歯磨きの問題もありますが、食生活も関係していると思います。白いご飯を好まず、味がついているご飯を好む。箸の持ち方、茶碗の持ち方、姿勢の悪さを感じます。 野菜の苦手なお子さんが小さい（1、2歳）うちからあるのは、離乳食の時期の食事（食品）が関係しているかと思っています。親が食べないものは、子どもにも作らない。 お子さんと一緒に料理を作ったり、野菜そのものの味を味わえるようなメニューを作ったり、季節の物を取り入れ、果物も取り入れたりと、目、味、色も考えると、食卓がにぎやかになると思います。</p>
<p>ファーストフードやお菓子類で食事を済ませている子も少なくない。</p>
<p>食生活の大切さはわかっていても、大人に余裕がないことが、改善されない理由と思われる。</p>

<p>偏食が多い。家でも嫌いなものは食卓に出ない。 園では、ひと口でも食べられるように、から始めて、味見をする（食べなくても食卓に出す）、少し増やす、ということからはじめ、子どもたちの食べられたという自信を認め、ほめたり、励ましたりする。 4歳5歳と持ち上がったので、ほとんど食べられるようになる。家でも食べられるものが多くなったという。</p>
<p>仕事が忙しいために、料理をする余裕がないのか。そのため代食が多くなってきていると思う。</p>
<p>現在のクラスのお子さんは、比較的食べることが好きで、食欲旺盛なお子さんが多いです。基本は「おいしいね」と思いながら食べる気持ちだと思います。 食べ方としては、噛むことが下手だったり苦手な子が多くなっているように思います。口ざわりの悪いものだと、歯やあごをつかって噛んで飲み込めずに、出してしまうたり、反対に丸呑み状態になってしまうようです。生活リズムとも関わりますが、家庭で“ながら食べ”になったり、家族と一緒にではなく、先に一人だけ食べるようになったり、家族一緒に時間を決めて楽しく食べることを経験できていないことも感じます。大人が朝食を摂らない生活だったりすると、朝食をきちんと食べないで登園する子も多くなるようです。朝食の大切さは伝えていきたいと思います。</p>
<p>味つけが濃いものを好む。</p>
<p>園では、みんなと一緒に食べるので好き嫌い言わずに食べている子どもたちです。一方家庭では親も“好きな物だけでよい”という意識が強いので偏りがちです。近年食育の大切さが言われていて、旬の物を、バランスよくテーブルにおいておくことが大切だと思います。又間食は控えめに3食の食事を規則正しく！！親への意識づけが最も重要だと思います。</p>
<p>朝食を摂らなかつたり、品数や食品種類が貧しい子がいる。好き嫌いで偏りが大きいことや、お菓子、ジュース類を与えられている子も多い。(5)と同様に啓蒙していく。</p>
<p>遊びながら食べてしまう。よく噛まないで食べてしまう。家庭との連携が必要だと思う。</p>
<p>ファーストフード、味の濃い食事、食事の偏りなど、1日の活力となる朝食をきちんと取っていない子も多い。食育に関する働きかけや色々なメニュー・レシピの提供などしていく。</p>
<p>飽食の時代の子育てで大事にしたいことは、「家族で食卓を囲み楽しい雰囲気ですること」。食事はまさに心の栄養源でもあるが、理解はしても困難な1つである。朝ごはんを食べさせられない。食べないで登園。孤食、テレビ、ビデオをみながら食べている。すわって食べられない。食事のマナーを家庭で教えられる。好き嫌いの嗜好はあって当然だが、親自身がゆたかな食事をしようと努力できない→手ぬきで貧しい。「かまない」などの行動が目につく。 ☆食文化を伝える。レシピや食に関する情報の提供や保育参観等で食事をみてもらい、大切さを伝えていく必要がある。</p>
<p>母親の手づくりが少ないのかなと思うことがある。</p>
<p>極度の偏食の子が何人かいる（苦手なものでも少しは食べてみるように促したり、励ましたりするが、その1口を頑として受け入れない）。友達と楽しく食事をすることが基本であるが、食事のマナーがなかなか身に付かなかつたり、長時間、ダラダラ食べ、なかなか食べ終わられない。 日常生活の事なので、その都度声かけし、意識づけしていく。食事メニューを知らせたり、“食事と健康”“食事と栄養”などを話し、興味を持てるようにする。栄養士とも連携し、楽しく学べるようにしている。</p>
<p>園では野菜を食べるが、家庭で食べていない子が多い。 解決に向けては、園での様子を知らせながら、食べる物だけでなくバラエティーにとんだ食事内容を家庭にお願いしている段階である（園では食べないからといって他の物を出してあげられないので）。</p>
<p>偏食、そしゃく力の低下→食育（実際に野菜を育てたり、調理したり、調理の現場を見学する）。</p>
<p>スーパーやコンビニで、手軽に、色々なものが買え、時間短縮にもなるが、栄養面ではかたよりがちである。母の手料理が減り、淋しさを感じる。母が料理をしている時間も、子どもは待ったり、わがままを言ったり、又、がんばる親の姿を見たり、とても大切な時間と思う。野菜不足で炭水化物中心の食生活で、朝食を、ドーナツや菓子パン等の子もいて、「保育園でしっかり食べているから」と保護者の声もある。園で与えられるのはほんの一食にすぎない。忙しい保護者に、要望を出しても、なかなか聞き入れてはもらえないが、簡単でスピーディな方法があれば、その都度提供している。「できないから」ではなく「できるかも」と思ってもらうことが大切である。また、大人よりも子ども達に食育をおこなっていくと良いのではないかと。保育士と共に、栄養士や看護師の協力のもと、様々な体の仕組みと栄養面について知らせ、今以上に意識させていけると良いと思う。</p>
<p>専門家によると食事はできるだけ手作りのものを、親と一緒に食卓にすわり食べることが思いの他大切だとの事。保育時間が長時間によって出るストレスよりも親と食事をとらないストレスの方が、大きく深刻なのだという統計が出ている。子どもは「成長の途中にいる」という意識を持ち、バランスのよい食事をさせることで心身ともに健康で正常な発達をとげるのではないかと。好き嫌いに対しての意識をほどほどには持ち、嫌いなものでも1口は食べるというスタンスで働きかけ、極度の偏食にならないようにしたい。しかしものすごく頑固なタイプは無理強いせず待ちながら働きかけながらをくりかえす。</p>
<p>好きなものばかりを食べさせている家庭が多い。とりくみとしては園での食事時に少しずつでも苦手なものを食べさせ、味わえるようにしていく（ムリじいではなく）。</p>
<p>朝食を食べない。偏食が多い。どちらも保護者のライフスタイルにも大きく影響しているように思う。偏食の多い保護者のお子さんは偏食になりやすいのも仕方のないことだと思う。園での食事では、へらしたり、ひと口食べたらほめていたり、絵本（食べものの絵本）などを通して「食べるということは楽しいことだよ」ということを知らせたり、栄養士により食育をしてもらったりしている。</p>
<p>忙しいだけでなく食生活を重要だと考えていないのではと感じることが多い。1日3食ではなく保育園でしっかり昼食を取っているのと、はっきり言い家庭では手を掛けることは少ない（1日3食のうちの1食なのだが）。ファーストフードを食べ慣れているので園の食事の豆類、野菜、魚類など嫌がる。食品の幅が少ない。</p>

<p>保護者自身の食生活が変わっており、朝食はコーヒーだけなどのリズムを子どもにも間接にしてみましょう。また、便利さのみとなり家庭での調理された料理が味わえない子も増加しつつある。便利さをとり入れながらも「食育」を大事にするという考えを広めていければと思う。</p>
<p>衛生面（特に 0157以後）が大きくクローズアップされ、過剰反応をしているように思うところがある。育てて、収穫して食べるという自然な経験がたくさんできると良い。家庭においても「食」というものをもっと大切に考えられる場があるとよい。食育についての講演会に参加するなど。</p>
<p>食べる時間が遅いのは、あまり好ましくないものだと思います。私のクラスは2歳児なので、狐食というのはありえませんが、家族での食事は大事なだんらんの時間で、コミュニケーションという上でとても大事なので、できることなら、家族で食べるのが望ましいと思います。</p>
<p>2歳の誕生日を迎えても、粉ミルクを夕食のメインにしている家庭もみられる。子どもの要求だけに耳をかたむけるのではなく、親としてどうしたいのか考える必要があるのではないかと。</p>
<p>大人が食事を作らなければ、子どもは食べられないと言う事を認識していない方もいる、子どもには将来があり安全で健康的な食生活をとる。</p>
<p>苦手な物でも1口は食べてみる。食卓に並べてみる、等。食事中はTVを消して、会話をもつ。</p>
<p>朝ごはんを食べてこない。お菓子ばかり食べる。親が子どもに振り回され、好きなものを食べさせる。楽しい食事が出来ていない。 食の大切さを再認識できるように保育士の口からも大切だが、専門的な講師をまねいて話をしてもらいたい。また、保護者も子どもの食に関して良いレシピなどを、栄養士の方に考えてもらい、たよりに毎月載せるなど。</p>
<p>家庭の問題です。具体的に将来像を提示することが大切です。</p>
<p>朝食ぬきの子がいる。帰宅後、お菓子をたっぶり食べるので夕飯が食べられない。現在の保護者がそういう育てられ方をしているから、何の疑問もなく、それでよしとされているのではないかと。個人面談等で話をしてもなおす気がないので変えようがないと感じる。同じ保護者同士の話なら聞き入れられるかもしれないので、クラス保護者会でテーマとして話し合えば良いようにも思う。</p>
<p>朝食のメニューが毎日同じであったり、チョコなどのお菓子であったりする。また、子どもがじっとしていないので、帰宅中は、必ずお菓子を食べさせながら帰り、夕食を食べれなくなってしまうといった事があり、気になっています。</p>
<p>三度の食事（保育園に来ている場合は朝、夕になるが）をきちんと作って食べているか、朝抜きでの登園またはしっかり食べてない子も見られる。また、外食や、レトルト食品、好きな物だけ食べるといった偏った食生活が心配。食材に対してもう少し意識を持ち、健康作りを考えていって欲しい。そういう意味でも食育に対しての保育園の役割がある。コンビニ弁当は日本の食材は入っていても1品位殆ど輸入食材、健康を害するのではないかと心配。</p>
<p>遅寝、遅起きの生活をしている児が多く寝起きの為、朝食が摂れず牛乳、ジュース・ヨーグルトという朝食の児もいる。又食べながら（パン等）バギーや自転車にゆられてくる。親に朝食の習慣がない為、子どもは目覚めていてもせいぜいパン、牛乳程度の用意しかしない家庭もある。食事全体に野菜特に菜物の摂取が少なくなっている。手作りそうざい店が多くなり利用する人が増えている。味が画一化され、家庭の味は少なくなっているのではないかと？外食は以前より減っている様に感じるその点はプラスになっていると思えるが、家族揃っては少ないのではないかとおもう。食育に関心の高い人も増えているが、差が大きい気がする。 保育園の給食メニューの紹介やバランスの良い食品、好物や作り方等栄養士を介し伝えたり、簡単料理の方法等会話の中で伝える（それぞれの状態も含め）、園だより等の活用。試食会、調理実習の実施し、興味関心を育て高めていく。</p>
<p>特に朝食をしっかりとっていない。（メニュー：（水、パン）（野菜ジュースのみ）（アイスクリーム）など） 《取り組み》朝は時間に余裕を持ち、少しずつでもいいので栄養バランスのある食事をする。昼食まではもつような食事をする。</p>
<p>夕食の時間が小さい子どもにしては遅めなことが多い。それによって寝る時間も遅くなってしまうので、生活リズムが夜型になってしまうのではないかと。朝型の生活が、子どもの成長にとってどのような利点があるのかを具体的に示し、保護者の理解を得る。そして、いそがしい生活の中でそれができるような努力や工夫をしてもらえるようにする。子育て中の社員に対する企業の協力も得たいところだと感じる。</p>
<p>咬むこと、飲み込むことのできにくい子がいる。朝食メニューを見ると火を使わない食べ物が多。家庭での団らんの喜びはあるのか？</p>
<p>保護者が忙しい日々を送っているのは分かる。保育園での食事に頼りすぎている面がある。家庭で十分できないかもしれないが、意識を持つことが大事。栄養士だけでなく調理士と親が気軽に話せる雰囲気づくりも必要。</p>
<p>朝、起きられなければ空腹は感じられません。結果、朝食を食べずに登園することになり、朝食をとらずに登園することで、エネルギーに替える物が出ず、血行が悪く、あそぶ力も出せず、午前中ボーッとしていることが多くなると感じます。夜型になっていることで、夕飯の時間も遅くなり、又、その後の生活リズムも遅くなることにつながります。朝、夜ともに出来合いの物、バランスの悪い食事などの家庭が多くなり、親が作った手作りの物を食べることが少なくなっていると感じます。乳、幼児期の食生活がどれだけ大切かを解っていただきたいと思います。</p>
<p>問題点1) 朝食をとることが不十分。2) いつかたべようになるだろうと、あえて、食材をすすめない。3) 子どもの好きな献立に偏る。 取り組み1) 大人は朝食を摂らずとも、子どもにとってはどれ程朝食を必要とするか、園での様子で、きたんなく違いを知らせる。2) 問題のある子の父母にはきっちり園の食事状況を参観してもらう。</p>
<p>好き嫌いが激しい。きちんと前をむいて座って食べることが出来ない。親と一緒に食べていない感じがする。食に興味がない子が多い。食に興味がある子は集中して遊べる人が多いので、食育はとても大切である。子どもと一緒に食べることが大切である。</p>

<p>好き嫌いの多い子が増え、家では「嫌いなものは食べなくて良い」「好きなものだけ食べれば良い」「おかしや甘いパンを食べてお腹がいっぱいになれば良い」と考えている保護者がいる。園では食べ物に興味をもてるように、トマトやいんげん等の栽培をして収穫を楽しんだり、年長になると、とうもろこしやそら豆のかわをむいたりと食育の指導をしている。又、給食時には、色々な食材や味に馴染んでもらいたいと考え、1口でも食べてもらえるように声がけや励ましながら援助をしている。もちろん食べられた時には、ほめ、「食べられた！」という自信につなげている。園で食べられるようになったものを保護者にも伝え、家での食卓にも並べるヒントになればと考えている。物が豊富にある世の中であるが食べ物の大切さを知らせていきたい。</p> <p>朝食を食べずに登園する子もいて、午前中イライラしていることがある。朝食の大切さを保護者に伝えていくことが必要と思う（子どもの様子を具体的に知らせながら…）。</p>
<p>食生活も生活習慣と同様に、乳幼児期に良い習慣が身につけば、長い人生の間に心身ともに健康に生きていく基本だと思う。それと共に食事時間が規則正しいことは重要で、食事時間が規則正しいと生活リズムも整い、子どもにとっては良い環境であると考え。又、テレビをみながらでなく、食卓を囲んで、コミュニケーションを交わしていくことは、心の栄養にもなると思う。食生活は文化でもあるので、親が子へ伝えていく心と体の栄養をとるところと考える。園生活で特に朝食をとらずに登園する子は、体温も上がらず、表情にも子どもらしい意欲がみられず、ゴロゴロと横になることもみうけられる。やはり、朝食を取ることがとても重要と思う。豊かな（お金をかけるということだけでなく）食生活を通じて親子や家族のきずなも深まることと思う。</p>
<p>今年のクラスの子ども達は、好き嫌いなく、よく食べている。家庭でも頑張っている様である。</p>
<p>便利な世の中になり、お店ですぐにおかずが買えるし、ファーストフードやレストラン等の外食も増え、子ども達の食のバランスは崩れてきている。好き嫌いの差も激しく、偏りがち。親も、料理をしなかったり自分の嫌いなものは食卓に出さなかったりと、あまりバランスを考えていない家庭が増えている。</p> <p>給食の献立の中で、作りやすいメニューのレシピを教えたり、市販のできあいのものには塩分が多く含まれている等と、提示していくと良いのではないかと。保護者会や面談でも、食についての話しを積極的にしていく。</p>
<p>朝食をあまりとってこない場合がある。おちついて食べられないことがある。生活リズムを整えていくこと。</p> <p>食事時はゆったり食べる雰囲気工夫したり一緒に食べる姿をみせるなど、気にかけることが必要だと思います。</p>
<p>朝起きるが食べられない。昼食前おなかがすいてしまう。</p>
<p>私達の子育て時代は、全て手作りでということが当たり前のことであったが、外食産業も多くなり、良い物も出ているので、あまり深く考えないで気軽に色々なものをとり入れていけばよいと思う。いつだったが「窓ぎわのトットちゃん」という本の中で、海のもの、山のものという言葉が書いてあったが、食は、偏らないようにということだと思う。保護者を追いつめていかないようすることが大切。ただ、1人で食べることは、食事ではなく“エサ”と言われていたので、本当に簡単な食事でも良いから、家族で会話しながら食事することをすすめる。</p>
<p>食事をする環境、食育、朝のあわただしさ、仕事の終了時間、家族で揃って食事をする難しさ等、さげられない状況である。食育を通し、週、月単位のサイクルで豊かな食卓を囲む日を意識させていく。</p>
<p>今、担当は0歳児だが、離乳食がベビーフードを使っている家庭が多い。そのためいつまでも柔らかく、段階をふめないことがあるが、一人一人をみながら、保育園で段階をふまえてあげている。また仕事で忙しく、食事を作る時間もない中、簡単にできるメニュー、作り方なども知らせていっている。また、朝はとくに母乳ですませ、保育園でぐずる子もいるので、ハインハインせんべいと麦茶なども一人一人に合わせてあげている。</p>
<p>いろんなものをまんべんなく食べてほしいと思う。2歳児で、はじめて、バナナを食べたという話をきいたことがあるが、家庭でも、会話をしたり、いろんなものを家族と一緒に楽しんで、ゆっくりと食事を楽しんでほしいと思う。親は親、子どもは子どもだけで食事の時間を過す家庭が増えているが、できるだけ豊かな時間にしてほしい。</p>
<p>あまりかまわずに飲み込めるような食事が多いのか、かまわずに飲み込んだりと早食いになってしまっている。好きなものしか食べない。噛み切ることが出来ずに口の中に全部入れてしまい、オェツとなる姿が見られる。</p> <p>繰り返し子どもに伝えて教えていくことと家庭と連携して取り組んでいく。</p>
<p>離乳の時期が遅くなり、満2歳近くまで中期食という実態も有る。知らないのではなく、楽だから...という現状で満足する様子も有り、気になっている。取り組みに対しては、個別対応が主となる為、画一的な提案はさげたい。</p>
<p>給食になると、ものすごいスピードでかまわずに食べてしまうということ、朝食は食べているが、目ざめたばかり、口には入れているがと言う感じがあります。</p> <p>やはり食生活は家庭で、というのが必要だと思いますし、話をしていく必要があると思いますが、保育園でも、その様子を伝えたり、子どもたちにいろいろと知らせていく役割もあると思います。</p>
<p>食育とこの頃よく話題になりますが、やはり朝食の乏しさ、夕食を母子だけでもしくは、子どもひとりも、ライフスタイルから、仕方ない事も多いでしょうが、そのような中で育つ子どもは？と自分の生活を省みながらも考えてしまいます。</p> <p>やはり毎日の食事では、大変でも「休日は～だね」と、子どもも食べる事、作る事がうれしいと思える経験を家族でするという事は、大切なのではないかと思います。</p>
<p>食事時間、食事内容、食事に対する考え、食事のマナー等すべてに問題あり。</p>
<p>母子関係上から、母乳はいくつまで与えることが大切かなどはいろいろ説があると思われる。しかし問題なのは、ミルクをいつまでも飲んでいて、食事に支障をきたしているということ。給食でも量を食べられない、いろいろな食物を食べないということがある。保育園に入園してくれば、話しあいをして、少しずつでも食べられるようにしているが…。</p>
<p>子どもだけで食べている、又は、親の希望でそうしている。食事を一緒にすることは、子どもとのコミュニケーションを図ることやマナーを身につけること、何より情緒が安定すると確信しているので、ねばり強く働きかけていく必要がある。子どもの好きなものだけ食べている。親が食べさせたいもの、又、日本の食文化を伝承していくためにも旬のもの、野菜などをたくさん食べさせる努力をするべきだと思う。</p>

<p>①遠足のお弁当など、はじめは冷凍物が多いが、回を重ねると手作りも入っている。忙しいので、混合にすれば良いと思うが、ヒントなど目でみれるようにしている。</p> <p>②ファーストフードに行く子が多いので、4、5歳対象に、ポテトにはどれだけの油が使用されているのか、ジュースにはどの位の砂糖が入っているか、目の前で現物をおいたら行く回数が増えてきた。</p> <p>③朝食をとって来ない。これも「とってきて」というのではなく、どうして朝食べないといけないのか、保護者同様、子どもにも伝えるようにしている。</p>
<p>テレビを見ながら食事をしている子が多い。子どもだけで食事をさせている家庭がある。</p>
<p>栄養面のバランスがとれていない食生活をしている家庭も増えてきている。食育の大切さを知らせていくと共に、簡単かつバランスの良いメニューの紹介などもしていく。</p>
<p>箸の持ち方。咀嚼が悪い。いつもおなかがすいている、かと思うとダラダラ喰い（心の乾きなのか、食欲に走るといふ心が満たされていない）。</p>
<p>食材の名前を知らない。マナーがわからない。食に対する意欲がない、などいろいろと心配なことがあります。まず関心を持たせることがその他の全ての興味につながるかと思っています。</p>
<p>朝は手間ひまかからない食品が目立って来ました。パンと牛乳とかヨーグルトのみとか、それでも食べてくることは大いに認め、内容はともかく活力にはなります。ところが食わずに登園するお子さんもいます。お腹がすいては十分に遊びに集中できません。トラブルも目立ちます。食事を摂るということは親の義務でもあります。子どもの快適な園生活を十分に理解してもらえるよう話し、朝食はきちんと摂って登園させて欲しいとお願いしています。</p>
<p>何でも、良く食べる子どもたちですが、いらなくなるとポイ！！と捨てたり食器をなげたり、牛乳を口からふき出したりと牛乳をイヤがる子が増えました。捨てたりする行為は、くり返し、くり返し園では、保育士と家庭では保護者が教えていく必要があると思います。また、牛乳をイヤがる子どもには、工夫して飲ませる、スプーンで毎日少しずつ飲むことで、沢山ほめてあげることで楽しんで飲めるようになってくるのではないのでしょうか？また、保育園の0歳児のメニューは、ほとんど同じもの、そして材料もまったく同じです。もう少しメニューに変化があると良いと思います。ここに来て初めて牛乳を常温で飲ませて良いと言われました。現実には冷たいです。あまりの冷たさに子どもたちも驚いていると思うのですが、子ども側にとって、考えてあげることが一番大切ではないのかなと思います。</p>
<p>母親の家事、育児、仕事という負担が重くなっている。つまり男性や父親は家事と育児ができない人間が多いということ。人として生まれ、大人になり、いつかは親の面倒をみなくてはならないのだから、家事や育児がある程度できるような人間形成を小、中、高校で、教えるべきである。そうした家庭でなくては、子どもの食生活は豊かにならない。豊かとは、素材からよく吟味して手作りを感謝していただくということ。</p>
<p>担当している年齢が低いせいか離乳食等は、親にとっても負担に感じているのでは？と感じている。負担に感じない程度に進めている。</p>
<p>苦手な食材はあまり家庭で食べていない。朝食がヨーグルトのみの子が割と多い。保護者会を通じ、栄養士により朝食の大切さを話してもらったり、子どもたちに生活発表の場で朝食のメニューを聞いたりし、子どもたちにも朝食をとるように話しをしている。</p>
<p>月齢に合った食品の形態を理解していない親が多い。生活リズムの整っていない子が多い。生活のリズムが整っていないと、食事の時間がずれ、体調や体内時計が不規則である。解決にむけての対策は、まず、3食食事の摂取を目指すことだと思う。決まった時間に食事を摂取し、その時間に合わせて一日の生活や活動を考える。そのリズムを保ち、規則正しい生活を目指すことが大切であると考えてます。</p>
<p>保育園で栄養がとれるから…と思われがちな声もよく聞かれる。園だけでなく、家庭でもきちんと栄養がとれるよう“努力”してほしい。又、朝食に関しては、食べてこない子、登園途中道々食べてくる子がよくいるが、ほんの少しでも家で食べてこられるようになってほしい。お腹がすいてつらいのは、子どもですよね。</p>
<p>休日のことは分かりませんが、皆で一緒に食事が難しい家庭も多いことが（無理とは分かっていますが）、残念だと思っています。一緒に食べる人がいて、会話があると、食べたい気持ちや苦手な物もちょっと食べてみようかな？と思ったりすることもあるのではないかと思います。保育園での食事の時の友だちとの関わりや会話の中で、子どもが変ったことなどを伝え、楽しい雰囲気の中で食べることも大切なのは、と知らせていきたいと思っています。</p>
<p>「時間がない」などと言い、バギーの上で朝食を食べさせながら登園する人がいる。毎日外食、毎日コンビニ弁当の家がある。2歳になっても母乳が食事の代わりになってしまっている子がいる。全て家庭の理解がないと解決できないので、話し合い、一緒に改善方法を見つけていくことが大切だと思う。どこまでならできるのか、どんな形ならできるのか、など。</p>
<p>家族一緒に食卓を囲むことが減っている様子で、食事のマナーが身につけ難くなっているかなと思います。食育がさげばれていますが、子どもの好きな物だけを食べて食品に片寄りがあるのかも知れません。</p>
<p>偏食が多い、食に意欲がない、1歳をすぎても母乳のみなど。食べさせ方、調理の工夫など具体的に話をし、食育の大切さを話をしていく。子どもには保育の中で豆むきなど身近に食が感じられる保育カリキュラムを取り入れる。</p>
<p>食事の内容も含めて気にはなるが（単品料理が多いなど）朝食を食べないことが一番心配になる。お弁当の中味を見て冷凍のものであったり、加工品であったりが多いのが気になる。食事の態度が気になる。箸ももたずにしゃべり続ける子。まったく横を向いて食べている子。立てひざで食べている子。幼児でも手づかみで食べている子。</p>
<p>朝食は大切。子ども時代にしっかりと食べる習慣をつけていきたい。その為にも大人が朝食ぬきにしない。食事を栄養の補給だけでなく、楽しく食べる、一人で食べない、家族や友達と一緒に食べる心地良さを知らせていきたい。いろいろな食品に触れて、食べてみることは生活が豊かになることを知らせていきたい。</p>
<p>偏食が4、5歳児になってもまだある。（保育園生活が長いのに）食事のマナーを注意されることが多い。</p>

<p>コンビニ弁当、カップラーメン、朝食を食べないなど。手作りはもちろん好ましいですが、無理な時はしょうがないと思います。ただやはりカップラーメンなどは、小さいうちはあまり食べさせない方がいいと思います。</p>
<p>食へのこだわりがある方、ない方ととても差があるようです。しっかりかむこと、色々な食材をたべていくという、食育への力も入れていかなくてはいけないと思います。</p>
<p>午前中の早い時間から空腹を訴える。食事中に後ろを向く、イスに横向きに座る、テーブルの下で靴を脱ぐ、“1品食べ”をしてしまう、満腹（残したい事）を伝えられない、食器で遊んでしまう、お喋りが止まらず食事が進まない、箸をよく落とす。</p>
<p>食わず嫌いな子どもが多いので、味や食感を知ってもらうために保育士が上手に子どもを誘導して、最初の一口を食べさせる。</p>
<p>朝食をとっていない。生活時間の改善。偏食が多い。嫌いな物でも食卓に出し、1口でよいので食べる経験をさせ、食品に慣れさせてほしい。大人にも薄味がよいので味を濃くしない。夕食等の時間が、しかたがないのかもしれないが遅い。噛む食品を増やしてほしい（柔らかい物の多いように思う）。食生活について子どもだけでなく、大人の食生活を見直す良いキッカケになればよいと思う。</p>
<p>親が朝食はとらない家庭が多いので子どもも食べない。大人は職場に行っても食べれるが、子どもは保育園に来ては昼食まで食べれない。お腹がすいているから元気がない、力もでない、と言うことがほとんど。解決は子どもにだけでもちゃんと食べさせてほしいと思うが、難しいことなのでしょう。</p>
<p>どうしても家庭ではまだ小さいからと赤ちゃん扱いになりがちだと思います。柔らかい物ばかり与えたり、イヤと言ったらもう食べさせないなど、食べる物が偏りがちである。コップで飲めるようになって、子どもが1人で持ってもこぼさないで済む便利な商品がある為か、それにたよってしまう家庭が多い。コップで飲むのが下手だったり、いつまでたっても牛乳をコップで飲めなかったりする（コップだと牛乳特有の臭いがするが、そのコップはフタがあるので臭わない）。※0歳児より保育園に入っている子は園で離乳食をすすめていくのでスムーズである。1歳児から入園する子は母親が離乳食のきざみ、硬さなど細かい段階をもっと教えてもらえる場があるとよいのでは。</p>
<p>食に対しての考え方は多種多様で、各家庭で大きく違う現状にあります。年齢が低い時期は子育てに手がとられ、思うように家事がはかどらない時期です。食生活はこうあるべきとはなかなか言えません。1歳園児にも栄養士を配置し、離乳食の完了期をめざしての援助が出来る必要があります。</p>
<p>離乳食が適切に与えられず成長、発達に合わせた咀嚼力が育っていない。そのために、食べられない食品ばかりが並んで保育園では、手間、時間がかかり、家庭では「○○○嫌い」ですすめず、咀嚼力が育たない。育児休業を保障し、保健所、保育園等が新米パパ・ママを支援して、育てるべきです。</p>
<p>野菜などの好き嫌いが多く、食事に大変時間がかかる。味が濃い物、甘い物を多く摂取している。問題の解決に向けて、量を少なめにし、少しずつ味に慣れると共に、完食できたことを自信につなげられるよう声かけをする。食後にうがいをしたりお茶を飲むことで虫歯を予防する。</p>
<p>保育園に通っている子どもは、バランス良い給食で偏食は少ない方かと感じています。咀嚼力の弱い子、食べることへの意欲に欠ける子が増えています。大人の都合によるものですが、夕飯はほぼ毎日外食という家庭も見受けられます。その人の食生活を形成する大切な乳幼児期は、特に大切にしたいものです。バランス良く食べること、体を動かして空腹を感じ“食べたい”“おいしい”と感じられることを、大人が工夫していくことが大事だと思います。</p>
<p>食生活は貧困化してきている。世の中便利になりすぎている。冷凍食品、外食、コンビニなど、安全な食物なのか不安ですね、そして、調理する過程がない。子どもたちは、食育といわれているが、家庭で調理されていく、においや音、などそしてみんなで食卓を囲む、感性や満足度（感）など乏しい。人格形成に影響あり。朝ごはんを食べない。咀嚼力が出来ない。めん類が食べられない。いつまでも口のため、飲みこむことが出来ない。調理する時間も体力も無い人もいます。保育園の給食は子どもの成長のため大きな役割を果たしていると思う。</p>
<p>メニューがいつも同じようなパターンの繰り返しで偏食。固い物がかめない。前歯でかみちぎることができない。口の中に、いつまでも入れていて飲みこめない。子どもだけ先に食べさせてしまう。いつまでも乳児食にしている。早くから生物を食べさせてしまう。 →食育の大切さをもっとアピールすべき。大人の食に対する意識改善が必要。離乳食指導、食べさせ方の指導が必要。</p>
<p>食の細い子、太い子、というのは、それぞれだが、今一番思うのは、食事の時の行儀の悪さを痛感している。又、咀嚼の悪い子も多い。“食育”の大切さを含め、もっと保護者にも訴えていく必要がある。</p>
<p>固い物を、かみ切れず、口の中にためこんでしまう。家庭で、あまり、固い物や食べづらい物を食べた事がないので食べ方がわからない。家庭との連携をとって、個々の食べられる量、必要な量を、食べさせるようにする。</p>
<p>今の子ども達は、咀嚼の力がなく何でもまるのみにしてしまい“かむ”という事を忘れていた気がします。私のクラス（4歳）になりますと、箸の持ち方、食器の持ち方等、保護者が一緒に食べている時に教えてあげるのが自然かと思いますが今は“保育園でやってもらえれば”という、気持ち強く、犬吠の子も少なくありません。そして、保育園の給食で「栄養のバランスがとれているから...」とおっしゃったり、もっと家庭でやらなければいけない事もあるのではないかと思います。</p>
<p>固形のものや少し固いものが食べられない子がいる。例えば肉だとひき肉は食べるが精肉は食べられず口に入れても出してしまふ。家庭でも同様のようで、意識はあるようだが「食べてほしい」方が優先され、食べやすい調理や食材を与えてしまいがちなのかな、と感じます。親子で一緒に同じものを食べ、子どものペースに合わせて「おいしいね」「モグモグね」や「食べられたね」と声をかけながら、食事の楽しさをもっとじっくりと教えていって欲しい。</p>
<p>生活リズムにもつながる問題である、睡眠時間が十分でなければ朝、なかなか食べられない。まして時間がなければせめて子どもの好きなものでも食べてくれば、というのが親心である。それが偏食につながる。保育園ではバラエティーに富んだ食材、献立を考えた給食がある。食も文化である以上せめて、給食では、いろいろな献立、味つけに慣れて、食べることへの意欲が育ってほしい。献立のレシピを出して保護者へのアピールをしている。</p>

<p>月齢、年齢に応じた食事の進め方が必要だと思います。また食事、好き嫌いにかかわらず、多くの物を体験させ、調理法や盛り付け方、又、家族での楽しい雰囲気作りなども工夫する事が大事だと思います。</p>
<p>家庭から受ける子どもの離乳月齢が遅くなっているため、1歳児でも調理員が少ない中で食事の配慮（果物を細かく、麺を短くやわらかく）が必要になっている。食べさせる時につぶして食べさせることもある。便利な育児食器ができ、ストロー哺乳瓶からコップへの移行が遅い為、嚥下機能が発達せずゴクゴク飲めない。1歳9か月でもまだ飲めない子どももいる（以前は9か月からコップの練習をしてきた（保育園では））。子どもの個性尊重、人権擁護という社会の変化により、育児が子どもの主体性を重んじ、大人の働きかけで発達に応じてステップアップしていくものでなくなった。習得する時期を逃がすと時間がかかる。発達を知らせ、家庭でもやってもらう様に話していく。</p>
<p>朝、食べてこれないお子さんもいて、給食になるまでに空腹になっているので活動的にあそべなかったり、イライラしている様子のお子さんがある。咀嚼の弱いお子さんが多い感じがする。食事のマナー、などについて、大きくなれば自分で気づいて、できるようになる、今はとにかく、食べて欲しいのという、保護者の方にどう理解してもらうか。食事のことに限らず、社会全体でも食育が進められ、以前に比べ保護者の方の中にも食生活の大切さが意識されるようになってきていると思う。しかし、頭でわかっているにもかかわらず実際にはなかなかできない面も多い。少しずつ何か取り入れられるよう、保育園での、栄養士さんや、わかりやすい食生活の講演会などでできればと思う。</p>
<p>親の作った料理には、あまり手をつけず、カップラーメンやスナック菓子を好んで食べたり、平日に友達と外食をして帰る家庭も見られる。自分の好きな物（柔らかい物が多い）ばかりを食べるので、咀嚼力が弱く、野菜が苦手な子もいる。バランスのとれた食生活が健康な歯や体を作り出すと思うので、栄養士などの専門家から食生活の大切さについて話があるとよい。また、家族で食べることの大切さを話し合えるような機会を作っていきたい。</p>
<p>味わって食べない子、偏食の子が非常に多いです。偏食にならないように、離乳食の時から、バランスの取れた食事をすることが大切ですが、乳児になってしまったら、子どもが食べてみよう…と思う環境作りをしていく。例えば、ほんの少しでも口に出来たらたくさん褒めてあげる…などが大切だと思います。</p>
<p>朝食、夕食などで野菜が少ないと思う。遠足などでの弁当をみても、出来あいのものや冷凍ものが多い。朝食は果物のみとか、自分は食べない主義なので子どもにも同じことを行っている親がいたが、話しあったことで改善はあった。栄養士による“食育”で幼児の子たちは、栄養や食材に関心を持つようになってきた。子どもの意識で親の意識もかわりつつある。</p>
<p>前ページにも書きましたが、保護者の主義で朝食を作らなかったり、ファーストフードにしたり、お弁当屋さんの利用等、母親の手作りはやはり少なくなっている。それでも保育園に入所しているお子さんは、まだいろいろ情報が入っていたり、保護者会等で話を聞き知識も入っているように思う。「食」は生きていくみなものなので、これから増々「食育」は大事になっていく、地域の子育て支援の1つとして、保育園に入っていない児童館に来園してくるお子さんにも広げていく等考えていく必要がある。</p>
<p>野菜を食べない子が増えていると感じます。また、家では冷凍食品も多く使われていて、歯ごたえのないものが増えているのか、咀嚼力の弱い子も少し増えているように感じています。園では食については安全で安心なものをと注意を払い、そしてバランス、バラエティーに富んだ食事を作っています。量はともかく、いろいろな食材を使った料理を、家でも余裕のある時には作ってみてはいかがでしょうか。</p>
<p>苦手な物は出さない。1品食が多い。保育園の食事はたくさん手がかかっている。家では冷食、できあいの物が多く、味も違うと思う。海藻なども家庭では少ないと思う（ひじき等）。安全な食品を使って作っていることをまだまだアピールしていくことが大切。</p>
<p>食事らしい食事をとっている子が年々、減少している。0歳児でも、ジュース・クッキーですませたり、保育園で食べさせてもらえるからと安心して、努力していない家庭も増えている。協力をはかっても、変化なく、努力のかけがえない。</p>
<p>食事をきちんととらず、おかしばかりを食べる子がいる。親がそうしてしまっている。子どもの言いなり。親の食事に子どもをつき合わせている外食、ファーストフードなど。</p>
<p>問題点：炭水化物だけしか食べない子。野菜、くだものを食べない子。インスタント、外食にかたよりがちの子。 取り組み：食生活の大切さを面談、保護者会を通して伝えていく。栄養士にカロリーや、添加物のこわさなどを伝えてもらう。</p>
<p>朝食を食べない、ジャンクフードが多い。</p>
<p>離乳食の段階から、順調に進められていない。ベビーフードが多く、子どもの為に料理をしない人も増えている。わからない人もたくさんいるので、担任、栄養士、看護師と共に、アドバイスをし母子共に一緒に進めていく。</p>
<p>園では食べられない物が多いので「お家ではどうですか？」と聞くと「家ではおかわりもしてよく食べています」という答え。更に聞いていくと家では卵かけご飯、納豆、ご飯等好きな物しか出ない、嫌いで食べない物を、作って食べさせる根気が無いのを感じる。食欲が無い時はお菓子（せんべい等）で済ませる。何も食べないより良いと思っている。栄養士や担任から個別に話しをしたり、保護者会等で話しはしているが、なかなか効果は出ない。</p>
<p>きちんとした食事を食べてないことが多い。白米だけでおかずがないことが続く、おかしで食事をすませる等。手作りが少ない、苦手とって努力することをしない、外食が多く味のこいもの食べている等。 →いろいろな便利なお店（外食産業、そうざい屋など）も増え、忙しく働く保護者にはしかたのないことなのかもしれないが、子どもが育っていくうえでは、やはりきちんとした食事は必要なんだと感じる。食事作りがストレスになり子どもに気持ちが悪くなるのも問題ではあるが、努力をする親の心がけも大切だと思う。保育園の食事のアピール、試食を出す（参観の時などに）簡単メニューをくばるなどむりなく関心がむけられるようにできるとよいと思う。</p>
<p>多くの食材を使った保育園のメニューで、野菜の食べられない子ども、好き嫌いの多い子どもがいるが、“家では食べないので食べさせません”と食べさせる事を考えていない親が多い。 →保育園で食べづらい食材をどの様にすれば食べやすいか…などのパンフレットを作り渡すなどの、アドバイスが必要であると思われる。</p>

<p>好き嫌い（中には、食べず嫌い含む）、咀嚼の弱さ。先ほどの質問とかぶってしまいましたが、核家族でおじいさん、おばあさんがいない家庭も増え、昔から体に良いとされている物を、とらなくなっているように思われます。やはり栄養士の方にご協力頂き、栄養指導をしていただく機会を作っていただいたり、簡単でおいしく食べられるレシピを園便りに載せたりとの取り組み（おそらくこの園でもやっていたりっしょる事かもしれませんが）。</p>
<p>小さい頃から味の濃いものばかり食べていて、園の食事が進まない子がいる。</p>
<p>朝食をしっかり食べてこないケースもみられるが、比較的食全体は考えてなされていると思われる。保護者会時に食べやすく、つくりやすい、メニューの提案をするなど。</p>
<p>子どもがきらいと言うから食べさせない。好きだから食べるから一つの食品のみという傾向が多いです。又、食事のマナーも悪いです。 「食育」と言われていますが保育園では集団での利点を生かしながら、味に慣れていけるようにしたり、毎日のくり返しでマナーの大切さを知らせていくことだと思っています。家庭への啓蒙や栄養士の子どもへの指導も行っています。</p>
<p>ファーストフードを食べる機会が非常に増えていると思います。栄養面がとても気になります。家庭で親が気をつける事、なるべく、外出する時には、お弁当（おにぎりだけでも）を作って出るよう心掛けたら良いと思います。</p>
<p>どんな食材でも食べられるようにしています。少しずつでもいいから、食べられたら大いに誉めるを心がけています。乳児期が一番大切だと思います。食べるという行為の楽しさを伝えていければいいと思っています。</p>
<p>無理なく何でも食べてほしい。1回いやだと言ってやめるのではなく、工夫が必要であると思う。</p>
<p>親が仕事に追われ、ゆっくりと会話しながら食卓を楽しむという時間がとりにくいことが問題であり、また、作る時間もない事から子どもが日常の中で感じる“あたたかな食事のかおり”“母の食事をつくる姿”など見る機会が減っている。ただ、だされた物食べるだけの食事になっていると思う。便利な事を利用するのもいいが、“母が作る食事、おふくろの味”というものは、子どもの幼い心に残っていく大切な思い出であると思う。 親が時間を取り戻すためにも、生活リズムをととのえる事や、社会のしくみを考えていく事は大きな課題だと思う。ゆえに、せめて園生活の中の食育“ともに食卓を囲むたのしさ”を知らせていきたい、職員も同じものを一緒にたべる事もひとつの方法と考える。</p>
<p>食品の偏り、食べず嫌い、食べもののレパートリーが少ない。量、食べる時の姿勢が悪い。味覚（味のこいものを好む）。給食の中で手作りの味を知らせる。バランスよく食べる工夫。食事に興味をもつ、食欲、おなかがすいた！たべたいという気持ちを育てる。</p>
<p>女性の社会進出がすすむなか、共働き家庭が増え女性の職場での働き方も厳しくなり、家庭での調理も簡単な物、インスタント食品の利用が増えていると感じる。日本の伝統の食事減り、欧米化の食事が増えている。歯や身体の発育の為にも、特に乳幼児期の食生活の大切さを家庭にも知らせて、栄養があり、短時間で調理できる物の紹介や、食育の大切さを知らせて行く必要があると感じられる。</p>
<p>朝食食べてこない子がいる。午前中、活気がない、体温が上がらない等の状態がみられる。朝食を食べさせないことに、親が何とも思っていないことに腹立ちさを感じてしまう。話しても改善がみられず、仕方ないかとも思ったりする。</p>
<p>食べず嫌いもある。保護者に調理の仕方等を知らせ、子ども達が食べている姿を見てもらえるようにしていく。</p>
<p>離乳食を完ぺきに作ろうとするのは日々の中で大変だと思うが、食育は小さいときから学ぶ積み重ねが必要なので、売っているもの（ピンづめ）はなるべく控えた方がよいと考える。</p>
<p>食事を作ったことがないという保護者がいる。ベビーフード（びん）を毎食食べているという保護者もいました。保護者に楽しく工夫できるように、いっしょに考えていくように心がけている。</p>
<p>親が料理をしなくなって来ている。いろんな物が作らなくてもすぐ手に入ってしまうので、手軽に買いあてている。そんな食品を利用するのは、時には、忙しい毎日の中では、しかたないとは思いますが、手作りの物をあててあげることも大切にしてほしい。作る所と母の様子も見してほしいと思っている。その家の味も大切にしてほしいです。</p>
<p>朝食をとってこない。父、母が食事の準備をしない。外食が多い。</p>
<p>レトルト、外食等が主流になっている。たまには良いと思いますが、栄養面もそうですが、家庭の味等、お腹を満たすだけではない大切なものが食にはあると思います。</p>
<p>朝ご飯を食べない子、お菓子ばかりあげる、好きな物だけをあげる。外食ばかりをしている…など栄養面から見ても、疑問に思う事が結構あります。</p>
<p>献立に工夫がない。外食が多い。解決に向けて、園での給食のよさを知らせる。</p>
<p>朝食は手作り（昨夜の残りでも良いのです）が少ない。主食が菓子パン、又は食事としてヨーグルト、果物のみ（バナナ、ミカンなど）。起床後、時間がなく少量、あるいは何も食べずに登園。夕食は外食が多い…時には連日、外食という家庭があります。 理想は、健康面を考えると早く起き朝食をしっかり食べる。しかし、忙しい日々ではとても大変なこと。その中で朝食をいい意味で手を抜き、簡単かつ内容を充実する工夫、アドバイスがあれば負担が軽くなるのではないのでしょうか。これは献立の工夫ですみますが、もう一点は生活リズムで食べない、食べられないケースです。親が朝食を食べない環境では、食卓にどんな物が並ぶでしょうか。1人で食べている子ども、夕食は外でとなれば栄養面と共に心の育ちが心配です。食べる意欲は生きる力です。忙しい日々で全て頑張れというのではなく、気持ちの負担を軽くする方法を知らせる、出来ることから食事、食生活に気持ちを向けていければと思います。</p>
<p>生活リズムとも関係ありますが、食べる時間が遅かったり（父が帰宅すると、そこでもう一度、何か食べてしまう等）、朝食をきちんと食べていなかったり…という様子がうかがえます。外食が多い子もいます。“食育”はずい分世の中に広まってきていると思うので、この流れを継続できるよう保育園内の食事の工夫など、アピールしていくのが必要だと思います。</p>

離乳食の失敗、というか咀嚼がうまくいかない子どもがふえていると思います。食事はコミュニケーションの大切な時間でもあるので落ち着いた雰囲気できちんと食べる事が家庭でも、他の施設でも大事であると思います。
朝食をしっかりとってきているのか、不明。食への意欲がうすい子がいて、気になる。
偏った食生活、毎日外食、コンビニ、レトルトの子。朝食をとってこない。おかしがごはん。作るのが大変でも、せめてごはんだけは炊いて食べるなど、少しずつでも家庭で作るようにしてあげるといいのでは？ 子どもに「お母さんの手料理でスキなのは？」ときいたら「ごはん」「ウィンナー」という子もいる。食前の間食でおなか一杯になってしまい食べない子もいる。間食もおかしでなく、おにぎりや野菜スティックなど、食事に近いものにしたらいのでは。
保育園では旬の食材や季節感、バランスのとれた献立、たのしい行事食、年齢に合わせた食育等、様々な角度から、子ども達が将来に渡って、自分で食を選べる力（どんなものを食べたら安全か、健康になるかを身につける）を養っていくための取り組みをしている。大事なのは誰とどんなふうに食事をしているかということ、家庭ではいつもバランスのとれた献立というわけにはいかないが、食卓を囲むという事を大事にしてもらいたいと思っています。それぞれのご家庭で揃って食べられる食事のスタイルを意識してもらえそうな、働きかけ。乳幼児期に食習慣をきちんとつける。
家での朝食がパンのみということが多かったり、1歳5ヶ月で牛乳を哺乳びんで飲んでいるという家庭状況の中で、パンやフルーツはよく食べるが、その他のものでは苦手なものが多くなかなか食べられなかったり、牛乳をコップで飲むのが苦手な子。 →家庭で、できるだけ多くの食材に慣れていただいたり、年齢に合った食器を使っただけのような啓蒙活動をするより仕方ないかと思えます。経験を子ども達に積んでほしいと感じています。
外食が多く手作りの食事は減っているように思う。
朝食を食べて来ない子。離乳食の時期が終わっても段階が進まず咀嚼力の弱い子など気になる。子育てがはじめての親については、保育参観時など実際に対応しながら食べさせ方を伝えたりしていくことで伝わることもある。
朝食を食べてこないことや、食事の仕方（家族と一緒にでないこと）。
朝食をしっかりとらない。家族と一緒に食事する機会が少なくなっている。食事のマナーがわからない。落ちついて食べられない。親（家族）と一緒に買い物に行く機会があまりない。 →保育園生活の中で食育にとりくみ、食べることの大切さを体験として伝えていく。家族と共に食卓を囲む。和食を中心とした食生活を見直す。
特に朝食をとらなくなっている方も増えているようだが、直接話をするなどして頑張って頂くようにしている。給食ではおかわりも少しできるようになどして満足できるように、温いものは温く…などを心がけている。
食べている物、それ自体にはさほど問題は、感じていないが、朝食を食べながら登園したりする姿には、疑問を感じる。
仕事をもって子育てをしていくのは大変であるが、家庭の味で育てているのか、コンビニや惣菜の利用が多いのではと感じる。家庭の味を育てることは、次の世代にも必要なもので、休みの日などに多めに食材をつかって料理して冷凍するなど行ったらどうか。
園での食事は、しっかりと専門のスタッフが調理しており、それと同様のものを家庭に求めることは、絶対にありえません。私自身も家庭では、そこまでは出来ていないのが本当です。ですが、たとえば、残さないで何でも食べる。食べてみる、そして、家族で、会話を楽しみながらというのは、大事にしたいと思っています。
食べすぎる子への対応。
子どもらしい食事とはなにか。大人と違ってもいいと思うが、大人と同じもので濃い味になっていたり、食べる場所など、大人の社会につき合わせていないだろうか。 家庭、家族と一緒にテーブルを囲む時間は、つくられているのだろうか。
大人の食事の偏りやファーストフードなど家庭の食事がとても心配です。 保育園の給食のレシピを配ったり、栄養士による簡単な料理などお知らせしています。
好きな物ばかり食べさせている家庭や外食、コンビニ等の食を簡単に済ませているケースが多い。“食”の大切さを訴え続けることが大切ではないか。
時間がないから、早く、はやく…と子どもをせきたてて、落ち着いた食事ではないのでは。また、家族と一緒に食事を楽しむ雰囲気は薄らいでいるなど、家族団欒が少ない。
朝きちんと食べてきていない子が多い。 保護者会、面談などで、朝食食べる事の必要性などを担任栄養士が話しをしている。
食事について、味のこいものを食べる。だらだら食べる。いつでも食べられる。食事に意欲がない。
外食が多くなりがちであったり、好き嫌いが多かったり食が細かったりという点で少々気になることはあります。が、保育園に通っている子は、日々給食でいろいろな食材を口にしていることもあり、比較的心配ないのではと思われます。
軽い食事内容に向かっているように思われる。世の中が忙しくなったのと、子ども向けのメニューなどで、本来、和食としての伝統も失われてきているように思う。保育園では、理想的なメニューと自負する。
本に出てくる事ばかり、気にしている方が多いと思います（子どもが小さいほど）。好き嫌いが多かったり、固い物がかめなかったり、食事の態度が気になる子も増えてきている気がします。

家族団欒の場であった食事の時間が、今では崩れてきています。でも、崩れてきているということに気づかない世代にきてしまったのかと残念に思っています。親の世代も孤食を強いられて育っている人も少なからずいるのではないかと思います。父親不在、テレビを見ながら、そんな中で手作りの食事でも難しいとなると、生命をいただくという意味すら生まれてこないのではないのでしょうか。台所でいいにおいがする。“今日は何の料理かなー”とワクワクして食卓に着く。“美味しかったね！”“ごちそうさま！”の言葉の豊かさを是非取り戻してほしいと痛切に願っています。

### (3)【設問(9)】「友だちどうしのコミュニケーション」について感じる問題点・必要と思う取り組み

軽度発達障害や各種障害がある場合は、その子どもの発達を考えながらの対応が必要なため、大きく「友だちどうしのコミュニケーション」という考えを語る事はできない。しかし、それ以外の子どもの友だちとのかかわりの中で、友だちとの距離をうまくとれず、人の気持ちを考えられるよう（社会性の芽）が、大人が考えてる以上に遅くなっているように思われる。心の発達が全体的に幼いように感じる。子ども達の親の精神的、社会的な面では未熟なところが見られるため、今保育園に通っている子どもと親に対する底上げできるプログラムを作り対応して行く事が、現時点で最大限に出来ること、していく事と思う。

親や周りの大人が声を出しすぎ。見守る事。必要なときは手を貸すが、子ども自身の経験が少なすぎ。

何かあればすぐに大人に頼るという傾向にあるような気がします。大人を間に挟まなければ、友だち関係がスムーズにいかない子どもが多いと思います。大人社会の中で暮している事が原因ではないでしょうか。ケンカなどでも、すぐに大人が介入するのではなく、子どもたち同士のやりとり、育ちを見守る事が必要だと思います。

家庭の中で王子様、お姫様的に関わられていて、集団の中において我慢したり、譲り合ったりする事ができず、いわゆる「切れる」という感じで反射的に手や口が出てしまう子が増えてきている。言葉の暴力。昔で言う「リーダー的な子」をつくる事が難しい（自己中心的な子が多い）。集団の中での我が子の様子を保育参観などを通して見てもらい家庭での対応を改善してもらいながら、園においてひとつひとつの場面で丁寧に、よい・悪いを知らせていく。

友だちと遊べない子が増えている。

自分の思い通りにならないと暴れる、手を出すなど、言葉での（2歳児なりの）コミュニケーションが取れていない。保育士が仲介しながら関わり方を知らせていく。

子どもは周りの環境から学んで模倣していくので、悪い影響（暴力、拒否等も）を受けたら、子どもの言動にその背景の深さを感じる事があります。

相手を受け入れ、自分を受け入れることによって、どういうコミュニケーションがよりよい関係作りとなるのか、子どもや親と共に考えながら、一人ひとりの子、家庭にあった解決改善策が必要と考えています。

友だちとのケンカ、ぶつかり合いなどで、謝ることができない。自分の気持ちを抑える事（これは必要な事でもあるが）ができない（我慢が出来ない）。気持ちをうまく伝えられない。以前より少し多く見られるように思う。

少子化、核家族の中で問題化される部分だと思う。家庭の中で「保護」され、子ども同士の「摩擦」に慣れないまま、突然学校という大きな集団に入って自分を主張する事や問題が起きたとき、対応できないでいる。今、大きな社会問題になっている「いじめ」の背景には、こういった状況も関係しているのではないかと。そういった意味では、保育園や幼稚園の役割は大きく、小さい頃から協調性や人への思いやりを培っていける場になっていると思う。行政の立場で待機児をゼロにし、少しでも多くの子ども達に小さい頃から集団の場を提供してあげたい。

自己主張はするが、相手の主張は聞き入れない。言葉でのやりとりが苦手で気に入らなかつたり、思い通りにならないと手が出てしまい、遊びが続行しなくなる事がある。テレビのギャグを真似て相手のあげ足をとり、ふざける事により負かした気持ちになる。誰かを仲間はずれにしながらか特定の子と友だち関係を保とうとする。自分が認めたいなら、相手をも認めることの教育が必要。

自然に関わる事が出来ず、つい乱暴してしまう子どもがいる。乱暴することはいけないということは、その都度伝えていく。保育士も一緒になって遊ぶ中で、仲良く遊べるよう促していく。

言葉でお互いの関係を構築していく力が不足していて、カッとなりやすい。

保育園では友達同士のコミュニケーションを学んでいく場であると思うので、保育士がそれに対して適切に対応できるようにしていくことが必要だと思います。

一日一緒に過ごす友達は、どの子にとっても大切な存在。自分のことばかり考えず思いやりも考えて欲しい。クラスで問題が起きたら、どうしたらよいかと子どもと一緒に考えていく事も必要。

子どもを取り巻いている大人集団が、子どもを解ってあげ、受け入れる事で、子どもは相手を受け入れるようになる。常に叱るということではなく、全体の中で問題を投げかけて、皆で問題解決に取り組んでいく姿勢も身に付けていく。

ケンカが少ない。衝動的に相手に向かっていく子や、相手の気持ちを考えようとしないで、自己主張する子が多くなってきた。

リーダー的な子がでてきてしまう。兄弟のいる、いないでその子の立場が出来ているようだ。

コミュニケーションとはずこし違うのかもしれないが、ままごと遊びでの役割に変化あり（皆が赤ちゃんをやりたがる）。互いが動物になって安心しているように思う。

子どもの心→行動を見守り、適切な援助が出来るよう日々努力する事が大事だと思う。

乳児の場合は、直接コミュニケーションをとるわけではなく、間に大人が仲立ちとなってすることが主なので、言葉の表現がうまくできない時は、本人や相手に代わって代弁してあげたりすることが大切であると思う。又、大人や保育者がコミュニケーションをとるきっかけをつくり、共感し合ったり、共感できる場を設けることがよいと思う。

自分の気持ちを相手に伝えることが苦手な子が多い。核家族化されている中では、家庭でのコミュニケーションも薄いことも感じる。もっと、親子での会話や絵本を通した世界での関わりなど、もって欲しいことを根底に親の意識を高めたい。
すぐに手がでたりする。たたく、かむなど。子どもが何をしたいのか、気持ちをゆっくり聞いてあげる。家で早く早くと言わないで、ゆっくりとした気持ちで聞いてあげる。
ケンカしてしまう子は、意思の伝え方、相手の気持ちのくみ方が、うまくできずにいます。同じパターンにならないよう、じっくり話をきき、相手と向き合っ心とわだかまりを互にとれるよう保育士が仲介していかねばと思います。
テレビや映画の影響と感じられる言葉の使い方ややりとりが見られる（殺す、死ぬ等の言葉が出てくることもある）。1つのことに固執しすぎて他児とバランスが取れていない子がいる。
乳児クラスでは、特に感じられないが、幼児クラスになると友達との関わりの中で、仲間はずれなどが出てくるので、日々の友達関係や子どもの言葉、保護者からの話を傾け、保育士の関わりが必要である。また、相手の嫌がることについては、乳児期から知らせていく必要はある。
自分だけの言うことが中心で、友達の話の聞けない。これは、この年齢ではあたり前のようなのだが、すぐに手をだしてしまい、それをいけない事だと思っていない（だって〇〇したかったからなど）。言葉で気持ちを伝える大切さを常に知らせている。友達とのコミュニケーションの下手なのは、大人とも難しい子が多いので常々声かけをし、返事を求めている。
友達同士でケンカなどになった時に、話ができないためかすぐに手が出てしまう子がいる。嫌なことがあった時に、まず「嫌だ」ということを相手に伝えることや「たいたいたら痛いから嫌だよ」というやられた方の気持ちも同時に伝えていくことが大事だと思う。
言葉で自分の思いを伝えるのが苦手。「いけない」と言われることをわざとして、大人の気をひく。自分がされて嫌なことは、人にはししない。人の痛みがわかる人になってほしい。「愛されている」ということを感じさせることが大切。
保育園では、遊びの中や生活の中でコミュニケーションのとりかた（かして、ありがとう、ダメよ、やめて他）など1人1人に知らせていっているが、月齢が大きく、例えば3歳、4歳、5歳で入園すると、なかなかうまくコミュニケーションのとれない子がいる。もっと保護者も外に出て、自分達もとれるようにしていかなければいけないと思う。
おしゃべりがさかんになるにつれ、乱暴な言葉が多くみられる。
結果や成果を評価するという大人側の問題もある。
思うようにならないと、手が出てしまう子がいる。相手の気持ちを知らせたり、言葉で言うことを繰り返し、知らせていくしかない。
子どもたちは、0歳、1歳でも友達のおもちゃがほしい時、とったりする。その時に「〇〇のおもちゃがほしかったのネ。わかったよ。」とほしい子どもの気持ちをわかってあげながら、「でも、今は、〇〇ちゃんがつかっているから待ってようね。それまで〇〇をしてあそんでいましょう。」などを通して、「かして」「ありがとう」「ごめんなさい」を伝えることによって、友達は、「いいよ」「わかった」など、そこからもコミュニケーションがとれるきっかけになる。自分の気持ちをわかってもらえたという安心から相手の気持ちもわかるような心で育っていけるかと考えます。まずは、大人が愛すること、大切な人だと伝える保育、子育て、安定した気持ちの中で、自分と相手の気持ちが受け入れられ、好きなおもちゃを通して、子ども同士でふれあい、会話がうまれていく。その子に好きなものを見つけ深めてあげられる環境をつくってゆくことも大事と考える。保護者にも保育園のその子の様子をより具体的に話し、伝えてゆくことで、親子の話が広がり、友達にも親が声をかけることによって、友達同士のコミュニケーションが広がっていることもある。
一人で遊ぶ幼児が気になり、言葉かけや友達に誘ってもらったりするが、すぐにまた一人で遊びます。あやとり、パズルなどは他児より上手。
乳幼児期における大人との共感がうすくなっている。あらゆる資料、保育に関する本をよんだり、講演会に行く等、私達も常に学ぶ姿勢が必要であり、日々の保育を謙虚にふりかえってゆき、話し合いが必要。その上で保育者に根気よく伝えわかってもらう。
兄弟がいなかったり、家に祖父母がいなかったりと、今の時代は、特に保育園に子どもを預けている家庭では、子どもどうしのコミュニケーションという所では、保育園での役割が大きいと思います。同年齢で、時には、けんかをして学ぶ事もあるだろうし、大きい子、小さい子との関わりもできるので、沢山人と関わっていく中で、コミュニケーションも上手になるのだと思います。
コミュニケーションのとり方がうまくないなあと思う子がいる。
相手を思いやれない。思いやってもらった経験、愛されているという実感が味わえるようにしていく。
女兒にことばがきつかったり、いじわるな言い方をする子が多いので、困っています。仲間はずれにするような会話も聞かれ、その都度注意はしますが、なかなか改善されません。他児にそのように言うということは、その子自身もそのような目にあっているか、みているのだと思うので解決が難しいです。
個人、個人の主張から、集団での活動を学んでいくはずであるが、集団の中に入らずとも私の主張のみで押し通し、それを保護者も容認している様子が、見られる。集団として活動しなくてはならない以上、他のコミュニケーションを崩す行動を容認するだけでなく、指導していかねば、現在、言われている小学校の学級崩壊につながると思う。
相手の気持ちを知らうとせず、自分のことばかり主張しようとする。
まだ、2歳であることもあるが、友達の使っている玩具を、何も言わずに取ってしまったたり、急に押したり、口で言うより手がさきでしてしまう。なので、その時々「口で言うんだよ」ということを伝えるとともに、どうしてその行為が悪いのか、理由を伝えて「～だからいけないんだよ」と言うこと。

欲しい物は、力づくでとったり、手に入らなければ、ひたすら泣く子が多い。年齢的な物もあるが、欲しければとる（言葉で言えない）。自分の我を通す。
メディア等の影響が、自己中心的で気に入らないとぬけてしまったり、集団遊びより、個の遊びを好む子が目立つ。中身の笑いやふざけの遊び？があり、TVの影響か？言葉も豊かではない。自分の思いが、年齢なりの言葉で伝えにくい。親子のコミュニケーションを深める。大人ともコミュニケーションを深める。
言葉で解決しないで、すぐにカッとなったら、手がでてしまったり、相手を噛んだりする（幼稚っぽい）。相手の気持ちになって考える事が乏しい。我慢できない子が多い。
特にテレビなどメディアなどの情報がいろいろ飛び交っているため、影響も大きい。子どもは大人を見ながら育つもの。保護者の人に対する態度がそのまま子どもにも出る。
言葉が短文化されている。→相手に分かるように話しをすることを小さいうちから、繰り返し知らせる。言葉を最後まできちんと話し終わるまで応じない。「おかわり！」→「おかわりちょうだい、ください」
0歳担任なので、0歳の中でも気づきはまだないが、よそのクラスと関わる際に感じるものがある。具体的には、書けないが。
自分の気持ちがうまく相手に伝えられないでけんかになったり、泣くだけになったり、遊びが広げられなかったりする姿が見られる。大人が関わり方を見せていくことが必要。
友達との関わり方がうまくいかず、コミュニケーションがとれない。態度で出たり、相手が傷つく（イヤな気持ちになる）言葉をいう。 相手にも気持ちがあるということを伝えながら、お互いの思いが話せる環境をつくる。ケンカをした後の心のゆれを感じさせたり、どうしたらよいかという方向に導くことが必要。
兄弟も少なく、一人っ子の子どもも多い中、どう接しているのか、わからない子どもが多くみられると思う。
友達を人と思わぬところがある。通る場所に人がいると踏んでいく。注意をし、相手の痛みを知らせると「そこに居るのが悪い」と言う。「通らせて」「どいて」ではなく「ジャマ！！」という言葉をよく聞く。言葉づかいがとてもキツイものが多く、怒鳴るように話す。 根気のいることである。その都度、双方の思いを伝え、自分の痛みは、相手の痛みでもあることを知らせていく。丁寧な対応をしていくため、職員の確保は必要だ。
自分の気持ちを相手に伝えられない。一緒に遊びたいのに、関わり方がわからないなど、姿がみられる。
1歳児なのでひとりひとりの思いを受け止めることから始まる。お互い譲らなくなってきたなかで、保育士がまわりを見る目、いけないことはいけないと言え、子どもからの言葉をまわりの子どもの仲立ちとしての話ができるようにする。
自分の思いは存分に言えるが、相手のことばを聞き入れない。相手の気持ちを汲みとれない。自分の思いを伝えられないことで、逆ギレしてしまい話し合えない子。ルールのあるあそびも自分の都合で勝手にルールを変えてあそぶ。 自分の思いだけでなく、相手の話に耳を傾けるよう促したり、代弁することで、他者の気持ちに気付かせる。自分の思いをおさえる（我慢する）ことも大切である、と繰り返し話をする。どの場合も繰り返し繰り返し丁寧に分かりやすく話をしていく。
年長児になると、友だち同士で遊ぶ楽しさを感じ、1つの遊びをみんなで楽しめるようになります。その分、トラブル・ぶつかり合いも多いのですが、そのような場面になった時、自分の言い分は言えても、相手の言葉を受け入れられない子が多いです。また、とても小さなこと、些細なことにいちいち腹を立てる、気持ちに余裕のない子もいます。 トラブルの内容、子どもたちの状況を正しく把握し、子ども同士で解決できる場合と、大人が介助した方がいい場合を見極め、お互いの思い、考えなどが双方に伝わり、納得できるよう、その都度丁寧に対応していくことが必要です。
“ママ友”ができない。家庭の意識の違い、個性・感覚の差などにより、家庭で子どもをオープンに遊ばせたり、家庭の行き来が減ってきているように感じる。同年齢、異年齢また他人より得られる人間関係の約束や、家庭でのマナーなど、経験的に乏しい子が増えているように感じる。 “地域”というより、“ママ友づくり”ということをテーマにイベントなどを開いたり、公園で遊ばせる会みたいなものをつくとよいと思う。
言葉で伝えられず、つい、手が出てしまう。大人には言えても、実際に伝えたい友だちや、親にはいえない。 乳児期からの、まずは自分の主張をしっかりと出せ、うけとめてもらえる安心感、信頼感をしっかりと感じる事ができる体験が重要。
自分の主張を押し通そうとして、トラブルになってしまう子。 ほしいものがあるときは、「かして」などの言葉を使うよう知らせる。いろいろな遊びがあることを知らせ、楽しめるようにする。
自分の言葉で思いを伝えたり、自己主張ばかりでなく相手のこともわかろうとする力が不足し、思いが通らなるとすぐに手が出たり、相手を言葉で傷つけたりする姿がある。 発達段階に応じて、子どもをしっかり受けとめ、思いが伝わる体験を重ねることが大人への信頼になると考える。信頼できる大人の言うことを受け入れられるようになり、友だちとも対等に思いを伝え合い、豊かに遊べると考える。まず、大人が子どもの気持ち、思いにしっかりと向かい合うことから始める。
友だちとの関わり方がわからない。 自我の芽生える時期を担任しているので、十分気持ちを出させながら、場面場面で知らせるようにしている。
友だちとうまくコミュニケーションがとれない子がいる。自分の思いをうまく相手に言葉で伝えられなかったり、一方的に自分の思いのみを言ってしまう子など対話能力が低い。 同年齢、異年齢の子どもたちがともに生活している保育園のような施設でいろいろな活動を通して自己発揮をしたり、仲間と一緒にいろいろな気持ちを共有し共感できるような保育を提供していく必要がある。

対人関係に対して、めばえてきているだけに、ごっこあそびなどいろいろなあそびの中で、友だちと一緒にあそぶたのしさや、基本的なルールをその場に合った働きかけをしています。
あそびの中で関わりが生まれるよう保育を考える。
友だちとかかわることが苦手な子が増えていると思う。また、すぐキレる、すぐ手が先に出る、周りがみえにくいなどの子は、以前より（10年位前）とても多くなっていると思う。 解決は、個別に大人がいてねいにかかわり、まず、大人を信じることから仲間へと気持ちを広げていくこと、と思う。園で家庭で、もっと一人ひとりとじっくり関わりたい。
個々にケースをかかえている子が多く、トラブルになる姿がある。コミュニケーションのとり方を知らない。ひとつずつひもといっていくと大人の背景が見えてくる。あそび方を自ら考えて生み出す力（与えられることが多い現実）、相手を思いやる心など。現実にはケガをしないことに気を配り、経験が十分できているか問題を感じる。 専門職として、大事な経験を十分にできる場、また背景を知り、個々にあった保育を作る。
子どもだから、ワガママ、自分勝手なのは仕方のないことだが、3歳児になっても手が出たり（ぶったり、押ししたり）「かして」も言わず（常日頃指導はしているが）物を取ったりする姿や、女の子の中に多いが、嫉妬で人にきつい言葉を浴びせたり、わざと意地悪をしたり、気持ちが満たされていない子が多いと感じる。
がまんができない、思いやりの気持ちを持っていない子どもが増えている？ 物事のよし悪しを教えていき、家庭でも知らせていってほしい。メディアの影響もあるのか？
すぐにきれて手でなぐる、足でけとばす。他児に対して嫌がる言葉を言う、からかう。対1でのトラブルまたは他児同士のトラブルにすぐけんか腰になる。 子どもの様子を目を離さないように気をつけ、危険な状況にならないようにしている。トラブルには必ず原因があるので、その子の気持ち、出来事、事実を正しく把握し、子どもたちと話し合う。いけないことはいけないと話す、厳しく叱るだけではなく、その子の気持ちもくんであげる。
1歳児の発達段階ではある程度仕方がないのかもしれないけれど、かみつきの多い。同じ人数12人の子どもがいても室内の広さ（空間）や保育士の人数により、少人数に分かれてゆったりとした空間で遊ぶときのほうが、子どももゆったりと落ちついて遊べる。その点では環境の整備により改善できることもあると思う。
テレビやゲームなどひとりであそぶことが多くなり、友だちとのふれあい、関わりあいが下手になっている。ふれあいやあそびをとり入れ、相手がいると楽しいこと、相手のぬくもりを感じられる機会を持っている。
触れ合うことで、相手も自分と同じように息をして、温かいのだということを、今、しつこく知らせています。わらべうたや童謡を使って、ゆったり、じっくり歌ったり、相手に触れたりすることで、相手を強く意識するようにしています。コミュニケーションは相手の存在を認めない限り成立しないと思います。
人との関わりでAかBどちらかの付き合いで、Cの人もあるという付き合いができない人が多くなっている。保護者も「言われた」と感じるとこもりがちになる人が多く、言葉を通じたディスカッションが欠けている。人とかかわりが浅いと思える。 思い通りにならないと切れやすい子が多い。自分が注意されたりするとさけるような感じを受ける。人を知り深く付き合うことが年々少なくなっていると思える。
兄弟が少ない子が多かったり、長男長女が多いこともあり、友だちに対してどうかわかってよいのかわからないという子が多い。ちょっとしたことで自分中心になることが多い。保育士が仲立ちとなり、かかわりを持てるようにしていくことが多かった。遊びを通して相手を知り、そこからスタートさせることが多かったと思います。
0歳の様子では成長にともない、個々がお互いの遊びに興味を示したり他クラスから刺激を受けたりしながら良い関係にあります。
3、4歳なので自分中心のことが多い。本人の気持ちも聞きながら相手の動きの代弁者となり、伝え、お互いのうまい関わりに入れるようにしている。ちょっと触ったり、通りすがりに触れたことが、たいた！ぶった！という形になることもある。 友達同士うまくコミュニケーションが取れているときは見守り、何かあったときはよく話しを聞く。お互いの気持ちを尊重する。
子どもたちはいろいろなことを背負って生活しているので、疲れていたり、ゆったりする時間が少なすぎたりして、イライラして友だちとのトラブルも多い子もいる。親子ともに生活しやすく、子育てしやすい環境・社会であってほしい。
いろいろな家庭で育った子どもたちが一緒に生活しているため、また時間が長いため、トラブルが生じるのは仕方ないことだが、自分だけをアピールしすぎるところに問題があるのではないかな。
年齢にもよるが、その実年齢よりも関わり合いが幼く感じる時がある。
「ケガをさせてはいけない」というのがあり、思いのままにけんかをさせてあげられない。もっと自分たちで解決していく力をつけていかなければいけないと思う。
3、4歳になっても大人としか遊べない子どもが多いことが気になる。また「○○ちゃんがやった」「○○ちゃんがいじわるする」と自分の都合で大人に言いつけに来ることが多い。そして大人はその言われた内容にしか対応していない。状況をよく見ていれば、訴えに来る方にこそ非があることもあるが、泣いたもん勝ちみたいなことが多い。 大人が主導で遊びを引っぱるのではなく、トラブルがあったときに互いの気持ちを伝え合い、どうするかを一緒に考えられる立場で、遊びを見守っていききたいと思う。子どもはもっと直にけんかをすべきだと思う。
「おい」「おまえ」などの友だちへの言葉かけを聞いて、大切とされる気持ちや要求を伝える能力の低下を感じている。 解決としては、大人が子どもの気持ちの橋渡しが行えるよう役割を担う訓練をする。周りの大人がコミュニケーションのスキルアップを図り、子どもの手本となること。子どもと話すときはより具体的な言葉がけをするように、大人が心がけること。子どもの気持ちをくむことに、日常から周りの大人が心がけて対応すること。

<p>一人っ子が多く、兄弟間での摩擦が少ないことは確かです。故に遊びを通しての自己主張が強く、仲介が求められます。しかし保育園という集団生活の場は社会性を育む貴重な場でもあります。トラブル、ケンカを大いに経験させてあげ、互いの思いを主張しあう場をたくさん作ってあげることが必要かと思います。そのためには、一人ひとりを丁寧に見つめ、思いを汲むことが重要と考えています。</p>
<p>すぐに切れる子が多くなっている。気持ちが幼い。親の接し方もけじめのないところがある。小さい時からけじめのある接し方をするよう、働きかけていく。</p>
<p>すぐ手が出る。年齢が高くなったからおさまるものではない、と痛感。言葉は豊富。家庭内のイライラなど休み明けは引きずっており、友達の嫌がる言葉を言ったり、オニごっこなどでオニ役の子をからかうそぶりがあったり、周囲の子も同調しやすい。保育士の目に止まる前に始まり、小さなことから始まり、自分がされたときどうか等の確認をしたうえ対応している。全員が着席したときに提起して、どうしたら良いかを確認、考案など、子ども同士の中で話し合いを持つようにして、同じ視点の中で対応している。また言葉でうまく伝えられなかった子に対しての気持ちも具体的に話し、どちらの気持ちもわかるように対応。</p>
<p>自分ができること、得意なことはやるが、できないことは抜けていき、ゲームも長続きしない、やりたがらない。自己主張はするが、なかなか相手の話は聞き入れない。相手の気持ちを受け入れて、共感したり励ましたりすることがあっさりしている。自分の気持ち、相手の気持ちをきき、どうすればいいかを考える時に、いろいろな方法を出し合い、譲り合う気持ち、相手に譲ってもらったら相手に礼を言う、など話し合う。相手の気持ちを思いやる気持ちが育つようにしていく。</p>
<p>好きな遊びで共感しあったり、好きな友達が決まってくるが、遊びを通して友達関係が広がったりすることもある。嫌だったことは自分で伝えられることが何よりも大切で、この関係ができるとスムーズにいくので、様子を見守ったり仲立ちになることもある。年長になると、言葉のいじめなど出てくるので、保育士は聞き耳をたて、情報を収集する必要があり、子どもからの信号やサイン、声を聞き入れ、察知することは大切です。</p>
<p>要求をととても強く出してくる子の対応。声、主張ともに大きく強く、他児の要求が消されてしまったり…。個別の対応で、児を受けとめるために関わっているが、目や耳から新しい情報が入ると、すぐにそちらに行ってしまう。職員間の協力、連携。</p>
<p>自分勝手な子が多くなっている。友達と関わって遊ぶ機会が少ないので、保育園のような集団で生活できる場があるので、保育園に通えている子は少しは出来上がっているのかな？</p>
<p>自分の思いが先にたち、自分では伝えているつもりになっているが実際は相手に伝わっていない場面をよく見かけます。例えば、先に遊んでいる子に「いれて」とか「○○かして」と言っているけれど、名前を呼ばずにいるので相手は自分のことだとは思っていないなど。ぶつ切りの単語での言葉が多く、何を言いたいのか、特に年齢が低くなるとわからないなど。子どもたちの断片的な言葉のやりとりを補っていきながら、お互いに相手はどう思っていたかを伝えていく作業をていねいにしていく。</p>
<p>コミュニケーションから子どもたちは人との関わり、してよいこと、悪いこと、人の気持ちを理解する等、いろんなことを学んでいくので関わり方を見守るとともに、トラブルが大きくなりそうな時は仲裁に入り、お互いの気持ちに気づかせるようにしている。</p>
<p>年齢的にもまだ難しいところですが、手がすぐ出てしまったり急に友だちを叩いてしまったりする。子どもたち1人1人のその時の気持ちを大切に受けとめていきたい。</p>
<p>うまく、コミュニケーションがとれないために、手がでてしまう。相手を傷つけるような事を平気で言ってしまう。相手の気持ちを考えられるような心を育てていく。心豊かになるような経験をたくさんしていく。</p>
<p>遊びの楽しさは、友達や仲間がいてこそ、味わえるものである。楽しさの中にはトラブルも当然あるが、関わりかたがへたな子どもたちが多いことを感じる。遊びの中で「ごめん」「いいよ」といい年相相手の気持ちに気づいたり痛みがわかる体験が少ない。兄弟が少なく家庭で学べない。ごっこあそびの中で“つもり”になる体験が不十分である。</p>
<p>自己主張が強く、ゆずり合いが出来なかったり、4・5歳児でもたたいたり、かみついたりする姿が見られる。言葉によるコミュニケーションも苦手。トラブルの時に保育士の方を見て大声で泣き、助けを求める。子ども同士の解決が少ない。少人数での保育、自由あそびを保障しながら、見守り、必要に応じて援助、助言していく。基本的には子ども同士の経験から学んでほしいと思う。相手の気持ちもある事や、集団ゲームなどを通して、チームワークなども知らせていく。</p>
<p>けんかはとても大切だと思っている。しかし、ケガや顔に傷がついた時、なかなか保護者の理解が得られずにいるので、ついつい止めてしまう。そのような生活の中で、なかなか“加減する”ということが身につかない。痛い、悲しい、いやだった。こんな、あたりまえの経験が少なくなっているの、友だち関係の中においても、いやがられてもわからずしつこくしたり、つき合い方がわからない子どもがとても増えている。今後、保護者に現状を伝えながら小さい頃からの育ち合いとけんかの大切さを、知らせ、理解を求めていく必要があると思う。</p>
<p>友達同士でコミュニケーションが上手くとれるようになるには、まず対親（大人）とのコミュニケーションを十分にとることが必要であると考えられる。</p>
<p>甘えることが多い。抱っこや、肌のふれ合いを多く求めてくる。年長児になっても、ギュッと抱きしめるとうれしそうにしたり、ひざにすわらせると安心するようだ。家庭でもやってもらえるように、保護者の前でもギュッとしてみたりしている。</p>
<p>集団生活をしているのに、コミュニケーションが取れない。手を出すことが多い。言葉でなく笑ったり、手を出してコミュニケーションを取る。その都度、その都度、関わり方を知らせていく。</p>

<p>子どもたちが自然に群れてあそぶ環境が少なくなり安全面を考えても難しい状況になってきている。核家族などにより、保護者同士が誰でもOKという状況が取り入れづらくなってきている。仲間を作るとそれ以上受け入れ、入るのに大変（気を使う）ということがきかれる。</p> <p>誰でもがあそびに来れるような場を提供しながらコミュニケーションづくりを作り、その中で子ども同士のコミュニケーションづくりをしていく必要がある。子ども同士が互いに学びあえる、保護者に見守ることができるような支援をしていきたい。</p>
<p>保育園時代はあまり感じないが、中、高生になった子ども達のメールでのやりとりを見ていると、不安を感じることもある。</p>
<p>経験からいうと、私はまだ1年目で、2歳児クラスしか知らないので何とも言えませんが、2歳児は友だちとの関わりが増えてくるときで、「自分以外の同い年の相手」の気持ちを、子どもたち自身が学んでいるときです。そのため、もちろんトラブルは多くありますが、それも含めて発達の過程なので、「問題」とは感じていません。</p>
<p>思い通りにならないと、すぐにぶつたりと手がでたり、人の気もちを傷つけるいい分をする。その都度話していくしかないと思う。</p>
<p>言葉使いが悪く、友達からも敬遠される。すぐにケンカになり自分で（ケンカなど）解決しようとしないうちに、先生に言いに行く。謝ればよいという風に考えている。</p> <p>解決、言葉使いは家庭との連携が必要。また、保育士の言葉使いを改めて直す必要アリ。</p>
<p>小さい頃からの親子の関係が問題です。</p>
<p>兄弟がいない、周りに子どもがいないなど、少子化の影響もあり、友だちや他の年齢の子と関わる時に“どうしたらいいの？”という戸惑いが見られます。他のクラスと遊ぶ機会を増やしたり、トラブルを、子ども自身が体験を通して、気付き学べるように見守る事が大切だと思います。また、多くの体験をするという点では、他園や児童館との交流も良い刺激となっていると思います。</p> <p>ただ、コミュニケーションを見守る上で大切なのは、雰囲気でもあると考えています。保育者も子どももゆとりをもってすごせる、物的、人的環境を整え、子どもが気づき、安心して友達と関われるようにする事が必要ではないでしょうか。</p>
<p>コミュニケーションの取り方が下手。子ども同士のぶつかり合いの中で育っていくものがある。核家族化、保護者同士、地域とのかかわり合いが少ない中、集団保育の必要性あり、よさあり。</p>
<p>遊びたい気持ちをうまく相手に表すことができずに嫌がることをして目を向けようとしたり、1人あそびが好きで、友達とのあそびに興味を示さなかったりする。少子化で、おとなの中で育っている子が多く、経験不足を感じる。保育士が上手に気持ちを代弁したり、友達との間に入ったりしながら、うまく気持ちが通じ「楽しく遊ぶ」という経験をふやしてあげる。</p>
<p>自分の思い（意見）を言うことができにくい。</p> <p>「わかったよ」「～だね」という大人の共感が自己肯定感を育てていく。大人の共感をもっと必要である。否定も肯定もせず傾聴する大人の姿勢が意見を自由に言える子を育てる。</p>
<p>日々子ども同士のトラブルはあって当たり前でその中で子どもが相手の気持、自分の意見、主張を伝え合える基礎づくりを行っている。日々見守り、関わっている。</p>
<p>現在1歳児の担任をしていますが発達段階で1人あそびも大切なことですが、コミュニケーションと考えた時、いつまでも1人あそびでは友だち同士で同じ玩具で楽しむことができなくなります。保育園は集団生活の場であり、友だちとの関わりができる大切な場でもあります。日々の生活、あそびの中で約束、順番、貸し、借りの経験をしていきますが、子ども1人ひとりが友だち同士の関わりが多ければ多いほどこの経験を通してコミュニケーションが確立していくと思います。</p>
<p>友だちとあそびながら育ちあう所がたくさんあるので、友だちに自分の思いや考えを言葉で伝え、言えない時には保育士と一緒に伝えながら友だちどうしのコミュニケーションを取れるようになってほしいと思う。自分の思いだけでなく、相手の思いを知りながら一緒に（友だちと）にあそべる子になってほしいと思い、日々援助している。</p>
<p>友だちの行為に過剰に反応したり、受け入れられなかったりする子がみられる。</p>
<p>1歳児なので、まだ言葉でのコミュニケーションは難しい。</p>
<p>うまく自分のいたい事を伝えられない子、どうアピールしたらわからない子、お友達と仲良くしたいけど接し方が下手な子が増えていると思う。兄妹も少ないし、近所にも子どもが少ないせいだろうか…。保育園で集団生活をしていると学ぶものが多くあると思うので、その中でだんだんと身につけていくのではないかな。最初は、保育士が手を差し伸べてどうすればいいのかを教えていく必要はある。</p>
<p>年齢的にまだ自分中心ではあるが、思いが通らないうちに、大騒ぎになることがある。</p> <p>保育士や大人が関わる中で「～してもらってうれしかった」という気持ちになる場面をつくりながら相手の気持もわかるようくり返し話をしていくこと。年齢毎に違いはあるが、いいこと・いけないことは、伝えていくことが大切だということを知らせていくことが必要。</p>
<p>とれる子との差が見られる。少人数の中で今からやらせていくように園ではしているが難しい。なかには、保護者もコミュニケーションがとれないことも見られる。</p>
<p>個々を大切にということがまかり通った時代があり、自分がよければという保護者が多い。自然と子どももそのようになる。例えばおとも達が使っている玩具を、「かして」という言葉で、すぐにかしてもらえないと、取ってしまうこともあり、使っている子どもは、今、自分が使っているから、かしたくないが、取られてしまい、ケンカになる。小さい子どもは保育者が仲介し、くり返し知らせていくことで徐々に、コミュニケーションのとり方も分かってくるようになる。お互いの気持ちを、分かりあえるようにしていくことが大切。</p>

<p>自分中心になりがちである。年齢の低い時代からの大人とのいいなかわりが必要。一対一、一対多人数、一対集団での話が通じあえる、また、聞く態度を身につけることが大切だと思う。相互作用の中で自分と他人との関わりを学び、理解しあえるような環境を設定していく。</p>
<p>大人（保育士など）と関わるのは、上手？というか大人と関わりたい子が多く、同年齢と仲よく遊ぶことに長続きしない。4、5歳児でも大人を仲立ちとして遊ぶことが多い。自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えるのが上手にできないので大人が代弁していく必要がある。集団として、話しをすることと、一人一人に対して、話しを聞かせていくことの難しさを感じる。</p>
<p>子ども同士の交わりは、できてきていると思う。どうかかわっていいのかわからずにじたばたしていた子どもたちも、大人とのかかわりや、自分が友達とトラブルをおこしていく姿や、他人が友達と交わっていく姿を見ているうちに、コミュニケーションができてきているように感じる。</p>
<p>自分のそばにただいてかみついたり、つねったりする。かんだりしてはいけないことを繰り返し教えて、どうしてかんでしまうのか、子どもの気持ちをくみとれるよう家庭と連携して取組んでいく。また気持ちが落ち着くような環境での遊びができるよう取り組む。</p>
<p>言葉で伝え合う習慣を身につけるまでに時間がかかっているように感じる。又、核家族化が進み、他児との関わりが薄く、又、発展が少ない。個別対応と援助が必要であり、画一的な意見は記せない。</p>
<p>言葉で表現できる子（たくみな子）とそうでない子によって不具合が生じると思いますが、やはり小さな時から、生活を共にしていると言う意味では、なんとなく感じるという所もあるように思われます。</p>
<p>同じ年齢・クラスの中での認めあいがない。大人もそうなのでしょうが、人間関係の中でゆとりがないというか、やはり認め合う事が少ないのでしょうか？ 解決になるか？はわかりませんが、色々な人がいる、色々な考えがある事を認め、又子どもに関しては、貴方が1番愛しい、かわいく、大切だ！のような、安心感をもたせる事ではないでしょうか？</p>
<p>自己主張、あるいは一方的な主張が強い。相手を受け入れない、強く主張するというのは、自分が大人に受け入れてもらっている実感や満足度が不足していることも考えられるのでやはりまずは大人がひとりひとりの話をよく聞いたり存在をしっかりと認めていくことから始めることが必要ではないか。</p>
<p>昔とあまりかわらず、子どもはよく遊びコミュニケーションもとっていると思うが、少し感じるといえば、①すぐ手がでる、②言葉にきずつきやすいなど。 解決に向けては、校庭開放や公園などでの規制が細かすぎ、伸び伸び遊ぶ環境を大人がうばっておきながら、友だちと仲良く遊べとか、自由にのびのび…と云うが、社会全体で子どもをどう育てるか考えるべき。</p>
<p>子ども同士のコミュニケーションはよくされている。が、友だちを入れてあげない、だめ等相手が嫌がる言葉も時として使うので、その都度話したり、皆の中でも話題にして気づかせていっている。</p>
<p>自分の思い通りにならないと相手に手を出してしまう子やひとり遊びの方が居心地が良いと感じている子もいる。友だち同士のコミュニケーションについては、集団生活の中で、ぶつかり合いながら自分の気持のコントロールが出来るようになっていくと思われるので、友だち同士のかかわりを見守ったり、言葉がけをして促していくことが必要だと思う。</p>
<p>気短でコミュニケーション不足のため、どうかかわっていいか、すべを知らない。相手の気持ちよりも自分、自分本意。反面、うかがいをたててしまう。 自分に自信が持てない→自己否定は下げさだか、自己を肯定できるようにしていきたい。</p>
<p>人の話がきけない子が多い。じっくり話をきいてもらうという体験、考えやことばをやりとりするという経験を生活の中でしていないことが多いのでは？！ まず話をきいてもらう心地よさ、そして人の話をきくという体験。</p>
<p>自分の気持ちも表現する方法がよくわからないお子さんが目立ちます。好意的に関わるというよりも攻撃的に関わる、これは気性もありますが、何らかのストレスをひきずっているように見受けられます。親子のコミュニケーションを深める点、こんな方法がありますと具体的に伝えていきます。そして園にてこちよい人との関わりをより良く経験出来るよう配慮しています。</p>
<p>親もそのまた親も、物ごとの良し悪しを教えられない人が多くなった。自分さえ良ければいいという勝手な人に育てられた子ども達は、相手を思いやる心がなく、言葉づかいも乱暴で、一人遊びで満足していることが多い。「ごめんね」を強く攻めたり、「きらい」「くさい」と言ったり、対人関係に溝が生じやすい。</p>
<p>特定のお子さんですが、コミュニケーションの上手ではない子がいます。そういうお子さんの場合、多くはその保護者もコミュニケーションの取り方が上手ではないことがあります。</p>
<p>子どもたちの中にもルールや秩序があり、幼い子どもながらにコミュニケーションを学んでいると思う。 言葉が乱暴で相手を傷つける場合には保育者が中に入り相手の気持ちを知らせていったり、言っではいけない言葉を教えていく。手が先にでしてしまう場合にも、やられてしまった子の気持ちを知らせている。</p>
<p>自己中心的で、相手の気持ちを気付いてあげられない子どもが多い。すぐにかつとなったり、逆に何も気持ちを伝えられず、内にこもってしまう子もいる。</p>
<p>自分の思いが上手く伝えられずに、手が出てしまったり、遊びに上手く加われない子がいます（乳児だけではない）。日々一緒に言葉を添え（時には様子を見て）どうすれば楽しく過ごせるかを気づけるようにしながらその子の好きなこと、得意なことに他の子が興味を向けるような工夫もしていきたいと考えています。</p>
<p>1人っ子も多く、大事に育てられていると思いますが、相手を受け入れることがなかなか難しいように思います。</p>
<p>（理由を聞かずに）すぐに手が出てしまう。</p>

<p>保育の中でこんな時どうしたら良いかを話し合っていく。手が出てしまった時にいきなり注意するのではなくお互いに話を聞き子どもの気持ちを受けとめている。</p>
<p>子どもは本来子ども同士の関わりを求めて遊びたい要求があると思いますが、大人が過保護になったり、育児不安から子どもの行動や性格の悪い部分探しをしていると、良い部分をのばせず、子どもと安心して遊べない。子どもの世界に入っていけず、大人や保育士に遊び相手を求める傾向がある。 育児不安がなくなるよう子どもとの関わり方や誉めて子どもが育つ大切さを伝えていく。</p>
<p>幼児で友だちと一緒にあそぼうとしない子がいる。玩具等の共用等いやがり、自分1人で独占したい子がいる。保育士に人一倍甘えてくるが、友だちの中に入ろうとしない。 子どもたちは遊びや生活の中で学んでいくので、その中で、場面をとらえたコミュニケーションをとる方法やアドバイスを子どもに知らせていくことが必要。</p>
<p>大きくなってもことばでのコミュニケーションがとれず、すぐにたたく、ける、かみつくなどの行動も多い。また、コミュニケーションをとるのを好まず、一人にいる子もいる。大人に対する甘え方もわからず、暴力になる子もいる。まずは大人（親）としっかりコミュニケーションがとれるようになることが必要。</p>
<p>年齢が高くなっても自己中心的な子が多いと思います。友だちのことを思いやる、少しがまんをするということができない子、できない親たちの多さも感じます。</p>
<p>乱暴な言葉遣い、言い方がキツイ。すぐに手が出てしまう。</p>
<p>自分の思い通りではないと、手が先に出てしまう。言葉で自分の思いや考えを伝えることが大事だと、保育士が子どもに言い続けるしかない。</p>
<p>友達の輪に入れない。自分から入っていこうとしない（興味が無い。遊びたいが言えない）。友達を仲間に入れてあげない。友達として、一緒に遊ぶのをこばむ、好きでないなどが幼児期より出ている。入るとまとまらない（ルールなどの理解が遅い、我がままなど）。 大人も関わり一緒になりながら遊ぶ楽しさの経験をたくさんさせる（友達がいてよかった。友達がいると面白いなど）。 子ども同士で遊ぶ機会がないので少しもたせたい。</p>
<p>自分中心の傾向にあり、それは親も同じなので仕方がないのか…。</p>
<p>言葉が出ず思いを上手く伝えられず噛んでしまったりというのは1歳児の特徴であると思うが、それがあまりにも激しい子→なるべく1対1の対応をしています。 「かして」「いいよ」「まってね」など、その都度くり返し関わり方を知らせているが中々身につかない子がいます。→保育園ではもちろん、地域の子ども、親せきなどいろいろな人と関わり、社会性を身につける機会をもつことが大切。又、大人どうしのコミュニケーションのとり方を見て学ぶのではないか。大人どうしのコミュニケーションはどうなのだろうか？</p>
<p>自分の思いが強く、自己の主張は出来ても友だちの思いがなかなか受け止められずに関わりが一方的になってしまう場合があり、その場合はクラスに与える影響も少なくありません。解決にむけては様々な事が考えられますが、最終的には親同士が親しくなり、豊かなコミュニケーションがとれる様なクラス作りをしていく事でしょうか。</p>
<p>幼児期になると語気が強い子、力の強い子など友達同士の中でもリーダー格がいて、上下関係のようなものがでてくる。問題解決に向けて：一人の子どもが物事の決定を独占しないように、皆で話し合っ決めて、順番に行うこと（物の使用に関し）を声かけする。</p>
<p>幼児期になっても、人と協調することが出来ず、自我だけを押し通す姿が見られることがあります。主張を大切にしながらも、相手を尊重したり、ゆずったりする気持ちを教えていくことが大切です。“個”や“個性”は尊重していくべきですが、人はひとりで生きているのではないこと、周りへの感謝の気持ちがわかるよう、大人が手本となって小さいころからくり返し知らせていくことです。人とふれあう楽しさや喜びを感じられるように。</p>
<p>保護者とのコミュニケーションが不足している子は、友だちよりも大人との関わりを求めることが多い。又、反対に大人ばかりに囲まれて、いつも要求を通してもらっている子は、友だちとコミュニケーションをもつのが苦手なケースが多い。→保育士の正規配置を増やす。</p>
<p>「友だちどうしのコミュニケーション」は年齢によって違って来る。家庭環境の影響も大きいのでひとり一人の環境の背景をふまえ、園全体で同じ対応をし、家庭にも、必要な時は連絡を密にし、子どもに対応していかなければいけない。</p>
<p>口調の強い子が多くそれで、泣いたりする子が多いです。「相手の気持ち」を考えて…。というその時はわかるのですが、又、同じ事をしてしまう。又、「いや！」といえずにやられっぱなしの子。自分の意見をはっきり言えるように子ども達には話しています。</p>
<p>TVの影響で「ヒーロー物」の中での言葉使いや見た番組の中での言葉を使ったりして、乱暴なことばが目立つ。家庭でTV番組を選んで、見せることも必要。又、今の世の中、難しい部分もあるので、その場で、直していくしかないかと思う。</p>
<p>まだ1歳のため、友だち同士で関わることは少ないですが、物を貸してほしい時、道を通してほしい時、注意したい時などに「かみつき」で表現する子がいます。また、1人で遊んでいた友だちがそばに近づくと思われよう逃げたり、手を出したりすることも多く、落ち着いて遊ぶことができない子です。 園や家庭でゆったりとその子と1対1で遊べる空間を作ること、少ない人数で大人もそばにいる状態で友達と同じ玩具で遊んだり、笑い合える時間を作るようにしています。</p>
<p>ことばより先に手が出る子が多い。自分を正当化することばが多い。家族とのコミュニケーションが大切。家族が十分関わってあげていれば、子ども同士での会話が成立する。</p>
<p>生活の中にTVやビデオ、DVDなどからの影響から多く（時間を決めず、お子さんの要求通りに見ている家庭も多い）コトバや表現することばにあらわれている。コトバでは相手を傷つけてしまうコトバが多くなっている。</p>

<p>自分の主張や意見ばかりを強く言い、友達の見解に耳を貸さない、または、自分の思い通りに事を進めていこうとする子がいる。他者の気持ちを感じとる能力が育っていない子がいる。</p>
<p>AちゃんとBちゃんはとても仲が良いのですが、Bちゃんの関わり方、他児に対する接し方がとても下手で、叩いてみたり、わざと嫌がるようなことを言ったりしています。Aちゃんは言われた事やされた事に対して、すぐにショックを受けて泣いてしまうので、Bちゃんに対しては、常に関わり方の手段や方法を教えるようにしています。</p>
<p>一緒に遊んでいる時、おもちゃの取り合いでケンカになる。互いに譲り合いとか相手の気持ちを考える、というゆとりはないという子が多い。ゲームなどの時も“一番”になりたがり、まわりの友だちを排除しようとする子もいる。TVのお笑い芸人のようなことを友だちにやる。やられた方は、ジョークとは受けとれずにトラブルになる。保護者に状況を伝え、なぜトラブルになっているかも保護者と一緒に考える、子どもにはその都度、相手の気持ちや状況を察する力をつけさせていくようにする。</p>
<p>自分の思いが言葉によってコミュニケーションのとれない時期は嘔んだり、押ししたり、ひっかいたりといった行動になったりもしますが、年齢が進むにつれ話し合ったり、思いやったりといったことが出来てきます。その年齢なりのやり方で「嘔まれた」ことだけを問題視してくる保護者がいらっしゃるが「これは成長していく時にみんな通る道、お互い様」というところがなかなか理解していただけない方もいらっしゃいます。やはりくり返しお話ししていくことだと思う。</p>
<p>年齢が低ければ嘔むという行為がすぐ出てしまうのですが、大きくなって嘔んでしまったり、すぐ手がでてしまうことが少し多くなっているように思います。大人がゆったり接して子どもたちの気持ちを十分に汲みとったり、よりそったりできない。それは家でも園でも同じだと思います。気持ちを受けとめる、認めてもらうことで、自分の気持ちも上手に表現できるようになっていくのではないのでしょうか？</p>
<p>年長になると、友達同士のコミュニケーションの様々な、様子がみられます。一番の目標は友達と一緒に1つの目標に向かって、一人ひとりが主人公であることを感じさせながら達成させる喜びを味わうことです。私達はこれを目指します。一人だけが、勝手では成り立たない、みんなの意見が浸透し、広がり、まとめる、こんな難しいことが、なんなく、年長の終り頃には出来てしまい、その頃には、一人ひとり友達に対する思いが出て来て、別れを惜しむようになりながらも、次の世界に希望をもって目を向けている。こんな風景がみられます。子どもの立場に立ち、起きたことをみんなで話しあうことを進めてきた指導がそれなのだと思う。ただ課題のみをさせている幼稚園では経験できないのではと思う。生活を共にしてきた保育園ならではの取り組みではないだろうか。</p>
<p>親が友達化している。親が親になりきれず、子どもによい悪い等のけじめをつけきれない。保育士が間に入りながら毎日、根気強く1つ1つ言い聞かせていく。真剣に向いあう。</p>
<p>今は0歳児クラスなのであまり感じませんが、幼児クラスに行くと、コミュニケーション不足を感じます。自分の思いを言葉でなく、たたいたり、ぶったりして伝える 一子どもたちの思いを近くにいる大人がちゃんとわかっている、みている、あげてあげる。コミュニケーションのとり方を、近くにいる大人が見本をみせてあげる。ちゃんと伝えていく。</p>
<p>幼児クラスで特に気になる所。自分の主張が強く、友達の存在すら認めない子が増えている。相手の子の気持ちを伝えようとしても、聞く姿勢にならず、自分のことばかり主張する。家庭、保育園において、安定した人間関係が成立していけないと思う。心の安定がなされていけないので、人の話を聞けなかったり、相手の気持ちになって考えられない気持ちのすさんだ子が増えている。</p>
<p>子どもどうしの間に大人が介入しなければ遊びに入っていけなかったり、思い通りにならないと、年長児でも友だちに手を出したりする事もある。</p>
<p>問題点：コミュニケーションがとれずつい手が出てしまう子。自分の気持ちをおさえられず自我を通してしまう子。 取り組み：相手の気持ちを知ることが大事。されて嫌なこと、いいことを自分なりに理解できるように伝えていく。</p>
<p>子どもたち自身は、「コミュニケーションの練習中」の年齢なので、上手にコミュニケーションがとれないのがあたりまえの事だが、練習中であることで「あって当然のトラブル」を保護者がどうとらえるか、が今の保育園の課題と思われる。実情と、それが意味することを保護者にいかに伝えるかが大切と考える。</p>
<p>言いたいことが上手に言葉にできない（年齢が小さいので）。</p>
<p>大人とのかかわりを求める子が多い。集団生活の中で、子ども同士を認め合い、コミュニケーションをとれるよう仲立ちをしていく。</p>
<p>年齢的なこともあるが、言葉がたりないのを感じる。自分の思いこみで勝手に怒り手を出す等…。保護者も言葉が足りない人が多くなっているのも無理もないが、子どもには具体的に言い方を知らせるようにしている。</p>
<p>子どもたちの気持ちが落ちついて、安定している時はコミュニケーションが良くとれるが、親の気持ちが子どもに向いていないと、子どもが落ちつかないので、トラブルが起きやすくなる、保育士はその様な子どもの心を受け止め、気持ちの安定につとめる必要があり親ともコミュニケーションをたくさん取り、親の気持ちを受け止めてあげ、子どもに共に心を向ける様つとめる必要がある。</p>
<p>言葉が未発達で自分の思いをうまく伝えられず、すぐ手がでたり、つきとばしたり。園にあるおもちゃは、すべて自分のものだとひとりじめ。とられると大泣き（一人っ子の家庭）。そばにあるものは、だまってとって遊ぶため、トラブルに。まだ、伝達能力がとぼしいので1人1人の子どもの気持ちを理解してあげつつ、その状況に応じた、言葉を保育士がそばで「〇〇って聞いてみて」「〇〇なんだよね」と教えてあげながら、スムーズに遊びが展開できるように仲介役になってあげる。ひっかいたり、つきとばしたりの行為については「痛いんだよ」ということは、きちんと伝え、手を出さないで、口で言うことの大切さを、その都度知らせていく。</p>
<p>保育士や一人遊びを好み、友だちとはトラブルばかりになってしまう子がいる。</p>
<p>まだ、この年齢は、十分なコミュニケーションが子ども同士ではできないので、大人のフォローが必要なので、気をつけて、きめ細かい対応につとめています。しかし、家でのメディア漬けの影響か、自分の世界に入りこんでしまうお子さんも居り、心配しています。</p>

一人っ子が多く、大人とのコミュニケーション中心で育ってきた子は、自分は強いが言葉で上手く気持ち、感情を伝えることができず大きな声を出したり、ぶったり、たたいたりする姿が多いです。保育園という集団だけでなく、家庭でより多くの人、子どもたちとコミュニケーションをとれる環境を整えていけたらと思っています。
我慢の足りない子ども、自分本位に行動してしまう子が増えているように思います。集団で生活をする場で問題が起こった時、その時その時でまわりにいる大人が相手に対する思いやりや譲る気持ちを教えてあげたいと思います。
相手に対しての優しさ、思いやりが欠けてきているのではないかと疑問に思う事があります。人格形成の大事な時、年齢が低くても知らせていくようにしています。言い続けていく、知らせ続けていく、その繰り返ししかないように思います。
自己中心的という言葉だけが大きくなり、細かくわからせていないと思う。そういう時期もあるけれども話していけばわかると思う。
言葉を知らない。関わり方が一方的であったり、自分の感情をコントロールできない子が目立つ。“相手”という事の認識力が低下しているようにも思われる。自己の中にもう1人の自己が生み出されていても、その自己コントロールができない子が目立つ。乳児期（とくに2・3歳）の保育はとても重要だと感じる。この年齢を手あつくしていく事で人格形成の基礎を十分にし、幼児期に入っていく事が、今できる手だてとを感じる。
自己中心、相手のことがわからない、わかろうとしない（ルールのある遊び、好きなことを十分できる環境作り、少数での異年齢との交流）。小さい子や大きい子の接し方がわからない。自己主張できない。友だちにつられる。思っても言えない、表現できない。
少子化が進み、家庭での兄弟数が減っている中、子ども同士の関りが薄れ、子ども対大人の関りが、多くなっており、子ども同士でけんかすることも減り、距離のとり方もわかりにくくなっている子どもたちなので、あそびを通して、コミュニケーションをとったりする場、機会を子育て支援として、園の施設を一般の方へ提供したり、あそび方を知らせていけると良いと感じる。
ケンカしたりしながらも子どもは友達との関わりを学んでいくのだと思う。そこで保育者や保護者がうまく関わっていけばうまくいくのだが…。親同士、仲良くなっていないとトラブルのもととなり易い。
どう関わってよいのかわからずたいたりかんだりする姿が見られる。一緒に遊びながら友だちがいる楽しさを少しずつ知らせていきたい。
人との関わりが下手な子どもが多い。子ども同士で会話や言葉でコミュニケーションをとるのが下手な子どもが多い。言葉が出る頃に言葉でコミュニケーションを取る楽しさや、たくさん言葉で話しかけ発語を促してあげることでコミュニケーションを取り、人と関わる楽しさを知らせたい。
コミュニケーションがとれるよう、相手の話を良く聞けるよう育てほしい。
自分の気持ちを素直にだせず、すきな子とあそべずにいる etc…。
協調性や、がまんする心が欠けてきている。相手の思いも考えられるように、大人が代弁したりしながら、思いやる心を育てていきたい。
言葉でうまく伝えられない。解決に向けて、年齢的なものもあるが、会話を多くしていく。
子どもたちの成長過程で大きく発達する言葉。そこから生まれる喜び、楽しさ、嬉しさ、悲しさ、つらさ、感じる心。それにはコミュニケーションが欠かせませんが、その子の個性として静かな子がいます。しかし、別の意味でコミュニケーションのとり方がまだわからなかったり、あまり上手でない子、自分のことが中心でうまく思いが伝わらないという姿が見られます。小さい時から大人の話しかけと共に、話に耳を傾けることが大事です。話を聞いてくれることは自分を受け入れ、認めてくれること。それが心の安定につながります。又、友達とは人として当然トラブルにもつながりますが、このやりとりで得るものもあります。子どもたちへの仲立ちは時に必要でしょう。
幼い、言葉よりも手が出る。友だちに依存していけないと不安がる。 トラブル解決などやむやみにせず、家庭でもきちんと子どもの気持ちを（見つつ）知らせてあげるとよいのでは？自分に自信が持てるよう、ほめる。自分の言動には責任が持てるようにしていく（親が干渉しすぎない）。
教育問題で「いじめ」から自殺する子どもについて毎日、ニュースになっている昨今、コミュニケーション能力について特に見直していくことが必要になっている。自分と違う他者との関係の中で親密性を形成したり、共有できることを見つかけたり、折り合いをつけたり、ぶつかり合ったりしながら自己抑制の力をつけていくためにはコミュニケーションが大事。集団生活の中で子ども自身が、体験の中から結論を出せるような保育士の関わりが必要（保育士は見直しをもって）。
実年齢よりもコミュニケーション力が稚いと感じる。言葉でコミュニケーションするよりも手が出てしまう傾向が強くなっているように感じる。
友だちに限らず、わざと嫌なことをしてみる姿がある。
自分の要求だけを通そうとして相手とぶつかる。 →相手（人）の気持ちに気づかせていく（大人が仲立ちしていく）。
感じているから、大人のかかわり方に気をつけて安心できるような環境や働きかけをしている。
2歳児なりの我慢や待つなどができず、トラブルになったり、わざとかんだり、つねったりしておもしろがるなど。
子どもの成長の中に大人の影響を強く感じる。家庭の違いから、子どもの性格、様子も違うため、関わり方にも大きな違いがあり、影響しあっていると思う。それが、良くも悪くもあるのだが、大人が介入することが良いコミュニケーションになるといいと考えている。
自己主張が強くなり、がまんすることが出来ない。泣いたり、ひっくり返ったりして思いを通してしまふ。親も泣かれると困るのか、泣かれると言うことを聞くことが多い。

第一に相手の話を聞く事ができない。第二に自分の事はいくらでも話したい、主張したい子ども達が多いので、保育園時代にさまざまな関わり、経験をする事が大事。
自分のことばかり考えてしまい、友達を傷つけ、トラブルになってしまう。見守りつつも「それは違うよね」などと確認していく。
一人っ子が多くなっている所では、人とのコミュニケーションのとり方が難しい。保育園では、縦割りをしたり、異年齢児との遊び、散歩などを通して取り組んでいる。
自分の思いをうまくことばに出来る子と出来ない子の差が大きい。すぐに手が出てしまう等で、トラブルになってしまう。自分の主張力も大切だが、人のことを理解する力も大切だと思う。そして、一番今なくなってきたと感じる事は、周りで見ている子たちが当事者に対して良いアドバイスを出せなくなってきた。関わりたくないから知らないふりをしたり、ひどい目にあいたくないから関わらないとか、口を出せば出したで集団化して個人攻撃してしまったり、うまくいかない。
個人個人の性格をよく考えて、よく観察していることが大切である。
兄弟が少なかったり、普段、家の人ぐらいいしか関わりがない子と接することがあるのですが、その度に、いかに縦割り保育や同年代の子との関わりが大切か、身にしみます（けんかなどは、年齢により大切な頃もあると思いますが）。園に来ている時は、なるべくいろいろな友達と接する時間を持ちたいと思っています。
人との関係が一番に行われるのは母親であり、家族であるのですが、子どもとじっくり関わっていないな一と感じます。テレビやビデオなどにたよってしまうことが多いせいか、言葉は巧みでも、相手の動きやことばを通してのコミュニケーション能力に欠けてしまう。一番はお互いにピストンできる人と人とのやりとりが大切なこと。そんな中から自分が思いどおりにはいかないことを学び、危険なことややってはいけないこと等のルールも教えていくことが大切であること。

#### (4)【設問(11)】「先生とのコミュニケーション」について感じる問題点・必要と思う取り組み

毎日子ども達と接していると、お互いに「たぶん相手の考えは～だろう」等の予測がつくが、やはり、なるべく自分の言葉で自分の気持ちを表現する事で、自分の意識に自分の考えを同化できるようなトレーニングを生活の中でじっくりと保育士としていく事がコミュニケーション能力のアップにつながると思う。それには、多くの時間と保育士にも能力、知識が必要で、子ども達との信頼関係を作り上げ、話をしやすい、聞いてもらえるという雰囲気を作る事。
子どもを見る目があれば、わずかな表情、行動、言動で何かをキャッチできる。
大人をなめている子どもがいます。「大人が子どもを怒ると虐待だよ」と、しら一つとした顔で話している子どもがいました。根底では先生の事を信頼できないという気持ちのあらわれかもしれません。
集団で話を聞けない。目を合わせない。言い訳など次々に言って回避しようとする。親に甘えられず、保育士にいつも抱っこやおんぶを求め甘えてくる。日頃送迎時などで親子でのコミュニケーションの様子を観察し問題点を探り、それを保護者にも伝えながら、園では全体の中でと個別にと両面から話を聞くという事を知らせていく。甘えを受け入れ気持ちの安定を図る。
各々の子どもの親の考え方や子育てに対する姿勢があり、自分の保育経験を活かした対応が出来ない時がある。親を変えていくのは難しく、無理があるが、できる範囲で努力している。
人として対等であるように心がけています。子どもが、大人にも誰にも自分の気持ちや思いをストレートに表現できるような関係、配慮。表現できない時には、言葉、しぐさ、表情、行動からくみ取って、察して、あれこれ聞いて言葉に変えたりしながらコミュニケーションをはかり、通じあえたときの喜びや満足感を大切に、そこから関係作りをしていくようにと考えると、保育をしています。が、個人差があり、子どもとの関係が管理的だったり、所有物のような大人に子どもの気持ち、思いを気付かせていく事は難しいと感じています。
1歳児クラス。自分に目を向けようと、近くにいる子にわざとかみつくだ手出しをする。じっくりその子の「自分を見て欲しい」という気持ちを受け止め、安定して過ごせるよう、少人数で過ごすようにする。トラブルになる前に回避するように大人が気をつける。同時に過度に叱ったり過度に甘やかしたりしないよう、極端な対応にならないように気をつけ、その都度いけないうことをした時は知らせていく。
少しはある事だし、それで当然とも思えるが、保育士によって極端に感情のぶつけ方、表現が変わってしまう子どもの姿が見られる（保育士のほうが振り回されてしまう）。保育士自身の意識の持ち方、考え方など、クラスの中、園の中などで話し合っていき、他の保育士の接し方などにも目を向けていく。
子どもにとって保育士が安心して生活出来る「人的環境」になっているかどうか、まずは子どもに信頼される保育士（大人）になることが自分を含めての問題だと思う。そうなる事によってコミュニケーションはいつでもどんな状態でもとれるような気がします。
自分が出せない子に対しては、意図的に関わり、ラポールを持ち、よい関係を持てるよう努力している。子ども自身のパーソナリティを理解し、個々の姿に目を向け、ありのままの子どもを認めることで、コミュニケーションは成立すると思える。
友達、保育士、自分より年上の子等の区別がなく、保育士に友達と同じ接し方をする。
話をする時、目が合わない。言葉遣い。
子どもの言いたいこと、思ってることなどくみ取り、コミュニケーションをとっていく。口に出して言えず、思いが通じない事がある。耳を傾けて行く事が大切。

自分をうまく表現できず、保育士の言葉を真似てみたり、反抗してみたり、自分を受け入れて欲しいだけに特別な行動をとり、注意される事も多くある。集団の中でその子の全てを受け入れられないこともある。今何をする時なのか、どうしなければいけないのか、約束をしていくことも必要。しかし他のところではしっかり受け入れフォローしていくことも必要。
ベタッとくっついてる子がいる。年長児になっても、保育士に頼っている子が多い。自分たちだけで解決できない。
保育士の中には保護者の好き嫌いが子どもに接する態度に出ている人もいる。
問題のない子（見落とされてしまう子）への関わりの大切さは、わかるが実行出来ているか？と言われれば、欠けている日もあると思う。
その子自身の事、友だち関係、家庭環境を理解した上で、受け止めるところが出発点であると思うので、あるがままの姿を受け入れ、その子にとって何が必要かを選択し、対応することが大切であると思う。
とても個人差の多いところではある。最近は、保護者対応にも時間がとられ、もう少しゆったりとした子どもとの関わりをもってあげたいと思う。
何かしてほしいことがあっても言わない。目で訴えてくる。「何かしてほしいことがあるの。なあに？」とやさしく聞いている。2つのことをいって、どちらか選ぶようにはじめはしていく。「〇〇がいいの。△△がいいの。どっちにするの？」など。
うまくいかない場合、1人1人おちいってしまうパターンがあります。いつも同じ対応ではなく、いろいろな対応をこころみ、よりよく対応を導き出せればと思っております。
何か他児にされると言いつけに来る反面、自分でまずいと思うとかくそうとすることが多い。
担任保育士も子どもも一人ひとりの個性ある人間のため、性格が合わない場合もあるため、複数の目で見えて関わっていくことが大切だと思うので、幼児クラスにこそ複数担任がベストだと思う。
1歳児クラスとしては、感じていない。
なんでも保育士に話してくる、甘えてくる子は、やはり家庭でも同じように接している。多少の性格はあるが、声をかけられるのを待っている子が多い。
「先生！！」と言って周りに集まってくる子はいつも変わらないメンバーで、かかわりを自ら持てない子どももいる。こちらの方から子ども達に話しかけ、多くの子とかかわりが持てるように心掛けている。
常に1対1の関係が保てるわけではないので、要求を十分にきいてあげられないこともある。人の手は、多すぎることはない。
0歳児には、問題ないが、以前より、4、5歳で自分の思うようにならないと保育士にもけったり、たたいたり物をなげつける子がいる。家では、良い子（がまんして）だが、園では、乱暴になる子がいる。家庭でのしつけが大事なのでは。
しっかりかかわり、信じて見守る。
おしゃべり上手な子どもが必ずしも話さなければならない事を話せるとはかぎらない。聞かれたことが、話せなかったりもするので、いろいろな面で、自信をつけてゆくことが、とても大切だと考える。自信がもてるようになると、積極的に話しをすることもある。少しのことを保育士が具体的に話せるよう、どこで、だれと、何をしたの？どうだった？とか、聞いてあげることで話すことの順序が見えてくることもある。
年長だからなのか、甘えてきたり、先生を誘う子は余りいない。
人との関わりの中では、自分の思いを上手に伝えられなくて反抗的な態度に出たり、わざと悪い言葉を使って注意をひこうという子もいます。その子がどうしてそんな態度をとるのか？家庭環境やその子の育ちをみて、どう関わっていったらよいか、勉強していく事も大事だし、職員間での話し合いも大切になっていると思う。
特に幼児で感じる。本来ならコミュニケーションが言葉を通じてとれるようになり、楽しくなる年齢であるが、子どもによって、とるのが難しい子がいる。
素直に甘えられず、いきなり叩いてきたり「バカ、シネ」「ブッコロス」などと暴言を吐く女児がいます（友達にはひっかくことがある）。現在、その子のよい所をなるべくほめていく。家庭の様子をきくなどして、解決の方向へ向けて考えながら保育している所です。
大人を大人と思わず、自己の主張のみの姿をぶつける事は、よくない傾向であると思う。社会的に子どもを過保護にしすぎているのではないかと思う。ある程度の規律と対応を集団生活をする上で、指導していく必要があると思う。
2歳児という年齢もあるが、こちらが真心込めて接していても、子どもはそれに対して何にも感じていないのではないかと思うこともある。
時間的、人的な余裕が足りず、ひとりひとりへの手厚い関わりが持てず、もどかしい。→とにかく、一生懸命関わってキモチを大切に作る。
会話ができず、乱暴することで自分の思いを通そうとする。遊びを豊かにする。1人の子どもの受け持つ人数を少なくする。4、5歳、1対30は無理。3歳、1対20も無理。
スキンシップを求めてくる子が多い。できるだけ、おんぶや抱きしめなどを行っている。家庭でもスキンシップを多くしてほしい。
大人を大人と思っていない子が増えている。
個別対応の必要な子に、なかなか手をかけてあげられない。→職員配置の見直しと充実。

<p>乳児に関しても幼児に関しても、親が忙しくて、親と関わる時間が少ない子は、保育園でその甘えを補かんをしていると思う。そういった子は年々、増えていると思う。しかし、年齢が上がれば職員（担任）の数が少なくなるので、十分に受けとめ切れないことがある。</p>
<p>遊びの中では、積極的に話しかけてくれる子とは、自然と一緒に遊んでいます。中には、消極的な子もいるので、その子たちには、自分から「おはよう」と話しかけるようにしているのですが、特に遊びの中では、対等に楽しんで遊べる事は、できるのですが、私自身もまだ、8ヶ月という所もあり…。しかし、いけない事は「ダメだよ!」と注意しなければいけないので、注意するのですが、中には、私に怒られても平気!と思っている子もいるので、コミュニケーション（信頼関係）が、まだ、しっかりと出来ていないのを最近感じています。子どもたちとコミュニケーションを取っていかねばいけないと思っています。</p>
<p>保育士側より、日々の生活に流されてゆったり、1人1人と関わる時間がもてないのが現状。対1を心がけているが、クラス以外の子とは、なかなか接して話すことが難しい。何気ない挨拶、当番時の声かけを意識してやっている。</p>
<p>先生と子どもという立場では、子どもはあまり見ていない様に思う。親も先生も友達みたいな感覚でとらえており、親しくする事は、コミュニケーションをとる上で、必要であるが、やはりそれぞれの立場を考えて接してもらいたいと思う。</p>
<p>幼児クラスになっても「ダッコ」「おんぶ」「膝に座る」など、ふれ合いを求め、友達と争う。おしゃべり、話しを楽しむより、大人との対一の関係でないと満足しない。親を気づかう子どもが増えてきているように思う。乳児保育がとても重要だと考える。</p>
<p>スキンシップを嫌がり、甘えることを知らない乳児がいる。甘えることの心地よさを知らせながらコミュニケーションをとれるようにしていきたい。</p>
<p>子どもが保育士から注意を受けたりした時について、一これは、保育士自身が、どのような保育、子どもとの関わりを志しているかの問題ですが、「〇〇先生の言うことは聞けけれど、〇〇先生の言うことは聞かない」といった姿が子どもに見られることがあります。“怒られるから言うことを聞く、やらない”ではなく、なぜ注意されたのか、いけないことなのか、がわかるよう、常に対応していきたいと思えます。</p>
<p>先生によって、だし方や、甘え方、極端にいうと態度を変えている。 保育士どうして、子どもへ対する日頃の保育を確認しあうとともに、若い保育士が、ベテランの保育士にも保育についての疑問をぶつけられる場面などをもてるのが望ましい。</p>
<p>大勢の子ども保育の中で、時には子どもの気持ちに添えずに要求したり、ゆっくり話を聞くことができないときもある。子どもが何を伝えたいのかしっかり聞こうという意識を常に持つようにする。</p>
<p>親子の関係が不安定な中で育ってきた子どもは、保育士との関係も結びにくい場合が多い。保護者もとりこんで共にコミュニケーションが図れるようにしていく必要がある。</p>
<p>大人とのコミュニケーションが安定していれば、子どもたちは心身ともにゆたかです。個人に合わせ、個々を大切にしながら日々の保育に心がけています。</p>
<p>1対1でじっくり関わり、子どもが今何を求めているか、見極めていく。</p>
<p>低年齢ではあまり感じないが、幼児組になってからも必要以上に大人から離れられなかったりする姿が気になる。また大人目の見えない、話が聞けないなどの姿の子が何とも気になる。 基本は大人との信頼関係から…。保育士もいろいろな子に対しての、受容を基本としたかわりの中から少しずつ大人から仲間への広がり深めていける「保育技術」をつけたい。</p>
<p>日々その子自身の生の声を受けとっているのか？コミュニケーションは充分なのか？様々なケースに対し、自分の経験だけでは見通せない面は、ベテランの先生と相談しながら問題解決に向けて話し合っている。 今後も専門職としての力をつけていきたい。また、ベテランとなれるように自分も努めたい。</p>
<p>同じことを何度注意されてもやめない。指示しても理解できる子とできない子の差が激しい。</p>
<p>話がきけない、落ち着かない。 短い時間からでも話をきけるように。自分の話（体験したことなど）も聞いてもらえる喜びを感じてもらえるよう、話をする場を設けていく。</p>
<p>家庭で甘えられない分、保育士に甘え、わがままを言う。ストレスを発散するかのようになり、やりたい放題をすることがある。人見知りが激しかったり、逆に極端に遠慮のない子がいたりする。 園での様子をできるだけ伝え、保育士の配慮も伝える。</p>
<p>年齢により関わり方は変わっていくと思うが、基本的な部分では、保育士と子どもとの信頼関係をどのように作っていくか、が大切だと思う。そのためには、保育士の専門性を高めることも必要だし、また、親子関係、保護者対保育士の関係なども関係していると思う。</p>
<p>自分のことをみてほしい、ふりむいてほしい、甘えたい…という気持ちがあふれている。</p>
<p>自分の思いを伝えることが上手でないとと思われる。保育士には遠慮なく自分の思いを出して接していると思える。年齢が高くなるに従って言葉遣いにも気をつけて接することが以前の子どもたちはできていたと思える。今は友だちづきあいである。時により言葉遣いについても話している。</p>
<p>入園当初、抱かれる心地よさがわからない、おんぶに慣れておらず抵抗を示す子どもたちも見られました。</p>
<p>甘えたい子にはスキンシップをとりながら様子を見る。体を使っての遊びを求めている。</p>
<p>0歳児担当なので、幼児クラスの子どもとは当番時だけのコミュニケーションとなるが、いけないことを注意したとき、目を合わせなかったり、ふざけたりする子どもがいる。自分から積極的にその子と向かい合っていかなければいけない。</p>

<p>家族との関係による心的な試し行動が先生にも向けられていると思う。 子どもの気持ちを受け止めるときを多くすることが大切だと思う。</p>
<p>逆に、職員と「子どもたちとのコミュニケーションについて」の目線で、職員はヒーローごっこを否定しすぎだと思う。たぶん成人女性の立場から見れば、興味の持てない理解できない世界なのかもしれないが、「危ない」「その世界にひたりすぎる」などと非難する前に、そのヒーローごっこへの興味をどう広げ、どんな世界につなげていけるかを考えるべきだと思う。おままごとではなく、ヒーローごっこを否定するのはなぜなんだろう。</p>
<p>保育士の肌に触れることで安心する姿、抱っこ、おんぶ、胸を触る、手を握るなどが多くみられる。 友だちと遊ぶことよりも、保育士を独占することで満足できる子どももいるが、大きな問題とは考えていない。</p>
<p>「これどうするの」「ねえねえ」など一方的なコミュニケーションを求められる傾向が強くなったと感じている。 言語の未発達な部分があり、自分の気持ちを適切に表現できないため、このような現象がおきるのだと思う。 コミュニケーションとは、言葉や気持ちのキャッチボールであることを、その都度具体的に気持ちをくんで話していき、コミュニケーション能力を高めていくよう促していきたい。 日頃から子どもたちの言葉にならない声を能動的に聞き、言語化していくための実践を繰り返していき、身につけていけるよう関わりを深めていきたい。</p>
<p>保育園で過ごす時間が長いため、先生に対して母親的な安心感を求めているということはあるかと思います。故に、わがママを言ったり、すねたり、ためしたり、といった姿も見られますが、素の自分を出せる環境づくりを大切にしていけたら良いです。</p>
<p>時として使ってはいけない言葉を使う。先生というよりも回りの大人に対して感じる。先生、アルバイト、非常勤職員と いろいろな職種の大人たちに対し、同じように接するよう子どもたちに働きかけていく。</p>
<p>家庭内で起こったトラブルなど、保護者がノートを通して伝えたり、口頭で伝えたりする場面がある。子どもにとってはバツの悪いことなので、言わないでほしい思いもあり、自尊心の傷つきを泣いて保護者に訴えた姿があった。年齢が高くなると、友だちの前で叱られることに対しても、プライドが傷つくので、周囲への配慮として、本人の気持ちを否定するのではなく、肯定してから、善し悪しの対応をしている。</p>
<p>特定の保育士を求める。いつまでも甘えて離れない。甘えたいのに素直に甘えられない。抱っこすると身体をそらせる。 自分の話を聞いてほしくて他児をよせつけない。 1対1でゆっくり話をきいてあげる時間を作る（自分に目が向いて、受けとめてもらっていることを実感できるように）。</p>
<p>子どもたちがいるときには100%向き合うことであるが、行事や園外保育など忙しさに追われ、遊ぶ（自由遊びの中で） ということがゆっくりできないとき、行事の見直しなどを感じることもある。行事で育つところがあるので、大事にしたいところでもある。</p>
<p>それぞれにたくさんの個別の対応を求めたい！という子が多い。要求をかなえるためには、ゆとりある人的環境が必要であると思う。2歳児、6：1の都配置基準にも無理があると思う。</p>
<p>保護者の方が職員を信頼しなくなってきたので、子どもたちも親の気持ちを反映してきている一面も見られ、うまくコミュニケーションがとれなくなってきたのでは。保護者の要求が個別的に多い。</p>
<p>子どもとの信頼関係が1番大切で、そこがしっかり出来あがっていると、保育にも大きく反映されると思う。又、子どもの 気持ちによりそった保育、その時々的心情をキャッチすることが、意欲的な生活、遊びに結びついていくと思う。</p>
<p>1人1人の子どもたちと、もっと個々に関わっていけるようにしたいと思う。</p>
<p>話を落ちついて聞けない、視線があわない。話を聞く気持ちがなかなかもてない。</p>
<p>子ども1人ひとり、その子らしさを認め、安心できる関係を築くことを大事にしたいと考えている。姿いろいろ。（ベッタリと抱っこを要求、いつも自分だけを見て欲しいという欲求が強い子。おんぶをされたり、肌の触れ合いに緊張感を示す子。声をかけられたりすると素知らぬ振りをしたり、目を合わすことをさげたりする子。） ゆっくり時間をかけてやさしいまなざしを向け乍ら、コミュニケーションを深めることにつきと考える。</p>
<p>細かい事も、ひとつひとつふり向いてもらいたい、話を聞いてもらいたい。他児と話している時なども、割り込んで主張する。 できるだけ要求を満たし、気持ちを安定できるよう係わる。順番や、待ってもらえる事も多い状況だが、その後、必ず対応したり、ケアしてあげようとしている。又、少しずつ、自分で状況を判断し、“今は待つ時”だとか、自分で考え自分 の中で解決できる機会も作っていけるようにする。</p>
<p>指示が入らない。1つ1つ確認しにくる。大人を目を必ず見る。困っていても言えない。このような子が急増していると思う。 良い悪いを、自分で考えるのではなく、親の尺度、又は機嫌なので、不安になっている。 親に、かわってもらったり、理解してもらおうのが、なかなか困難な、現状がある。その中で保育士の担う役割は大きいと思う。保育士自身も、自己啓発を常に行い、子どもと向き合うことは必要である。その上で一人ひとりに合った対応を心掛ける。保護者を気にして「ダメ！危ない」と制するより、保護者の理解を得て、伸び伸び育つ環境作りをしていく必要があると思う。</p>
<p>園でよい子、家で手がかかる。園でよい子、家でもよい子（いい意味のよい子）。園で手がかかる、家でよい子。園で手 がかかる、家でも手がかかる（不安定）…いろいろなタイプのお子さんがある。自分をどこかで表現できて、それを受け 止めてもらえる場所が、人間（特に子ども）には必要である。</p>
<p>話かけたり、ほんの少しのことでも話をきく。一緒に、うんどうやゲームをして身体を動かしながら、心のつながりを感じられるようにしていく。</p>
<p>1対1で対応してもらいたがる子どもが多い。本当は保護者にしてもらいたいということだと感じている。「お母さんにも甘えてごらん」「同じことしてと言ってごらん」と家庭で自分の方から働きかけてしてもらえようように声を掛けている。</p>

その子によって、顔色を常に伺う子もいるので、そういう子には、自分の気持ちが伝えやすい雰囲気をつくっていききたい。又、言えた時には、十分に受け止め安心感となるようにしていきたい。
問題というわけではありませんが、自己アピール度の高い子と低い子、また、保育者に自分から甘えられる子と、そうでない子で、コミュニケーションの密度が偏らないようにしなければ、と考えています。
“1人ひとりの子どもと、1日の中で、コミュニケーションをとること”を日々心がけていくようにしていきたい。
子ども自身から求めてくる場合は、それを受け入れスキンシップや遊びを通して十分なコミュニケーションをとりやすいが、集団の中で自分を出しにくいお子さんに関しては、こちらから声をかけたり、遊びにさそったりするチャンスを必ず作るように心がけている。
私は非常勤職員のため、一人の子とじっくり関われるが、正規の方はなかなかじっくりは関れないように感じる。先入観の中で子どもに接している所がある。停止、静止、「早く」などが多く、子どもが「～やってもいい？」という指示待ちの子がほとんどになっている。
急にはむりです。改善できません。
両親の就労の関係、子育ての希薄さからか保育士にべったりの子が見られる。子どもの背景を考えながら保育士は接しているが、満足な関係を作りながら子ども同士遊べる関係作りをしていく。そういう意味で子育て支援、親の支援の役割を保育園は担っている。
話に注目できない、落ち着きがない。 《取り組み》小さいから、わからないと考えるのではなく、幼少期から、いい事、悪い事のいい聞かせが必要。
年齢が上になるほどコミュニケーションのとり方が難しくなってくるようにおもう。集団の中で自分に目を向けてほしくて、しかられるような行動を、意識的にか無意識にかとる子がいる。
私たち保育士は常に子どものことを考え保育しています。コミュニケーションは1日で確立することは難しいことです。日々の保育の中で子どもたちが「先生は自分たちのことを好き」「自分たちのことを大切に思っている」という気持ちを子どもながらに感じ関わることによって、自然と、保育士とのコミュニケーションが生まれると思います。子どもたちと楽しくあそぶことは当たり前で、あそんでくれる保育士のことは子どもは解かり、一緒にあそんでくれると感じ嬉しいと思うことで、コミュニケーションが取れると思います。又、保護者と保育士の良い関係を築くことで、その場面を子どもは見ている、保育士のことを好きと子どもも思ってくれると信じています。
全身で保育士に抱っこや後ろからベタッとくっついてきたりと甘えを表現する子や、1人の保育士にこだわりずーっとひざにすわったり、くっついていたりする子と、保育士とのコミュニケーションを密にとろうとする子がいるその反面、その甘えを思う存分だしている子の姿を目で追っている子もいる。私は、甘えをうまく表現できない子のサインにしっかりと気づき、「甘えていいんだよ」と言う気持ちを知らせながら、触れあう時間を沢山取るようにしている。大人と上手にコミュニケーションが取れるようになると、友だちとのコミュニケーションにつながっていくと考えているのである。
甘え方が上手でなかったり、抱きしめられたりすることに対して嫌がる。逆に甘えてくるのを受け入れるとどこまでも満足しない。ベタリとくっついて離れられなくなる。その子が安定していなかったり、不満足であったりするので、家庭での様子もききながら、安定できるよう、満足できるよう、心地よいようにくり返しかわっていく。
2歳児クラスとして、ひとりひとりの姿をみている状態です。
保育士が個別対応の子どもが多すぎて対応出来ないこともしばしばある。ボランティアなどで対応出来るといいが。
個々によってちがうが、なかなか自分の方から話しかけて来ることの出来ない子もいる。私はクラスを持っていないが、毎日各クラスを回り、個々に声をかけたり、たわいもない話をしている。まだ話を上手に出来ない乳児はひざに抱いたり、幼児には、げんき？など本当にたわいもないことが多いけど、センサーと声をかけて来てくれることで、コミュニケーションをとるようにしている。
保育士自身の傾聴力、態度が不十分なこともある。また、したくても出来ないこともある。保育士の自己啓発および、子どもの受容を一日の内のどこかの部分で行う意識をもたせる。
今、大人を大人とも思わない子もいる。また、家ではいい子、保育園で自分を出すなど多様。子どもの背景や状況で大人を求めている。それは無視してみたり、甘えが高じて悪態になったりとし方もさまざま、一人一人にいていねいに対応していきたいと思っているが、手がたりていないのが現状。保育士を増やしてほしい。
名前を呼んでも目が合わなかったり、知らんぷりする。
関わりの中で徐々に変化も有り、成長が有る為感じてない。
保育中の指示がスムーズに入らないとか、怒られる事をさげようというか？悪くいうと、頭でっかちになっているのでは？
こちら（大人）のいうことを素直に聞かない。
保護者よりも職員に甘えたり抱かれたがる。保護者にも甘えたい気持ちを代弁しながら、しっかり甘えることを受容し、信頼関係を築いていくことが大切。ふれあうこと、言葉をかけること、目を見つめることを欠かさず保育すると子どもは落ちついて過ごせる。
子ども18名に職員2名では、一人一人と話す時間が短い。一日一回でも一人一人と意識的に話をする。
感じていると言うよりは、日々の保育の中で、子ども達に対する言葉かけが、どの様に子どもの中に入っているか、適切な言葉かけができたかなど、日々子どもたちと接している。自分達の働きかけについては、十分な配慮が必要だと思っている。

言葉づかい、大人や保護者が対等になりすぎてはいないか。大人と子どもは友だち関係ではない。大人との会話が少ないので、物の名称を知らずに育っているため、認識や名称を知らせることが大切で、コミュニケーションの中に心掛けて取り入れている。
子どもが自分から、大好きな保育士の所へ行く、そして安心して遊んでいるのに、別の保育士が来て抱っこで連れていってしまうことで、その子ながらに最近では、近づくものなら方向をかえて逃げて来るようになりました。他の保育士に慣れることが必要かもしれませんが、1日中泣かせてまで無理に好きな保育士から離す必要があるのでしょうか？突然来て、抱っこするのではなく、声かけをしていく必要があると思います。気持ちが安定して落ち着くのであれば、好きな保育士と抱っこで過ごすのもいいのではないのでしょうか？
ひとりひとりのおしゃべりにゆっくりとつき合う時間がなくて申しわけなく思っている。手のかかる子、かかわり方がむずかしい子にふりまわされているのが現状である。保育に専念できるように、事務担当の職員がいてくれると良い。
担任している子どもに関しては今の所感じていない。
大きいお子さんにみえても大人との1対1の関わりを求める子が多いです。その点、子どもと大人の人数を考えると、大人が多過ぎるということは、決してありません。
素直に甘えられず、気を引くような態度、言葉を言って自分をアピールしたり、自分の思いを保育者から母（保護者）に代弁してほしいと思われる行動があったりする。 子どもの言えない事を保育者が言葉にだし、気持ちを代弁できればよいと思う。
特に大型園になると、フロアが違う子どもたちと交流する時間が作りにくく、園全体で子どもひとりひとりをみるということが（もちろんクラス担任としっかりと関係が出来るのも大切で、それとは別に）難しいと感じることがあります。出来るだけ出会った時に名前を言って、少しでも話し掛けるよう努力しています。
信頼関係がつくと心を開いて話すようになると思います。ことばのコミュニケーションだけではなく、内面をよみとって共感できることがたくさん作れば良いと思います。
先生とは概ね良好なコミュニケーションをとれていると思うが、中にはじっくりいかない子もいる。子どもの個性を大切にしながら小さいことから共感できるものを見つけていく。
甘え方がわからない子がいる（たたく、けるなど）（甘えたいのだが…）。 まずは、大人（親）としっかりコミュニケーションがとれるようになることが必要。
テレビの影響や、乱暴な言葉、大人びたことばが耳にのこります。大人たちがしっかりした日本語を話していく必要があると思います。
自分の感情や、言いたいことを内に秘めてしまうタイプの子どものコミュニケーションは難しい。保育士が積極的にかかわるようにし、子どもの気持ちを代弁できるようにする。そして少しずつ安心感を大きくしていったら、子どもが先生を信頼し、何でも言い易い環境を作る。
園のクラスの中で、子どもと良い関係ができたと思っても、保護者と親が行き違ってしまうと、それが子どもへ大きく影響する。保護者とも関係を深めていく事が大切。子どもひとりひとりをみていき、その子の気持ちをくんでいきたい。子どもが自分の気持ちをぶつけ甘えられるよう、働きかけていくことが大切。
1歳児だが、大人の言うことがよくわかる子と、仲々分からない子がおり、いろいろと配慮しながら接している。どの子も同じように関わり、接するのが保育士だと思っからである。
子どもが大人を信頼できる事、人と人のかかわりは楽しく、生きる力になるという事を伝えるのが、私たちの仕事です。子どもたちの気持ちに添えていけるコミュニケーションを常に望んでいますので、多少の問題は感じることはあっても大変な時こそ質が問われると思います。
積極的に話しかける子と、そうでない子との間で量的、質的にかなり差が出てしまう。 保育士の努力、自覚が最も必要だが、人員不足は用を足しているだけで終わってしまう保育になりかねないので、保育にあたる人数の確保が欠かせない。
自分から何かと話してくる子もいるが、そうではない子もいる。ケンカをしてどちらかが先生に伝えにいくと、相手は反論する子もいれば怒られると思ひ逃げる子、一言も話さなくなる子もいる。 問題の解決に向けて：日頃から色んな子と触れ合い、話し、信頼関係を深めること。子ども同士がお互いの気持ちを話せるよう、間に入って話を聞いたり、見守ったりすること。
ひとりひとりを大事にする保育を行っていきたくと思っています。保育士の方からコミュニケーションを図るようにしています。それも含めて保育と考えています。
朝・夕の時間帯は、子どもの人数に対して、正規の保育士と非常勤とでギリギリの状態。保護者の対応をしていると子どもとじっくりあそべず、日中の時間帯に比べるとコミュニケーションにゆとりがもてない中でも自分からコミュニケーションをはかるよう努力している→正規職員の配置をして欲しい！
自分の意見や主張ばかりしてこちらの意見を聞かず、何か少し言われると泣いてしまい、その場を終わらせてしまう子がいます。自分がいけない事をした時は、それを認め素直に謝れる心の持ち主になってもらえるように声かけをしています。
乱暴な言葉使い。
保育士側の問題ですが、手のかからない子にはどうしてもそばにいる時間が少なくなってしまいます。食事、午睡、人数が少なくなった時など、意識してその子に話しかけたり触れ合うようにしています。登園時には全員の顔を見て1人ずつあいさつするようにしています。
1対1でゆったり関わる時間が少ない。話をきいてあげようとしても、私も僕もと次々来る。人がいれば、ゆったりとした保育が出来、子どもとの会話も余裕をもって出来る。保育士は忙しすぎる。

<p>家庭内で大人との接し方、関係が正しく教えられていないと思います。例えば家族内、おじいさん、おばあさんの立場とか、お父さん、お母さんの役割とか…。子どもが一番大事なのは当たり前ですが、子どもは子ども、大人の言う事には耳を傾けるとか、家庭の中での子どもの立場を言葉ではなく、日頃の生活の中で肌で感じさせることが、大人と接する際に不可欠な事だと思います。子どもの御機嫌をとり泣かさないう様に気を使っている家庭がすごく目につきます(子どもをおこれない)。</p>
<p>それを改善していくことが保育だと思う(個人情報)。</p>
<p>担任は正規職員2名ではあるが、実際に、2名が朝からそろうことは本当に少ない(当番等)。子ども達は自分の話しをとてもきいて欲しく、じっくりと向いあつて、会話をすることにより、気持ちがおちつき、その後は生き生きとあそぶという姿がある。しかし、十分にかかわることができないことはとても気になっている。特に残留保育では、年々保育するお子さんが増える中で、非常勤職員はつくものの、正規は増えることはなく、保護者対応も不十分になってしまったり、子ども達ともじっくりとかかわってあそぶことなどはできない状態。お迎え時間まで安全に気をつけ、人数を確認することでいっぱいである。長時間保育のお子さんが増える中で、早朝、残留保育の充実方法をもっと考えていく必要がある。</p>
<p>問題は特に感じていないが、大切なことだと考えているので、積極的に話しかけ、関わるようにしている。</p>
<p>親や友だちとの関係がスムーズな子たちは、保育士にベタベタすることなく、必要なときに話すが、問題なのは、いつも不満足でくっついてる子や、困ったことも言えずに、うろうろしている子どもたちである。その子たちがどんな問題を抱えているかを他の職員たちとも考え、少しずつ解決するようにしていくことで、健全なコミュニケーションがとれると思う。</p>
<p>保育士に甘えてくるのはよいのですが、自分の親には出せずに甘えてくる子もいます。また、気を引くためにわざと大人の気持ちを逆なでするような言動をとってくる子もいます。子どもの気持ちをしっかり受け止め、その子を認めていくことにより、自分の気持ちをうまく表現できるようになると思う。</p>
<p>保育士にベタベタと甘えてくる子がいます。その子は保育士だけでなく、今日初めてあう人に対しても同様です。自分が全て出せるのは家族が1番かと思うのですが、そこではとてもいい子で、別のところで出してしまふ。また気をひくために大人をさかなでするようなことばかりしてしまう。(9) 同様、受けとめてもらえてないのでしょうか？</p>
<p>あまり問題！問題！大変な子！とかは感じない方が良くと思う、様々なとらえ方で、なかなか出しきれない子どもが多いことも確かであれ、素で子どもとぶつかりあうことが、スムーズにコミュニケーションがとれることだと思われる。子どもの良いところをとらえること、自然体で向い合うこと(基本的には子どもが多すぎである)。</p>
<p>中にはいつも自分だけを見てほしい、相手をしてほしい、と思う子もいる。誰かがほめられたりすると同じことをわざとやっている子もいる。保護者と子どもとの関係、心と心のすき間が何となくまるよう話をしていく。</p>
<p>まず、あいさつをしても、それに対して「おはようございます」と言えない年中、年長組さんがいます。「ありがとう」「ごめんなさい」ということも、子ども達の方から自然と聞かれるのは少ないと感じます。→まずは、近くにいる(親)保育士があいさつをちゃんとする。先生同士、先生と親がなにげなくしているコミュニケーションを子どもたちはちゃんと見ているし、聞いていると思う。</p>
<p>幼児クラスの子について。担任でないこともあるが、遅番などで関わると、問題を感じる。個々に話しかけても全体に話しかけても、目を見て話を聞く子が少ない。気持ちの交流がはかれず、伝えたい事が伝わらない。</p>
<p>子ども同士と同じ感覚で接する。</p>
<p>子どもも好きな先生のそばで過ごす事が多く、あまり言葉がけをしない子どもとたくさんお話しをする子どもがいる。保育士は全体を見て、1日1回以上、全ての子どもとコミュニケーションを取る必要があると思う。</p>
<p>家庭から来たお子さん(新入園児)で、それまで母親と対1の環境だったりすると、どう接していいのかわからず、心を開かないお子さんもいらっしゃる。保育士の方から(家庭環境を把握した上で)積極的に語りかけ、安心して過せるような環境づくりをしてあげる。</p>
<p>保育士にベタベタと甘えるだけで、一緒に遊んだりすることも出来ない。家で甘えられない分、甘えたいだけだと思うが。</p>
<p>取り組みについて。なるべく、少人数での遊び、生活をこころがけ、きめ細かな働きかけで子どもの気持ちによりそいながらやっていく事につとめています。</p>
<p>保育園では複数のお子さんをお預りしているので、あまり問題を起さず自分の主張をあまりしない子は、つい見落としがちになってしまっている様に思います。忙しい生活の中ですが、ふと息をつけた時、日頃、見落としがちになっているお子さんに声をかけたりかかわったりしています。</p>
<p>先生は、保育園での母。愛情を沢山注いでもらい、育ててほしいです。甘えたい時に甘え、泣いても怒ってもしっかりと受けてもらいながら安心して過ごしていく、それが一番大事な事、基本的な事だと思います。その上で先生の質も問われてきているのではないのでしょうか。先生自身の人間性がともなわなく、子どもたちとコミュニケーションがとれない事があるように思います。「先生とのコミュニケーション」は決して子どもが悪いのではなく、先生の問題です。子どもを育てていく能力のない保育士を見極めていく事もこれからは大事だと思います。</p>
<p>きちんと話しをしていけばわかってくれる事が多い。小さいながらルールの説明は必要である。</p>
<p>自分達の仕事内容が忙しすぎて時間におわれたり、保護者のかかえる問題などに追われたりする事で、ゆっくと子どもたちとの時間をとる事ができていない。もっと仕事を整理して、子どもとの時間をつくっていく事が大切。</p>
<p>子どもに待たせることが多く気になる。タイミングよくかかわれる、見守ってられる工夫が必要。</p>
<p>この所乳児の担当が多いので、それほど感じませんが、幼児(特に年長児)はある程度、言葉の使い方、(大人に対しての)話し方など、距離をもった話し方、接し方、あそびの時とけじめをつけなければならない時などT.P.Oによって変化できるといいと感じる。具体的に特にはないが、大人も日ごろから気にかけていく必要があると思う。</p>

大人にもどこまで甘えてよいのかわからない子がいる。対1での関わり、遊びを多くもち人とのふれ合いの気持ち良さを知らせていく。
自分を出す、思いを出すことが下手な子が多い。自分から抱っこを求めてこない子には、関わる楽しさを知らせ、人のぬくもりや暖かさを伝え、関わりたいという心を育てあげたい。
一方的に話しをしてしまう。目を見て話すよう、気持ちが通じる・感じるよう話していきたい。
一緒に過ごす時間が長いので良い関係が築かれていると思います。
自分の方に気持ちを向けてほしくてわざと“いけない”という事をしたり、トラブルになるような事をする子がいる。
0歳では特に担任、職員が話しかけを重視します。子どもに発語から会話がでてくると、コミュニケーションのやりとりが当たり前に行われますが、大きくなるにつれ集団が増え、積極的に職員と話したり、静かに過ごす子などさまざまな姿が見られます。話をする時には、年齢、その子に合わせゆくり、わかりやすくを心がけると共に、1人ひとりに声をかけ話を聞く、短い会話の中から気持ちをくみとることを考えます。しぐさ、表情、行動からも思いを知る、それに大人がこたえることもコミュニケーションと考えています。又、リラックスした雰囲気を作り子どもが安心して心も開いてきます。言葉、心のやりとりを大事にしていきたいと思います。
年齢の低い子ども達と接する時に、子どもの気持ちを汲みとることや、子どもがしたいこと、今の気持ちを理解してあげることができない保育者がいる。年齢が小さければ小さい程、気持ちを感じ取っていかなければならないと思う。
保育士を独占したがる子が多いと思います。子どもたちの気持ちが安定しないとコミュニケーションにも問題が出てくると思うので、家庭と連携をとって大人と安心して関る時間をとっていけるようにする必要があります。
話を聞かない。くり返し伝えることも、すぐに忘れて、同じ行動をとる。保護者の言うことはよく聞く（親の前ではイイ子）。保育園では、全く聞かないなど。
自分だけを見てほしくて、いけないことをして目を引く。甘えてワガママをぶつけ、受けてもらってもそれでも満足しない。ワガママをきちんと受けつつ、いいこと悪いことはしっかりと知らせていく。
コミュニケーション＝甘えという表現のしかたが多くなっているように思う。
子ども達は、自分の素直な思いで大人との関わりを求めているが、大人にいろんな思い（その子の個性や家庭事情）を持って関わるため、個々に違いが出てしまう。それを良い方向での関わりならいいが、不平等に感じることもあり、大人の関わりの大切さ、慎重さが気になる。
気をひきたくてたたいたり、蹴るなどする事もある。年齢が小さいので、スキンシップ、抱いたりひざに乗せたり、1対1で目を見て語りかけ、子どもから言いやすくしている。視線を同じにする。
仕事が忙しく話し合いなどがもちにくい。人が足りない所では、増員して欲しい。
自分一人だけを見てほしい、かまってほしいという気持ちを強く出すばかりで、他を受け入れようとする事が、できる子が少ない。
生活を一緒にしていく上での関わり方は、いろいろな場面でいろいろな表現の仕方をするので、積み重ねが意味があると思われる。
素直に甘えられる子と甘えられない子や言葉使い、態度など上げればいろいろ出てくるとは思います。当然の事ですが、子どもの合図を見落とさない様にし、受けとめていきたいです。
中には、甘えるすべを知らない子もいる。ほとんどの子は職員を独り占めして甘えたいと抱っこやヒザを独占する。好きな玩具や本と一緒にと要求してくる。一人一人と十分に関われる場面を確保し、満足の状態をいつもつくってあげられるようにする。その為には、1対1の時もあれば、ヒザに二人のせたり、人数が増えれば床に座らせて、かわりばんこに職員と順番を待つこと、同じものを共有すること等、お互いの関わり合える場面で触れ合い、他人を意識する第一歩をつくる集団、場でもあると思われる。

#### (5)【設問(13)】「家族とのコミュニケーション」について感じる問題点・必要と思う取り組み

TV、メディアに振り回されている。親が年齢にふさわしいものを与えていなく、家族での過ごし方に影響を与えている。
コミュニケーションの取り方を勘違いしていることが気になります。休日を毎日どこかに連れ歩く事がコミュニケーションだと思っている人も少なくないのではないのでしょうか。家族でゆっくり過ごす機会、話す機会を持つことが大切ではないのでしょうか。
コミュニケーションを大切にしている家庭と忙しさの中で流されてしまっている家庭との格差がある。親に甘えず、保育士に甘える子（家庭ではとてもいい子、園ではわがママを出す）。いつも保育士にまわりつく子の存在。コミュニケーションをとりたくてもその方法がわからず悩んでいる保護者や、時間の使い方の悪い保護者（例：家事をこなさないと感じがすまない）には5分でも10分でも…1分でもいいからという形で少しずつコミュニケーションの取り方を知らせたり、保育園で保育士が関わったときの子どもの反応を知らせてあげる。
子どもと一緒にいる事が重荷と感じている親が多い。また、父親が子どもを全く見られない。父親と子で過ごす時間が少ない。母親もまた諦めている事が多い（父はダメ）。
子育てができない親が増えている。子どもの言いなりになり、子どもが優位に立っている。子どもと戦う事が大変なので、子どもの意思を尊重する。ということで、子どものわがママを抑えられない。その結果、正常な親子関係が成立せず、上下関係が見られる。日々、親に子どもとの関わり方を知らせていく。

夫婦間のコミュニケーションができていなかったりするのでは？と感じることがあったり、子どもが両親と過ごす時間が少なく、十分なスキンシップやコミュニケーションができていないように感じる。無理しない程度に、できる限りは子どもの時間を大切にしよう伝えていく。
子どもに気持ちが向いていない。子どもには自分の方を見て欲しい。向かって欲しい。大人の都合で生活。それに振り回されたり、無理にあわせた生活。家庭内トラブルに子どもが心を傷めたり、もめたり、暴力の被害現場にいる。父母の子どもの取り合い、親権めぐり。
1歳児。子どもがいう事を聞かないからと大泣きしていても、長時間無視したことがあるという話を聞いた（一度ではなかったようだ）。子育て中のイライラする親の気持ちを受け止め、一緒に良い方法を考えていきたい。時には、父親、祖父母の協力を得ながら、「自分で泣き止むまでは抱っこしない」などと親がムキにならないようになるとよいのだが・・・（この頃は、その母親は穏やかな表情で子育てをしている）。
親も人間なので仕方ない事だが、その日の気分子どもへの接し方が（朝の別れ方など）極端に冷たかったりという事がある。親の方が振り回されたり、子どもの言いなりになっていたり、親の子どもに対するコミュニケーションの仕方がわからずもてあますような感じも受ける。親自身がゆとりを（心の）もてるように働きかけていけばよいが、親自身が大人になりきれずにいたりもするので、その場合は意識を変えていく事が難しい。
休日の過ごし方を聞くと、保護者（大人）の興味や娯楽が中心となり、競馬場のキッズルームで半日を過ごしたり、町会のイベントや祭事等で一日が終わってしまうなど、家族とコミュニケーションをとったり休養とは程遠い過ごし方を強いられる事もあるようだ。この状態が恒常的ではない事を願うが、0歳児の体力や健康への配慮も考えて欲しいが、おむつや哺乳瓶を持って出かけることが苦にならない保護者の体力にも感心している。同じ年頃の子どもの持つ保護者同士が情報交換をし、子ども中心の休日が過ごせる日が月に1-2回はあってもいいのでは…。
乳児期、幼児期、主体的に家庭にて育児の中心になるのは母親だが、とても多忙であり時間がなく、一日忙しく追われているのではないかと。育児には父親も参加することは当たり前だが、帰宅時間が遅い事で、気持ちはあっても現実的には難しい状態にあるようだ。日本中の父親が残業をしないで帰宅すると、少しは母親のストレスも解消されるだろうか。
親とコミュニケーションがとれている子どもは情緒が安定しているように思うが、そうでない子どもは怒りっぽかったり、なんでもないようなことで泣いたり、不安定になったりする。 家庭での子どもとの関わり方を聞き、1対1で接する時間をつくってもらおうよう声をかけていくと良いと思う。
子どもが求めている親の愛と、親が子どものためと思って発信する愛がすれ違っている。手はかけなくても、目は離さずにいてもらう（保護者に）。
常に親に目を向けて欲しい、愛されて欲しいと、子は思っていると思う。親子関係が薄れつつある。 一緒に食事をする、子どもに手をかける等、常に考え行動していかないといけないと思う。
まず保護者が一番であり、子ども自身が親に対して気を使っている。お母さんは夜遅くまで起きていて、私のことをしてくれた、と言いつつも、その行動に満足しているのではなく、常に他児と比べ、不満な子どもがそこにいる。姉妹であっても、相手を思いやる事ができず、常にライバル、妹はうるさいから「今日は保育園に置いていきましょう」と子どもの言葉として出てしまうと言う事は、母が子に対して言っている言葉とも思える。母親自身がコミュニケーションの取り方が解らないからだろう。子どもの気持ちになり、行動を指摘するのではなく、こうだからこのようにしてあげたらどうかな、ということを見ながら話していくことも大事ではないか。
なるべく保育園に預けようとしている。休みでも預けている。泣かれると本気で怒ってしまう。ダダをこねられると、どの様に対応してよいかわからなくなり、子どもの言いなりになってしまう。父親も子どもと同じ立場で怒る。
保育時間が延び、更に休みでも預ける親が多くなり、コミュニケーションをとる時間が少ない。 親の休息も必要な時代だが、受け入れることにより親子の時間を奪っているように思う。
大人生活（自分自身の事）でいっぱいいっぱい子どもに気持ちがむいていない。受け入れてもらえない、気持ちが安定できない（親自身もそうだと思う）。 保育を通して出会えた関係の中で少しでも支援していけたらと…思う。
子どもの姿を通して、その家庭の背景が見えにくかったり、日ごろ、どのように接しているのか、生活しているのか、わからないことが多く感じられる。食事ひとつにしても、家族と一緒に食べているのだろうかとか、連絡帳などを見ても、休日は外出が多く、出かけることが家族のコミュニケーションと勘違いしている面もあるように思われる。 また、物事の良い事、してはいけない事の区別も大人自身が子どもに話をするををしていないように感じられるので、大人があいまいにせず、知らせることが必要であると考え。
共働きの親、親になれない親が多い中、親子のふれあいは希薄化していると思う。特に乳児期のスキンシップや愛情表現など、欠けてはならないものも、どんどん少なくなっている気がする。じっくりと時間をかけて、遊んだり、話をしたりすることが大切であり、家庭で心が満たされていなければ、そのストレスが外（保育園や学校など）で爆発してしまうと思う。他人と人間関係のはじまりは、絶対に親子関係にあると思う。
共働きの家庭が多い中では、会話が少なかったり、習い事だけ多いことも感じる。子どもがどんなことを感じ、思っているか、保育士からも親に伝えたり、様子を引き出したりしている。
ケンカした時は、だれにやられたのか必死になってきく。前後の理由などについても保育者からきいて「〇〇だったの。だから〇〇だよ。」というようにするとよいのではないかと？
愛していないというわけではなく、忙しさゆえになかなかじっくり接する時間がとれないジレンマをもつ家族はいると思います。子どもは甘えたいのにガマンしているのかなと思う時が、目をみていると感じる事があります。しっかりとうけとめて、スキンシップと共につねに「そばにいるよ」という信号をおくってあげられたらと思います。
母の怒り方がきついこともあってか、子どもも周りに対しては同じような反応をしていたりする（母も自覚あり）。園で良い子な部分を出す反面、母や弟、妹に対して攻撃的な部分が表われたりしている子がいる。

保護者の中には、心の病気の方も増えてきているため、保護者中心の対応になるので、子どもの気持ちを伝えるにくくなってきている。
大切に愛を持ち、育てられていると感じている。
TV ゲーム、ビデオ (PC も含め) 自分で言い時間をつぶしている子が、けっこう多い。
子どもの言ったことをきちんと受けとめてあげていない。どんなことにも意味があると思って、聞いてあげてほしい。目を見て話を聞いて応えてあげる。スキンシップをしながら、安心感を与えてあげる。100%信頼していることを胸におき、100%で応えてあげてほしい。
お母さん、お父さんに十分に甘えたいのだが、甘えられない良い子になろうとしてしまう。十分身体をふれあって遊ぶ経験をさせてほしい。どこかに (テーマパーク) 行くのではなく、近くの公園や広場でゆっくり遊ぶ (保護者が)。
母親に少しのことでよく怒られているとみられる子どもがいます。その子は、園で自分の思い通りにいかないと友達にも保育士に対しても、短気で怒りっぽい姿が見られます。また、「子どもが悪い言葉づかいをしている (“くそばあ” など) 両親がそのような言葉を使っていることがあるからかもしれない」という言葉があった家庭がありました。家庭とのコミュニケーションは、子どもに多大な影響を与えるのだと改めて感じています。
家族の中がかかわり、ふれあいの時間が足りない。時間ではなく中身だといっているが、子どもの姿にあらわれてこない家庭もみられる。
TV や DVD などを見る機会が増え、親子で一緒に過ごす時間が少なくなってきている事や子どものことばに真剣に向き合えず、すれ違いなど。
父母は仕事の帰りが遅く、平日は、時間が取れていない。
子どもの様子、生活を聞くゆとりがないと思う。子どもが話したいときに親にその気持ちがなく、いそがしそうにしている。親同士話しをしていて、子どもがあんなのネーといっとうんうんとわかったという返事に終わったりすることがある。親がゆとりあるときに必ずしも子どもが話したいとは、かぎらないので、まず、ねるまでは、子どもにむかってほしい (親は、むかえにきて帰るまで、携帯で話しをしている場面を多々みることもある)。
夫婦間の問題、または、親子間の問題等、家庭の中にさまざまな問題がある。私達には、はかり知れないものがあり、子どもが不安をかかえ、そのサインが出た時等、園でうけとめ、さりげなく家庭に伝えてみる事も必要な場合がある。心の病気をかかえる保護者が、とても増えているので、その方も共に受けとめてゆく必要もあり、家庭支援策も必要であるが、現在の園の状況では、苦しい部分もある。
年令が小さい時からの積み重ねも大切になってくるので、何でも話せる雰囲気を作っていく事も大切だと思う。話せない赤ちゃんの場合は、スキンシップや表情でコミュニケーションはとれるので、子どもが出すサインを見逃さないようにしていく事が大事だと思う。
子どもの言いなりになってしまい、保育士に助けを求めてくる親。子どもに何も言えない親。
親に気をつかう。親の前では、いい子になっている子が、多くなっているように思う。
大人が子どものご機嫌をとるような会話が聞かれます。親がもっと、信念をもち、強く対応してもよいと思われる時があります。例えば、「明日は、お母さんお仕事お休みだけど、保育園行く? 休む?」というように子どもに判断させる親も多くなっています。また、体調が悪いけれど、子どもが保育園に行きたいというから・・・と連れてくる親もいます。大人をなめている子が多くなっています。
忙しく時間におわれて、子どもと向き合っていない。休みがあっても、あくまでも自分の休みであって、子どもと少しでも一緒にすごそうとは、思えないようだ。心の淋しい子には、少しでも人のあたたかみを知ってほしいので、ひとりひとりの気持ちに添って、受け入れてあげたい。
圧倒的に、家族と触れ合う時間が少ないと思われる。時間があっても、保護者の気持ちが子どもに向き合う様子が見られず、ゆえに子どもが一方的な主張のみになる事が強いと思う。保護者、家庭の問題になり、対応は、難しいが、子どもに向きあう様に促していくしかないように思われる。
甘えられない。気を遣う。
祖父と一緒にくらして、言うことをきかないと棒でたたく。母親もこわくて何も言えない。母親と面談をしながら、何が本児にとって一番いい方法なのか、一緒に考えていく。
生活があわただしい、朝は「○○しなさい」「○○やった?」などと会話らしいことが少ない。TV、DVD をおとなしくみさせて、食事の用意などして、生活が流れていく。生活時間が忙しい。4、5歳になると、習い事など、他人に育児などまかせすぎ。
各家庭で差があるが、スキンシップが、ほとんどない家庭あり。親子間で、たくさんスキンシップをしてほしい。
保育園全体の子どものついて、早朝から延長保育というように、子どもも園での生活が長く、親も仕事で遅く、毎日が疲れきっているのではと感じる。そこで園の帰り道、手をつなぎ、歩くときに会話をしたり、夜空のことで、子どもの思っていることを聞き出したりといった関わりが大切ではと思っています。
仕事を持つ親が増え、家族間でのコミュニケーションが減っている。
イベントに参加させる。アミューズメントパークに行くことで、子どもと遊んでいると錯覚している。→子どもとの遊び方を具体的に知らせていく。

やはり、保護者が忙しい中、平日の関わりが足りないのではと思うことがある。子どもが病気になった時にも、じっくり側についてあげることができなかつたり、親が子どもとの関わり方がわからずにふりまわされたり、大人の都合で子どもをふりまわしていたりがある。保護者といっても子どものことばかりでは、ストレスもたまると思うが、のんびり過ごすことも大切だと思う。
両親、共働きの中で家に帰ってくるのも遅いお父さん、お母さんが多く、子どもとの会話が欠けている家族が多い様子に思います。普段、仕事の帰りが遅くなってしまった時に今日の出来事、会話が出来なくても、休みの日にたくさん遊んであげたり、保育園でどんな事をして遊んでいるのかなど聞いてあげる事が大切だと思います。また、保育士は、連絡帳に今日その子が何をして遊んでいたのか、出来なかった事が出来るようになったなど、その日の出来事、報告を書く事によってその子の保育園の状況がわかるので、私達保育士も子どもの様子を伝えていく事は、大切な事だと思います。
核家族化やひとり親家庭など状況が様々である。日中生活する保育士と接する時間が長い子もいて、休日はお互いにストレスをためて、月曜日に登園する子もいる。平日ゆったり過ごす時間がなく、余裕がないとなかなかコミュニケーションをとることが難しい。就労時間の短縮。
接する時間が少ないのは、仕方がない事だと思うが、子どもと接するのは体力的にも時間的にも毎日のことで、根気がないといつ子どもに甘く、妥協してしまう所がある様に思う。
自分の型にはめ、子どものことばに耳を傾けない。※朝の登園、玄関で子どもが靴より先にジャンパーを脱ごうとした。母、「靴を先に脱ぎなさい」。子、「なんで？」母、「お母さんが正しいのよ！！」周囲を気にし、その家族の方針をつらぬけない（一貫性がない）。子どもの頭の上を通り過ぎていく。言葉のバズーカー砲。または、揺れ動きすぎ。子どもが不安に思う。親の心の安定を保ちつつ、伝えていく努力はするが、100%は無理だ。
忙しい日々の中で、子どもと真剣にまた、ゆつたりと向き合うことが少なくなっているように思う。
親が子どもとどう接しているのか、まさぐり、わからないため外にでて、歩き動きまわることや要求のまま物を与えてしまったりしている姿が見られる。親と子どもが遊べる場所を作ってあげたり、園でも他児+自分の子+親とが一緒に遊べる環境を作り提供していく。
保護者が子どもに求めるところ、気持ちをかけるところと、子どもが保護者に求めているところが、ズレて、かみ合わない場合、子どもに不安定な姿が見られる、欲求不満などの状況があります。また、家庭で自分の欲求を受けとめてもらえなかつたり、自分の思いを出せない場合、保育園で出している子もいます。子どものマイナス部分を保護者に伝えるのはとても難しいです。私たち保育士も含め、子どもの姿から、自分の子育て、保育を振り返り、どうしていけば良いかを考えられることが大事なのではないでしょうか。
特に母親との関係がうすいと、精神的に不安定で、いろいろなところでつまづく。
子どもの思いをうまくくみとってあげられない。子どもとどう接していいかわからない（どう遊んでよいか、声かけ）。公開保育や、保育参加をヨーロッパのような形でやってみてもよいのでは？！園の中がとても閉じた環境になっているので、その点で、もっと柔軟に考えるべきだと思う（保育士と一緒に保育を試みることを親にもやってみよう）。
保育士には甘えられても、親には気をつかって甘えられない。親からは、家での子どもの様子をきき、こちらからは保育園での子どもの様子を伝えあう。まずは親との信頼関係を築くために、コミュニケーションを密にする。
家族が子どもの気持ちをうまくとらえていないことがある。いろいろな視点で子どもを見てもらえるように話していく。
保護者は仕事もち、日常の家事をしながら子どもを育てているので、余裕なくせきたててしまう姿も時々見受けられるが、一方で子どもが話すことにしっかりと耳を傾けていたり、一緒に時間を楽しんでいる保護者もいる。状況を十分に受けとめながら、コミュニケーションの材料となる話題の提供に一声かけたりする。
子どもと一緒に遊ぶということが少ない。わからない親が多いと思う。
子どもの思いを保護者が理解できず、保護者と子どもの気持ちがかみ合わない親子が多い。気持ちがかみ合わないのを調整できる人がいない（父、祖父母など）場合も多い。 (11) 同様、その辺も含めての子育て支援が必要だと思う。
家族同士の会話が少なくなってきている昨今、保育の中で子どもたちが印象に残ったこと、あそびの中から家族と共にさらに会話が深まるような対応をことこまかくすすめています。
子どもとの関わりが少ないように思う。できる、できたの評価が多い。子どもと一緒に遊ぶ、楽しむ姿がみえてこない。
父、母、祖父母、兄弟などのかかわり方の偏りが感じられる。たとえば、けじめを教えることや甘えを受け入れることのアンバランスが目立つ。祖父母はすべて孫にやさしい訳ではなく、関わることを好まない。兄弟同士の関係が各々一人っ子状況で一緒に遊んだり面倒をみたりする関係にならないなど。なかなか踏み込んで話すことは難しい。価値観も違い、その家庭の方針にまで口を出すのは遠慮がある。
働く親をサポートしながら感じることは、親のその姿が子どもたちの目に映っているのか？とのこと。親の姿を見て純粋に感じとる心は、大人からの視点より何倍もの力。便利だからと子どもたちに与えているDVD、テレビなどに頼った時間は本当に必要なのか？親や近くの人と生について話したり触れ合ったりして、肌で感じる生きている実感。そして信頼感。専門家としてコミュニケーションがいかに大切か、家庭に知らせ、返していくこと。
気持ちが満たされていない子の、親とのかかわり方に疑問を感じる。連絡ノートには子どもを受けとめたいいことが書いてあるが、実際の子どもの姿と重ならない。叱ったり、注意したりの感覚が、保育士とずれているので、保育園での注意が理解できない様子。
忙しい社会なので、家族皆が揃うことが少なくなっている。

面談などで、休日や食事など、少しでも関わりあえる時間を作れるとよい、と伝えていく。
遅くまで園に預けられ、お迎えにくると「早く早く」と追い立てられ、家に帰っても「早くしなさい」と追いたてられるような生活を送っていることに問題を感じます。あるいはテレビやDVDを見せている時間が長くあると、家族が顔を向き合って話をする時間が少なくなると思います。
親が子どもと一緒に遊べない家庭が多い。子どもといても間がもたないのでTVを見続けてしまううちが多く、親と子どもと一緒に遊び、触れ合う時間はあっても、関わり方がわからないといったこともあるだろう。親子で一緒に楽しめる、ふれあい遊び、歌など気軽に（地域で）参加できる場を作ったほうがいいのでは。
母（父）に甘えられない感情を保育園でぶつけている子もいる。甘えや不安を受けとめつつ、親（保護者）の話聞き、子どもの様子を伝え安心して過ごせる環境をつくっていく。
家族間での会話、すごしをとでも意識している家族がある反面、多くの家庭において子どもとコミュニケーションをとるゆとりと時間がないと思える。家族間の会話が少なくないと思える。家でじっくりと子どもに関わろうとする意識が親には少なくなっており意識もうすい。
休日には必ずといっていいほど外出する親子がいます。親が若いために外に出て、そこで一緒に遊びそれでコミュニケーションをとっているようです。子どもは月～土まで園で生活しているのですが、日曜は休むことなく外にいるため、数ヶ月に一度くらいの割合で発熱や体調不良になります。ゆっくりする時間も親子には必要であること、そこでのコミュニケーションも大切だと話しています。ただ、親自身が遊びたいこともあるようです。親子関係は難しいです。
まだまだ長時間労働をおこなっている企業、職場が多い。日本において保護者の負担は多大なものだと思います。そして、日々の生活に追われる今、帰宅後コミュニケーションをとる余裕がないのも現実のような気がします。
何があっても甘えるところは親であり、大きな場所である。すなおに出せなかったり、子どもの思いと大人の思いのすれ違いが見られ、あんなに泣かせなくともと思うところもある。どうしてこうなのかと悩む親も見られる。ちょっとしたヒントや、子どもの気持ちを伝えていく。ただ、今の親御さんは、子どもの気持ちを大事にし、子どもの意図する方向に向けてふらふらしているところが見られる。まだ方向が定まらない年齢なので、大人がしっかり方向を見つけてあげるのがよいと思う。
一緒にいる時間が短すぎる。子どものことを見ていない。
家族（保護者）の子どもへの関心がうすく感じられる場合がある。家庭の状況などあるので、すぐに解決への取り組みは難しいと思うが、子どもが保護者に「こっち向いてよ」というメッセージを含むような行為を見るのは痛々しい。
昔に比べ、職場でキャリアを積んでから出産をする人が多くなり、子どもとどう関わってよいのかわからないというのが伝わってくる。保護者との日々の会話を大切に、まずは子育てを楽しんでいると思ってもらえることが大切である。
家族のコミュニケーションが、旅行やイベント等にかたよりすぎているように感じる。どこかのテーマパークに行かなくても、お祭りがなくても、近くの公園で思いきり遊ぶだけでも充分だと思うのだが。親の注意が子どもの頭の上を素通りしていることが多いのが気になる。子どもの耳に入らない注意ならしない方がいいのかも。伝えたいならきちんと意識を向けさせる言い方、伝え方をすべきだと思う。保育園でがんばっている分、家でわがままが出るのは多少仕方がないことだとは思うが。
日々の生活が忙しく、保護者からも関わる時間が持てず悩んでいるという声が聞かれる。現在のクラスにおいては大きな問題と考えられるものはないが、母親が忙しかったり、また気持ちが向いていないと感じると、体の痛みを保育士に訴える子の姿などは見られている。
具体例があげにくいのですが、バランスが悪い親子関係が増えているように感じています（ex. 親の前ではいい子、親よりも権力を持っている子など）。このような親子関係には、問題を感じずにいられません。親子関係ほど大切なものはないので、ぜひコミュニケーション能力について親が学んでほしいと思います（保育士も保護者にレクチャーできるくらいになったほうが良いと思います）。私の知っているところでは、親業講座というのがあり、ここではかなり具体的な事例を使ったロールプレイを行います。使ってはいけない12の障害となる言葉というのを学ぶだけでも大変役に立つと思います。
家庭それぞれの方針があると思うので、問題点を感じることはないのですが、心的ストレスを抱えている保護者とその子どもに対しては細心の配慮が必要だと思います。小さなことでも気付き、気持ちが少しでもプラスに働くよう言葉にして伝えていくことを大切にしています。
親のペースで子どもが振り回されてしまう。もっと子ども中心の生活を心がけるよう親に話す必要性を感じます。親が本来の子どものあるべき姿が見えなくなっている。
0歳児クラスなので、会話といったコミュニケーションはまだ取れませんが、スキンシップなどのコミュニケーションが少ないのでは？と感じます。また、どうやって遊んだらいいのかわからないなどというお話も保護者の方から伺います。日常の会話、保育参観、保護者面談、保護者会などを通して、子どもと触れ合って遊ぶスキンシップをとれる方法を保育士が保護者の方に伝えていけたらと思います。
忙しい保護者が多いため、子どもと触れ合う時間が少ないと思う。保護者の方から、今日の出来事等子どもの話を聞いてあげたり、ひざの上で絵本を一緒に見るなど、短い時間に集中して触れ合うことから始めるのもひとつの方法かと思う。
子どもは“良い子”の部分だけを保育士や周囲に伝えたい姿がある。失敗したり、間違えたり、誰にもあることだが、辛い面を十分に受け入れられてもらえる安心感が、少ない感じがする。苦しい面を肯定したい（いじわるな面も含めて）大人の見方が子どもの行動に大きく左右されている感じがしてならない。
休日にお出かけしても、子どもの中ではどこへ行ったかわからず、保護者が楽しんで、子どもがゆったり楽しめているのかどうか。お迎えの時間は、子どもに支度をせかしながら、子どもの話に耳を傾ける余裕がないように見える。保護者の方も忙しく仕事をされているので、お迎えのときにホッとできるスペースがあると、子どもともゆったりと向き合えるのかと思う。

保護者の就労時間が長く、コミュニケーションする時間が短い。
連絡帳を取り入れているが、家での様子が解りにくかったり、伝わらないことがある。忙しい保護者が多く、休日はどこかへ出かけることが多く（これは良いことであるが、毎週だと疲れが出る）疲れが残ったりしている。日頃のコミュニケーションが見られない。（普通の関わり、言葉のやりとりが、重視されずにいる。私はこの何気ない関わり・やりとりが大切だと考えている。）
家庭より、保育園が好きな子が多い。こちらにしてはありがたいことではあるが、第一の母とのかかわりはどうであるのか？疑問に感じることがある。何でも子育て支援として受けることには疑問を感じる。ここまでは保育園、この部分は家庭というのをしっかり知らせるべき。
保育園大好きな子が多い。
家庭ではわがままを言って親を困らせるけれど、保育園や学校など集団の生活の中ではそれなりに感情をおさえて生活できるというのが以前の様子だったと思うのですが、逆転をしている子が見られるようになっていく。親の前ではいい子で、他人にはやりたいことをやってしまう。親の前で素直な自分を出せる必要性を感じるとともに、親に愛されている、守られているという感情をもてる子育ての手助けをしていきたい。 兄弟姉妹なのに、からまりあって一緒に過ごすことが少なく、例えば送迎の担当も父母で分担されて別々だったりして、きょうだいとしての育ちが足りなくなりがちなところも気になります。第2子出産後の保育について、育休のとり方考え方など受け入れすぎでは？と思われるところがある。
子どもが“親ともっと一緒にいたい”というサインを送っても親がキャッチしない。自分の子どもはできると思ひこみ、子どもというより一個人として扱い、その扱い方が4歳児ではなくもっと上としてみている。そのことを苦しい思いながらも、期待にこたえようとがんばる子ども。お互いの思いにズレがあるのを感じる。しかし親はプライドがあるのでこちらとしても踏み込めない状況。
子どもの内面の成長よりも見た目で判断しているところが多い。又忙しさのあまり親中心の生活で、子どもとの会話や遊びの時間が少ないのが気になる。親子としての絆を作っていく基礎となる年齢で、このような関わり方でよいのか？疑問である。
少数ではあるが、親子の愛着関係が希薄に感じられる子がいる。テレビ、DVDを観ている時間が長く親子の会話やスキンシップが少ないのではないかと。コミュニケーションの大切さを知らせていながら、園では十分にスキンシップ、会話を楽しんでいる。
子どもたちが家では1人遊びをしていたり、テレビやビデオをみたりという記述が連絡帳の中でもよく見られる。少しの時間でも、子どもとの時間をもち、子ども自身が満足できる機会を増やしていくことが大切だと思う。
親子関係の希薄さや半面、依存し合って親らしい態度がない方も時にみられる。子どもの発達理解がみえずあれも、これも出来ない事だけが気になる。子どものせいにして、子どもをせきたたり叱ったりする。待つゆとりがみられない。家庭の中でじっくり子どもに向き合う経験がなく、休みの度に外へつれて過ごすことが多い。※保護者会で共通の話題をとりあげて気づき合うこと、絵本からの学び、などを進める。
子に対して、保護者が対等になっている家庭が多い。“自由、自主的、自立、自律”と“わがまま”の判断が難しいようだ。子どもの主張を聞いてあげようという姿勢なのだと思うが、逆に、言い聞かせることができなくなっている気がする。親への甘え方が上手でない、素直でない子が増えている。家庭内でのことは日々の連絡ノートや特に面談等でもしれない限り、はっきり見えてくることはなかなかないが、保護者からの相談や、日常の子どもの様子から解決できる部分は一緒に考えていきたい。
多忙な保護者とふれあう時間が少なすぎる。仕方がないことだが、どうしても生活に追われてしまう中でも、10分でもいいから、子どもと向きあう時間を作って欲しいと保護者等に話している。
世の中が忙しすぎる…と思う。時間もゆとりもなく、ストレスをかかえた保護者が多すぎる。会えるわずかな時間を有効に思っても疲れて、向き合えない日もあると思う。せめて、寝る前の絵本タイムや「〇〇ちゃん大好きだよ」という一言を、言葉に出して言うこと、この2つの事を、保護者にも伝えている。多くを要求せずできることからコツコツ。小さなことを、大切にしていこう。
家庭での（実際）本当のコミュニケーションは見られないのでわからないが、園でかい間見られる状況や聞くこえから想像するのみ、親子のコミュニケーションが円滑な家庭は親子ともども安定している。親がある程度、真剣に子育てに向かい努力している家庭。
1歳児クラスだが、物事の色々なことがわかってきているものの、うまく言葉で伝えられない部分も多く、大人は（親は）それを知っているようで意外に理解できていない部分も多いと感じている。子どもの気持ちの汲みとり方や、共感していくことの大切さを知らせていくようにしている。又、続けてそうしていきたい。
今現在、家族のコミュニケーションは大きな課題だと思います。そのフォローをする保育園がなう事柄は、大きいと思います。その家族のケースにより違うので、1つにはしぼれません。
取れている家庭と取れていない家庭が極端である。急がしくても時間ではなく中味の関わりの問題なので、急がしいという事が多いが理由ではないと思う。一番大事だということを保護者会など機会があるごとに伝え、会の中でもやりとげたりして考えていく。
上手に出来ている家族がほとんどだと思う。親が、一人の人間として認めて欲しい気持ちは十分わかるが、それを子どもにも求めてしまう親もいる。その場合、子どもの気持ちとすれ違うことがあり互いに上手くいかないときがある。経験の中での積み重ねであると考えるので、保護者や子どもの気持ちを十分に受け止めていながら、援助し、その家庭なりのコミュニケーションづくりができればよいのではないかとと思う。
テレビ、ビデオ、ゲームの影響大。又、お父さんの帰宅が遅いのも一因かな…。安易に与えないことを社会全体で考えられると良いと思います。又、お父さんが、毎日は無理でも週2-3回でも早く帰れる社会になるといいです（子どもが小さい時こそ！）。

<p>“コミュニケーション”とは少しズレるかもしれませんが、保護者の過度の期待により、家ではイイコ、保育園でその分発散…という子が結構います。それ以外にも、家と、保育園で見せる姿がちがいで、(保育園の姿を家では見せない)保護者が考える子どもの姿との間に、ズレがある場合があるので、保育者が、園での子どもの姿を大切にしていけることが大切だと考えます。</p>
<p>忙しい中では、生活(食事、入浴等)におわれなかなかコミュニケーションがとれないと感じる家庭が多いように思う。少しでも家事の手ぬきなども考えながら、ゆとりをもって接する時間がとれたらいいと思う。</p>
<p>家族との時間が少ない場合もある。父親が忙しく家族との時間が少ない場合も多い。親が、子どもからコミュニケーションを持ってくれると思っている人もある。どのようにコミュニケーションを取ってよいか分からないように思える。核家族で少子化で育った親が多くなってきたので、どうしていいか分からないのかもしれない。親支援が必要だ。学校の教育のなかでも子育てについて、考えていかなければならないのではないかな!</p>
<p>家族に気を使い、自分を出していかなかったり、わかってほしくて、きもちと反対の行動をとっている。何らかの形で、伝えていく必要があると思う。</p>
<p>親に甘えられない。兄弟姉妹がいるため、関わり方が薄い。親が過剰なほど、神経しついで、子どもも遠慮してしまう。解決、甘えられない子は、保育園でしっかり受け止めたうえで、面談時に、家庭での状況や子どもの気持ちを伝えて解決する。</p>
<p>家族との間に入るのはプライバシーもあるのでできません。親が気づくまで待つしかありません。</p>
<p>朝早くから夕方遅くまで保育園にいて、家族とのコミュニケーションが取りづらくなっている。社会全体で子育て期間中は就労時間を短縮すべきである。一部の企業ではやっているようであるがそれが全国的に広がる事をのぞむ。</p>
<p>仕事が忙しすぎて、子どもとゆっくり関わる時間がとれない。そのため、テレビやDVDを見せる時間が長くなってしまふ。社会全体が子育ての大切さを認識し、システムだけでなく、休みやすい子育てがしやすい環境が大切だと思います。</p>
<p>育児のみでなく、自分自身のことも見て欲しいとおもっている人が増えていること。又、自分のおもいを全て受け入れて欲しいという要求が高くなってきているとおもう。又、一方では自分の生活はしっかり守りたいという様子も多い。しっかり話をきき、受け入れながら、子どもの成長発達の様子をしっかり伝え、共感していかなければならない。子どもの成長を共に喜ぶことにより、子から家族へのコミュニケーションもひろがっていくとおもう。</p>
<p>テレビ、ビデオを観て数時間過ごしている。→一方的な受け身の状況。 《取り組み》1日のうち短時間でも良いので、子どもの立場になってコミュニケーションを図って欲しい。相手の立場になる→思いやりが持てる心→愛情が持てる心。</p>
<p>保育園では、おとなに対して反抗的だったり、乱ぼうだったりする子が家庭ではとてもお利口になっているというパターンが時々ある。家庭で遠慮したり我慢したりしているフラストレーションがでているように感じる。上手に愛情を伝えることができず、子どもに不安感を与えてしまったり、いそがしくて、十分に接してあげることができない等も一因のようにおもう。</p>
<p>どんな自分でも「愛されている」と感じている。その気持ちが自己肯定感を育てるが、保護者は我が子を「愛している」と具体的なサインを毎日毎日送っているだろうか。保護者の受け入れられ体験を大切に、支援する必要がある。</p>
<p>保護者の就労体系が変化し、子どもと接する、関わる時間が少なくなっていると感じます。そのため、子どもと会話することや、あそぶ時間が少なくなり、子どもも家族と一緒にすごし、ゆったりとした時間を送れなくなっていると感じます。保護者の時間、気持ちにゆとりがなければ、子どもが家族とのコミュニケーションを取りたくても無理になると思います。 (5)で答えたように大人のリズムで子育てをしている家庭が多く、保護者の方も子どもと向かい合って関わり、コミュニケーションを取ろうとしなければ、良い親子関係、コミュニケーションは取れないと感じます。</p>
<p>子どもの思いと保護者の姿にズレを感じることもある。</p>
<p>問題点①保護者が子が求めているおもいを、おもんばかろうとしていない。②小さい子をカレ、カノジョとよぶ父母は積極的に親の価値観を知らせようとせず、対等との感覚でつき合っている。③子のいうなり、子の後をおいかけている。 取り組み①子によりそい、子が求めている心に気持ちをよせる大切さをくり返し、行動の事例をあげて話をする。②とに角、子を「愛している」「大好き」ということを父母のことばで、表現できちんと伝えてもらう。</p>
<p>休日等テーマパークや話題のスポット等人が大勢くる所へいき、家族ですごしたいと思う人も多いと思うが、小さいうちはそれが負担になることも多い。近くの公園で思いきり体を動かして遊んだ方が満足する時もあるのでは。</p>
<p>親の要求が強くなっているの、子どもにとって良いと思うことも受け入れてもらえないことがある。</p>
<p>早朝・残留保育の家庭が増えて来て、なかなか保育園での様子や家庭での様子を細かく伝えられない。保育士が残って伝えたり、家庭での様子を聞いたりする事もある。なるべく会えた時は一言でも多く話す様心がけている。</p>
<p>平日は、親と接する時間がほとんどない。親は保育園に頼り過ぎてはいないだろうか。保育時間が一日の大半を占めてはいるが、基本は家庭にあるので、ちゃんと我が子を見つめて欲しいと思う。</p>
<p>2歳児クラスとして、ひとりひとりの様子をみている状態です。</p>
<p>平日はほとんどとれないとのこと、土日のみ。休日を増やす、ノー残業デーをふやす。</p>
<p>忙しい保護者が多いが、忙しくてもきちんとコミュニケーションのとれている家族、時間にゆとりがありそうだが、そうでもないような家族と様々のようだ。何でも、大きくとらえてしまうと無理がいくので、食事の時や、風呂、寝る時に、ちょこっと、子どもの話を聞いてあげることでよいのではないかな。</p>
<p>こどもの不満の表わし方をみて、自分の方に向けてほしいというサインをこどもは無意識に出している。家庭での過し方の見直しや団らんのもち方の意見を家庭と保育園で交換しあい、子どもの気持ちに伝えていく。</p>

<p>保護者は仕事が忙しく余裕がない家庭が多い、時間におわれている中、子どももその状況をよくわかっている。その為、親の前ではいい子、親の期待にそようにする子もいる。その分、保育園で甘えなどを出している。ほとんどの間に言えることだが、一人一人の話しを聞き、ていねいにみていきたい。保育士を増やしてほしい。</p>
<p>忙しい現代だからこそ、短時間でもいいので、親子で深いかかわりを、築いていってほしいと思う。一緒に食卓を囲む、お風呂にはいる。一緒に布団に入り、絵本を読み聞かせてあげたりしてほしいと感じる。</p>
<p>母親一人への育児負担が大きく、家族の中でも片よりが著しい。疲れれば会話も少なくなり、言語発達に影響が出る。互いにどう関われば良いのか…地域の枠ではなく、家族のコミュニケーションが不足していると感じる、都市集中型なもの、原因となるかと思う。母が休む為に地域で分離して、サポートするのではなく“近隣のおばあちゃん”的なサポートが必要かと思う。</p>
<p>親子との関わりの面で見られると思います。子どもも保育園保育士の前なら主張できるとあって、親に対してこまらせた強気になったりする場面を見た時。見守りながら、親が子に対応できない時は仲立ちとなりフォローしています。</p>
<p>保育士の「おっぱい」に異常に固執するとか、親にぶつけられずに保育士にぶつける子もいる。なかなか奥の深い物があるのでしょうか。子どもたちにむけてというか、保護者に対しての、支援が必要だと思う。</p>
<p>各自の考えが多様化し、一定の方向性を打ち出せない。</p>
<p>例えば子どもに必要なことを伝えていない。お腹に赤ちゃんがいるときに上の子どもにきちんとその事を伝えていない。育休でも産休でも保育園に登園させるのもよいが、上の子がいると赤ちゃんの世話ができないという理由の方もいて、子どもにとってどうなのか疑問に思う。やはり、姉として兄として、赤ちゃんにどう向きあうのか、自分は家族の中でどういう位置にいるかを赤ちゃんと一緒に世話をすることで話して理解させてほしい。</p>
<p>長時間保育が多く、接する時間が全体的に短くなっている。母親の子育ての負担が大きく父親の存在は平日薄い。又、母子家庭や両親いるが忙しく祖父母が主に子育てしているような家庭が増えている。あたり前の事と思うことも、そうではない現実があることを認識する。「○○して下さい」というアドバイスではなく「○○ならできる」という具体的な方法をアドバイスする（例、お風呂に入ったら園の様子をきいてみる、歌をうたう、絵本を1冊よむ、手をつないで帰る等）。</p>
<p>コミュニケーションをとる方法として、どこかに連れていかなくてはと思うのか、休日のたびに遊園地、イベント会場等に連れていく傾向があります。家の中で遊ぶというの（手伝いしたり家の中で遊べるゲーム（トランプ、オセロ）など、あたり前の生活の中からコミュニケーションがうまれると思う、向かい合う大切さ。</p>
<p>保護者の方も家事と育児をこなす中で、子どもたちの訴えにすぐに対応してあげていないケースもあり、欲求不満になってしまう子もいる。保護者とのコミュニケーションを図り、お互いに話し易い関係をつくっていくと共に保護者会などで、他の保護者のアドバイスを聞く機会もつくっていく。</p>
<p>ふれ合い、会話が少なくなっているなどと思う。子どもの気持ちにおかまいなしで、一方通行の愛→結果、満たされていない。よく出掛ける→子どもは楽しいのか、疲れ気味に思う、ような場所。</p>
<p>家族コミュニケーションが希薄になっている傾向にあるように感じます。DVDを見てすごしてしまう子どもたちも多く、また保護者の方たちも疲れ果てて、とても相手できない現状もあります。ふれ合いは量より質ということを伝え、仕事と家庭をしっかりと切り替えわずかな時間でよいですから、しっかりと我が子と向き合い、我が子を受け入れる時間を過ごして下さいとお願いしています。具体的な接し方過ごし方もお教えしています。</p>
<p>子育ては待つてあげること、子どものわがままにたえることということが理解できていない。大人のものさしで、子どもを受け入れられない親ばかり。高齢になるまで自分本意の生活スタイルを大切にきて、大人のくらしに子どもが一人という家庭ばかりで、親達の生活スタイルに、子どもが合わせようと努力しているのがよくわかる。子どもが無理をするコミュニケーションのとり方が、涙ぐましい。子どもとはこういうものという学習が大切。小さい頃から大人の中でひとりっ子という親も多いので、子どもというものの赤裸々な部分を話させてほしい。</p>
<p>生活リズム（時間帯等）各家庭によって違うので、いちがいに言えないが、忙しい親が多いので、時間をとるのは難しいのではないかと感じている。</p>
<p>保護者が忙しく、十分に相手をしきれない子どもに対しては、その日の様子をみながら、特に配慮している。</p>
<p>家族としてのコミュニケーションを取っていると思うが、一人一人の人間としてコミュニケーションを取っていないように感じる。親は「子どもだから…」と思って接しているが、人間として、気持ちを理解できるようになってほしい。子ども中心の生活を少しは考えて欲しいと思う。</p>
<p>家族揃ってという家庭も、もちろんあると思うが、例えば、上の子は父、下の子は母等と役割担当を決めての行動も最近が多いように感じる。それで、コミュニケーションがはかれるのだろうか？と疑問に思う家庭も増えていると感じる。</p>
<p>夜遅く帰って来た時、どうしても子どもと触れ合いたいと起こしたり、眠るのを待たせる、という話を聞いたことがあります。やはり平日は子どもの睡眠を大切に、休日にその分一緒に過ごす、ということ考えた方がいいと思います。</p>
<p>家事などに追われて、スキンシップがしっかり取れていない家庭がある。家に帰って、食事、入浴をして寝るだけになってしまう。食事一人一人で食べている子がいる。</p>
<p>忙しさからくるのかも知れませんが、子どもが親に関わりをもとうとしている時に親は違うことに気が入っていて、親が子どもに話そうとする時に子どもは自分のやりたいことがあるといったように、かみ合わないことがあるのかなと思います。</p>
<p>親の方が子どもへの関わり方がわからず、双方思いがいきちがっていることがある。具体的な関わり方を知らせアドバイスしていく。</p>
<p>子どもが親に対し、気持ちを伝えられない、伝えても聞いてもらえない。受け止めてもらえない、理解してもらえない家庭がたまに見られる。その時に家族とのコミュニケーションが出来ていないと感じる。</p>

<p>家族の中で、会話が少なかったり、ビデオ、テレビの時間が長い家庭がある。保護者会で、メディアの時間を短縮することや食事中はテレビを消すなどの働きかけが必要。</p>
<p>保護者の方と子どもたちの思いがくい違っている部分がある。子どもたちに望むことが多い。ありのままを受けとめてほしい。</p>
<p>親中心という生活もみられ、子どもの言葉へもう少し耳をかたむけてくれたらと思う時も多々あります。</p>
<p>1日の中で顔を合わせる時間のない日がある。親のその場その時の気分で子どもへの対応が変わる。子どもの話を聞かずに一方的に怒鳴りつける。子どもの気持ちが不安定になる。</p>
<p>保護者が迎えに来て、嬉しそうにせず、その場で遊び続けていたり、なかなか帰ろうとしない子どもを見ると、親子関係が充実していないのかと心配になる。また、必要以上に保育士にまわりついてくる子どもも、家庭での愛情不足が関係しているように思われる。 保育園での様子、主に上手にできたことや、とてもかわいかったことなどを、たくさん保護者に伝え、家庭では見られていないかもしれない子どもの良さを知ってもらおう。</p>
<p>子どもの思いと親の思いとに差がある。子どもが家では良い子でいようとする（親の理想が高い）。その分、自分の思いを発散する場所を親の見えないところとする（保育園などで）。親に気を使い、甘えきれない子が増えてきている。保護者に伝えても理解してもらおうのが難しい。現実の姿をみてもらうしかないが、みてもらう機会も少なくなっている。</p>
<p>両親が多忙で時間に追われていると、子どもが何を要求しているのかに気づかず、大人の要求を押しつけてしまっていたり、会話や気持ちのキャッチボールが上手くいかないようなところがある。大人も、コミュニケーションのとり方が苦手になってきているのではないのでしょうか、パソコンや携帯などでのやりとりは上手にできるが、会話などが苦手という人が多くなったように思う。子どもと一緒に楽しむ時間を多くし、子どものことを分かってあげることは大切だと思う。</p>
<p>多くのご家族は、豊かなコミュニケーションがとれ子ども達も大変おだやかで安定していますが、時として子どもの気持ちに寄り添って、子どもの要求を受け止めることが難しくなっている場合があります。</p>
<p>言葉数が多すぎて、子どもの言葉をまってあげない、先取りする、言葉ではなく動作や仕草で表わして、コミュニケーションが育たない。DVD等メディアを見せる（聴く）時間が長すぎ肉声に馴染まない。機械音が好き。人間の言葉で意思を伝え合う経験が乏しいので、集団の中で一斉の指示が理解できなかつたり、友だちに必要な言葉で伝えることができずトラブルになる。 絵本の読みきかせ等をすすめる。メディアの弊害について、権威ある学者が言いましょ。保育士の言葉は響かないですよ。</p>
<p>家族で過ごす時間が少ないが、その時間を有効に使っている家（一緒に遊ぶなど）と会話が少なかったり、子どもだけで家で遊んでいる家とでは、子どもの様子（イライラなど）に違いが見られると思う。 問題の解決に向けて：親子で参加できる行事を催し、子どもの普段見られない部分を見て、会話を増やしていけるようにする（参加できない保護者には様子を細かく伝える）。</p>
<p>多忙な日常の中で希薄になっていることは感じます。大人の都合、自分の時間も大事ですが、子どもが大人を求めていることを知り、限られた時間の中で向きあおうとする姿勢が大切です。</p>
<p>（家族とのコミュニケーションとちょっと離れるかもしれませんが…）子どものありのままの姿を受け入れることが“難しい親”。親の気持ちを前面に出し、子どもの気持ちが理解できないことが多い。子どもは親が大好きなので、親の前では親の望みに近づこうと努力しよい子になっている。その反動が保育園で出る。大人にかまってもらいたい自分の方に向いてほしい。友だちとトラブルを起こすなど… 〈問題解決にならないかもしれませんが〉保育参観をしています。親の知らない子どもの姿を見てもらい、知ってもらうことからスタートしています。保育士のかかわり方、友だち関係、子どもの受け止め方など話し合えるとよいですね。※コミュニケーションは時間よりも質を重要にしていきたい。</p>
<p>朝から夜までの保育時間が長く、平日、家庭で過ごす時間が短い子は、少しでも大人の気を引きたくて問題行動を起こし、円滑なコミュニケーションがはかれなくなっている。 →保護者の気持ちにゆとりが持てるよう、子育ての役割りが社会の中でもっと重視されるべき。短時間でも、子どもと一緒にあそぶ。子どもの為は何をしてあげられるのか、親が意識する必要がある。</p>
<p>子どもを赤ちゃん扱いしているようで、保育園では出来る事を家では、やらない、やらせていない（衣服の着脱、食事など）。子どもとの遊び方のわからない保護者は、大人の用事にあわせて、いっしょにいてだけで、遊んでいると思ってしまう、子どもにあわせた遊びができない。</p>
<p>親は子どもの、いいなりで、「先生の言う事はきくのですが…」とよく耳にします。まだ4～5歳の年齢で親の言う事を聞かなくなってしまい、将来どうなってしまうのでしょうか。もっと、我が子に対しての、自分の思いをストレートに伝え、戦う（変な意味ではなく）事も大切だと思います。それはすごく、大変なことです。</p>
<p>きちんと、子どもと向き合わなければいけない時なのに、仕事の方を優先しているように思う。子どものことを、理解していなく、園と家庭とのギャップがあることに気づいたりしている。子ども中心の生活をする必要があると思う。</p>
<p>仕事と家事で子どもと過ごす時間が物理的に短いとは思いますが、大人のやる事につき合わせて一緒に過ごすのではなく、子どもの遊びにつき合う時間を1日の中で必ず作ってほしいと思います。テレビをよく見てすごしている子がいます。園で、どう遊んでいいかわからないのか、玩具で遊ぶことが少なく部屋をうろうろしていることが多く、遊びに誘っても長続きせず1人で話をしたりうたっていることが多いのが気になります。</p>
<p>やたらベタベタする。1対1で関わってもらいたがる。大人でもコミュニケーションがへたな人がいるので、時間のゆるす限り話しかけていくようにはしている。</p>
<p>1歳児の子どもに対して、主体性を持った大人と同じ様な言葉かけをしている様子が見られる（例〇〇ちゃんは何食べる？など）。遊びの面では必要な言葉かけと思うが、生活面では子どもにはまだ判断能力がなく、個性の尊重を間違っ解釈している。又、休日の生活面では体調の悪い子どもを連れ外出するなど食事、睡眠での尊重と逆転している。</p>

<p>家では短時間しか過ごさずわからない部分を知らせたり、保育園で休息を取らせていく。言葉での関係のみでなく表情、態度、仕草などから欲求を知る方法を、知らせていくことが必要。</p>
<p>親とは話をしても、話をしっかりと受けとめてもらえない子、また主張をしようとしても、親からの圧力で言えない子が見られる。親が多忙な為に、子どもとのコミュニケーションを取る時間が少なく、子どもの求めている事がわからず、気持ちにズレが生じるケースも見られる。</p>
<p>早番から延長番まで入っている子の親とは、会える機会がなくコミュニケーションを深めるのは難しい。連絡帳だけでは思うように伝わらないことが多い。</p>
<p>子どもの求めていることがわからない。親は子どもに愛情はあるだろうが、親と子の歯車はあまりあっていないように感じる。抱きしめればよいのに、ことばのみで終わってしまう。接し方など具体的に伝えてもよくわからないようだ。保育参観などで、一緒にあそぶ楽しさや、関わり方など、頭ではなくからだで覚えてほしいと思い、少しずつ実践している。からだを動かしたあとは、楽しかったと感想はあるが、自分がやる、となるのには、まだ時間がかかるかも…。</p>
<p>忙しさから子どもが話をしても、しっかりと聞いてやったり受け入れてもらっているのだろうか。子どもの言うがままにさせたり、言いかせるということがむしろかしく、どう接していったらいいのか悩むといったことを耳にします。赤ちゃんの時から「まだ言ってもわからない」と思わず、その年齢なりの話し方で1つひとつ積み重ねていくことだと思う。気持ちを受け止めていくことと、我ままを通していくこととは異なる。</p>
<p>親が子どものいうがまま、どうしてこうしてほしいのかをきちんと説明して分ってもらうことをせず、子どもがこう言ったからこうしました。子どもがこれしかしませんがそうしました。と確かに年齢の小さいうちは、たいしたことではないのですが、その1つ1つを重ねていって、お互いに相手の気持ちを分ろうとしてコミュニケーションをとっていくのではないかと感じています。気持ちを受けとめることと、子どもの思う通りにすることは違うと思うのですが…。</p>
<p>子どものコミュニケーションより、更に難しい昨今である。私達は、数多くの子ども達と付き合い、いろんな状況を把握している。食事のこと、睡眠のこと、活動のことをお話するとき、一人ひとりの対応を考えた上で話をしていかなければいけないことは、以前とずいぶん違ってきているように思う。子どものことを話しても、きっと、受け入れられないほど忙しいか、生活に病んでいると思われる。子ども同士のトラブルにしても、起きたこと、ケガ等は、どちらのこともきちんと伝え、かくしごとをしないこと、繰り返さず伝えることが大切である。</p>
<p>子どもの様子を話しても問題とは思わない。子どもをよく見ていない。どうみてもいけないことをしているのに注意をしない親がいる。他人に叱ってもらえばいい…と。保護者と私達との関係もうまくいっているようで多分まだお互いスキ間があるのだろう、ただきちんと話せる親とトラブルになりかねない親がいるので、そう思うとも言えないこともある。子どもにきちんと言い聞かせられない。ダメなものをダメと言えない。その都度、話をしていく。</p>
<p>園にいる時間が長すぎて、コミュニケーションがとれない。休みの日も家族との関わる時間が少ない、またコミュニケーションをとろうとしない。とることを(方法)知らない。→何げないスキンシップがコミュニケーションの手段だということを保育参観(加)などをとおして、知らせていく。</p>
<p>両親が忙しく余裕がない、愛されているという実感がなく、気持ちが淋しい、両親の気をひくような姿が多く、とことんまで手こずらせている。数分でもいいので見つめ合う時間を持つよう伝える。にらめっこなど遊びを具体的に知らせていく、子どもの変化を共に喜んでいく。スキンシップの時間を保育園でも持って、家庭にもその方法を具体的に伝えていく。</p>
<p>親から目を向けられていない。親に甘えきれない。えんりよする。</p>
<p>問題点：親に気を使い、いい子にしている。家族団らんが少ない。習いごと、日々の生活に追われている。親中心の生活。取り組み：家族の大切さ、きずなを具体的に知らせていく。伝えていく。</p>
<p>保育園では、我まを出し、家では遠りよし、父母に、自分を出せないというケースがなかにあり、少しずつ、増えているように思う。家族の関係に立ち入ることは難しいが、園ではしっかりと受けとめ、保護者には何か努力をしていくしかないと思える。</p>
<p>仕事が忙しい親が多く、両親そろって食事をすることが少ない。子どもにあまり目を向けていない。ゆっくり関わってあげることが少ない。</p>
<p>親子とのかかわりの時間が少ない。少しの時間でも子どもと向き合い、時間を大切にしよう話しをしていく。</p>
<p>昔と違い親に悪いところをみせたくない子が増えている。ほめられたいというのとは違い、良い子でないと認められないという感じがする。親にとって都合の良い子(手がかからない、成績が良い等)に子どもも基準をあわせられているように思う。子どもの良い面も悪い面も含め、うけとめつつ大切にかかわる姿を保護者に見せるようにしている。</p>
<p>親の仕事が休みの日でも保育園に子どもをあずけ、自分のリフレッシュばかりを考えている人が以前に増して増えている。子どもと接する時間が少ないにも関わらず、早く迎えにくることもなく(休みなのに)6:15まであずかってもらって当たり前という。子どもは親を求めているという気持ちを伝えても“でも自分の時間”を大切に、子どもは二の次という人が目立つ。 →社会全体をかえていかないことにはムリ。残業があたりまえ、会社の利益ばかりを追求し、子育てに負担がありすぎる。子育てに負担を感じているのに、断われない、キャリアに響くなどの社会がおかしい。</p>
<p>良く話しをする親と、あまり話しをしない親がいるが、あまり話さない親には、声をかける努力をし、話しの機会を増やし、コミュニケーションをとる必要があると思う。</p>
<p>ご両親が、仕事がお休みの日でも、どこにも行かず、子どもとのかかわりもない。園で過すより、休み明けの登園の方が、落ちつきがなく不安定になる子もいる。一日中、ビデオを見させられたり、又、休みの日は、近所のうちや親せきにあずけられたりしている子もいる。また逆に、休みだからと、色々な場所へ連れていかれ、大人の都合でふりまわされ、休み明けの登園日は、疲れきっているなど。 各家庭からの連絡帳をしっかりと把握し、その子に合わせた対応をしつつ休み明けの園での様子をノートで伝え、お会いできる方には、お話しし、話し方の提案をしてあげるなど。また、子どもと出掛ける良いスポットなどを園便りで知らせあげたり、他の保護者の方からのアドバイスを載せた記事などものせてあげたり。</p>

<p>姉、兄と比べているだけだったり、子どもと対一のコミュニケーションに悩んでしまったりする保護者がいる。保護者自身がどのようにコミュニケーションをとっていいのかが分からないのではと感じる。</p>
<p>メディアにたよる傾向もみられるので日々の中や面談、保護者会などで、家族のコミュニケーションの大切さを伝えている。又、園の講演会を開いたりしている。「子どもとメディア」講師・園医。</p>
<p>日常、就労している親は仕事で疲れて帰ってくる。又、時間も子どもが眠ってしまってから…という事も多々耳にします。ご家庭で、お休みの時、家族で外出する事ができる様、園のおたよりに、今の季節ならこんな所がおすすめですよ…といった、おすすめスポットをお知らせする事でご家族のふれあいができたらいいなと思います。</p>
<p>毎日、仕事で忙しいので休日は家族でどこかへ遊びに行く、というのが大変多いです。遠出するばかりでなく、とにかく日頃から子どもと向き合ってほしいなあと感じます。</p>
<p>子どもだけの考えを中心にしたり、大人だけの考えを中心にしたりする事が多いと思う。何でも片方だけが良いとはかぎらない。</p>
<p>保育時間が長くなり、保護者と顔をあわす機会が減っている。連絡帳で表現することは難しい。職員も当番のため、ゆっくり話をする時間がとれない。</p>
<p>家庭では、慣れ親しんだコミュニケーションがとれば良いと思うが、やはり、幼児クラスの子になると、はじめが必要になると思う。フレンドリーな親子のコミュニケーションもある程度は、必要だと思うが、子どもと親が対等になりすぎたり場合によっては、子どもの要求のまま、大人が動いているのはどうか？と感じる。</p>
<p>親が子どもの言いなりになったりしている様子が気になる。親として“子どもにどうあって欲しいか”と言う子ども観がない。又、“子どもを尊重する”と言う口実で子どもに振りまわされる等である。又、反対にいつも周りからみているだけで、働きかけ、言葉かけのない親もいる。どう解決したら良いのかは少しずつわかってもらうしかない（話しをしていく）。</p>
<p>休日等、買い物で終わってしまい、子どもとの関わり遊びが見えてこない。保育参加・参観か面談を通して、どのように子ども達（我が子）と関わっていったらよいかを見てもらったり助言していくようにする。</p>
<p>父母の就労時間が遅く、父か母としか食事をとれない家庭がほとんど。週末にいっしょに食事をたべられない家庭もあるほどだ。家族の暖かさ、自分の居場所、安心できる場所、団欒はどこに行ってしまったのか。家族いっしょが楽しいと思えるようになってほしいが難しい問題です。</p>
<p>忙しい毎日の中、朝のあいさつからしない家庭が多くなっています。ちょっとした会話あいさつが大切だと思います。</p>
<p>我が子を本当にかわいいと思っているのか？と疑問に思う家庭があります。大人の都合で子どもを犠牲にしていたり、子どもを中心とした生活になっていない etc...</p>
<p>大人が中心の生活になってきていることを考えると、希薄になっているような気がします。降園してから就寝までの短い時間のなかでも、触れ合う時間を作っていけるとよいと思います。</p>
<p>やたら「だっこー」と甘えて来る子に「パパとかママとかやってくれないの？」と聞くと「だって、ダメだっていうんだもん」という返事が返って来る。休日は、子どもと触れ合う時間を持つようにすると良いかと思っています。</p>
<p>家庭での会話が少ない。 解：少ない時間を使って会話をしたいことを伝える。</p>
<p>家族は本来、一緒にいるだけで安らぐ関係ですが、時にはこれが当たり前にならないケースもあります。家族同士、お互い大切な存在、信頼、好きという気持ちを通い合わせることがあれば心配はないでしょう。今は、核家族だけでなく、育児についても不安だったり仕方がわからない親もあり、それがコミュニケーションにも影響していると思います。仕事など時間のない中でも、一緒に過ごす時間を自分の物だけにせず家族皆のものにすることも困らんにつながります。</p>
<p>兄姉に対してわがままを通し、ガマンしたりゆずりあったりしていない子が多いと思います。保護者に対し、兄、姉もガマンばかりするのではなく自分を出して遊ぶことが大切、という事を伝えていく機会をもつと良いと思います。</p>
<p>親の職業にもよりますが、親自体「子どもの親」を第一優先とせず、自分の仕事を第一と考えるようになっている現代社会の風潮があるように思います。そういう意味で淋しい想いで親子離れ離れで過ごす子どももいます。</p>
<p>母の帰宅時間が極端に遅く、母とのコミュニケーションが帰宅から就寝まで、少しもとれずに、登園する子がいる。保護者からの声かけが、子どもの心にとどいてないと、感じることもある。保護者が、きちんと、子どもと向きあっていないため、子どもが落ちつかない様子の子が多い。</p>
<p>大人の視点で過ごしている親が多いようで、子どもの話をきかなかったり、頭ごなしに叱ったり、気持ちを受けてもらえてない。我が子をかわいいと思えない親がいる。いつも受けてばかりだと親も疲れるので、一日のうち一回はしっかり受けてあげようという気持ちを持つていくことが大切なのでは？</p>
<p>忙しい日々の中で、それぞれの家庭で我家流のコミュニケーションの方法を見つける。（お風呂で。寝る前の絵本の読み聞かせ。登降園時の語り etc.）</p>
<p>園での活動で特に困るのは、欠席の時の連絡をいただけなかったり、連絡が遅くなってしまう時で、活動を決定して移るのに支障がでてしまいます。最低限の情報をお互いにきちんとやりとりできるよう、日頃からのコミュニケーションを心がけていきたいと思っています。</p>
<p>コミュニケーションが薄くなっているように感じる。</p>
<p>子どものための時間が少ない家庭がある。親が忙しいため、コミュニケーションがとれていないこともある。</p>
<p>日々の忙しさの中で、お互いに向き合ってゆっくりと会話するゆとりがない→子どもに不満が残る。 子どもの気持ちに目をむけて、受けとめていくこと（共感する）。</p>

素直に甘えられない子。「親にもっと自分を見てほしい」という気持ちが、逆に大人の目からは、禁止的な行為になったりしているのだと思うので、親がもっともっと子どもをよく見てあげるべき。
忙しい家庭が多い昨今ではありますが、外へ出かけることだけが（遠出）、コミュニケーションではないと思うし、毎日、ベビーシッターさんなどが接しており、親との接点は週末だけだったり、朝夜のほんとは一時だけだったりするが、その一時をどのように過ごしているのか…。
子どもの表面の世話はするものの、本当に子どもに向かい合って、気持ちを受けとめているか、考えることが多い。大人の生活リズムに振りまわされていると感じる為、大人の都合でコミュニケーションもとっているように見える。
保護者（子育てをしながら働く者）の仕事状況が厳しくなっており、時間の余裕がないので根本から見直す必要がある。
今日一日のことを話せなかつたりする。忙しい日々の中でも、ゆつたりする時間を設け、子どもから聞けるようにする。
時間のない中でのコミュニケーションは難しいでしょうね。子どもが何をのぞんでいるのか、甘え、わがまま…、しっかり要求を受け止めてあげられる様、日ごろの様子を知ってほしい。
他人行儀な感じを受ける親子がいる。一人の人間として尊重するのはいいが、その前にどんなことがあってもどんなことをしても親にとって大切でかわいくて愛しい存在であるのが子どもだと思う。子どもの性格や行動を冷静に見るのも大切だが、その根底には、愛があって欲しいと思うのだが、感じられない場合もある。
いろいろ生活体系があり、生活があるので、どこで親も子ども満足できる時があるのかが、大切であると思われる。
仕事をしているとなかなか難しいかもしれませんが、もう少し、子どもと向き合い、受けとめてあげてほしいです（その時、無理なら必ず他の時に時間を作るなど）。
母親の体調が悪かったりすると、家では子どもに落ち着いて過ごして欲しいと思うのか、家に帰ってすぐ子どもが寝る様に昼寝をさせないで欲しいと言う保護者もいる。1日保育園で過ごし、帰ってからの親子の触れ合いがないまま、子どもは1日のつかれで帰宅後すぐに寝てしまう。保護者がつかれる程にならない様に、しかし子どもが少しの時間でも十分に触れ合える様、保護者と話し合う必要があると思った。
親子関係に影響を与える一番は、夫婦の関係が時として、大きいと思っています。向い合える場が一番身近な場だからです。子どもの日頃の姿、保護者の方の思いなど、気づいた時には、話せる関係をつくっていくことが、子ども達の為に、とても大切なことだとお互いにわかり合え、話し合う中で、解決の糸口につながっていけたらよいと思っています。

## (6)【設問(14)】 虐待について感じる問題点・必要と思う取り組み

身体的虐待とネグレクト、性的虐待、心理的虐待と、今まで4項目を挙げているが、最近は親のDVの目撃による間接的ではあるが、増えているように思う。これを心理的なものに入れるかどうか別として、離婚家庭の中には、親のゴタゴタによって子どもの心が傷ついているということや、DVを見てしまっただけで子どもの心が傷ついていることに、周囲の目が4項目ほど考えられていない。
子どもの発達を理解していない事が多く、密室で悩む親も多い。話す場の提供が必要。区役所だと行きにくいので、別な場所で相談をできるところや同年齢の親と会える場を作る。
子どもの前で「私はあまり子どもが好きではなかった」等と言う発言はやっぱりかわいそうだと思います。もともと子どもの好き嫌いはあるかもしれませんが、子どもの前では絶対に言うてはならない言葉、言葉での暴力も虐待だと思います。
保護者が心に病を持っている方が多く、それは年々増加の傾向にあるように感じる。「怠慢」というのではなく無意識に（身体的にも辛く）子育てが後回しになり、結果的にネグレクトに近い状況になっている。例：朝食を食べてこない、夕食を弁当、外食がほとんどなど。小学校や中学校で朝食の給食を出しているところもあると聞いた事があるが、全てを社会に任せてしまう事にも、子育てとは何か、家族（家庭）の役割を希薄にしてしまう懸念がある。しかし怠慢ではなく、結果ネグレクトになりつつある家庭については、やはり、サポートが必要であると考えます。しかしその方法は「頑張れ」とか「こうやらないさい」と言えないだけに難しく、これからの課題であると思う。
子どもと一緒にいるのを嫌がる。子育てでストレスを感じている。
親が親として育っていない状況。親自身が病を持ち、それゆえに子育てができない状況。いろいろな状況で虐待が起こるが、そのような状況におかれている子どもは、注意深く観察し、気持ちを読み取るようにしている。そして、早く報告し、未然に防ぐように努めていかなければならない。
精神疾患の母親の子どもに対しては、少し強いしつけや拒否があるのでは？と感じる事があるが、親の病気はかなり深いもので、なるべくその親と子ども2人だけにしないようにしている。園では其の子を全面的に受け入れ、親への負担も少なくなる様、最大限の協力をする。
虐待が行われるプロセスに多々の問題、環境、社会的背景があると思われます。一人ひとりがゆとりを持っているような社会、環境。子どもを育てていくことの大切さや喜びを社会全体が持ってサポートしていく事で、子育ての負担は軽減されると思います。孤独にしない、子育てには多くの人の援助が必要だと思います。また、虐待と気付いたら、そこからはさらに多くの援助が必要です。まず、人手、時間、お金をかけて解決していくように変えていく。豊かな国にしていく事が今必要。
親が肩の荷を降ろして、楽しく子育てできるようにサポートするのが私たち保育士の役目である。日々の保育の中で「〇〇ちゃんはこんな事ができるようになりました」「こんなこと言っていました」等々、一緒に子育ての楽しさを分かち合っていきたい。悩みがあるときは、親身に相談にのりたい。
よくわからない。「個人情報保護法」の問題もあり、その発見や対処については難しい問題がある。ただ、子どもの身体への体罰や異常など、明らかに虐待を受けている事がわかるような状態の時は、速やかに児童相談所等専門機関への通告を怠ってはならない事を、私たち保育者が周知徹底すること。

<p>子育ては、成績のようにすぐに結果が出る事はない。ゆえに、特によい結果を出さないと評価されない。社会に認めてもらえないことを前提条件のように教育を受けてきた人達にとっては自分の子＝評価につながり、思い通りにならないと感情的になってしまう事があるだろうか。我が子がかわいいと思えない、すなわち母親（父も含めて）不幸な存在であり、現代の社会病理のように思える。閉鎖的な社会から一歩抜け出すためには、仲間がいる事を実感する事、連帯感を育てる事ではないだろうか。地域のつながりも大きいように思える。</p>
<p>私は非常勤で、虐待についてクラスの子どもたちのことは良くわかりません。私生活の中で自分も子どもがいるのですが、私も子どもにきつい事を言ってしまったり、叩いた事も何度かありました（虐待ではないと思いますが）。今考えてみると、自分がイライラしている時に、つい言葉や手が出てしまったのだと思います。でもこれは子どもが大きくなってからも覚えていました。また、そのストレスを他人に向けてしまう子もいると聞きます。親の心が健康であることが大切だと思います。そのためには、話を聞いてくれる人がいると良いと思います。その相手が保育士であれば、親の話聞いてあげる必要があると思います。</p>
<p>衣服において、清潔なものを着せていない。髪は伸びっぱなしで、女の子はキチンとまとめていないなど、身の回りや持ち物、顔洗などの基本的な生活習慣が出来ていない。</p>
<p>身体的なものは見つけやすいが、それ以外のほうがわかりにくく、また保護者も虐待をしているという自覚がないと思う。</p>
<p>しつげがエスカレートしていくと、虐待につながる。親の行動、子どもの接し方に目を常に向けていかないといけない。小さな事（出来事）でもキャッチする。少しでも怪しいと思ったら、報告・相談する。</p>
<p>「虐待」という言葉にビリピリしてしまう。子どもを無視してしまう。食事を食べながらいないからと、うどん1本とか、エビセン2・3個の食生活。洗濯ができず、生乾きの服を着てきてしまう。体調が悪くとも迎えに来ることができず、連絡してもつながりがないなど、子ども自身を拒否しているとしか思えない保護者も多くいる。一人ひとりの保護者の対応については、素直に言っても解ってもらえない人、言うてはいけいない人など、対応はそれぞれで難しさがある。信頼関係を作っていく話を解ってくれる人に対しては時間をつくり話をする。十分に話を聞くようにしていくが、それすらもできない保護者に対しては、行政機関と密に連絡をとりながら、大きな事故につながらないように対処をしていく。常に注意深く子どもの心身の状況を把握していく必要がある。また職員集団の中で情報を共有していく必要がある。</p>
<p>子どもをかわいがる気持ちはあるが、風呂に入れない、食事を作らない等がある。保護者が精神的な病気（うつ）で子どもの事をよく見れない。</p>
<p>ネグレクトが増えている。しかしそのライン引きも難しいところ。例えば、うつの人が増え、子どもの世話にまで目や手が届かないという現状も多くあり、これも親の意思とは別なかもしれないが、ある種ネグレクトにあたる気もする。</p>
<p>夫婦間、親子間の中で、かかえている事がそく子どもに影響されている事が多いので、子どもの姿をきちんと見る。見逃さないことを気をつける。</p>
<p>保護者（母親）が子どもが好きではなく、子育てにもあまり関心をもっていないので、子どもに「あんたは嫌い」「うるさいからじっと待ってなさい」など、はっきり言う。子どもたちは、そのストレスから保育士にべったりくっついてみたり、急に怒ったり泣いたりする。幸い、父親が子ども好きらしいので、子どもは、父を頼りにしている。しかし、将来、どんな形で今受けている苦痛が出てくるかわからない。父親以外にまわりの大人が気持ちを受け止めてあげなければならなかった。</p>
<p>親自身の育った環境、又は育ちが、自分の子の育ちに大きく影響するのではないかと考え、心の育ちができていないことが、現社会における「虐待」につながっているのではと感じる。</p>
<p>保護者は、自分でも気がつかないうちに虐待につながることをしてしまっていることもあるというので、親は自分の中だけで悩んだり、考えたりせずに、どんどん周りに相談したり、親同士で語り合ったりする場があれば良いと思う。また、保育士も何気ない会話の中や子どもの様子から気づいてあげられるよう注意が必要。</p>
<p>保護者との対話が大切。子どものかわいい姿をたくさん伝えていく。</p>
<p>虐待は、表ざたになりにくい。または、ならないようにつくろう部分があるのではないかと。それゆえ、保育園など公の場では、ダイレクトに伝わらないので、気づき、発見がおくれるように思います。最近、痛ましい事件があつた中、このような悲劇はおこしてならないと考えます。私にできることは、多くはありませんが、保護者の方、子ども達と必ず目を合わせ、会話していきたいです。そして、気づいたことをまわりの人に伝えること、それが、発見の糸口になるのではないかと感じます。</p>
<p>今の園で特に虐待が気になる点はない。</p>
<p>現在の園では、特に感じられないが、今までの保育経験の中では、園だけでは解決できる問題ではないので、他機関との対応が必要である。ただし、保育園では、日々子ども達と接しているため、発見は、早めにはできるのではないかと。保育園に通園している子は、園生活の時間が長いので、保護者と離れているので、保護者のストレスも軽減されているため、家庭保育の子の方が多いかも知れないと思う。</p>
<p>子どもの作品を見て、「これは、下手だからはらないでほしい」などと言ったり、「誰ちゃんは上手いね」と自分の子どもの絵より先に言ってしまう。子どもの顔を見るより、まず、荷物からと迎えの時に走ってしまう。</p>
<p>親が未熟。大人になってしまつてからは、なかなか心因的なものを治すのは難しいと思うが、まわりに理解を示してくれる人が必要。ひとりではかえこまずに、まわりに相談、甘えてしまうことも必要だと思う（身内に限らず）。もし、「虐待」と思ったら、保護者から離すこともやむを得ないと思う。施設や相談員の数をもっと増やして対応すべき！</p>
<p>家庭のいろいろな問題をのぞいて（離婚、自分が虐待を受けていた等）子育ての仕方がわからない人が多い。赤ちゃんや子どもがすぐに大きくなると思つており、泣いたり食べる事、食べない事、成長する、しない他、個々に発達成長はいろいろであり、それが理解できないとうまく育てられない。マニュアル（育児書）通りでない事を理解すべき。（解決として）まわりの人、地域でのコミュニケーションをつくる。経験者と話す、保育士、保健師が話しを聞くなどが大切。</p>
<p>子どもを客観的に見ていて、子どもの気持ちがなかなかわからない保護者が多くなつたように思う。</p>

つめたい対応がみられる時、気になる。きめつけはしないで、いろいろな方向からみきわめる。
目に見える点では今のところ感じられないが、やはり、ことばの虐待などネグレクトは増加しているのではないかと。早期発見が第一なので、子どもや親の様子を見極める力も必要となってくる（家庭環境など）。また、児童相談所との連携も密になってくる。
保護者の育ちの部分から問題となる事で、家庭自体をささえてゆく必要のある事。
保育園で、できる事は、毎日子どもと接していれば、いつもとちがう様子は、すぐにわかると思うので、着替えをする時等にさりげなく子どもの身体のチェックをしたり、親子関係は毎日接していく中で、どんな対応をしたらよいか？という問題点は見えてくると思うので、職員間でよく話し合い、保育園でできる事をしていく必要があると思う。
まだ、子育ての大変さなど、口に出して、こちらに出してくれるのはいい方だと思っています。人にも話せないがまんが、結果、子どもに。
虐待をする親は、自身もそのような目に合っていた人が多いと思われます。自分は、そのようなことはしたくないと思いつつも、手が出てしまい自己嫌悪に陥ったりと、きつといっぱいいっぱいな心理状態なのかと思います。そのため、親自身を十分受け入れ、安心感をもてるように、又、子どもの長所をみつけてほめ、少しの成長でも保護者に伝えていき、信頼関係を築き、虐待から子どもを救っていくことができるのではと思います。
目の前に、そういったことがない。
虐待につながるものとして、保護者等の、その自覚よりも自分自身の欲を含めた主張が強いことがあると思う。自分が一番で、それを邪魔するものを排除、無視、無関心になる。結局は、大人社会の病んだ部分が子どもにぶつけられているのだが、本人達に問題意識を持たせられるように取り組みが必要であると思う。はっきりと、その兆候が見られたら、第三者的機関が早急に介入できる様な法的整備も必要なのではないだろうか。
本当にあってはならない。悲しすぎる。子育てについてのストレスだけではなく、社会全体からの影響のストレスに追いこまれていて、子育てに、子どもに余裕がない。“子ども”と“大人”の認識と感情レベルでの成熟度。無条件に子どもを“可愛い”と思ったり、“愛している”と感じたりすることができないのなら、少しでも気づかせてあげることが出来る。保育園、幼稚園は、子どもの為に、親の為に、必要な場所で、特に主婦にとっては、大切な“社会”とのつながりであると考えなければならない。
今、自分の思いの通るような社会で、思い通りいかないのは、子育てだけ。メールなど心地よいことは伝え、いらぬことは切る、そんな生活の早いテンポでゆっくりの子育てはきびしい。大人がわがままになっている。そのため、手がでてしまう。また、それをたしなめる家族関係（祖父母や夫、近所の人々）がない。ネグレクト→TVのみせばなしもそれにつながると、私は思っている。社会環境も、外で自由に遊ばせられない等ある。社会がもう少し生活の中で不便やがまんをできる社会も必要なのでは。
親が叱るのではなく、怒って、子どもにあたっている気がする。親のストレスや心の問題のケアが必要。
母親となるには、大変なお産を経験して、生まれてきた子に対し、どうして、ひどいことをするのだろうと感じるのと、大人社会がゆとりなく、精神的にも疲れ、子ども達もいじめなどがあり、胸が痛くなります。私自身どうにかよい方法はないのだろうかと感じているしだいです。
どの程度の範囲までを虐待として受けとめるか難しい。相談できる場所をもっと増やしていく。
虐待で通報された児童がいたが、児童相談所との連携がとれていないことと、個人情報保護法の壁で、どんな内容だったのか、全く分からず、対応が出来ずに見守っている。本児の身体に傷等はなかったのに、何を見て虐待となったのか、分からない。
ネグレクト。親がわかっているところもあるかもしれないが、子育ての方法がわからないというのも十分にあると思う。無知の恥ところだが、誰にも教わる機会も経験もなければ、知らなくても当然なのではとも思う。今、小、中学校の保育園体験などがあり、それが将来に向けての何かしらの糧になればいいと思うが、今、親たちにも何か学べる場があればと思う。地域の力が（子育てについての）必要なのは？保育園ももちろんその場になるが、園以外にも必要と思う。
心理的虐待で乱暴な言葉で気持ちを傷つけている。親の気持ちを受けとめ、心を開くように受容する態度。虐待と思われる事態を発見した場合、専門機関に相談する。
むかしは、一つの事が出来るまで待つ時間が長かった様に思うが、今は、のんびりと待っていてくれない社会だと思うので、つい追われて手や口が出る様に思う。また、核家族が多く、人の出入りが少ない閉鎖された空間にいて、多面的に物事を考える余裕がないように感じる。
多少、手をあげることがあっても、最後には、子どもを受け入れ、子どもも素直に親といること、好きでいられるのなら、良いと思うが、暴力はなくとも、子どもを否定しつけ、上記のように考えの押しつけは、いかなものかと考える。こういった保護者は、他者の意見を受け入れない。子どもが安定した生活を送れることにすることが、子どもにとっても、親にとっても最良と考える。正論を伝えていくことは、関係を悪化させるので、控えた方がよい。と今までの経験から考える。
1日に保育園生活に必要な用意する物を用意してなく、園で用意し、子どもが困ることがないことがわかっているのに「無い」状態が続く。仕事が忙しい親でも、きちんと用意しているので「いそがしい」は理由にはならないと思う。「やってくれる」からいいと思っている様に感じる。「園の〇〇を使いました」と言葉がけ、必要な物を入れるカゴ等は親の目の入る範囲に置き、整理整頓しておく。根気強く気づいてもらう様にする。
休日子どもだけで遊びに行かせることも、広い意味でのネグレクトではないかと、思います。子どもに対する犯罪行為が多発している現在、大人の保護が必要な幼児を、判断力が乏しい幼児を放任しているようなことは、親の怠慢である、と思います。

目に見えない虐待も、多いような気がします。自分の子どもに対し、無関心、無気力といったケースもあります。親が変われなければ、保育園にいる間、丁寧に受けとめ、対応する、ことしかないのではないでしょうか。
今のところ、身近で、深刻な問題はない。これからの課題としたい。
今のクラスの中では特に見られない。身体的なことについては目で見てわかるが、ネグレクトなどはなかなか見抜けなかったりするし、親が認めるまでにはなかなかいかないので、よけい難しさを感じる。
子どもの状況に荒れた言動が見られたとき、家庭や保護者の状況を心配する。 保護者の様子を見て、声をかけたり話しを聞いたりするが、問題のレベルに応じて支援のネットワークを広げる必要がある。また保護者が多くのストレスをためたり、孤立化しないよう、保護者同士が仲間になれるよう働きかけることが大事である。みんなで力を出し合ったり、助け合って、子育てしていいんだという社会や地域づくりをしていきたいと考える。
言葉による暴力が目立つ（子どもを拒否する言葉、人権を侵害するような言葉を言う）。
虐待については、いろいろと考えさせられる毎日ですが、私が担当しているクラスでは対象になる子どもはいなく、平穏穏やかに過ごしている毎日です。
子どもの気持ちによりそってほしい。
どこまでが保護者の怠慢やネグレクトに値するかの判断は非常に見分けにくい。ほとんどの親は子どものためと思ってやっている行為である以上、24時間見ているわけではない保育士が虐待と位置づけにくい。 日頃より保育士と保護者が何でも話し合える関係にあることが気軽に聞いたり助言しやすい状況を作る。日々その努力をすることが今、大切と思う。
様々なケースを知り、その都度そのケースにあった関わりがある。早期に発見し、問題に寄り添い、一人でかかえる問題ではないことを知らせたり、方向を変えたり、今できないことをサポートしたりすることを精一杯していきたい。 職員がチームを組み、また公としてのネットワークを大切に、地域として支えていくことの大切さを感じる。 文京にはマンションも増え、地元のつながりが少なくなってきた面もみえる。核家族が増え、子育てについて単純な疑問さえ質問する場が少ない気がする。 開かれた場を作り、虐待に向かわぬよう予防、またそのネットワークが必要。
祖父母に頼ってばかりで、休日も子どもと過ごさない。小さい衣服を着せても何も感じていない様子。食事も手作りよりできあいの物が多い。
ニュースで耳にする虐待には心が痛くなるような事件が多いと思います。自分が生んだ実の子どもに対しても虐待をする親は、親自身の育ってきた環境や背景に要因があるのかと思われます。親の生活環境の複雑さもあるかと思われますが、園は虐待に気付きやすい立場にあると思うので、気になるなということがもしあったのなら、見過ごさずに丁寧に対応していくことが、まずは大事ななと思います。
子どもにとって大切な生活リズムを提供していない。そう努力しようとしません。深夜12時前後というのによくみられる。ある意味成長を阻害する虐待です。携帯電話で連絡をしなくてはいけないこともあるだろうが、子どもを迎えにきても声をかけない。心が向いていないように感じる。 子どもに適したテレビ番組が少ないこともあるが、悪影響を自覚しないで何でも選ばせる。子どもに年齢以上のことを要求し、無理強いさせる。食事、生活リズムにしても、大人中心の過ごし方に子どもを巻き込むのはかわいそう。 (園で)休みが続いているようなら電話などで打診する。家庭と日々連絡をとりあい、親の心境、様子などを把握する。
それぞれの家庭のプライベートな部分にはなかなか入り込めない難しさがある。気軽に(無料で)育児 or 家庭のことを相談できる専門家(カウンセラー)を地域に(いつでも相談できるように)配置してほしい。
保護者との日頃のコミュニケーションや個人面談など信頼をつなぎながら、子どもに対する意識を変えていきたい。
家庭の接し方について話をきいたり話しかけたりするとき、頭のどこかに虐待は忘れられない。 自分の感情をもちに子どもにもぶつけ、子どもの人権等考えている人は少ない。意識の高い人とそうでない人の差がある。昔も今も子どもは親がマナーを知り、人に迷惑にならないことを生活の中で親が身をもって教えていたが、今は自分は大人だから守らなくてもいい、子どもは従え、的な思いの人もいる。人前においても大声を出したりする場面に出会う。 親は自分にゆとりがなく、ストレス解消的にかかわりを子どもにしたりがうかがえる。常に一人ひとりの家庭は大丈夫か気をつけて見ている。
虐待は、親準備性の欠如から始まっているように思います。保育士から見れば、当然のことであっても、親には当然ではなく、どうして?なぜ?ということになります。このことをふまえて接し、知らせていく必要があると思います。保育士はカウンセラーではありません。ですが、子どもの一番身近にいる大人として、しっかり現場を見ていき、次につなげなければと思います。子育て支援をしていき、予防できればと思っています。
大人の生活リズム、スタイルに子どもたちを合わせることも度を越えると虐待に通じるものがあると思います。 夜間外出に子どもをつれまわし夜型になる、親が朝食をとらないため朝食の支度をしない、等。 まだ生活に必要なものが用意できない、サイズが合わない汚れたままの衣服なども、子どもたちにとっては心理的苦痛になり得ることもあります。
虐待から子どもを絶対守らないといけない。いろいろなところとの連携を取り合いながら様子を見ていくことが大事。
虐待を受けている子どもを見ていない。
身近に虐待を受けている子どもはいないが、実際を受けている子どもは、その親も記憶にない中で受けていたと聞きます。子どもだけでなく、親も傷つく問題でもあるので、勇気を出してSOSを出してほしいと思います。
虐待に向けては、職員間の密な情報交換、相談が保育園という現場では大切なことだと思う。
地域の目、祖父母などの家族の目がなくなってきたので、子どもとかかわっている機関がそういうことに目を向け、地域・家族の役割をしなくてはいけないと思う。

<p>虐待に及んでしまう心理は理解できないが、「こうでなくては」「こんなはずでは」という思い込みがエスカレートしていつてしまうのだと思う。「保育園」という場がもっと開かれ、一緒に子育てをしてもらえる場、「こうでない場合もありますよ」「思い通りにいかないのが当たり前ですよ」といつてくれる場があればいいと思う。思い悩んだから相談に行くのではなく、日々の生活リズムとして（親の就労に関係なく）保育園に預けられるようなシステムがあればと思う。もちろん、今のままの保育園では数も職員も足りないので「行政の責任」において、“現状”の保育園をもっと増やすべきだと思う。</p>
<p>保護者の方々も、やはり人間である以上、疲れるし、悩むし、一人の時間を持ちたいと思うのは当然であると思う。親であるという強い思いで向き合えない保護者に対しては、親と子の関係以外、地域の人も協力や保育園などの機関も大切となるだろう。保護者をしっかり受けとめケアし、少しでも気持ちが良くなることで子どもも安心できるのだと思う。</p>
<p>解決は、早期発見、早期対策をとり、痛ましい事件を未然に防ぐべく、地域社会が手と手をつなぐことが必須だと思います。そのためには、地域社会の大人たちがコミュニケーション能力を高めて、仲良くなっていかなくてはなりません。</p>
<p>「虐待」の裏には、子どもたちのみならず、保護者のSOSも含まれているように感じます。子どもたちの表情、動向、身体的なことをチェックするとともに、保護者がどのような点で困難を抱え悩んでいるのか、ということにも耳を傾けていきたいです。また、他の行政機関とも関係をより密にすることが重要だと思います。</p>
<p>親が抱えている問題が大きいので、親との対応に心配りをする。ネグレクトに関しては、小さなことから子どもの良いところをアピールして、子育ての楽しさを共感していく。</p>
<p>この問題は、とても重要なことだと思う。小さなことでも気付いたことがあれば、大人がきちんと心がけ守っていくべきであると思う。しつけと虐待の違いをしっかりと理解し、伝えていく必要があると思う。</p>
<p>ネグレクトまではいかないが、近いものがある。朝の洗顔、髪がとかされていない。昨日着て帰った衣服を次の日そのまま着て登園、朝食抜き、身支度の確認がなく忘れ物が多い、など。日常の中に欠けている身だしなみ、保護者は忙しいのでしないで、園には強く要求している。保護者参観してもらったり、子どもの育ち、かわいらしさ、共感できるような、保育士頼り姿勢を常日頃、保護者と話す（話しやすい関係に）。互いのこと、とりつくることなど、話せる関係作りを、と努力している（自然にやり取りできるような）。</p>
<p>毎日の子どもの表情、会話を通して、一人ひとりの子どもたちの様子を把握すること。保護者の様子も連絡帳の記入、担任との会話等で把握すること。</p>
<p>現状にはいないと思って今は対応している。社会の不満やストレスで保護者にも余裕がないので、子どもの良さを伝えたり、日頃の保育の中で、一人ひとり大切に関わっていくということを心がけている。普段の様子や、会話や連絡帳などで状況を把握していく。</p>
<p>保護者への支援、話しを聞く等保護者の悩みに共感したり、改善策を提案する場が必要だと思う。</p>
<p>身体的・性的虐待はめったにないようだが（気づかない）、ネグレクトに近いようなことは感じる子もいる。子育てに関しての手抜きが当たり前というか、どんどん楽をしようという傾向が強いように思う。また、自分の子どもに対しての愛情が本当にあるのか疑いたくなるような保護者もいて、虐待とは言えないまでもそういう親にどうやって接していけばいいのか考えさせられる。</p>
<p>子どもを愛していない親はいないと考えることを根底においているのだが、時に子どもがいる事を重荷に感じている「子どもがいなかったら…」と今の現状を受け入れられず、子どもにあたる。夫婦関係が悪く信頼し合えない時に弱い子どもにあたり、いら立ちをぶつける。精神的な病気をかかえている方は、なおさらに大変さが強くなることはいない。保護者支援、対応に日々時間とエネルギーをかける。ネグレクト…子どもだけで夜を過ごすこと。オフロに入れない。パンツが汚れても自らかえようとしても、かえるパンツがいつも用意されていない。毎日子どもが保育園に登園できるよう、朝TELで起こし連絡を密にとって親育てをしている。地域の力を借りること。他機関の連携プレイをスムーズにする。おかしいという気づきをみんなで共有する。</p>
<p>子どもは、今も昔も、本質は変わっていないはずですが、ですから子どもがひどくわがままだとか、言う事を聞かなくなったという事ではなく、親が、それに対し、どう対応し、子どもと関わっていったらいいのかわからないのだと思う。又、子どもを産み、育てるといふことに対し、ある程度の覚悟が必要であると個人的には思うのだが、それが不足、あるいは、それを思う余裕や環境も無いのではと感じている。保育園は日常生活を長時間共に過ごすので、虐待、ネグレクトについては早期発見、対応が求められている。年々、そういった問題が増えている。悲しい状況であるが、専属に専門家を配置するなどの対応も必要かと思う。保育士だけでは、やはり限界があると思う。</p>
<p>ネグレクトについては、どこまでが、虐待の域になるのか、がとても難しいと思う。かわいがってはいても、時間につれてこなかったり、食事がその時間に出せなかったり、生活サポートができない人もいる。保育園では援助の限界もあるので悩むところではある。保護者には、ほめたりしながらもはっきりと伝えたりすることは必要であると考えている。保護者自身も、忙しいので「待つ」という子育てのスタイルができない。少しのことで不安になり、過剰に言ってきたり、手を出したりしている。習慣化しないようにしたい。待つとあがる子育て、同じじゃなくても大丈夫と思い、一人ひとりを大切にしていられるように、保育園で援助してあげたい。</p>
<p>母親が心理的に余裕がなかったり追いこまれているとよくない。現在母親（父）の世代はがまんすることに慣れていないため、耐性が不足しておりキレやすい傾向にあるように感じる。国・社会をあげて母親（父）自身が気付いたり学んだりできる内容の子育て支援をしていく必要がある（スボイルしすぎではなくほどほどの感覚がもてるように！！）。</p>
<p>虐待の定義が難しく、しつけと虐待のさかい目、又ネグレクトなどの保護者の見極めが難しい。細かに保護者、子どもを観察すること、関わり方などをみて判断し、担任だけではなく園全体をあげて対応していく。</p>
<p>条件があれば誰でも虐待という行為に出してしまうと思うが、普通はこれはいけないと感じる事が出来る。親としての育ち方、親となれない。急がしいなど様々だと思うが、受け入れてから、個々に応じた対応が必要。子どもを親から離すということが、今は最善の方法ではと考えるようになった。</p>

<p>難しい問題なので一言では言えない。その人自身はもっとならぬと思う。          保育園だけ、児童相談所だけという1つのところではかえきれないと考える。いろいろな機関、地域の人々、家族など全てが連携をとりつつ社会の中でも大きな課題として取り組む必要があると思う。「誰かだけが、悪いのではない」ということで、多くの目、気持ち、知恵を取り入れていく必要があると思う。</p>
<p>大人自身の問題ですが、社会全体でもっと、深いところから“子どもを大切に”という観点に変えて、意識をもっていくことが必要かと思う。具体的には、情報交換と、行政（民生委員、保健センター、児童相談所）と連携をとりあい、適切な対応をすること。又、子ども達の避難できる場をつくることも必要です。</p>
<p>保護者との愛着関係は、子どもにとって基本中の基本。それを核として、子どもは成長、発達していきます。なので、「日ごろ感じている問題点」も何も、虐待はそれ自体が大問題で、絶対にあってはいけないものです。地域の力や、人々のコミュニケーションの力が弱まっている現代では、誰でも、もしかしたら私も、将来自分の子どもを虐待してしまう可能性は0ではありません。児相の活動の仕方（権限）を見直したり、個人の意識を高めたりし、絶対に見逃がさない体勢を整えたり、保護者のフォローをすることが必要だと思えます。</p>
<p>虐待をしてしまう親に対しての支援が必要である。本来なら、家族の支えが1番であるが、できない場合は、保育園にあずけている状態であれば、母の心の重荷が少しでもほどけていくよう、子どもをみて母の心がひらかれていくように支援したい。</p>
<p>親も子どもできるだけ外に出る機会を持てるような子育て環境を作っていくことが必要だと思えます。気軽に外へおしゃべりしたり遊んだりして、子育てから母親が息抜きをし、リフレッシュすることで子どもとの関係もバランスを保てる。しかしそれが強制になると逆にストレスになりうるので注意が必要。</p>
<p>大人のストレスが、子どもに行ってしまう場合もあると思う。親子、二人になってしまう場合が多い。</p>
<p>身体的にはなくても、子どもの気もちをくみとろうということなく、親の思いで過ごしている家庭が増えている（教科書にあるように）。</p>
<p>経験なくわかりません。</p>
<p>ネグレクトだと思っていない人が多いです。</p>
<p>親の育ちや、子育てをめぐる環境が影響している。相談できる窓口がもっと整備されたり、そういうところがあることを知らせていく。そういう意味でも保育園の必要性あり。保育園にも相談者の配置をすればよいかも。</p>
<p>子どもの成長を細かく知らせほめ、子育ても楽しいものと感じる事ができる様にかかわっていく事が私達の努めとおもっている。又保護者の日常の努力をほめ、共感していく。話をきく、おもいを吐き出させどうしたらよいのかということ自分から考え出せる様に導く。</p>
<p>(13) の問題点が頻繁になると、心理的虐待にもつながってくるのではないか。</p>
<p>あまりにも感情的に気分が落ちる。</p>
<p>保護者の心の育ちの方より未熟さが問題。カウンセリングや心理学の学び等により、どういった心のしくみで、子どもに当たってしまうのか保護者が知り、その上で、そうせざるを得なかった状況に対してサポートする機関があると良い（心のケア機関）。</p>
<p>虐待は大きな問題となっていることは日々感じます。子育てがわからず育児の不安から虐待という形で子どもを苦しめていると感じます。親も決して虐待したくてしてしまっているとは思いません。しかし、いつの間にか何らかの状態であつた、ける、食事を与えないなどの虐待をしてしまっているのでしょうか？親自身、してはいけないと思っけていても子どもを傷つけていることも確かだと思えます。保育の中で虐待されていないかなど不安、疑問に思うこともありますが、これには何らかの原因があつたことのため、子どもをケアすると同時に、親に対しても私たちが支援をしなくてはならないと考えます。もし親の心理的なことで虐待をしてしまうのであれば、その親の気持ちを聞いてあげ、受け止め、受け入れながら気持ちを楽にしてあげたいと思えます。又、虐待を受けている子どもへのケアも第1に考え接していく必要があると思えます。</p>
<p>私が幼い時は“しつけ”のひとつとして、いけない事をした時にはたたかれた記憶がある。今となっては、その時に物事のよし善しをしっかりと教えてくれたので、良かったと思っている。しかし、今ではしかる＝虐待というイメージが多く、中々しからなくなったように感じる。でも、保護者の感情でイライラした時にたたいてしまっている場面に出会うことがあるが、どのように関わっていったら良いかわからず模索中である。</p>
<p>問題点1) 子の行動、発達を理解していず、自分の思い通りの行動が返ってこない相手をしなくなる。2) 子の心やおもいに添えない。          取り組み1) 子の行動、気もちの代弁（解説）をし、子とつき合う方法を具体的にお教えする。</p>
<p>子どもへの言葉での暴力を口にする保護者がいたが、その保護者自身を受け入れていかなければ、子どもへの虐待は強まると危機感をもちながら、周囲の職員と連携をはかって対応してきた。又、園だけで解決できない事例は、園全体の共通認識のもと、児相等の関連機関と連携をとり対応してきた。</p>
<p>連絡帳等でも家の様子を書いてこない事も多く、朝早く来て、帰りが遅い子などいるので、家の様子をなるべく書いてもらうように話したり、当番で会えた時に話すようにしている。</p>
<p>ややネグレクト的母親は多いと思う。料理をしない、祖父母に頼りきり、他人に任せきり等。母親より、保育士の方が子どものことをよくわかっていたりもする。そういう親には根気強く話しを続け、わかってもらえない。自分で気づいてもらうしか方法はない。保育士は家にまで行かないのだから…。その間の子どものケアは、保育園でできるだけする。</p>
<p>日々の子どもの姿、保護者の様子を、みていて何か変化を感じた時、クラス、フロア、園で話しみんなで様子を見て伝えることが大切だと思えます。</p>

<p>「虐待」ということが多くなっているが、自分の子どもも、言うことをきかない時にお尻をペンと叩いたことはある。親であればこれは、という時、少しは叩いても良いと思っていたのだが、今は周りが許さない。愛情があれば良いと思うが、今は母親というより女ということが多く出てしまっているのだろうか。育ちもあるのだろうか。虐待しそうな人を見きわめて、穏やかな気持ちになるよう、自分を追いつめていかなないように対処してあげることが大切だと思うのだが、なかなか見きわめることが出来ないでいる。</p>
<p>虐待をする家庭の背景は様々である。環境、家族関係、親としての未熟さ、人間性に問題がある等。また虐待して罪の意識のある場合、ストレスの吐け口、行為自律、虐待と感じていない場合等あり、対応する状況に違いがある。虐待を通報されてもなかなか家庭の実態が見えてこないのも事実である。親(大人)として育つまでに人間総合学の教育があることや、日常の中で年齢の低い乳幼児への交流をもつこと、そして子どもは地域で見守る視点を行政は明確に提示し、実行することである。</p>
<p>虐待をしている親でも我が子がかわいい時があるはず。親のストレス、心の病もあり、まずは親の気持ちの安定を考える。仕事が終わって迎えに来る時などホッとできる空間(例えば、一室をお茶コーナー、おしゃべりコーナーなど作り)、ワンクッションをおける場を作ったり、話を聞いてあげる時間があればと思う。</p>
<p>親が抱えている問題点なども聞いたり、一緒に考えてあげる必要があると思う。</p>
<p>成長に著しく影響する、虐待は目にしていない。地域のサポートは、虐待の心理には逆効果のように感じる。やはり、家族関係が要因。母親の母子関係も大きく要因していくと感じる。サポートする上では専門チームが必要と考え、又、虐待の現実を前には、子どもの命の優先を考えてほしい。</p>
<p>特に感じていないが“これは?”と感じることもある。親が子に対する、話しかけ方、声のかけ方。</p>
<p>やはり色々な、支援が必要な保護者もいるという事でしょうか?</p>
<p>子ども達にかかわる人との研修を含め、日頃から、子どもに目を向けるようにするべきである。</p>
<p>家庭での仕事(家事)がどんどん便利になり、それを追求することで一番手のかかる育児がとても大変な仕事になっているという感じがする。泣いたり騒いだりする子どもを制することができずに、イライラして虐待してしまうのだろうか、そんな時に近くに祖父母がいたり、友だちがいたりすれば少しは解消するかと思う。小さい子どもに対する理解を中学生のうちからボランティアや、学校の授業の一貫としての保育園などとの交流をもち実施できるようにする。妊娠期において子どもへの理解をさせる。出産後において保健婦などの訪問による育児指導や子育ての悩みの相談など身近な場所で行うことが必要である。</p>
<p>子どもが求めているのに、子どもと離れている時間を欲しがり子どもの情緒が安定しない。保護者が相談しやすい体制をつくる。子育てが楽しい、子どもがいてよかったと思えるよう、間接的だがかわいさを伝えたり子どもをほめて母親(父親)としての自覚を育てる。親を拒否しない。受けとめられる気持ちをどの職員も持つ。</p>
<p>虐待をせざるをえなくなる状況がみえる時は、話を伺ったり、常にアンテナをはるようにしている。今のところ、そういう場面はないが、区全体でとりしきるよう、連けい機関の役割と、情報交換をするようにし、自分の園だけで解決しないようにする。</p>
<p>その子の良い点を(成長等)その親に繰り返し伝え、自分の子を好きになってもらう。</p>
<p>どの保護者にも同じ様な対応をするのではなく、問題を抱えている保護者とは特にコミュニケーションをとり、まずは保護者の気持ちの安定を図っていくことが大切だと思う。</p>
<p>子どもの気持ちなどなく、親(保育士)の心理状況により、人間として扱われないという、こわさ。しかし、園でも、大人に対して子どもが従順であるがゆえ、気を付けなければならないと思う。気持ちをおいこむ等も…。押しつける等も強(脅)迫的に…おいつめるようなことはないか…周りはどうかと考えながら保育をしている。絶対権力(この言葉がいつも脳裏をかすめる)にならないよう。</p>
<p>親の気分で極端にかわいがったり、極端に叱責したりあるいはたたいたり、対応がコロコロ変わること、子どももとても不安になったり不自信を抱いているのではと感じられることもあります。対応等としてはまず、保護者の気持ちを十分受け止め共感し心を安らげます。穏やかな気持ちに戻ると、その保護者の方も我が子へ向けるまなざしはやさしくなります。保護者の心の安定が生まれるよう支援しています。</p>
<p>社会的にも「虐待」が増加しているなかで、ママのおなかの中で10ヶ月過ごし、ママは大変な思いをして、子どもを出産します。まだ見ぬ子がおなかの中で動いた時の感動は忘れられないです。赤ちゃんは泣くのが仕事と思っても激しい泣き方に、ストレスを感じることもあります。自分で解消法を見つけていくことが必要だと思いました。たとえば、頭をリラックスさせる音楽を聴くとかときには、子どもをあずけて、出かけるとか。また、どうしてこうなってしまったのか、もとにもどってじっくりと考えて見るのが大切だと思いました。</p>
<p>言葉の虐待がある。言葉による心的ストレスは根が深い。食事を与えれば良いのかと疑問に思う程、コンビニ弁当等の手ぬぎが多いのも子育て放棄ではないか。プライバシーの侵害と子どもの生命を取ること、どっちが良いのでしょうか。虐待を感じたら親子を保護し続ける。虐待されて育つ子の人生を考えてほしい。</p>
<p>「虐待」と言ってもとらえ方は難しいが表面に出ていない虐待も沢山あるのではないかと感じている。特に今、緊急児を受けている所では感じている。</p>
<p>家庭で「良い子」をしている子は、保育園で、発散することがあります。ありのままの子ども姿を受けとめて欲しいのですが、保護者の中には、良い子でなければ受け入れられない方もいて、「心理的虐待」につながるのではと思えます。</p>
<p>身体的なことは、毎日の着がえの際の様子をみることが出来る。ネグレクトに関しては難しい部分がある。保護者といつでも話せる環境、関係をつくり、家庭の様子を自然と話してくれる関係作りをしていきたい。</p>
<p>園内のことではなく、家庭で子どもと母親がずっと2人きりである状況が、やはり心配です。園内でも保護者と話をする時間を大切にしたいと思っていますが、家庭にいる方がこもってしまわず、話が出来る場を考えるとと思っています。</p>

子どもはどのようなことを受けても、親に一番信頼をおいているのでいじらしいと思うことも過去にありました。
現在、受け持ちのクラスには該当家庭はない。
身体的な虐待については、様子を記録したりなどしているが、心理的虐待については、あたえている親側にその意識がなかったり、実証がなかったりで、解決方法に悩む。
子ども時代の成育歴が基本になっているので、今、目の前にいる子ども達を大切に育てることが私達の仕事である。親の中には、ごく一部ではあるが、育児不安から、子どもの育て方が分からず、不安や子どもの身のまわりの世話が出来ず子どもの成長にとって心配な部分はあるが、一方的に親を非難せず一緒に手助けしながら親も子ども支援していくことが求められている。
大人の身勝手さを感じます。自分の思い通りにならないとストレスを感じるようです。大人自身も心の中に問題を抱えている人が多いと思います。
子どもが泣きながら謝っても、無視して立ち去る（朝の分離等ではなく）。子どもの気持ちを全面否定するような言葉を発する。
保護者からあまり手をかけられていないと思われる子どもの表情は変化が乏しく、見せる表情も少なかったり、また、言葉が出てくるのも遅かったり、発達全体が遅い感じを受ける。やはり、子どもの良さ、かわいらしさをどんどん保護者に伝えていき、子どもの新たな一面を知ってもらい、子どもに興味を持ってもらえるようにする。
弱者に向けられる暴力。大きな原因として、考えられるのは、大人社会にゆとりがない、思いやりが育っていない大人が多いことです。自分の気持ちの吐け口がなく、ストレスの多い社会をどのように変えていくのか…。虐待については、分離が重要だと思います。どのような形にせよ、周囲の人の協力を得なければ難しいと思います。ただ、児相については人手不足で解決できない事が多いので、人員増により阻止ができるようになるのではないかと考えます。また関係機関との連携の強化も重要です。
乳児期は授乳、夜泣きなどで大人は寝不足になりがちである。又、反抗期に入り1つ1つ手こずらせることも多々ある。仕事、家事、育児で疲れている中でどれだけゆったりと子どもを受け入れてあげられるか、ストレスは大きいと思う。働く女性が少しゆとりを持って仕事ができるような社会にしていく必要があると思う。もしかして虐待？と感じたときに児童相談所、保護課などの連携がスムーズにいくようにする。又、地域の中でどこの家に子どもがいるのか把握できるようなシステムをつくれぬものか？
文京区という地域性でしょうか。直接、虐待やネグレクトのお子さんを担任した事はありませんが、新聞、テレビでは驚く程の子どもたちの事件が起こり、報道されています。この問題は現状に対して「ひどい」などの言葉だけでは終わらせてはいけないと思います。虐待がなぜ起こるのか、子育てで悩んでいる多くの母親が社会から孤立しない様に理解と協力が必要です。
現在受けもつクラスのお子さんは、全員家庭でとても大事にされて育てられています。まだ保護の怠慢とまでは言いませんが、お仕事でなくても保育園に預けて、ご自分の用事、休養を優先させる方がとても増えています。子どもたちも（よりよい園生活をと努力していますが）集団というのは疲れるものです。お家でゆっくりさせてあげたいと思わないのかなーと思うのは大きな誤りでしょうか。
テレビのニュースを見て感じる点では、近所からの虐待の疑いがあるという通報があるのに、しっかりとした調査が行われず後日、手遅れな状態となるのがとても残念に思う。保護者が「しつけ」と言えば深く追求することはできないが子育てに不安など悩みを抱えている、初めて親になった人達への情報（子育てに関する）がもっと増えたり、相談が気軽にできる機関が増えれば良いと思う。
保育園に通っている子どもに関しては、（私の知る限り）虐待の問題は多くはないように思いますが、現実には社会で大きな問題となっており、見すごすことないよう、すべての大人が子ども達を見守っていくべきだと思います。少しの変化を見逃さないこと、母親を（父親も）孤立させないこと、悩んでいる保護者の支えになっていくことが必要です。
虐待ということを感じずに行われていることも有ると思う。朝ごはんを食べさせないで登園する子どもも、見方によってはそうかもしれない。体調がよくなくても、熱がないからと。子どもの気持ち、思いを受け止められないでいるケースも虐待とまではいえないかもしれないが。
虐待に関しては、虐待している保護者の育ちに問題があるが、ここ数年、あまりにもひんぱんに起こり、殺人にまでいたるケースが増えているので、社会的な問題だと思う。心理的虐待やネグレクトは、ストレス社会を反映し、増えているのだと思う。ストレスのない社会を作る必要があるが、便利な生活に慣れすぎてしまい、根気や努力する、向上心を持つことができない大人たちが増えているのだとも思う。
日常の子どもの状態を常に把握して、少しでも虐待の疑いが現われたら、園全体が話し合い専門機関への連絡をするなど迅速な対応が必要である。が、個人情報、守秘義務の面からも細かい配慮が必要となる。
自分のはけ口を子どもに向けてしまう。保護者の方はそれが、虐待とは思っていない方も多く、こちらも、その事に対して触れる事は難しいのが現実です。カウンセラーの方がもっと身近にいて下されば、と思います。
クラスの保護者の方で気になる方はいません。
保護者のストレスを子どもにぶつけている。兄弟でみるからに扱いがちがうと感ずることもある。その子のよいところを保護者に、いろいろ話していく。その子の良さを認めるような話を沢山する。
子どもが言葉を発声する前に欲求や要求を表わす、ボディランゲージを読み取れない為に、知らず知らずネグレクトになっているケースが多いと思う。大家族でアドバイザーがいれば助言もあるが、核家族なのでそれも得られない。長時間保育の上、家でも仕事をする様な過重労働も子どもとの人間関係を作りにくくしている。社会全体仕事のみでなく、生活を楽しめるような労働時間になると良い。仕事をこなさなければ首切りのこわさもかかえている。保育園の中では子どもの気持ちを精一杯受けとめわかってあげるようにしている。家庭にも話してはいくが、気持ちに余裕がなく、逆に焦らせてしまうので、話を聞くことが多い。

<p>社会的問題になっている中で、保育園での発見、通報も重要な役割になっている。そのために日頃から、保護者とのコミュニケーションを図り、信頼関係作り、子どもの様子をよく観察することも必要である。しかし、虐待がからんでくるケースの場合は、保護者とのコミュニケーションが難しい場合も多く専門的な対応の仕方ももっと知る必要がある。</p>
<p>身体的なことなら動きやすいが（対応しやすい）、他の虐待になると、わかりにくいことが多い。親子が一緒のときの様子や、子どもの変化や日常の様子などよくみておくことが大切。おかしいと思ったら、他の職員にも様子をみてもらう。親に、直接話しても否定するのはわかりきっているので、うまくコミュニケーションをとりながら、子どもが望んでいること、こちらがやってほしいことなど少しずつ伝えていく。担任だけではなく、園全体で保護者に目を向けて受け入れる姿勢も必要だと思う。</p>
<p>食事をしっかり作って食べさせない。夜、遅くまで仕事のため、朝、保護者が起きられず、保育園に連れてくるのが遅くなり、午前中友達と遊ぶ時間がない。子どもがいなければ楽と考えていることが行動や言動に出ている。保育園では「何が大切なのか」「今必要なことは」を本当にくり返し伝えていくのが大きな役割だと思う。</p>
<p>園では虐待のようなものは見うけられませんが、ただ親の思いだけが先行して、いつも子どもをその思いに従わせようと大きな声でどなっている親をみかけます。また、仕事が夜中にかけてする家庭では、朝、両親がおきられず、登園時間が遅く友だちと遊ぶ時間がない子もいます。親とその子のためにいちばん良い方法を話し合いをすることでみつめていくしかならないと思いますが、小出しにしていけないと親の気持ちに近づけないため時間がかかります。</p>
<p>今生活のところで書いたが、食事の準備をすること。生活の一員として考えられず、いないと楽と考えてしまう。大変と思ってしまう。誰かに頼んでしまうなどなど、自然に子ども達に対しての心理的なダメージを与えかねない状況がみられる。保育園はただ、子どもをあずかれば良いという考えではなく、今、子ども達に「こういうこと」「このことが」必要とか大事とか、伝えていく役割があると思う。本当に、忍耐と努力が必要におもう。</p>
<p>子どもは身心健やかに育つ権利があるので、親の都合だけでふり回さないでほしい…。きちんと向きあって話をしていくしかない。将来の見通しをもたせながら。</p>
<p>最近、子育てにつかれている親が多いです。毎日、暗い表情で、子ども達を受け入れる余裕がない。みんなが疲れすぎているように感じます。だから、心理的虐待やネグレクトがおこると思う。休息の意味でも保育園をうまく利用するのはよいと思う。</p>
<p>やはり大人の余裕のない生活が大きく影響している。社会的に援助していく必要がある。小学校の子どもを持っている子の親の仕事時間の短縮など、親の子育ての支援が大切である。どこかの施設が、おぎなうのではなく、親が子どもに直接、働きかけられるような、ゆとりの社会作りが必要である。理想的な親像を押しつけるのではなく、色々な子どもがいる事を認め合い一緒に子育てを考えていく。良い子を育てるのではなく、その子に合った子育ての仕方を、伝えていく。子育てを負担と思わぬよう親の心のケアをしていく。</p>
<p>保護の怠慢、拒否につながっていくのではないかとと思われるような、軽度なことは感じることもある。仕事を理由に、園に子どもを預けているが、子どもを見きれないから働いているのではないかと感じてしまうこともある。朝から体調のすぐれない子をあずけたり、昨日高熱を出しても次の日には預けたりということも、問題ではないか。</p>
<p>細かい変化を見落とさず発見することが大事。親とのコミュニケーションをとっていく。</p>
<p>子どもはごねたり、泣いたり、反抗期には反抗的態度をとることがあたり前だが、それが、相談できず子育てをどうしていいかわからず、子どもを苦痛に思う保護者が増えていと感じる。園でできる事は、上手に、子どもとのつきあい方を伝え、少しでも、負担を軽くしてあげること。悪い循環におちいつている家はむずかしい。間接的に負担を減らして実害をへらしていく事しかできない。</p>
<p>仕事が休みであっても、子どもを保育園に預ける親がいる。自分達（親）は休みを取っても、子どもは一日も休みを取らずに保育園に来ている子がいる。子どもが出してるサインに気づかず、表面的にしか子どもを見ない。子どものことを伝え、かかわりの大切さを訴えていく。</p>
<p>虐待は絶対にあってはならないと思う。</p>
<p>子どもと接するのが面倒という親が増えてい。年休をとって自分だけゆっくりして子どもは早番から遅番まで保育園にあずける。子どもとじっくりかかわれず、休みの度にテーマパークや買い物に出かけたり、友達の家へ行ったりして、2人だとして良いかわからないなど。具体的なかかわり方、あそび方、楽しみ方を教えていく。</p>
<p>子どもをかわいいかわいいといくらほめても喜ばない人がいる。自分の都合で子どもを保育園につれてきたり（仕事ならばしかたがないがそうでない場合が多い）兄弟で愛情のかけ方が違ったりする。</p>
<p>2人以上、子どもがいる場合、他の子どもに心を多く向け、あまり心に向けてもらえない子どもは、生活が落ち着かないので、子どもは拒否されているように感じているかもしれない。子どもに目と心が向く様な保育士の働きかけが必要であると思う。</p>
<p>今担当しているクラスでは、虐待はないのですが、やはり、日中の大半をお預りしている保育園で、触診等をしっかりと行い、少しでも様子が、おかしくなったりしたら、園全体で話し合っていく、早い発見が大事。朝の登園時、保護者、子どもとの様子両方を観察し、ちょっと気になる事はクラスで他の保育士とも話し合い、保護者の方へも目を配る。</p>
<p>どこからを虐待と見るのかの線引きが難しく、相談所への連絡も出来ないと思う。どこまで、家庭に踏み込んでいけば良いのか分からないと思うが、子どもが命を落とさないよう各機関で連携を取り合って欲しい。</p>
<p>ネグレクト、心理的なものはそれに近いかなと思われるケースはあると思う。例：犬を飼っていて、子どもとどっちが大事にされているかな？兄の方がいい子だからと、下のお子さんがないがしろにされている。父、母の生活が優先され、お子さんはメディアに子育てでされているかな？ 解決に向けて：ケース・バイ・ケースで、そのお子さんのかわいらしさを伝えつつ、少しでも、気持ちを向けてもらえるよう、いろいろな働きかけをする。又、保育参観などでいろいろな機会をつくり、子育ての楽しさを伝えていく。</p>

<p>この問題は家庭と保育園だけでは解決できないような気がします。社会全体が変わらないと解決しないように思います。まずは大人が自分の周り（近所）にいる子どもたちに目を向け、声をかけたり、できる社会になって欲しいと思います。全ての大人が全ての子どもを宝だと思えるような社会になって欲しいです。</p>
<p>最近のニュースでは虐待のニュースが多く驚かされます。幸いにも現クラスでは見られませんが、虐待は大人の都合、エゴだと思えます。自分の立場上では、子どもの様子を注意深く見る。アンテナを張りめぐらせておく事が必要です。もし、その傾向が見られるようであれば保護者とじっくり話し合いたいです。話しを聞くだけでも変化が見られると思います。（人は誰でも話しを聞いてほしい。自分をわかってほしいと思いますので）そんな簡単な事ではない事もわかっていますが、日頃の信頼関係をしっかり築いていく努力は常にしていきたいです。</p>
<p>大人も大人になり切れず、自己中心的な人が多く見られると思う。子どもは保護者の「物」ではない。子どもの気持ちばかりを考える人もいるので難しいと思う。</p>
<p>保護者にゆとりがない、疲れている。その上子どもも長時間保育で疲れているためちょっとした事もトラブルになり、エスカレートしていくように思う。早い時期での発見と対応。子育ては思い通りにいかない。根気よく、続けるしかないもの。みんな同じく大変だと知らせていく。保護者同士の情報交換。保育参加参観、保護者会 etc の活用。</p>
<p>虐待ときくと、あまり身近にないと感じるが、心理的虐待を含めると、言葉というはその人、その子の受けとり方によっても違うので、子どもや対大人でも、話す際には、わかりやすく、相手を不快に感じさせない言葉を選んで話すようにしていきたいと思う。（ご解を受けないように…）とてもデリケートな問題なので、常に頭の片隅で感じていたいと思う。</p>
<p>朝食抜き、お風呂に余り入れない（汚ない）服を着替えずつぎの日も着てきたりする子どもをみたりする。高学歴の親でもそういう人が中にはいる。「お風呂に入れて下さい」「服を毎日着替えさせて！」等、中々言葉に出して言えない。保育園でできること、拭いてあげる、着替えさせる等位しかできない。</p>
<p>予防接種や健康診断へ行かない。保護者が自分のことでいっぱいになっている。専門職の看護師、栄養士にも中に入ってもらい、保護者の負担にならない程度の助言をしていきたい。</p>
<p>思いを保育士にぶつけてくれる保護者はうけとめてあげる事が出来ますが、抱えこんでいる場合は難しい。保護者と信頼関係をつくりたいが、押しつけてはだめだし、追いつめてしまっはいけない。保育士も自分を見つめながら日々関係作りをしていきたいが…。</p>
<p>虐待されていることを早くわかってあげることだと思う。毎日の中でまわりにいる子の日常の様子とちがった所に気付いてあげること。虐待をしてしまう、若い親たちの子育ての仕方にも問題があると思う。そこから考えていかななくては、小さい時の育て方にやはり問題があると思う。愛情を持って子育てをする。大切なことを知らせ、自分もそう育ったと知ることが一番だと思う。</p>
<p>大人の時間の都合で食事が遅くなる。お風呂に入らない。体調が悪くても医者に行かない。予防接種に行かない等は怠慢になると思います。怠慢により、その子の成長、心体にどれだけの影響がでてくるかを伝え、知ってもらえるような取り組みが必要だと考えます。</p>
<p>子どもの世話をしていない。仕事が忙しいことを理由に。 解：面談をしていく。</p>
<p>これは当事者や周囲がどちらかというとかくしたり、気づかない事が多く、又、気づいてもなかなか踏みこめない非常に難しい問題です。現に育児をしない、ネグレクトではと感じることもあります。はじめに様子を見ながら状態の把握からはじまりますが、プライバシーのことも壁になっています。事実かどうかつかみきれない時もあります。ただ、この問題はある意味、命に関わることなので、社会的にも今以上の専門機関の必要性を感じます。通報、あるいはそれ以前の情報から、はじまり、それが次のところで把握、解決に至るまでのシステムが充実するような組織作り。地域、社会で子どもの命を守る意識を持つことなどが大事だと思います。親子を孤立させないよう地域での援助として、誰でも利用できる“子育てひろば”のような集まる場所を設置。そこでは子育ての相談、親子での交流などを通しサポート体制を作ることで防げると考えられます。</p>
<p>今のクラスにはいませんが、だいたい毎年、怠慢や拒否などありました。朝食が与えられなかったり、着替えをせず昨日のままの登園など…。登園すると顔をふいてあげる事から始まりました。家庭内での事なのでとてもわかりにくいと思います。地域との連携も大切になってくるのではないかと考えます。</p>
<p>虐待、とまでいなくても、子どもの世話が、きちんと出来ていない、と感じることはある（子どもの姿から）。身の回りのこと（爪、髪がのびっぱなし、傷の手当てを怠っているなど）。</p>
<p>保育園での生活時間は長いので様々な生活の中での関わりで子どもからの発信や身体的な状況を捉え、きめ細かに見ていくこと。また子育てがうまくいかない状況や、様々な問題を抱えている保護者への支援をしていくこと。安心感を持って相談できる体制を作る。</p>
<p>日ごろ特に感じている問題点はありません。</p>
<p>日々の保育から子どもたちと接する時に気づいていったりする事が私たちの仕事でもあるので、きちんと、やっていきたい。いろいろな機関と一緒に対応しながら、解決していかなければ出来ず、難しい問題とを感じる。</p>
<p>子どもに無理強いをする。例えば、挨拶や、～しなさいなどを声を荒くすること。まだ、小さい子には、苦痛では？と思うことがしばしばある。</p>
<p>現在は、体罰だけでなく、食事を与えないという虐待がふえていることが、とても悲しく思う。一人でも保育園に入れるよう、地域と保育園との連携をもって、なくなるようにと切に願っている。</p>
<p>園での対応としては、早期発見、早期対応を考えます。今、現在も様々な形での虐待は、発見され適切に対応されるよう努力しておりますが、それには、子どもの日々の様子をよく知り、いつもと何か違うなどをキャッチする保育士の子どもへの目が大事だと考えています。もちろん、保護者の様子等も気にかけて、保育士に話しかけやすい雰囲気、心ゆるせる仲になれるのが、理想ですが、それはやはりなかなか難しいです。</p>

どこまでを虐待と受け取るかは、まちまち、判断は難しく発見についてもプライバシーとか言われてしまうとその先へ行きにくい。
言葉によるものは、時々子どもの心を傷つけていると感じることはある。又、日常の世話の部分でも手をぬいている保護者はいる。助言しても全く聞く耳をもたず、自己中心な生活優先者に多く見られる為、改善は難しいが、毎日の関わりで変わってくれることを願っている。
虐待というほど深刻な物は、ないと思っています。ただ、早期に発見して、子どもを守りたいと思っています。
今までに虐待のケースは、なかったが、常に身体チェックをする事や子どもとのコミュニケーションの中で、細かい部分のチェックを心がけ早期発見につながる努力をしている。
虐待は、あつてはならないことだが、毎日のようにニュース、新聞等でながれてくる。保育士としても日々の子どもの様子から見落としては、ならないと思う。
洋服の問題（サイズが合っていない、汚れている）。
子どもをペット化している親もいる。将来を考えるとという視点で子どもをみてほしいと思います。
現在、虐待を近くに感じていません。実際に虐待をまのあたりにした時、明らかに虐待ということであれば、虐待として通報ということになると思われますが、虐待かどうか、ギリギリの状態のときに対応が難しいのではと思います。虐待の防止に向け、保育園や地域の目、また、親が気軽に相談できたり、かけ込める場も必要かと思えます。そして、なにより、そのことに対応する職員の数を絶対に増やすべき時にきていると思います。
虐待の事実を見つけることは、難しいと思われるが、毎日の生活の中で、わかってくる場合もあるので、注意して見ていくことが必要である。
祖父母にまかせっきりだったり、自分の子への思い込み（これぐらいは大丈夫など）や、家でテレビばかり見せて一緒に遊ばない…。この頃、こういうのが増えてきて、さみしい思いをしていたりする子もいると思う。どこの家庭でも、全くないという事はなく、紙一重だという感じだと思う。毎日、親も悩み不安を感じているのかもしれないと思う。
保育士が少しでも気づいた事があつたら、園の中で話し合ったり報告する。
一日の大半を過ごす保育園という場なので、ちょっと疑問に感じるところがあれば、早急に手立てがとれると思う。身体的な場合は、部位を確かめ、何の傷か、新しく出来たものか記録。怠慢・拒否は衣類や身体が清潔かどうか。元気は、食事のときの様子でつかむ。子ども自身、その中で生活に慣れているので、職員に対しての甘えなどもバロメーターとなるかもしれない。 心理的なものも含めて、一人一人子どもの変化をしっかりと見ていく以外にないと思います。

#### (7)【設問(15)】 その他、子どもの様子・生活習慣・生活環境について感じる問題点・必要と思う取り組み

親だけの問題ではない。働く企業の実態も必要。
テレビ、ビデオ漬け。休日いつも出かけ、週明け疲れている子。親同士仲が良いのはいいが、お互いに依存しあつてしまい、親の井戸端会議になつてしまい、子ども達は放りっぱなし。叱られる事が少なく、我慢もきかない。自己中心的な子どもが増えている。また、叱られたときパニックになる。
子育てに費やす期間はそう長くない。その大切な時間さえも、自分の時間（自由）を優先にしてしまう、今の親の状況。私達は保育のプロとして何が出来るのか。上記の状況を受け入れた上でも、やはり、子育てに本当は何かが必要で大切なかを知らせていかなければいけないと思う。
子どもも大人も、ひとが生きにくい環境。子どもも大人も集つたり、思い切り遊んだり、笑つたり、自由な時間や空間、自然が少ない事。 一人ひとりを大切に考えていく環境。保育園では子どもと職員がゆとりを持てる集団、空間、人数。4・5歳児、子：職員＝30：1は、先進国並みに改定していきたい。 子育て中の人に、子どもとられる時間を保障してあげる環境。子育てがわからん、悩んでいる、子育ての方法、親子関係作りを知りたい、問題のある親子がかかわりを学べる環境がとても少ない事。
社会全体が、特にサービス業等夜間までの営業、24時間営業などで、夜更かし型の生活になつてきていて、大人の生活環境、生活リズムももちろん整わない中で、子どもたちの生活習慣、生活環境を保障していくことは難しいようにも思える。その中でよりよい生活環境をと思うが、どの様に取組んだらいいのかというのは、よくわからない。
家庭でビデオ、DVD等を乳児期から3時間以上も見ている子がいるのは心配なことだ。食育が大きな社会問題となつているが、一家庭の事ではなく、大人の責任としてなすべき事は何か、真剣に考える時期になつている。食事は親の愛情表現ではないのだろうか。
排泄の自立が遅い。オーディオ機器の発達により、DVDなどの見せっぱなし行為が、コミュニケーションが苦手な要因となる。
体を動かすことや、いろいろな面での経験が少ないように思います。体のバランス（体の動きなど）が悪かったり、散歩などに行つても体力がなく歩くことが出来ないこともあり、気になります。
保護者自身が生活習慣に問題がある場合が多い。学歴が高くても家事が苦手な人が多く、スムーズに出来ない。小さい頃から生活習慣が十分に身につけていないのではないか。祖母が家事をやつてあげている家もある。
社会全体が大きく変化していかなければ、そこで働く保護者の生活スタイルも変わらない。そうすると、子どもの習慣や環境も変わりにくいように思う。

<p>子どもが親に対して気をつかい何も言えない。登園して母親がいなくなって初めて頭が痛い、おなかが痛いと言ってきたりする。いつからと聞くと、「家にいるときから」。お母さんに言ったのか聞くと「言っていない」との答え。どうして保育士に言えることが母親に言えないのか。また、迎えが遅くなった母親をかばって、「今日はお母さんたくさん仕事があるんだわ。本当は延長番に入りたいのだけれども入れないの。だから遅くなったりするの!」。このようなことを言っている。子どもの気持ち。本当は母親に訴えたかっただろうに、言えない状況。これほどまでに自分の母親に気を使わなければ生きていけない状況を考えていきたい。子どもの代弁者になる事も必要だが、すべてを話す事でわかってくれる母と、逆に子どもに対してつらくあたるなど、いろいろなことを考え専門の機関とも連携をとりながら、子どもの育ちを考えていかなければいけない。</p>
<p>子どもの心にそうということは、子どもの言いなりになることではなく、気持ちを受け止めた上で「そう〇〇したかったの」としっかり気持ちを受け止め、要求に応じ得ない時は、ゆっくりと話をし、言い聞かせるという「対話」の時間が大事であると思う。ギャーギャーとうるさいから応じてしまいがちの気がするので、けじめのつけ方が親自身、見極めがつかないのではないかと思う。</p>
<p>難しい問題もあるが、社会環境の中で育っていくことが難しい部分をどう補っていくか、課題である。</p>
<p>休日の過ごし方をみていると、家でゆったりと過ごすより、外に出かけることが増えている。住宅事情もあり、家にいられないという話も聞いている。そのため、月曜日に子どもが疲れて登園し、園で休息をとる姿も出てきている。</p>
<p>洗濯をきちんとされた衣服やタオルが用意されていない。お風呂に入っていない（おしりが、かぶれている）。忘れ物が多いなど…。すべて教えてあげるのではなく、どうしたら子どもが心地よく過ごせるかを知らせてあげたい。我が身において考えてほしい。</p>
<p>大人の生活リズムで動いているようで、特に休み明けは、疲れたりイライラしていることが多くなっている。</p>
<p>幼児期の習い事が多様化している。保護者の子どもへの成長を願ってのものだが、子ども中心の休日になっていないような面もある。</p>
<p>様子、慣習、環境どれにしても、同じ目標（改善点）に向けて、園と家庭との協力が必要であり、そのためには、お互いの信頼関係を作っていくことが、一番大切である。</p>
<p>保護者の休みの日にも登園する幼児が増えている。休みの日は、ゆっくり過ごさせてほしいと思うのだが…。</p>
<p>個別にひとりずつ、丁寧にいかわり、保護者に具体的ないかわり方、しつけのしかたを伝える。毎日の根気のいる子育てが、今の親の中では、でききれない人が多い。親の良いところ、頑張っているところも私達が認め、励ます必要もある。子どものよきも認めながら、伝えたいところも話してゆく。</p>
<p>今の時代は、何が起こるかかわからない事が沢山あるので、家庭、地域、保育園が一緒になって子どもを守っていく事が大事だと思う。生活習慣も毎日の積み重ねなので、規則正しい生活を心掛けていく事が大事だと思う。</p>
<p>お父さん、お母さんがいそがしすぎて、つかれています。子どもたちの見て！に気づいてあげられず、見て！見て！甘えたい！を保育士に求めていく子が多いと思います。</p>
<p>テレビ、ビデオ、DVD、電子ゲームなどの時間が多くなり、親との、兄弟との関わりが少なくなっているのではないかと。</p>
<p>夜型生活のためか、朝からあくびをしていたり、疲れたと座り込んだりする。家庭で覚えるであろうことも保育園で知らせていくという現状がある。</p>
<p>子どもにも保護者にも、もっと社会的規律を受け入れられる体制が必要だと思う。個人主義の前に社会性を学べないようになりつつあるが、保護者の保育園、幼稚園、学校への、しつけ丸なげや、一方、すぐに法的対処になる問題がある。保育園等の中（平行していくものでなく）上記問題を主題とした、新たな形での受け入れ施設を作る必要があるのではないだろうか。</p>
<p>ならいごと→学校を選び、受験の増加。もっとゆっくり地域の中で育つように！親は、小、中の受験社会に不安をもち、親は小、中の受験に走っている。子どもは、小さいころから受験におわれ、おちるという体験に傷ついている。</p>
<p>遅寝、遅起きの子が増えている。また、身体的にも軟弱な子が増えている。人の話が聞けない子。じっと座ってられない子。</p>
<p>生活環境。親子、家族でゆったりと穏やかに過ごせる時間がほとんどないように思う。休日の外出も長時間保育の子どもにとっては、つらいものがある。保育園だけでは、援助に限度がある。自治体、社会、国、全ての支援が必要だ。</p>
<p>生活環境について、もっとアクティブで、もっと子どもの想像力・創造力を養えるような環境づくりが必要と思う。しかしそれには、設置基準、役所、上司の価値観の問題もあるため、実施は、本当に意見の合う（保育観のあう）人たちが、モデルケースを作ってやって実践してみないとわからない。特に公立では難しい（50年後にはできるかもしれないが）と考える。しかし、欧米から比べると、上記のような力の養成は、日本はとて遅れていると思う。</p>
<p>保護者の忙しさ、心のゆとりがもてない今の社会状況に問題があると思う。</p>
<p>子どもが遊べる環境がなくなったこと（広々とした安全な場所）。メディアの視聴が多い。運動の不足。広場などは行政に働きかける。生活習慣などは親と一緒にその大切さを学びあう。</p>
<p>戸外で子どもたちが安全に群れてあそべる場がない。実体験の減少（室内で遊ばせるほうが安全という思い、ゲーム・映像・ビデオなどに頼っている）。地域の子育て能力をつけるため地域に子育て支援センターを作り支援していく。学校・保育園・幼稚園などを開放してふれあう遊び（自然・人・物）を知らせる。</p>
<p>生活習慣については、個人差があり、個々に合わせてじっくり指導しています。生活環境については、外あそび、運動あそびなど、存分に体を動かすことが、育ち盛り子どもたちにとっては、必要だと思っている。</p>

<p>保護者中心の生活を見直し、子どもにとって何が今必要なのか、保育士の話すすなおにきいて、自分たちのできるところから行動してほしい。</p>
<p>小さいころの習慣が、学童期にもつながることを知らせる必要がある。いい事、悪い事のけじめをつけない保護者が多い。子どもは急に大きくなるわけではないのだから、小学生になり、「あれはダメ」「こうしなさい」などという親の言葉は通用しない。小さいころから社会のルールを公共の場で守らせていくのは、親の責任であると思う。何をしても「個の自由」「尊重」と「ワガママ」「身勝手」をはき違えている大人（大人自身もその大人の子どもにも）が増えていると感じる。</p>
<p>自己中心の行動が大きくなって変わらない。わざと注意されていることをする。一番危惧していることは、夜型生活になっている現実。8～9時に起きる子どもも多々ある。言葉遣いが悪い（テレビ・メディアの影響が著しくみられる）。子どもへかける言葉づかいなどまず大人が気をつけていきたい。子どもの気持ち、健康状態をしっかり見極め、充分に心配りをしていくように保育士同士連絡をとり合い、接し方を話し合っていく。</p>
<p>すぐに解決できない問題ばかりで頭が痛い。保育園としてはできることの限界があるので、こえる問題については、専門家にゆだねたい。</p>
<p>クラス別の保護者会、全体会などを通し、子育てについての意見交換の場がもてるとよい。</p>
<p>テレビ・ゲーム等により時間を過ごしている子が目立つ。乳幼児としての体の発育が弱く、体力がなく、自分の体を守る力が低下している。小さなケガをすることにより大きなケガを防ぐ方法を知る力が育っていない。保育園では外遊びをしているが、危機管理的問題もあり外遊びが少ない。</p>
<p>すべてが親中心の生活であると思います。これは、生きていくため、生活していくためには必要なことなのですが、子ども中心に少しでもなってくれたらと感じます。問題の解決や取り組みは難しいです。生活の保障をできるわけではないですから。</p>
<p>食物アレルギー、アトピー等の皮膚疾患の子が多くなってきている。子どもに負担のかからないように配慮していきたいと常々考えている。</p>
<p>仕事を休めないということもわかるが、何ヶ月も薬を飲み続け、苦しそうに咳をしている子どもを見ているのはつらい。</p>
<p>今は核家族が多く、人とのふれあいがなかなかとれにくくなっています。できるだけ外に出ていろいろな人と触れ合って成長して欲しいと感じます。また人に怒られるということも今はほとんどなく、しつけという問題を考えても、当たり前前のことができなくて普通といった世の中になりつつあります。いけないことは家でも外でもしっかりいえる私たちであることが大事のように思えます。</p>
<p>ケガなどから守ろうとするあまり、いろいろな経験が少なくなってしまう。社会全体が、もっと寛容な心をもつことも必要なのではないかと思います。</p>
<p>各家庭の状況は様々で、それをあれこれいっても仕方がない現在、保母さん（あえて保母）は保護者に不満を持ちすぎだと思う。自分ががんばったことをやっていない人を見ると、もどかしいのだろうけれど、子ども同様、ありのまま、こんなもんだと親のことも受けとめられたらと思う。</p>
<p>運動面では、転びやすい子が増えたり、散歩などの園外保育では、疲れやすい子が増えたようにも思える。保育園の中でも、安全をより重視し、行動、遊びの制限を多くしてしまっているようにも思っている。</p>
<p>疲れている子ども、きれやすい子ども、いじめ、いたずら、悪いことをしてしまう子ども、どれもこれもそのような子が「この子は～」とレッテルを貼られるような子どもたちではなく、子どもからの精一杯のサインだと思います。早寝早起きの習慣や、テレビやゲームなどの時間など、また言語の未発達、どれをとっても大人の責任が非常に大きいと思います。子どもとかかわる大人が精一杯子どもの可能性を引き出すような働きかけをすれば、子どもたちはどんどん変化して良い方へ変わっていきます。それには大人がまず変わることが大切でしょう。子どもの生活に良い社会作りを、未来の子どもたちのために考え、実行することが大切でしょう。</p>
<p>ADHD、アスペルガー症候群など、生活面でより細かな配慮を必要とする子どもたちがいます。私たち保育者も勉強する機会を多く持ち、今後の集団生活のあり方（生活習慣、生活環境等）を検討していく必要があるのではないかと思います。こういった子どもたちも安心し、楽しく過ごせるように環境づくりをしていきたいです。</p>
<p>4歳児クラス内では、指を吸う子に対し、保護者からの要望として「やめさせたい」「歯並びのこと」などの悩みも多くあり、「園内にいるしゃぶっている子にどう関わっているのか？やめるよう話してはくれているのか？」という疑問があり、同様の姿に、つめを噛む、シャツをなめる、吃音、身体の痛み等メンタル面のことが多く関わっていることを話し、そのものをやめさせても別の形で表れることを、保護者に理解してもらい、対応。子どもに対しては、そのときの状況で個別対応し、切りかえを促すようにしている。生活習慣の面では、遊びの中の延長として考え、「〇〇しなさい」というかわりとは違い、今、どうしたらよいかという形で対応している。</p>
<p>保育園での生活環境でいうと、子どもは少人数の方がいいと考える。130人くらいの大型園ではなく、100人ほどまで。ゆったりと遊べる時間の保障は、子どもがのびのびと育つ。冷、暖の完備は快適に過ごすには大事である。</p>
<p>生活環境はどんどん悪くなっていると思う。子どもが安全に思いっきり遊べる環境を取り戻すということはとても難しいと思うが、大人の責任で努力をしていかなければいけない。</p>
<p>夜型の子が多く、午前中、ボーとしている状態、午後から調子がでる。けじめがなく、気持ちの切りかえがなかなかできない。ちょっとした事で怒ったり、暴力となる子もいる。</p>
<p>現在の子育て中の保護者に時間的なゆとりが全く感じられない。就労の厳しさや職場で要求されることも多々あることを理解し乍ら、子どもを迎えにきたら何をおいても笑顔で抱きしめて欲しいと伝える。（子どもは、親がきても帰ろうとしない。親は、帰りの身仕度や連絡帳を先にみている。）</p>

<p>子育てを父親が共にしている家庭は多いが、一方では父親に対してさせず、自分で全て受け持ってしまう。母親がきちんと子どもと関わらず、相手をする事も出来ない。父親も共に子育てしていく事が大切だということを母親に理解してもらい父親にも取り組ませていく。</p>
<p>「地域の安全」が、難しくなってきた中、子どもを伸び伸びと自由に…という環境作りが、困難になっているのではない。情報が多くなる中でまどわされてしまうことが多く、自分の子と向きあう育児がしづらいのか、子と親との温度差があるので日々の中で伝えていきたい。子どもとの関わりの中で言葉を通したコミュニケーションを多くし、相手の言い分、気持ちを知り、受け入れる。自分の気持ちを伝える。表情に含む、本心などいろいろな経験を通して感じられる子になるよう考えていきたい。</p>
<p>基本は家庭なので、時間をやりくりして、子どもとしっかり向かい合ってほしい。しっかり向かい合うと、生活習慣や生活の環境も、良い方向へ考えざるを得なくなる。</p>
<p>生活にメリハリがない。例えば昔は夜遅くは大人の時間、子どもの時間はここまでと決まっていたり、ゆっくり夜過せるのは土曜日だったり…生活の中にメリハリがあったが現在は生活にメリハリがなくなり楽な方に、また大人の生活に子どもを合せさせてしまっているのではと感じる。また子どもの要求に対してすべて応えてしまうため、我慢することができなかつたり自分中心、感動が薄れる等の姿が見受けられることがある。</p>
<p>夜型が増々多くなり、朝おきられず悪循環。はじめがない。</p>
<p>挨拶が出来ない→親もできない。落ち着きがなく、良い悪いの判断ができない→分かっている、叱られても、くり返したずらをする。解決)あいさつは、毎日、こちらから挨拶することが大切。叱る時は、顔で怒っている表情を伝える。暴力はなし。しばらく様子を見て、自分自身で気づくようにしむける。</p>
<p>すべて家庭の問題がからんでくるので難しい。</p>
<p>生活習慣環境により大きく左右されていることを直に感じている日々であり、小さい時からの好ましい経験が大切であり、家庭で十分出来ない事を補うのが保育園の役割であり、その為には伸々と育てられる十分な人的、物的環境が与えられなければならないとおもう。お金には代えられない大切なものを守っていくことにより、保護者にとってものぞましい生活につながっていくとおもう。</p>
<p>あまりにも目が行き届き、すべてが親の管理下にあり、自分で考えて行動をするということができない子がいる。登園時間が遅い。経験不足の為かケガをしやすい(転んだ時にとっさに手がでない。バランスを崩しやすい)。</p>
<p>子どもの様子で感じることは、歩くのが苦手である、それと体力がなくなっているように感じられる。解決にむけては、なるべく歩くように心がけたり、体を動かす機会を作る。</p>
<p>子どもの様子としてははじめがない、社会性の薄さ、協調性の無さを感じます。保育園は集団生活の場です。1人勝手な行動を取っては、楽しい生活を送ることはできません。生活習慣については、1日の家庭でのリズムも大きな問題と感じます。日々の習慣が成長に大きく左右されると思います。生活環境についてはTV、ビデオ、DVDなど、バーチャル的なものが多くなり、非現実的なものが生活の中に多く入り込み、悪影響を与えていると感じます。戸外で身体を使ってあそぶことが少なくなり、又、生活リズム、食生活の乱れが全てにつながってくると思います。</p>
<p>子ども主体でなく、すべてのことに対して大人のリズムで動いているところがあるように感じる。</p>
<p>子どもの様子で気になる事は、親が子どもの姿を見て追わず放っておいて、注意しなくなった事が多く、事のよし悪しが分からなくなっている子が多くなって来ている事です。保護者の方が何はいけなくて何がいいのかが分っていない様な時は様子を見ながら、「こういう事はいけない事」と保護者が居る所で注意したり、伝えている。</p>
<p>大人中心の生活になってしまいがちなことがある(社会的に就労時間を短くすることも解決の1つになると思います)。子どもの生活リズム、姿を伝えていくこと。“今”が大切な時だということを伝えていくこと。</p>
<p>差がありすぎて個別での対応が多くなっている。</p>
<p>集団生活の中でケンカ、けがはあるが、朝登園して来た姿で保護者のもとにということを中心に心掛けてきた。(今の園ではないが)気を配っても、様々なことがあるが、理解してくれる保護者もいてホッとすることもある。</p>
<p>情報過多(マスコミ過剰)などどれが正しいのか悪いのか。またマニュアルどおりでは子育てはできない。子どもをとりまく環境が変わってきている。社会が悪すぎ。今やっている仕事(保育園)で子どもをしっかりみていきたい。</p>
<p>子育てという文化の継承が無くなっている。教育の現場の前に、子育てに関わっていきける、保育施設をもっと増やす事が先だと思う。孤立した子育ては、少くとも保育園では、協力チームとして機能出来る。国としてもその点見直すべき。コストダウンでなく、国として“公”で見えていく事が大事なのではないでしょうか?</p>
<p>面談で話題となり出てきた問題で、帰宅後のTV、DVDを観る時間について。寝る時間の遅さ、一緒に布団に入ってもなかなかねつかないののでだんだん遅くなる。前者については、子どもたちにも食事の時TVはどうしているか?問い、食事中はTVを見ないのがベストであることをくり返し伝えている。</p>
<p>子どもをとりまく環境がTV、ゲーム等の割合が大きくなり刺激がありすぎる。受け身であることへの危機。絶対いけないというわけではないが、言葉のコミュニケーションや、何か一緒に共感できるものでのコミュニケーションの大切さを啓蒙していく必要がある。絵本の楽しさ、ふれあいのある関係の大切さを積極的に働きかける。</p>
<p>日常家にいる時間が短いにもかかわらず、テレビやビデオ等を見させている時間が長い(2h~3h)。又、ビデオだと1つのビデオを一回で通して見せている。子ども達だけで見せていてその間親は違うことをしている。家庭内で話し合っているテレビやビデオを決めたり、時間を決めたりする。同じテレビやビデオも一緒に見ながら共感したり話題にしたりする。親向けになぜTV、ビデオを長時間見るのがよくないか、色々な例をあげつつ話をしていく、又それに代わるもの“絵本”“あそび”等提案していく。</p>

<p>生活環境等—この頃は、母親が忙しいのか、時間がほしいのか、子どもと離れたいという傾向を感じる。今、可愛い時期はいつきだけだと、私も祖母によく言われるが、そのようなアドバイス等も核家族化、マンション等と閉鎖的傾向により、ますます、疎外感をつのらせているのか。保護者ばかりを責めず、理解を示した方がいいのか、子どもの心の代弁者に徹するより、尊重した方がいいのか迷うところだ。</p>
<p>デジタル化された生活の中にどっぷり浸っているように思います。アナログなあそび、伝承あそびなどあえて一緒にすることで、肉声のこちよさ、人々のふれ合いのこちよさを知らせています。</p>
<p>お友達の髪の毛を引っばって、なかなかはなさない。力が強いので髪の毛がぬける。保育士におんぶされている時も強く引っばってくる、怒るとニヤッと笑っている。1歳2ヶ月だがくり返しくり返し、痛いからヤメテと話すが理解していないのではないかと思います。</p>
<p>テレビで、相手をバカにする、暴力中心のアニメ。それを見ないで生活できるわけがないので子どもにより良いテレビ番組を考えていくべき。</p>
<p>物を大切にすることを、日々の中で伝えていっているつもりですが、自分（個人的に）としては難しさも感じます。やりたい気持ちを大切にしながらもむだにはしない。ということを知らせていきたいと思います。</p>
<p>習慣や環境は大人が整えてあげるべきことなのですが、いろいろな事情から足りないことがあるのかも知れません。</p>
<p>生活リズムも含め、夜あそびに連れていくなど大人の世界に子ども達をまきこんでいる方が多いと思います。とても難しい問題だと思います。</p>
<p>物質的にはとても豊かになっていると思われませんが、ソフト面、心の面ではどうなのだろうと思うことがあります。日本の国全体にゆとりをもった生活、(物質や金銭面ではなく)心がやすらげる生活がつかれるようになるにはどうしたらいいのか、考えさせられてしまいます。</p>
<p>友達や保育者に対して、にらみつけたり冷たい目をするところがある。オモチャを投げる(片付けの時など)怒り、悔しい気持ちの時に物に当たる。洋服を畳まない。トイレの後に手を洗わない。</p>
<p>生活形態が夜型になっている社会の中で、どのように健全な子どもを育てていくのか、大変難しくなっていると思います。流されるのではなく、これでいいのか、人間らしい生活が営まれているのかなど、思い返してみることも大事だと思います。そして、一歩何かを変える努力をしてみることが大切だと思います。</p>
<p>(子どもの様子) 普段、忙しい親たちなので近くの公園でもよいから連れて行ってくれるとよいのですが、マンションから出ない、砂あそびきたない、保育園ではじめて経験する、さわれない、砂がつくと動けない子もいた。(生活習慣)汚れたら手を洗う、あいさつをする(食前食後、朝夕のあいさつ)等親がしない人が多い。(生活環境)家庭訪問でもしたいと思う家庭あり。どんな生活しているのかと思うところ多い。</p>
<p>子どもの言葉づかいが乱暴になっているというが、大人(特に若い母親)の言葉づかいの悪さ、乱暴さがとても気になる。</p>
<p>自然が子どもたちに与える素晴らしさは、大人が大人の目線で見るとはではありません。なんとかならないものでしょうか。植物園も昔は崖のぼりOKでしたが、今は出来ません。子どもたちにとって、自ら探索し見つけながら面白さを体験していくには、自然とのかかわりは大きな力となります。</p>
<p>子どもの自律について。子どもの要求を受けることが大切だという点をとらえて、何でも許容している保護者が増えたと思います。とてもわがままで、アドバイスしても、通じないことも。価値観が多様化して難しいですが、公共で守るべきことは、教えること。小さなことでもいけないこと・大きくなってからでないと許されないことは「今はダメだ」とくり返しくり返し伝えて、子どもが自分の中で自己対話しながら自律に向かう道をつくってほしいと思います。父母の力で講演会等を開いて、いろいろな発達学のお話を聴くべきです。共通の認識をもつことが大切です。</p>
<p>マンション住まいの家庭が多いが、近所の子どもと遊んだという話はあまり聞かず、また走り回って遊べる公園なども少ないように感じる。—問題の解決に向けて—公園をこれ以上なくさないこと。浮浪者など不審者が公園や路上に多いことが保護者が、外で遊ぶことへの心配の一因と思われるのでその対策も必要だと思う。</p>
<p>休みの日のすごし方がちがってきている様に感じる。近隣の公園や自然との触れ合いなど少ない。公園の固定遊具であそばせない、公園には行かない。体を使ってあそばない。近所の友だちとあそばない(帰ってからあそぶ時間がない)。登降園は自転車が多く、歩くことがない、歩けない。親も子どもコミュニケーションのとり方が育たない(下手)。足、腰弱く体力もない。核家族が多く、地域での育児力の低下もあるが、自分の家族だけですごしていることが多い様に思える。父母会主催などのクラス交流会など、とても貴重だと考える。活動を大切にしてもらいたい。</p>
<p>子どもは、子どもらしく、あそびの中で知識や意欲を育て情緒豊かに育て欲しい。大人の都合や忙しさに振りまわされたり、早期教育されるべきではないと思う。子どもの育ちにとって何が大切で、大人の役割りと責任が何なのか、社会全体で意識改革していくことが必要。国の政策を検討する中に、現場の意見を大切にすることが必要。</p>
<p>経済的には、よくても、その子自身の心の面がどうなのかと思います。何でも、その子の思いを通す事が、愛情ではなく時には、しっかりと親の威厳を見せるのも必要だと思います。「うちのママは怒らないんだよー」と言っている子ども…親の前ではイイコでも保育園では、お友達にいじわるしたり…。子どもの心を一番わかっているのは親であってほしいのですが、今はそれが難しいようです。</p>
<p>子どもを大人の生活に合わせないで欲しい。</p>
<p>小さい乳児であれ、夜型の生活が普通になっている。その為に睡眠不足で、朝から不機嫌、無気力の子が多い、午睡時間の睡眠で、一日の睡眠時間をカバーしているところがある。午後から元気になる子どもが多い。親の生活に子どもが合わせている。休日も子どもとすごすのは、どこかに行かないと間がもてなくなっている。家庭での何気ない生活も大切にしたい。</p>
<p>乳離れ、排泄の自立など節目を乗り越えながら、子どもは成長するが、個性尊重により促せない為、時期をのがしてしまう。自立の為の働きかけ方を知らせていく。</p>

<p>大人の生活に合わせて過ごしている子が多いと思う。また、親のストレスが直接子どもに伝わってしまい、怒られることに敏感になっている子、逆に常に事細かく言われているため、多少の注意では耳に入らない子もいる。また、親の前では良い子の姿しか見せず、園ではその反動として乱暴な行動をとったり、強い物の言い方で、友達を攻撃する子もいる。親に良く見られたい、怒られたくないという思いから、親の目を意識し、気をつかったり、自分自身を出せない子がいるのがとても気になる。親も仕事や、子育てに対してストレスを感じているようなので、社会全体が子育てをしている親に対するケアに取り組むべきだと思う（勤務時間の短縮、育児手当ての拡大など）。</p>
<p>トラブルを起こす子に限ってか、友だちとのコミュニケーションに悩む子が多い。それを知った時には驚いたと共に嬉しい気持ちにもなった。子どもも、今のままではよくないと感じていて、何とかしたいという考えはあるらしい。そうした子どもの気持ちに寄り添っていききたいと思う。生活習慣や環境は保育士、保護者と協力しあっていくことが一番理想的だ。保護者会や勉強会など積極的に開き、話しあうことが必要だと思う。</p>
<p>「親が変われば子どもも変わる」ということは、今はむしろかしくなっている。「子どもが変われば親にもわかってもらえる」。保育園にいる間に子ども1人ひとりとしていねいに接し、保育していく中で保護者との信頼関係を作っていくこと、友達との関係や子どもの成長、少しずつ対話を重ねていくことで保護者も変化してきています。</p>
<p>まず、大人の生活習慣、生活環境を整えるべく、アドバイスをしていくこと。昔は「親が変われば子どもも変わる」といつてきたが、今では、かなり難しい。子どもを変えてあげたい。生活を整えてあげたい。せめて保育園にいられる間と思いい、保育することが、取り組みになるのでしょうか。</p>
<p>生活リズムの大切さ。保護者の影響がかなり大きい食生活。日常の生活などなどを訴えていく。</p>
<p>保育園に子どもをあずけていて安心という気持ちは、“子育てばなれ”にならないかという心配もある。子どもを自分のそばにおいて、生活するのは大変なので、休みであっても、仕事が終わっていても、できるだけ、保育園にあずけようとする親が増えている。保育料を支払っているから—いいものでもなく、一緒にいたいという気持ちが持てるよう親育てをしていかななくてはならない。と日々、感じている…しかし伝え方も難しくなかなか伝わらない。</p>
<p>家庭でのストレスを園で発散する子。</p>
<p>TV やゲームなどに家庭での体験がたより、実体験が少ない子どもが出てきている。これも、少数であるが、かたよっている家は、その片寄りの方が大きい。園ではせめて実体験を味わわせていってあげるしかないと思う。</p>
<p>指吸いが多い子がいる。おしぼりタオル、バスタオルなど使う物が汚ない（髪の毛がついていたり、糸くずがついている）→親に伝え、新しくしてもらう。</p>
<p>眼ヤニ、鼻水、食べ物のベタベタで顔中汚れたままで登園する子。紙オムツが垂れ下がる程オムツを換えてもらっていない子。着替えの服やオムツ等が常に足りない子。爪が伸びたり割れたりしている子。身の回りの世話が十分にされていない子が多い。親には言いづらいことも多いが機会をみて伝えている。</p>
<p>親が家での仕事をしている間、テレビをつけて、テレビに保育をしてもらうケースがありますが、テレビには親の替わりは出来ない事を伝え、テレビのつけっぱなしをひかえる様、話していく必要がある。</p>
<p>就労は必要なことで、その間保育園に通わせることは、悪いことではないと思う。しかし、家でも親中心の生活で子どもが親に合わせている感じがする家庭も少なくないと思う。難しいと思うが、職場や社会全体で、子育てをする保護者に子育てしやすい環境を作り、子どもが中心になる生活をして欲しい。</p>
<p>大事なのは、親御さんと共に、いっしょに共感しあいながらの子育てであろうと思われる。</p>
<p>大人の考え、価値感、が子どもに向いているか、そうでないかによって大きいと思う。各家庭の生活にも踏み込むことなので難しい。</p>
<p>夜が遅く…だから朝、早く起床できない。生活習慣、生活環境は自分本位な大人が増えている事で、子どもの情緒を上手に発達させる事ができない世の中になっていると思います。他人の子であっても、子どものいない大人であってもいずれ、自分が年老いた時、今の子どもたちに何らかの形でお世話になるのだという事を、社会全体で知らせていく事ができれば良いなと思います。</p>
<p>インターネット、ゲーム、テレビなど機械とすごす時間が多いが、人（保護者、兄弟、祖父母、近隣の人、買物先）との関わりがもてるようにする。地域との交流、家庭と保育園以外の場も年齢にあわせて、知らせていく。</p>
<p>生活環境というのはとても大切なことで、保育の世界での生活環境もずいぶん変化している。社会状況が変化しているのでしかたないというものの、守れる物は、守り、伝統として、残して、伝えていくことも大切だと思う。</p>
<p>子ども達は大人がやれば生活習慣等はすぐに良い方向へ向かっていくが、大人を変えるのは難しい。子どもの立場になり話しをしていく。</p>
<p>昔とは、かなり変わって来ている、親のおかれている環境もちがいが、それを、しっかり受けとめながら、その子のおかれている毎日の生活をわかり、その子にあったうけとめ方をしていかななくてはいけなくて、とっても難しくなって来ている。</p>
<p>何に対してもさほどやる気がなく、疲れているカンジの子がふえてきている様に思います。</p>
<p>疲れている子、寝不足の子、不調の子が増えている気がします。子どもの様子を伝えあいながら、考えていければ良いと思います。</p>
<p>子ども自身が親に対してたっぷりと甘える事ができないのかナ…？と思います。全員がそうとは言えませんが満たされていない子が多いのかも。親に甘えられない分、保育士に求めて来るけど、やっぱり一番は親からの愛情を欲しているのだと思います。</p>
<p>子どもは自分の状態を常に大人に訴えているので、きちんと向かい合い、話をきいたりふれ合ったりするべきだと思う。</p>

親としてわが子への愛情を感じていることは伝わってきますが、ごく一部ですが、生活が大人中心で子どもが置きざりになっていることが心配です。各家庭の生活に合わせ、環境面もたとえばアレルギー対応も出来ますが、心の問題はとても複雑で難しいです。ただ、家庭でも悩んだり苦心していることもあるので、それを受け理解しながら1つでも支えられるところから取り組んでいます。デリケートな問題もあるので、まずは保護者との信頼関係を築くことを心がけています。
テレビやビデオ、パソコン等で遊ぶ（見る）ことが多すぎて、実体験が乏しいと思います。家庭に働きかけつつ、保育園では様々なことを体験できるよう保育内容を工夫していくことが大切だと思います。
子どもが、というより親が何らかの理由により心が病んでいるという場合がある時、子どもの生活環境は普通ではなくなります。その辺も含めて、場合によっては親を判定するような形をとる必要があるのかも…。
子どもの生活環境を、親のせいばかりにしてはいけなくと思う。今の親が現代社会の中で育児する大変さは、かなり大きいと思う。親・職員（保育園）地域の人々等、様々な大人と、行政がしっかりと、協力しあって子どもの生活を見つめ直す必要がある。
運動面での経験不足を感じる場合があります。歩行以前のハイハイや屈伸運動が不足していたのか、入園時の1歳で歩いていたものの、足が0脚のようになっていて、歩き方が不安定で転びやすかった子。現在の1歳7ヶ月段階でも、内股のようになっていて、何も無い所で足をからませるようにして転んだり、簡単な段差でこえられず転んだり、不安定な子。入園当時の7ヶ月の時で寝返りもまだしておらず、運動面の発達がゆっくりで、園に入ってから、その子のペースで発達はしてきているものの、ゆっくりな子など。家庭での、その子の段階に合った運動の経験や、それを引き出す働きかけの機会を多くもってもらえるような啓蒙活動が必要かと思えます。
社会的、集団としてのルールが守れない子が増えている。大人も利己的なのでその傾向が強まるのは当然。
夜型の生活リズムだけは、やはり問題と思っている。子どもがいきいきと育っていくためには、早寝早起きの習慣を大切にしてほしい。忙しい中でも、時には、家庭全員で食事ができるような取り組みもしてほしい。
大人の目が届きすぎて、いたずらなどできない。実体験がない。自然に触れるより、人工的な場所での遊びが多い。小さいうちから、パソコンで遊んでいる。
生活環境の中で、テレビゲームが子どものまわりにたくさんあること。3歳の時からやっている子どももいる。保育園の行事の時に小学生が来て、ゲームばかりやっている。
椅子に腰掛ける際、背もたれによりかかる。この姿勢で食事をする。
子どもが安心して、安定して過ごせるようになってほしい。親が愛を持てるようになってほしい。
子ども達の中に、気になる子が増えてきているのが気になります。育つ力が弱かったり、育てにくかったり、親自身もそのことになかなか気づかなかつたり、又、認めたくないということも多いと思います。具体的に、こうということはまだ見つけられず、日々、勉強しつつ考えているところです。
両親の子どもに対しての思いが遠い先のことではなく、今、何が大切でやらなくてはいけないのか、真剣に考えていってほしいと思います。まず、責任ある“子育て”を！

## (8)【設問(16)】 保護者の態度や行動で困ったこと

少子化によって、今の親は少子化の二次世代で、その少子化によって自分が子どもを産んではじめて赤ちゃんに接する体験をする。このとてつもない体験によって不安になり、また自分の親に聞いても昔の事（25から30年以上前）なので覚えていないなど、世話をする事の大変さと、赤ちゃんのかわいさ、自分の所在の不安定さ（会社以外の）など、アンビバレンツな体験を短期間にするために、子どもの育ちや対応の方法を知らないために、過保護になったりする。原因は、わからない事への不安から来ると思う。
保育園に対しての意識が低い。
何でも保育園に任せてしまうが、何か起こったとき、過剰反応する。公共のものを壊す。乗ってはいけないところに乗るなど。ダメとわかっている事を目の前で子どもがやっても、叱れない、とめられない、又は「先生に叱られるよ」と、何がいけないのかを伝えない。上記同様に子どもがごねたり、ぐずったりした時、なだめられず保育士にゆだねてしまう。
ほんの小さな怪我もダメ（擦り傷等）。食事も園で食べているから、家庭では別に良い。
親になっていない親がたくさんいる。対応の仕方も一人ひとり配慮していかなければいけない。
保育園にほとんど任せっぱなしの親が多いのでは？。食事、離乳食など、頼りっぱなしの感じがある。おむつトレーニングも、家庭ではあまり頑張らず、園にしてもらおうとしている人もいる。
子どもへの意識が向いていないとき。
細かい事をあげればきりが無いが、虐待以外はそう深刻になることはないと思うが…。
約束の時間（迎えの時間、面談の時間など）を守ってもらえない。生活に必要なものや枚数が足りない。おむつ、エプロン、タオル、衣類など全て不足していて、保育園のものを貸すが戻ってこない。職場や携帯電話などに連絡がつかない。届出された職場に在職していない事もあった。
他児と自分の子を比較して、ホッと安心したり、ストレスをためてしまう。親の言う事を聞こうとしない為、保育者に代弁してもらおうとする。必要なものを忘れても困らない。都合の悪い事は言われたくない。
集合時間に遅れてくる。持ち物、提出物等を徹底しない。
子どもの言う事にふりまわされている。

食生活→食べないからと手をかけない。生活リズム→親中心の生活リズム。子どもの様子を伝えながらアドバイスをするが、なかなかわかってもらえない。やってみようとする気持ちもない。
「子どもはかわいくて仕方がない。こんな時期は今しかないから、できるだけ一緒に居たい」と言って入口に来る保護者も、保育園に預ける事に慣れ、子どもが保育園で楽しく過ごしていることが解ってくると段々と手をぬいてしまう。迎えが遅くなったり、保育園で食事させてもらえるからと、食事なども手抜きになったりしてしまう。また、甘える心地よさが解ってきて、親に甘えてくると保護者はどうする事もできず、保育園で軌道修正してください、と言ってきたり、保育園が一生懸命やると、やるほど保護者は保育園に頼ってしまう事も多くある。甘えやわがままも一つの成長と受け止め、親子で頑張る保護者があまりにも少なくなっている。また、子どもと一緒に何かをする事が出来ない保護者が多い。
人との関わり方が苦手な親が多い。挨拶をしない親が驚くほど多い。特に父親は声も出さない人もいる。自分が大変なのだから見てもらうのは当然と思っているのか。協力し合っって子どもを育てていこうということが見られない。大人が善悪の考え方をしっかりと持っていないのではないかな。
子は親の鏡と言いますが、生活態度の良い親の子はちゃんとしつけているようです。親をよく見ている。人の話をちゃんと聞くことの出来ない親の子は、やはり人の話を聞く事が出来ない。
保護者の時間(大人の時間)で生活しているので、昼登園になる事が多い。園でのリズムについていけない。遊びの輪に入れない。園の中に入ると「先生が言うてくれるから…」と子どもを注意しないで放っておく。結局保育士に注意されるまで好き勝手にさせる。
親の身勝手に何でも要求して来る事(わがまま、非常識、行動、言動)。
担任の先生を「～先生」で呼ぶのではなく、子どもの前でも「～ちゃん」と愛称で呼ぶこと。子どもには、「～先生」と呼ぶようにしてるのに大人が愛称で呼んだりすると注意できない。
私達、保育者のものさしの視点で見のではなく、さまざまな角度でとらえることが必要で、発想の転換を保育者の側がすべきであると考えます。批判することは簡単なので、評価すべきところを出発点にし、それをきっかけに保護者との会話を増やしていくことが、課題であると思う。
保護者が保育園での保育に頼りすぎて、家庭での保育を怠り気味なのは・・・と感じることがあった。
子どもの成長、発達に対して、こうした方がよいことを伝えても、自分の考えがベストと思っている人が多いし、自分勝手な考えですすめたい人が多い。子どもとのトラブルでは、特に国民性の違いから、通じないことが目立つ。
父に伝えたことが母に伝わらない(逆手あり)で、二度、三度と説明しなおすことが多い。
登園時間が遅いため、子どもが遊びの中に入っていくづらいところがあるが、現在は、登園時間については、何時でもOKのため、保護者には伝えられない。
友達の前や保育士の前で「この子は、こういう子だから」と決めつけて話されること。都合でお迎えの時間を指定し、来られなくなった時、なんの連絡もなく、子どもにも説明しないこと。保育室の中で、特定の子供達とだけ、物のやりとりなどをしてしまう姿。保護者同士の私語が多いこと。
以前、私立で働いていた頃、保育時間中に子どもが高熱になり、保護者の連絡先(会社)に電話をしたところ、その日は、仕事を休んでいるという事で、自宅に電話をしたのですが、自宅も留守で、早く保護者に連絡をとりたいたいのにつながらないということがありました。保護者は、この日は仕事を休んでいるのに、仕事と言って保育園に子どもを預け、しかも、連絡先も告げずに外出していたので、困ったということがありました。このような事のないよう、保護者には、仕事が休みの日は、なるべく子どもと一緒に過ごし、“親子のコミュニケーション”を大事にするように保育園に入所させる時に、お話をする必要があると思います。
できるだけ長く預かってもらうという姿勢が理解できない。離れてしまえば“楽”を知り、関わる時間が減っている。できるだけ、触れ合う時間(長さではないが)を作してほしい。一緒にいると常に一生懸命ではなくて手を抜いて良いところもあり、それが子育てなんだということを知ってほしい。
基本的な生活が保護者自身できていない(食事をつくる。洗濯する。掃除する。お風呂に入る)。朝食、昼食、夕食を家族できちんとすることができていない。子どもの生活を重視する事が大事である。大人の気分や生活にまきこまないでほしい。
お迎えに来てても、我が子よりも他児のことが気になるのか、すぐには声をかけなかったり、保護者同士が会うと話に夢中になってしまう。
毎日DVDを見せている。何でもやってもらおうのがあたりまえと思っている態度。
保護者の方々が、気持ちよく保育園に通われることが一番。保育士も学ぶ姿勢をもち、お互いが理解できるよう努力する。保護者の方々も、我が子のクラスの子供たちは、みんな仲間として共に成長し合えるものとして、見てほしいと思う。お互いさま(かまれた、たたかれた、ひっかかれた)という気持ちがうすれているようにも思う。
保護者の方達も、日々、仕事や育児に疲れ、忙しくすごしています。ただ、子どもを預けて仕事を休んでいた(仕事が休みと伝えず)すると、とても悲しい気持ちになる。正直に言ってもらいたい。専業主婦は、自分が病気で、夕飯の買い物でも子どもを連れて行っています!。時間を守らない。
子どもの出しているサインを見て、気づかないのか、めんどろなのか?向き合おうとしない態度があると心配になる。心の病気を持った保護者も多くなっているため、対応の難しさを感じる事がある。
子どもの言う事だけで、話を大きくしてしまう方。かんじんな事を会っていても言うてきてくれず、連絡帳に書いてきたり、質問や悩みに返事を書いて、返事がなかったりする。
あいさつをしてくれない。約束の時間にお迎えに来てくれない。子どもに必要な物がそろっていない など。

<p>集団の中の一人でなく、個人だけの都合、主張があり、子ども、保護者である自分を特別扱いされる事を当然としたり、社会的に変わっている事項を無理に押し通そうとする事の対処に困る。</p>
<p>友達感覚でのやりとり。乱暴、粗雑な話しかけ、態度。笑顔でギュッと抱きしめたりが少なく、荷物の整理などが優先してしまう。絵本など親の生の声で話をしたりではなく、CDやTV、ビデオなどのことが多い。</p>
<p>登園時間が10時近くの保護者の方がいる。4月からずっとで、まったく変わらない。その子どものためにも、もう少し早くきてくれたら、もっと早くクラスの友達に自分を出せるように思う。</p>
<p>集団になかなか入りづらい子なので、なるべく早く登園させ、他児を受け入れる側にさせたいが、登園が遅く。</p>
<p>すべて、保育園のせい？けんかで傷つける、言うこときかない。何かを考えるのは親ではない。保育園、塾、スポーツ、ピアノなどすべて、他人まかせ。約束、締め切り、チラシを見るなど、守れない。忙しい！保護者同士は、メールのやりとりがあるけれど、本当のつながりは？気になる互いの態度は言い合わない。保育園で言って！</p>
<p>保護者と保育士と一緒にあって、子育てをしたいと思うのですが、保育園にすべてまかせっきりになっているのでは、困る。</p>
<p>保護者の方の要求、あれもしてほしい、これもということが多くなっているように感じる。また、子どもが高い熱を出しても、お迎えにこれない状況があったり、遅番、延長のお迎え時間が決められているが、それにまにあわず保育士の勤務時間が過ぎることが多くなっている。子どもが一番大変な思いをしているように感じています。</p>
<p>しつけの全般を保育園にまかせ、また、何か起こった場合は、こちらのせいにする。あいさつのできない保護者が多い。</p>
<p>ルーズさ！提出物の期限を守らない。迎えの時間も守らない。準備に不備が多い。</p>
<p>子どもが日々の生活に必要なものを最低限用意すべきだと思うが、意識がうすい。本音とたてまえが極端すぎる。個人情報や守秘義務があることもあり、伝えにくい。</p>
<p>子どものけがなどで、子どもが自分でころんでも親が誰かのせいになりたいと感じる態度。</p>
<p>話を聞き入れない。自分の思いばかり。子どもに振りまわされる。言われるがまま。何か、家庭で困ったことが起ると、保育園での影響だと言われる。※友達との関わりが広がってきたことを伝えると、「〇〇ちゃんとあそびたい」と言われ困る。親同士の付き合いは、するつもりはない。降園時、友達と一緒に手をつないで帰る。離れたがらないので、友達ができるのもどういったものか…。子どもがひとりで（友達同士で）遊べるようになれば、行かせてもいいなど。</p>
<p>子ども同士のトラブルがあった時に、言葉を選んで伝えてもなかなか素直に受け取ってもらえないことがある。</p>
<p>友だちとのトラブルなどで、自分の子どもの話のみを信じ、一方的にクレームをつけてくる。菓類など、子どものバックに入れ、子どもに管理させている（担任には知らされず）。</p>
<p>今は、保護者から私たちが学ぶ時代であり、どうやって保護者の気持ちに寄り添えるか考えていきたい。</p>
<p>けがやトラブルなど極力気をつけるのが前提だが、相手からやられた場合に状況を説明しても、お互い様にならないことがある。</p>
<p>自分の子どもにかぎってという思い込み、自分の子どもさえ守ればという思いの保護者、できるできないという目に見える評価にたより、子どもの心の成長を二の次にしている保護者が多くなっている。</p>
<p>日常の中で、仕事の忙しさに追われている保護者が多いです。一緒になって悩みを聞き、少しでも子育てする上で励みになるような対応を心がけています。</p>
<p>子どもを一日に一回は愛をこめてだっこしてほしい。1週間に1回は必ずつめを切ってください。耳あかもとってください。顔も清潔に気持ちよくしてほしい。家でも泣けばすぐ応じるということがあるかと思いますが、なぜ泣いているのか立ち止まり、考えて行動してほしいです。衣類、保育園に持ってくるもの、身につけている物すべてに名前を書いてください。</p>
<p>子ども同士のトラブルが、なかなかお互い様の認識に立てない。「うちの子は絶対悪くない」と思っていると子どもに伝わり、あやまつたりすることを嫌がるのがみられた。</p>
<p>ちょっとした疑問やクレームなど、関係者に話さず、直接役所へ訴えたり、メールで流したり…と、会話に欠ける保護者が多い。子どもの育ちでつまづくと、保育園の責任にしたり、自己主張だけしてこちらの意図を聞かない大人が増えていると感じる。</p>
<p>朝、顔を合わせてこちらからあいさつしても返事がなく、機嫌悪そうにしていたり、家庭で子どもの体調に変化があっても、そのことを伝えてくれなかった場合には困ります。</p>
<p>生活時間（リズム）が子どもにとって最適な条件を無視していることがある。話しても話しても耳を貸さない。提出物、連絡事項が伝わりにくい。その都度声をかけないと気付かない。</p>
<p>同じことを伝えるのも、話す人により与える印象も違うだろうし、受けとる保護者の気持ちによっても変わってくる。特に、トラブルの際の対応は難しい。</p>
<p>自己責任として子育てに向かっていない。問題が生じたときには、保育園に対して説明が不十分であったと平気で言える人がいる。そんな人は、本当はひとにぎりであると思われるが、その人の強い口調にやりきれない思いがある。「お世話になっています」「ありがとう」という感謝の気持ちが少ない（ない）、アドバイスを前向きにとらえない傾向が強くなっている。</p>
<p>保育園は保育園、家庭は家庭と割り切り、あまりコミュニケーションをとらない方もいます。具体的には、あまり家庭での様子を伝えられない。園での様子も気にされず、時間内にケガ・病気などしなければそれだけでいい…と割り切っているようです。「子育て支援」が一方通行になっているのでは、と思うことも多々あります。</p>

<p>様々な子育てがあるのでどれが良くてどれが悪いとは言いきれないと感じます。ただ、どの親も子どもを悪くしようとして子育てしているのではなく、そうなるようになってしまっただけなのだと思うときがあります。</p> <p>朝、子どもが寝起きが悪く、ぐずるからおちつくまで次のことをさせられない。だから朝食も満足に食べさせられない、保育園に連れて行けない。これで良いとは母親も思っていないが、どうすることもできず、結果子どもの言いなりになってしまう。園にきてても遊びに入らず、すぐに昼食になってしまう。個々で生活リズムが乱れて夜型になってしまう。母親に少しがんばってもらうよう何度も話をしていた。一日1分でも2分でも早く！と話し、今では一時間以上早く登園する日もあるようになる。平均すると45分～1時間ほど早くなっている。親のがんばりを毎日ほめてはげましていった。</p>
<p>仕事の時間はしょうがないが、終わってからは子どもとの時間を大切にしてほしい。子どもをかわいがる気持ちが成長の糧になると思う。</p>
<p>これはどうか、と思うことがあれば、何でも言ってきてほしい（言ってもらえることは私たちもありがたいことでもあり、改善していけることなので）。</p> <p>お仕事が休みのときは子どもも休ませてあげ、ゆっくり親子のふれあいの時間をつくってほしい。</p> <p>あきらかに熱があるとわかっているときに、何も伝えずあずけ、連絡をしても「お迎えにこれないのでいつもどおりで」と言われてしまうと、子どもがかわいそうに思える。大人も熱があるときはつらいと思うので、考えてあげてほしい。</p>
<p>子どもに対する保護者の関心が、家庭によって非常に極端であると思う。それにより、保護者によって求められる対応がとて難しいと思う。経験の少ない保育士にとっては、時に子どもを中心に据えるよりも保護者を軸に置かなければならない場合もあり、気苦労が著しいと感じる。</p>
<p>問題…というほどまではいかないが、目と目を合わせて話ができない人が増えてきているのでは…。</p>
<p>自分が具合が悪いときには仕事を休めるし、早退もするのに、子どもがどんなに具合が悪くても登園させること。病気は感染するし、クラス全体の活動にも影響してくる。保育園は「集団である」ことをもってわかってほしい。病み上がり、平気で「室内で遊ばせてください」と言われるけれど、他の子は外で遊ぶ元気がある場合は？ひとり別のクラスや別行動をとらされてしまうその子の気持ちは？考えたことがありますか。</p>
<p>困るまでではないが、目の前で自分の子が友だちに手を出したり、いけないことをしても、その場で向き合い、本気でいけないことを伝えるといった姿が見られなくなってきた気がする。</p>
<p>子どもの動きや様子について質問をする（保育士が判断しかねる質問）。例えば、「37℃あるのですがどうしましょうか」「（転んで青あざができたとき）どうしたらよいでしょうか」「今日はプールに入れても良いでしょうか」「下着は着せた方が良いですか」など。迎えや送りの時間が、約束と違っているとき。</p>
<p>連絡事項がプリント・掲示板などではうまく伝わらず、「あれっ、そうでしたっけ？」ということが多くあります。こちらも伝達方法を工夫しなくては、と思うしだいです。</p>
<p>怪我をさせないでほしい、虫に刺されないようにしてほしいなど、保護者からの様々な要求があり、こちらとしても朝登園してきたままの状態でお子さんを保護者の方にお返ししたいのは日々思っていることですが、こう要求が多いと、保育をする上で制限してしまうことも増える上、こちらの精神的負担も大きいことはあります。また、例えば、転ぶことで転び方を学んだり、虫がいるというのは緑がたくさんあることだったり、保護者に伝えていかななくてはいけないことも必要なことだと思うので、そういったことを理解していただければと思います。</p>
<p>「子どもを受けとめること」と「甘やかすこと」は違うことだが、保護者の中には“子どもの言いなり”になっていることが多く見られるように思う。それにより、子どもがひどくかたよった思いになったりしているように思う。</p>
<p>保護者は、子どもの良いこと、うれしかったことを聞くことを何よりも喜び、注意すること、お願いごとは素直に受けとめない。そのため、日頃からの人間関係を大切に、その中で、たくさんほめて、お願いごとは1つというところ。共に育てるところは、そこから始めていかなければ前進しない。</p>
<p>あいさつ等、子どもには求め、大人がしていなかったり、育児書をいろいろ読んでいると思うが、現実の子どもの対応ができなかったり（子どもの言いなり？）。</p>
<p>今の保護者は自分の方からあいさつしなくなってきた。育児書を読んでいるが、自分の子ども（現在の姿）とは向き合わない。</p>
<p>乳児期であれば、快適な生活を過ごさせてあげるために、生活に必要なもの（着替えの衣類、オムツ類など）はそろえておいたり、所定の場所にそろえておいたりしてほしいのですが、それを忘れがちな方もいる。</p> <p>まだ十分に慣れない時期から保護者の方がいる中で、早く保育士の方にひきとってもらいたいという態度の方が結構みられます。当然子どもは泣いてぐずりになり、出かける際にも「行ってきます」というあいさつなし（子どもへの）の出勤になったりしています。</p>
<p>あいさつ、礼儀が身につけていないことが多い。要求や伝達事項も顔を合わせているのに伝えず連絡ノートに記入して、それで良いと思っている。子どもに対しても表情やしぐさをキャッチすることなく、せかしたり怒ったりしている。</p>
<p>子どものことは話そうとしても聞く耳をもたない人。その子のためを思って言っているのだが、うるさそうにしたり、余計なお世話とあからさまに態度に出す人には悲しくなる。保育士と保護者と一緒に子育てをしていきたいのだが。</p>
<p>保育をする上では、困らないが、保育料はきちんと払って欲しいと思う。</p>
<p>保育に対しての要求は強いが、認め合ったりする態度が弱いように思う。「お互い様」の気持ちが深まらず、子ども同士のトラブルに対しても被害者意識が強い。我が子の様子をきちんとわかっていない。小さなケガやトラブルに非常に敏感な反応を示す。精神的な病気をかかえ、いっぱいいっぱいの気持ちで子どものことより、自分を優先する親の姿が多い。</p>
<p>高学歴で、保育書等を良く読んでいる保護者が多いです。もちろん、それは良い事なのですが、その内容にしばられてしまう事が多いかと思います。育児や生活の悩みはいろいろ相談されますが、こちらの助言（と、いうと、言葉が嫌なんです…）を、受け入れてくれることは少ないです。日常の簡単な挨拶ですが、声に出してしてくれない方が増えていると思います。当然、子どもも然り、です。</p>

<p>子どものことで話したいことが沢山あるようなので、保育中は難しいので、別の機会にと新たに時間を設けようとする、「大したことはない」と言ってくる。が、毎日のように〇〇が心配だと書いてくる。悪いことは保育園のせいだと思っている親もいる。保育参観に誘うと「うるさいから見たくない」と言い参加しない。</p>
<p>保護者自身が生活リズムができていないので、保護者が起きられないという理由で毎日、昼頃に登園してくる。保育の継続等が子どもの成長の中で大切になってくる年齢なので、是非、他児と同じ体験をさせたいと、保護者に働きかけている。改善がとても難しい。</p>
<p>価値感が多様化しているのが、現代なので常識を問うのが難しい。ケイタイ電話が普及している為、所在を言わずにあずけて何かあったらケイタイの方へ連絡をほしがる。(料金も多くかかるのに)信頼関係が築きにくい。原則的に“就労が理由であずける場所”ということがわかっていない。自分勝手な言動。</p>
<p>子どもよりも自分をみてほしいという信号を発している保護者(特に母親)は、今とても多いと感じている。子どもの仕度を手伝ってくれないというニュアンスがあったりし、最低限のことはしっかりとしてほしいものであるが、どこまで手を貸した方が良いのかどうかも考えものである。</p>
<p>フレンドリーな保護者が多い。反面、きびしいことを言われると、口を閉ざしてしまうこともあります。</p>
<p>子どもの姿が見えてない。自分のリズムで子どもに生活させる。自分の子どもが良ければよい。自分の子どもに注意が出来ない。家庭で過せない。習い事が優先。何事も人まかせ。</p>
<p>その人なりに一生懸命です。</p>
<p>日々の保育(生活)の中で、子どもの発言や状態で保護者の方にマイナスの疑問がうかんだときに、それを疑問として投げかけられるのではなく、真意も確かめずに、いきなり苦情として言われてしまうのは、困った…というか、落ち込みます。信頼関係を作ることの難しさ、信頼がこわれやすいことのこわさを感じます。</p>
<p>子どもを受け入れる受容の姿勢は1ばん必要なことである。ただ、子どものいうがままにふりまわされている様子が伺える場面もある。親の姿勢をしっかりと伝える場面も必要なのではないか。</p>
<p>子どものように気分が朝、夕の送迎時間かわる人がある(担任に会いたくない時は早番に入れて、夕方も遅番に入ってから迎えにくる)。</p>
<p>目を見て話さない。怪我など、必要事項を言っていない。熱があっても連れてくる。買い物をしてから迎えにくる。休みの日も保育園に預ける。小さなことにも、敏感(服がよごれている etc)。ずっと、子どもを見ている。遅くなっても、謝るが、くり返し次の日も遅くなる。帰りなど、挨拶せずに勝手に帰る。</p>
<p>日々困っていて書ききれない。</p>
<p>苦情を直接園には言わずに保育課に行く事がさびしい。誰もが完全ではないのだから気付いた事は直接言ってもらえたら有難い。よく子どもを人質にとられていると言われるが、保育者側には全くそういう気持ちはない…と思う。というより私には全くない。反面権利を主張し言いたい事を言ってくる保護者もいる。どちらが上という事はなく、子どもの幸福の為に協力しあって共育していくパートナーとして、ある程度のマナー常識が欲しいものである。</p>
<p>特別な事情がない場合は9時~9時半位までには登園をして欲しい(10時前後が増えている)。</p>
<p>持ち物の記名の徹底ができない。登園時間が遅い。緊急時に連絡がつかない(出勤していない・家に連絡してもいない)保育への活動指示をしていく(〇〇をさせて下さい、など)。</p>
<p>日々、保育するうえで、子育てに不安、疑問を持ち、子育てがわからない保護者が増加しているように感じます。不安、疑問について傾聴、受容を心掛け、保護者が保育園に心を開いていただき、信頼してもらえるように努力しますが、なかなか、心を開いてくれない場合もあり、日々考えています。又、子どもたちの事を一番に考えて子育てしてほしいと伝えても、生活習慣を変えてもらえず、悩みます。しかし、諦めず、伝えていくように努力しています。</p>
<p>登園時間を9時半までに来てほしいと話しても、中々実行できないようである。その為子どももグズグズしているところがあり、スッキリと分離できずにいる。</p>
<p>登園時間が遅いこと。クラスとしてのその日の計画の行動に少なからず支障をきたし、すでに登園している子どもにマイナスを与えてしまう。個別対応を望まれること→クラスに掲示をし、もちもの等依頼してもみず(連絡帳に記入してほしい、といわれる。→小学校へ行けばまず子どもが困り不利益をこうむる。</p>
<p>課題はあるが、保育園は毎日の行き来があるので、その長いスパンの中で解決していくよう努力している。</p>
<p>むかえに来てもすぐに帰らない。子どもが体調が悪くて、親の仕事が休みでも連れてくる(普段長時間保育園でがんばっているのだから休みの日は一緒にいてあげて欲しい)。こちらが助言しても「うちはこうですから～」と受け入れない。</p>
<p>子どもを第一に考えず、親中心の生活を送っている事。</p>
<p>父親が、子どもにスゴイ言葉づかいをしたのを聞いた時。「早くしろよ!自分で出来んだろ!」と言っていた。どうしたらいいか困った。ちょっと過保護過ぎる親。子どもはよく動き、ケガはつきもの。転んですりむいたり、ちょっとしたケガでもすぐに保育園サイドのせいになされてしまう。1対1で見れるわけではなく、ずっとその子の護衛をしているわけにもいかないで困る。</p>
<p>子どもにふりまわされてしまって、その年齢なりの約束ごと、ルールが伝えられていないためトラブルがおきてしまうことがあります。</p>
<p>親に声掛けしても、応答がない。おまかせ、が多いように感じるこのごろである。</p>
<p>自分勝手な人。もういいかげんにして、と心で思いながら、笑顔で対応している自分がイヤになることも。</p>
<p>小さなケガでも嫌がる保護者が増えている。心が病んでいる人が増えている。</p>

個人が考える良さ、を主にした子育てが感じられる。個性は必要だが、一人の子どもを園と一緒に育てる気持ちは持てないものか…。意見の交換とはいえ、親もマイナスのみを指摘する人が多くなっている。心の問題も大きいのだろうが…メンタル面でのサポートまでは、専門ではないので、はかりきれない事も多い。
親の態度や乱暴な言葉の使い方は、子どもにも表われている（バカヤローとか友だちをすぐたたく等）。
やはりこちらの常識だと思っている事が保護者にとって「？」だったり、ex) 就寝時間、朝食メニュー、子どもへの対応。
“子どもを育てる”ということがわかっていない。責任があること、手がかかること、思い通りにならないこと、大人が時間を削らなければならないこと etc、親としての意識がひくい。
少しのケガでも敏感な保護者が増えてきた。大きなケガは論外であるが、ケガをさせないことで遊びに制限を加えてしまう。子どもはケガをしながら、どうしたら転ばないで歩いたり走ったりするか、あぶない場所はどこか、どうすれば痛い思いをしないですむか学んでいくのであると思う。
子どもを叩く、蹴る（日常的な様子で反射的に手、足が出る）、あいさつしない。現在は無いが以前あったこと。
昔からやられている子育てをしてほしい。親がすぐに抱く、くすぐる、話をよく聞く、できる、できないことははっきりいう。〇〇は私（私達）の宝だことばで言い、子どもも愛されている実感を五感で感じられるようにしてほしい、子どもはペットではない。不安定な子が多い。
悪い事をした時にきちんと注意が出来ない。
対応に苦慮することもあります、誠実に対応できるようがんばります。
子育ての情報があまりにもなく、保護者自身、我が子の育て方をどうしたいのか答えが出せないまま迷っているケースが多いようです。一般的な価値観よりも、個々の家庭の独自の価値観が強くなり、子どもたちの個性もより強くなり、集団としてまとめるのにとっても苦労する時代となりました。
朝と夕の挨拶の出来ない保護者が多いのに驚いています。そして、子どもには先生に挨拶しなさいと言っている所を良く見ますが、まず、大人が毎日、お手本を示すことが大事だと思いました。保護者と保育士との信頼関係が一番大切だと感じました。毎日、両者とも笑って過ごすことによって、子どもたちも安心して、おちついて、生活できると思います。チームワークも大切になります。
協調性がなさすぎる。時間を守れない。自分に甘く人にきびしすぎる。
子どもが「かわいい」という感情はどの親も同じであるが、感じ方、表現の仕方がそれぞれ違うと思う。又、子どもへの接し方、遊び方が分からない親が多いように感じている。
日常の挨拶をしない方もいる。言葉でのコミュニケーションよりも連絡帳を通しての伝言が多い。保護者の前で子どもが危険な行為（机にのる、棚にのるなど）を行っていても注意することなく、そのまま続けさせている。
非常勤職員なので、最低限の対応しか出来ない。その時の保護者の反応が「…」っと感じる時があります。
基本的な挨拶ができない保護者が多いように感じる。まずは大人から手本となり子どもたちにも自然と身につけられるようになってほしい。
朝、夕共に早朝残留保育に入っている方に直接話をしたいが、忙しそうにしていて話せないとわれ、どう時間をもっと作ればいだろう、と悩んだことがあります。やはり当番だと安全確保のこともあり、あまり長い時間話すのは難しく、連絡帳だけでは伝えきれないこともあると思うからです。
思い通りにならないと、顔を背けて返事をしない。自分勝手な要求をしてくる。
子どもに言いさせることができない方が目につきます。
お迎え時間が大幅に過ぎても連絡もなく遅くなる。お迎えがきても他の部屋でおもちゃを出して（保護者が出している）なかなか帰らない（押し入れなどにしまっているものも出してしまふ）。発熱の時に連絡が取れない。
コミュニケーションがうまくとれない保護者への対応が難しい。直接、会って（送迎時）いても口頭で伝えてくれず、文章で書いてくるなど→文章は受け止め方によりかなり違っていくので、難しくなる。
子どもの発達が保護者の意に沿わないと怒ったり、叱ったりする親が多い。子どもに期待しすぎて、おけいこをたくさん入れ、押しつぶされそうな子。
お互いにルールを守るなど基本的なこと。また、人間同士なので、できるだけ信頼関係のもとに子どもたちを育てていきたいので、信頼してまかせてほしいと思います。
保育時間を、しっかりと守ってもらえない方が多くなっています。保育園の閉所時間を過ぎてしまったり、また、子どもたちもなかなかむかえがこない時には、とても不安になっているのです。信頼関係にもつながりますのでしっかりと守ってもらいたいと思います。
朝の分離時に怒鳴り泣かせて出かけていく。散歩や夏季プールの回数に不満を言う。特定の子を名指して、自分の子どもと近付けないようにしてほしいと訴えてくる（嘔みつきが原因で親同士が不仲になってしまった為）体調が悪いので外に出さないでほしいという日が何日も続く。毎日、給食直前に登園してくる。
登園時間や迎えの時間が早過ぎたり遅過ぎたりする場合がある。
保護者とコミュニケーションをとるのが難しい、時間がかかる。プライバシー・個人情報等どこまで関わって良いのか年々難しさを感じます。一緒に子育てをしていくのですからせめて、その時期、ともに考えともに悩んでいけたらよいと思いますが（うちとは関係ありません。うちはうち、などの思いが強いと、難しいですね）。

<p>自分の思い通りにならないと保育園に苦情、それでありなければ役所に言って保育園の首をしめる。あずかっている保育士はいくら頑張ってもむくわれず、そんな現場、子どもにとってどうなのか考えさせられる保護者が多くなってきた。お金を払っているのだからあたりまえと思っている人も多く、あいさつもしない人がある。</p>
<p>いろいろな育児書が出ているし、ネットでも子育てについていろいろと知ることができるが、子どもは1人1人、個性も生活環境も異なるので、育児書通りにはいかないということが中々分かってもらえない場合がある。保育士としては、保護者の支援ももちろんだが、やはり子どもの事を一番に考える。普段、子どもと離れている時間が長いので、仕事が休みの日はいつもよりは長く子どもと接して欲しい。いろいろな経験をさせてあげて欲しいと思うのだが、年齢が小さい程、手がかかるからいつもと同じ保育時間で登園させる（特に父親）ということが多い（休みの日は必ず休んで欲しいということではない）。保育料をきちんと支払わない人があるのはおかしいと思う。</p>
<p>子育てに関する情報が多く、何を選擇するのかは、個人の考えがありますが、日中8時間以上子どもたちの様子を見て、お伝えすることがあっても、その情報を選ぶことを主張されると、時々、子どもの姿とズレを感じる事があります。私たちもひとつの提案を強くは言えませんが、常に子どものうったえている信号をなんとかしたいと思っている思いからであることを察して下さい。</p>
<p>現クラスの保護者というわけではなく、これまでの経験の中から話します。保育する上で忘れ物をしたり、登園、降園の時間を守らなかつたり、名前を書いてくれなかつたり、約束事を守らない保護者には、本当に迷惑をこうむります。それは保育士が大変なのではなく、お子さんたちの保育にあたる時間が（そのために手間ひまをかけることによって）削られてしまうということです。散歩に行こうにも未だ来ないので出発できない、お願いしたジャンパーや帽子がなくてさがる。名前がなくてだれのか迷路、パズルのように探す。おしぼりが一人分足りなくてまたせてとりに行く等、たった一人分と思ってもあまりに軽くとらえているのかなーと思うことがあります。</p>
<p>欠席の連絡がないため、一斉保育に時間の遅れや活動の差が生じる。</p>
<p>共に育てていこうという姿勢が感じられないことが時折あると感じます。まかせっきり…もしくは、話に耳を貸していただけない、等…家庭と園の協力があつての子育てではないのかと悩むことがあります。緊急時、連絡がなかなかつかないことがあります。大事なお子さんを預ける際、その日の所在をきちんとしておくことは保護者の義務だと思います。</p>
<p>コミュニケーションが上手でない方が多い様に思う。お子さんの体調面など、注意してほしいことなど、連絡帳に記入されているが、朝、保育士と会っている時にちょっと一言いって下さればすぐに対処できる。朝連絡帳を読めないときもあり「そうだったのか、ゴメンネー」と子どもに手だてがとれない時もあり、残念です。</p>
<p>体調が悪い（虫歯）のに受診しない。生活に必要な物を用意しない。伝染性の病気の時でも休まない。公共のルールを守らない。</p>
<p>こちらが、良かれと思ひ、子どもに注意をすると「それはやめてほしい」と言ってくる保護者の方。時には厳しく接しなければいけない時もありますが、それはしなくていいとの事。何か、言われるとすぐに泣いてちゃんと問題を解決せずに終わってしまい、それでいいのかと思います。「我が子にはこうしてほしい！」との思いがあり「こういうやり方はどうですか？」という「それはわかっているけどできない…」という親の意見、何でもやる事は大変なだから、少しは苦労してもいいと思います。</p>
<p>子どもが園生活をスムーズに、行えるように準備等、お願いしても、（毎日の事なのに）やってもらえない。初歩的な、持ち物に、誰が見ても、分かるように、はっきりと、大きく名前を書くということをやってもらえず、「これは誰のだろう」と言う事が多い。家で見られる条件が整つてのに体調の悪い子を、登園させ「外に出さないで欲しい」と言われる。そうすると、元気な子ども達の保育も、変つてきて、外で遊ばせることができなくなる。家庭で見られない場合は、仕方がないが、そうでない時は、他の子ども達のことも考え、元気になってから登園させてほしい。</p>
<p>お迎え時間に遅れる時は必ず連絡してほしいです。子どもはお迎え時間を体で覚えているのか、時間が過ぎると不安そうな表情でいます。子どものためにも、一報をお願いします。登園時、保育室に子どもをぼんと置いて（子どもだけ先に部屋に入ってくる時もある）あいさつなく行ってしまう方がたまにいました。連絡事項や子どもの様子など聞きたいこともありますし、引き渡しをしっかりとる意味でもやめていただきたい。うちのクラスの方はいない（と思う）ですが、保育料を払わない方がいるという話を聞いたことがあります。</p>
<p>子どもの気持ちを尊重しているのか、親自身がはっきりと決断出来ない。だから子どももどうしてよいか分からなかつたり、我がまを云つたりしていて親の云うことをきかない。忙しい親が多いので、我が子の一面しか見ていなくて、なかなか実情を話しても理解してもらえないこともある。</p>
<p>少子化により1人の子どもに対する期待や関心が高い為（両親の祖父母）育てていく両親の緊張が高く（しっかり育てなければと思う）我が子中心になりがちである。家庭での養育と同じ環境を、園に求めてくる事がある。集団生活のルールである約束を守る（決まった保育時間を守ること・物に記名するなど）ことができない人が多い。</p>
<p>感情的にたたく、おこる、保護者に対しての対応や大きくなつたらできるようになると考えている。保護者への理解をしてもらうための伝え方。</p>
<p>約束の保育時間を守らず、常に遅れて迎えに来る。子どもについてのアドバイスをしても、実行できず、生活習慣などに変化が見られない。主張や、求めてくる事は多いが、保育園（保育士）の意見を素直に聞き入れようとしない。</p>
<p>提出物をお願いしてもなかなか出してもらえず、また「お知らせ」を貼つても見ていない親が多く。その都度、個別での対応になってしまう。登園時間についても、活動の関係で9:30までには登園するようにお願いしても10:00すぎに平気で来ている。</p>
<p>自分の子どもだけ！という親がいて、トラブルになると、相手が悪い、園の対応が悪い、と苦情だらけの保護者がいた。幼児組になって、子どもの成長発達について、友だちとの関係、長い目でみて、学校に行つてからなど考えられることを理解してくれるまで、少しずつ対話を重ねていった。子どもも成長していくことで親の態度も変化してきた。子ども同士で学ぶことが、親をも巻き込んでいくのだと思う。6年間のうちに、親子は少しずつ成長していく。</p>

子どもが生まれ、子育てしていく間は、自分の時間がとられるのはやむをえないと思うが、どうもその辺から今はむずかしく、大人の時間がほしいと思われる方がいらっしやる。子どもも大事な家族です。
こんなことと思われるかもしれませんが、今園で困っていることを思うと、毎日のお迎えの時間。6：15までという約束を守れない方がいます。勤務時間と保育時間があわないのが遅くなる理由であれば、延長に入れなくて大変と思うのですが、家によってから迎えに来たり、買いのものをしたりしてから迎えに来て約束を守れない方もいます。子どもが待っていることを考えていただければ、お仕事が終わったら迎えに来てほしい。6：15のお迎えの約束は守ってほしいと、もしかしたら、とんでもない意見でしょうか？
大人の時間がほしいと思われる方々が増えてきていると思う。どこかのパートで書いたが、子どもは家族の一員自分も家族の一員として、生活しようという気持ちが軽薄になってきている。
自分は子どものことをよく見ないで園には要求をいろいろ言うてくる。家でもやっているならわかるが…。
保育園を、保護者が悪い意味で、うまく利用しすぎている。子どもと一緒にいるのが大変だからということで、仕事でもないのに、あずける。子どものことを考えず、自分の都合ばかりを正当化する親が多い。
0歳児クラスの子について、離乳食など保育園ではいけないにすすめているが、炭酸飲料、母乳、クッキーなど与えずませている保護者がいる。保育園では好みの物が出ないので、初めから拒否し、どうしたら食べるのかアレコレと工夫している。母親には、様子をみながら詳しく伝えているが、自分の都合でしか子育てできずなかなか改善されない。このまま、まかせておいていいものかと悩んでいる。
体調がよくないのに登園し、室内で過ごして欲しいと言われた時。
被害妄想、とまではいいませんが、担任の職員に「私はきらわれている」と思われて対応がむずかしかった事が、今までで一番困ったケースでした。
持ち物をきちんと持ってこない（タオル、洋服、おむつなど）こちらのやってほしいことを伝えても、言いわけしてやらない。
時間に追われている保護者の方が多く、ゆっくりと話す時間がない。
挨拶をしない→いつの間にか登園・降園している。園の約束（門のカギは子どもはさわらない）を守らせることができず子どもの好きな様にさせる。子どもの為と考えて提案したことを親の都合で却下する。持ち物の不足やくつの不都合（サンダル等）を何度伝えても改善してくれない。園での様子に無関心（あずかってくれれば良い）具合が悪い時連絡をしても、連絡がつかなかったり、仕事をぬけられないので迎えに来られないと言われたり、連絡をしないでほしいと言われる。
子どもと一緒にいることに疲れていたり、かわいいと思えていないような発言を聞くことがある。
特にない。
子どもはかわいい気持ちはあっても、生活していく中でまず母自身が一番になり、子どもが二の次になっている方が多い。又、ベツ的な考え？と疑いをもってしまうこともある。母親自身の育てられ方により子育て力がちがいで価値観の差が大きい。核家族になり「自分の家庭さえよければ」という考え、行動が多い。地域にも目を向けてほしい。
わからないので保育園に相談するのに保育士の話は聞かない。保育士は重視されていないと思う。
自分の事でいっぱいいっぱいなのか、感情で叱ったりする場面を良く見かける。また、子どもに言い聞かせるという事ができないのか、遅くまであそんでいて帰らなかったら“子どもの主張を考えて”という理由をづけをしているが、振りまわされているとしか見えない。心をかよわす親子関係が見られない。
保護者のニーズも多様化しており、色々な方がともに生活している社会なので、自分自身の考え方に自信を持ちながらも、相手にあわせたり、相手の気持ちをよくくみながら、考え方を広くしていけたらと感じる。例えば、園からの要求に対して、なかなか、協力的でない方、理解を示してくれない方へどのように伝えたらよいか悩みます。
1時近くに登園させ、昼食を食べてないから食べさせてと言われたこと。 夜中の3、4時に寝て、9時頃登園し、うちの子は午前中寝かせておいて下さいと言われたこと。 夜中の2時頃、街を担当していた子（2歳児）が歩いていて、と通報があり、母親が留守なので近くに住んでいた私が夜中自宅につれていったこと。 約束の迎え時間に毎日遅れる親にやんわりと「約束の時間の迎えは無理でしょうか…」と切りだしたところ、「いちいちうるさい。役所に言いつけてやる」と言われた。
何か気になること、気付いたことがあればすぐに担任の方へ言うてきて欲しい。
こちら側の話を聞き入れない、受け入れない。何でもあたり前のような態度をする。生活の基本は家庭であり、それをサポートするのが、保育士だが、その区別が出来ず、こちら話を聞き入れてくれない。
子どもを抱きしめて愛情表現をしたり、関わるのが苦手な保護者も見られる。又、いろいろとやるのが面倒くさいとか、苦痛に感じている保護者に、楽しむゆとり、心のゆとりがあればいいと思うが、時間に追われている現代は難しいのか…。
それぞれの保護者の要求がさまざまである。それに答えていくのは、すごい難しいのが現状である。
自分の子どもの問題点を全くわかっていない。夏期や年末の休みに親だけが休み、子どもは保育園につれてきている。子どもはすべて園まかせで自分はなんもしない親。保育園、又クラス運営に全く協力性のない親。
子どもの体調が悪いとき（熱、下痢等）でも、伝えてもらえずに、登園されてしまうと、その子自身にも苦しい思いをさせてしまうし、周りの子にも危険なので、気をつけていただきたいです。
こちら側からのお願いは聞いてもらえないのに（難しい事ではなく、例えば『掲示板は毎日必ずチェックして下さい』など）こうしてほしい、あぁしてほしいと相手側の要望がとても多いこと。

保護者の気持ちが不安定になっていることはあるが、それをうけとめ声をかけていきたい。
保護者の方と職員が良い関係を持つことが大事と考えます。それには信頼関係からはじまります。子どものためと願っても挨拶を含め、コミュニケーションを持つのに苦労することがあります。もちろん朝夕、忙しい中で時間を持つことは難しいので、1日どこかで顔を合わせる、園の様子を伝える、保護者会、面談、行事への呼びかけなど工夫しています。話題が子どものことだけでは負担になることも考えられますが、人と接することをあまり好まない方もおり、接する時に気をつけるようにしています。
保育士としては“子どものため”を第一に優先していくが、保護者の中には自分の仕事や都合を第一に考える方もいるので、そこで意見がくいちがってしまう。情報をたくさん持っている分、そこに目を向けすぎて、今の自分の子どもの状況をそのまま受け入れようとしない保護者の方もいるので、同じ目線で子育て出来にくい。
以前に比べ小さい子どもを長い時間、保育園に預けるようになってきたと思います。子どもが保育園にいる事が一番親にとって、便利で幸せであるという意識が強くなって来ているように感じます。
忘れもの、掲示板の見落としが多い。→学校にいったら親子で大変になりそうで心配。親が身の周りの整理が上手くない（引き出しやカバンの中の整理など）。必要以上の子どもの干渉や、声かけが多いことで、自主性が、伸びないか、心配。
価値観が違う。仕度の仕方など、きちんとやって欲しいので父親に知らせていたら「毎回違うと言われ、お父さんは保育園に行きたくないと言っている。お父さんも子ども同様ほめてほしい」など。子どもっぽい人が多い。少しでも思い通りにならないとすぐに役所へ訴える（保育参観の日程など）。あいさつをせず、ポイッと子どもをおいていく。子どもは伸び伸び育てたい、という思いから、どんなに暴れても叱らない。園で言われても“伸び伸び”と言ってきて意見が合わない。アメリカでは…と比較する。
連絡帳への記入を保育園に来てから書かれる保護者の方。保護者がいるということで、子どもが泣いて追っついてしまい、なかなか気分が切りかえられないということがありました。→お話しする中で、子どもから見えない所で書いていただくことになりましたが、家で目を通した上で記入してもらってきただきたいです。
基本的なルールが守れない大人がいる。頭は下げるがあいさつの言葉は言えない。書類の提出が遅く、持ち物の忘れ物等多い。
育休や産休、仕事が休みなど、家にいる時でも子どもの迎えが遅いことは子どもにとってもよくない。
挨拶をしても、返ってこないことがある。
今日は、〇〇先生がいないから、不安そうで心配。
何でもかんでも、保育士に頼めばいいやと気軽に考えているのではないかと思ってしまう。行動や言葉、着替えがない、オムツがないなど。
親が「人の話を聞かない」ということが、毎年増えていくように思える。自分達の主張ばかりで、園の運営や他職員のことなど考えてないように思う。
常識と思われる事が通じない。具体的に教えないとお弁当さえ、作れない人がいる。掲示板を作り、お知らせを貼っておくと掲示板がどこにあるのかわからないので、掲示してほしいとか。子どもを2人連れて帰れないので、1人連れて帰り、別な人がもう1人をお迎えにくる。休みでも兄弟は、世話できず、1人だけ連れてあそびに行く。兄弟として家で育つものはないのか。産休、育休でも毎日休まず来るのは良しとしても具合の悪い時も休まないで来る。午後保育園に来るなど。
子どもを急がせ過ぎたり、大人がイライラすると子どもを大きな声で叱るなど、朝夕のほんの短い時間にそんな状況が見受けられる。悲しい気持ちになった子どものフォローは保育士が時間をかけてやっている。
子どもを迎える時、みないで保育園の中にいるからと他人まかせで親同士話している。
主体的に子育てしてほしいと思う。
誰にでも、経験のあることと思いますが、自分の子どもの事を中心に考えるあまりに、まわりが見えなくなってしまうという事はあるようです。私達ももちろんそうですが、お互いに信頼しあえないと良い子育てはできないのではないのでしょうか。この頃は、なかなか信頼していただけない保護者の方も増えているように思うのですが…。
プライベートの事を聞いてくる事。園に対しての要望ばかり多いなど。
子どもが成長するうえで、ケガをすることや友達とケンカすることは、大切だが、それを経験することを嫌がること。特にケガは、保育士が見ていなかったなどではなく、自然に子どもが転んでしまったという場合は、自分で手をつこうとしたりすることを学ぶ良い機会だと思うが、「とにかくケガをさせないでほしい」という保護者が多い気がする。
子どもをどうしたいかでなく、子どもの言うなりになってしまいがち、それが、一番だと思っている家庭も、又、多い。

### (9)【設問(17)】 保護者の「子育て姿勢」について感じる問題点

子どもの生活リズムを親の生活スタイルにあわせている。
たくさんの習い事をしていて、期待しているのはわかりますが、子どもの生活のペースを乱してまでおけいこ事をするのはかわいそうだと思います。
何か起こったとき、しっかりと子どもと向き合わず、人（友だちや保育園）のせいにするところがあり、その姿勢を子どもも真似してすぐに友だちのせいにし、「だって」と言い訳してごまかしてしまう。
一緒にいる事を苦痛と思っている親が非常に多い。何でも自分中心、子どもは次。休日が苦痛（一日子どもと過ごす事が）。

子どもときちんと向き合わない。向き合うと疲れるとの理由で子どもと戦わない(自主性を名目にして)。子どもの思うがままにしている現状がたくさんある。子どもが王様で、親がけらい、という上下関係が多く見られる。
保護者の仕事が休みの日も保育園に預けっぱなし。子どもとの時間を自分で作ろうとしない親がいる。
子育て放棄。園任せ、人任せ。
大人の都合で動いている(子どもの気持ちを受け止める事なく)。子どもの言いなりになっている。振り回されている。保護者自身が我慢できない。我慢したことが少ないまま大人になっているように見えるので、子どもに我慢させることが出来ない。根気強く話していったり、繰り返し話していきることができないように思える。
保護者の仕事や都合が優先され、子どもにしわ寄せがきてしまう。忙しくて食事を満足に作ってもらえなかったり、体調が不良でも旅行やイベントに連れて行かれるなど、毎日医者通いをしながらでも休日は遊びに行くというように、病気や健康管理に安易な考えを持つ保護者が多くなってきている。
断乳をしたいと思いつつも踏み切れず、ドラドラと母乳を与え続けている保護者も多い。
体調の悪い時も子どもが園に行きたいと主張すると、登園する。適切な言葉で子どもに言い聞かせる事ができない。子どもが嫌がることはせず、その時々の方がままに振り回されているが、結果的には親自身に我慢がない。言い聞かせたり向き合うエネルギーを持たない。逃げている姿勢が見られる。
大人の生活ペースに子どもを合わせている。
親は子どもの事を思い考える事は当たり前と思うが、親の生活中心で振り回し、子ども中心の生活をしている家庭は少ないと思う。考えすぎて育児ノイローゼになったら困るが、夫婦で常にわが子のことを話し合うことが大切。
子どもをアクセサリ的に考えている保護者も多い。また小さいときはあまりかまわなく、保育園に預けっぱなしであるものの、4・5歳になると習い事に熱心になり、そのためなら時間を割く事が出来る。子どもがどのように育つかというよりも、勉強が出来るか出来ないか、○または×の生活になってしまうのが問題。子どももその親の気持ちに合わせるべく一生懸命になるものの、親と子の間には大きな溝があり、一つ達成すると次の目標と、課題が次々に掲げられ、達成感に浸る間もなく追い立てられる事が、いつの日にか反抗心に変化してしまったり、勉強だけ出来ればよいという違った認識の子どもを育て、その親が世の中に出ると、また問題を起こしてしまう。
親として見本を見せていない。子どもの言いなりになっている。子どもの方もわかっていて、園と家とで態度を変えている。どこかで人任せにしているような気がする。最終的に親が責任を持つんだという姿勢が少ないように思う。
親になれない(育っていない)親がいるので、子どもと共に育ってもらえるよう、日々の関わりの中で援助していく。
子ども中心に考えるのではなく、大人の都合中心に考えるようになった人が増えたこと。子育てもして、仕事もしていたら仕方がないことかもしれないが…。
「子育ての姿勢」は、それぞれの考え方があるので、いちがいに問題であるとは、言えず、問題があったときは、他の機関との連携が必要な時は、それに応じたものと連絡を取り合い、協力し合う事が必要であると思う。
子どもは、「子どもの中で育つ」という感覚を忘れがちな親が多いこと。保育士との関係だけでなく、子ども同士のケンカや時に傷つけ合うことでさえも子どもの成長に大きな役割を果たすことを理解していないと感ずることがある。わが子だけでなく、同じ園に通うお友達がいてこそ、そこで苦い経験もしながら大きくなっていくことをよくわかってもらう必要はある。保育士は、その子どもの成長を全力で助けていくということも!
大人中心の生活習慣。習い事=子育て=愛情と思っている。
自分の都合で子どもを叱ったり、休日でも連れ歩いてしまう。
兄弟の片方をかなりきつくしかる様子があり、園でも他児がしかられているとおろおろする様子がみられるので、少し度がすぎているのかなと感じることはある。
第一子の子育ての場合は、やはりわが子しか見ていないため、育て方や発達がわからないため、日々、悩んでいるようである。
小さいうちが大切と思うのだが、反対に小学校にあがる前だから、なんでもよいという考えがあるのはどうだろうか。生活習慣など学校にいったら、ちゃんとやるというような考えがある。
子どもは、なんでも保育園まかせにしないようにという事を伝えたいです。例えば、食事の問題では、子どもが嫌いな物があっても保育園で食べているからと工夫もせず、その食材を使わなかったりする親やしつけに関する事も、家で何か悪い行為をしたとしても、何も注意しなかったりという場合もあると思うので…。
子どもにも常に自分の思いを押しつける。パーフェクトを求める!子どもは、育児書通りではない。100人いれば、100色あるということがわかり「我が子がいちばん!」と思って接してほしい。
早くおむつをはずしたいと神経質になっている保護者、逆に、おむつをはずすことにあまり関心がなさそうな保護者が見受けられます。
個々の家庭がいろいろあってもいいとは思いますが、大人の都合で安易な子育てはほしくないでほしい。
子育て姿勢は、変えられないと思うので、問題点は思いつかない。
ダメな事をした時(危険な事、人に対してたたいたり)してはいけない事は、きちんと伝えられる親であってほしい。
両親で統一していない(注意をする点だったり、子育ての方針を2人で話し合っていない)。
大人中心の生活になっている。

(13) に書いたことが、問題だと感じます。大人が主導権をもって、子どもにかかわっていかないと、結局、保育士や他の職員の言う事にも従わない、従いたくない、という関係になってしまうと思います。
放ったらかしも困るが、逆に心配しすぎて子どもが不安におちいってしまうケースがあり、「大丈夫」と言ってもなかなか母の心配がとれない。
精神的、保育放棄が多少なりとも大きくなっていると思う。子どもに向き合ったり、保護者としての自覚が欠けて、自己に添う存在でなければ認められず、親等でなく、自分としての主張ばかりが目立っている。
日々の忙しさばかりに流されることなく、ゆとりを持つ時間もみつけ、我が子と向き合える時間も大切にしてほしい。
母親が自分の子どもに対して、怒る、しかる、などしているが、なめられたり、言うことを聞かない等で、風呂上りに裸でフラフラしたりしているのに注意して直すことができない。母の想いと責任感で、なんとしても我が子を良く成長させられるよう、心構えをちゃんとしてほしい。
言い聞かせない（言い聞かせられてない）。「ダメ」という言葉は使わない、極端な対応。（子どもが迷ってしまったたり、大切なことが身につかなかったりしているのでは？）
親子のコミュニケーション。遊びが少ない（出かけるのみが遊び？）。DVD、TVを見せるのが多い。他人まかせで、向き合うことが少ない。
甘えさせることと、わがままを通すことの見極めができない。結果、言いなりになっている。
仕事と子育ての両立は難しいことだと思うが、大人のその時、その日の感情で怒鳴ること。
過保護。どう接していいかわからない様子。答えを求めるが、自分は自分という信念がある反面、他人のせいにする。責任転嫁。
体罰は、禁止となっているが、自分で判断が出来ない小さな子には、口で言ってもわからない場合、親は自分の子どもは、たたいてでも教えてもいいのではないかと。個性重視と言っているが、自由と個性は違うし、自己責任もともなうものである事も認識してほしい。
自分の思いをその時々で押しつけること！心配のあまり、根掘り、葉掘り、園での様子を聞き、友達批判をする。※子は、思っていなくても様子を言うことで受け入れられているように錯覚。チクリ→いじめなどにつながる。
はじめがなく、「自分の子が良ければ他の子は関係ない」という考えの保護者が対応に困る。
朝、自分の思いがとおらず大泣き、怒り、にげる等で登園する。親はオロオロ悲しい顔「ママが悪かったのよネ」「でも、いらないうちで済ませよう」等々。「ごめんネ」「わかった」と本人の希望する物を与えて、なかなか離れない。子どもにふりまわさせている親が目立つ。
問題ということではないが、一貫した態度でのぞめなかつたり、自分の気分でほめたりしかつたりするのは、どうかと思います。
大人のペース・都合に子どもを合わせさせる。待てない。自分の子どもの話をうのみにしてしまう（まわりが見えない）。子どもに振りまわされてしまう。子育て姿勢に一貫性がない。しっかりと叱れない。言い聞かせられない。
保護者の姿勢を含めて、子どもを受け入れていくことが一番と考えている。
何かあると、すぐビデオ。DVDをみせる。
両親ともに休みで、2人で遊びに出かけ、子どもは保育園に預けている。
自分の子どもだけを特別にしてほしいという意見があつたりするので、子どもを困っているように思われる。
子育ての育児がわからない。自分の子育て経験をいかして、個々の保護者に合った対応をしています。
すべて子どもの言いなりになってしまっている。園が共に育てられるのは6歳まで。基本は親である。そのことをもって自覚して短い間の子育てをしっかりとしてほしい。今が大事！！
あいさつをしなかつたり、送迎時、他の用事をして子どもが走り回っているのを見なかつたり、良いこと、悪い事の区別を子どもに伝えない。
日常的なあいさつのできない保護者がいる。
がんばっている親も多いが、夜遅い時間にTVを見たり、TVゲームを教えたり、休日は公園にも出かけず…と親主体の生活を送っている人もいる。
子どもの自立を考えるなら生活においてほとんど手を出すのは問題かなと思います。自分の口から言わせようとする場合や、第1子にばかり両親ともが厳しく接したりしてプレッシャーを与えたりすることなど。
大切にはされているが過干渉であつたり、子どもの語りかけにかみ合わない。葉づけ（ゆっくり休めないので仕方ないとも感じる）。
親自身が大人になっていないように思う。また親自身がその親から与えてもらえなかったものがあるのではないかと（経験がないので身についておらず、一緒に楽しむ心、手立てがわからない）。
早期教育に走りすぎ。今、目の前の我が子に与えるべき心のスキンシップが与えられていない。理論、育児書などからの情報は多いが、それを子にはめようとする。子どもの姿から学ぼうとする添う心が少ない。
発熱など具合が悪くても迎えにこれない。自分の子どもしか見えない。
社会に迷惑をかけないということや子どもの小さなときから教えられず、自分さえ良ければいい主義が子どもたちにも身につけてしまい、まず人を大事にすることに欠けている。

宝である子どもに愛情たっぷり育てる意識に欠けている。自分がいい思いをしないと子どもを大事にできない。相手への思いやりに欠ける。
親が子どもにふりまわされて言いなりになっていること。子どもにぐずられると親自身がイライラするので、そうなりたくないために機嫌をとったり、注意することも怒ることもしない。
子育て姿勢とは違うかもしれませんが、子どもの前で職員、担任の悪口等は口にしておきたくありません。子どもたちにとって親は絶対的、信頼できる存在です。職員も人間なのでいたらない点も多々あると思いますが、子どもたちとの関係づくりを行っている中で、保護者の方が職員の苦情、悪い点を口に、子どもの耳に入った時点で子どもたちとの信頼関係はくずれてしまうと思っています。
していけないことをしっかり怒ってあげられない保護者。しつけは家ではなく、園でと思っている保護者。
子どもへの過度な期待、「いい子」を求めること→子どもが素のわがままを出せずにいると思う。子どもの甘えたい気持ちを受け止めずに、冷静な対応をすること→子どもがわざと意地悪をしたり、できることをしようとしなくなり、無気力になってくる。
それぞれの家庭にそれぞれ何かしらの問題はあろうと思う。それがなおせることか、しょうがないことかは別として。
結婚（出産）前と変わらぬペースで仕事をしようと、生活しようと思うから無理がくるんだと思う。子どもが生まれたら、しばらくは子どものペースを守り、それに合わせることも必要だと思う。
生活の忙しさもあり、朝の支度を見守ったり、あいさつを交わしたりといったことが薄れてきていることもある。
子どもを信頼すること（愛情）。子どもそのものを受け入れること（受容）。
「サービス」という言葉の線引きはとても難しいと感じることがあります。互いに協力体制を築いていくにはどうしたらよいか、大きなテーマです。
我が子とどのように接していいかわからない保護者が多いように感じる。その分、寂しい思いをしている子どもがいるのではないのでしょうか。
自分の気持ちのゆとりのあるときとないとき、人間はみな同じだと思うが、疲れているとイライラして子どもにも同じ影響がある。年齢を過ぎると親の心を読み取り、行動を抑制する力“いい子”になりすます姿が気になる。就労は厳しいが、低年齢からのお稽古事。行事（運動会やお祝い会など）などで日々とは異なった緊張を持って取り組んでいる時期も、関わり、チェックが見られることもあるが気付いていない。園外のことなので、対応は難しく感じる。迎え時間など、都合によって遅くなることは仕方ないと思うが、毎日となると違うと感じる。買い物袋を提げて遅れる。子どもに約束を守るよう話しても、園との約束についてどう感じているのかと思う。
生活時間が、子ども中心と考えていないこと。得意なことはするが、嫌なこと（できないこと）はさけてしまう。体験、経験して覚えることをあまりさせたくない。
子育ての違いなのか、けじめがない。生活の中でも遊びの中でも、けじめがはっきりせず、ダラダラという様子がある。けじめをつけるというところが違うため、子育ての姿勢が違うとも感じる。
保育園に預けると、休みの日でも自分でみようとしなくなっていると思う。子育ての主体は家庭という意識が薄くなっていると思う。
保育園を頼りすぎている一面がみられる。保護者が休みのときは、一緒に過ごし、子育てを楽しんでほしい。
生活やしつけの面で、大人としてのけじめをなかなかつけてあげられないように感じます。情報としてはいろいろもっていると思うのですが、かえって迷ってしまい、今何が大事とか、我が家としてはどうしよう、というところがゆれてしまっているようです。
けじめのない子がいる。毎日の生活の中でわがままを要求として受け止め続け、生活が流れてしまっている子がいる。園ではできても親の前だと泣いて通したりと。5歳。
友だち感覚で大人の動きに子どもを合わせている。
神経質すぎる人もいれば放任すぎる人もいて様々だが、基本的に子どもを心からかわいがってあげたいと思う。
子どもの意志を尊重するために、けじめがなくなっている。なんでも、泣いたり、ぐずれば通してしまう。いい聞かせる事が出来なくなっている。
親自身が大人になっていない面がある（コミュニケーションの取りかたが希薄。いやな事はすぐ顔や態度に出す etc）。子どもの理解ができにくいので、子どもの要求、わがままを際限なくきき入れてやるのが親の役目と想ったりする。物事のけじめがつきにくい等も気になることのひとつである。
親の子どもに対する姿勢、態度が一貫、一定していない。き然としていない。子どもと対等であること。
親が朝起きられず、朝10時すぎに登園し、自分の子は一人あそびばかりし、あそびこんでいる。皆とあそばないと気にしている。
自分の気分のままに、押しつけること。人間だから誰しも、子どもへの対応は一定ではないと思うが、子どもの育ちを考えていないことがある。大人の一方通行で、子どもが大人を必要とする時に、対応していなかったり、受け入れの幅が狭かったりする。
親自身が大人になりきれしていない（親離れできていない等）。人の話を聞こうとしない。自分本位。
夜更かし。他児や保育園職員に対する批判のことばを子どもの前で言うこと。実際に（子「ママ〇〇先生がキライなんだよねー」母「そんなことないよ」子「ママおうちでいったもん！」母「……」という場面をクラスでみてしまいました。

どの保護者の方々も子どもにとってよりよい子育てということを求めてはいるようです。その出方が様々なのだと思います。
保護者が子どもに向かう姿勢が少ない。お金で何でも出来ると思っている。子どもが親から愛されてる、大事にされているという思いがない。親が子に、子が親に対する思いのズレ。
「子どもといるとストレスになる」という気持ちにならないよう支援できればと思う。「子どもと一緒に」でも生活ができるようになってほしい。
何かを子どもにとって問題とこちらが決めつけてしまうのはどうかと思うので、これ、と決めることはできませんが、例えば、子どもに親の期待を過度にかけてしまっただけで子どもがきゅうくつな思いをするのは、少しかわいそうだなと思います。
子どもの気持ちをわかっていないし、わかろうとしていないこと。
服を古くなるまで着て、ヨレヨレになっても着続ける。自分の子どもしか見ない、自分の子中心。
家庭の問題はプライベートなことなので書けない。
もっと子どもとの時間を大切にしたい。リフレッシュも必要だと思うので、できる限りそうした時間も保障してあげたいが、自分が楽したいので預けられるだけ預けたいという姿勢の人も中には見られる。親の後姿を見て子どもは育つので、ある程度自分にも厳しい姿勢が必要なのではないだろうか。最近過干渉な保護者が多くなったように感じ、今が良ければ良いのではなく、この子が社会に出た時に大人になった時にと先を見通した子育てが必要と思われる。
子どもってかわいい、そんな思いで子育てをしてほしい。
乳幼児にとり、友達家族の中で大人のレベルに日々の生活、人とのかかわりが引きあげられている姿をみることがある一方で、子どもがおもちゃになっていたりもする。尊重しながらも守り育てる、見守るということを大切にしなければならないとおもう。
それぞれの家庭で、生活スタイルや価値観の違いはあるが基本的には、子どもを大切に思い子育てをしていると感じる。
親子、共の集まり等があった時、親が自分の子どもをきちんとみることができず、危険なことをしているのに気付かないことがある。どんな時にも親として子どもを守る責任があると思う。
大人の視点で子育てをしてしまうことは問題だと感じます。子育ては、子どもが成長し、大人になった時、困らないようにすることまで考えなくてはいけないと感じますが、やはり、社会に出た時、けじめ、社会性が身に付いていなければ困るのは子どもです。乳、幼児期からのけじめ、躾は親の子育ての責任です。
いつまでも赤ちゃんのままいてほしいという気持ちが強く、3歳近くなくても、保護者の気分で赤ちゃん扱いをしたり、子どもが嫌がっても母の要求で母と朝わかれる時にキスをしようとする保護者がいる。子どもと保護者の間で「気持ちのズレ」があるように感じている。着替えや食事の仕方、トイレトレーニング等時期がくれば（年齢が大きくなれば）ひとりで出来るようになってきている保護者がいる。関わったり、やり方を知らせないといけないことを伝えているが、なかなかわからないようである。
よい、わるい、をきちんと教えていない。子どもを叱ることができない。子どもの感性にしっかり共感をよせてない。
今は情報があふれている社会なので“～しなければいい子に育たない”と迷うかもしれないが、もっと自信を持って、途中からころころと方針を変えずに子育てしてほしい。そして、子どものことも信じてほしい。言葉や体全体を使って子どもに対し愛情を表現してほしい。
親中心の生活で、目の前に居る子どもの姿、様子に関心を持たない事。
叱らないという親がいる。悪い事は悪い。いけないとビシッと言い聞かせてもらいたい。叱れないという親が多い。なあなあになってしまっている。
子どもにふりまわされてしまったり、大人中心生活になってしまうこと。
姿勢などない親も多く見られ、おまかせがふえてきている。
自分の子どもをきちんとしつけできない。本当に、だめなことをだめと言えない。子どもとたたかうことも多かったと振り返るがそんなことも放棄していると感じる。だから子どもの心が育たないと思う。
子どもと視線をあわせず話しをしているのは、子どもの安心感を得られにくい。子どもと一緒に行動することは出来るが（買物、習い事等）、子どもとあそぶのが上手でない、楽しめない保護者もいる。
核家族化が進み、相談できる相手がいない。祖父母や親戚がそばにいれば子どもに対してもワンクッションになることが、直接的に向きあってしまう。その為には、地域で見合ったり、親子のふれあい場所が必要。
子育て＝自分の時間がなくなる。子育て＝疲れる。子ども＝うるさい。正直な言葉なのでしょうが…。
自分が忙しく、子育てをしているとつい感情的になってしまう。仕事に追われる事について子育てが、第2になってしまうなど。
自分の勝手（都合）で方向性や考えを変える。
2歳児、3歳児の年齢で字を教えている。
とに角、かわいいーと心の底から思えるように接してほしい。口先だけでは子どもは感じるものである。子どもと向き合える期間は少ない。そのためには、夫婦、隣人、友人と情報を共有しあうこと。
ゲームを親が率先してやっているところ。それを当然のように、親子の会話、コミュニケーションの手段と思っているところ。

早く大きくしようとしているように見受られます。ゆったりしていねいにたくさんのスキンシップで乳児期を育ててほしい。子育てにめりはりをつけ、よいこと悪いことをしっかり伝えられる、そしてわかり合える親子関係を持って欲しい。
きれやすい子にしたいと言って、子どもの態度にすぐきれる。
ありのままの子どもの姿を受け入れること。子どもに「良い子」を要求せず、危険なことやいけないことなどは親が小さい時から伝え、知らせていく。
物事の良し悪しをきちんと教育できていないと感じている。スーパーのものに指を入れる。食品をなげる。人をたたく、かむ、ける、つばをはきつける、暴言をはく。注意を受けると、他人のせいにする→責任転嫁を感じる。公共の場でのマナーが悪い。人の迷惑になることを平然とし、親が注意しないことが疑問に思う。
子どもがある程度まで大きくなったら、“いけない”“だめ”と初めて知らせる、というのは、今まで良かったことが急にいけないことになり、子どもにとっては大きなショックではないかと思えます。特に危険につながることは、小さな時から知らせて（怒る、というのではなく）いくことが大切だと考えます。
いけないことをいけないと言えず、子どもの言いなりになっている保護者が多い。
外見だけではなく内面をみてあげるといいかなと思います。
家で子どもの自主性を尊重しすぎて、集団生活の中で〇〇をする時というときでも、急ごうとすることがなく、とても時間がかかってしまう。言い聞かせができず“泣かれるのがイヤなので好きにさせています”と言われたことがある。わがままを何でも受け入れることが子どもにとって良いこととは言えない。
その家庭のやり方、環境などで子育ての姿勢について一概にはいえませんが…。子どもに目を向けていない家庭もある様に感じる。休みの日に親子で過ごすことにより、いろいろな経験をしたり心のゆとりなどが出来たりするが、反対に、「休んだ方が先生が楽だからでしょう！」と言われると悲しくなる。
自分の子ども中心に考えている面が多いと思えます。お互いの思いやりを考えられないように思います。
自分の気分で子どもに対応する（気分により怒鳴ったりする）子どもの問題行動を、気持ちの現れや訴えとして捉えず、障害として疑ったりする。
保育園でリズムを作り、いろいろな刺激を与え、しつけをしても休みあけには元に戻っていたりすることがある。やはり、家庭でも、連絡帳に書いてある遊びや、できたことなどを実際にやってみるなど、保育園任せではなく、保護者も実感しないと、子どもの成長したことが、また元に戻ったり、なかなか定着せずに、前に進むことが遅くなってしまうことが問題だと感じる。
子どもへの期待が大きすぎる（色々なプレッシャーをかけている）。子どもを大人の思い通りにすることが良いと考える事（大人の都合で良し悪しを決めている）。
自分も親になりきれていない。自分のエゴで子どもをしかる。自分が挨拶出来ないのに子どもに言わせようとする。保育士にあいさつされホラとこづく。親のうしろ姿をみて育つ。うしろ姿をみるチャンスなし。学べない。
幼児だったが遊び相手はパソコン、という子がいた。保護者もパソコンが大好きで各々1台ずつ持ち、ゲームなどをしていたが、それだけが原因とは限らないだろうが感情のコントロール、社会性など気になる面が多かった。習い事が悪いという訳ではないが、長時間保育後、習い事に行き、日々疲れ切って子どもが身体を動かして遊べないというケースもある。又、イライラしたり、乱暴な言動が多い子がいる。子どもを1人の人間として尊重し、子どもの意志を尊重するという考えが強く「危ない」「いけない事」をきちんと知らせることができない→幼児になってもやりたい放題で社会性が中々身につかず友達と上手く関われない。
一人ひとりを大切にし個を尊重することばかりではなく楽しさや悲しさを実感し、共感、共有できる喜びを伝えてあげてほしいと思えますし、私たちはその事を大切にしています。その体験の多くはあそびの中から学びます。あそびや生活を共に大切にしていきたいですね。
親になったと言ってもまだよくわからなくて当然だと考えて、周囲の人に教えてもらう、世話になるという気持ちがありません（ある人もいます、たくさん、ごめんなさい、こういう人もいるということ、但し多いです）。だから、自分に都合のよくない人は受け入れたくなくて、何も不都合を言わない保育士がいい先生ということも多いのでは…。人とのかきあいが狭いような気がするの失礼でしょうか。よりたくさんの人の中で育つことが子どもにとってはとってもプラスだと思います。子どもにだけ「みんなと仲良く」と言っても肌で感じなくては本物ではないと思うのです。
子どもを褒めるばかりで、怒ったことがないという保護者の方がいらっしやいましたが、悪いことをした時にはきちんとそれを伝えないと何でも許されると思ってしまう節がある。
日々多忙で、子どもと向きあえる時間が少ないことは、保護者共通の悩みだと思います。時には私用で園に預けることもあってもいいとは思いますが。でも時間が出来た時には、少しでも子どもと向きあう努力が大切なのではないか、とも思います。そうした思いは必ず子どもに伝わると思っていますが…。
自分の気分で子どもをおこる保護者、おどす保護者。自分の子どもだけよければよいと考えている保護者。乱暴な子どもを受け入れられず、特別視する保護者。子どもの主体性を大切にしているつもりの様だが、放任と、とらえちがいしている、嫉のできない保護者。あいさつをしない保護者。権利ばかり主張し義務を果さない、思いやりの気持ちがもてない保護者が権利以上のものを要求し、段々エスカレートしてくる。
子どもの思いに合わせすぎてしまい、危険なことでもやめさせず叱らない。“先生に叱られちゃうからやめて”等々人のせいにして自分で判断できない。その場だけの対応で一貫性がない。感情的になってしまい、一方的に叱っている。テレビやビデオをみせて、子守りがわりにしてしまう。
子育て姿勢がない親が多いと思えます。あっても、現実にはできないと言ってしまふ親。我が子は、自分が育てなければ！！という責任を持っている保護者の方がどれだけいらっしやるのかと思えます。

いつまでも赤ちゃん扱いしたり、そうかと思うと、「何でこの子は…」と、言ってみたりする。今、この子にどう接することが、この子の成長につながるのかみてあげて欲しい。
「のびのびと育てる」や「意志を尊重してあげたい」など理想もありますが、分別がまだつかない幼い歳からそのことを実践するのは、「好き勝手にさせている」のと変わらないのかな、と思います。がまんすることやダメなことを経験することで「譲る気持ち」や「待つ」ことができるようになっていくと思います（「待てない子」や「自分が！」「自分で！！」の主張が強すぎて大人の声かけを聞こうとすることができないと感ずることがあるので）。
厳しい扱いをするかと思えば変に甘やかせて、一貫した態度で接していない。甘やかすだけ甘やかして、扱いに窮した時、どうしたらいいか困っていると訴える。日頃、保護者に話してもなかなか分かってもらえない。
子どもに、毅然とした態度で、話をする親が少なくなっていると思います。感情的にならず、甘やかすのでもなく、話して悟す事が大切だと思います。そしてダメなものはダメときちんと教える事が必要だと思います。それから、子どもはずっと親の目の届く所において、守れるものではないので、様々な出来事に自分自身で、考え、対処していく強さ、柔軟な考え方が出来る様育てて行く必要もあると思います。
個性尊重、人材を守るというスローガンのもとに、赤ちゃんのうちから1人の人間として育てようとするあまりに養護放棄になってしまう。例、食事を食べたがらなかったから食べさせていません。上衣を着るのを嫌がったので着せなかった（冷たくなって登園）。バギーに立ち乗りで登園してくる。甘い飲み物しか飲みません。夜中に冷蔵庫の前で泣くので食べさせています。etc。
出掛けては物を買って与えてしまう。24時間流れているCATVを、子守りがわりに見せてしまう。勉強ができることをほめ、他でみとめる姿がなし。
子どもの好きなようにさせ、自由にのびのびと育てているという考えを持っているようだが、はじめをつけることがなく、自由勝手にさせている。子どもの言うことひとつひとつに動揺してしまい、親として威厳を持っていない。子どもの希望を聞きすぎて、言いなりになってしまっている。親自身のストレスを子どもにぶつけてしまう場合がある。
子どもの求めること、必要なことに気がつかず、自分の気持ちや生活優先に行動している。午前中の活動（行事など）には、参加させず、（自分は夜おそく帰ってくるので、その時間は寝ている）昼ごろ登園させてくる。自分が休みの時も保育園に預けっ放しである。いつ子どもと接するのか？
保育園の活動に関係なく食事、おやつの時間にあわせて送迎する。大人に合わせ（仕事の関係か？）昼近くに起こして登園、午前中の活動（散歩、行事等）に参加出来ない。
忙しい、仕事に追われている、そのことで親中心になっているように感じます。社会的な問題が大きくて、いち親としての問題ではないこともあると思いますが、そんな中で子どものことよりも、まず自分のことを考えてしまったり、自分のゆとりを求めてしまったりがあるように思います。まず、子どものことを考えられる大人のゆとりがほしいです。
仕事が大切なのか、子どもを勝手に振りまわし、とんでもない時間に起こし（大人に合わせ）保育園に連れてきて、保育時間に関係なく迎えに来る。子どもに傷が少しでもつくと、執拗に怒る。誰に何を言われようとも自分本意、自己中心、曲げないのに子育ては保育園まかせ。長い時間あずけてしまう（理由をつけて）。
子どもと向きあわない。思い込みだけ大きい。物のように扱う。
「子育てばなれ」少しでも長くあずかってほしがる、親の都合ばかり主張し、子どもの事や保育園の事は後まわしにする。何かあると保育園のせいにする。自分の仕事を優先し、迎え時間など遅れて、保育園に迷惑をかけても平気である。話してもくり返す。
保護者が、自分は子どもとは十分にコミュニケーションをとるようにしている、いろいろと考えてあげていると思っているのか、そのようなことを口では言っているが、実際はあまりできていない。しかし自分ではやっていると思っているので改善しようとしない。
自分中心に生活していることも多いと思う。
身なりさえきちんとしていれば、あとは気にしないというケースが増えている様に思います。子どもはいつも、「愛されている」という実感に欠け、攻撃的でまた、誰でもいいから抱っこを求める。保護者が、抱っこしてあげ、愛を実感させてあげて欲しい。
子どもの我がままを注意できない、なんでも言いなりになってしまう。
親の気持ちが子どもに向いていないことがある。好きだよという気持ちが子どもに伝わっていないのでは？と思うことがある。
皆さん忙しいので、よくわかりますが、もう少し子どもに目を向けてほしいと思うことも時々あります。
大人の都合から優先されている。
女の子がほしかったのに、男の子だからかわいくないという人。 毎日のように子どもをあちこちに連れまわし、具合が悪くても保育園に登園させ、0歳児クラスで、夜寝るのが遅いから午睡を30分で起こしてくれという人。 泣かれることが嫌で、すぐに母乳を与え、それでしか子どもの気分転換をはかれない人（2歳近くになっているのに）。
早期教育を考えるあまり、早くから、文字、数字を学ばせ創造力が伸びなくなってしまう子どもがいる。幼児期は自分で考える事、創造する力を伸ばせる、大切な時期であると伝える必要がある。
子どもとのふれあいが少ない。どう接してよいのかなど、わからず、泣かれたらどうしたらよいかなど。保護者との日頃からのコミュニケーションが大切。
保護者自身が子どもと接することに壁を作り、子どももそれを感じ不安定になっている様に思う。

生活が夜型になり子どもにとっては育ちにくい環境になっている。それに流されるのではなく大切な人間としての基本の時代を本来あるべきリズムですごさせてあげたい。
自分がお休みで家に居るにもかかわらず、保育園へ預けてしまう事、自分自身の身体を休めたり、家庭でやらなくてはならない事等あるとは思いますが、その様な時はできればお迎え時間を早くしてあげる等配慮していただけたらナと思う事があります。
トイレトレーニングなど、個人差がある事を伝えているのに、ある程度年齢がくると無理に始めてしまい、子どもは負担に感じて精神的不安定や便秘等になっています。マニュアルどおりにはいかず、一人一人違っていいんだというのをわかってほしいと思います。
問題という程ではないが、子育てを楽しむ事ができなくなっている。他人にまかせる事が多い。
親自身が子育てに不安を感じているというか、どう育てていいかわからない。「これでいいのか？」という思いが心の中にあり迷いとしてそれが子育ての姿勢に出ているように思う。
本や他人の考えにとらわれて、我が子が見えてない。同じにしようとするが、個性があることを理解してほしい。
保護者が子どもの言いなり、顔色をうかがいながら、行動していたり、その逆に子どもが保護者の顔色をみながら生活していること。
毎日の様に習い事をさせていること。それも保育園に6時過ぎに迎えにきて、その足で向かっている。
保護者もどうしてよいかわからない部分も多いようなので朝・夕の時間、又は面談等いつでも困った時には声をかけてきて欲しい。そのままにしないで欲しい。
子育てについて話をしても、それぞれの親の考えがあり、こちらの話がうまく入っていかない。結局、変わることに、良くなるように、考え方をかえることは難しい。
向き合っていないこと、たとえば仕事がやすみなのに園に子どもをあずけて、あそび回ったり、やすみの日に一对一ですごしてあげなかったり etc.
夫婦での考え方の違いや、全てを保育園にまかせるという考え方は子どもが戸惑うと思います。
自分のその時の気分でかなり感情的に怒ったりしている。(←怒り方は静かだが、周りから見ると、かなりの迫力があり、周りの空気が凍る位の怖いオーラが出ている。子どもも怖いので、気を使い、親の顔色をうかがっている。)
仕事が忙しいこともあり、向かい合っていないこともある。
私たちは子どものためと思い、保護者も親として子どものことを考えています。これが1つでも合っていると安心するものですが、それには両者が理解している、納得しているかどうか。生活リズムもわかっているが親のペースで進めている現状です。“こうしては”という思いが子どもの「～して」の代弁になります。すぐにわかったり受け入れてもらうのではなく、1つのことでもよいから時間をかけながら伝えていくことが、子どもにプラスになると思います。子育てはわからないこと、不安があって当たり前。それを私たちが受けとめ一緒に子育ての力となる存在になりたいと思います。
夜遅く帰って来る父親が、スキンシップという形で夜間まで起こしてみたり、夜中さわがしくして近所に迷惑をかけると「子どものする事なのに…」と聞き直る。そういう考え方を平気でしてしまう親。なんと身勝手だろうと思います。大人が、子どものようだと感じます。
身のまわりのことや、忘れものなどが、多いとしても、子どもに、愛情が、しっかり向けられていれば心配ないと思う。そうでなく、きちんと、子どもと向き合う時間を持たない親子は、先々が心配。
子育てを通してまわりの人達と関わりゆるやかに、相手を受け入れたり理解したり共感したりすることが財産になって欲しい。
子どもが大人を求めている分だけ、保護者も他者からの援助やフォローを求めている様に思われる。短時間でも保護者対応を細やかに行うことで、保護者も安定し、そのことにより子どもも安定する。慌ただしくなりがちな時期、少しでも余裕がもてるよう対応することも大切だと思う。
親が子どもに対してついつい口出ししてしまうのも子どものことを思っていることではあるが、ある“ひとこと”が子どもの心を明るくしたり暗くしたりしてしまう。
自分の子どもを抱っこしないで、他の子を抱っこしたりするのは、問題か。
しつけ・・・公共の場で自分の子が騒いだり、聞きづらい言葉を言う時など、全く注意せず、また子どもを納得させるような働きかけをしていないことが多い。
忙しさに振りまわされている様子を、どんな子に育つか気にならないのかと思うことがある。
大人の都合で子どもを振りまわしている。休み明けの子どもの疲れ方が違う。大人中心の生活に子どもを合わせている。アクセサリのように扱っている。
時間がなく、ゆとりがなく、そのしわ寄せが子どもに出てくること。
友達との喧嘩の際、子どもが友達にパンチをくらわせた。友達が泣きべそをかくのを見て我が子は笑っている。しかし、母親は注意しないため、保育士が注意した。この状況に母親は「買い物に行くんだから、ごめんねしなさい」という。これでは、子どもは何も学ばない。何がよいのか、悪いのかさえ、身につけないでしまう。
危険な事でもやらせてしまう。育児書のひろい読み。しからない子育てをまねしている。

情報ばかり集まり、その子に合ったものを選ばず、いろんなものに手を出している気がする。例えば、習い事でも、沢山のものに通わせるよりもその子との時間を増やしてあげ、家でしか教えてあげられない事や、十分な休息を取ってあげてほしい。

ともすると親の考えた道へ。その為に小さいうちから習い事をさせたり、よかれと思うゲームを用意したりして、親子で仲良くゲームという家庭もある。大人の娯楽と一緒に参加させたりする。

#### (10)【設問(18)】 夜間におよぶ長時間保育に対する意見

子どもの生活リズムが更に乱れる。

さらに、生活のリズムが大人のリズムになると思います。

本当に仕事の都合に必要な保護者もいるので、そうした保護者と子どもにより環境で保育を提供していく必要性を感じる。容易に子育てを社会に任せてしまう保護者にとって、どうなのか疑問。きちんと子どもの育ちにとって何が大切で、保護者の役割は何かを知ってもらって理解されたい。

現在では保護者の就労から考えて、確かに夜間保育も必要であるが、本当の子どもの発達や環境を考えると、大きく賛成を唱える事はできない。

一日の半分(12時間)園で過ごすことさえ、子どもにとってはすごいストレスを与えているのでは？。今の19:15が限度だと思ふ。

子どもが小さい間は、子どもと向き合う時間を保障する義務が企業にはあるのではないかと。

ひとり親で、どうしてもそこまで働かなければ等の家庭の事情があればやむを得ないと思うが、そこまで長時間働くのは大人の都合なので、そこに子どもを巻き込むのはどうかと思う。私自身も仕事に従事しているので、働く事、仕事の大変さは理解できるし、特に一般企業、販売業だと「早く帰れない」「早く帰ることを要望すると、仕事がない」というのも現実問題だと思うが、じゃあ誰のための子どもなのか。誰の子どもを育てているのかという思いがあり、できるだけ小さい間、低学年くらいまででも親子で過ごせる時間をもって欲しいと思う。更に親子関係の希薄さが広がるのでは、と心配である。

職種によっては「夜間に及ぶ長時間保育」が不可欠なものもあるが、子どもにとって望ましい生活リズムが確保できるかどうかという点を考えると、好ましくないように思う。ただ、就学形態が変わる事もあるので、その時に状況に合わせて考えていきたい。

長時間家庭から離れる事は人間形成にとり何一ついい事はない。幼い子を持つ親が少しでも早く家庭に戻り、子どもとかわれる時間を保障することが真の子育て支援である。

夜の仕事をされている方もいらっしゃるのですが、必要なのかも知れませんが、自分は夜間の仕事は出来ません。

親の就労に対して、子どもにばかりしわ寄せがいく。企業への努力を求めるべきである。長時間保育では、親子のコミュニケーションがとりづらく、中高生になってからの問題が懸念される。

子どものことを考えると、望ましくないことだと思います。けれども二重保育をしているご家庭もあることを考えると、同じ場所で保育をすることが子どもにとって負担が少ないのかと思います。

親の就労で夜間におよぶ長時間保育は時と場合を考え必要であると思うが、小さい年齢から親とはなれて生活することは、子どもにとって酷なことである。預ければなしになるのでは、と不安になる。

本来的には子どもは保護者のもとで夜は過ごして欲しい。いろいろな家庭環境の中で難しい問題は多くあるが、社会全体の中で考えていく必要があると思われる。長い人生の中、考えると親という時間は、そう長いとも思えない。低年齢の時期に、しっかりと子どもに向うことが将来の子どもの育ちについてプラスとなると思われる。

しかし、どこかで子どもの生活を大事にしなければならない時期がある。特に、乳児期は少し仕事をセーブしたり、他の人に任せて子どもと向き合うようにすべきである。

本当に必要な方(残業等)のためには賛成だが、そうでない方も夜間に及ぶ事になりかねない。すでに現在の延長保育でも、仕事でない場合でも使う方がいるので(隠して)。子どもと接する時間が更に少なくなってしまう。

子育て支援としては、必要かもしれないが、子どもの代弁者である保育士としては、反対していききたい。

母子、父子家庭で、どうしても働かなくてはならない人にとっては、よい制度だと思うが、子どもに愛情を注げるのはこの時期だけだと思うので、保育園に子育てをまかせっぱなし、もどうかと思う。

長時間の保育園でも生活に慣れてしまうと全ての時間が子どもの生活のリズムが作りにくい。さらに親子のコミュニケーションの時間が減る一方。ただ、母子家庭や母親が夜間に働かざるを得ない場合は、保育園での保育よりもできるだけ家庭での保育が望ましいと思う。

この大切な乳幼児期を大切にせずして、どうこれからの子どもの育成に責任をもっていくのか?!小中高のいじめを感じ問題意識をもつべき。

事故がおきた時がこわいです。日中以上にそういう可能性は高いと思います。

保護者の帰宅時間が遅く、2重保育を行っている人を思えば、1つの園でゆつくりと関わる必要性はあると思うが、子どもにとっても負担が大きいように思う。

現在の保護者の就労時間を考えると必要性はあるが、子どもの生活リズムや精神面を考えると子育て中の保護者の就労時間について、国が変えていくべきだと思う。小学校低学年の間までは、育児時間の必要性がある。

就労によっては、必要な場合もあると感じるが、父母との協力体制など取り合い、乳・幼児期では、親子の関わりに重点をおいた方がよいと思う。
保護者の仕事のことを思えば反対とは言えないが、子どものことを思うと、やはり精神的に背負うものは、大きいと思います。
夜間、預かるなら、きちんと理由の届けを出していただいたり、保育料金を割増にするなどの対策が必要と思われます。
夜間に仕事がある場合は、長時間保育を望むのも理解できるが、特例として長時間保育をしてしまうと、仕事がないときにでもあずけたりする保護者もでてくると思う。保育園に通っている子ども達は、保護者と過ごせる時間も限られていると思うので、夜間や休日などは、家で過ごすのが子どもにとってよいのではないかと思う。
まれに、本当に必要としている人はいるかもしれないが、そうではない人の方がはるかに多いと感じる。時間がのびれば、それだけ預かってもらえると思う親が増える。自分でなんとかしなくてはと考え、助けを求めたり、行動することが今の親には、必要だと思う。
子どもの生活リズムをどのようにするか。親との関わる時間が少なくなるのではないか。
保育が夜間に及ぶことになれば、家庭での親子の時間が更に短くなることになり。親子のコミュニケーションがとれなくなってしまうことにもなりかねません。子どもの成長にとって好ましいことを第一に考えるべきだと思います。
子育て中の保護者が長時間働かなくてはいけない「働き方」を見直してほしい（企業や雇用主）。
夜間におよぶ長時間保育は、保護者中心の考え方であると思う。できるだけ、保護者のもとで愛情を受け、育てほしいと願う。
できれば、ない方がよいが。
夜間までの時間開所で利用したい人がいるのなら仕方がないが、そんなに長時間仕事がしたいのなら、仕事か子どもか、どちらかにしては、どうかと思う。また、午後からの保育のいらい等がある場合、限りなく託児所化していくか、保育園のあり方そのものを考え直すべきだと思う。
国の政策が問われる部分と思う。そんなに子育てをしている親に仕事をさせるべきか、疑問である。子どもの育ちは、とりかえしのきかない事で、後からという事のできない事だから、手をかける乳幼児は、しっかり手をかけて育ててゆくべきと思う。やむを得ない場合は、確かにあると思うが。
24時間の営業のお店も多くなってきている時代だが、どうしても夜仕事をしなければならない方は、別として昼は働いて、夜は家族だんらんで過ごす中で、学ぶ事の方が多いと思うので、できれば、夜間も保育園で過ごすのがいいという考えには、賛成できない。
夜勤など仕事のけいたいであったり場合は、OK。しかし、それが悪用というのは言いすぎかも知れないが、自分の時間がほしいなどで、夜間をつかわれるのは、イヤである。
これ以上、親子の時間を少なくすべきではない。
公立保育園の役割は、今の時間帯の中で、はたしたい。また、別の施設での役割にしてほしい。
現在の形で、実施していくのは、難しいとは思いますが、保育園を超えた形態の児童相談所、病院とも連携できるような施設が望ましいと思う。一時（緊急を含んだ形で）夜間保育は、していかなければと思われる。
両親の勤務時間なども考えると必要なこともあるのだろうが、小さいからこそ、もっと子どもと向き合い、真の親子のきずなを強くし、心が育つ関係を大切にしたい。命の大切さなども含め、人任せに頼るだけでなく、子育ては、大変だけれど楽しいと思えるようになってほしい。
しっかりした体制をととのえられれば、できるだけ保護者の意向にこたえていきたい。
私達がそうであったように、夜は家で過ごすことが何よりも一番大切だと思う。長時間保育での疲れはどこで、癒すのか、どこで甘えるのか。夜を平気で外で過ごせるようになってほしくない。どこまでも頑張っても、家や家族は、かわりはつぐれない。就寝時間やその他の生活リズムに影響が出てくると思う。
働いている保護者にとって、保育園はなくてはならない存在である。しかし、どこまで甘えていいものなのだろうか。保育園から帰ってきて寝るまでのひとときが、子どもにとっては、唯一の親子のふれ合いの時間。勤務形態が様々で夜勤などある家庭は、長時間保育を利用して日中一緒に過ごすことができ、ありがたいかもしれない。しかし、長時間にすれば、残業で等とあずける親も出てくる。やはり、年齢が小さければ、小さいほど、親子の時間は大切だと考える。人生の中のほんの5～6年！親はなんとかやりくりし、親子の時間を自分で作るべきだと考える。保育時間をのばすのではなく、就労時間を短くすべきである。
就労状況により、夜間もやむを得ないと思うが、前述したように小学生前半までの家庭は、夜勤などない社会状況をつくりたい。現在の就労状況は、せり合い、競争に生き抜き、勝ち組の世界をめざすので、夜おそくまでも“イヤ”といえない勤務体制があり、家族の崩壊を進行させていると思う。
せめて、乳幼児期は、子どもと一緒に寝たほうがよい。早寝、早起き習慣を身に付けるとよいのでは。手をかけてあげるのが大事。
普通であれば、子どもはいつでも親といることで、安心して生活が送れるが、親と過ごす時間が少なければ少ない程、後々、心のキズとなると思う。
親の就労に合わせたサービスを行うことは、必要。しかし、その中で、親子関係の問題等が出てくるのは、別な問題。
国の助成補助（乳幼児、児童手当等）がもっとあれば（更に充実していれば）長時間保護者が勤務する必要がないと思う。
どうしてもそうしなければならないのであれば、仕方はないが、子どもの気持ちも大事にしてほしい。

<p>保護者ばかり責められないことだが、就労時間が長すぎる。どんなに家庭保育に欠ける補完をしても、やはり、子どもは親を求めているのは明白であるし、日々の保育で実感している。長時間保育は必要だという認識はするが、これから先の親子関係で果たして良いことなのかと疑問に思う。</p>
<p>社会が（雇用体系）関係するので難しい問題であるが、基本的には反対。安心した気持ちで子どもが親の下で生活することが、望ましいと思う。</p>
<p>男女均等と言われ、仕事も平等と言われるが、子育てに関しては、どうしても母親に負担がかかると思うので、さらに長時間保育に預けるのは、子どもの育成にとってマイナスの方が多いと思う。</p>
<p>保護者のリフレッシュの確保は、今の保育園には、必要である。しかし、それは、通常の保育時間内と考える。長時間（夜間）保育は、今の社会、必要である。</p>
<p>仕事の大変さはわかるが、子どもにとって安らげる家庭での時間が少なくなるということは、これから先の成長に悪影響がある。今はいいが、大きくなった時に、何かしらの問題が生じてくる。子どもと一緒にいる時間の大切さを感じてほしい。</p>
<p>本来、家庭の役割やあり方、保育園の役割は別なものだと思っています。本来、家庭で家族と過ごす時間帯に、保育園にいないといけない、という状況は、その子の人間形成において、何らかの問題を生じないか、心配です。</p>
<p>本当に、長時間夜間保育が必要である場合は、受け皿が必要であると思うが、それにともない子どもの権利が侵されるのであれば、あえて時間を広げる必要はないと思う。それによって、かえって、保護者側の意見にそくしたものの、子にひずみがあってはならないと思う。</p>
<p>一番いいのは、社会全体が、子どもをもっている親の就労時間の保障をしっかりと統一していくことだと思う。</p>
<p>子どもにとっての家族や家庭というものが、うすくなってしまふ。長時間保育をする保育士の生活が壊れてしまふ。</p>
<p>基本的には、親子で子育て時代はゆっくり育ててほしいが、いろんな就労を考えると、必要な人はいると思う。が、子どもたちにとって大事な成長期であることを親はしっかり理解し、子どもと付き合えるときはしっかり受けとめてあげてほしい。</p>
<p>子どもの立場でとらえたとき、基本的には長時間保育は反対である。保護者の労働条件の改善をすべきだと考えている。だが現実的にはそれが整っていないので、本当に必要な子どもには家庭に近い状態で良い保育環境の中で過ごせるようにすべきである。</p>
<p>不規則勤務になってきている現状だけに、考えていかなければならない問題だと思います。</p>
<p>社会（会社）の中で遅くまで働くシステムを考えるべきである。 世の中の流れがおかしい。子どもたちが夜型生活をするのがよくないのになぜ必要なのか。行政がもっと企業に訴えていく。子どもが健全に育つには何が大事なのか知らせていく。</p>
<p>夜間保育所を見学したことがあり、子どもたちは安心して過ごしていた。安易にあずけるのではなく、夜間就労のために必要とする方がいるのであれば、環境を整えてより家庭に近い状況での保育をすることが望ましいと思う。</p>
<p>本当に必要である場合、考えていかななくてはならないと思うが、本当に必要であるか、子どもの目線に立ち、基本の制度をしっかりと作っていく必要があると感じる。</p>
<p>今でさえ、親子関係が希薄の子が多い中、全国的にも犯罪が低年齢化しているなか、これ以上親を仕事と称して子どもから離すのは、マイナス面がさらに出てくると感じる。</p>
<p>経済的なことや生活のためにという場合もあるかもしれませんが、長時間預けられている子どもにとってそれが良いのかどうか…。</p>
<p>今、世の中はグローバルになり、仕事も9～5時に限定されるものはむしろ少なくなっている。それにすべて対応することは、24時間対応になってしまう。「子どもにとって」を私たちは常に考えている。もちろん保護者あつての保育園ではあるが、今の教育現場の悩みを考えるにあたり、乳幼児期の人間関係を築く時期に、やはり保護者がゆったり向き合える時間をとれるよう、家族間、労使間で吟味すべきと思う。</p>
<p>夜間保育を始めることでさらに夜型の生活リズムの子が多くなる。遅くまで保育できるとなれば、遅くまで働き続け、結局子どもにしわ寄せがいつてしまうのでは…。保育時間に制限があるから、労働時間もある程度で切り上げられるのだと思う。</p>
<p>子育ての期間の就労時間を社会が支えてあげられるような取り組みがあるとよいと思う。</p>
<p>たしかに、どうしても夜間保育が必要な仕事の保護者はいらっしやと思います。でも子どもの心のよりどころとなる家庭での時間を保障するよう働きかけることも保育園の役割ではないでしょうか。子どもが育っていく過程の大切さを訴えていかななくてははいけないと思います。</p>
<p>子どものいる家庭については、残業労働を少なくし、家族のふれあいの時間を考慮するあずかり時間であってほしい。</p>
<p>今現在でも生活リズムが乱れているのに、これ以上夜型になり、親中心の生活保障はしたくないと考えます。しかし子どもの生活を守るためには必要なかもしれません。何のための、誰の子どもであり、子育てなのか、疑問でもあります。</p>
<p>医療関係、サービス業など特別な職種に関しては、やむをえないと思いますが、基本的には反対です。夜間保育等保育時間を延ばしていくことは簡単ですが、家庭からはなれ、集団の中で長時間過ごす子どもたちの負担は多大なものと感じます。少子化が進む中で、「日本的働き方」の見直し、国を挙げた課題となっていると思います。まだ、ほんの一部の企業ですが、育児支援のために、働き方の改革をテーマに無駄な業務や会議をそぎ落とし、女性研究者への育児支援での非常勤アシスタント提供、病院などの時短、時差出勤なども増えているようです。まず、仕事時間の見直し、優秀な人材（育児中職員）を確保していくための仕事と家庭の両立支援が不可欠と感じます。</p>

<p>仕事の時間によって、どうしても夜間あずけなければならない人がいるとは思いますが…。現在の保育園の状況から考えて、小さい子どもがいる保護者の労働時間を短くして、親子の時間をもっととれるように、子どもの生活時間が健全で普通の時間に夕食がとれるように保育時間を決め、さらに親の勤務時間を決め、豊かに家庭生活を送っていくことが大切だと思う。</p>
<p>条件にもよると考えられ、また年齢も関係すると思う。</p>
<p>子どもの立場に立ったとき、自分だったら寂しい思いをするから。また私の家庭は、私が子どもの頃も結婚後も夕食は家族みんなで食べ、その時の子どもの笑顔は幸せいっぱいに見えるので、できれば家族と一緒にいる時間を作ってほしい。</p>
<p>以前臨時職員をしていた保育園は、私立で22時まで開園していたが、朝から夜間まで園にいた子どもは疲れているように見えたので。保護者のためには確実に助けになっていたが、子どもにいいとは言い切れないと思う。</p>
<p>預けられる場があれば、ギリギリまで仕事をしてしまうが、これ以上保育園が開いていないと思えば、いろんな努力をして迎えに来てもらえる。子育ての中ではその“努力”こそが大事なんだと思う。子どもはいつだってお迎えを待っているんです！</p>
<p>どの時間帯を夜間保育と考えるのかはわからないが、やはり保育士に親のかわりはできない。子どもたちが一番求めているのは親とのかかわりだと思う。必要ということもわかるが賛成とはいえない。</p>
<p>仕事の条件などによっては、夜間の保育も必要ではあるでしょう。しかし子どもが集団で過ごすことは、かなりの負担がかかることだと思います。大人には労働基準法があり、法で守られています。子どもたちにもどこかそのような線引きがないと、心身の発達にも影響があるのではないかと心配になります。</p>
<p>決める上で最優先していただきたいのは、“子どもの生活リズム”上どうなのか、という点です。品川区のような（22：00までの保育）例はあまり作ってほしくありません。保育者も保護者も子どももクタクタ…という保育の姿はいいかなものかと思います。</p>
<p>保育園児の間は、親が仕事をセーブすべきと思う。一番大切な時期、落ち着いた環境の中で擁護されるべきと考えるから。</p>
<p>その家庭によって就労形態が違うし、何を一番大切にしたいということが違うので仕方がないことだと思いますが、やはり保育時間が長時間だと疲れていたり、落ち着きがなかったり、子どもへの負担が大きいと思われるので賛成はできません。</p>
<p>保護者の金銭面について、安定していない場合のことを考えると夜間保育も必要かと思うが、子どものことを考えると情緒の安定のためには保護者と過ごせる方がいいと思うので、どちらともいえない。</p>
<p>民間も厳しくなって、残業が避けられないという保護者もいるので、他機関と連携し、二重保育となるのであれば、同園で受けていくことも必要と感じる。核家族化が進み、またシングルマザーも増加しており、高校生の兄姉が代行して迎えに来ることもあるので、保護者の迎えが待てる状態であれば良いと感じる。夜間になると、夕食等関わり、そのための手立てなど、複雑である。預かってもらった方が楽という思いなども懸念される。</p>
<p>子どもが育つ中で、親と過ごす時間がなくなる。乳幼児の時期にしっかり育ててほしい（気持ちを受け止め、親もその時期は夜間の仕事を控えるとかできると良いのですが）。必要としている人はいると思うので、利用する中で、人数に対して大人の人数もしっかりとついている所で、子どもが育っていくことを保障してほしい。</p>
<p>保育園で生活する6年間は親子のコミュニケーションにとってもかけがえのない時間。一生を考えたとき、6年間は子どもを中心にしてほしいから。</p>
<p>現在、19：15までであるが、これ以上は長いと思う。親を中心とした保育になる。そのためには、社会も変わらないといけないと思う。子どもを育てるのか、生活のために親中心とするのか、社会の厳しさがそうさせているのであるのか。しっかり考えていくところだと考える。</p>
<p>現状において、延長保育の子どもたちは大きな施設で、大好きな友達が帰り、保育士も先に帰りと、さみしさを感じているのが現実だと思う（保育園としてはさみしさを感じさせないように対応するのが責務であると思うが）。就労保障するにも、小さいうちはそのような点も考慮し、なるべく早く帰れるようにしたり、ファミリーサポート等、家庭的な雰囲気待てる方が良く思う。</p>
<p>延長保育の7：15までにしても、小さいクラスの子たちにとってはかなりの負担になっているように思うので、それ以上の時間になるには、人的物的にも十分な配慮が必要だと思います。1歳児クラスで、週末（木・金）になると、ぐずることやトラブルが多くなったり、午睡で起きられないほど眠ってしまう姿があります。</p>
<p>様々な職業があると思うし、夜間に働かなければならない方も数多くいると思う。そういった方にとって、夜間の保育は、必要なのだと思う。ただ、子どもにとっては、これは苦痛以外の何ものでもないと思う。子どものことだけ考えれば、「3. 反対である」を選ぶが、預ける側のことを考えると、どちらとも言えない。</p>
<p>子育ては、やはり両親がするものであって、生活習慣、食文化、しつけなど、その家庭なりの方針で行うことだと思うので、24時間近く、親とはなれて、思いやりやしつけが育っていくのかと疑問に思う。責任をもって親になるためにも、少しでも長く、家庭ですごされることを望む。</p>
<p>仕事を優先しすぎて、子どもと接する時間がなくなってしまう。子どもにとって良いとは思えない。</p>
<p>子育て中は、夜間の仕事をしなくて良くなればいいが、実際は、夜の仕事の人もいるので、条件の良い所で保育したほうが良いが、成長ホルモンや心の成長などを考えて夜間、他人が保育していることは、どうか疑問である。</p>
<p>長時間保育は、子どもにとって大きな負担になる。夜間までのニーズはあると思うが、子どもと接する時間が減り、子どもはつらいと思う。</p>
<p>子どもにとっては、長時間は…と思いますが、働かなければ生活できないなど、苦しい状態の御家庭もあると思いますので、現段階では、何とも…。</p>

昔より躰は、「つ」のつく年齢まではしっかりとという。つまり、「9つ」までのこと。この年齢までは、夜間に及ぶ長時間保育をしなくてもすむ労働条件を確立したい（昼間は働き、夕方や夜は家庭で過ごせる社会を形成したい）。
子どもにとって長時間保育は、身体もつかれると思われ、夕方から夜にかけての家庭（両親と）の時間が少ないと、成長してきたとき、家族希薄が出てくる事を考える。
家庭にいるのが一番だが、やむを得ない場合は、その子の家において保育を受けられるシステムが一番だと思う。
今、現在たしかに親の就労の状況によって、夜間保育が必要な子がいるということはわかっています。ただし、子どもの健全な成長、発達を考えれば、それは望ましくないと思います。それよりも、やはり子育て中は、夜間や長時間の労働をしなくてすむ社会にしなくてはならないのではないのでしょうか。家庭の味を知らない子が、健全な大人になれるのでしょうか。
あきらかな需要がわかっていない。
私は、やはり子どもにとって、親との関わりが大切で心を育てていくものだと思うので、昼間に友達や保育士と関わる時間があるのだから、夜ぐらいは一緒にいてあげてほしい。
保護者と子どもの一緒に過ごす時間はますます減ってしまうと思った。
子どもの育ちの上でも、是非とも家庭という場を守ってほしいと願います。家庭よりも集団の場は、もう少し大きくなってからです。その為にも、社会のあらゆる機関で父母を家に帰す、精神的にも病むことのない体制づくりを建て直してほしいと願います。そうしないと、今の子ども達は心配です。
本当に長時間保育が必要な保護者にとっては賛成である。保育園は保護者をも支えていく役割があると思うから。しかし表紙にあったように乳幼児期は大切な時期なのだから、子どもに時間をなんとか作る努力をしてほしい。その努力をせずにサービスを受けるという手軽な感覚で利用する人がでてくることを危惧します。
長時間保育の子はどうしても親子でいる時間が少ない分コミュニケーション、スキンシップが足りてないのが現状であり、子どもの健全な育成を考えると限度があると思う。
保護者のニーズはあると思いますが、子どもたちにとっては、大変なことだと思う。子どもたちの視点から考えることも必要だと思う。
どうしても、必要になる親もいると思うが、子どもにとってどうなのか。親子の関わりを十分に考えた上で子どもを育てるために、どうしても、必要な保護者だけが預けるのなら良いと思う。でも条件整備（人的・環境）をきちんと整えやっていく必要がある。
子どもの生活時間を保障できる社会が望ましいと考える。子どもの最善の為に、乳幼児期の子育て期間は就労を配慮し、親を子どもに返せるようにできるとよい。
社会の状況が夜間型になっているのは理解しています。自分自身もその恩恵に、少なからず助かっている身ですから、それも仕方がないことかと思えます。ですが、これはあくまでも親の立場です。子どもの側の保育士から見ると、やはり、手ばなしで賛成できません。前記の子どもの生活リズムにも関わってきますし、疲れている子どもはケガも多いです。
何時に寝て、何時に起きるつもりなのか？小さいうちだけ親本位の生活をし、小学校に行ってからいきなり朝早く起きる生活習慣が身につくと思っているのか？小さい時だからこそ、子どもにとって何が一番いいか考えてもらいたい。
就労時間が遅くなる保護者も、なるべく支援してあげたい。
子どもを育てる時は、様々な苦労がある。一生懸命がんばっている母の背を見て育ててほしい。どうしても働かなければならない時は、誰かに助けをかりながら、最大限の努力をするが、こういう姿勢を崩してほしくない。預ける場所があれば「預ければいい」と簡単に考える保護者も中には出てきてしまうであろう。夜はやはり、安らぎの時間でなければいけないと強く思う。
日中保育だけでも子どもは心身ともに疲れる。子どもの立場に立った時、夜間他人にあずけられるのはどうか考えなければならない（夕食を親と食べられないのは問題）。人的物的環境を整えばよいというものではない。家庭と同じ安らぎを集団で与えることはできない。
保護者は就労のためではあるが、子どもにとってはただひとつの家庭のあたたかさを十分に味わうことが難しくなっている。これが普通で良いのか、疑問が多い。家計を守る大切さも十分に理解できるが、この時期の子どもの育ちをゆったりとすごしてあげてほしい。
夜の就労が多く、必要となれば、夜間、長時間保育は必要だと思う。
子どもの安定から考えると、しなくてもよい社会になってほしいと思う。保育園時代だけの問題ではなく今後に向けても考えていかれるように。
長時間保育の必要のあることは充分わかっているが、時間をのばしてものばしても解決しない御家庭もあり、時間が短ければそれに合わせようと努力するので、“子どもにとって”ということを考えてと反対。
子育てで支援という点から見ると、忙しく働く保護者の方にとって、安心してあずけられる場があるのは大切で、必要不可欠であると考えます。しかし、子どもにとっては、保育園の集団の中に長時間いたり、保護者との時間がとても短くなることは、例えそこが安心できる場であっても、負担になり、決してプラスにはならないと思います。ですが、現実問題、今の社会では必要不可欠だと思います。
乳幼児の時期は、社会が、母親と子どもを守る状況をつくらなければならないのではないかと。夜間はできるだけ、家庭の中で過ごす状況があればよいと思う。ただ就労状況により仕方がない方もいらっしゃるのでは、その場合、受け入れ体制もつくらなければならないとは思っているので難しい。

<p>子どもの側からみれば、できれば親の働く環境、つまり社会のしくみを変えていくことが望ましいと思う。例えば子どもが小さいうちは日中勤務のみにはできるなど。</p>
<p>昔問題になったベビーホテルのような、劣悪な環境に置かれている子どもがいる事も事実で、そのままにしておけないと思う。が長時間保育が子どもにとってよいとは思えない。夜間保育がどうしても必要となる場合は、少数と思われるが、勤務条件を改善して、中学生以上になるまで夜間の労働を免除できないだろうか。せめて小学校になるまでなんとかならないかと思う。私は交替勤務で夜間に働きながら子育てをしたので、痛感するのだ。</p>
<p>本当に必要な家庭には、積極的に利用していただきたい。しかし、それに便乗して、親の都合によって利用される場合がある。それを、なくすような制度？が必要。それが、解消されれば望ましい。</p>
<p>深夜におよび仕事をしている人もいる訳であるから、利益優先でない公立こそが拠点方式でやるべきであると思う。</p>
<p>子どもを主体として考え、子どもの最善の利益を追求した上で行っていくべきだと思います。</p>
<p>子どもにとってはよいとは言えない。就労関係が影響しているのは承知である。わずかな期間を子どもを主体にして子育てをして欲しい。そういう社会になってほしい。</p>
<p>職種によりやむを得ない環境があると思いますが、子どもが健やかに成長していく上で、落ち着いた環境になるとは思えない。</p>
<p>就学前の子どもがこれ以上親と離れた時間を過ごすのは、心身の成長に良い影響を与えないように感じる。親と一緒に過ごす時間が一番安心し、やすらげる。</p>
<p>保育園は、どんなに家庭的雰囲気を作ったとしてもあくまでも集団生活なので長時間になることは、望ましくないと考えます。個人的には、社会の中での保護者の就業時間が8時間以下になることが子育て期に大切だと思っています。</p>
<p>長時間保育園を必要とする家庭がそれほど多いのか？保育園（夜間）を増やす事で解決する問題ではない。</p>
<p>保育時間は保護者の就労時間で決定されるものですが、早朝保育から延長保育までの子どもを考えると、保育園は集団生活の場であり、集団生活で経験できるメリットはありますが基本的には、家庭保育、保護者と、接する時間が子どもにとって安定することであり、家族、家庭にしか味わえない愛情を受けるのが一番だと感じます。そのため夜間に及ぶ長時間保育には賛成しかねます。</p>
<p>女性の社会進出が進み、女性も社会で認められるようになってきて、保育園の夜間長時間保育の需要が高まってきている。夜間、長時間保育が必要な子も増えているのは現状であり、保護者が働くために必要であるが「子どもにとって、子どもの成長にとって」はどうであるかを考えてほしい。 長時間保育は今のままで良いが、夜間保育の導入には反対である。今以上に保育時間が延びると、保護者と子どもが関わる時間はますます減り、親子関係が希薄になってしまう。関わる時間の多い少ないではなく、乳幼児期は、人生の基礎を築く上で大切な時期だから、親子ですごく時間をしっかりと作り、親子関係を密にしてほしいので夜間保育には反対である。子どもの成長にも保護者との関わりは重要である。</p>
<p>夜間に及ぶ保育は、平日の家庭生活がほとんどないということで、21：00以降であれば就寝時間になってしまう。子どもの負担を考えると賛成できない。</p>
<p>親の都合で子どもが長時間預けられ、家庭という安心安全な時間と、空間で過ごす事が減る事で、子どもの成長発達に悪影響が出るのではないかと心配である。</p>
<p>子どもの負担が大きい。生活リズムが崩れ、夜型になってしまう。</p>
<p>どちらかといえば反対です。仕事が忙しい、大変なことはわかりますが、どこかで区切りをつけないと親子の時間がどんどんなくなってしまうことが心配です。</p>
<p>時間をのばすと就労ものびてきて、子どもにとってどうなのか？疑問である。</p>
<p>長時間保育がよいか、悪いか分からないのです。職業によっては、夜中、明け方まで仕事という方もいらっしゃるもので、何とも言えないのです。親の立場からしてみればやはり、安心して働けるように、夜間、長時間は必要でしょうが、子どもにとっては、はたして、それでよいのかと考えさせられますが。子どもが大きくなった時に、お父さん、お母さんの子どもでもよかったと言えるような保育の場は必要なのでしょうね。</p>
<p>生活する上でどうしてもあずけざるを得ない状況の場合、質の悪い保育施設を利用するならば、少しでも子どもの安心する居場所の保障が必要であると考えます。</p>
<p>子どもと接する時間が短いので、一緒に時間は大切にしていってほしいことを切に話していきたい。</p>
<p>19：30ごろのお迎えは、中途発端のように思います。保育園で夕食まですませて、区切りをつけた方が、家庭に帰ってから、少し余裕がある状態で子どもと接し、親もいい状態で、お互いのコミュニケーションがとれるのが、いいと思う反面、保育園がそこまで担うことがいいのか…。</p>
<p>子どもにはどんな生活、そして、親の対応が必要なのか？大切にす気持ち、そして、かわいい寝顔は親が見るべき。食事も同様、作れないなら、外でも良いから…。</p>
<p>長時間保育は、仕事をす親の為であって子どもにとっては、ホッとくつろげる時間ではないと思います。</p>
<p>乳幼児期の大切な時は、人生の基本を考えるなら、社会全体で支えるというしくみになぜならないのでしょうか？</p>
<p>親の都合ばかり優先し、子どものことを考えていない。子どもはいえないのであえて私（達）は反対をとえます。長い保育や夜あずけられるつらさは、親は感じないがあずけられる子どもが感じるのです。</p>
<p>看護師などやむをえない職業の人は別として、子どもの身体的脳の成長など早寝、早起が大切だと考える。子どもたちから親を奪うことに反対。</p>

<p>子どもの生活を考えると基本的には反対である。不規則な生活になりがち、又、子どもの疲れもひどくなることは予測される。しかし、様々な生活形態の家庭があり、その需要にこたえることもいたしかたないのではない。</p>
<p>基本的には反対である。しかしどうしても夜にかかる場合は仕方なく、その保育方法を考える。但し、保育園や個人だけの解決ではなく、社会全体が、子どもを大事に育てるという点から、夜遅くまで働かなくて良い社会（せめて小学校まで）にしたい。生活リズムの乱れ＝身心の発達におよぼす影響は？</p>
<p>これ以上保育時間を長くすると、ますます親子の間が疎遠になる。</p>
<p>夜間におよぶ長時間保育は、保育園ではなく、もう少し落ちついたところでゆったりと過ごせる環境の方が良いと思うが…場所が変わることへのデメリットもある。</p>
<p>様々な環境の中で、大切にされながらどの子どもも育つのがよいと思う。その点ではなくてはならない場所ではあるし、現に2重保育がなくては生活がなりたないことはわかるが、なるべく家。</p>
<p>はたから見ると、子どもは保育園の中で、友達と楽しくすごしているだけのように見える。が、実は心も体もとても疲れている。1日、8Hだけでも大変だと思うのに、これ以上長時間となると子どもの心も体も負担が大きい。</p>
<p>働く職場の条件整備を国がきちんと行い、就学までの子育てが、できるだけ親の手によって実現できるよう願っています。0～6歳までの子育て期間はまさに人生の基礎作りの時です。親の愛に十分満たされ人間形成できることを望みます。</p>
<p>子どもたちは、長い時間、保育園で頑張っています。早くママにあいたい、我家に帰りたと思っています。どうしても、やむをえず以外は長時間保育は反対です。</p>
<p>保育士の労働が重くなるばかりできつい。</p>
<p>必要な親も多いと思うが、子どもの生活リズムを1番に考えて欲しいと思う。</p>
<p>保護者と子どもが過ごす時間が少なくなってしまうのは問題であると思う。忙しくとも、自分の子どもなのだから、長時間保育というのは、子どもにとって淋しい時間をすごさせてしまう。</p>
<p>夜間は、基本的には反対する。 現在延長保育を実施している中でも、暗い夜道を帰り、全てのリズムが夜型になっている実態。これ以上遅くなるのでは、家族との食卓を囲む時間、コミュニケーションをはかる時間は更になくなるのではないかなと思う。</p>
<p>朝食は軽めにパンやごはん副菜少々程度の家庭が多いと思います。1日のうちの1食、家にいる人（仕事で遅い人は入れなくても）皆で会話をしながらの食事がある方がいいのではないかなと思います。又、入浴と眠るだけという状態になった時、いくら時間ではなく密度という親子の触れ合いの時間でも短すぎるのではないかな？と思うのです。</p>
<p>忙しい保護者が多いことは理解しているが、保育時間があまりにも長いと、子どもは疲れてイライラしたりするので、子どものためにはあまり望ましくないと思う。</p>
<p>保育園が開いているから就労時間をのばすのか。子どもにとってはどうなのか疑問に思うので。本当に必要な仕事の人もいるので、そのような仕事の方はなんとかしたいと思うのだが、子どもの小さいうちはセーブも必要だと思う。</p>
<p>前項にも記入したが生活リズムの乱れがより増すようになると考えられるので反対。夜間までの長時間保育になると、保護者と子どもの接する時間はどうなるのでしょうか！！現在でも8時間保育園にいて、5時すぎに家に帰り、食事、入浴（家事もありますね）をすませて9時～10時に入眠すると、子どもとかかわる時間はどのくらいあるのでしょうか？もし夜遅い分をゆっくり登園にして親子でのかかわりの時間にした場合、日中の保育活動への影響が考えられます。</p>
<p>夜間に必要な方もあると思うが、子どもが小さい時は弊害が大きいと思う。子どもの生活がますます夜型になる。</p>
<p>子どもにとって、ということ考えるとやはり、難しいと思います。ただ、そういう施設がないことで放置される子が増えるのであればそれも問題だと思いますが…。</p>
<p>乳幼児期に夜間、小さな集団とはいえ、集団の中ですぐすということ、どれだけ負担になるかを考えると賛成はできません。夜間には大事な仕事をしている方もたくさんいると思います。その方々へのケアは、保育園という型ではなく、個人の保育ママさんとか、家族の協力とかケアができる方法を考えてほしいと思います。</p>
<p>子どもの発達にとって悪い影響を及ぼすことは多くあっても良い影響を与えることは決してないと思う。家庭事情は様々あると思うが、夜間保育以外の方法を見つけてほしいと思う。</p>
<p>やはり、子どもは親という時がいちばん満たされると思うので、夜間は緊急でない限り、昼間は仕事で会えないのだから、一緒にいる時間を少しでも長く設ける必要があると思う。子ども自身も、一日中、保育園での生活ではストレスも溜まり、疲れてしまうと思う。健全な成長のためにも、夜、家で安心して眠れる時間をきちんと確保する必要もあるので、あまり遅くまで園にいと、あわてて帰って眠るだけになってしまいかねない。</p>
<p>現在ある保育園の状況の中では、施設面等で難しい面が多いので新しい施設等を考えたい。無理すればできると考える思いが（金銭面で）これからの子育てによいのかをしっかりと考えたうえで進めたいものである。</p>
<p>子育て放棄、子どもは物や商品ではない、人格無視、現在の延長保育であっても家になにしに行くの、ねむるだけ。会話は、オムツもとりにかえず登園し忙しそうに置いて行く。これ以上子どもにしわよせはあってはならないので反対です。</p>
<p>朝、ゆっくり起きて、たとえば午後から登園したとしても、夜型の生活リズムにならないだろうか？それは子どもの成長に良くないのではないかな？不安、疑問がたくさんある。</p>
<p>社会が子どもの権利を守りましょう。夜間保育、長時間保育は No！だと言いましょ。いくらでも条件をつければ保育可能です。でも子どもはそれを望んでいません。子育てしなければならぬ人が家に帰れる社会にしていましょ。</p>
<p>夜間におよぶ長時間保育は、子どもの生活リズムや心の問題（寂しさなど）を思うとない方が良くと思いますが、核家庭や母（父）子家庭など家族の形態は様々であり、保護者の仕事の都合上必要となることがあると思う。</p>

<p>コンビニエンスな時代と言われますが、子育てに関してはあてはまらないと思います。夜間まで預けなくてはならない就労を強いている社会に問題があるのですが。</p>
<p>夜間保育は、よくない。夜間親と離せば子ども心は育たない。子どもの育ちを大切にしていこうといわれている今、子育て中の親を夜も働かせないでほしい。夜働かなくても子育て出来る社会にしてほしい。</p>
<p>手助けしてくれる身内の人もなく、仕事上どうにも必要な人にとっては、夜間におよぶ長時間保育を望むのだと思うが、子どもの精神面、情緒や発達を考えたら絶対に反対である。小さい頃から長時間保育を受けた子が、大人になった時には同じように我が子を育てる可能性も多大。増々、子育てのできない社会を作ると思う。家庭状況もあるが子育てする中で、親が何をするのか役割も責任感もなく、親育てということは全く不可能だと思う。</p>
<p>長時間保育は、子どもにとっても、大変疲れる事で睡眠不足などから、生活リズムが崩れたり、ケガをしやすくなってしまったりする原因になると思う。保護者も、子どもといっしょにいる時間が少なくなり、親子の関係が薄くなってしまいう事にも、つながりやすい。</p>
<p>今、男女平等という時代、女性も男性と同じように仕事をしていますが、子どもは、やはり、家庭での時間を充分とり親子関係をしっかり築いていく必要があると思います。確かに、時間だけずっと一緒にいればいいという事ではないですが。</p>
<p>核家族が進み、頼れる人が近くにいない時等、父又は、母が途方にくれるような、事態が生じた場合、子どもを預かり、子どもが不安のないよう、受け止めてあげる事が必要だと思う。</p>
<p>2重保育などでは子どもの心身に負担がかかるので、できれば同じ保育施設のままで保育してあげたい。「長時間保育」自体、子どもにとって、親子関係にとっても避けたいことだと思っています。</p>
<p>子どもは物ではない。いくら仕事が遅くまであるとはいえ、ゆったりとリラックスできる家庭での時間が少ないことは、子どもにとってはいい育ちではない。いつも集団でストレスをかかえていなくてはならない。保護者も子ども時代の我が子と共有する時間がなく、子育てによって得られる。親子のきずなが育たない。社会的に労働時間を短縮すべきである。</p>
<p>仕事の為少子化に危機感を持つのなら、労働体系を変えるべきである。育児ができない為の夜間保育なら、別の方法で親と一緒に育児をするシステムを作った方がよいと思う（育児をしたくない、育児能力がない）。</p>
<p>社会の状況で保護者のたちの勤務状態もわかるが、子どもの健やかな成長、を考えると、これ以上生活リズムが遅くなってしまふことは反対したい。この問題は、保育園だけでなく社会全体で子どもの成長にもっと目を向け、父親も早く帰る社会、子どものために休める社会、制度を利用しやすい社会にしていくことが先に見えます。</p>
<p>他区では、夜の10時まで保育を実施しているところもあるが、保護者にとっては、助かることとは思いますが、長時間預けられている子どもにとっては、どうなのだろうか？いつ、触れ合いやコミュニケーションをとるのだろうか？親のニーズだけを考えた夜間保育に反対である。また、それを受ける保育士に子どもがいた場合、その子ども達は誰が面倒を見てくれるのでしょうか？保育士にも家庭があることを考えて欲しいと思う。</p>
<p>基本的には家庭で子育てをするのが望ましいと思いますが、働いている家庭では、保育園に預けるのはしょうがないと思います。ただ…育児をするのが嫌で長時間預けるのは反対です。</p>
<p>夜に、親子で一緒にいることは、とても大切なことである。親と夕食を食べ、お風呂に入り、寝る。寝ている間も親はそばにいる、という安心感が、子どもの心も育てる。それぞれの生活もあるだろうが、社会も親も子どものことを考えてもらいたい。</p>
<p>情緒面での成長の一番大切な時、また親子関係をつけていくこの時期、将来的にも是非充実させていってほしいと思う。</p>
<p>親の仕事にとってやむをえないという理由があるのは十分理解しながらも、子どもに合わせるか、親に合わせるかで違ってきていると思います。今の日本は子どもを親の都合に合わせる人が多いのですが、子育て中ぐらい子どもに合った生活を選択してほしいと思っています。しかし、そこに夜あずけるところがなく困っている親がいる、子どもの居場所がないのも事実です。やはりその子の居場所を作ることも必要なのでしょう。反対ともいいきれません。</p>
<p>今までずっと書いてきたが生活のリズム、生活の習慣、コミュニケーションづけ、情緒面で考えると、子どもの将来をも考え、しっかりとした。親子関係をつけてあげることが私達の役割のように思えてならない。ただあずければ良いと思う考えは捨て、親子のあり方をアドバイスし、関係をしっかりとつけてもらいたい。これが子どもの将来を充実させるものだと思う。長時間保育を考えるより、しなくても良い社会を考えていった方が良いと思うから。</p>
<p>子どもにとってはかけがえのない親、小さな子どもがいる間は親の就労は時短など認めるようにしてほしい。どんな親でも親なのだから。</p>
<p>最近（遅番、延長番）に入っている。仕事だけでなく、買い物をしてからおむかえにすることが多い。またプールで泳いでいたとか、近所を歩いていたとか、目撃されるという事例あり。本当に仕事の人には仕方がないが、条件をつけるなら、ちゃんと、決めないと、あいまいで「あずける人」が増えるだけ！！ということになりそう。</p>
<p>社会で「子どもを育てている人は、子育てのため、短縮勤務にする」と義務づけ、親の子育て時間を増やしていく、長時間保育で子どもは育たない。そんなことをしていたら、日本をささえる大人は育たない。</p>
<p>まだよくわからないが、1日のうち、あずけられるのは何時間以内などの制限は必要だと思う。</p>
<p>長時間保育を設定してしまうと、親はそこに預ければいいと簡単に考えてしまいそうです。どうしても必要なときは夫婦で協力し合ったりファミリーサポートやシッターを頼んだらいいのではないのでしょうか。</p>
<p>親にとって都合のよい保育園と、子どもにとってよい保育園とはちがうと思う。</p>
<p>基本的に反対です。仕事の種類によりどうしても必要なケースもあるでしょう。しかし、今の保育園の開所時間でもすでに子ども達は疲れています。</p>
<p>一日の保育時間が長すぎると、子どもも疲れて事故・ケガが多くなったり不安定になる子も出てくると思う。</p>

時代のニーズにとって、仕方がないことだとは思っています。行くにあたっては、私たちよりも子どもにとってどうなのかをしっかりと考えたい。
親が子どもと接する時間をつくる努力をしなくなる。子どもと関わるより仕事をしている方が楽という親が利用するように思う。園でゆったりすごさせる努力をするには限界がある（子どもへの負担が大きい）。
仕事によっては仕方がない…という場合もあるが、乳幼児期の子どもの心の発達を考えると、賛成はしがたいです。
日中の大半が園生活、子どもも、色々な面でがまんしているのだから、夜間までの長時間保育は、いかなものか。
区、又は、地域に該当園がある必要が今の現状ではあるかと思う。しかし、子育て中の親の就労状況については、国のもっと大きな施策の中で、考えて、具体的に子育てのできる就労状況へ向けての努力が必要と思われる。
小さな子どもの居るうちはなるべく昼間の仕事を選び、ある程度子どもが成長してから勤務時間を変える事など、それぞれの家庭でお子さん中心に考えられたらいい+理想かなと思います。
子ども中心に考えるのであれば反対です。夜、長時間になればなるほど心配な点が多くなります。責任も重いですし、反対せざるを得ません。
必要な時もあると思う。ただ、他人の中に長時間は考えものであるので工夫は必要と思われる。保育園と言っても他人の集団である。
保護者と関わる時間は子どもに必要、集団ですごすことに無理がある。
昔ながらの生活が子どもにとっても大人にとっても良いことは、わかっているが、現在の社会状況では変化をしなければならぬと思う。それを含めたいで…。
夜間保育をしているからとて、安易に利用しないで欲しい。
働く立場から言えば預かってほしい気持ちはある。しかし、乳児の頃の短い期間まで、そこまでして働かなければならない社会はこのままでいいのか？赤ちゃんがハイハイしたり、つかまり立ちする瞬間を見逃す事を残念だと気付ける世の中になってほしい。きれいごとかも知れないが、このままではいけないと思う！！
できることならば、少しでも園にいる時間を短くして、親子の触れ合い時間を作っていければと思っています。
少しでも子どもと触れ合う、向い合う時間は持った方がいい（一日の間に少しでも）。確かに、長時間保育があれば、保護者も助かるかもしれませんが。でも、早朝保育→延長保育（遅番含）で子どもたちも一週間疲れています。これ以上保育時間を延ばすことは、子どもたちにとって良い事であるとは思えません。
日々、本当に悩んでいます。就労からも必要なのは十分わかっています。保育時間延長が手助けになるのなら実施もやむをえないと思います。しかし、子どもの生活、心の育ちからは反対です。せめて、乳児期は親と過ごす時間を保障したい。子育てがスタートして親も育つ数年、親としての喜び、楽しさを味わう時間を持つために、子どもが親を求める数年は残業なしなど、企業に対し国がもっと働きかけてほしいと思います。少子化ゆえ、子育て、家族を持つ意味を知らせ、子どもと親の負担をなくしたいと思っています。長時間保育を実施するなら、子どもの生活を安定させるため環境を整えたいです。安全（セキュリティ）を考え、充実した職員体制を欠くことは出来ません。
勤務上・必要にせまられている方がいると知っているが→子育てしている母（または父）は夜、きちんと子ども向きあつてすごせるよう社会で保障していくべきだと思う。
就労の形態や家庭の事情により、必要なケースもあるかもしれないが、夜間まで、子どもが家庭以外の場で過ごすのは、あまりにもかわいそう。時代のニーズに沿ってないと、言われるかもしれないが、子どもの生活基盤が、家庭であることには、今も昔も、変わらないと思う。
子どもに負担がかかると思う。保育園が変わるのではなく、社会が育児をしている人に優しくなる（例えば、就労時間の短縮など）ようにしていく必要があると思う。
賛成、反対と言えない。必要としている人にとっては出来るだけ子どもに負担が少ないような環境を整えていって欲しい。又、働き方からみると子育て中は長時間にならない施策を進めて欲しい。
保育園は子ども達にとって、やはり家庭の外の場で、他児と共に集団生活をする場のようなものです。好きな先生のいる安心できる場ではあっても、集団生活でその子のリズムのみに合わせる訳にはいかなかったり、他の子らとの関わりの中でぶつかり合ったりする中で、子ども達なりにつかわれているようです。月～土と8:45～17:30くらいで登園を続けている子は、疲れからか体調を崩したり、機嫌を崩す様子が見られます。「夜間におよぶ長時間保育」が続くことは、子ども達にとって負担が大きいに感じます。生活リズムにも無理が出てくるかもしれません。安易に取り入れるべきではないと思います。必要があり、取り入れるなら、子どもの負担をできるだけ減らせるよう、保育時間に制限を設けたり、余裕をもってその子のリズムを受け入れられるような体制を工夫する必要があると思います。
子どもの成長発達に良いとは思えない。家庭の役割りを根本的に揺るがすことにつながる。
必要に応じて、長時間保育は、やむをえない事もあるかもしれないが、小さい時にしっかりと親子関係をつくる事も大事な事なので、少しでも時間がつくれればいいと思う。

#### (11)【設問(19)】 リフレッシュ等を理由とした一時的な保育に対する意見

親にとってもリフレッシュの時間は必要。通院や自分のための時間が持てることはよい。現在は秘密にして連絡がとれないことがあるので、条件付でよくした方がいい。
きちんと連絡が取れる、迎える時間を守るという事が守られれば、開所時間内であればいいと思う。心の病が増えている現状では、親も子どもと離れ、自分の時間をつくる事の必要性を否定できないと思う。

子育ての放棄。親子の愛情が薄れていくような気がする。
通勤時間外保育があると、親の自由な時間がもっと欲しいと、どんどんエスカレートしていく親がいるのでは？。
先の長時間保育の意見と矛盾するかもしれないが、いつもいつもというわけでなければ、「午前中だけ」という形でも、息を抜ける時間として預っても良いと思う。「一緒に過ごして当たり前」と思って欲しいが、それでは親自身が溜め込んでパンクしてしまう事もあると思うので。
子育て支援と考えていき、保護者にもリフレッシュしてもらい、子どもにも笑顔で接して欲しいと思う。
親にとっては便利で都合のいいシステムになるが、子どもの側から見ればどのようにうつるだろうか？。子どもは選べない現実の中で今以上に家庭から離れてしまうことに危惧する。
都会では特に身内が誰もいない中で育児、マスコミにふりまわされる状況もある中で、子育てに行き詰ったとき、理由を聞かず預けられる場所があることで、子どもに優しくなれるのなら、虐待防止のためにもそういう場所があってもいいのでは。
保護者がリフレッシュをする時間を持つことで、子どもに対してゆったりした気持ちで接することが出来るならば、いいと思う。
自由な時間を親が確保したい事は理解できるが、なにがなんでもどうぞとは言えない。親は保育料を支払っているから、保育するのは当たり前と思っていると思うが、どこかで一線を引かないといけないと思う。そこが難しい。
職場の中でストレスを抱え、ギリギリの生活を送っている保護者も多い事から、母親自身のことを思えば、少しゆとりの時間を、と思うこともあるが、子どもの事を思うと、少しの時間でも子どもに向ってほしい。全員がそうとは思わないが、預ける事に慣れると、子どもと一緒にいないことが普通になり、子どもと一緒に夕食を作る、買物をする事すら、苦痛になってしまう母親が多いことも否めない。保育現場が手を差し伸べすぎると、手抜きをする傾向にある。保護者のことも考えていかなければいけない。
親のリフレッシュのための時間も大切だが、子どもがリフレッシュする時間が大事にされていない家庭が多い。父母が協力し合ってそういう事も含めて考えていくべきで、保育園はやらない方がよい。
忙しい中で自由な時間が必要なことも十分理解している。現在でも就労しているが、週3～4日勤務なのに月～土まで登園している方もいるので、一概に反対とは言えない。
子育て、仕事に行き詰った時には、自由な時間は必要だと思うが、時間を無制限にするのではなく、何時間までと決めればよいのではないかなと思う。
保育園が母親との意思疎通をよくとり、その中で母子の関係がベストの状態であるために、時には、勤務外保育が必要なこともあるかもしれない。保育士が親身に話を聞き、母と共に子育てをするという姿勢でいることで、母の不安やストレスを減らし、虐待などの軽減にもつながるのではないかな。
ベビーシッターさんに頼む方がよいのではないのでしょうか。仕事のために預けている方との、ズレが生じてしまうのでは。
安易になりがちである。子どもを主体にせず、親のエゴの部分強く感じることもある。夫婦家族で補えることも多いと感じる。
親も時々息抜きをすることで、子どもに対する気持ちも、また新たになごやかにできるのであれば、それも大切だと思います。
保護者の方もお休みが欲しいのは、とても理解できるので、仕事が休みだからといって、必ずしも保育園を休ませなくても良いと思う。ただ、早番や遅番、延長番などの時間には、入れずに送り迎えをしたり、いつもより保育時間を短くし、普段の日より子どもと一緒に過ごす時間を確保できるようにして欲しいと思う。
自分の時間を持つことは良いことだが、それを良かれと預ければなしは、してほしくない。時には、その時間、きちんと子どもと向き合って接する時間にしてほしい。
仕事、子育て以外にリフレッシュする時間も保護者にとって必要だとは思いますが、それが過度に増えることになってしまうと良くありません。条件、申請の仕方などをしっかり整備できれば、行って良いと思います。
今、現在でも話をきいて引き受けているが、リフレッシュなどは、行き先にもっと気軽に預ける場が出来るといいのではと思う。
なかなか一人きりになれる時間もないと思うので、保護者もリフレッシュ（ゆとり）して、子どもと向き合えれば。時間については、普段より少々早目にきてもらってもよいとは思いますが。
保護者の価値観なのでは…。お金を払っているのだからと言われてしまえば、サービス業と言われてしまえば…。
大変でしょうが、子どもとの時間を少しでも多くとってほしいと思います。成長の瞬間を他人に一番に見せてしまう事が、ほとんどでは、悲しい事ではないでしょうか？
親も時々、息抜きしたい事もあると思う。いつもでは困るが。
保育園に預けられているからこそ、できることであり、入っていない家庭の方が、どれだけ子どもと離れる時間を持ちたいかなと思うので、不公平であると思う。
子どもが急病、怪我などで保護者に連絡をとったときに、会社になかったり、すでに、やめていたなどという例もあり、裏切られたような気分になったことがある。お互いの信頼関係が崩れてしまう。もし、大きな事故だったらと思うと無責任ではないか？
上記のことをした上で、子ども達との関係が、よりよいものになれば、私達の苦労もむくわれると思う。

保育に欠けるという前提を無くしても良いと思う。そう保護者が望んでいる時点で精神的に保育に欠けていると思われるので、虐待や保育放棄につなげない為にも認める事も必要だと思う。
仕事優先ながらも子どもが小さいうちは、もっと親としての責任を持ち、頑張って約束の時間までに迎えにいと努力してほしい。社会全体で考えていきたいものである。
リフレッシュ保育にのみ賛成である。
その為に、長い時間になってしまわないように、子どももゆっくりと家で過ごしたい気持ちもあると思う。しかし、今コーヒー一杯も送迎のときは、難しい。その中で、ホッとする時間もたまには、良いと思う。それが場所がかわり、むかえにくる時間がわかれば・・・。
ニーズに合わせたサービスの提供は必要。
都合の良いことも増えてくるだろうし、親子のコミュニケーションが減少してくると思う。
親も大変だとは思いますが、小さいうちの関わりが成長してからの関係に影響すると思う。
核家族が多いと保護者が仕事をしていなくても、行き詰る事もあると思うので、賛成でも反対でもない。
これを夜間まで、引き伸ばすことは、親の権利ばかり認め、意識の低下につながる。
就労以外で、保育園に預けることは、反対ではありませんが、そのような場合、保護者の方にも、預ける時間、迎えの時間など、考慮していただきたいと思います。
世間一般にも、子育てについて悩む主婦の人たちのために子育て支援が求められている。現在、仕事を持つ親とて同様なものはあると思うので、時には必要があると感じる。
子育て等のストレスにより気持ちがいっぱいになったときには、子どもと向き合うより、ゆとりをもって優しい気持ちになれることが大事。状況によっては必要と考える。
保護者のストレスがそのまま子育てに反映する。良い精神状態で楽しく子育てができるよう援助することも大切である。
保育園児はかなりの長時間にわたり保育を受けている。仕事とはいえ、子どもから離れている時間が長いので、それ以上のリフレッシュなどは子どもへの負担が大きい。せめて家族の中での協力を求めてほしい。子どもは親を選べないわけですので、子育て中の数年間はしっかり子どもと向き合ってもらいたい。子どもも親を理解するより不信感をもつのではと思う。
子どもが望んでいるのか？必要によっては。
基本的には反対であるが、今の世の情勢では仕方ないのかな…と感じる。自分も子育て真っ最中、保育士としては就労以外は預けていないが（休み中仕事でも子どもは家で遊ばせている）、今の保護者は休みでも保育士に伝えない傾向がある。連絡先だけはきちんとしてくださいと伝える保育園が増えていると思う。
自由時間の確保にも様々な事情があるが、夫や祖父母との協力関係なども作りあげていけるようアドバイスしたりすることもある。
幼稚園の活用という手もある。
本来就労+通勤時間でのあずかりと思える。しかし、育児力の低下により子が帰ったときにいい環境で迎えられ、接してもらえないと思い、子育て支援という言葉でついリフレッシュもあずかっているが、子どもたちにとってはマイナスと思う。息抜きの時間を他人に託すようでは本来親と思えないが、割り切ってあずかっている。
難しい問題です。今でもあずけている親もいるのですから。
どこまでを自由な時間と考えていくのが疑問に思います。仕事上でのスキルアップにおける時間、一時の休息の時間、兄弟等の学校行事等はやむをえないと思いますが、子どもたちの生活とは別の、保護者の余暇、趣味、休息等での利用にもなりかねないのでは、と考えます。一度自由な時間を得たことにより、子どもとのコミュニケーションの時間が減り、自由な時間が助長されるのではと懸念しています。
だんだん親子でいる時間が少なくなる。問題にならないか心配もあり。小さいときだからこそ親子の時間が大事。子どもがいないほうがよい場所（病院・勉強等）ならよいが。
あくまでも子どもの健全な生活を願い、基本は子どもに目を向けるべきである。
保護者の考え方、また内容にもよると思う。
はっきりと賛否はいえないが、園児でない保護者も自由の時間確保を望む場合が多くあると思い、区民からの要望がより出てくると思う。
ただし、保育園への入園条件が「親の就労」である限り、保育園児でない家庭との不公平を感じる。公立保育園が増え、どの家庭も子どもも通える保育園であるなら、その家庭ごとの保育時間であずけてもよいと思う。むしろその方が子育てのストレスや虐待なども減って、社会全体での子育てという理想に近づけるのではないかと思う。
核家族も増え、地域との交流も少なくなっている現在においては、子育てをする保護者にもリフレッシュする時間は大切であると思う。
自由な時間を確保するための一時預かりは、他サービスでも受けられるのでそちらを利用されたら良いかと思う。保育園は保育園としての主旨、目的を失わず、受け入れる条件を整理するべきだと思う。
子どもと一緒にのんびり過ごせる時間が、保護者の考える「自由な時間」になっていけばうれしく思う。
保護者が子どもと一緒に過ごすことが楽しくなるような子育てができる。

状況によりけりであるが、そんなことも大切だと思う。
保護者の方の中には、精神的に不安定になっている方もいて、そんな場合には十分な配慮が必要だと思います。ですが、保育園にいる0～6歳までの期間は、本当に短く、かけがえのないものであるということを何とか伝えていき、大事にしてほしいと思います。
みなさんお忙しい方が多い中、子どもとの関わる時間を大切にしたいので、反対します。もっと、いやもう少し子どもとのんびりする時間を大事にして欲しいです。あっという間に大きくなってしまいますから。
安易に預けすぎ。
仕事以外は、家庭における親としての立場で自覚して子どもに関わる時間の中で、いろいろやりくりすべき。
たまには、息抜きも必要とは思いますが、今は「勤務時間外保育」も多くなっています。保育園にいるほうが子どもにもいいと言うが、社会のマナーやルールを教えるいい機会をなくしている。
それだけでなく、親子の関わりの時間が短いのであるから…。
保護者に余裕やゆとりが出てくることは、子どもにとってプラスになると思う。
虐待につながるのでしたら、考える必要ありかと思う。
リフレッシュも必要だと思うのだが、その事だけとりあげられると子育てを他人まかせになりがちになると思う。
保育園以外で受け入れる場がないのであれば、受け入れも可能だと思います。ただし、その場合は、あまり長時間にならないのが、良いと思います。
お父さん、お母さんも少し楽になる時間や一人の時間があってもたまには、いいと思う。そうでなく、頑張りすぎる人にかぎって、心の病などになる人が多いと思うので。
子育てが保育園に任せきりになってしまわないようにしたい。
保護者にとっても、自由な時間というものには必要だと思うが、このシステムが導入された場合、子どもたちにとって大きく影響してしまうのではないかと心配もある。日頃、長時間保育園にいる子どもたちにとって、保護者と過ごせる時間というのはとても貴重だと思う。
これ以上、広げることが、どうなのか。子どもが親を必要とする小さい年齢だからこそ、親子での関わる時間を大切にしたいと思う。
保護者の生活のゆとりや、気持ちの安定が直接、子どもの行動や情緒に反映されることを思うと、それもいた仕方ないことだと思います。しかし、例えば休みの日は遅目の登園や早目のお迎えなど、子どもと係わる時間も取ってあげてほしいと思います。現状ですが、休みの日に何も伝えず、いつも通り預け“実はお休みだった”と、わかると、やはり心情的に「え？」とってしまいます。内緒やウソよりも、きちんと言ってくれた方がすっきり受け入れられます。
家族でやりくりして時間をつくるべき。又、一緒に連れていき、色んな経験を一緒にしていくべきであると思う。なぜなら、子は親をみて育つので、きちんとみせていくべきと思う。
保護者の気持ちも理解できるが、子どもにとっては、親と過ごす大切な時間をうばわれるコトになる。でも、そのコトで、親がより、子どもと向き合う気持ちがでるのなら、良い関係が築けると思う。
子どもを育てる時、自分の時間がないのは当然のこと。一人になりたい、少しでいいから喫茶店に入りたいと思うが、その大変な時期をのりこえるから、子どもの成長はさらに、よろこびになると思う。小さいうちに、手がかかるのは、あたりまえ。大人もがまんをしながら一人前の親になると思う。何でもかんでも受け入れていくことが、子育て支援とはいえないと思う。
親が体調不良の場合のみは保育が必要と考える。大変だけれど子どもと過ごす時間をできるだけ多くとる意識は親の責任である。努力する必要がある。自由時間は夫婦（家族間）でやりくりしてとり合うべきである。親との時間は子どもにとっても世界が広がるし、がまんも知るというメリットがある。
保護者の自由な時間を保障することは大切だと思う。ただ保育園にあずけるということでは、最低限の約束を守ることは必要だと思う。例えば、早、遅番には入らないなど。
子どもと共の生活がエンジョイできるような気持ちづくりもしていきたい。又、子どもがいながらの生活の工夫の大切さも知らせていきたい。必要な場合は十分に受け入れていきたい。
育児のストレスで、子どもとの時間がつらいものになったり、虐待へとつながってしまうよりは、子どもと離れて自分の自由な時間を持ち、リフレッシュして、良い心理状態で子どもと向き合えるならば、保護者が少しの時間子どもと離れて自分の自由な時間を持つことは賛成です。
保育園に入園している以外の子育てをしている母親にも、同様のケアをしてあげられるのならば、自由な時間を確保してあげたい。どの母親も核家族で、子どもを見てもらえず、自由な時間はないと思う。
保育所の主目的は就労を保障する場である。親の都合を受け入れてしまっは、託児所と変わらない。受け入れてしまえば、限度がなくなり、自由すぎになってしまう。それなりに、条件をきちんと決める必要がある。
現在でも保護者の方が休みでも預かっていると思う。休みである事をきちんと伝え、早番、遅番に入らない時間帯であれば時には良いと思う。
保護者が自分の時間を持ち、ゆとりをもって子育てをする事は、子どもにとっても良い環境となりますが、子どもと保護者の時間が減る、子どもの負担が増えるという問題もできます。1か月に3回など、子どもに負担がかからない様な工夫がない限り、反対です。

親子で共通の時間を大切にしたい。後では戻って来ない時間なのだから、大人（親）もがまんも必要とおもう。保育園では得られない経験もたくさんあることを知らせて欲しい。そんな中から保護者の成長と愛情の深まりが育っていくのではないかとおもえます。
仕事に加え、子育ては本当に大変な毎日だと思いますが、基本的には、家庭での子育てと考えて欲しい。不可能ではないが、それが頻繁になることを懸念する。
就労以外の目的で保育を行うことが、保護者の子育てする力をうばってしまう結果になることを危惧しています。
あくまでも保育は保護者の就労のためと考えますが、社会情勢の変化により、就労以外に保育する場合も少なくありません。保育園としても柔軟な対応を取り入れています。保護者の自由な時間の保育は基本的に望ましいとは思いません。やはり、自由時間のために預けるのであれば、その時間は子どもたちと接し、家庭保育することが望ましいと考えます。そのため賛成はし兼ねます。
就労している保護者にとって仕事と育児の両立であり、両方から離れてホッとできる時間を作ることで新たな気持ちで子育てに望むことができると思うので、その時間を保障してあげることも子育て支援と考えている。しかし、子どもにとっては保護者と過ごす時間は、保育園でフォローできることばかりではなく、親子で過ごすことで学ぶこともあることや、安心することも伝え、保護者にとって気持ちの余裕がある時には、一緒に過ごすことも大切にしてほしいことは伝える必要があると考えている。
現に、職場を休む日でも、保育をうけている。居場所、レラック先だけはきちんと伝えていただき、クラス別保育の時間内に用事がおわり次募むかえていただくようお願いをしている。通常、時間的余裕のない保護者には、その位のゆとりをさしあげてほしいと思う。
実際に子育てをしていて母親に負担が多く、息抜きしたい場合はあると思う。それにより子どもとよい関係に戻れるならいいと思う。
保護者にもリフレッシュは必要だと思うが、通常日中働いていて子どもと接する時間が少ないので、やはり親と一緒にいることが大切だと思う。
子育て中は、子ども中心の生活を守ってあげるべきである。子どもはいつも親の都合に合わせていなければならない。
毎日、子育てに仕事にと追われている母親に、リフレッシュする時間は必要。病院や美容院等子連れでは行けない時、いつも通っている保育園で預ってくれるととても助かるし、安心して出掛けられる。そういう時は、早番、遅番に入らないようにしてもらおう。
自由な時間の自由の内容がわかりません。体調が悪い場合も自由の枠の中にはいるのでしたら、条件付きで受けられると思います。
今、現在でも、自由時間を確保している親も多いので必要と感じない。
家庭で子ども一人を見てると、とてもストレスがたまると思う。親にストレスがたまると、色々な面で悪い方に動く。親も子ども気持ちよく過ごせるのであれば、保育園で子どもは過ごす方が良く考える。
出産までの過し方の価値観が、出産後の子育ての価値観の多様性を表わしている。子どもと親の相互作用、保護者と園の信頼関係により、考えさせられることが多い。
子育てが一段落すれば、どういう型であれ、自分にあった自由な時間は、作ることができるはず。親子でコミュニケーションをとり、家族で楽しむ方法を考えてほしい。
できることならば親と一緒にいることが子どもにとっては一番良いことだと思う。だから基本的には反対である。けれどもそれを苦痛に感じて子どもを傷つけてしまう親がいるという現実を見ると、子どもを一番に考えた時にどちらが良いとも言えない。
子どもはどこへ連れて行って欲しくなくても親のそばにいたことが幸せだと思う反面、子どもから離れたという精神状態で一緒にいることは子どもが傷つくこともある。ケースバイケースで受け入れるということで良いのではないかと。
家庭にいる母親、又、保育園に預けている母親もリフレッシュしたい時がある。今は祖父母宅が遠かったりすると、甘える場所もないので、保育園に預けてリフレッシュしたい気持ちもわかるが現状のままではいっぱいいっぱいであるので、保育士の増員を望む。
精神的にダメージを受けている保護者の場合は別だが、そうでない限り、一生の中のこの大切な期間（保育園時代）、必要以上親子を引き離すことはメリットよりもデメリットの方が大きいと思う。時代の流れと云えど、ただ受け入れるだけがベストとは思えない。
共働きだけでなく、もっとひらけた保育園作りが望まれている以上、抵抗するには限界がある。実際、早めに自宅に帰ってきていてもお迎えが遅いという友人もいるので、対応は難しい。
私も子どもを保育園に預けながら働き続けてきましたが、仕事以外は出来るだけ一緒にすごしたい。また過ごすことが子育ての育ちに必要と確信、入学まではやりたいこともがまんして仕事以外は子どもと共にどのようなこともこなして来ました。そうすることで絆も深まり、自分自身も器用な母親として成長しました。子どもがいるとできないことは6歳になるまでがまんできませんか？
苦楽を子どもと共に共感すべき。
幼児でしたら幼稚園の通所時間を基準に保育は、良いと思う。すでに、平日はそのような受け入れをしています。
本当に必要な人が利用できていない場合もある。行政・保育園が、きちんと見分けられて、実施できるのかが疑問。
保護者のリフレッシュタイムというのにも時には必要だとは思いますが、基本的には、保育園の役割というところを理解してもらいたい。保護者の自由な時間は、まずは夫婦間でお互い協力し合うことが大切なのではないでしょうか？

<p>毎日、毎週ではなく、時には子どもと一緒にゆっくりと過ごすという日もあるといいな、とは思いますが。気分転換をして、また子どもとゆとりをもった気持ちで接することが出来る…ということもあるとも思います。</p>
<p>これを始めたらきりが無い。仕事じゃなくても平気で預けるようになってしまう。現在も仕事が休みで子どもを連れてきた場合、9:00~16:30までは預かっているの、それで十分だと思う。保育園がベビーホテル化してしまう恐れがある。</p>
<p>現在でも行っている。それで心のゆとりができ、子どもに余裕をもって関わることができればいいかなと思います。</p>
<p>たまにはリフレッシュのための時間は必要だと思うが、マナーを守らない保護者も多く、ex(お迎え時間をしばらく過ぎても来ず、実は家に帰って食事の仕度をしていた)、時間が守られる心配がある。子どもに負担のない時間で9:00-12:00、遅くとも16:00までなら現在でも連絡先を知らせていただき保育をしている。</p>
<p>子どもも集団生活をしていることを理解してほしい。今、やらなくても(趣味など)子どもが成長すればいくらかでも時間があることを知り、今は子どもと関わることを重視してほしい。だれが産み育てなければいけないかを考えてほしい。ここで働いている時間だけを手助けするのが保育園であることを思い出してほしい。リラックス、ストレス解消をする為に子どもにストレスを与えないでほしい。</p>
<p>本来的には親が休みの時は子どもとゆっくりすごして欲しいが、近所等に知り合いがない、又普段めいっばいの保護者は、理由をきちんと伝えてもらえれば、時間を区切って預かることも必要かと感じる。</p>
<p>保護者の情緒の安定という意味ではいいのかもしれないが本来の目的はやはり就労、病気の為の保育園ではないでしょうか。ただこの問題も現在はとても難しいと思います。</p>
<p>状況により賛成だが、“条件”として提示することは難しいと思う。通院等のやむを得ない用事のある場合、また心の病の保護者については保育園で預かるべきだと思う。保護者の“自由な時間”の為ならば、反対である。</p>
<p>親も日々仕事と子育ての毎日を過ごしているの、たまに息抜きをしてリフレッシュし、気持ちを新たにすれば、子どもにも良い影響を与えられるのではないかなと思う。</p>
<p>親のストレス解消のために必要なかもしれないが、そのために、施設に子どもがいる時間の多くなる事に賛成はできない(日常も施設に預けているのだから)これは大人の都合だけで子育てしているとしか思えない。ストレス解消を他のかたちで考えられないか。</p>
<p>夏休みなど親だけがゆっくりと休養やストレス解消をしている場合があるが、子どもと一緒に楽しめるようになって欲しいと思う。</p>
<p>現状でも場合によっては、保育しています。</p>
<p>子どもが見守る程度で済む位、手がかからなくなるまでは少しでも多くの時間を一緒に過ごしてほしいと思う。</p>
<p>大人にも都合はあります。その際は連絡先等ははっきりと伝えていただきたいです。自由な時間の確保…という点ではどちらとも言えません。日頃離れている時間が長いのですから、都合のつく時は一緒に過ごせることが望ましいと思います。保育園の子は全体的に日常的な経験が少なくなりがち。用事に連れていくのも経験です。</p>
<p>保育園は現在欠員状況にあり、人的保障がそこまでいっていない。しかし、保護者の仕事で休みでも保育園であずかっています。保護者が休みでも休みですとお知らせ下さなければ、わかりません。たまたま熱が出て職場に連絡を入れると今日は休みですといわれる時もありますが、今はケイタイの連絡を望む方も多いため、私たちは休みか出勤かわかりません。そんなことを考えて保育もしてはられませんし日頃からの信頼関係でしょう、ほとんどあずかっています。</p>
<p>兄弟の子の保護者会や、母の受診、育休中等、今、現在も勤務時間外でも保育を受けていると思う。連絡先が携帯で実質の勤務状況もよく分からない。保護者の自由な時間を重視するばかりに、子どもの気持ちが尊重されない。保育士の立場からは、子どもの育ちと立場を守りたい。子どもと一緒に過ごす時間が、ストレスになってしまうこと事体が問題であり、なぜ、周りにばかり助けを求めるのか疑問。子どもと一緒に楽しむ方法をみつけ、親子で楽しめることが子どもにとっても必要。</p>
<p>親に、余裕がなければ子どもにも安定した気持ちで接しられないと思うので、必要だとは思いますが、子どもにとっても、親とのんびり過ごす時間も必要だと思う。</p>
<p>自由な時間がほしい気持ちもわかりますが、大人が自由な時間はその子どもにとっては休まる時間ではありません。園も「安心して生活できる場所」になってると思いますが、「家」ではありません。子どもも休まる場所で休息が必要だと思います。</p>
<p>現在、育休中や保護者会、保育参観の保育など、受けているし、実際の勤務時間の実態を全て把握することは不可能なので、保護者が仕事だと言えば受けざるを得ない。しかし現実はお迎え時に買い物をした袋をもってたり手ぶらで迎えに来たりしている。結果的に勤務時間以外も受けている。本来は子どもとすごして子育てを楽しんでほしい。</p>
<p>保育園児の保護者は子どもと共に何かをする時間が少ないと思います。幼稚園児の保護者は(専業主婦を含む)色んな工夫をしながら子どもと一緒に、生活しています。子育て期間はそんなに長い時期ではありません。その間、それなりの生活や楽しみ方、工夫の仕方があるのではないのでしょうか。</p>
<p>幼児になると、買い物、銀行など社会生活を知る上の経験をしてほしい。職員の人員配置が充分されず、給食も欠席を見込んだ(70%)金額しか出ていない所に問題がある(欠員状態である)。</p>
<p>現在もその状態はある。日々生活におわれている保護者を見ると、仕事でない日にリフレッシュすることも必要かと思うが、子ども達も同じ思いであることを忘れてほしくないです。そのことを理解した上で常識のある範囲での保育は可であると思うが、それぞれ思いは違うので難しい。</p>
<p>兄弟の保護者会、通院、体調不良などの場合は保育を受けているが、そのような理由以外での預け保育はできれば、避けてもらいたい。普段、忙しく過ごし自由時間が欲しい気持ちはわかるが、それは子どもも同じだと思う。お休みの時こそ、一緒に過ごし、親子の関係を深めてもらいたいと思う。</p>

子どもと接する時間が短くなると親子関係が益々希薄になる為。
子どもが小学生になるまでは、ある程度、自分の楽しみはがまんすべき。どうしても、というのなら、家族で協力しあうようにすべきだ。勤務時間外保育、を正当化するとキリがない。子育ての楽しさを感じないのか、と怒りさえ感じる。
状況によっては受けなくてはいけない時もあるが、大事なこの時期、家族、親子のコミュニケーションをしっかりと作りあげてほしい。いそがしい時代だからこそ、こうした時間を大事にしてほしい。
現在の公立保育園の役割は福祉であり、保育に欠けるという条件で入園しています。私は、保育時間は勤務時間+通勤時間と考えています。親が就労していなければ、家で一緒に過ごす（特に乳児期）大切さがあると思います。まして毎日保育園に通っている子どもにとっては、一緒にいられる時間は一緒にいてほしいと思っています。しかし親にとってやむをえない事情がある場合は、その時間については保育可能。今でもそれは行われています。
保育園でやってあげることが簡単だと思うが、家族で話し合い（夫婦間あるいは祖父母をまき込み）家族のコミュニケーションがしっかりできることを基盤にお互い考え合う家庭づくりが必要では。それから、大変と思う状況についてはこちらから時間をつくるようアドバイスしたりすることもある（約束の時間以外で）。
正直よくわかりません。上記のようなことが認められたら、仕事なのでちゃんと、おあずかりするだけです。
子育てばなれになる、子育て時間を保障する社会のシステム作りが大切である。
現在でも、休務の時に、子どもをあずけようとする親が多い。就労以外も認めてしまったら、親はどんどん自分の子どもをみようとしなくなってしまう。育てる力が育たないのでは。
自由な時間は夫婦で協力しあって作れば良いと思います。
本来は、休みはゆっくり子どもと過ごして欲しいが今は難しくなってきた。
保育園に入所している子どもにとって、それがマイナスにならないのなら、時代の流れもあり、いたしかたないと思う。しかし現行の保育園児にとって、これを行う事でマイナスにならない事が、絶対条件と考える。「きちんと違う場所や部屋が確保されること」→同じ部屋に、不安定な出入の子が常時入ると保育が乱れる。「現在の保育の人手に、負担がかからないこと」→きちんとした人が別に配置される。
今はどんな状況であれ、お子さんをお預かりしますが、早く迎えに来れる時は、子どもとの時間を大切にしてほしいです。
子どもに気持ちが悪くなくて、自分の楽のため、リフレッシュなどを理由にあたりまえに連れてくる親は、増えてきている。子どもにその反動があらかに出ていた時は伝えていっているが、それを問題と感じない人が多い。
乳幼児期、親と子どもと一緒に過ごせる、少ない時間です。自分の時間にも子どもと一緒に、大変でも、親子の心が通う時間がある事を学ぶ必要があるのでは、いつも子どもなしで！！という考えは賛成できない。
保護者の自由な時間は、各家庭で話し合っ、時間のやりくりをし合っ作って行くべきだと思う。もう少し子どもの立場になって考えていくべきだと思う。
保護者がリフレッシュをする時間も必要だと思う。しかし、休みでも預けることが当たり前になることは、不安。
基本的には、親子での生活がベースなので、親御さんの自由な時間を保育園で保障する事には、疑問あり。祖父母、地域の自助力など他の方法ですべき。
保護者の方のモラルが問われると思います。必要な方は必要ですが、そうでない場合、子どもを基本に考えてくれれば…。
子どもが小さうちは保護者は自由な時間はなくても良いと思います。いずれ子どもが大きくなれば自由な時間はできるのですから。
時代の変化で必要なのかと思います。保護者の「心の負担」が少しでも軽くなり、リフレッシュして子どもと向き合えるのであればいいとは思いますが。
あずける事が当たり前になっている。大人の時間だけが確保されるのではなく、子どもの時間も確保される事が必要である。
子どもを育てている家庭の社会的保障を園だけが担うものでなく、どう子どもを家庭の中で育てていくか。社会の制度をヨーロッパなみに改善していく事が望ましい。短時間労働制なども考えていくべきだと思う。
保育園である必要はない、状況にあわせて、地域や民間を活用すべきだと思う（すでに様々な施設がある）。
子どもにとって一番安心できる、保護者といることがなによりだと思うが、保護者がつかれきっている場合等も考えられるので…。
子育ては大変であるが楽しさもある。子どもにとって親とは、家庭とは、考えてしまう。勤務時間外保育を認めつつある現在、子どもは物あつかいにされそう。
保護者のゆとりの時間も必要とは思いますが、子どもとむきあう時間が少なくなり、増々、不安定な子どもが増えると思う。家族で協力し合えるところは、家族で考えていくべきだと思う。どうしても近隣に助けがなければやむをえないが、園での子どもの生活も長くなったりで子どもにとっては負担になるのではないかと。
人間が営む以上杓子定規にいかないこともある。情状酌量の余地があってもいいのでは。そのかわり、保護者にも同じことを言いたい。相互協力、配慮しあえることができれば。
気持ちは本当によくわかります。でも子どもを預けてまで、自由な時間を確保するのは良心が傷みます。
保護者もリフレッシュする時間は必要だと思うので反対はしませんが、休日なのに、いつもと同じ保育時間というのはどうかだと思います。本来なら親が休みなら子も休むべきだとは思いますが。

現在も仕事は休みだけだということでも登園しています。親にもリフレッシュが必要。普段できない用事もあるでしょう。しかし、全てに賛成とは思いません。大人も子どもも日々疲れています。子どもにもリフレッシュが必要とは思いませんか。お父さん、お母さんと一緒にいたいという子どもの気持ちも大事にしてください。
就労以外の目的であずける事で保護者がリフレッシュできたり気持ちにゆとりができ、それが子育てに還元されるなら良いと思う。ただしそのためには人の手（保育士の数）を確保しなければいけないと思う。
父母の心の安定を保障していくことも、保育園の大きな役割。育児に行きづまって、良くない影響が子どもに向かってしまうよりは、父母にきちんとリフレッシュしてもらってから、子どもと向きあってもらう方が良い。
今の親はまず自分が幸せでないと子どもに目をむけられない人が多い気がする。ちょっとした息抜きで子どもに優しく接することができるなら、時間外も仕方ない気もする。現に、仕事が休みでも内緒であずけていく人はたくさんいるが、早番～遅番はひどい気がする。時間は少し考えてほしい。
現在でも保護者が休み（休日、育児休業中）であっても保育園でお預かりしています。
保護者が仕事ではないことなどを敏感に感じとって、不安定な様子を見せる子のことが話題にあがることがあります。保護者の方のリフレッシュのためにも、「勤務時間外保育」についてはあってよいと思いますが、お迎えの時間があまり遅くならないようにするなどの配慮はしていただけると、子どもにとっても受け入れやすいと思います。
親としてすべき事は何か、自分の時間も大切だが子どもにとってどうかを考えて欲しい。

## (12)【設問(20)】 保育園で緊急一時保育や一時保育を実施することの利点・問題点

現在の保育園の保育士の人員では無理。
緊急な保育を有する保護者にとっては、低料金で子どもを預ってもらえるのは利点だと思います。しかし、保育を有する環境が十分なのかという問題点はあると思います。
公園デビューの苦手な保護者やコミュニケーションが苦手な家での中にもってしまいがちな家庭も多いのではないだろうか。私も自分の子どもを育児中、24時間子どもと向き合っていたら理由もわからずイライラしたり、不安になる事があり、保健所でやっていた育児学級や児童館に足を運んだものだ。しかしもっと身近に遊びや話し合いの場が提供できれば、親子共々気分転換でき、自分以外の子どもと触れる事で、いろいろな事を感じていく機会になると考えられる。しかしそのためには、現状の保育体制、環境での受け入れは難しく、在園児の保育で日々追われていて、余裕がない。
緊急に保育を必要としている親にとっては、よいシステムだと思う。しかし、受け入れ方には問題が生じると思う。保育園生活を送る上でも必要なもの（布団や椅子など）をきちんと条件整備した上でやるべきである。また、在園児の子どもへの保育も今まで通り十分に行える人的配慮も、時には必要である。
職員の確保が難しいのでは？。緊急一時で新しく入ってきた子どもと在園児と一緒に過ごす事で、ケンカやトラブルなど多く起こるように懸念される。
人員、スペース、感染症等問題。子育てについて、保育士から知識や方法を教わり、悩みや問題を相談解決もしくは関係機関につなげられる事ができるメリットがある。
それ相当の人的配置をしてくれて、環境的にもんだいがなければ、行ってもよいのではないかと。
同じ室内で預っているのか？。4歳児なら4歳児のクラスで他の在園児と一緒に一日過ごすのか？その預り方がわからないので何とも言えないが、もし問題があるとすれば、人手が足りないという事であろうか？そういう形もある、というのがわかれば預ける方にとってはありがたいように思える（下の子出産時、上の子を見てくれる人がいない等）。
利用の条件や対象となる子どもの人数にもよると思うが、保育園のクラス作りや集団形成がしにくくなるのではないかと。突発的に発生する状況でもあるので、空き教室などを利用して同じ施設内で行うようにしても、在園児とは別に保育する事が望ましいと思われる。可能な時間帯に交流などしていくのはいいと思う。
特に大きな問題はないと思うが、アレルギー等のこともあり、受け入れ時には十分配慮する必要があると思う。
預ける人がいない場合、親自身の病気等で預けることが出来れば、助かる人は大勢いると思う。日々預かる人数が違うためスタッフの確保が難しかったり、子どもの把握が困難だったりする。
核家族化が進み、どこにも子どもを預けることが出来ない家庭にとって、一時的に預かってくれる場所があることは、安心できる。預かることで保育園にいろいろな人が出入りすることや、預かった子の迎えに来る人をしっかりと認識できるようにすることが、人数が増えたとき大変だと思う。
保育園を必要とする子ども達はたくさんいると思う。無認可のように保育料が高くない。親の病気、出産等で見てもらう（預ける）ところがない親にとって、非常に助かる場だと思う。子どもが（一時保育の）年間を通して変わるので、クラスの子ども達（在園児）は落ち着いて日々を過ごす事が出来るのだろうか。
乳児の場合は、保育園にいる子ども達は生活のリズムが整っている中に慣れない子が入ってくる事でリズムが乱れ、体調を崩してしまうのでは、ということも考えられるのでは。幼児については、集団の楽しさを味わわせてあげる事も出来るので、考えられる。
できる範囲でやっていく事は必要であるが、在園児の低下にならないような手立ては必ず必要である。同室でなく、別室で一時保育ができればよい。
預かるからには、子どもが安心して生活できるよう人、環境を整える必要有。

<p>&lt;問題点&gt;保育園の雰囲気や大勢の子どもの中に入ることに抵抗を感じる子がいる場合、その子のために大人がつかなければならないので、そのための保育士が必要となる。</p> <p>&lt;利点&gt;普段、一緒に生活していない子どもと触れ合うことができ、コミュニケーションの幅が広がる。</p>
<p>保育園児以外の子どもにとっては、異年齢や同年齢の子ども達と触れ合うよい時間であると思う。一度限りというのは、どうかと思うが、利用する子どもにとっても継続することが良いのではないかと思う。在園児においては、子ども集団の中で生活しているので、受け入れるものは、持ち合わせていると考えられる。</p>
<p>在園児において、何か不備、手薄なことにならないようにするべきではないか。</p>
<p>一時保育で来る子は、朝、その子をみて保育をするので小さければ、大変である。在園児と一緒に保育をするのは、1、2日ぐらいでは、難しいと思う。</p>
<p>預かることは、良いと思いますが、預けられる子どもは、ストレスが大きいと思います。</p>
<p>混合保育は、活動内容によっては大変なこともあると思うが、集団の中で学ぶことも大きいように思う。</p>
<p>現在行っている園からの話を聞くと、0、1歳ほど乳児の希望が多いという点では、在園児と一緒にというのは、難しいのではないかと思う。乳児の場合は、保育士との信頼関係も特に必要のため、ある程度、特定の職員が関わることも必要と考える。</p>
<p>利点としては、安心して預けられる場として良いと思うが、時間や目的の違いなどで不都合もあるのではないかと思う。</p>
<p>集団で生活するには、健康などで常に気をつけてなくてはいけないことなどが沢山あり、保護者も注意している。一時について、チェック事項が甘いのでは。</p>
<p>保育士も削られている中で、現在見ている子どもでもいっぱい、いっぱいの状態です。子どもにゆとりある保育のためには…と思うと正直厳しいと感じます。</p>
<p>ふだんの行き届いた保育が、その日は多少大変な事になると思うので、そのために大人の人数を増やしたり、保育園に慣れていない子ども達も楽しく、安全に過ごせるような保育内容を話し合ったりしてから行えば、在園児にとっても、いつもと違った環境で新しい発見も生まれると思うので、良いのではないかと思います。</p>
<p>保育園に通っていない子どもや保護者にとっては、同じ地域に住む子どもと遊べたり、友達になれる利点があると思う。在園児にとっても同じことが言えると思うが、一緒に保育をするのは、難しいのではないかと思う。</p>
<p>まわりに頼る人がいない人にとっては、助けになることだと思うが、前述した通り、それを大人の都合で使ってはほしくない。</p>
<p>環境（保育室など）が整い、人が確保されるなら可能では。現状では、できない。</p>
<p>経験したことがないので、具体的には、わかりませんが、在園児は普段遊んでいる友達とは違った友達と遊ぶことができ、在園児以外の子どもは集団で遊ぶことを経験でき、相方の子どもに利益があると思います。</p>
<p>施設の改善や人員を増やして対応することは、出来るかもしれないが、今のまま、ほんの少しだけの予算増でというのは、子育て支援としておそまつだと思う。</p>
<p>緊急の場合は、保護者も助かると思う。慣れていない所に、一時的に預けられる子どもの気持ちを考えると、どうなのかと思う。また、在園児と一緒に保育というのは、泣いている姿などで、落ちつかなくなったりすることもあるのではないかと思う。</p>
<p>子どもにとって、預けられることがよい場合もあると思う。公立で行うことで経済的にたすかる人もいると考える（母の病気、介護など）。状況、設備面、環境面で在園児でいっぱいだけの園もあるので、条件などは、考慮しなければならない。</p>
<p>本当に困っている人には、必要だが、保育の人も必要なので人員が確保されるのならいいと思う。</p>
<p>私自身、子どもが小さい頃、病院に行くのにも連れて行かなければなりません。子どもが1人なら、それも出来るでしょうが、2、3人と多い場合、どこへも出られません。保育園に入っている保護者は、余りそんな不便さは感じないでしょうが、どこにも預けられない家庭も多いと思うのです。そういう家庭の方には、必要だと感じます。すべての園で実施してほしいと願います。子育てに疲れた親にも支援を願う。それが、虐待防止にもなるのではと思う。</p>
<p>預ける親からしてみれば、何かあった時に預かってくれる場所や環境が整っているのは安心だと思う。しかし、預かる保育園側としてみれば、人員など受け入れられる環境と体制が整っていないと厳しい。</p>
<p>利点としては、利用者側に立って、どうしても見てくれる人がいない場合、助かる人もいるので場所と人が確保できれば、やってもよいと思う。</p> <p>問題点は、緊急という線をどこで引くのか？という問題はあると思う。</p>
<p>上でものべたように、家庭にいるの方が、何かの時、子どもをどうしたら？！という事もあると思う。しかし、子ども側からみれば知らない所に預けられる不安感がある。そこが、母と子の間の何らかの問題へと発展していかないよう、母もその後の対応があると思う。保育場所を一般にも開放し、親子であそびにきつつ、何かの時には、利用するなど…。</p>
<p>すぐに集団に入るのは難しい。</p>
<p>施設的に人員に余裕のある園は良いが、そうでない所ではあまり利点はない。現状で、手いっぱい。ただ、園以外の保護者対応という所では、保育士が何か、学べる所があるのではないかと思う。</p>
<p>保育園の人員や条件的に余裕がある園なら良いが、現実として難しいと思われる。</p>
<p>一時保育等が、望まれている中で、必要性があると思うが、現在の職員体制や形態の中に入れ込むことにより、在園児に十分でない保育になることが、心配される。施設にも、決して余裕がない園が多い事も問題だと思う。</p>

保育園ごとのキャパシティに応じて社会に開かれた地域コミュニティの場として支援していくことには、大賛成である。
利点はたくさんあると思う。通常の保育をしっかり、確保し、守らないと本末転倒になる。その為には、“一時”で預ける親も安心できるような手厚い環境を（人的、物的、スペース的）しっかり整えていくべきだ（ひとつの事業として）。
受け入れる側は、その子の特徴などが、わからず、とまどいを感じると思う。
利点は地域とのつながり、家庭や保護者に子育ての姿をみてもらうだけでも、子どもの育ちで感じたり、遊びがみえたりすると思う。問題は、園舎がせまい、今でも集団からぬけ、ホッとすることがない。
保育士が1人ついていないと、他児と同じ部屋での保育となると、1日中泣きっぱなしや離れないので、行事前などで、子ども達が積み上げてきたものが、崩れてしまう心配がある。感染症の病気が心配。など
在園児や職員に負担にならない条件整備をした上で、「緊急一時保育」は必要。
子どもの事故、事件防止になる反面、気をつけなくてはならないことなど、対策が必要になってくる。
ひとりひとりに関わっていくことが大事なので（それを求めている子が増えており）緊急も一時も大切とは思いますが、廃園になった幼稚園や統廃合後の空き教室などで新たに組み込んだ方がよいと思う。保育士の数が足りないと思う。
必要な状況であれば預かる（約束などは守って）。
どの子も同じという観点で考えると、皆が同じ条件の下で、保育されるべき。信頼関係を築く間もなく都合で預けられる子どもの心理的苦痛をうまくサポートしていく。
普通の状態を見ていない子どもに急に来られても、他の保育園児と一緒に行動は、とれないと思うので、預かるのは難しいと思う。
利点：施設を増設することがなく出来る。もしかしたら・・・人員も。なんの支援をもたない親の援助となる。 問題点：在園児が不安定、及び、手が行き届かない。人員増なし、内部努力のみでできるものではなく、どこかにゆがみ、ひずみが出る。
安定した保育ができなくなるように思う。
利用者の利便性という点ではよいが、人見知りする年齢では、急に預かるのは大変である。
やはり、預かるにはそれなりの責任が生じてくる。ゆとりある環境、ゆとりある人的配置がきちんと整った上で行われなければならないと思う。
上記のシステムはよいと思うが、できれば通園児とは別の建物をつくり、広さを十分にとってやったほうがよいと思う。その方が“サービス”と割り切れるし、その日その日の子育て支援のイベント（空き時間を使って）などもできるかもしれないので。(21)も同じく。
親の援助は大切なので、したいとは思いますが、在園児が不安になるのでは問題だと思う。なので、職員を新たに数を増やすなどして対応していくべきだと思う。
連日の子どもの付きあいの中に入りにくいかもしれない。
利点：地域で緊急に困ったときの支援になる。スペースの確保や人的なことの整備がある。
預かる子どもの姿を的確に把握し、良い関係で交われ、刺激しあえるようにするために、人的な整備も必要である（現在、在園している子どもの保育においても全く余裕がない）。
保護者にとってはうれしいと思う。ホッとする。保育園ではそれを行うための保育士が必要である。
経験の豊富な保育士が保育にあたれることや、保育環境が整っているので生活しやすいことなどは利点。回りのなれた子たちから刺激を受けて仲間にはいれることはよいが、大体は低年齢児が多いことを考えると心配もある。 緊急の場合は母子分離の経験がないことが多いので、不安で泣き続けることや食べない寝ないなどの様子も考えられる。在園児も不安定な子と一緒にだと、落ち着かない状況が生まれることも考えられる。ただ、子どもにとってというよりも、家庭支援である以上少々問題は承知で取り組む必要があると思う。
必要であれば制度をしっかりしていく必要がある。行うにあたって施設を整備したり、また手続きなどの事務も増していく。その分の予算や人が必要だと感じる。
平常保育の保育の手が足りないような状況を作ることだけではないような体制を作るべきだと思う。
いろいろな人と触れ合えるが、クラスが落ち着かず、運営が難しくなっていくそう。
現勤務園では実施しているが、緊急性のあるものは融通のきいた受け入れがあるべきと思う。人員が削減されている中で、厳しい部分はあるが、人の命はやはり人の手で救うものだと感じている。
突発的に慣れないで来る子がいるので、クラスで一緒にいた場合、在園児が落ちつかなくなってしまう。人の配置を充分にしないと、クラス運営が厳しくなる。（緊急）一時保育できるだけの十分な保育士と保育室が必要。
保育園は地域の中の保育園であると思われる。しかしあずけている親の要求がどこまでもエスカレートしている状況である。保育園を利用していない人も平等に扱うことが必要。家庭で子育てをしている人の大変さを保育園保護者は理解しようとしていない。制度としてきちんとしておらず、職員の努力で制度は成り立っていると思うが、大いにやっていくことが大事と思う。
子どもの数が増えても保育士の数が増えないのだから十分な保育ができるのか心配である。乳児と幼児では違うと思うが、しっかりとした対応をすることができないと思います。私たち保育士は、専門職ですからきちんとした対応をしていると思いますが。

<p>期間、年齢などによって状況は違うのではないかと思います。短期間における乳児などの場合は、新しい環境に慣れるだけで心身ともに負担が多いという点で、保育園内で多数の子どもたちと過ごすより、少人数での関わりが必要ではないかと考えます。幼児に関しては、状況に応じ、新しい経験の場という点で、様々な利点もあるのではないかと感じます(友だち関係の広がり、行事体験など)。</p>
<p>緊急一時で登園した子どもたちは、たくさんの異年齢の子どもたちや同年齢の子どもたちと接することができる、広い場所でたっぷり遊べる、等の利点あり。</p>
<p>まだスペースが充分でなく、保育も難しいと思う。キューキュー押し込め式でやるのではなく、きちんと別のところで確保することが望ましい。</p>
<p>在園児と緊急一時では動きが違うので、ケガをする恐れがある。広い場所で遊ぶときなどは交流が持ててよい。</p>
<p>来る子どもが単発なので、職員が把握しきれず、結局は非常勤の方に任せる部分がとても大きいと思う。</p>
<p>一時保育の子は、同じくらいの年齢の子と関わることができ、よいと思う。ただ、それを把握する人(事務的に)がいないと、うまくまわらないと思う。</p>
<p>子どもが集団になじむまでには時間がかかります。毎日の積み重ねの中で、保育者との信頼関係、安心感が生まれるのです。そこに来たり来なかったり、集団に入りきれないお子さんが来ると、不安になり、その不安は他の集団にも広がります。当人の体調等ならともかく、親の都合で来たり来なかったりするはその子にとってもクラスにとってもマイナスにしかならないと思う。それこそ幼稚園のように割り切って通える保育園があればよいと思う。</p>
<p>利点としては在園児と交流することで同年齢、異年齢からの刺激が受けられる。スペース、人的環境を整えた状態で受け入れることが大切と考える。</p>
<p>地域のニーズに応えるためには必要だと思うが、集団としてとらえられている部分については、参加が難しいこともあると思う。</p>
<p>良いのではないかと思います。ただ、一時的な利用の為、どのように保育を展開、提供していくかという点が難しいと思います。</p>
<p>親への子育て支援という面で利点と思われるが、親の育児放棄につながる心配がある。しかし、短期間なら問題はないと思う。</p>
<p>保護者の方には利点だと思います。毎日、同じ方が来るとは限らないので、担当の保育士が不在の場合、保護者の方に引き渡す際、保護者の方の顔を知らないこともあるため、不安になります。その日だけだと子どもの行動がつかめないので予測ができず、担当保育士の精神的負担が大きいと思います。</p>
<p>同年齢の子ども達が自然に触れ合えるのはいいことだと思う。発熱など、体調をくずした時の連絡に困るときはあるかと思う。</p>
<p>緊急一時保育を実施しているが、短期のお子さん、長期のお子さんと状況に応じて様々。園内施設が区内によっても様々ながら、初めての集団生活の場として、落ちついた環境(家庭に準じた環境)づくりを心がけていきたいが、日中の保育とからめて考えると、なかなか行き届くよう対応していくのが難しい。</p>
<p>利点:家庭で子どもと1対1で過ごす不安や悩み、母親の心労等の軽減になる。自分の子どもと保育園の子どもとの育ちを見たり、相談することで、育児に幅が広がり、ストレス解消の部分もあると思う。</p>
<p>現園ではやっていないが、子どもは保育園以外の子も大切な宝なので、その事業も必要だと思う。</p>
<p>現状で、落ちついた状態になってきたが、どういう子が入るかかわからず、どのようになるかが不安あり。</p>
<p>緊急一時保育を既存の園で行う場合でも、きちんとした部屋の確保ができるような条件を整えていってほしいと思います。慣れていく中で交流する場面はあって当然だとは思いますが、基本は在園する子どもの保育ではないでしょうか。きちんとした人的条件および環境をつくらないと、どちらにとっても大きな利点にはならないと感じます。</p>
<p>一緒に過ごすことによって、保育園生活の環境の理解には、よいと思う。</p>
<p>環境が子どもに及ぼす影響を新入児と同様に考えたとして、担任保育士は、対応しきれぬのだろうか。非常勤職員に一任できるのだろうか。</p>
<p>自分の自由な時間の為、つかわれるのはおかし。</p>
<p>園児も慣らし保育などしてから受け入れているのに、子どもにとってポン！と置いていかれ、大泣きしている事が良いと思えない。時々、遊びに来て少しでも場所や保育士に慣れてから預かるほうが良いと思う。</p>
<p>子育て中に困る事は、たくさんあり、保育園で少しでも役に立つことがあれば、導入には賛成であるが、その保育にたずさわる人の問題がある。環境をしっかり整えてから、スタートできればベストである。</p>
<p>慣れるまでの時間が必要な所で人手が必要。</p>
<p>在園の子が落ち着かなくなるかもしれない。不安になる子も出てくると思う。緊急の子は、他の子どもと一緒に気分転換になるかもしれない。</p>
<p>保育園を多様に利用し、開かれたものにする一つと考えられる。</p>
<p>いろいろな子と接する機会ができる事は、いいと思うが、その為の設備や人員、他クラスへの負担は増える。期限のことや、まだまだしっかりとマニュアルもできていないと思う。緊急で預けられる子どもの気持ちもしっかり受けとめていかなくてはいけないと思う。</p>
<p>保護者や親族の入院などでも、安心して子どもを預けられる。</p>

<p>いろいろな子と関われる環境はよいことだと思うが、それには制度が整っていないと（人的、物的に）両者のメリットは生じてこないと思う。</p>
<p>保護者にとっては便利、施設的に問題がなければいいが、慣らし、カリキュラム、等ではひっかかる。乳児などは急に1日預けられ泣きっぱなし、食事も摂れないという姿もあるので、子どもにとって負担が少なければいいのだが、存園児と一緒に過ごすとなると存園児も落ち着かないが、うまくいけば交流、刺激にもなると思う。</p>
<p>一時的なので、そのための人員を配置していかなければいけない。在園児の集団の中に入れる難しさはある。</p>
<p>現状の中では緊急一時保育などは条件がきちんと整わない中でスタートしている部分もあるので、職員のがんばりや工夫だけで運営されることのないようにして、必要な方に必要な保育サービスを提供できることがのぞましい。</p>
<p>集団生活に慣れていないお子さんと、いきなり在園児と一緒に生活は厳しいし、安心してすごせないと思います。又、大泣きが予想されるので、在園児にも影響はあるかと思えます。必然的に対1での関わりになるので、保育士の補充もほしいところではあるが…。園児、クラス以外の子どもと交流が出来、今までと違う刺激を受けられる事は良いと思います。</p>
<p>保育士が欠員しており、非常勤職員対応でやりくりしている中で問題なく預かれるだろうか？問題がなくて当然、問題があっては大変なことになる。このリスクを利点に変えるには余裕なくしてありえない。</p>
<p>子どもにも、新たな刺激があるが、その子の普段の様子、状態が分からないので、不安もある。</p>
<p>すんなりと子どもを預ける施設があるのは、どうも納得できない（例えば病気、就学、DV、等の理由の時にはすみやかに、入れてあげたいと思う）。急に、スポットで、入る子どもの身になると、かわいそうに思う。又、保育士が対一でつかなければならない場合もあると思う。</p>
<p>保育園保育士とは別部門（別ワク）で保育士をやとい、保育や相談にあたる方がよい。場所は小学校や幼稚園の空き教室を使う方がよい。なんといっても保育園は狭すぎる！！</p>
<p>その時だけ突然保育に預けるという状態は核家族でなくても現在では日々発生すると思うので、必要性を感じている。どういうふうに保育していくのが、問題点だと思う。</p>
<p>必要な場合もあるので、十分受け入れたい。</p>
<p>子どもは子ども同士、一緒にいることで安心して遊び出せるところもあるので、突然あずけられた不安な気持ちがまぎれる。しかし、受け入れる側にはそれだけの余裕がないので、人的確保はするべき。</p>
<p>ある程度長期に在園する子どもさんなら別ですが、数日のお子さんの場合、在園児の、同じ年齢のお子さんとは保育するのは、生活リズムなどの点で、一時のお子さんにとっても、在園児にとっても、何らかのとまどいであったり、生活しにくさのようなものが、お互いに必ずあると思うので、配慮が必要だと思います。</p>
<p>やはり受け入れる側の体制づくりがきちんとなされなければ安全な保育は難しい。特に一時保育の為に保育士を増やすことは不可決だと思ふ。</p>
<p>母親にとっては急にでも預かってくれる所があれば助かるが、園としては、どういう子か面接もなく預かる場合には難しい点もでてくるかもしれない。</p>
<p>子どもにとっては、親の苦労や都合は関係ない。子どもが保育園で在園児として、幸せなのであれば、それで良いと思う。</p>
<p>具体的は方針が確立していないまま保育活動に入っている点は問題だ。一時保育は、一時的なもので、別の場所で行うべきだ。たとえば…シビックの「ふみちゃんのへや」のようなところ！！</p>
<p>子育てに、疑問や限界を感じている保護者を支援し、地域で子育てをしていくきっかけとなっていて良いのではないかと思います。</p>
<p>今ある保育園を利用するのではなく、一時保育のための施設を作って保育した方がよい。</p>
<p>預けられる子どもの不安等を考えると一層の手だてが必要とおもえるが、設備、専門の職員がいると考えれば保護者にとっては安心できるとおもふ。</p>
<p>利点：地域の子ともと交流を図れる。 問題点：施設などの環境整備が課題※どの園も十分なスペースや職員の人員確保が整っていない。</p>
<p>在園児の中にそれまで関わりのなかった児が突然入ることは、それぞれに不安、緊張を与えるのではないかと心配する。</p>
<p>現在、子育て支援が大きく考えられています。保育園に預けている保護者については何らかの支援が行えると思います。しかし、家庭保育している保護者については育児の不安や疑問を相談する場が少ないことも感じています。このような状況を考えると緊急一時、一時保育の形をとり、少しでも支援ができれば良いと思います。</p>
<p>初めての環境や集団に入る為、初めは不安になり泣いてしまうこともあるが、在園児のあそびに刺激を受け、共に成長することもあるのではないかと思います。又、兄弟のいない子にとっては、大きなお兄ちゃん、お姉ちゃんをもつようになるのではないかと。又、小さい子にはやさしく接する気持ちも集団の中で芽生えてくるように感じ、利点は沢山あるように思う。問題は、在園児が保育園児以外の泣きにつられて不安定にならないか心配するところである。施設面、職員数の改善、配置が必要であると考える。</p>
<p>保護者が家庭での保育ができない状況がおこる事は必ずあろう。ゆえに、必要と思う。</p>
<p>預けられた子についての情報（健康面、生活面）が少ないと、万一の時に不安を感じる。</p>
<p>年齢も生活リズムも違う子が1つの部屋で生活することは大変なことで、さらに在園児にまぎって保育をする場合は、慣らし保育なしの保育なので、1日中泣いていることも多い子もいるので、クラスが落ちつかない。</p>
<p>共に育ち合う事で刺激を受け成長発達につながる。</p>

<p>利点…一時預かりの子どもは、他のいろいろな子どもとの触れ合いが出来ていいと思う。集団生活を経験することは、成長に必要。</p>
<p>受け入れるクラス、子どもによって様々だと思います。新しい仲間として関わったり、お互い落ち着かなくなったりしないかどうか。見守る目が分散されないか。関わり方が難しい。</p>
<p>保育園に入る子どもは、個々を知るために慣らし保育ということで、家庭の状況にもよるが、毎日、短時間ずつ様子を見てお預かりしているが、緊急一時はその日からということで、子どもの様子も分からないままに預かることになる。何事もなければよいが、何かあったら保護者との信頼関係をつくる間もないので心配になることも多い。</p>
<p>子どもたちと交流をはかれることが、一番の利点である。また、保育士も保育園以外の家庭や母親子どものおかかっている現状がわかり、保育園だけの価値観での子育て支援は出来ないことに気づかされる。一方、保育時間帯や人員の配置等、日々、細い保育体制の変更も余儀なくされる。</p>
<p>現に緊急一時をしている。保護者の病気、出産、介護などあるが利用度は高い。必要としている人が多いのでやるべきである。</p>
<p>一緒に遊んだりコミュニケーションをとったりすることはいい事だと思うが、「一時保育」という型で預ることは、在園児が不安定になることの方が多いと思うのであまり、好ましいことではないと思う。</p>
<p>公的に専用施設を作った方が良くと思う。</p>
<p>必要だと思います。</p>
<p>緊急にあずけられる子どもの不安はいかばかりか…。今の親は不安を持った子どもの気持ちに対しフォローや配慮をしないので、問題が多い。</p>
<p>小さい年齢は人的な配置増が必要だと思う。大きくなれば、その子どもの状況により受け入れも可能ではないか。</p>
<p>人手の問題、緊急のルール確立。慣れずに一日泣いている現状は子どもにとってどうなのか。ただし、それで救われる親がいることも事実。どういうかたちが望ましいのか、私も考え中である（悩む）。</p>
<p>子育てに不安を抱えている親も多いので、できる限り受け入れていくべきだと思う。ただ新年度が始まったばかりの頃に、新入園児が不安になる時にはやり方を工夫した方が良い。</p>
<p>それは難しい所である。子どもの預け先では。</p>
<p>子ども達が集う場として入園理由は様々でも、共に保育するという点において何ら問題は感じません。どのような場合でも楽しく過ごせる工夫はできます。</p>
<p>今年、我家も緊急一時保育を17日間利用しました。第2子出産の為、上の孫をお願いして、とっても助かりました。また、数日、泣きましたが保育園に慣れてくると、お迎えに行くとお友達や、先生方に“ぼくのバーバーだよ”と動作で、うれしそうに教えていました。自分より、大きいお友達に遊んでもらって、とても楽しかった様子でした。又、他の子が園で食事中にコップを投げたのを見て自宅でまねてました。とても刺激的だったようです。緊急一時保育でお世話となり、本当に先生方には大変感謝しております。又、この制度があることに深く感謝している方も多いのではないかと思います。ママもゆっくりと下の子と昼過ごし、朝と夜は、上の子にたっぷり愛情をそそぐことが気持ち的に出来ました。心にゆとりも出来た様子でした。預かる時、子どもの様子が良くわかると良いと思います、又、同じ保育士が預かることで子どもも保護者も安心する。</p>
<p>期間が長い子によっては一緒でもよいと思うが、やはり日数によっては在園児の子どもに対しての影響は大きいと思う。特に年齢が低ければ低い程。</p>
<p>集団にすぐに馴染めないお子さんの為にも、保育室を用意したほうが安心できると思います。徐々に慣れてから集団に移ることは可能ですので…。</p>
<p>現在、緊急一時を行っている。クラスに入らざるをえない状況で、元々のクラス在園の子どもたちのできあがっているクラス。生活の流れに多少のズレはおきていると感じる。</p>
<p>現在、勤務している保育園では、「緊急一時保育」を実施しています。中でも、3～5歳児の幼児より、0～2歳までの乳児が多く、職員の手数が足りないと思ってます。幼児は、クラス一緒に行動できることが多いが、乳児は、慣れる（人的、環境的）までに、とても時間を要する。最低の預ける期間を設けた方が良くと思う。3日以上必要なのかどうか…という条件。たった一日というのは、子どもにとっても、負担になっていると思う。</p>
<p>実際に「緊急一時保育」を行っているが、施設面から在園児と共に受け入れから保育を一緒にしている。在園児が落ちついてきている中に、突発で入る子の泣き声につられてしまったり、又、大人の動きも非常勤が入ることにより落ちつかなくなったりと、気持ち的に安定さが求められない。</p>
<p>緊急一時は基本的に年齢に関係なく慣らし保育がありません。園児でもやはり園の生活、環境に慣れるのには個人差はあれど、時間が必要です。そんな中で安心して食事を食べ、眠るということは、子どもにとってもとても大変なことです。園児にとっても、落ち着いていたところに不安定な子が入って来ると落ち着かなくなったり、不安定になったりします。しかし、緊急一時で子どもが保育園で過ごすことで保護者も子どもも変ってきた、ということも感じました。お互いに安定出来るもっといい方法はないものかと考えてしまっています。</p>
<p>緊急で預けたい人は助かると思う。園側は緊急一時保育の子どもに非常勤職員がついているが、結局同じ年齢のクラスに入ることになっている。毎日同じ子が来ることもあるが、そうじゃないことも多く、クラスは落ち着かない。</p>
<p>人の出入があるので在園児にとっては落ち着かないこともあるかも知れません。緊急一時保育の子にとっては新しい経験ができるのでよいかも知れません。</p>

<p>家庭で育っている子が集団に入ることによって、子ども自身が成長している様に見える。ただ、慣れていない子が短期で入れかわり入ってくるので集団（クラス）のほうが落ち着かない。</p>
<p>日替りで毎日違う子が来るので、在園児も気になり落ち着かなくなってしまう。（園生活に慣れず走り回ったり泣いたりするので）落ち着いて保育ができるよう配慮している。</p>
<p>緊急一時はそれなりの施設、環境が整っていなければムリだと思う。現に緊急保育の子が、落ち着きなく動いたり泣きさわぐことによって、在園している子達が落ち着かなくなったり、不安になったりしている。もう一度、緊急一時の見直しをしてほしい。</p>
<p>緊急一時保育については、在園児以外にも保育を必要としている子どもがたくさんいる実態が分かってきました。保護者が保育を出来ない理由として、親の介護や第二子の出産などだけでなく、母親の病気なども（心の健康を害している）あり、保育園が在園児以外の子どもにも大切な役割を果たしている。 保育園の中には人的にも施設面でも環境には恵まれているので、様々な支援が考えられるが、在園児と一緒にいる中で、預かる子どもが短期で出入が多く、クラスの中は今までと比べ落ちつかない雰囲気がいままで続く。子どもとの信頼関係がつく前に保育が終わってしまう面もある。</p>
<p>在園児が落ちついていない時期に、泣いていたり、生活リズムが合わないお子さんが入ると、クラスが落ちつかなくなる。担当以外にもクラス保育士が変わる場面も多い。 緊急児にとっては、友だちとのかわりの中で遊べることは利点である。 施設が狭いので、0歳児は定員以上に入れることになり、保育しにくい。保育園で預かるのは1日3名が限度である。</p>
<p>保護者にとってはとてもいいのではと思います。人員配置などきちんとしてほしい。</p>
<p>一時ということで、なかなかじめずに泣いたり、本人たちへも負担はあると思いますが、保育園の中であそぶうちに、生活にもなれ、笑顔がみられるようになった時などは、とても良かったと思います。又、少しでも子育ての支援につながれば良いと思います。</p>
<p>我が園では現在「緊急一時保育」を行っている。緊急児にとっては、生活リズムや食生活を改善できたり、また集団生活を経験することで大きく成長することができる。在園児にとっては、クラス全体として落ち着かなくなる。</p>
<p>緊急の場合は、家庭しか知らない子どもがほとんどなので、保育園でいろいろな刺激を受けることにより成長していくことができ、その子の新たな一面を発見し、保護者に伝えられることもあるので、保護者も、より一層子どもに興味を持ったり、離れたことで初めてわかることもあると思うので良いと思う。在園児にとっては、生活リズムを少し乱されたり、雰囲気が違うので、落ち着かなかつたりすることがある。緊急の子どもが一日など短い間だけで、入れ替わり来ると、クラスもずっと落ち着かない。利点としては、新しい子を受け入れ、興味を持ち、やさしく接する気持ちを持ってくると、在園児の成長に役立つと思う。</p>
<p>現在、緊急一時をやっている。1歳児について。 利点：緊急一時の子に落ちつかない、目が合わない子が多く、母親だけの育児の大変さを感じる。同年齢の集団の中に入り、他児の真似など刺激、影響を受けるのも良い経験となっているようだ。何か1日関わっていると、目が合いコミュニケーションがとれはじめる子が多かった。 問題点：在園児が落ち着いている中に、入れ替わりに入ってくると落ち着かなくなり、影響を受けてしまう。</p>
<p>4、5歳児は大丈夫だと思うが、特に乳児は突然、知らない子が加わり（まして、その子も慣れない場所、人で泣くと思うので）、在園児は落ちつかなくなってしまうのではないかと思う。文京区の保育園は部屋も狭く園庭も狭い園がほとんどである。一時保育などで預かるには環境も整える必要がある。</p>
<p>今の職員配置で行えば、現行の保育にしわ寄せが行くと思います。まずは、保育にあたる人員を確保して行いたいです。</p>
<p>集団生活や遊び、異年齢児との関わりなど、普段はできない時間を体験できて良いと思う。</p>
<p>公立保育園は、子育てのノウハウを持っているので、子どもは手厚い保育が受けられる状況にあることは確実だと思います。しかしあずかる現場としては、環境や人的条件が整っていないし予算の方も見通してほしい。</p>
<p>母親が病気や出産で、支援してくれない家庭にとっては、公立保育園という施設であずかってもらえることは、親にとっても子どもにとっても安心できる環境だと思うが、在園児にとって利点になるには、保育士のやり方ひとつだと思うが、人的保障がされていない場合、どちらにとっても利点には、ならないと思う。→現在、行われているが、内部努力で行われているのみで予算もなくとにかく大変だと思う。</p>
<p>子ども側としては、突然知らないところに預けられる事の負担は大きいと思うが、受ける側は人員配置など色々条件を整えば、いいと思う。</p>
<p>とても大変な事だと思います。役所の方は、人を増やさず（今、正規もない園もあります）に少ないお金で、保育園にお任せという形です。私達、保育士も欠員状況の中、子どもの健やかな、成長の為日々の保育をしています。新たな施設として緊急一時保育、一時保育を設けた方がいいのではないのでしょうか？公立保育園が何でもかんでもするのはどうかと思います。</p>
<p>預かった子どもは初めての場所で、泣いたりし、不安な気持ちで、いっぱいだと思う。そうすると、保育士が1名、その子につかざるを得なくなり、そうすると、在園児の保育が手薄になると思う。</p>
<p>園児と同クラスで預かることは、在園児にとっても一時保育児にとっても好ましくないと思います。</p>
<p>園舎は最低限の広さでしかないので、余裕のあるスペースや人員が完全に確保出来ているのであれば預かることも可能だから、今のままでは定員オーバーの形で職員の内部努力で行っている。現状のままでも何でも保育園が受けるのは、どうかと思う。</p>
<p>育児を支援していくのは良いと思う。育児に重圧を感じている人の軽減の為に。子どもに合った保育をめざしている為じっくりと保育した方が子ども自身はおちついて生活できると思う。人的保障が必要。</p>

核家族の家庭が増加する中では、子育て支援の意味もふくめて必要だとは思う。しかし、同じ保育園の中で保育するにあたっては、人の配置（預けたい家庭は心の悩みを持った親など複雑な問題をかかえた場合も多いときいているので、正規で対応が良い）や部屋の問題など現場の保育士から言えることは、たくさんあります。外からみると一緒でも良いと思われがちですが、子どもの心を一番に考えてほしい。
子どもにとっての利点は、普段接することのない子と接する機会がもてること。また、保育士が預かることにより、親が安心できることが利点だと思う。 問題点は、今現在正規職員の欠員がある状態の中での緊急一時などは、正直なところ、体制をとるのが厳しいことだと思う。
今の保育園児、その保護者への対応は、ひと昔前よりかなり神経を使っている。人手もないし、当番なども多く、かなり労働条件は厳しい。保育園の在園児と一緒に過ごすのは互いに刺激もあり、否定するものばかりではないと思うが、そのような新たな取り組みを行うのなら、職員数を増やし、少々“ゆとり”のある中で預らなければ、在園児も、一時保育の子も保育士も、いらいらして、トラブルも多くなり、プラスにはならない。
場所の提供、体験保育といったことはあっても良いと思うが、今あまりにも心を病んでいる人が多く、その対応で職員は神経を使い疲れている。“緊急一時”は現在3園で行っているが、やはりこうした病気の子が保健センターの紹介でこられ、その対応で他園以上に大変なようである。他の機関への紹介や人材スタッフの派遣等を考えていく必要も。
保育園に入っている親は、上記のように勤務以外の日でも子どもをあずけて用事をすませることがあるのですが、家にいる親の方が困ることがたくさんあると思います。しかし、今の緊急一時保育については、働く方にとっても条件は非常勤の確保での実施では、今の保育運営をやりくりしながら補助をしていく大変さがあります。やってみようという看板だけでなく、利用する人も安心して利用しやすいもの、働く側も安全で安心して働きやすいものが大切です。そのために条件をきちんとして行ってほしいです。公立保育園の一角というより専用の施設を作ってほしいです。
体験保育ということもあって良いが、緊急一時保育などでは子どもというよりは親御さんが多く、対処に追われてしまうので、他の機関（相談にのれる人材スタッフのそろうた）に広げることの方が良いのでは…。と思う。
必要な方がいる限り、行政としては必要だと思う。
職員の数などちゃんとした条件を決めて行うならよいと思うが、今の状態で行くと、現在の正規の職員の首をしめるだけだと思います。それでなくても、現場は、延長番まで、たくさんの子どもをみていて、大変です。地域の中で子育てをするという意味では、これから、必要性も高まると思い、重要だと思いますが、まずは始める前に、よく話し合う必要があります。
どうしてもというケース、理解し対応していく。在園する子に保育を保障するためにも、別枠で人員配置していく。
在園児にとって、新たな友達と接することで、新しい遊び方や世界にふれる機会でもある。保育士にとっては、新入児と同じ感覚で、慣れていないので負担が増える。信頼関係も、すぐに築けるものではないので、利用する子にとっても、ストレスや不安につながることもあるのではないかと。
初めての子どもを預かる緊張感があり、一緒に保育するのは難しいと思う。新しい取り組みをする時は人の手立てをつけて欲しい。
「一緒に」というのは厳密にどういう意味であるかによります。同じ部屋で、同じ部屋の子で、というのであれば、当然、現行の保育にズレが生じるでしょう。しかし、きちんと、場所と人員が別に確保されるのであれば問題はないと考えます。
一日だけだと、子どもの特性などわからないので、対応が難しいかなと思う。
本当に必要としている保護者にはとても大切。応援したいし助けたい。
人がしっかりとついていけば、子育てサポートとして行っていいと思います。保育園を知らない方にも知ってほしいし、悩んでいる人の子育てのアドバイスやサポートもできる限り行いたいです。
核家族やはじめての子育ての時は、不安が多く、助けてくれる人がいない時など本当に困ることは充分理解できる。又、保育園にきていることで生活が安定する子どもも確かにいるので、ケースバイケースである。
家庭からの子どもが保育園の生活にふれる事は、その子どもにとって、自分の様に親とはなれて、園生活を送る子どもが多いと感じる良い機会になり、がまんする事、集団というものが体で感じられ、発達にも良い影響を与えられられる。
在園児は、いつも違う子どもがいることは、不安定になるのではないかとと思う。
未就学の家庭の親や子どもについては、園の中で、いっしょにすごしたり、話をきいたり、生活の中で具体的なアドバイスなど必要とは思いますが、子どもを保育することについては（19）で書いたように考えます。
これから、進めていかななくてはいけないと思います。
大人が思う程、子どもはあまり異和感を感じていなかった様に思います（2歳児）。
本当に必要と思われる人もいます。
急に一日あずけられても不安にならずに、泣かないで一日を過ごすことができる子ども達に、とても違和感を感じる。これが子どもの姿とは思えない。が、公的機関で安心してあずけられる場所がある事で、育事不安を解消するのだとは思う。
本当に一時である場合は、年齢にもよるが、無理に集団に入れて、不安定にするより個別対応がよいと思う。子どもの負担が大きいので情緒の安定が大切だと思う。
現在の保育園という施設にもとめられている物として地域の子育て支援の場であることもあげられているので、一時保育等必要だと考えている。園という垣根を低くして、のびのびと子育てできる環境を整えていくというメリットがある。問題点とすれば、危機管理上など不安な点の条件整備がされていないと感じる。

<p>現在行っている。慣れない場で子どもが大泣きする場面を見ると「子どもにとって」を考えてしまうことがある。本当に必要な方もいらっしゃるが1日とか2日だけ。病院に行くからという理由で長時間預ける人を見ると安易と思ってしまう。預けると目いっぱい時間預けてしまう。</p>
<p>保護者にとってはよいものだと思う。子どもの立場になると知らない人、場所で早番～遅番まではつらいと思う。</p>
<p>利点としては、同年齢の子どもとふれあえること。問題としては、家庭にて育てられている環境の中、突然、知らない環境であずかることにも不安を感じてしまう。たとえばアレルギーの子などが急に保育に入った時の対応に困る。</p>
<p>難しいです。でも難しいと言っているだけでは子育て支援にはなりません。方法や対策を考えたいのでやっていかなければいけないと思います。</p>
<p>あずける方は、助かっていると思う。はじめて集団に入る子、他人にあずかってもらう子が多い中、慣れるまで時間がかかっている。早番や特別に入る時の対応も大変。人に慣れなくて、人手がかかっている。特別の職員だけでなく、他職員もかかわったり、声かけないと慣れるのも遅く、早く慣れるようみんなで気をつけている。</p>
<p>その子をよくわからないままあずかるので、担当する保育者は大変だと思う。又、緊急一時保育の職員も休暇をとったりするので、そのときはその年齢のクラスの担当がクラス内でその子をみなくてはならず、本当に大変だ。</p>
<p>子ども自身の負担は大きいような気がします。</p>
<p>該当するクラスに入る事になっているが、クラスで活動する時に、いつもの保育がやりにくかったりする。</p>
<p>利点、園以外の子ともふれあえる。</p>
<p>緊急一時保育をやっている、今年も初年度なのでまだ問題点が全て見えていませんが、日々利用者がいることは必要に感じます。子育ての支援として成果はあります。はじめての集団生活なので同年齢と過ごす経験の良さはありますが、心がけることは無理せず安定した生活を送ること。そのために対1を大事にしています。在園児たちも自然に名前を覚え、声をかけ触れ合っています。健康チェック、アレルギー食への対応など園児と同じですが、給食面では調理室の負担はとても大きいです。緊急一時保育と今の保育を1日どのように運営するために職員の体制を進めるか、朝から夕まで細かく確認しています。緊急一時保育の利用は今のところ、0歳からの乳児が多いです（幼児になると幼稚園など何らかの集団に入っていきますので）。</p>
<p>在園児の保育が乱れることもあると思う（緊急一時保育の行い方によってケースは色々だと思うが）。</p>
<p>利点：（給食に関して、生活に関して）0歳児なら問題ないと思う。 問題：生活のリズムが各クラス出来ている所に、慣れない場所に来てとまどう子ども（緊急一時）が在園児と同じように生活するには、時間がかかる。</p>
<p>在園でなくとも、必要があるのなら、受け入れするのは当然。利点はたくさんある。在園児にとっても、悪い影響は何もないと思う。問題点はそれを保障する人員や設備が不十分であることだが、きちんと、行政が予算をつけて、対応すべきことだと思う。</p>
<p>利点ー“緊急”な時に頼れる所があるのは大切だと思う。 問題ー一日がわりの入るので、どのような子か分からない（病気を持っている、感染症に感染していたなど）。“緊急”の度合いがあいまい。</p>
<p>在園児と一緒に過ごすことで発達が促されたり、又在園児の保育も見直されたりプラスになるような形で出来るような努力が必要かと思えます。無理な形ではなく、出来ることを考えていくように！</p>
<p>利点：急な家族の病気など、に対応できるシステムであること。「緊急一時保育」であっても、他児との関わりをもつことができる。保育士も複数人数いる中で、その子のお気に入りとなる大人を見つけやすい。 問題：決まった人数枠であっても、どの年齢の子が入るのか、どのくらいの保育時間なのか、同時に何人になるのかが分からない。負担の大きさの変動の幅が大きく、体制をとりにくい。短期間で十分な慣らし保育の期間ももてないまま、長時間の保育に入っていくケースが見られる。少なくない。</p>

### (13)【設問(21)】 緊急一時保育や一時保育を実施する条件

<p>現在の園とは別の場所。</p>
<p>保育ママのような、家庭的なところで保育できる方が子どもにとっては良いと思います。</p>
<p>在園児との交流もできるが、一時保育のための保育室も別に必要。子育ての相談、アドバイザーと保育を専門に行う保育士と両方の人材が必要。</p>
<p>保育園以外（現在の保育園）の園を1つ作った方がよいと思う。</p>
<p>できれば、既存の施設ではなく、専用の施設があればベストである。緊急一時、一時、病児など専用の施設（3つ複合でもいい）が望ましいのでは。</p>
<p>家庭支援センターや保育ママなど。</p>
<p>慣れない所に子どもを預けるのは子どもが気の毒。普段親子で遊びに来ていて、よく知っている人に預けると子どもも安心なのでは？。子育て広場のような場所で、緊急一時保育をしてはどうだろうか！。</p>
<p>出来れば保育園で、その一室をそのために利用出来るという方法が子どもにとって一番いいと思える。近隣3～4園の中の1つで、1つの園を指定し、周知する。そのための人手を毎日確保するのも難しいが。</p>
<p>出来れば看護師、栄養士が所属する0歳児園が望ましいのではないかな？。予備部屋を確保し、少人数でゆったりと過ごせるような環境で保育できることは気持ちの安定につながり、園児にとってもよい交流の場になり得るだろう。</p>

一人ひとりの子どもの既往歴や緊急時の連絡先等を明確にした資料が提出され、出来るだけ同じ場所（例えば、子育て広場等の施設の一角をそれに当てる）で、同じ保育士が対応できるといいと思う。現在既存する保育園等で問題はないが、スペースに無理があると思われる。
園児のクラスに問わず、保育室を別に確保する。3歳以下と3歳以上に分けて保育する。
利用しやすい場所。幅広い年齢に対応できる。乳児は特に慣れていないと思うので、十分な人員配置。
改築した園で実施。保育者の人数確保。3ヶ月ワンクール。保育を希望する子どもの人数定員を決める。
文京区では、現在3園で緊急一時保育を行っているが、どの保育園も大変な状況である。保育園の施設を使うという事では、区としては安上がりな事業ではあるが、当園が多くの負担を強いられている。数値的な机上の計算ではなく、単独で運営できる人的な配置が必要である。緊急一時保育となると初日より慣れない子どもを長時間預らなければいけないことを考えると、いかに個々の子どもが安心して過ごせる環境を作るかが重要ではないか。間借りの生活では、子どもも保育士も疲れ果ててしまう。
スペースに余裕がある等、条件が整えればだが、一室を一時保育の部屋として専任の職員が保育する体制をつくる。
専用の保育室や設備があり、保育士を基準以上で設定（緊急や一時のものなので、手厚くしておかないと事故やトラブルになる事が予想される）。
理想的には、今ある施設で行われるのが良いと思うが。
家庭的な雰囲気で、ゆったりと過ごせるスペースを設定し、現在の園舎で利用できる部屋があれば活用する。緊急一時や一時保育で活用しないときは、地域の交流スペースとして相談室に利用するなどし、地域の人が利用しやすい、又、保育園を知る場として、とらえるのも方法であると思う。
24時間体制で子どもを見れるシステムの児童養護施設、母子生活支援施設、乳児院などが適していると思う。
園舎、園庭、共に広々とした環境にある場。
公立保育園でも一部屋確保できればよいと思う。今でも狭い園もあるし、定員以上に受け入れているところもあるので、枠をあけておいた方がよいのではないかと思います。
区役所の一時預かりコーナー。
“一時”であることから、落ち着いて受け入れられる部屋がある施設。ベテランの保育士による保育が望ましいと思う。
環境の整った施設にて、家庭的な雰囲気与生活できるのが、よいのではないかと思います。
一番は、人的確保であると思う。
やはり、部屋なり人なりをしっかりと考えてほしいと思います。
保育園内で行い、一緒に体を動かして遊んだり、保育士のお話を聞いたり、簡単な工作をしたり、人数が多い場合は、分けて行うと良いのではないかと思います。
緊急度。保護者との関わり、想い。まわりの助け。人数などの制限は、設けられないと思うが、受け入れる施設に十分な人員の配置が必要。
学校などの空き教室を利用するなど（有資格者で保育）。もちろん、園など利用できるスペースがあればよいが、人的な措置もしっかりと緊急、一時保育は、難しい。在園児にしわ寄せがいつてしまうのでは？と考える。
保育園でもよいと思うが、別室があり、1対1で対応できること。
0歳児・1歳児、2歳～5歳児、年齢でわけることでのこまかな配慮できるのかなあ。ゆったりとした環境が必要。その子に1対1でつくような条件がよい。ひごろ家庭で生活している子どもが急に生活を集団の中で行うことで、音、人につかれてしまうように考える。
保育園でも実施してもいいと思う。その為の人と場所を確保できる保育園。
保育園が良い例と思います。
子どもがゆっくり過ごせるような家庭的な雰囲気の中で、預かっていくことが望ましいと思う。今ある保育園の中でいうとスペース的にゆったりとした雰囲気を作っていくのは、できるのだろうか？という面もあると思う。
保育園で行うことは、良いと思うが、そのための部屋、そのための人は必要である。
文京区だけでなく、他区でも実施している所もあるが、年々、需要が高まっているようだ。また、「一時」（病気を理由に入園した場合など）ではなく、長期間に渡り、保育を希望する人も増加しているようなので、条件を整備しなおす必要もあるようである（条例のみなおし）。
乳児園に職員を加算した上で、実施したらどうか（本駒込西保育園を乳児園にして）。
現在、様々な問題が起きています中、緊急に必要だと思う。すぐに建物等を造るのでなく、現在ある公共の施設、役所、学校（小、中）、児童館等でも、小規模の形でも良いから、実施していけないだろうか？
きちんと部屋を設けて、保育士もつける。特に乳児は人見知りをして泣く場合もあるので、十分に接してあげられるようにする。慣れてきた子は、他のクラスと一緒に活動してもよいと思う。短時間で帰る場合は、別室ですごした方がよいと思う。
保育園児の同年齢のクラスに入り、生活するのが望ましいが、年齢の小さい場合は、クラスに入れない場合もあるので、専用の部屋が必要。人数に見合った職員配置。

廃園になった幼稚園。小学校の空き教室。
公的機関で自治体が責任をもってみていくことが必要である。
母子施設や病院などで専門家がいた方が良くと思う。
専用のセンターを作るべきだ！
在園児とは、別のスペースを確保し、職員数も一時保育担当者が確保できることが大事だと思う。
目白台の緊急一時などは、なくなってしまったが、保育園ではなく、そういう施設があったほうがよいと思う。
物的人的環境の整った保育園及び施設。
緊急一時保育、一時保育用の部屋があること。職員の数をその場合には増やし、配置にゆとりがあること。看護職がしっかりいること。
子どもが不安定になった時、1対1で対応できるくらいの人数のいるところで。
専用の部屋とスタッフがいること。すでに条件を出して行っているが（3園）、緊急性が高いと例外も多くなる。行政側にも人的なゆとりが必要。
施設があればどんどん受け入れをしていくが、施設もないところでは難しい。保育士のストレスがたまる。
きちんとしたスペースのある保育室がとれる条件で行いたい。不安な子をあずかるには相当する保育士の数も必要となる。人的条件が一番大切。その上で子どもがゆったりと安心して過ごせる環境を整えることが大切と思う。
幼稚園、学校の空き教室など。
余裕のある部屋数と保育士の十分な手は必須だと感じる。
長い時間を過ごす生活の中で、子どもにとって何が安心できるものなのか。おもちゃや落ちついた家庭的な空間はもとより、なによりやさしい保育士と接することだと思います。最低基準での人員配置ではなく、余裕も不可欠です。
子育て支援センターや廃校になる小学校や幼稚園の建物を整備し活用。一時保育できるだけの環境を作っていく。
公立保育園でも緊急一時が始まったが、条件をしっかりと整えてスタートすることが大事だと思う。非常勤を入れればよいという考えはおかしい。正規で対応すべき。
子育て支援センター的なところもいいが、保育園が子どもにとって安心できる場所であると思える。保育園定員を減らしても保育園でやった方がと思える事業である。利用する子の安心の場なら保育園と思える。
きちんとした施設を整えるべきだと思います。必要に応じて開き、保育士も必要な人員だけ確保し、子どもの保育にあたる施設。
現在は非常勤対応だが、きちんと正規の職員がいて対応したほうが、いろいろな面で広がると思う。
待機児も多いので、保育園を増設して、そのときに併設もしっかり考えていけるといいと思う。
人がしっかりとつき、緊急一時の部屋が確保できれば、保育園や幼稚園で保育するのがベストであると思う。
保育園内で実施することがよくないとは思わないが、職員体制を整えるとよりよいと思う。また持ってきた持参品についてなど、より詳しいマニュアルがあるとよいと思う。
保育園や幼稚園など本来子どもを預かる施設で、人、部屋などの体制を整えた上で行うべきだと思う。
日々、登園者が変わるような施設は、集団として難しいと思う。どんなに少人数でも異年齢と一緒に保育することは難しいし、1対1であっても保育者の力量がなければ、生活リズムを作ることも難しいと思う。集団の中で、生活できるのであれば、周囲を見て、その生活にのっていきことも可能だが、対1ではその子の要求にふりまわされるだけで一日が終わってしまうと思う。一時保育と別枠で考えるのではなく、誰でも入園できるだけの施設と職員があればと思う。
利用しやすい地域を選び、公設公営での新設も良いと思う。現在の公立保育園の中で行うならメリットは安全面から考えても大きいと考えられるが、スペース、人的環境を整えることが大切である。面接や事務処理の負担も大きい。
児童館、地域センター、活動センターなど区内に数ヶ所あると良い。
遊ぶ、食事をする。眠るといったことが保障され、安心して過ごせる空間、環境が確保されている施設で行うべきと思います。
現在、保育中の子どもたちも、子ども集団の数から言えば、少なくない中で、さらに子どもの数が増えるのはマイナス面と思う。保育する保育士の数や部屋がきちんと確保できる場合。
区役所で正規の職員を雇って行ってほしいです。
緊急に受け入れてほしいと願う中では、受け入れの子どもたちの気持ちの、不安や緊張面ではとても大きいものと感じる。ホッとできる、安心感がもてるような人的面、物的面での環境がもっとも大切と思う。現在は、1つの部屋（和室）で実施しており、その日の受け入れる条件によっても異なるが、泣き通しのお子さん（すべて拒む）に対して、個別に対応できる（視界面での環境など）場所が確保されること。
保育園。専用の保育室（部屋）があり、落ちつけること。同じ年齢の子どもとも関わって遊べること。
保育園、児童館など。
物的、人的環境がそろえば、どこでもよいと思う。地域ごとに拠点で設置。

保育園で専任の職員のもと、受け入れ体制ができればよい。
きちんと専用の施設があった方がいい。（保育士の数もそろえて）子どもにできるだけ無理のないように。
子どもたちが安心して過ごせるように、ということをして、きちんと考慮してほしい。環境はもちろん、子どもたちみんなにしっかり目が行き届く職員の人数配置をしてほしい。
現在、保育園の中で受け入れているが、一時保育が出来るような部屋の確保、職員の配置、室内環境の整備、一時保育に入る子の人数など。
緊急一時施設を単独事業ですすめながら、近隣の保育園との連携がとれるようにするとよい。
併設されている。基本的には（日常的には）在園児と別々の保育で、遊びの中で交流するという形が良いのではないかと思います。その方がお互いが安定してすごせると思うのですが、在園児よりも人手が必要です。正規職員を基本に、非常勤も入れて手厚い保育をするべきだと思います。急なことだったり、家庭の事情を考えると、おそらく子どもは情緒的に不安定だと思われます。
子育て支援センターを区に何か所が作るべきだと思う。そこで、専門の職員が行ってはどうかと思う。
子ども、保護者にとって、利用しやすく、“いつでも預けられる”と安心できる施設。
現在の園内に、緊急の保育を受け入れても良いと思うが、スペースと、保育士の人数をきちんと、整備する必要があると考える。体制がとれての受け入れでないと、現在いる園児にも、新たに受け入れる園児にもかかわいそうである。
まず人的・物的環境を整えるべき。内部努力のみでやるとなると、余裕がなくなり保育の質の低下につながる。
交流保育として同じ年齢のクラスに入るのが良いとは思いますが、職員の数や、その日のクラスの状況によってはかなり難しい。日々の保育に入っているからこそ、できる要素も沢山あるので、一時的な保育を受ける子はかえってリスクが大きすぎる点も考えられる。→別室で託児ということになるか…。
突然保育されるということは子どもにとって不安である。小さな施設であるのが大事だと思う。常勤者が多い方が理想である。
必要な施設にも必ず設置し、人の配置をきちんとすること。保育園でも受け入れ可能だが専門の保育室があるといいと思います。
新宿区には、1週間程のショートステイの施設があるとのこと。文京区も新しい施設を設け、そこで、「緊急一時保育」などもできるようにすると良いのでは。虐待などの場合も、少し親子を離すことで、親の気持ちが落ちつく場合があり、利用できるのではないかと。
保育園のような、設備が整った施設で保育することが必要だと思いますが、いきなり集団の中ですごすのではなく、まずは対面でじっくりと関わっていくことが望まれるので、専門の保育士（有資格者）を確実に1人つけることを行うべきだと思います。
家庭的な雰囲気、あまり大きな集団でない方が落ち着くのではないかと。
0歳児園なら、看護師、栄養士、その他職員も多くいるのでいいと思う。
小学校・幼稚園にて。
園と併設で保育室や専用職員が必要とおもう。
独立した施設で、それに見合った室内整備や人員の確保。
別のスペースで保育できるような環境が必要ではないかと感じる。（時間枠の中で一緒に遊ぶ時間帯があってもよい。）
このような保育を行うのであれば、福祉施設が良いと思います。しかし、保育園は保育、生活の場であるため、常にこのような保育が行えるとは限りません。本当にこのような保育が必要な方のみの条件で行うのであれば、受け入れられると思います（リフレッシュ、自分の時間は不可能）。
現在ある公立保育園の一部屋を使い、子どもは1日3名程度、職員は、非常勤職員ではなく、正規の担当保育士で保育していく。条件は、現在実施している「緊急一時保育」と「一時保育」の要綱に準じるもので良い。施設の余裕があれば、新しく部屋を作れると良いが、色々な面で難しいように思う。
例えば子育て広場となっている西片幼稚園のような場所や寿会館みたいな場所、シビックセンター内などに設けて、緊急一時、一時保育の専用の施設があると良いと思う。
保育園内施設でも可能だと思うが、一日ゆったりと過せる一室が（朝の登園、降園）あると良い。現保育園に於いては職員の配置上、又はその子の登園・降園の時間帯によってはお迎えの場所が変わる事もある。
きちんと施設、体制をととのえて、「緊急一時保育」として行っていく方がいいと思います。
保育園&緊急一時保育のみの施設。育児放棄にならないよう、でも育児ノイローゼなどの親には必要である。
現在、3園で行われ、1園3名までとなっている。3園だと、1園に片寄ったりもあつたりするので、全園1名ずつ受け入れ、その子の年齢のクラスで受け入れるとよいと思う。
児童館、育成室、アカデミー。正規の職員を入れるべき。
緊急一時にあたるスタッフは必ず資格のある保育士であること。緊急一時保育にあたる子どもが安心して過せる部屋があること。初日から保護者の希望する時間をあずかるので、看護師のいる園（0歳児園）で栄養士等、専門スタッフが常駐していること。

母子共に行っても他児の影響がない施設。一時保育を、主に対応し、サポートチームが作れる場が良いと考える。
現状では非常勤の保育者が対応している。しかし、場合によっては、正規の保育者（主任など）も対応せざるをえないこともある。正規職員が2名も欠員のある中で大変だろうと思う。別の施設で公的責任で行うべき。
緊急一時などは、園の中で別な部屋を準備して受け入れる方が、その子どもも安心するのではないかと。状況やあそびによっては在園児と一緒に活動できることもあるが、基本的には別の方が良い。
現行の保育園の体育園で行う方が良いと思う。但し大人の手は必要なので、適切な人員配置は必要だと思う。
やはり、核家族なので、持病や精神の病がふえる中、一概には言えない。
空き教室（保育室）があれば可能ですが、実施するには、有資格者を基準を満たす人数に揃え、十分な保育ができるようにしてほしいです。
保育園児のいる施設が一番良いと思います。
一時的に預けたい親の思いはスピーディにしてほしいのですが、本来子どもはゆとりをもたなくては…ということも伝えられるようにしたい。庁舎の中や特別な多目的室を設けておき、必要に応じて人員が集結できるといい。
やはりきちんとした緊急用の保育室が必要と感じる。
現在の保育園でも「緊急一時保育」を実施していますが、保育室は確保されていないので、施設に空き部屋があるほうが良いです。
施設面で、空き部屋の多い園で行うべきである。
保育園だけにこだわらず、時間的なことを考えると、幼稚園でも実施して良いのではないかと考える。子育て支援の全てを保育園だけで受けるべきではないと思う。
どうしてもの場合以外は、1日、2日でもいいので、慣らし保育があるといいと思います。緊急一時の子どもだけの施設では、皆不安定で落ち着ける空間は作るのが難しいと思われます。不安定になり、ゆっくりと1人静かに過ごした方がいい場合、時間もあるので、そういう部屋もいくつかあるといいと思います。
緊急専用の園があればいいと思う。
以前は緊急一時保育をする施設があったように思いますが、独立しているのがいいのか、保育園で行うのがいいのか判断が付きません。
その年齢のクラスに定員枠3名が同じクラスに入る場合もある。部屋のスペースも狭いので環境や人の配置がとても重要である。
学校の空教室など、現在あいている施設を利用し、きちんとした正規職員を配置し行うべきだと思う。子育て支援を考えているのであれば、無理に保育園（施設が狭い）で非常勤対応で行うのはどうかと思う。
現在ある、緊急一時保育や一時保育は必要である。保育園で行う場合は人数を少なくして、在園児にとっても不安のないように保育していくことが大切。緊急一時保育所の数を増やしていく（現在ある保育園の中で）。
専用の施設（例えば、保育園の隣接地等）を作るのが望ましい。（給食等は保育園で作る。職員の交流、専門職の交流ができる。）
保育園では同年齢の子どもたちも生活しているということで適切だと思います。人的な配置をもう少ししっかりと考えてほしいと思います。
看護師・栄養士の在園している保育園。食物アレルギーのひどい子は難しい。保護者が育児ノイローゼによる心の病の場合は、親のケア（子育て相談、離乳食アドバイスなど）も行っていく。どのクラスに入っても可能なように保育用品等を準備しておく。行事への参加については行事ごとに検討しておく。
保育ママに預けることも良いかもしれない。預けられる子どもも、預かるほうの子どもたちも、お互いに保育園のようにバタバタせずに、落ち着いていられるように思う。条件としては、親の病気なら、医師の診断書を提出してもらうなど、親の症状をきちんと把握できるものが必要だと思う。また、預かる子どもの家での一日の生活の流れを細かく親に説明してもらい、食事の時間から、どのような体制で食事をとるのか、ミルクを飲んでいるのか、眠るときはおんぶがよいのか、トントンがよいのかなど、細かく教えてもらう必要があると思う。
現状の保育園の中で受け入れても良いと思うが、(20)でのとおり、在園児と一緒にだと利点、問題点もあるので施設内に予備室など、余裕をもてる場所の確保、人員が必要である。
子ども認定園が、在宅子育て家庭を含めた子育て支援を専門に行っていく。
望めばたくさん条件があり現状よりもっと充実した施設を望みますが、現実に必要なご家庭がある限り、無ではなんの解決にもなりません。現状の中での実施は職員にも多くの負担となり、保育にゆとりをもつことが難しくなると思います。
区立保育園でも行われていくべきです。但し、人員をプラスしてです。
遊具の多い広い施設で、条件は、危険箇所が少ない。子ども人数に対応した大人がいる。保護者の緊急連絡先を確認。約束事を皆で決める。
そのためのスペース（部屋）が確保できること。そのための人員が確保できること。

公立保育園以外で、緊急一時保育や一時保育を受けていく施設をつくることを望みます。地域に根ざした子育て支援は、保育園だけではなく区全体で取り組んでほしいと思います。
保育園とは別に、専門施設を作るべき、子育て支援をするには、人手とお金をかけるべき、公立保育園のスキルは生かすべきだが、予算も人員もつけずに利用するのは間違っていると思う。
保育園の職員だけでは、どちらかが手薄になってしまうので、その他に、保育士を補充するなどの必要がある。
新たな施設を別に建て、正規の職員を役所が新たに募集してやった方がいいと思います。その長になるのは、退職した保育士や園長先生がやって下さればいいと思います。
幼稚園が定数割れしている所もあるので、その一室、空き部屋を利用して行えると良い。条件としては、年末保育のように、食事、着替え、連絡ノート等全て、持参する。人的には、正規と非常勤（資格の持っている人）が見る型をとるのが望ましいと思う。
「一時保育」用の部屋と保育士を設けるとよいと思います。園庭やボールなどの園の設備は共有したり、行事ごとがある日は見学や参加するが、別保育をする方がよいと思います。アレルギーを持つ子どもはその子用に自宅からお弁当を持参。
通常の保育園児が生活する場以外に、余裕のある部屋があること、人的に十分な確保がなされていること。
人的保障がきちんとされれば公立全園で実施できるとよいと思う。育児できない母親とは区別して考え、障害児の療育院に母子入園があるように、母子で指導（一緒に育てる）施設で母性を養っていくのがよいと思う。
保育園とは別に、専門の施設を開設すべきだと思う。また、経験のある職員を配置したり、慣れない所につれてこられる子どもは不安で泣き、手をとられると思うので、国基準ではなく、都基準で職員の人数配置をするとうよいと思う。
現在の保育園では日々の保育でいっぱいなのでこの制度を行うなら、人員を増やすべきだと思う。
家庭的な雰囲気のある部屋があり、他の子（在園児）たちとも自然に関わりがもてたりする空間があり、広々とした庭がある施設。一時保育のみ担当のスタッフが常勤としているのが理想的。安い予算で簡単に行ってほしくはない。
スペースや常勤スタッフといった条件がそろると理想的。
人の配置。ある程度の広さの部屋、玩具。
やはり環境の面では、保育園、幼稚園、児童館などの施設を利用するのがベストだと思う。職員の人数はちゃんと確保してほしい。どの程度を「緊急一時」とするか、基準を決めないとダメだと思う。優先順位をつけるとか。
緊急一時保育施設を区に設置し、職員も配置する。保育園で対応するなら別室を設ける。
ある程度の部屋の広さと人員確保が必要である。
基本的には専門の施設。または、はじめから、一時保育を行う事を前提とした別部屋（その為の）を用意した保育園を設置するのがよいと考えますが、予算的に難しいでしょう。
保育所とは別に、そういう施設を作るのがベストかなと感じる。そこに専門の保育士をおく。
公設公営で出来れば良いと思う。私立であれば、やり方なども違うと思われるので。
園児とはちがう場所（部屋）で、人的にもしっかりとした中で行うべきだと思う。
保育園で受けるのも良い点があると思うが、人員の配置がきちんとされなければ在園児にも負担がかかるので、どの施設でやるにしても人手だけは確保してほしい。
対応できる人員があればどこでも、会社があれば便利という人は多い、いつでも会いに行けるし。
子どもの広場的な場所を設けて頂き、お預りする時間はきちんと定めて守っていただく。家庭環境をきちんと知らせて頂く。
地域の中で、施設だけを公的につくり、運営は子育ての済んだおばあちゃん世代や退職した保育者などがする。他自治体の「おばあちゃんのうち」のようなものが妥当と思う。
必要だと思いますが、簡単には書けないと思います。
理想ですが、保育園ではなく緊急一時専門の園があったら良いのかなと思います。
ある物を利用すると言うのではなく、新たに場所を確保する必要があると思う。
独立した施設をつくるべきだと思う。
年齢にあった施設である（床、トイレ、家具（テーブル、棚など）スペース、安心してあそべる、玩具）。スタッフ、栄養士、看護師など食事や何かの時対応できる人を確保する。保育資格ありの経験豊かな人があたれるようにする。
0歳児から通所できる施設で、条件がよく整っている所。十分なスペース、人員が確保されている施設。
多勢いる子どもの中で、一時に生活するのが楽な子どもとそうでない子がいるのではないかと思う。特に乳児は私の園ではオムツ交換時の設備のないところで保育しているので、改善は必要。又、非常勤対応なので一日中、泣かれっぱなしで気持ちが大変だと思う。
その子に合った保育ができる場所が必要。又、保育士も資格がある保育士の方が安心。

小学校の空き教室や、廃校になる小、中学校や幼稚園なども利用できれば。
必ず担当職員がいること。又、枠が3人であれば、職員は4人 etc + α の人数でサポートするべき。保育所の中でやる場合はその専門の部屋をつくり設備 etc もそろえるべきだ。
きちんとした部屋と正規の職員がついて、なるべくなら単独で生活ができるべきだと思います。
緊急一時、一時保育の子だけが集まる施設を作る（キッズルームの大型版みたいな感じ）。
衛生面や生活する上で安心してすごせる施設。
子どもたちが過ごす保育室が単独であること。0歳のオムツ交換、授乳を考えると0歳児室に近いこと。1、2歳もトイレ、オムツ交換は衛生面から幼児組のフロアでは難しい。短期間、在園児以外の多数の人が出入りするので、モニター付インターホンなどセキュリティ面で安全な園であること。又、保育は非常勤職員の場合、有資格者が望ましい。随時、さまざまな月齢、年齢の子どもが来るので無資格や未経験の非常勤職員では慣れるまでに時間のかかることもあります。
緊急一時保育専門の施設が地区ごとにあると良いと思う（シビックセンターの中の一画をそのために解放してもよいと思うが）。保護者にはきちんと連絡がとれるようにしておいてもらいたい。
現在、文京区も緊急一時が行われています。預けられる子どもは、ほぼ0歳児か1歳児です。保育園で見る必要があるのでしょうか？遊んであげて食事をして、午睡をする、という事であれば、もっと、家庭的でこじんまりとした所の方が、落ち着くのではないかと思います（子ども家庭支援センター等）。
一時保育用の保育園があると良い。又、常に人員が確保されており、安全で清潔な環境を整えるべき。ただ、必要とする子どもが少ない時は、もったいないので、子育て支援策として、子どものひろばのように、一般の人が出入りして自由にすごせる、遊びの場と、併設しているとよいのでは。
保育園で実際にやっているが、しっかりと人をつける。面接をきちんと行う。“緊急”なので、内容によっては断ることもできる権利があること。専用の部屋を設けること。
担当の職員を配置する。緊急な場合の受け入れなので、親子共に不安を軽減出来るような体制を作る。玩具を含め環境の整備。受け入れ条件を明確にする。
条件を整備する。
子ども向けの施設であったり、家庭的な雰囲気のところが良いと思うが…。
全国でやってもいいが、しっかりと時間や基準は守ってほしい。
子育て支援が重要になっている現在ですから、いろいろな支援をできる限りやりたいと思う。ただ、周辺の状況を考えて対応する職員やきちんとした施設もそろえたい。
公営の施設がいいと思う（平等性を含め）。
一室別の部屋がとれるところで通園施設はOKだと思う。人手が必要。
施設、スペース、そして何より、人的配置がしっかりしていることだと思います。大人も子どもも慣れない中で保育をするのですから。
施設内の一部として行うことは、子ども達の成長に役立つと思われる。
広い部屋、布団、シーツも多めに用意したり、玩具も各年代に合うようにいろんな種類をそろえる。孤立しないようにする。
本当に預けなければいけない状況なのか、きちんと判断すべき。他のクラスでも、サポートできる所。

#### (14)【設問(22)】 幼保一元化施設の利点・問題点

利点はあまり感じられません。同じ施設内で子どもたちが別々に過ごすことについては、（幼・保）あまり意味がないのではと思ってしまいます。早く、幼稚園と保育園の管轄を一緒にしたほうが良いと思います。
「教育」の視点から見た保育、生活や遊びを自由に学んでいく保育のよいところがあり、3歳児以上の子どもにとってはメリットも多いと感じた。しかし、柳町子どもの森はまだまだ雰囲気の壁を感じたし、大人が感じるほど子どもは感じていないかもしれないが、幼→保、保→幼に移る時、わざわざ着替えたり、無駄なとか、そこにも壁というものを感じた。一日、家庭も含め、24時間を対象として保育を考えてきた保育士にとっては、ぶつ切りのようになってしまう保育には疑問もあり、意識改革の必要もあると思う。職員も幼・保の意識格差や壁を少しずつ縮めていき、自然な流れの中で幼保の両立のいいところをとっていきける保育となれば良いと思う。
子どもというより、職員の意識感の違い。
幼と保の職員間の問題やトラブルが多いように感じ、子どもにもその影響が出ているのでは、と懸念される。
今年始まった事なので、職員体制など、いろいろな問題がでてきている。その辺の条件を整えれば大きな問題はないのでは？。
その施設での生活を見たことがないので、何ともいえない。話だけ少し聞いたが、子ども達自身に混乱はないのか？どちらかに統一した方がよいのでは、と思う。
職員体制や勤務形態に複雑さを感じる。子どもにとっても給食を食べる子とお弁当を食べる子がいるなど、望ましいと思えない部分があるのではないのでしょうか？。

保育の中で自然に関わりながらも、どこかで切り離される時間があることに、子どもが違和感を持たないだろうか。
子どもにかわりはないので、一緒に過ごすのはいいが、保護者の対応が難しいと思う。
いろいろな子どもや大人とかかわりが持てる所はいいと思う。
互いの刺激になるので同じ施設内で生活する事は良いことと思う。
本当の意味の幼保一元化施設になっているかが疑問である。一つの施設の中に、幼稚園と保育園の職員がいる。幼稚園の園長がいて、副園長として保育園園長と、組織の運営がとても複雑である。お互いに職員同士、大変なところは協力しあっているとはいいいながらも、身分は全く違っている。本来の意味の一元化施設であるとするならば、幼稚園の教諭も保育園の保育士も、一元化する必要がある。もちろん保育士も幼稚園教諭の資格を持っている。
長時間保育希望（待機児解消）には良い。十分な幼稚園施設の中、幼児がのびのびと育つ場としても良い。しかし長時間保育のための時間、場所についてはまだ十分とは言えない。幼稚園主導の今の形式には問題を感じる。
幼稚園と保育園を一元化するのは無理だと思います。指導者（保育士）の態力が必要だと思います。保育園は生活の場、幼稚園は教育の場がある。
利点、あるいは、問題点は、園児側にはないと思うが、大人の側で、とらえ方や認識の違いがあると思うので、どういうところが一致しないのか、その点をとらえ、あゆみ寄りや共通認識を持つべき点はあると思う。
より多くの子ども達とふれ合い、お互いに刺激を受け合えるという大きな利点がある。子どもの成長だけでなく、それぞれの良い点、悪い点などを実際に同じ空間で保育することで見て、そこから学び、保育士の成長にもつながる。
子ども達がのびのびと成長、発達する場に本当になっているのだろうか？！
保育園のよいところ、幼稚園のよいところ（基準）を生かすことができればよいが、そうでなく、とくに人的なものについて、最低基準に合わせることなくやっていければよい。
まだ、目にしていないので、わかりかねます。差別意識のようなものがなければいいのですが。双方の刺激になれば、すばらしいと思います。
幼稚園でも延長保育を行うところが増えてきて、以前勤務していた幼稚園でも朝8時過ぎから夕方6時まで園にいる子もいたが、保育の基準がより手厚い保育園から下がらないようにして欲しいと思う。
保育園でも幼児クラスでは、幼稚園とさほどかわらない課題などをしてきていると思っているが、保育園は、1日の生活の流れを考え保育してきているので、途中で生活が変わるのは、子どもにとっては、どのような影響が出ているのかを心配する。気持ちの面でも、幼稚園時の迎えは早いので、その姿を見て、不安定には、なっていないのでしょうか。
教諭と保育士の立場の違いが大きと思う。（例）幼稚園は一斉。保育権は個々を大切に（なわとび指導を一斉にするから、個々で特別はやめてほしいと言われたという話を耳にした）。幼・保が、かみ合っていないと感じる。
同じ年令の子ども達が遊ぶということに関しては良いと思う。同じ施設の中での先生、保育士とわかるのはどうか。
保育園児にとっては、幼稚園の教育的な要素を経験できるという利点はあると思う。しかし、幼保一元化は、どちらの良い点も取り入れた上で同じ施設内で行われるべきなのではないかと思う。幼稚園児・保育園児と分けてあり、施設も別なのでは、一元化とは呼べないのではないかと考えます。
大きく言えば、子どもにとって集団生活を経験するには、どんな場でも良いと思う。幼稚園も保育園もない国でも、子ども達は集団（仲間）をつくるものだと思う。大人のプライドや偏見は、捨てるべき！ただ「日本で」と考えた場合、その後の成長に必要なことは、大人の目線ではなく、子どもの立場に立って考えるべき。幼稚園を出た子と保育園を出た子の20年後に果たしてどんな差があるのか？
保育園児、幼稚園児をどこで分けるのか。子どもは皆、同じと思うが。
昼食の差、午睡の有無、降園時間の差などについて、子どもたち自身が理解し、納得するには時間がかかるのではないかと思います。
一元化というものは、時間帯によって過ごし方が違うのはどうなのか？幼稚園と保育園とは、体質的にも違うので、職員間の共通理解も難しいのではないかと？
保育園の生活の中でも、子どもたちは、あそびを通して感覚的に生きる力をはぐくまれるよう保育をしているが、お互いが、幼稚園、保育園のかきねをとりはらい、子どもを中心におくと、子ども同時は学びあう力をもっているのでは、よいと考える。
子ども達の様子を見ていないので、分かりません。どういう流れで保育されているのか。実際に見てみたいと思う。その園で仕事されている先生方のお話を聞く機会がほしい。
公立の保育園と幼稚園が一元化するには、職員の雇用形態や条件がまったく違うため、色々とトラブルや問題がおきることもあると聞いたことがあります。そういう事が、子どもに影響を与えたりしないのでしょうか？幼稚園児と同じ時間を過ごす事により、保育園だけでは出来ない体験ができて、子どもには、いい事がと思いますが、幼稚園よりも保育時間が長い分、体力的に無理のないように配慮が必要だと思います。
文部科学省と厚労省。管轄の違い。
差を子どもたちはどう感じ、それが成長にどう影響するのか。
子どもにとっては、何も違和感なく、すごしていると思われるが、働く職員の立場が難しいのでは。

幼稚園の形態を守る必要性をあまり感じない。日中の時間に学習をさせる為に、又、長時間保育を幼稚園児にもというなら、幼保という形を取った幼稚園、保育園と区別するものでなく、職員等を統一した形が望ましいのではないかと思う。
同じ年齢で同じところで過ごし、同じ保育、教育をうけるのは、仲間意識としては良い。行政が2分化している（教育と保育）中で、色々な面（資格、条件、設置条件、子どもと大人の比率…）で分断、内部努力だけではダメ！子ども省、そして、小・中とのつながりをもっていく。
幼稚園と保育園の格差があるのでは！？
教育と保育と名称がちがっても、子どものためを思って考えているのは、どちらの職員も同じで、問題はない。
規則（しくみ全体）から変えて取り組む必要があると感じます。体制が違う者（子）や物事を最初から同じにしようと取り組んでも問題が生じてくると思います。
刺激しあって、経験の幅が広がることは良いと思うが、育つ環境により意識のズレを感じる。大人の感情が子どもに影響されるのではないかとと思う。
幼稚園児がある時間で親の迎えて帰宅する時の保育園児に対する対応を考えて行動しないと親の仕事への理解、協力を求めにくいと思う。同じ小学校に行った時、幼保の区別なく接する事が出来れば良いと思う。
幼児教育を受けさせたいと願う親が多くなっているので、ニーズには、応えられる。全ての子どもの森（在園の）希望者が長時間保育に入れない（長時間枠は、4、5歳児共、定員いっぱいだ）。入園しても二重保育あるいは、転園している。
生活環境、経験の違う園児たちが一定時間、同じ施設内で過ごすことは刺激も多く、視野が広がると思う。ただ、幼稚園の教諭と保育園の保育士が話し合い、協力し合いながら過ごしているのか？どう運営されているのか？
幼稚園の子と同じカリキュラムを受けられ、保護者の就労時間に合わせて、時間も延ばせるということは利点の一つだと思います。保育士と幼稚園教諭との連携がうまくいっていれば、良いのではないのでしょうか（保育活動、カリキュラムを考える際、難しさもあると思いますが…）。
実際に現場の人間にとっては、想像以上の様々な問題があると思う。
同じ年齢の子どもなので、あえてへだてる必要はないと思うが、精神面や環境的に細かい部分でどのようにやっていったらよいのか、いろいろ問題は出てくると思う。
よいと思うが、統一の仕方があいまいなので、0～4歳児をそういう形にして、5歳（年長）はプレスクールとして別にした方がよい気がする。ただ、教育要領は一本化した方がよい（行政で独自のものを作るべき）。
子どもたちの気持ちのきりかえはどうか、問題に感じる。保育園では、生活も含め、一日の中で、いかに保育をしていくかなので、生活がぶつ切りになっている気がしてならない。
時間で別々の行動になるのでは、残る子どもがかわいそう。
同じ区内に住む子どもが一緒に保育・教育を受けることはよいが、大人が同じ視点で子どもを見て、一緒に育てるという思いが大事と考える。
幼稚園保育園の互いの利点をうまく融合できればよいのだが、縦割り行政、また職員の意識の違いなど、まだなかなか効果的に機能できていない。子どもにとってどのような援助、指導が必要なのかを垣根を越えて研究していくべきである。
保育園児、幼稚園児と分けるのは難しい。みんな同じ子どもであり、一定の教育・保育をうける。そして一人ひとり大切にしていくなかで、集団の中で自分で考え行動できるようにする。
幼保一元化施設そのものには反対の意思はないが、現在の文京区のやり方には疑問が多い。基本的な部分での保育と教育一体化にはなっていない。現状の一元化施設だったらこれ以上増やしてほしくないとする。特に幼児で日中は幼稚園教諭が保育し、朝夕は保育士が、というのは検討の必要あり。もっと成功している一元化園を見学して学んでほしい。
幼保園については、それなりに検討を重ねて実施されましたが、設置運営形態（土台）が少々腑に落ちないところもある。幼稚園なら幼稚園教諭と保育士の両資格を持った職員であるべきだと思う。施設長は1名。保育園から幼稚園に行ってもまたお昼寝に帰ってくるのではなく、「午睡スペース」など活動によって使う空間を位置づけた方がよいと思う。全く新事業として0から開園、独立した内容にしたほうがよいと思った。意思、意識をひとつにするまでは大変だろうと思う。保育内容、計画については保育園、幼稚園、相互参考になることが多くあり、生かしあえるとよい。
幼保一元化にはもともと無理があるように思う。
文科省、厚労省と全く管轄が違う、というところでどうなのかと思う。
それぞれの所管が別々であることに問題がある。就学前の子どものお過ごし場所について、それに関わる職員がひとつにならないといけないが、ハードルが高いと思う。幼稚園は教育、保育園には教育がないと思われているが、文字や数字を教えることが教育ではなく、生活・遊びからの学びが本物の教育であることを幼稚園教諭、保育士ともに理解できていない。柳町子どもの森は保育園としての施設に充分とはいえない。保育園児が安心できるような場所づくりが求められる。
保育園、幼稚園双方の良い点を生かしながら、得ることも多いとは思いますが、同じクラスの中で登園時間、保育時間の長さの違いがあることによって、子どもたちの戸惑いも大きいと思います。現在、私自身も子どもを保育園に預けながら仕事をしていますが、同じクラスで家庭の都合により早いお迎えが続くお友達を見て「どうして家はダメなの？」と聞かれることが多々あります。もちろんきちんと家庭状況の違いを伝え、理解はしていますが、子どもが「親と一緒に過ごしたい」「早いお迎えがうらやましい」と思うことは当然のことであり、その気持ちを大切にしていけることも必要と感じています。

無理に幼稚園に合わせていいのか？大勢→少人数制に切りかえていくべきではないか。
保育園児の一日の動きを聞き、子どもたちはどのように感じているのか。
幼稚園が主なので利点はあまりないように感じる。また「～タイム」で職員が変わるので、全く子どものことを考えていない。施設自体子どもの動きに合ったものでないので、危険を感じる。保育士は食事指導しかできないので、遊びを通して成長していく子どもなのだから、もっと保育士の力を活用してほしい。
保育園と幼稚園で、子ども内の心境で格差が出ないようにすることが大切だと思う。
保育園児にとっては二重保育のようになっていて、心の面で心配。現在のままの一元化だと、あまり利点は感じられない。
同一施設に通っている以上、なぜ生活する場が分けられるのか、なぜ保育士は「コアタイム」を幼稚園に任せなければならないのか、甚だ疑問です。幼保一元をうたうのであれば、クラスや担任自体を、幼稚園・保育園と分けなくて、幼児クラスなら一緒にクラスを持つべきでしょう。その中でお互いが勉強し合い、お互いが持っていなかった知識、技術を補完する中で、新しい施設になると思う。 保育園卒園だって問題なく就学できるのです。保育士はもっと幼児教育について学ぶべきだとは思いますが、幼稚園ももっと保育園に歩み寄ってほしい。資格自体をもう分けるべきではないと思う。
保育園に通いながら幼稚園の教育を受けられるという点ではいろいろな刺激を受けることができよと思う。同じ時間をともに過ごし、幼稚園児は保護者とともに帰り、長時間保育は「ただいま」といって保育士のもとに帰る。朝も同様である。大人のように子どもの気持ちは割り切れるのだろうか。
活動や、保育士・教諭の関わりが分轄されているような話を聞き、残念に思った。幼と保で、より良い運営の将来ビジョンを明確にされることをおすすめしたいと思った。
まだ始まったばかりなので様子を見守りたいと思います。 ただ管轄が違うため、指導上で問題が生じるのではないのでしょうか。 保育士、幼稚園教諭というように分業スタイルではなく、ともに保育していけるようになると嬉しいです。
幼稚園、保育園のよさを融合し合えればいいと思いますが、双方は元々、管轄する官庁が違うので難しいと思います。また、幼稚園に通っているおさんは生活する場所が細切れになっていると伺っていますが、果たして子どもにとってその流れでいいのかと疑問に思います。
利点はあまりないと思う。
トップが一本化していないのに、無理があるのではないか。
現在のように、子どもの生活を教育と保育に分けて考えるのでは利点はないと感じます。子どもたちの生活丸ごとをとらえてほしいと思います。所管が違うままでは、お互いに連携しあう保育・教育は難しいと思います。つくるのであれば、既存の幼稚園にちょっと保育園をくっつけるような形ではなく、同じ土俵に立って一から話し合いのできるような施設作りをしてほしいと思います。保育とはコミュニケーション労働だと思います。それぞれの立場から、目の前にいる子どもたちについて、「何をしたいこう」という意見の出し合いがとても大切になると思います。
本当の意味での幼保一元化施設なのか疑問があり、その中での保育、1日の流れ等、具体的ところがみえない。
柳町の職員、あるいは見学に行った人の話を聞く限り、幼保一元というのは名ばかりというか、名前の為だけに無理矢理作った施設で、矛盾、不公平な点が非常に多い。
子ども達にとってメリット、デメリットはあると思うが子ども達の生活の差別感をなくすこと。特に幼稚園教員と保育士が共に子育てをしていくという関係になることが大事。幼稚園でやる事が「教育」保育園は「養護」と分けられるものではないと考える。養護と教育の一体化の中でゆたかな子育てをするということに立ち帰り乍ら、幼保園の運営はすべきだと考える。
幼稚園をそのまま継続しつつ、そこに保育園が加わる形では、一元化とは言えないのでは？保育士は幼稚園教諭の免許を持った人が勤務することになったのに対し、幼稚園教諭の方は保育士資格を持っていない方がいると聞きます。その点でも「幼稚園ありき」の施設なのだと思ってしまう。対等ではないのだと感じてしまいます。保育園に通いながら幼児教育が受けられるという利点はありますが。
保育園職員が重労働すぎると思っている。同じ施設にいてもあまり接点はなさそうなので、利点があるかどうかは分からない。
活動、遊びが広がり、良い環境が整えば、子どもにとっても豊かな経験ができると思う。
交流することも、幼稚園の空教室を有効利用することも、賛成ではある。しかし、子どもの中で、別の子は帰れるが、自分は、朝から晩までいる淋しさはないのかな？と子どもの気持ちになると、少し考えさせられるところである（あとは保護者の、選択だろうが…）。
親が早く迎えに来る子どもとそうでない子…子どもの心に複雑な思いはないか配慮が必要。立場のちがう保護者同士の対立も考えられる。ex. 午睡をホールでしてすぐとなりの園庭で親子で遊んでいる声が聞こえるというのは好ましい環境とは言えないと思う。4・5歳位だとさみしがるかもしれない。 利点は友達関係が幅広くなりつき合いも長くできる点。
色々なことが期待されてきたが、やはり無理やりに一元化しなくても良いと思う。幼と保の良いところは各々に幼と保で補えばよいことも多い。子どもたちはまだ幼保一元化の園内での、まる一年をすごしていないため、このことについては、はっきりとしたことが言えないことではないのか。
色々な環境下の中で一緒にいる利点は多いと思う。しかし、どこかで一線をひいていかないといけないこともあり、子どもの心の中で、異和感が出ることはあると思う。時間などでくぎり、「～時からはこっち」など保護者の迎えがない子たちにお迎えの姿をみせ、さびしい思いはさせたくないと思う。

形態が違うのを同じ施設内でやるのは無理だと思う。一元化ではなくただ便宜上つなげただけである。
お互いの協力のもといろいろと改善されよりよいものになればと思う。
保育園の毎日の生活の中でなかなか経験できないことを経験できたりするのは、子どもにとっては良いことだと思います。ただ、移動することで慌ただしくなったり、活動が中途半端になってしまったら、子どもにとって良くないのではと思います。
幼稚園児と保育園児にへだたりを感じる。
〈問題〉 保育園児と幼稚園児が遊んでいる中で、必ず保育を中断せざるをえない時がある。 〈利点〉 幼稚園の保護者も安心して長く子どもを見てもらえる。急な用事にも対応できる。
地域の子も達が、幼稚園保育園関係なく一緒に過ごす事は大変良い事だと思う。小学校に入ってよく聞かれる「保育園出身の子は」と言われなくて済むのが嬉しい。同じ幼児教育を受けてそのまま一緒に小学校に入ればスムーズだと思う。ただ子どもの森はあくまでも主導は幼稚園であり、保育園（長時間）の子が同じ施設内の幼稚園にまとまって登降園するという形はどうかの、なんで区切る必要があるのだろうと疑問を感じる。保育園でも習い事などで早いお迎えの子が多い訳であるから、あえて分ける事なく自然に登降園すれば良いと思う。幼稚園、保育園と区別する事に抵抗を感じる。
子どもが、同じ園にいながら、いろいろなスタイルの子どもがいるのはどうか。
子どもは平等に育てられるべきなので、今後更に増えていくのではないかとおもう。ただし給食と弁当など一緒にする方が望ましいとおもう。
入園の理由が異なる子どもを同じ環境においた運営に無理を感じる。実際タイムスケジュールや、時間ごとに園服の着脱をするなど、子どもには無意味な状況が作られている。他園は「柳町子どもの森」の運営状況がよく見えておらず、異動に対しての懸念をしている。
保育時間が長い保育園は、幼稚園児が早く帰るのをうらやましく思うのではないかと。冬休み、夏休み等の長期の休みが幼稚園児にはあり、同じカリキュラムをこなすのは難しいのではないかと。
幼保一元化について、子どもへの負担はどうか不安を感じます。保護者にとっては、幼、保の両方の経験ができる利点がありますが、幼稚園から保育園に戻り、別の集団生活を、2度、味わう子どもにとっては迷いや、不安、精神的な負担があると感じます。
子どもは、適応能力があると思うが、ひとつの施設の中で（クラスの中で）「給食とお弁当の子がいる」「2時になったらお迎えにくる子と保育園に帰る子がいる」のは、子どもの精神的な発達面において影響はないのかとずっと疑問に思っている。保育園よりも子どもの数も多い幼稚園での生活で、色々な友だちと接してあそべることは、子どもの成長にとっても必要であり、利点と感じる。
子、保護者にとっての条件のちがいは、直接みえなくとも、様々に意識のちがいが起きている。又、現に保護者から直接きいている。教育（幼）養護（保）は一体であり、保育園は昔から二つを合体した保育を一日中行っている。教育を幼稚園に、ということは全くおかしいこと。
4、5歳児室が特例の部屋に使われないので、4、5歳児の発達にあった継続した環境設定ができるところが利点だと思う。4、5歳で給食の子とお弁当の子と一緒に食べるというのは、大人の都合であるし、子どもたちはどう考えているのかなと思う。ハード面だけでなくソフト面でも一元化できるよう、子どもを中心にした子どもの目線にあった保育を協力して行っていくことが大切だと思う。
同じ施設で過しているという事だが、幼稚園時間から、保育園時間になる時に先生も、過す場所も変るとの事。子どもが一日、同じ所で過せないのが問題だと思う（落ち着かないと思う）。
1日の中で、担任または関わる保育士が、いれかわる場面が多いのではないかと。一緒に遊ぶ友達同士の生活スタイルが違うことは気にならないのか？間接的にきいている状態なので、実際のところはよくわかりません。
幼稚園中心でなく、両方同じように。幼稚園児でなく、幼児園児になるといい。
見学していないので本当の様子はよくは分からないが、事前の話から判断すると、幼稚園と保育園が一緒になるということで子ども達の気持ちはどうかとを感じるが、思いすごしか。幼稚園を使用するという事で、乳児の“生活の場”ということではどうかとを感じる。
スタートして一年目。4、5歳児についてはどうしても幼稚園にあわせた展開に。子どもたちのあわただしさがあるのではないかと。保育園児（1～3歳）から幼稚園児の移行があり、保、幼の連携がはかれていないと、幼稚園のやり方が保育園のねらい、目標に干渉することはないかと。保育園は低年齢から就学前まで一クラスでいくので、幼稚園児になればクラスも増え、多様な人間関係、交流を学ぶことは成長にも必要なことである。
施設見学に行ってきたが、早朝の保育から幼稚園へ、幼稚園から保育園へ、移動が疑問。幼保一元化は、基本が、幼稚園でもなく保育園でもなく職員も子どもも同じ立場でやらなければ意味がない。基本がまちがっている。
現状を見ていないが、幼稚園主体な感はぬぐえない。同じ子どもを見る以上、幼稚園教諭も全ての時間の子どものみを公平に見るべきだと思う。長時間に保育される子の教育時間外の実態を考え、見て、初めて日中の活動が成されるのではないかと考える。
一元化と言って、職員間の一元化は難しいようですね。いろいろと苦労があるように思われます。
子どもはどんなシステムの中でも柔軟に対応して育っていくと思いますが、だからといって1日の中であっちこっちと移動させ環境をかえることは、決して良いことではありません。保育園の利点は、わからないが幼稚園児（園）にとっては小さい子との自然なかかわりが出来、経験に厚みが出ると思う。

4、5歳児にとっては同じ「教育」を受けることで、親には歓迎されると思うが、幼稚園教諭が、保育士よりも、上という感じが否定できない。午前の「教育」については教諭1、保育士1名が担任した方が1日の子どもの生活を考える上で必要だと考える。保育園（1、2、3歳）はやむをえないとしても4、5歳児の午後の保育についてはもっとゆったりとできる場所を確保してほしい。
幼稚園児との交流、様々な経験ができることは良いが、朝の受け入れやその他の生活の場所、流れなど、こまざれになっているように感じるところもあり、一日を通してゆったり過ごす安定感に欠けるように思う。同じ労働条件の中で子どもの保育を考え進めていくことが、本来の一元化であり実質は温度差があるのではないか（幼稚園として役割、立ち場、保育園として一緒に添いたいところ等）。
やり方の問題、年月かけてどういう保育園がいいか議論すべし。同じ年齢の子が育つこどもの施設という面では、やり方によっては利点がある。1つの事業をおこすにはそれ相応の話し合いが必要。箱だけつくってもダメである。
外側から見ている限り、保育園児にとっては1日の流れが細ぎれになってしまうこともあり、あまりメリットは感じられないが、幼稚園児にとっては、自分より小さい子の存在や生活習慣の細やかな指導も受けられ、メリットはあると思う。
やはり、2分化しているような印象を受ける。幼稚園の考えがもう少し歩みよるといいのだが、長年畑ちがいでやってきたプライドが邪魔をするのか、幼保一元になっていない。
幼稚園と保育園の間で、相互理解や一元化させるための準備などが充分であれば、よい影響もあると思うが、現在の文京区の園では、それがはたして充実しているのか疑問である。
幼稚園側と保育園側の共通理解が十分になされた上で、よりよいチームワークのもとに行われることが望ましい。
保育園児が日中の一定時間を幼稚園児と同じ施設で過ごすことは、別に同じ子どもどうしですすから良いことだと思います。大人の中で保育園と幼稚園としてわけて考えているから、子どものなかからもわけて考える様になってしまうのかなと思いました。協力しあって、助けあって、信頼関係を築いてほしいと思います。
親の自己満足にすぎない。保育園の4、5歳児はどうなるのですか？将来。
利点は恵まれた広々とした施設を利用できること。問題は、幼稚園関係の方が保育園を下にみていること。子どもや保護者のケアに関しては、巾広い年齢に適応しているのが保育園で、決して、幼稚園に劣ることはありません。働く女性への理解は、保育園のほうが高いです。
体験や施設見学等に行っていないので、分からない。もう少し、保育園と幼稚園での連携を固めてから実施しても良かったのではないかと考えてます。保育時間、保育体制、職員体制。子どもには、利用、利点があるかもしれないが、実際、大変な思いをしているのは両間の職員だと思います。
子どもにとっては、特に問題としては感じないが、実際子どもをみる私たちの立場としては、やはり幼稚園が主という部分を非常に強く感じる。
幼稚園の教諭と保育士とが様々なことについて話し合う時間をもっととれると、日中の時間内でも幼稚園のいいところ、保育園のいいところが合わさった内容の時間になるのではないかと思います。幼稚園と保育園全体（1つの園だけでなく）が交流をもつ場が必要なのではないかと思っています。
幼稚園、保育園と性質の違う施設を一緒にすることに何の意味があるのか理解できない。
幼保の管轄の違いで子どもが施設内を行ったりきたりするのどうかなと思います。働く保育士にとっても同様なことがいえると思います。
実際、幼児クラスになると午睡が嫌な子が増える中、幼稚園の子はひるねせず、迎えが来て園庭で遊ぶが、保育園児は着替えをし、午睡をするという、子どもの心のケアやストレスをどう考えているのか疑問に思う。
子どもにとってはみんな同じ子どもであるが、生活時間帯が違うことにより、差別感が生まれえないような配慮が必要である。今の柳町には制度上限界がある。職員体制が大きなネックである。
給食、お昼寝など特別な問題はあります。
幼保一元化は、同じ立場に立って子どもをみていく必要があると思います。幼稚園が主でも保育園が主でもなく、1つのものをつくっていく必要があると感じています。
“幼保一元化施設”ということで施設を設けるのなら、「保育園児」「幼稚園児」と分けた考え方はせず、両施設の要素を合わせた施設を作るべきだと思う。保育時間は早朝～延長まで。給食、午睡あり。午前中には課題保育（教育）あり。入園条件として、両親の就労は問わないが、両親共働きでない場合は残留保育には入らず降園する etc。
保育園と幼稚園では法律も違うので、保育に欠ける子どもを保育するのと、学校教育法に基づく幼稚園では違ってしまう。お互いの良いところをうまく融合し、お互いが納得できる事を完璧に作成し、基盤をしっかりとしなければならないと思う。全く新しいものとして受け入れる必要があると思う。
幼児教育の統一は良いと考えるが、教育だけでなく、生活時間ととらえる園生活の中では「柳町こどもの森」では保育園児（長時間児）が“ホッ”とできる場所がないように感じられる。幼稚園主動型でなく、幼、保ともに、同じ立場に立った施設が必要だと感じています。
やはり食事の時間が気になる（お弁当の子と給食の子と一緒に食べるということ）。夕方は幼稚園部分では過ごせず、何となくイソウロウのようなイメージがあるが…どうなのだろう。幼稚園と保育園の垣根をとり除いていかないといけないのではないかと。朝、夕の保育を保育士が少ない人数で当番をこなすのは負担が大きすぎる。保育園は幼稚園よりワンランク下に見ている→意識改革をして欲しい。
今年度よりはじまったばかりですが、柳町こどもの森の職員が頑張っている事はよく耳にします。幼保一元化を是非成功させてほしいものです。ですが、文部科学省と厚生労働省の壁をなんとかかしたいものです。

問題と思うか斬新と思うのか、難しいですよネ。子どもたちが大きくなって思いだした時に「たのしかった」と言うのか「嫌だった」というのか。例えば、同じテーブルで、お弁当を食べるお子さんと給食を食べるお子さんの5歳の思い等。
自分が経験していないのでわかりません。ただ同じように生活していて給食、お弁当、午睡の有無など、子どもの目にもあきらかな差異を子どもの心が（自分でえられない差なので）どのように感じるのかは心配です。子どもは抽象的なことを説明する力が、まだ乏しいので表面的にはわかりにくい点だと思います。だからこそ不要な差異はつけないとは思いますが、推進する方々はどのように考えているのか知りたいです。
同じ場所で遊ぶ分には、人数も多くなり楽しく過ごせるとは思います。一定時間外について、保育園と幼稚園という違いが子ども達には理解できないのではないかと思います。
どの子もお迎えを待っている気持ちは同じだと思うので、早くにお迎えが来た子を、どんな気持ちで見送るのか…とそれが切ないです。お弁当の子と給食の子、どちらがいいとは言えませんが…食事指導も難しいのではないかと思います。
状況の把握が出来ないので詳しくはわかりませんが、幼稚園児の長時間保育児は一日のうちで職員が何人も変わることは、どうなのでしょう。「就学前教育」が必要といわれていますが、就学前教育とは何なのでしょう。保育園は幼稚園より一段下にとらえられているようですが本当にそうなのでしょう。
朝から夕方まで一貫して保育している公立保育園と違い、同じ友だち同士なのに、立場が違うというのは、子どもは不平等感を感じるのではないかと思います。4、5歳児の子どもたちにとっては、集団が大きくなる事のメリットはあるが、3歳児クラスの子どものたちにとっては不安定な要素が多いのではないかと思います。
幼稚園、保育園が連絡を密に、お互いがいいところを認め合い「子どもが今一番何を求め、何を必要としているのか?」「どんな子どもに育てたいのか」を確認し合っていく事が前提だが、まだ始まったばかりで色々問題も出ていると思う。
私は直接、そこで働いている方の話しを聞く事はないのですが、とても大変な様な気がします（保育園と幼稚園の違いは大きいので）。
生活が主と考える保育園と、教育を主とした幼稚園がスムーズに行えるようになるには時間がかかると思う。子どもにとっては育つ環境は、同じだと思う。大人がどう子ども達に接していくのが大切だと思う。三歳児もコアタイムを行っているが、個々の育ちをしっかりとらえ、無理のない保育が行えるようにしなければいけないと思う。
3歳児が中途半端な存在である。保育園ではすべての年齢と何らかの形で一日の保育の中で、関わっているから、毎日子どもから学びとることが出来るが、子どもの森では、3歳は別で、4、5歳との交流もないように感じられた。教育だけでなく、生活全般に関わって子どもは育つので、その点では保育園に比べ弱いのではないかと。
もう少し時間をかけて考えたい。
同じ施設の中で、子ども達の生活が別々であったり違ったりすることが、子ども達にはどううつっているのか、それが今後、成長にどう影響するのかがとても心配するところである。
色々な子どもと接する機会があってよいと思うが、長時間保育に入る子ども達が時間によって、あちこちの部屋を移動し、職員の入れ替わりも多いのでは落ちついて生活ができないのではないかと。
内容を聞いていると、幼保一元化ではなく、保育園は幼稚園のお手伝いなのでは?と思うところが多い。理想と現実のギャップが大きすぎる。職員の待遇改善とか、子どもは平等にとか、一般に知られていない。マイナスの部分きちんと把握してほしい。今は、幼稚園の教育要領も保育園の保育指針内容もほぼ同じである。保育園にとってのメリットはないように思える。利点というものは、今のやり方だと感じられない。
基本保育時間帯は教諭しか保育できない。朝、夕方の当番は保育士がやるので少人数で対応する大変さ。長時間保育児の部屋がなくホールのすみにコーナーを作って使用（ホールは多目的で使用のため）。メリットとしては保育園にはない園庭の広さとプールの大きさ。
幼保一元化施設でも、1日の生活がこまぎれにならず、その中で幼稚園の教育システムを取り入れるような方法であれば、子どもの生活とあそびが保障されていくと思いますが、柳町子どもの森のように朝、保育園に登園（早朝保育の子は）してそれからまた幼稚園に出かけ、保育園に帰ってくるという流れでは、子どもの生活がぶつぶつと切れていって、子どもの気持ちにそった保育はなかなか難しくなるのではないのでしょうか?また、遊びがのってきた途中で移動することもあると思います。何のために、誰のために、幼保一元化施設を作るのかよく分りません。子どもにとってどうなのかを考えてほしいと思います。
一番の問題は、カリキュラムが違うことだと思う。時間的な問題もある。食事も同じ献立のようだが民間委託なので、きめ細かさが無いと思う。利点は考えられないが予算のちがいがあろうか。
子どもはみんな一緒に、はたから見分にはとてもいいことだと思う。条件を整えば…。保護者は満足するかも。
幼稚園、保育園と管轄は違いますが、同じくらい年齢の子ども達同士なので、お互いに良い影響を与えていると思います。ただ、管轄の違いから職員の仕事の面で大変だと思います。現に当番がうまくまわらず、すべて保育士ががんばって行っているとうかがっています（早番はかろうじて、幼稚園の先生も行ってくださるみたいですが…）。同じ園で同じ子ども達をみているはずなのに、おかしいですよネ。
同じ施設で行うならば、同じデイリープログラムで同じ保育をうける。今のように差があったり区切りがある保育は、子どもにとっても差別区別を教えるだけである。
幼保一元化で何がしたいのかよくわからない。幼稚園が毎日教育的なことばかりやっているわけではなく、自由保育をしているし、保育園でも、いろいろな活動を工夫して行っている。どちらの職員も、子どものことを考えて保育をしているのだと自信をもっているとは思いますが、お互いの仕事をよく知らずにお互いを軽んじている部分もあると思う。もっと幼・保の相互理解が必要であり、それからでないとうまく機能しないのではないかと。

<p>実際みていないのでよくわからないが、人数の多さに子どもが落ちつかないと思う。</p>
<p>保育園と幼稚園の違いは歴然とあり、メリットはあまり考えられません。保育園児があちらこちらと一日の中で動き、「生活そのもの」がおちつかない中では、幼稚園でのよい体験ですら子どもの中で上手に受けとめられていくのか疑問です。</p>
<p>保育園とはまた違った刺激を受けるので、色々な子どもとかかわるという点ではメリットはあると思うが、求めているものが違うので先生同士、考えがちがったり難しいものもあると思う（休みのとり方・体制なども含めて）。</p>
<p>教育を求める親には、とても良いのでは？一元化になっていけば幼稚園への移行もスムーズなのではないか？</p>
<p>新しい試みだと思います。実際に働いている職員よりこちらにも利点や問題点を聞いてみたい。</p>
<p>新しい形の園として細かく考えてつくれば良いが、幼稚園のやり方を崩さずそこに保育園の要素を加えるのは無理がある。</p>
<p>幼稚園と保育園、自分なりのイメージをもっている人がいて、幼稚園の方がいいという人もいると思うので、幼稚園児も保育園児もわけへだてなく同環境で保育されるならば、問題ないと思う。幼稚園の職員の気持ちの改善が必要だと思う。</p>
<p>利点もあるが、保育園の子どもにとって幼稚園の子どもへの早いお迎えは、さびしい…と思わせる事にもなるのではないかと…との考えもある様です。</p>
<p>幼稚園児と過ごすことは悪いことではないと思う。しかし、柳町のように幼稚園中心になると、幼保一元にした意味がよく分からない。お互いの良いところを尊重し合うべきではないかと思う。</p>
<p>幼保一元ではなく、幼が主で保が前後のあずかり保育としているという印象あり。今のままの運営では問題多いと思う。</p>
<p>文部と厚生との壁は大きいですね。国ベースの問題。解決が必要だと思います。</p>
<p>あまり意味のある事だとは思いません。どの様なスタイルで生活しているのかはわかりませんが、保育園と幼稚園は目的が別のものだと思います。保育園と幼稚園がある一日、交流の為、ふれあい保育をする事等は意味があると思いますが、幼保一元化については私は反対です。</p>
<p>保育園児が後から付いている感じがするので一緒にすべきでないと思う。同じ場所でやる必要があるのか？</p>
<p>同じところで、2つの時間をともにする子どもたち。幼い時から格差を感じさせる事はない。みんな同じ。1人1人が大事にされている事をおかんじさせない保育は、どうかと思う。利点はない。あるとすれば親にだけだと思う。</p>
<p>今後の新しい施設ということで、幼稚園のよさ、保育園のよさをミックスさせて、また新しい物ができるのではないかと？</p>
<p>基本的に疑問を感じています。利点として広い庭があること。時間になると幼稚服に着替えて過ごすことにどれだけのメリットがあるのでしょうか。保育園の幼児クラスの中では、子どもの発達はきちんとみて関わっているはずですが、遊びの中で教育はなされているのです。それを否定した幼稚園教育とはいったいなんなのでしょう。</p>
<p>保育園では受けられない刺激はあり、経験にはよいかもしれないが、人や場所が一日のうちにあちこち変わるのはいいことではないと思う。</p>
<p>難しさばかりが思いうかんで、利点が浮かんできません。</p>
<p>幼稚園の職員と保育園の職員との仕事の内容でわけることができないので、それぞれ仕事に慣れるまで、やはりたいへんだと思う。又、大人の人数もゆったりいるとちがうのかもしれない。</p>
<p>現場にいないのでわからないが、子どもにとって負担はないのかなと思う。</p>
<p>給食とお弁当、午睡の子と降園の子等、一緒に生活しているのに分け隔てがあるので、利点を感じません。</p>
<p>幼稚園と保育園の生活サイクルが違うので（幼稚園的な教育カリキュラムが受けられるのは良い事だと思いますが）、一緒に過ごすことは、どうなのか疑問です。幼保一元化と言っても、主導権は幼稚園側にあつて、あまり平等な感じがしないような気がします。</p>
<p>利点、同年齢の子どもたちと生活ができる。</p>
<p>幼稚園教育と保育を同じ場で行うことは、子どもにとりどうなのか。1～3歳までは従来の保育の中で、4、5歳の異年齢に囲まれ自然な関わりが持てると思います。4、5歳児には登園から保育と日中のコアタイムに分かれたり、合流の時間がシステムとしてあり、両者の気持ちはどうなのか気になります。でも、子どもたちはコアタイム、食事（給食、お弁当）、行事などどんな環境にも慣れていくでしょう。今年は、職員、保護者にとり試練の1年目ではないでしょうか。はじめてのことには、当然問題が生じます。幼稚園、保育園どちらも子どもの事を考え、両方の職員の良い関係に結果として、一緒に過ごす利点が具体的に見えてくると思います。</p>
<p>柳町のように、もともと幼稚園であったところに保育園を組み込むという形だと、幼と保の間の差別化につながる点が出てくると思う。幼保一元施設はまっさらな所に新しく計画し、つくり、幼、保の意識の上での差をなくしていくようにしてほしい。</p>
<p>現在の保育形態については疑問。子どもの園生活の中で一日に何回も切替えのため、あそびを中断し幼稚園へ行く、保育園に戻る儀式は如何なものか。一元化は幼稚園児にとっても長時間保育の子にとっても、発達の保障ができるように更に考えていくことが必要。</p>
<p>他の自治体で実施しているように、建物を別棟にするなど、幼稚園と保育園の部分を明確にわけて保育することが望ましいと思う。</p>
<p>幼保が一緒になり、お互いのよいところが一緒になっていけば良いと思うが、一緒になっても、各々がうまく一緒になれていないと、意味がないと思う。</p>

保育園生活では、1日の流れがゆっくりと出来たりするが、幼保一元化など幼児の子たちは活動がきれてしまい、子どもの負担になっているような気がする。
子どもにとっての利点、問題については、実際に見たことがないので意見は出来ないが、幼稚園教諭と保育士の待遇などが、だいぶ、差があるようなので、その辺のことを、もう少し考慮してもらいたい。
お互いにみえること、みえないことの相互の理解が生まれるのではないかな。
幼保園の問題点は、保育園児が一定時間を幼稚園児と過ごすということではなく、子どもは生活そのものの中で育てており、一日の生活の流れをトータルに考える保育園と、教育としてのカリキュラムの中、限られた時間内を考える幼稚園とでは、とらえ方（子どもの生活と成長）が違っており、その点から幼保園では、子ども達の生活がこま切れになってしまうことが、子どもにとってどうなのか？と疑問に感じてしまいます。
幼稚園の先生と保育士との意見の疎通や理解や協力が難しそう。保育と教育のとらえ方の認識の違いなど。
幼保はいいが、幼稚園の職員と保育園の職員の労働条件の差はおかしい。子どもが平等であり、育てる環境を考える大人が平等でないのは、働く者の心の不満が出ないか心配！
今のやり方は、ただ、幼稚園と一緒にしただけで利点があると思えない。
疲れるのではないかなと思う。幼稚園の子が家に帰りホッとしている時も集団で過ごさなくてはならない。集団の良さもあるが、一人一人が受け入れられ自分のペースで過ごせるのも大切。
具体的にその保育に関わっているわけではないのでわかりませんが、それ程、利点のあることには、思えないのが現状です。保育園の保育の中でも十分に培えることと思います・・・。
一日の流れの中で、同じ場所で違いのある教育と保育を受けることの影響については、これから検証されるべきである。
あまり実感が無いので、よくわからないが、子ども同士では、幼稚園児、保育園児というように意識はしていないと思うので、自由に行き来し、好きな遊び（お勉強の要素のものでも）を好きな時にするのはいいと思う。人数の管理は、どうしているのか気になる（けがや1日の様子を保護者に伝える時なども）。

#### (15)【設問(23)】「認定子ども園」に対する意見

子ども自身が守られていない。
何事においても行政は周りの環境整備、条件整備が整う前にスタートしてしまうので、目先だけではなく10年20年後の流れを見越し、スタートして欲しい。育てる側の大人に有利な事ばかり、いい事になり、「子どもにとって」は表向きだけという感じが、否めない。本当に将来的に子どもにとって何が必要なのか、私たちも見抜く力がなければいけない。
しっかりとした条例ができないまま、どんどんできてしまう事が心配だ。金儲けのために子ども園を作ろうとする企業なども出てくるのではないかなと思ってしまう。
劣悪な条件で作るものだとすれば、反対である。作るのであれば、しっかり条件を整えて、子どもに望ましいものを作って欲しい。
認定子ども園での最低基準を見直すべきだと思う。子どもたちによりよい保育の場所となる様にして欲しい。
「認定子ども園」としての好ましい状況が維持できるようであれば、必要なだけ作って欲しいと思う。
認定子ども園には反対する。なぜなら条件の悪中で営利主義目的のために自由に保育の枠を決められることは、保育中の格差を生むように思える。保育が商業化することはあってはならない。
いろいろな形態の施設が出来、選択の幅が出来るのは良いことだと思う。地域の状況に応じて、対応できる点において保育内容も柔軟に出来る。
子どもにとっての視点で考えてほしい。
地域における子育て支援や就学前の子どもに幼児教育、保育を提供する事はよいことだと思う。幼稚園、保育園の互いの役割をはっきりさせ、話を進めていかないといけない。親にとってはとても都合のいい施設だと思う。
今の国基準よりも低くなるのではないかな。
基準の見直しが必要。
子どもの育ちについて、取り組みだし、いかにサービスを提供するかなど、預ける側のサービスに寄りがちの傾向があり、「子どもにとって」の部分に欠けるような感じを受ける。保育基準もギリギリという点、ゆとりある保育（人員確保）においても、経験豊かな層やつながり保育をする上でも、公立、都や国が責任転嫁をするのではなく、行政として、保育を進めるべきであると思う。
子ども達の危機管理の面、衛生。病児など、全てを満たすものにしてほしい。
子ども35人に対して保育士1人という低い基準。給食の外部購入も認めているが、現行の許可保育所水準を下まわらないようにしてほしい。
第三者のチェック機能をしっかりしてほしいです。
開園における設置条件が緩和されることに重きをおいて、保育の質の低下につながることをないようにしてほしい。
子どもをとりまく最低基準がどんどん崩されていくようで心配です。
大人の都合だけでなく、子どもの立場に立った考え方をすべきだと思います。子どもにとってよいとは言えません。

子ども対保育士の人数や環境面についても現在より悪くなるとのこと。子どもの問題は、年々増えてきているので、ただ、あずかり見ていけばよいのではなく、今後この日本をささえていく子ども達を育てていくには、良い保育を与えていく必要がある。現在の日本は、親の希望の方が強くなり、実際に預けられる子どものことは、考えていないと思われる。
前述したように親子の関係がしっかりしていれば・・・親が預けっぱなしにしなければ、どんな形でもかまわないと思う。しかし、預かる側の保障は必要！条件は、働く者として親と一緒に！家庭のある保育士のことも考えて。職場の“母”の位置を考え直すべき！！もちろん育児休暇をとる“男の人”がもっと増えると良いと思う。女性の社会進出とともに・・・。
幼稚園と保育園が同一の条件となり、スタートできる様にいろいろな条件や条例を定めてほしい。
ハードルが下がり、本当に利用しやすい施設になるのか？やはり、企業が入ることでは営利目的につながったり、ひとりひとりに合った保育は出来ないのではないのか？ 犯罪が多発している中、全国的に子どもにもっと力を入れていくべきだと思う。
子どもが健やかに安全に、かつ、保護者が安心して預けられる環境（人的にも）を整えてほしい。
最低基準がどんどん低くなり、責任の所在があいまいになってゆくこともあり、子どもには手を充分かけて、乳・幼児期、心をはぐくむことを大切にしたい。利益に走ってしまわないだろうか（競争しても高まらない）。
基準の引き下げにつながらないようにしてほしい。
子育て支援が、営利目的にならないようにしてほしい。国は、予算をしっかりとつけてほしい。
認定こども園もやってみて初めて問題点や利点が見えてくるのだと思う。
働く職員の労働条件を整備して、現在行っている保育の質を低下させないような施設にしてほしい。
どういった形の物か、もっと作る段階で公開していければ良いと思う。
“子どもにとって”を何よりも一番に考えてください！子どもの栄養摂取値は、給食のおかげで高い。絶対に調理室は設置すること！各年齢に本当に見合った集団の人数と保育士の人数をつけてください（自分の子どもが、3歳児35人の中にいて、保育士 or 教諭1人で本当に安心できますか？）。
やすあがり。幼保一元。子ども達にとっての環境づくりを考えてほしい。
子どもの成長に手や面積などかかるのは当然なので、基準を下げないでほしい。
内容が不透明な分、子どもにとってどうなのかがみえにくい。子どもの立場に立ち、育つ環境を整えられる施設であるかどうか今後ともみていきたい。
何を基準にして認定しているのかを公にしてほしい。
保育料の差。やる気はあっても、経験のない職員。
「認定こども園」についての知識があまりなく、的確な意見にならず、すみません。公立保育園では、常に、保育の質を第一に考えてきました。保育活動も、“子どもにとって良いこと”を第一に考えて行ってきたと思いますが、同じように、専門性のある、質の高い保育を「認定こども園」でも受けられるのでしょうか。
様々な形で「認定こども園」が語られている。先日、機会があり、保育園に幼稚園が合体する形をとるタイプとの話があった。午後は、幼稚園教諭が指導してくれたり、業者委託で、スイミング、バレエなど行くようになっていくという。残ってしまう子の身になってほしい。
保育園と幼稚園の基準の低い方にあわせてつくるものとは、意味があるのか。今の世の中、子どもの問題が多々ある中、もっと、子どもの成長、発達をしっかり考えた上で、考え直してもらいたい。
直接契約や、調理室など必置でないことなどが心配。
個人的には反対ですが、世の中の動きが変わってきている昨今、今は何とも言えません。
利益中心の保育事業があってはいけない。行政がちゃんと保障し、子どもを育てるべきである。文化を伝えていけるような保育園に、ゆとりある保育や環境も必要。
幼稚園の生き残りの対策と思える。保育士の数、広さなど、基準がなしくずし。 保護者の直接契約も問題である。すべてお金を払えばいろいろな指導を受け入れるようなシステムになるのは問題。 現在の保育園が一定の保育施策の提供や保育内容の見直しを行っていくことで、いろいろ問題の多い「認定こども園」が増えていかないような対策をする必要あり。
認定こども園の制度をしっかり決める。予算を下げるのではなく、幼保複合で作るのであれば、今まで大切に守られてきた基準は良い方に合わせていくべきではないか。
経験年数のある保育士が中心となる園作りが必要。保護者の要求ばかりではなく、子どもの立場に立った保育園作りを目指してほしい。
いろいろなアイデアで規制を取り払った施設といえるが、誰でも制限なく利用しやすいことが子どもにとって悪条件にならないことを祈っている。
子どもたちを競争の中で育てるのはおかしいと思う。親の経済状況により、保育の質が変わってしまうことに疑問。子どもたちの育ちをどの子も平等に与えられる場が、保育園でありたい。
何も知らない人にとってはよく見えるかもしれないが、根底にあるものは、本当に子どものことを第一に考えているのか疑問である。

幼稚園に保育園が設置される第一型については考えられるが、幼稚園も認可保育園としてのハードルを（最低基準）超えてほしい。長時間過ごす場として十分な研修とハード面の準備が必要である。家庭で過ごす子どもの保護は大事である。働いている親、働いていない人の垣根を取り払う対応が求められる。また直接契約については問題と思われる。保育園型は、本当に必要な人が入れない場合が生じるのでは。待機児解消を子どもが少なくなった幼稚園が手伝う形であるがとても危険である。親は「教育」という言葉に弱く、数年後には保育園が姿を消すことも考えられる。
働く保育士と子どもの関係がきちんと整っているものであってほしいと思います。利用しやすいだけのものではない施設が望ましいと思います。
子どもの視点に立って考えてほしい。
3歳児35人に対し1人など、保育の質を下げる園に思えるので、反対である。給食なども外部搬入があり、心配である。
認定子ども園ができてしまうとすれば、基準をきちんと設け、チェックする機会を多くすることが必要だと思う。
新しい名称でいろいろ作ればよいとは思わない。まずは原点に帰って、保育園というものを考えなければいけないと思うのだけれど…。
誰もが預けられる保育園という点では賛成だが、問題なのは、職員や子どもの配置基準や施設基準が低すぎることで、また直接入所契約や補助金の問題など、行政の責任があいまいすぎることで、社会全体での子育て支援をうたうなら、個人の経済状況や施設のサービス任せにしないで、誰もが同じレベルのサービスを受けられる、一定水準の施設を、まず行政が作るべきでしょう。子育てはサービスを買うのではなく、社会の責任で金をかけるべきだと思う。
現行の認可基準よりも低い基準での認定を認めないという、都道府県の高い認定基準が作られることが大切と考える。自治体が、保育所の整備と保育料の適正な設定に責任を負わなくてもいいようになった場合の問題も多く考えられる（ガイドラインにある「～であることが望ましい」という基準の場合、“それ以下でもかまわない”とも判断できてしまう）。
保育時間や職場体制などが気になります。前にも述べたように、子どもたちの一日の保育時間があまりに長時間にならないこと、子どもと保護者の親子のコミュニケーションの時間の保障ができることは、未来ある子どもたちにとって大切であってほしいと思います。職員の体制もよりよい条件整備をしていただかなければ、保育へ（子どもたちへ）影響することが心配されます。低年齢であれば、ある程度マンツーマンの関わりが良いことは、子ども相手の仕事をしていたらわかる（実感する）ことだと思います。条件を整え将来の子どもたちのことを考えた上での実施をお願いしたいと思います。
全体像が見えてこないで、その点を明確にさせていただきたいです。また、民間投げ売りとならないことを望みます。
保育士の配置など基準が最低すぎて本当に子どものことを考えているのかと憤りを感じます。
利益重視にならずに、子どもの権利が守られて保育されることを望みます。
反対です。子どもは条件がある中で、職員、カリキュラムがある中で、成長を促し、育てていくことが大切です。守られて（権利に）育つことが大切だと思います。
国の最低基準は、大変低いものだと思います。その基準のもっと低い方にあわせるような施設をつくり、どんな子どもを育てようと思っているのでしょうか。子どもはマニュアルで育つわけではありません。目をかけ、手をかけ育てるためには、保育者のかかわりは大変大きいものだと思います。今、小学校、中学校でのいろいろな問題がおこってきていますが、基本は「自分のことがすき」「悪い部分も含めて許せる心」「だから人のことも好き」そんな子どもに育てる必要があるのではないのでしょうか。それは乳幼児期に係ってくることでと思います。保護者への支援も含めて、現在作ろうとしている認定子ども園の基準でそれは可能なのでしょうか。疑問です。
子どものためにと意識が薄くてイヤです。結局は証認もこの中に含め証認型を受け入れ、規制緩和しているとしか思えません。
“子どもを預けられればよい” “子どもにとっての良い環境ということが全く考えられていない” “親の便利だけ” という園が作られていくのは非常に問題だと思う。
基準があますぎるようである。子どもの生活を保っていくのであれば、現状かそれプラスで施設を作ってもらいたい。
少子化の反面、保育ニーズは益々増えている中、保育施設が出来るのは良いと思いますが、やはり、区立保育園を基本に施設や職員配置を考えて作ってほしいと思います。子どもの為の保育園を！
名称を色々変えず、方針を一本化してほしいと思う。あれやこれやとやりすぎだし、子どもにとって本当にいいことだと思っているのか考え直してほしいと思う。
配置基準の緩和になり、結局ふたを開けたら子どもにとって大人の手がうすくなるというのは問題、その見極めを職員も親もしっかりとしていかなければならない。
区立の保育園の条件と同じような環境（人的、物的含め）、保育士の配置とレベルを望みます。
子どもを保育する施設はお金がかかるのは当然だと考える。無認可で頑張っているのに、認定が付けば無認可より良いのが疑問である。
待機児解消や、子どもの人数が少なくなったためと考えるだけでなく、やはり子どもを保育する上で重要なことがあると思っています。やはり、きちんとした保育体制をとってからのスタートにしてもらいたいです。
不勉強のため詳しいことはよく分かりませんが、基準を低くし、園を作りやすくするというのは、大変危険であり、あまり好ましくないような気がします。ただ、本当に不勉強なため、何かしら良い部分もあるのかもしれない。
人件費を安くする為に作られる事には、賛成できない。

施設について、頻繁に話し合いはされている。しかし、子どもに関しては何も話されていない。将来を担う子どもをどのように育てていくかをまず、話し合っしてほしい。いかに、親や行政がやりやすいように行うかではなく、子どもにとって良い施設を作っしてほしい。
認定こども園は待機児解消が主な目的なので、あえていろいろ複雑にせず、ただ保育園を増やせば済む事を単純に考える。こども園誕生によって公的な保育制度がどんどん崩れていくのではないかと懸念される。本当に子どもの幸福を第一に考えるならば、やはり保育園を増やし充実させていく事だと思う。
保護者にとって、子どもを育てる施設を自由に選択できることは良のですが、職員配置、資格、施設整備、研修のありかた、カリキュラムの共通化など、幼児期が人間形成の基礎を培う重要な時期である事から考えて、保育の質を下げない様に考えられた規定を望んでいます。
条件が低下する認定こども園については反対です。保育の質の低下につながります。
子どもの側からみるとのぞましいとは思えない。
子どもを収容するというだけで、子どもにとって望ましい環境ではないと考える。
十分に内容を検討し、どのような形で運営していくのか明確にし、職員、保護者の賛同を得てから、決定してほしい。
規制が緩和され、一人の保育士がより多くの子を見守る必要が出てくる状況になるということは、一人ひとりを大切に、一人ひとりに寄り添うことが難しくなる事が予測できます。子どもの育ちに責任を担っている者として一人ひとりの子、そして保護者へのケアがどこまでできるか心配です。
子どもが十分に体を動かして遊べるスペースを作っ欲しい。たとえば園庭、それが無理なら近所に公園がある所。
反対である(預るだけで子どもの身心の成長を考えた制度ではない。しっかり見守るための人、環境の条件が必要である。子どもが小さければ小さいほど、ゆとりのある環境が必要、プロイラーで子どもの心は育てられない。
子どもは、保育園で安全の中で守られ、生活しています。もし認定こども園が作られたとしたら、今ある基準がなくなり、子どもの安全で健全な保育ができるのか疑問に思います。保育は子ども1人ひとりを把握していかなければなりません。基準がなくなれば保育の質も低下させることとなります。認定こども園設立は絶対に反対です。必ず、公設公営で正規の職員で保育すべきです。そして基準をなくさず、守るべきです。
日本の保育の良い所は「国や自治体の責任で子どもの施設の最低基準を決めている」所にあるのに、保育園と幼稚園の低い基準に合わせて保育基準を決めて安上がり保育を作ろうとしたり、直接契約や調理室がなくても認定される等保育の市場化になっている。保育はサービス事業ではなく、これからの世の中を担っていく子どもたちを育てていく大切な所なのだから、しっかりと施設面、人件費、保育内容には手をかけてほしいと強く願っている。調理室がなく、アレルギーの子はどうするのか、食育は育つのかと疑問に思う。又、3歳児35名を1人の担任が保育するには不安を感じる。3歳児は乳児と幼児の間にいる子どもたちなのに、甘えや自己主張をひとりひとりしっかりと受け入れてあげることができなくなる。「一人ひとりを大切にしたい保育」ができなくなるのは、やる前からわかっていることである。不安、心配だらけの「認定こども園」を作り、子どもたちにとって、どんなメリットがあるのか、心と身体は育つのかとても疑問であり、話が白紙になることを願っている。
全て、よい条件、環境はない。子に就学前の教育差別があっはいけない＝(保護者が直接ケアできる、というシステムにより)市場化以外の何ものでもない。
今まで厳しい基準が設けられていたのは、子どもの発達を保障する為にたくさんの手をかけてきていたのに、安易に緩和されてしまうのは、残念なことと思う。
現在小学校ですら少人数制をかかげているのに、認定こども園の定員数が3歳児35人に1人では多いと思う。
子ども生活、活動を中心に考えたプログラムを毎年反省の基に作っ行った方が良くと思う。
保護者の就労にいい園でない、子どもにとって“いい園”になるといいと思います。
保育に欠ける子、そうでない子、どの子も同じ様に育っていく、手伝いをしていくことは大事だが、すべてのことを完璧にしようとするとう無理がいく。ある程度の親の希望も取り入れていく必要はあると思われるが、こども園については賛成出来ない(親の要望だけを取り上げていくという考えの中で)。
保護者の選択肢が広がるという点では良いが、子どもたちが長時間過す保育園は専門分野のスタッフが一日を通して保育を行うべきだと考える。保育園の機能は、ハード、ソフト面ともに独立させたい。
公的な立場で園を増やすべきと考え、認定こども園は反対です。
やはりきちんとした予算が子どもにとられ、施設、職員等の補助金を区がきちんと出すべきだと考える。
予算をけずらず、きちんとした人間をつくる。外枠をつくって中身なしに(予算)今の形だとなりがちと思う。
幼保が一緒になることで基準が低い方に合わせられることがある。大人1人に対しての子ども数も増えるし、給食室の設置もなくなるのではないかとということが心配される。
子どもにとっての保育環境や人的配置がなされていないように思う。保護者が子どもを預けたいという要望を満たすことを第一に考えているように思う。
これからの将来を担う子ども達の環境づくりには、コストを優先させるのではなく、十分な人的配置をして欲しい。
やはり、子どもは未来をになう、その子どもを育てる立場の保育士の労働条件も豊かでないと、心は心を育てられない。
条件整備及びきちんとしたガイドラインを作成。全国どこでも同じ基準のもとで豊かな保育が受けられることが望ましい。

必要であるから作られようとしていると思うが、やはり保育水準、基準は低くしないで欲しいと思う。
柳町のように、幼稚園に保育園がプラスされるのではなく、スタートから同等な立場で作りに上げていかないと、いつまでも「保育園児」（長時間保育）は、かわいそうな見方は減らないと思います。
子どもの定員のことを考えると、小学校でも1クラスの人数を減らそうとしている時代に、多くなる方向に進んでいることに疑問を感じます。小学校よりも長い時間を過ごす子どもも多いと思います。人数が多いと、工夫はするにしても、どうしてもストレスを感じることは（大人でもそうであるように）子どもにもあるのではないかと考えています。
条件をきちんとして欲しいです。
人をきちんと配置してほしい。また基準をもっと上げて、幼・保の子どもにとって「いいとこどり」にしてほしい。
ベテランの保育士はいるか、又、給料が安くて保育士が定着せず落ち着かないのではないか。スペースは守られているか。
施設内容、職員がきちんと配置され、あずけられる子どもにとって、安心出来る場所であればよいので、開園されていないので意見はない。
基準の低い方に合わせるという認定園は保育の質が問題である。
公務員だからこそできる保育園（保育）があると思います。子ども達はいろいろな年齢層の中で育てられるべきです。
人的な配置への配慮がたりないと感じています。
施設のあり方については賛成も反対もしないが、保護者に選択肢の1つとして有っても良いと思う。
小学校就学前の子ども達を幼稚園、保育園の区別なく同じ育ちの経験をさせるのは必要だと考えます。次世代を担う子ども達ですので、予算を削らず、十分な幼児教育を受けられる場としていけたら良いと思います（以前の総合施設では、予算の少ない方へとの動きがあったので）。
（利用料を安くする為に人権費を安くすると…）今は、いろいろなニーズの子が増えている。グレーゾーンの子や、気になる子どもとも多くなっているように思う。又、少年犯罪の低年齢化などの社会現象もある。そんな中で、子どもをきちんと保育できるだけのキャリアがある人材を揃えられるのだろうか。
公立保育園が充実していれば、認定子ども園は不要なのでしょうか？それとも選択の幅ですか？
何十年も前の「最低基準」を現代社会の中で真剣に見直してから、新しいとりにくみをして下さい！！
文部科学省と厚生労働省にまたがって所管されることは大きな問題です。中途半端な施策だと思います。保育の質の低下につながっていくのは明らかです。
認定子ども園はこれから勉強していきたいと思いますが、安あがり保育以外の何ものでもない！！子育てにお金と人手をかけないで、子育て支援など出来る訳がない。税金を払っている保護者の方は声を大にしてほしい。3歳児35人に1人なんて…。えらい人の考えることは現場とかけ離れていて、ついていけない。この条件でできるかどうかやってみて下さいよ。もう最低ですね。
認定子ども園は、保育所と幼稚園の機能を一緒に持っている。一元化した保育施設ということだが、設置の基準や水準をそれぞれ現行の幼稚園と保育園に関する規制のどちらかゆるい方の水準以下とし、企業が入りやすくするためにハードルを低く下げているのが問題であり、できるだけ安い保育料で誰でも利用できるという公的保育制度を崩すと思う。
待機児解消、地域における子育て支援等は少しは出来ると思うが、就学前の子ども達の教育というところでは、今保育園でも、あそびの中で、やっていると思うが…。
「子どもを、預ってもらえばいい」という時代ではないと思います。確かに、今就労している女性は多く、保育園に入れないお子さんは多いのですが、3歳児35人を1人でみるというのはどうなのでしょう？子どもの成長、発達は保障されるのでしょうか？疑問です。
幼稚園と保育園のそれぞれの特性、両方を、うまく生かすことができれば良い。
教育や保育まで市場化され、サービス合戦や合理化を追求することは「子どもの最善の利益」を一番に考えた保育とは言えないと思います。子どもが望んでいるのでしょうか？親や大人のためのサービス業になってしまっているのでしょうか？現場を知らない人たちが考える保育政策が子どものための良い方向になっていくとは思えません。3歳児35人1人担任も、直接契約制も反対です。
国の考えは一見、全ての子どもに等しく就学前教育が受けられ、理想的に思えるが、施設が運営していく上では、保護者の利用料の有無によっては格差が今以上に広がるのではないか。
人間を育てる為には人の手が必要であることを前提に考えてほしい。
条件整備をしっかりとしてから行うべきであると思います。
3歳児、35名を1人の職員でみなければならぬ、保育料を施設が自由設定にしてよいなど、問題点はとても多いと思う。きめ細やかな保育はできないと思う。けがをさせない為にただ見守りだけの保育になるのではないだろうか。「認定子ども園」は行政が責任を放棄しているとしか考えられない。子どもの育ちを長い目で見て考えて欲しいと思う。
幼稚園と保育園とのバランスを保つための目的もあるようだが、少ない予算で、形だけ整えてみても、中身がないように感じる。保育園を甘くみているのではと思う。
大人に都合がよい施設はいけないと思う。
小規模でいいと思ったり…ん…と思ったり。

認定子ども園は、幼稚園と保育園の機能をあわせもつ施設とありますが、実際は両方の低基準に合わせるというものです。今でも3歳児、子20対保1でも大変なのに子ども35対職1では、子どもの心にそった保育、ひとりひとりを大切にできる保育ができるのでしょうか？また、直接入所契約や保育料の自由設定など導入されると、行政の責任の後退になってしまうと思います。国も都も自治体もお金を出して、責任をもって保育行政を行ってほしいと思います。必要とする子が平等に保育を受けられるようなシステムにしてほしいと思います。
子どもの年齢に合った人員（定員）と、充分対応できる人員配置で保育の質を守っていく。保育を方向づける、経験豊かな保育士を、配置する。次世代の保育士を育てる。
基準をみて、かなり不安になりました。これを区として『可』と認定してよいのかどうか。子どもの保育の基準を、ないがしろに考えていると思われても仕方がないのではないかと考えてしまいます。
親の都合だけでなく、子どものことを一番に考えてあげてほしい。
事件にならなければ良い。あとは、保護者が判断して選ぶことの出来るように。
ギリギリの人数で行うので、保育の質は落ちないのか、何かあったらきちんと対応ができるのか、不安もあります。
具体的な内容や違いがわかりづらいので知らせてほしい。人員確保をしっかりしなければ内容の充実は無理だと思うので、そこはきちんと保障してほしい。
子どもを育てていくうえで、環境は本当に大きな影響がある。たくさんの人にゆったりとしたところで見守られ、育つことが一番大事。
毎日子どもが過ごす場所なので、最低限の施設や人員でやり、子どもが健やかに成長するとは考えづらい。
保育の最低基準がどんどん悪い方へ下がっていく事にとっても心配を感じる。今までの厚労省の都基準は何だったのか、もう一度見直すべき。
そこの中で働く保育士さんの中に、経験豊かで（20～30年）他の保育士を引っ張っていける様な人を雇用していただきたいと思います。
今ある保育施設と同様、またはそれを上まわる条件での施設を希望します。
認定子ども園は安あがりですら簡単に作れる子どもの施設だと思う。私は反対です。認定子ども園が将来日本の中心園となったら怖いことです。
きちんとした制度化をするべき。
全てが幼稚園が上という前提で進められているのが気に入りません。保育園の保護者に幼稚園教育が受けられます！という文句は失礼だと思います。
内容をきちんと理解すること。又、何が求められているか、どのようにすすめるものかをきちんと知る。
自分自身が認定子ども園についてまだ勉強不足なため、具体的に考えられませんが、子どもが生活する場が利用しやすく、環境が人的にも整っていることが大事だと思います。
行政が子育てに責任をもたなくなってく方向に受けとれてしまう。都合よく保護者に利点ばかりアピールしているが、実際は保育環境が悪化することになると思う。
反対です。
現在議会などで取り上げられることになっている案では、幼稚園と保育園の基準等の中で、低い基準をよりあわせたものになってしまっていると思います。それでは、子どもにしわ寄せがいつてしまうことになりかねないので、もう一度考え直していただきたいと思います。
簡単なビジョンでの経営には、疑問を感じる。
認定子ども園は、幼稚園に保育園の要素、保に幼といたうたい文句で、さも良い施設が出来上がるかのように見えますが、幼、保の低い方の条件での運営が可能で、直接入所方式など、とても子ども達を守ることが出来、また、その成長発達を助けられる施設になるとは、到底考えられません。絶対に反対です。もしくは、よりよい条件を強く求めるべきだと思います。
もっと整備されるといい。
保育園の最低基準を変えて簡単に「子ども園」を作るとは、保育の質が下がると思います。お金によって、サービスが違うのなら、まったく差別と言わざるを得ません。
幼稚園、保育園で大事にされてきた条件等、失われないメリットのある施設であれば賛成である。
きちんとした人員配置。
基準を下げないで上げてほしい。保育の安売りはいけないと思う。
保育内容については、疑問が持たれたりするので、あまり賛成できない。

## (16)【設問(24)】 保育に欠ける要件にかかわらず通園施設の設置に対する意見

### ■「賛成」：施設に対する提案

今の時代、区別すること自体がおかしい。保育時間に違いをつけるのみで良いと思う。

<p>いろんな子どもがいる（家庭で保育されているお子さんには、ゆったり、おっとりとしたお子さんもいる。仕事をしていると、子どももイライラ、ギスギスもあり）その中で、子ども同士学びあえると考えている。保育園が多くあるとよい。また、子どもの集団が、年齢によつてのぞましい人数になってゆくことが望ましい。</p>
<p>いろんな子ども同士で遊べたら。ただ大人のかんりの話し合い努力は必要。</p>
<p>同じ生活の流れで、同じ条件で一緒に過ごす分にはいいのではないか（例えば、全園児、給食・園外保育は保護者は一緒に行かないなど）。</p>
<p>親子でコミュニケーションがとれ、リフレッシュできる施設。子どもだけでなく、親も一緒に遊べる施設。</p>
<p>親の就労の有無等で子どもの過ごし場を変えることを考えることに理解がでない。</p>
<p>核家族化が進む現代において、保育に欠けない子どもであっても、社会と通ずる窓口を設けてあげる必要があると思います。そのためには、利用しやすい施設、誰もが自由に使用できる施設があれば良いと思います。</p>
<p>学校という場は上記のような家庭の児童が集まっている訳だが、なかなか就労している方の保護者には無理な保護者会日程だったり行事だったり、父母の会の活動だったりするので、お互いが歩み寄って協力し合える施設。</p>
<p>家庭で保育を受けられる子どもという基準がどのようなものなのか分からないのですが、子育てのサポートが必要な家庭も含まれるのであれば、保育園と同様の施設が必要だと思います。</p>
<p>家庭で保育を受けられる子どもも沢山の子どもに混じってあそぶ経験ができるのでよいと思う。</p>
<p>来ている子どもは、差別することなく、同じ様でよいし、施設も公立のいままでの園でよい。</p>
<p>午睡や給食などで考慮しなければならない点は、多いと思うが、幼保一元化施設が良いと思う。</p>
<p>子育て支援という観点からは、賛成である。しかし、ネグレクトや虐待などの問題が多い中で、一概には言えない。家庭での愛情を十分に受けている子どもであるならば、問題は無いと思う。</p>
<p>子ども自身を分ける事はないが、園側の様々な条件を整える必要があるのではないかな。</p>
<p>子どもにとって集団での生活はたとえ0歳児であってもマイナスにはならないと思う。ただし、集団は大きすぎずはいけないし、きちんと子ども一人ひとりを受けとめるだけの職員は必要だと思う。また、人数を揃えるだけでなく、きちんと経験を蓄積し、次へ伝えられるだけの人材を育てられる雇用条件も必要だと思う。保育時間については、その家庭にあわせたもので良いと思うが、毎日の一定時間（例えば9:30～15:30程度）の枠はないと、日々の生活リズムが整わないと思う。現在の公立保育園と同様の施設であることが前提で、賛成。</p>
<p>子どもにとって必要な親になって欲しい。子どもと仕事と、どちらが大切なのか考えて欲しい。仕事をしないと生活出来ないこともあるので・・・。</p>
<p>子どもはみんな一緒（親の状況云々ではなく）。</p>
<p>子どもも保護者も巻き込んだ子育てについてを共に考えていけるような施設。</p>
<p>これこそが、幼保一元なのではないかと思う。就労していない保護者もある程度の時間（15時）まで保育してもいいのではないかな、子育て支援としてよいと思う。</p>
<p>時間を決めて預かる（みんな一緒）。幼保一元と同じになると思うが、園によって特徴のある園でいろいろな地域から選べるようになるといい。インターネットや市役所でそれぞれの園について、しっかり情報が得られるようにする。</p>
<p>施設の設置は賛成であるが、その条件整備や開設にあたっては十分に現場の意見を取り入れて欲しい。現場の意見を抜きにしての施設は、開設してもうまく機能しないと思う。</p>
<p>児童館や小学校の空き教室を利用した施設。</p>
<p>児童施設（その上に住居がある）。</p>
<p>従来の保育園の形態でなく、児童館的に気軽に通える様な施設があれば良いと思う。</p>
<p>すでに保育園では、子どもの成長にそつてのカリキュラムを実施しています。その中に、家庭で保育を受けられる子どもたちも受け入れていくということは可能なことと思います。保育時間は、違ってくることもあります・・・！</p>
<p>全ての子どもが平等に同じサービスを受けられることが望ましいと思うから。地域の町会や自治体にも呼びかけ、拠点方式にし、地域ぐるみでその設置や活動を応援してもらえようようにしてみる。</p>
<p>セキュリティを充実させる。十分な広さが必要。人的配置正規職員も十分配置し（非常勤も多く）、子育てカウンセラーが巡回する等。保育・子育て共に相談できる窓口が身近にある。給食設備あり、公設公営。</p>
<p>選択の幅が広がるのはいいことだと思う。保護者の就労の有無よりも、子どもの側から見て、保育を必要としているか否かで施設入所を決定するべきだと思う。</p>
<p>全部同じにするのではなく、一園一園に個性を持たせるとおもしろい（A園は庭が山になっている、B園は工作や陶芸遊びができる設備があるなど）。個性を持たせ、保護者に選んでもらう方がいい。その方が十分な活動ができる。</p>
<p>だが、人的配置と環境の整備を十分にしない限り問題が出てくると思う。廃校になった小学校を活用してほしい。</p>
<p>どの子どもにも適切なアドバイスや援助が必要。</p>
<p>年齢が低い場合はその必要がなく、4、5歳児では、就学前の準備期間としてあつてもよい。</p>

一人ひとりの子どもたちが平等に育っていける施設が必要と思っています。
ふれあいの場や子どもがあそぶ場所が少なくなり、保護者にとっても相談する人や、場所がないと育児に対して不安を感じる人が多いので、色んな人のふれあう場は必要だと感じる。
保育園は家庭に代わる場を提供している。一日の生活を安定して過ごせるよう朝～夜（夕方）系統立てて子どもに不可欠な生活リズムを整えているが、家庭保育の子がどのようにタイアップして過ごすのか。幼保園の形態でしょうか。
保育は、サービス業と位置づけられているから。
幼児クラスになれば、一緒に生活することは良いと思う。乳児の場合については、1対1の関わりが基本だと思うので、集団生活が良いとは思わないので反対である。施設としては、幼稚園型でなく、保育園型にて、日中の保育を行い短時間保育の子をもうけていけば良いと思う。
幼稚園の時間、保育園の時間がなく、一緒に過ごす施設。
幼保や子ども広場の拡大など。
分け隔てなく、共に育ち合える環境という視点では、賛成です。
育成室のある児童館のように、区別はきちんとつけた中で、ある一定時間共に共通体験できる場を設け、たくさんの人たちと接し関わる経験を持たせることはとてもよいことと感ずる。
家庭では、愛情いっぱい保育を受けられてないかわりに、園では、甘えられる環境もつくってあげ、「保育に欠ける」「欠けない」にかかわらず、子ども達と保育士がちゃんと向き合え、成長し合える環境が大切。ただ、精神面でかなり、フォローが必要と感じる。
家庭で保育を受けられる子どもも、保育園で同年齢や異年齢の子どもたちと一緒にあそぶ機会を通して、互いに影響し合い、発達（心身共に）を促すことができる。事業として受け入れ可能な場所（空間）環境、資源があること。いろいろな親子の受け入れによって在園児の保育も向上する形で出来るように。
家庭保育の子で乳児の子は母親の保育負担感で不安感が大きい。財政上許すならば1歳児以上児は希望の時間（長時間ではなく）保育園に預けられると良いのでは。
教育の中で生活力を上げる方針をかかげる園を望む。幼稚園の子どもも、保育園の子どもも同じ子どもです。
現在、育児に対して悩んでいる家庭や育児が困難な家庭があるのが現状です。本来の家庭の役割、機能ができない場合は、子どもを守る施設として必要だと感じる。具体的な施設はあげられません。
現在の住宅事情、子育て環境等を考えると1日中親子でいるとお互いに煮詰ってしまうのではないと思う。赤ちゃん幼稚園ではないが、午前中だけの保育で保護者の就労関係なく入りたい人が入れる保育園があれば良いと思う。
現場で働く私達にとって、保護者の就労状況は特に関係ありません。乳幼児からの6年保育の施設賛成です。乳児からの子どもを知っていることは、幼児教育に役立ちます。
公立保育園または民間のきちんと認定を受け、一定の基準を通った施設が良い。保育室の広さ、子どもの数、栄養士、看護師、調理士、保育士と基準をみたしている施設。
広い幅での子育て支援と考えるのであれば、賛成である。核家族でどのように子育てをしていいか悩んでいるお母さんも多いので、保育時間を短くして週何日とかでも良いのかと思う。
子どもが保育を受ける事は、必要だと思います。ただ人的な事等、十分に満たされる施設を作ってほしいです。
子どもにはいろんな人がいることを知らせることが大切。しかし保護者の負担は大きくならないようにした方がよい。保育園の入園をゆるやかにする。※スペース、人員は確保してほしい。
子どもの成長にとって、家庭も集団も共に大切であると思います。どちらかに重きを置くこと成長におかしさがでてくると思います。家庭がすべてでなく、そうかと言って長時間保育になりきってしまう施設ではない。それぞれが自覚した施設が必要。その自覚は難しい。
子どもは皆同じ環境で育った方が良いと思う。いろいろな子ども、いろいろな環境を大人が受け入れていくことにより子ども達も受け入れていく社会に育っていってほしい。お互いを受容できる社会になってほしい。施設の改善と人的保障があればできると思う。
子育ては国が支援すべきだと思うから。
子育て支援センターなどの施設を他区では設立しています。又、児童館などの施設で、保護者同士の交流の場を設けることも必要だと思います。
時間帯（施設にいる）はそれぞれ違うかも知れませんが、（そうなると思いますが）同じ、子どもが過ごすのだから問題はないと思います（実際にできるとなると行事のもち方等話し合うことはたくさん出てくるかも知れませんが）。
親が働いていようと、いまいと関係ない。子ども達が共に楽しく遊べる『子どもの家』がいいと思う。朝は就労している人の為に早番があり勤務時間に応じて登園。就労していない人は、遅くても9:30までに登園してもらおう。日中は、みな一緒に保育をし、お昼は給食を食べる。お迎えは、親の希望でお昼寝の前に来てもいいし、お昼寝しておやつ後でも可。就労している人は仕事が終わ次第お迎えに来てもらい遅番・延長番もある。
働いてない家庭についての保育時間は短時間でもよい。
同じ子どもを同じ立場で育てていく。働いている働いていないに関わらず、これからの日本を担っていく子どもたちなので、子育ての不安、悩みを持つ親からも、あずけて、ホッとできる場所が必要。親も安定して子どもが帰ってきて、ゆったりと接してもらえるのが理想。保育園をたくさん作るべき。

保育に欠ける子も欠けない子も、同じだと思うので、子育てサポートとして、特にどのような施設というのはありません。今と変わらぬ施設でいいと思います。
保育時間、内容等ニーズの幅はさらに広がってくるので、それに対応できる人員配置は不可欠だと思う。
母親の育児能力が未熟な人が増えてきている。身近に相談相手がいない、兄弟が少ないなど、乳、幼児期の大切な時に、コミュニケーションの基礎となる人間関係が希薄になってきている。色々な経験不足（体力的問題も含め）、家庭だけでは出来ない経験の場、集団での子どもの発達のできる施設があっても良いと考える（幼児クラスに入園した時にもう少し早めに入園できたら良かったのと思った事が何度もあったので）。
幼稚園で2歳児から受け入れることを基本に始めたらどうか（一部ではじめた所もあるが）、保育園は開放日など地域の親子が利用できる日をもうけ、親子で遊びに参加という形で良いと思う（子育てが母親の精神不安などで困難な子どもはきちんと措置する）。

■「反対」:理由

(幼稚園) 保育園との違い、また環境の違う子どもが毎日共に過ごすことが幼保一元化施設との違いがわからない為。
“保育士” “幼稚園教諭” と立場が違う職員が同じ施設で働くというのは、どう考えても保育士の方に負担がいく。不公平があって、質の高い保育はあり得ない。地方の保育園や幼稚園はどのような状況かよくわからないが、東京都においては、カリキュラムなどに大きな変化はない。むしろ保育園の方が様々な体験などさせているのでは、と感じている。どうしても同じ施設、というなら保と幼は同じ管轄で同じ待遇にしてほしい。
2つ合わせることで、条件が悪くなってしまいそうだから。お金をかけない、条件の低い方に合わせるやり方をこのところやっているから。子どもをとりまく環境をアップしないといけない。
あまり想像つかないのですが、家庭で保育が受けられる子は、親が幼稚園の方を望むのではないかな…と思います。
一緒に毎日過ごしている同士で、ある時間からわけられ、一方は早く保護者と帰る姿をみていくのは、子どもの気持ちを考えるとさげたい。
同じ園で違う形態というのはどうかと思う。
かたや余裕のある親と、かたや余裕がなくあくせくしている親を子どもたちがどう見るだろうか？子どもに理解を促す保育などしたくない。
家庭で過ごせる子がともにいることで、寂しい思いをしている子が、よりその思いを強くする機会がたくさん出てくると思うので。
家庭で保育できる子を無理に施設に通わす必要はない。
家庭で保育を受けられる子が通う施設の必要性を感じない。
家庭で保育をうけられる子とうけられない子と同じにしては、おむかえの時などさみしい思いをする子どもでと思います（幼稚園ではダメなのでしょうか？）。ただ、保育園で育った方が協調性やコミュニケーション能力は、高くなるのではないかと思います。
家庭で保育を受けられる子どもが過ごす通園施設も必要だと思う。まずはそういうところを作ってから、段階的にすすめていった方がよいと思う。
家庭で保育を受けられる子は、早く帰ると思われるので、その場合、就労などで保育をしている子が残されるという思いが子どもの中に出てくると思う。
家庭にいる子どもは、一時的に預ける施設の方が良いと思われる。毎日保育園に来ている子ども達は、その子なりのリズムがあり、全体としてのリズムも確立している。そのような中、家庭からの子達が、常に入れ替わり制でくることで、落ちつかない環境になり、体調を崩してしまうことも考えられる。双方が無理なく過ごせる環境が必要だと思う。
現状では各々の機能に差が大きすぎる。日本のシステム上では困難がある。もう少し制度を整えて、教師+保育士の資格の一本化や、施設も予算も改善した上で考えた方がよい。
子育ての楽しさ、子どもの可愛さを少しでも保護者に伝えていく。
子ども自身の姿では（現象面では）問題はないが、大きな集団の中で過ごすことはどうだろうか。保育に欠けない子については、今までのシステムで良いように思える。
子ども達の家庭状況があまりにも違う条件では、難しい問題ではないか。
こどもの森と同じだから。
子どもは大人が思っている以上に物事を明確にとらえる力があると思います（大人の鏡です）。はっきりとしたビジョンがない計画には賛成できません。それによってどんな子どもを育成したいのかは、誰がいつどこで決めるのでしょうか？それは今の保護者の役割なのではないのでしょうか。
社会が、家庭を支援していく役割を持つのは必要なことだとは思いますが、子育て支援（関わり方を支援）という意味では、別の施設を考えた方がよいと思う（子育て支援センター）。
集団で遊べる施設が大切。
その通園施設を設置する必要性がわからない。

それぞれ子どもに対して配慮すべき点が違うことが多いのではないかと。保育に欠ける場合は、養護の面が大切になっていく。また、保護者に対しても同じことが言える。支援の中身が違うと思う。
体制によっては、賛成。
時には、触れ合える機会を持つていけることは必要だと思うが、施設まで設置することはないと思う。今ある園の中で交流できれば良い。
どの子どもも平等に、家庭だけで子育てをされている保護者の方の支援のためにもそういう施設があってもいいのではないかと思います。やはり、そうなると、家庭で果たす子育ての義務、生んだという責任がなくなってしまうのではないかと思います。
ニーズが違いすぎるので、違う形での通園施設なら賛成である。子どもにとっても違いが一になる可能性が大きいと思う。
年齢にもよりますが、母子関係をしっかりと築いてから集団生活に入ることを希望します。
古いかもしれないが、保育に欠ける子どもを保育する仕事をしなくて保育士になったので、はっきり言って仕事をしていない親の子を保育するのは考えてしまう。ある程度の年齢になれば集団も大切なので、別の施設を考えたらどうかと思う。
保育園の本来のリズムが崩れたりして、対応が大変になるのではないかとと思うので、十分な話し合いが必要だと思います。
保護者同士の意見のちがいの差が大きくなる。
保護者の都合だけで通わせるのはどうかと思った。家庭で保育できる状況があるというのは、子どもにとって幸せなことではないかと思う。仕事などで本当に保育を必要としている人はたくさんいるのだから、そういう施設を多くしてほしい。
保護者の意識の違い。
全く別の性質の物と考える。現在「保育に欠ける」子が増えていることと思うが、その保護者の生活のために！働いている親がどれくらいいるだろうか？自分の生きがいや、仕事のポジションなどにより辞めない人が多いと思う。本当に預けられる必然性がわからない子どもたちにとっては、家庭で保育を受けられる子との間に差を感じるのでは？（親の姿勢次第だと思うが）。
何でも一緒にすればよいというものではない。しかしどの親子にとってもメリットになる条件整備がされるのであれば…。
家庭で保育が受けられる子も“一緒に遊ぶ”という場は必要だと思うが、施設を設置することまでも必要かには？。
家庭で保育する人たちのための必要な場の提供はよいが、通園という点では本当に必要なのか、考えてほしい。家庭の中で育ちあえる部分、力も大切にしていきたい。
家庭で保育を受けられない子どもと、受けられる子どもとは、保育面と教育的側面の比重が異なると考えるから。できれば別の施設が良い。
家庭で保育を受けられるのであれば、それが子どもにとって一番いい環境だと考えます。母に勝る保育士はいないと思います。子ども中心に考えるのであれば一緒にほしい方がいいと思います。
家庭で保育を受けられる子どもと、保育に欠ける子どもが、毎日、同じ施設に通うのは（幼保一元化施設除く）、子どもが大人になった時に、どの様に感じるか。自分は何故預けられているのか、心的に不安に感じるのではないのでしょうか。
現在ある幼保一元化のような施設や認定子ども園では、厚労省と文科省との格差が大きすぎて、差別につながる保育の起こる可能性があると思う。
今の保育園のスペース、体制で即受けることは難しいと思います。しかし、他区の保育園でたとえば“子育て広場”として開放しているところから学ぶところは、通園施設として園内に場所があることです。そして非常勤職員（退職者などの経験者、ボランティアなど）など人をきちんとつけることで可能だと思います。地域からの利用者のある施設のセキュリティ、事故の対応、保育の仕方（体制、環境など）など細かくあらゆる面から検討が必要です。
子どもが他親、親子の姿をみて、どんな反応をするか。子どもを見守る目、保育体制を、どのようにしたらいいか、疑問があるので。
子どもたちはどの様に受け止めるのかな？という事が心配です。
子どもに不平等感を持たせるようにおもう。
子どもの存在が中心となっていない。保育園がどのような役割を持つ施設なのか。その原点を考えて欲しい（福祉としての子育て支援）。保護者どうしでの派閥化も懸念する。
子どもは周りの状況を感じとり、楽しくすごせない場合が生じる可能性があるため。
子どもをないがしろにしています。子どもの利益を優先させる、というのは形だけ。どういうメリットがあるか、私にはよく理解できません。
子ども達にしてあげられる範囲が違うので、子どもにストレスを与えることはしたくないので反対である。
子育ては厳しいもの。働いているお母さんたちは、子どもと離れている間は一生懸命働いている。一緒にいられるのなら、絶対に親子でいるべきではないでしょうか。家庭で保育を受けられる子だけの支援を別枠で考えていったほうが良いのではないかと思います。
条件が異なる子ども達を受け入れる側には、それなりの人員が必要だと思います。それぞれの子どもの状態を把握し、安全を確保し、そしてそれを一日を通してとなると、少人数では不可能です。十分な受け入れ体制がなされていけば良いと思います。

生活リズムが違うので、一緒に過ごす必要は無いと思います。子どもがかわいそうです。
全ての子どもが等しく就学前教育が受けられることは、いいことだと思う。しかし、長い間の幼児教育についてのこの国での考え方が今も続いているのであれば（人的に幼稚園教諭、保育士という身分のちがいが）一貫して、教育は出来ない。今の時点では反対である。
通園施設の子どもの達は毎日早くに保護者が迎えに来るという点では、保育に欠ける子ども達の保護者はお迎えに来るのが遅いので、一緒に過ごす事で、遅い子ども達の気持ちを考えると、切なくなるのではと思う。
働く保護者の子どもの親と、そうでない親とでは、子育ての上では違う所があるのでは？基本的には、家庭で出来るのであれば保育を受ける必要はないのでは？
同じ保育を受けることが難しいと思う（保育時間等個人差が生じるので…）。
同じ保育時間、同じ保育料、同じ保育プログラムなど、全く同じ条件であれば反対はしません（家庭での保育が可能ならそうするのが1番よいと思います）。同じ施設で過ごす子どもの中でお迎えの母や父がやってきて、家に帰っていく姿を見たりするのは子どもの精神的にもよい影響でないと思います。同じ地域に住む子ども同士の関係作りとして、保育園、幼稚園との交流機会を作っていく方がよいのではないかと思います。
乳児にとっては母子対1ですごす時間はとてもとても大切と考えています。好きな時に母子で自由に遊びに来たり相談出来る場所の方が必要とおもう。
反対だが、特別施設を作ると良い。短時間保育の保育園を考えている。朝9：30～3：30、年齢に合った生活遊びを提供しながら保育し、自立をはかる。子育てのポイントなど親に伝える。家庭での親子のふれ合いが充分に持てるよう短時間保育とし、午前中のみ保育も受け、各家庭の考えを尊重し、保育時間とする。あくまでも少人数定員とする。朝夕の当番保育はなく、子どもの生活を考えた保育施設とする。親の子育てと離れとならぬような保育を行う。同じクラス内で両者の保育をすることは、大人の出入もあわただしくなり、保育士の対応が複雑化して疲れる。疲れると良い保育はできない。
文京区ではそれほど待機児がいませんが全国的には、保育園に入りたくても入れない子がたくさんいます。この子どもたちが全て保育園に入ることができ、その上に余裕があるのであれば良いのですが、それにしては公立保育園の数が少ないし、今減らされています。保育に欠ける子が優先されることも1番だと思います。保育する責任を公的でしっかりしてほしいと私は思っています。
保育に欠ける子どもと、保育を受けられる子とでは、家庭環境なども大きく違ってくるので、別の施設がよいと思う。
保育を行える家庭は、“親と関わる”ことを大切にしなければいけない。一緒に保育すれば、必ず、親の都合で長く子どもを預けるなどがでてくると思う。
保育園があればいい。
保育園は就労の為、日中保育できない親にかわって保育する場と考える。
保育士は教諭免許も持っている人が多いが、採用は保育士として採用されている。身分のちがう採用された人、給料待遇の異なる人が一緒にやっていくむずかしさを少しずつ改善していくことがよい方向でやっていけることになるのでは。
保護者同士で、それぞれのグループができ、仲良くできない場合がでてくるかもしれないから。
預ける保護者の状況が全く違う中で、大人の思いがすれちがったり、トラブルなどは子どもの心へとても影響する。
幼稚園と保育園が一緒になることと同様なのは。

## ■無回答

分からない。一緒になくても良いのではと思う。家庭での保育可能なお子さんでも通園できる施設があれば、助かると思う。
どちらでもない。働く親と働かない親が理解し合える場になれば良いが根本的に違うところが多く、難しい気がする。
必要な人がいつでもサービスを受けるようになるには、現状ではむりな面あり。人とかかわることは人の手があり、ゆとりも大切になる。人材と共に、生きがいもてる保育園運営が課題である。
賛成と思う時もある。やはり精神的においつめられる母親が多いからである。
一概に賛成・反対とは決められません。
イメージできないので、賛成とも反対とも言い難い。
この問いでは今ひとつどのような通園施設のことを基準にしているのか理解できません。家庭で保育を受けられる子の対象年齢がわかりませんが、あえて一緒に通園する必要、利点があるのでしょうか。
賛成、反対というどちらの立場は、考えられません。
賛成とも反対とも言えません。今は、生活スタイルも就労スタイルも多様化しているため、どのような施設が求められているのか、今後リサーチと検討が必要と考えます。ただ、互いのニーズが若干異なっていることは確かです。故に“サービス”のあり方が問われるのだと思います。
どちらともいえない。
どちらともいえない。
どちらともいえない。具体的にどのような保育料にするのか、時間は？など心配です。

どちらともいえない。出来ても特に反対はしないが。
どちらともいえない。どちらかといえば反対。家庭環境があまりにちがうから。
どちらともいえない。本当の意味の幼保一元化というのが、いい形で具体化できるならいいと思う。
どちらともいえない。柳町こどもの森での様子等、ききながら考えていきたい。
どちらともいえません。ただし、反対ということもありません。
どちらとも言えない、どの様な意図で考えられるのかが解らない。
どちらとも言えない。
どちらとも言えません。条件によります。
どちらにしても一長一短はあると思うので賛成でも反対でもない。子どもというよりは、保護者のコミュニケーションの場があるという意味では、家庭にいる親は安心するとも感じる。
ともに毎日を過ごすといっても、おそらく、保育に欠ける子どもは長時間保育、家庭で保育を受けられる子どもは、それより、短時間の保育になると思います。それであれば、それぞれに分けての集団保育の方が良いのではないかと思います。「ともに毎日を過ごす施設」にあまりメリットを感じることができません。
まだ勉強不足でどちらとも言いがたい。
まだわからない。
難しいと思う。細かい話し合いのもとに行えるかもしれないが。
やはり共働きをしている家庭とそうではない家庭とでは、保育時間がちがうのでどうなのか？やってみなければ分からないと思う。
幼保一元化園のような中途半端なものは、子どもの負担も親の負担も大きいだけです。
よくわからない。
わからない。
わからない。幼保一元化と同じように十も一もあるように思える。
わかりません。今すぐには答えられません。必要には思います。
安易には書けません。
家庭保育の子どもも、早いうちから少しずつ色々な子どもと触れ合う機会を設けるという意味では、家庭保育の子どもが通園できる施設があっても良いと思います（保護者にとっても良いと思います）。しかし、私の勉強不足で、どうして両方の子どもがともに過ごす施設が必要なのか、よくわかりません。
回答をひかえます（もっと考えます）。おそらく、幼保と同じ様なことになると思うんですが…。
管轄の違いのない施設であれば子どもにもそこで働く保育士にとってもよいかも知れません。
区別する必要はないので反対という訳ではないが保育時間や、入園の枠など就労している保護者から不満が出ないようにする必要があります。
具体的にイメージできないので、わかりません。
現段階では、育休者がその兄弟を受けている。長時間にならなければ、既成の保育園の充実を図り子育て支援の施設として考えて良と思う（保育園の範囲内で）。
今の所、どちらでもない。その様な通園施設を設置するのならば、もっと公共の場や、公園を充実させた方が良いと思います。子どもは、どこで遊んでも、コミュニケーションが取れると思うから。わざわざ、お金をかけなくても良いと思う。設置するという事は、区の職員なり、要員を必要とし、充実させるべき。
自分の中で考えがまとまっていません。
就学すれば、当り前の子どもたちの空間です。子どもの世界からしたらなんの問題もありませんが、ここでもその施設の省庁はどこなのかがネックになりませんか。
色々なケースがあると思うのでよくわからない。
双方、メリット・デメリットがあるのはわかる。時代もそういう方に進んでいると思う。ただ、基準を緩和して、そういった施設をつくるのは、反対。保育に欠ける子と、そうでない子が同じ施設にいる、そういう施設自体はあっても良いと思うけど。
双方があってよいと思う。
難しい…。
必要とは感じるが具体的に分からないのでどちらとも言えない。
必要な人がいるなら、多いのなら、あった方がよい。子どもが今おかれている環境より良くなるなら、良いと思う。
目的がちがうので同じ場所ではない方がよい。

(17)【設問(25)】 保育園が区の子育て支援に関して果たす役割

家庭での子育て（入園していない）に保健センターなどと連携して、出産後からの育児ケアをしていく。
子どもが持つ家庭と、地域社会との架け橋になる必要があると思います。地域で子どもと一緒に育てていかなければ、これから先、少子化はますます進むと思います。
「保育に欠ける」という意味合いが広がってきており、いろいろなパターンで「保育に欠ける児童」に対応していかなければならない。育児する保護者が、祖父母の代わりとなって子どもを預って、保護者自身がスイッチを切り替えて気持ちをリフレッシュできる場を提供する。保育園だけではなく、企業自身もそこで働く保護者の子どもの育ちを考え、保育施設を作ったり、企業内保育もこれから必要なのではないか。
文京区全体の子育て支援はとても必要である。保育園に入園している子どもでもない家庭にいる子ども、平等にサービスを受ける権利がある。保育園は保育士という保育の専門家の集団である。専門家が経験した知識を活かして区民に還元できる事があれば良いと思う。現在、当園でも地域の人を呼んで、保育園での遊びや給食の紹介をしているが、保育中に行うところに厳しさもある。どこか別の場所で行う事もよいのでは。
どの親子も文京区に住みやすいと思ってもらうために、地域全体が協力して子育てをしていくべきだ。保育園はそのための地域のリーダー的役割を果たせるのでは？。
全体の子どもの親の子育て支援。親子関係づくりの基地になる。入所されている子どもいない子ども、よりよい発達成長のための関わりを発信していけたらよい。文京区保育園、保育のノウハウを伝授できたらよい。
子育てに悩んでいる全ての親たちのサポートをする役割を果たす。
親を親として育てていく（可能性ではなく、必要性）。保育士の質を高める。
住宅事情（地価が高く、家賃も高い）や他区と比べて保育園の数が少ない状況から、小さい子どもを持った若い夫婦らが住みにくい傾向となっている。文京区において、待機児がいる状況をなくし、保護者のニーズにいつでも応えられるようにしていき、「保育に欠ける」「欠けない」は別とし、子どもにとっては同じサービスが受けられるよう選択肢を与えていかなければならないと思う。そのために行政としては、必要な職員の数や予算を充当する必要がある。
障害児保育の枠を広げること。病児保育を手がけて受け入れ態勢を整えながら、今後の役割を考えていくこと。地域のネットワークを広げるとともに、幼稚園との交流を図る。
地域の子どもを含めた観劇（会場は保育園）、地域の子育て中のお母さんの駆け込み寺になりうるような体制作り。
遊び、食事など生活の中で、子どもにとってどうしたらいいかという基本的なことから示していけるようになればいいと思う。
地域に開かれた保育園。地域の親子のふれあいの場。地域の親子の子育て相談の場。
子育て支援と言っても、保護者から子どもを離す事については、反対であるが、子育てに悩み、困っている保護者については、当然手を差し伸べなければいけない。一日中子どもと2人だけの生活、トイレに行くのもままならないことも、育ちの中では考えられる。そのような保護者に対して、ホッとできるような母親同士の交流の場と、いつでも短時間でも預けられる場所を拠点で設ける必要を感じる。また、現在ファミリーサポート制度があるが、家庭の中にいる保護者に対してサポートできる制度ができればと思う。
親同士がコミュニケーションできる場になるとよい。親がもっと気持ちに余裕を持てるような子育てのアドバイスをしたり、一緒に考えあっているといい。
地域交流や次世代育成。
子育てに行き詰った保護者の安心して相談できる場所であるといいと思う。
子ども達の支援というより、子育て、親の支援ということが、これからの課題であると思うし、共感し合いながら、子育てを応援することが必要であると思う。子育ては、ひとりで悩まず、地域や保育園などが協力して子育てが楽しめるよう具体的な遊び方ややり方を提供することを行っていったら良いと思う。
子どもの保育と同じ割合で親の教育、親になっていくための指導や助言なども必要だと思う。若い親、未熟な親に対して、心のケアもしていかなければ、親子関係を作る手伝いも保育士は担っている。
子どもの育ちを伝えることもできる。家庭で育てたい方もいるため、幅広い子どもの見方や、楽しみ方、玩具などの紹介をしていけると思う。
地域をつなぐコミュニケーションの場になれば。高齢者との交流もあってよいのではないのでしょうか。
地域での子育ての支援という面で、地域でのつながりが少なくなっていることを考えると、気軽に子育てに関する悩みなどを受け止められる場所という役割は、必要でないかと思う。
本音を言いますと、現在、園にいる子の保育及び、保護者対応で精一杯のところがあります。長時間保育の子が増えるなか、保育士自身の時差出勤も守られていないのが現状です。子育て支援をしていくには、それなりの人材及び、時間が必要です。子育てで悩んでいる親は多いので、話を聞く場やアドバイスをする必要はおおいにあると思います。
保護者にとっては、子どもが安全で、安心して預けられる場所として、保育園に預けていると思うので、その間は、仕事も安心して出来るので良いと思います。本来ならば、子どもと一緒に過ごしたい時間を生活のためやいろいろな事情で保育園に子どもを預けなければいけない保護者のためには、ありがたい子育て支援だと感じていると思いますので、これからも、保護者のための講演会なども企画したりして支援していけるといいと思います。
困ったときに気軽に立ち寄れるような場所を保育園以外に作る。

子どもは皆平等に愛情を受ける権利があると思います。健やかに育てる地域づくりが大切だと思います。「欠ける」「欠けない」という枠は、とっばらって良いと思う。
児童館のような毎日でもいける場所があれば願う。一日いても良い様な、子育ての助けになる様な場所。昔に比べ子育てが難しくなっていると聞きます。泣き声にうるさいとどなる大人、遊ぶ声にも…。周りがもう少しやさしく見守ってくれたら、子どもをもっと育てたいと思う人が増えるのではと思う。
子どもが健やかに育つ環境が整っていれば、受け入れ可能と思う。
今、社会でいじめや自殺が多いが、小さいときに沢山手をかけ大事に育てていく事が大切だと思う。小さい時から命の大切さを伝え、大事に育てていく事が大事なので、子育てには、お金がかかっていくのは、当然の事なので、予算を沢山つけていい保育をしていく事が大事だと思う。
地域の子ども達という視点から、交流をもっていたり、子育ての中心となるような場所を目ざしていく。
相談の場。親を育てる場。
「保育にかける」ということば自体が、今、あまり通用しないと思う。家庭保育を受けられる子でも、2～3歳になると習い事や幼稚園の未就園児クラスに所属したりしているため、あまり隔たりがなくなっているのではないかな？
看護師、栄養士など、専門の職員による相談や体験入園などして、保護者の精神的ケアができるのでは。
子育て支援は、あれこれ次々でてくるだろうと思うが、本当にそれで、これからの社会は、より良い方向へと向かうのか、不安を感じてしまう。何でも人まかせでいいのだろうか？子育てとは、親の思い通りには、いけないのが、あたりまえ、悩んだりしながら親も子どもと一緒に親らしくなっていくのだろう。大変でしんどいこと多いけど、楽しく、共に喜び合えることもたくさんあると思う。まずは、家庭でしっかり土台となる部分を培ってほしい。
保護者の心のケアをする場所になっている（“ただいま”と帰って受け入れてくれる。ホッとする場所）。ただ、あれもこれもととなると職員の事務が増えたり、保育がおろそかになりかねなかったりする。事務員が非常勤でも、いてくれると非常に助かる。子育て支援施設として、やりたいことは沢山あるし、力になっていきたい。児相、学校とも、コミュニケーションをもっと、とっていきたい。
保育園の役割。地域に広げていく。
子どもの育ちについて、いろいろと問題視される中、ゆったりとした保育が行われるような環境をつくって欲しい。
子育ての不安や負担を感じている保護者に対しての支援は急務であり、地域とのつながりは重要になる。
人間性育成等。
保育園でできるかはわからないが、子育てがわからない親のための支援を（今まで行っているより）丁寧にできるとよいと思う。側に子どもがいなくて親になる人には、子育ては全くの未知の世界（怖い、不安を伴う）であると思う。
子育てステーションの充実。
子育てに不安をかかえている人や様々な要望が多様化してきていることをふまえると、保育に欠けるだけにとどまらず、子どもも親も共に育ち合えるような場の提供や情報の提供など、公立保育園だからこそ、できるものに着眼をおく。もっと地域に公開した方がよいと思います。
全ての子を保育していくべき。
保育園という場所で地域に住んでいるおじいちゃん、おばあちゃん、青年、就労者の人々と遊んだり、お話を聞かせてもらったり、作ったりして一緒に関わることによって、やさしさ、思いやり、遊びの大胆さ、いろいろな考え方があることを知ると思う（子どもたち）。そのようななかかわり方のできる環境を提供できるのではないかな？（保護者の参加を含む）それによって、親たちの「わたしは、私たちは」等の心の狭さ、知らなさ、重さを広く軽く元気に子育てしていいのではないかな？地域全体での子育て支援する方向にもっていく役割を担うことができるのではないのでしょうか。
女性の就労率が上がる中、待機児も増え、保育園に入れないから働けない、また公立保育園には定員いっぱいに入れず、認証保育園に入れる、という状況だと思います。認証保育園について（内部、保育など、人的配置も含め）はよくわからないところもありますが、私自身、公立保育園で働く中で、年々、専門性・経験を積み重ねてきました。子どもを育てることは、紙面上の人数さえ揃っていればいいわけではなく、長年培ってきた知識、専門性が必要です。保育士になりたいけれど、公立保育園の採用がないから就職できない若い人たちもたくさんいます。生まれてから5歳・6歳の間にできる人間形成の基礎はとても大切です。この期間にしっかり育てられることはその後の長い人生において、大きな意味があります。もっともっと子育て、教育、福祉に心をかけ、公として責任を持ち、子どもたちが平等に保育を受けられなければならないと思います。確かに、公立保育園は人件費が嵩み、反面、民間では若い人を短期間の契約で、安い人件費で補えるという考え方もかもしれませんが、人間形成の一番大切な時期にお金をかけることは、なくてはならないことだと思います。日本の将来に大きく響いてしまうと思います。しっかりと育てられた子は心もしっかりと育ちます。人と人とのつながり、コミュニケーションの大切さ、思いやる心、意欲など、目には見えにくいものほど大切だと思います。
ともに子育てをしていくという視点に立つと、子育ての負担やプレッシャーを軽減することができ、保護者に子育ての楽しさを伝えていくことになる。
もっと自然遊びができるようにしてあげる。地域に根付いた施設。区民の交流の場。カルチャーセンター的なもの。
未就園児を持つ親のケアをしていく必要があると思う。子育てをしている中での不安や、家で孤独になっている親をすくっていく必要があると思う。
日時を決めて、地域の子どもや保護者と過ごす。
保護者支援。子どもが安心して生き生きと遊べる場の提供。

どの子ども平等に、あそこにいけるととても楽しいと言えるような、誰でもいける、支援が必要だと思う。
公立保育園がオープンになり、どなたでも利用できるシステム。
文京区でも虐待が増えつつある。希望しても入れない子（待機児）も増えている。一時保育や体験保育の受け入れ拡大も必要と思う。現在でも児童館、幼稚園などでも子育て支援を行っているので、保育園はこれまでの実績を生かせる相談業務なども広げていくことが大切。また、他ではできない給食の試食なども予算化して有料で行ってもよい。保育園をもっと多くの人に知ってもらい、他機関とネットワークを広げたり、ボランティアの活用などもしながら、地域にとってなくてはならない存在になれるとよいと思う。
保育園を地域に開放したり、緊急一時や一時保育は十分子育て支援につながるが、やはり十分な施設と保育士の数を充実させてほしいと、現役保育士は感じています。
行事や園庭開放など工夫していきたい。
これだけ保育園の位置づけがクローズアップされた現代でも、まだまだ幼稚園と保育園の区別がつかない方も多い。生まれてから一番人との信頼関係を築く時期に、どのような生活環境を提供され、またたくさん愛情を受けることができたかで、安定した情緒が育つようだ。保護者は親として初めての子育てに戸惑うことも多く、情報過多にほんろうされる。安定した保護者のもとで、子どもたちが安定した心を持つようになるためには、保育士の受容と愛情を注ぐことを心がけている。現在では保護者への対応にも苦慮しているが、地域力の弱くなった部分をカバーする役目も果たすことが求められる。園の開放から、保育に欠かせないけれど母子関係のあつれきなどやわらげる機会もあるだろう。
地域の子育て支援といっても、今、保育園は在園児の保育、子育て支援でいっぱい状態なので、新たに子育て支援事業として緊急一時や病後児保育など事業を拡大するためには、人の手立て、保育室など環境の整備を優先すべき。
専業主婦として子育てをしている人たちに手を差しのべる制度。
多様な子育てサポート支援の場となると思います。
保育士、看護師、栄養士、とさまざまな専門職がいる利点を生かし、地域の方たちへの子育て支援を行っていくことが大切だと考えます。具体的には、食育や健康に関する子育て相談や、講演を行ったり、同年齢の子どもたちとふれあう場を設けていくことが可能だと思います。
誰でも利用して安心して遊べる場所を、保育園に依存するのではなく、作っていくべきだと思う。逆に、保育園の子ども利用できるようなところ。
食事指導や保健指導を、保育園に通わない子どもたちにも目を設けることでできる（遊びの紹介などもできる）。
保育園の行事に参加できるシステムづくり。
産みやすく、育てやすい環境づくりをしなければいけないので、もっと、子育て相談をしやすい雰囲気を作ったほうがよいと思う。また地域で子育てをする機関の中心とならなければいけないと思う。
施設と人手さえあれば、公立保育園と同様の保育を家庭にいる子どもにもすべきだと思う。他の家庭の子を見て安心する親もいるだろうし、一定時間子どもを預けることでリフレッシュして子育てストレスがなくなる親もいるかもしれない。もっと保育園内のいろいろな経験を伝えたいとは思いますが、現状では、今、目の前のクラスの子ども、保育園のことでいっぱいいっぱいです。子育て支援を考えるのであれば、いかにお金がかからない方法を考えるのではなく、金はかかるものだという前提で、考えていってほしいと思います。
現在の公立公営で行われている保育は、長年の歴史、また経験が積み重ねられ築き上げられてきたものである。保育士から保育士へ伝えられているものも保育の大切なものである。これらのものをもっと文京区の子育て支援に役立てていきたいという思いはある。だが、待機児も解消されていない、また現在の保育現場の人的配置を考えるとどこまでできるのかはわからない、というより不安で進めない。まずは、現在の保育の質を低下させず、より高めながら日々の保育をすることを第一と考える。
子育て、親育てのサポート的役割。保育士は様々な勉強をして、地域の子どもや子育て中の母親たちに向けて、様々なノウハウを伝えていく。
ひとつには“子育て援助・支援”の役割を果たす必要があります。少子化・核家族化により、親子ともに悩み大きいです。また、心的ストレスを抱え、子育てが困難という方もいます。駆け込み寺的な存在としての役割が求められます。また、“親育て”の役割も大きいように思います。子どもを介して、共に悩み、共に喜び、共に笑い、「子育てって大変だけど、いいよね」という空間を作っていけたら嬉しいです。少子化・核家族化に伴い、子ども達同士の摩擦が少ないということが様々な方面で影響を及ぼしています。故に、社会性を育む場としての役割も担っていくのではないかと思います。そのためには、日々の反省と改善、保育の検討が必要と考えます。まだまだ力量不足ではありますが、日々精進していきたいと思っています。
地域の親子に対して子育て支援を考えていく必要があると思います。
地域に開けた保育園にしていかなければいけないと思います。保護者の方と一緒に行事に参加していただいたり、園庭を解放したり、子育ての不安を少しでも取り除けるようなお手伝いができたらと思います。子育ては大変だけど、楽しいんだと思えるよう、伝えていけるような関わり方ができたらと思います。
家庭保育をしている保護者の育児相談、同年齢の子どもの発達、遊びを共有しながら、保護者を孤立させないようにすること。
保育園の行事に誘う。子育てセンターをつくる。
支援センター等指導。巡回指導。子育てベテランのシニアとの連携も考えていく。
子育て支援＝親支援ではない。子どもを中心に考えるべき。

18園の保育園がそれぞれの地域の核になり、いろいろな子育てに関する情報を発信していける役割を担えるとよいと思います。
少子化ということは子どもを生みたい環境、育てたい環境にない日本なのだと思います。子どもを生んでも安心できるような環境を作ってほしい。それにはやはり環境の整った保育園と専門的なキャリアある保育士の充実だと思う。若いだけではダメです。キャリアある人の意見は貴重です。いろいろな保育士をそろえてほしい。そして基本的役割をおろそかにしないでほしい。
地域に根ざした保育園、又子どものみならず保護者への教育（基本的なマナーやしつけ等含めて）も大切になってくると思う。
可能性はいくらでもあると思う。「子どもたちのよりよい育ちを支えていくため」にできることは、保護者と共に何でもやっていきたいと思うし、やらなければいけないと思う。
入園前は、家庭の中で親子だけで過ごすことが多いと思う。仲間づくりの場、気軽に相談できる場となっていけたらと思う。
保育園が子育ての基地として、頼りになれる場所づくりと、発達を保障し、成長してもよりどころになることが大きな役割である。親が抱える問題や悩みによりせいぜい、共に子育てを共有できる実家のような環境づくりが望まれる。※子育て相談の充実と共に、気軽に立ち寄れる開かれた保育園を目指したい。
子ども家庭支援センターの充実（家庭で育てている親への支援、安全にあそべる、あそびと場の提供）。離乳食講座、身体測定、栄養相談、歯科相談。（私は他区に居住しているが、育児休業中にセンターに通うことで、悩んでいること等の相談にのってもらいとても励みになったので。）
保育園に通っていない親の子育て相談。地域との交流を深めたり、小、中学校との交流を行ったり、周りの一般の人たちにも、目を向けてもらっている様な、地域に受け入れられて子育てしているという、気持ちを感じてもらえる様に、関係をつくっていく。
地域の子どもたちや、お年寄りとの交流日を設け、定期的に、受け入れるのは良いのではないか。その中で、保育士と地域の方との信頼関係が少しずつできてくれば、悩み相談等も、受けやすい（しやすい）状況になるのではないか。子育てしていると小さなことでも悩む方はいると思うので「大丈夫」と言ってあげる人が必要だと思う。又、子どものことも見て、アドバイスができると思う。核家族化、少子高齢化等の、社会背景も視野に入れて考えていく必要がある。
子育てのプロ集団という場所として有効活用した方が税金のムダ使いにならない。しかし現時点の保育園職員だけでは手がたりないので子育て支援保育士として別部門でやとって事業展開するべき。異動は保育園保育士とまぜて経験を生かせるようにする方がよい。
打ち出された事はすべてやりたい、という印象がある。しかしそれはいまの子どもたちに本当に必要か。よく考えてすすめてほしい。現場の声を無視せず、ともに上の方々も保育に入ってみてほしい。
保育に欠ける子どもの中で、保護者のケアを中心に、対応すること。精神疾患児対策もさらにこまかく対応していくことが必要である。
就労している母親が多いので「保育に欠ける」という子どもが多いと思う。欠けるからではなく欠けるのは働いているので当然だと思う。地域の子どもたちも含め考えていくことが重要である。保育園児は園での生活で地域に関わることが少ないので交流出来るような計画をしていく。
保育園でやれることは努力していきたいと思っています。しかしながら、全てをまかせるのではなく、長い子育ての中で育てていく力もつけられるとよいのではないかと思います。そうした、全てを受け入れるだけでなく家庭にも必要な部分が育てられるような働きかけ、そのためになにができるか考えていきたい。子どもが伸び伸びと子どもらしく成長できるような場をつくっていききたい。
虐待、自殺、家庭内暴力、親殺し etc、乳幼児から、少年時代と問題が山積です。文京区の子ども達が、このような悲しい事件の一人にならないよう、何かできることがあれば…。現状では余裕がないのでなんとか人的な確保をして、地域の子ども達とも関われる場をつくっていけると良いですね。乳幼児を持つ働いていないお母さん達が気軽に子育て相談ができる場にできると良いかな。
“子育て”は一生（親はやめられません）続くものです。保育園、幼稚園、小学校、中学校…と、一つ一つ単独ではなく、文京区が仲介役として、それぞれのネットワークをつなげていくことが求められていくと思います。
家庭で保育できる状況であっても、同年齢の子と関わって遊ぶ場を保障することも必要である。子育ての悩み等も相談をうけていく必要がある。
〈地域の一員としての保育園〉病院を訪ねるように、地域の中で子どものことで心配なことがあったら気軽に訪ねられるように、保育園を週に1日解放するなど。
地域とのかかわりも必要かも。
困ったことがあったらいつでも相談が出来る。安全なあそび場所。児の成長を一緒に確認しあえる。保護者の仲間作り。
保育園の日々の保育計画やスケジュールに無理なく日程等を定め、地域の子どもたちとの交流や地域の保護者への子育て支援など。 《問題点》時間的な問題、又、園のスペースをどのように利用するか？職員が、保育から離れてプログラムに参加することなどの問題点の整備は、保育園内の職員だけではどうすることもできない。
保護者への支援（子育て相談、悩み相談等）。
孤独な子育てをしている保護者の支援が必要だと思う。悩みや質問、気持ちを聞いてもらえ、共感してもらえると安心感を保護者が持てるような、役割がある。

<p>保育をすることを第1に考えます。しかし、これからは子育て支援を重視していかなければならないと感じます。無理なく、できる範囲で、子育て支援サポートをしていく役割はあると思います。</p>
<p>子育て支援として公立保育園を開放して、保育園に通っていない親子の方々が保育園とはどんな所かを知ってもらったり、保育園のあそびを知らせたり、園庭開放をしてみる。又、育児に悩んでいる方もいるので、専門職の栄養士、看護師が相談にのるコーナーも併設する。日時は、月に1回午前中に設定する。しかし、相談は、いつでも良いことを伝えても良いと思う。</p>
<p>子育ての専門家として、保育園の保護者の支援はもとより、園外の地域の親子の子育ての相談を受けていくことと思う。将来的には近所に住んでいる親戚のおばちゃんを頼るような何でも気軽に話がきける場所になるといいと思う。</p>
<p>保育に欠ける状況にない場合でも日中の9:00~3:00頃までは、母親のリフレッシュ出来る事で預けられる様になっても良いのではと思う。</p>
<p>文京区の子どもが親子で集える施設。一時子どもをあずかる施設、就学までの間保育していく施設、それぞれの体制をしっかり作って子どもがもれないようにしていくことが大切、だと思います。</p>
<p>“保育に欠ける”という基本的役割がくずれているように思える。保育園児も同年齢の子どもと同じように、何かあった時支援出来るといい。</p>
<p>保育園に入っている子は様々な面で、色々な経験が出来ていると思われるが家庭にいる子は、経験が少ないと思われる。親子で参加出来るような場を保育園で作っていくことが、家庭での子育て支援にもつながると思う。一緒に食事したり、遊んだり、観劇したりなど、区内の保育園が月一回でも一人ずつでも受け入れていけばよいのではないかな。</p>
<p>0歳児から就学前までの子どもの成長、発達のノウハウを一番蓄積しているのは保育園である。保育園の専門性をもって、子どもたちの安住、安心と規律を守らなくてはならないと考える。そのために時間、人的、物的環境の難しい問題はあるが、何より子どもの視点に立っての情報発信と子育て家庭への支援が課せられている。</p>
<p>保育園に入っていない子どもとの交流、地域交流、園庭開放や観劇、運動会 etc。</p>
<p>「保育に欠ける」は今や死語。仕事も持ってあたり前、そんな考えはこのアンケートに適さないのでしょうか？あたり前に親が仕事をしている。そんな状況の中での生活力を支援したい。もっとたくさんの親が安心して、話しに来られ、又、園に入れられる。一緒に子育てしていける。そんな場が必要なのに、公的にしなくてはいけないのに…コストダウンが全てでしょうか？“公”には、働き続け、たくさんのサポート力を持つ人がいます。なぜ場を増やし、育成しないのでしょうか。子育ては、やせ細るばかりになりかねませんね。</p>
<p>地域の子どもを育てると言う意味で、保育園を利用して下さっていいと思いますし、区も予算面でもバックアップしてほしいです。</p>
<p>保育園がその地域に開かれたという意味では、親子で同年齢の子と関わる等、無理のないところで、その親子が、同年齢の子と関わる利点等は、支援できるのでは。</p>
<p>保育園の子どもたちの保育、そして親への支援など、問題も多くかかえているが、公立として文京区の子どもたちにもその財産を分けてあげたいと思う。 保育士など指導しながらできる限り子育て支援に取り組みたいと思う。</p>
<p>子育て相談の充実。文京区独自の子育て誌のようなものの発行（催し物、各園の情報、知識としての内容（病気、食事、ケガ等））。園児以外、保護者以外の人にもすべてに対し、サービス精神を向上させ、保育園のイメージをアップさせ、子育てに携わることはとても楽しく幸せなことだという実感をもってもらうような対応が必要。母としての喜びをもってもらうように努力し、働きかけることが大切ではないか。母親の精神的な満足度、充実感をどうしたらもたせることができるかは課題である。</p>
<p>ホッと（息がつまった時の）ステーションになれば良いと思います。ただし今、目の前のこどもたちにも手や目をかけなくてはならない現状もあります。子育てハウス（仮称）のようなところがあり、専門家がいてアドバイスしたり、一緒に遊んだりする。子育て広場より、環境設定（玩具も揃えイベントも企画…）を良くし、安心してすごせる場の提供。</p>
<p>やはり子育てに不安を抱えている保護者に伝えていくことが大切であると同時に、同年齢の子どもとかかわりを持つことが少ない子ども達に場を提供することが必要だと思う。</p>
<p>基本的には、ゆたかに生活ができない（家庭では）子も共働きの子もふくまれると思う。</p>
<p>主に親支援に力を入れていこう。不安をかかえた保護者に寄り添い、子育てに自信を持てるよう支援していきたい。</p>
<p>祖父母や父母が子どもの生活を重視する生き方を考えてほしい。それに向けていろいろなサービス支援があるといい。</p>
<p>現在の子育て中の母親には、周囲に頼れる方が少ないので、保育園などでサポートしていかなければなりません。利用したい方が多い保育園ですが、少子化とはいえ、保育園が少ないと思います。</p>
<p>子どもたちだけでなく、忙しい保護者のためフォローできるようにしていく。保育時間をのばすということだけでなく、メンタル的部分で何かできればよいと思う（園だけでなく、地域で）。</p>
<p>今は、保育園＝「保育に欠ける子ども」を預かる場所ではないと感じています。子どもにとっては、「家庭」よりも長く居る時間、環境で、「育ていく」というほとんど、「教育機関」に近くなっていると思う。ただそれは、学校でもなく、幼稚園でもなく、「社会性」や「公共の場」「マナー」を考え、教わる場所になってきていると思います。子どもにとって保育士は、親よりも、一緒に居る時間が長い分、信頼関係や、しつけが、成り立っていると日々感じる。親の言うことは聞かなくても、先生の言うことは聞ける。親よりも、甘えてくる場面が多い。</p>
<p>特に乳児のことにしたいと思います。子どもに加えてやはり保護者が子育てに対して話しをする（悩みなど）相手もおらずにいる、ということがみえてきているので、あそび（方）や離乳食について、など話をしたり、見てもらったり、一緒に過ごす時間が出来ればと思います。</p>

地域子育て支援 ex、園庭解放、時間を決めて、一緒に過ごす。
いろいろな場で交流を持つことができればよいと思います。
保育に欠ける子以外にも地域の子育ての中核になっていく。子育てがわからない母親にも離乳食の作り方、食べさせ方、遊ばせ方などを実際に体験して知ってもらう。地域のコミュニティーの役割。
保育園は幼稚園の下の位置である。保育園は、子どもを預けるだけの場所であるという今の考えを、改め、保育園は子育てのプロが集まっているところであることを認識してもらい、子育て相談などの充実が図れる施設作りをしていきたい。
地域の子育てセンターとしての機能。それには園長1人ががんばっても限界がある。フリーで動けるベテラン保育士が必要だが、現状ではクラス担任で手いっぱい。ぎりぎりの人数では地域まで手がまわらない。
地域に根づいた保育園。
子育てに対して悩んでいる保護者、その影響を受けている子どもが年々増加している社会だと思う。在園児以外に対しても、子育て相談やアドバイスをもっと気軽に受けられるような窓口になっていけたらと思う。
子育ての地域の中心となれるよう、子育て相談や、行事などをオープンにし、お年寄りなどとの交流を深めたり、気軽に、子どもたちと接する大人たちの機会を増やし、子どもは地域の子どもだから、地域で守り大切にしようという気持ちや行動などを広めていく場所になればいいと思う。
「保育に欠ける子」という中で保育園は現状の充実ひいて進んでほしいと思います。日々、難しくなる保護者との対応、不安定さを増す子ども達（遊べない子ども達）と問題は増えてきている現状です。職員の削減もあり、対応する職員の余裕すらなくなってきています（人の手として非常勤職員は配置されていますがその分、責任、緊張度は高くなっています）。文京区の子ども支援として、保育園だけでなく、あらたな施設を設け、同じ乳幼児教育をする機関としての連携を充分にとる方向で進めていけたら良いと思っています。
専業主婦の人も含め、0歳児の育児（離乳食、生活リズム、運動面）について、いつでも相談できたり、遊べるような場をもっと充実させる必要がある（文ちゃんの家、子育て広場のようなどころ）。
核家族、少子化時代の中にあって、保育園のはたす役割はとて大きいと思います。就労に関係なく厚生労働省が、子育て支援クラス等を作り、育休をとっている間から0歳児保育を受けられるといいですネ。離乳食のスタートの指導から、健康面の助言、遊びと人のかかわりなど、子育ては楽しくなくては…。予算削減の中にあって一笑ですネ。
子どもを産んだだけの人が親になるためのお手伝いのできたらいいと思います（初めから立派な親はいないということ）。あずかるだけでなく、保護者が子育てを学ぶための企画のお手伝いのできればいいと思います。今の保護者は権威のある方のお話、文献の方がより耳を傾けると思うので、子どもの育ちのために大切な理念を保護者の皆様にお伝えできる企画なら、保育室要員でも何でも私は協力したいです。
悩みの相談を受けること。遊び場を提供すること。様々な情報を提示すること。子どもの成長を卒園後も見守ること。
地域に開かれた保育園、という点で現在も各自がさまざまな工夫、努力で役割りを果たそうとしています。さらに、より多くの人が利用できる機会を増やしていくことが望ましいと思いますが、本来の役割りをないがしろにしないために、人員の確保、最低限の基準を守った上で、果たしていけることだと思います。
現在も各公立保育園で地域交流等、行われているが、人員も予算もなく内部努力のみで行われ、基本的役割も何とかやっている状態だと思う。子育て支援に向けてきちんと予算をつけて行っていくべきだと思う。
子育て相談。遊びの場の提供。
我が園では近隣のお子さんを、お呼びし、ホールを提供し、一緒に遊んだりする事等をしています。なかなか、保育園という場所は、入園しなければ、どんな所かわからず、学校に行ってしまう子も多いので、出来る限り、積極的に地域のお子さんを、お呼びする機会を増やしていきたいです。
子育て相談なども保育士の専門知識や、経験を生かして広く行っていけることは理想だと思います。現状、園に通う親子関係や保護者の子育て相談や、アドバイスをするのも日々の保育にプラスしてやっていくのはとても大変だと感じています。「支援施設」を新たに作ることもお金のかかる話なので、保育園を活用していくのはよいと思いますが、「子育て相談」などの専門職員を設置しないと現実的には難しいと思います。
今現在、様々な子育て支援をしている（育児相談、地域の親子の集い、一時保育）。それらは現状の保育園の中での職員による内部努力でしている（一時保育には非常勤はついているが）。職員の絶対人数がギリギリの中では限界がある。
子育てに悩む保護者の支援をしていきたい。
とにかく、子どもを持つ家庭、全体へ支援できる施設となる、役割は大きいと思う。しかしその前の土台として、今の保育園の保育の質をさらに高めること。そのためには保護者の協力もとても大きい。質を高めるため、社会全体が保育園へもっと関心を持って欲しい。私達からもっと発信していく。父母も大事だがそのためには、手が足りない状況である。
親が一人で子育てをするのが困難な世の中になっているので、地域と密な関係にある保育園が、地域の親の相談に乗ったり施設に招いて一緒に遊んだりすることは必要だと思う。しかし、年々と職務量が増え、また人員を減らされている中で、これ以上の新規事業を行うのは厳しく、職員負担が多すぎる。新たな事業を行うのであればそれなりに人をつけてほしい。
子育て支援…と言うのは、保護者の為の支援になっていて、支援というよりは、保護者の子育てを楽にさせようとしているように思います。それが子育ての為になっているのかとても疑問に感じています。
子育てに関する知識や、あそび方など教えていく、子育ての楽しさを体験と共に知らせていく、など、核家族が増えている中では、相談をうけたりなど、オープンに出入りができるような、居場所になればとも思う。が、そのためには、保育園の人員を減らす方向の現在の状態では、不可能に近い。保育士は少々のゆとりがあれば新しい取り組みに意欲的になれる。

<p>保育園を利用している人より家庭等で乳児期・幼児期を過ごしている人が多いと思う。家庭で保育している親はストレスや悩みを抱え、どこにそれをぶつければ、聞いてもらえよと思っている人も多いと思う。そうした親子に支援を、と思う。まずは出来るところから、何から出来るかと思悩むこのごろです。</p>
<p>家庭で保育されている子どもは保育園利用者よりも多いと思います。また、家庭で保育する親は悩みやストレスをかかえて生活をしていると思います。その子どもや親に対する支援を何らかの形で始めなくてはいけないと考えていますが、現に保育園の仕事が大変な中で踏み出せないものがあります。保育現場にはゆとりがありません。ゆとりができれば、支援もできるのではないかと思います。また、公保育園以外でふみちちゃんの家や子育てひろば等がもっと増えたらいいと思っています。</p>
<p>文京区は住民税も高いし、住みにくい環境だと思う。両親働いて、子育てをしていくには大変だし、保育に欠けるという子ども達に対しては十分役割を果たしているかに思う。育児休業中の子育て支援、後の職場復帰への援助、相談など役割を果たす、条件はそろっているとされる。</p>
<p>兄弟関係は同じ園に入所させてあげたい…。</p>
<p>自分の園の子ども達だけみていけばよいのではなく、地域の子子ども達を、地域と一緒に、共に子育てをしていく必要性が高まると思います。</p>
<p>子育てをしている親同士のコミュニティの場。子育ての悩みを聞き、アドバイスする相談施設。遊ばせ方を知る場。子育てのポイントを具体的に知ることのできる場。※充分に対応できる人員配置と設備を用意する。</p>
<p>地域の子子ども達、その親共に保育園に来て保育園を知り、時には一緒に関わり、どんなところか知ること大切である。</p>
<p>子育ての方法、根本的に「子ども」というものを理解していない保護者があまりにも多いので、基本的にノウハウや子育ての楽しさを伝えていける場であるべきだと思います。現在いる子ども達（保育園の）を健やかに育て、なおかつ地域の子子どももサポートする為には、ゆとりをもった人的理性が現在の保育園にはぜひ必要であると考えます。現在の人員ではどちらも中途半端で終わってしまいます。</p>
<p>子育てに悩んでる人に相談の場を設けるとともに病時保育などを受け入れていく。</p>
<p>必要に応じて同じような支援が受けられれば平等なのではないか。</p>
<p>緊急一時や子育て相談といった子育てのサポートをしていくべきだと思います。園の子どもと保育することが一番ですが、できることがあったら、園児以外の方の子育てサポートもできたらと思います。（日中は、人的にも難しい面もありますが、しっかりと対応がとれるのなら少しづつは始められると思います。）</p>
<p>小さいうちに保育園に入ってきて良かったと思う子が多くなっている。（親が子育てをわからない為）ネット等で情報はあふれているが、日々の中で必要な知恵は人から人にしか、伝わらないと思うので、そういう場としての役割から必要だと思う。</p>
<p>保育園に入りたいのに入れない人へのフォロー。子育てに不安をもっている人への働きかけ、交流の場作り。</p>
<p>日中、親とだけ過ごす子どもたちと親が、子育ての悩みなどをかかえ込み、ストレスにならない様、相談にのったり、子どもとの遊び方などを教えてあげる場があれば、良いと考えます。</p>
<p>施設の充実、もっと、子どもが安心して遊べる場所の確保。また、親子のふれあいの広場の提供など。</p>
<p>保育園児以外の子子どもと親御さんの子育てにしてあげられる事は、いろいろあると思います。園庭でいっしょに遊びながら、話をきき、できれば具体的なアドバイスをする。一日、1ケース位ですが0、1、2歳のクラスでいっしょに給食を食べてみて、食事への心配、不安に答えていく。月に1回、0～3歳位までの遊びの会をもつ。これは、児童館でもやっているもので、いっしょにしてもいいと思う。</p>
<p>あらゆる面で「子どもたち」また妊婦さん、又それ以前の方々にとっての情報基地になっていかななくてはならないと思っている。もっと門戸の広い保育園になっていくべきだと思う。</p>
<p>保育に欠けるという言葉はなくなりつつあると思う。学校に入る前の集団施設であると思う。簡単な生活のルール・コミュニケーションを取る場所であると思う。</p>
<p>子育てに不安のある保護者が多い。週、2～3日保育園にきて、すごす子、午前中のみの子子どもなども考えていけたらと思う。児童館だけでなく0～3歳までの保護者と一緒にあそべる室内施設があるとよいと思う。職場復帰する前に保育園を知ること安心して預けることができる。またゆとりのあるうちに子どもの姿を見る機会ももてる。</p>
<p>子どもがのびのびと、生き生きと過ごすことにより、未来の大人が健やかに生活できることになると思う。</p>
<p>保護者が子育てしやすいように援助していく場が必要だと思う。</p>
<p>どこまでが子育て支援なのか！保護者の工夫や努力をとりあげてしまうのではないかと不安！投げかけてあげて共に考えることは大切ですが、支援しすぎて、苦勞の末につかんだ親の喜びまでとりあげることにならないかと不安です！塩梅がとて難しいと思います。</p>
<p>地域の人が園の行事に参加したり、逆に地域の人達が主催で園の庭などで何か行事が行われてもいいのではと思う。</p>
<p>子育て相談の拡充。地域の子育て支援。</p>
<p>子育て支援は地域ぐるみ、又、子どもに関わる大人たちが子どものためにすすめていくものであると思う。</p>
<p>専業主婦で、子育てにひとりで取りくんでいる母親に対し、短い時間でも子どもと一緒に遊びに来られる機会を設けてあげたり、子育てにストレスを抱えている人たちの支援を（そのためには保育士にゆとりが必要なので人手は確保しないと出来ないが）。</p>

<p>私たちが地域にいて地域に環元できること、今の保育の中で何が支援として実践できるか検討しています。同年齢の子どもたちには保育の中で行っていることの経験をしてもらう、行事を選びながら誘うなど、今の保育の中に参加してもらうことは自然だと思います。子育てに悩み、同じ年齢の友達を求めている家庭には、多勢の子どもの仲間入りが子育ての楽しさにつながるのではないのでしょうか。保育園には、子育ての情報を発信する役割があると思います。日々の保育から豊かな情報・知識を伝えることで、子育ての楽しさ、喜びを感じてもらえればと思います。</p>
<p>育児に行きづまりを感じているのは、就労している母よりも専業主婦の母の方が多いと聞いている。家庭以外に、母も子も安心して過ごせる場所は、絶対に必要。その中に、専門の職員がいて、自然に交流する中で支援していけるようなシステムがあると良い。</p>
<p>親のリフレッシュ。家庭で子育てをしている子どもも一緒にあそべる機会を作ったり相談にのる。</p>
<p>虐待や子育てに不安を抱いている母親が増えている中で、子育て支援事業を拡大していく必要を感じています。歴史的に見ても母親だけに子育てを任せられた時代は少なく、社会で支えるシステム作りの中で保育園の役割は大きくなると思う。しかし、現在の環境、人的配置ではなく予算をつけ、体制を整えることが必要です。在園児の保育と地域への支援事業を分けて対応できるような形にしていけないか。</p>
<p>体制を大きく変えないのであれば、できることは日常の保育の延長線上にあることだと思います。日常の保護者との関わりを通して子育て相談や子育て支援を行っていくこと。日々の活動を通して、社会に子育てにやさしい雰囲気をつくっていくことだと思います。</p>
<p>今、問題になっているいじめ、自殺の問題と関わることもあるが、「生きる力」を生活の中で、見につけさせていかなければいけないと思う。</p>
<p>まず、今いわれている公立保育園を民間の保育園にするという考え方の基本をはずしてほしい。公立であるからこそ、助けられることが沢山あると思う。まだまだ氷山の一角で、保育に欠けている子は沢山いると思うので、役所と連携をとって、入園できるよう、文京区ならではの保育の大切さをしらせていきたいと感じている。</p>
<p>文京区の子ども全体の子育て支援は、非常に重要かつ、求められている役割であると考えています。しかし、現状として、今現在入所している子ども達をしっかり保育することが最重要課題であり、欠員状態の厳しい中では、ごくわずかなことしか出来ないであろうことも事実だと思います。</p>
<p>子ども中心の子育てステーションの役割であり、大人のケアは、別の所がいい。</p>
<p>家庭の育児力がなくなっている今、地域の中心になり、まとめていく役割はあると思います。子育ての相談だけでなく、遊び場や絵本の読み聞かせ会など。</p>
<p>子どもとの遊び方、コミュニケーションのとり方を地域の子どもと保護者に教える。</p>
<p>子どもたち（親も含む）支援をしていくということには、賛成です。ただし、今の現状の中では、日々の保育をしていくのに身体も心も精一杯というところです。子育て支援をうたうのであれば、やはり区（国、都）は、そこに予算を十分にかけ、非常勤配置ではなく、確実に人を配置してほしいです。私達は、働く側に余裕がなければ、人に対応するための良い仕事はできません。</p>
<p>地域の子どもも遊びにこれる空間（日にち時間を決める）をつくったり、親子のふれあう場所を提供することがあってもいいと思う（その分、危機管理や防犯面が大切になると思うが）。</p>
<p>あらゆる家庭の支援も含め“子育て”“親育て”の発信は必要だと思っています。手を差し伸べたくても届かない家庭、思い悩んでいてもどこに行ったらよいかかわからないでいる父母達等々。子どもを守っていく為に、各地域の保育園の役割は大きくなると思うのですが、一方では、不審者対策で、子どもの安全を守らなくては行けない中、誰でも気軽に入れる門扉を現状の中で構築していく難しさはあります。</p>

## (18)【設問(26)】 その他自由意見

<p>「子育て」とは家庭だけでするものではない。けれども同様に社会だけがするものでもない。今の子どもたちが将来10年20年先にどんな大人になって欲しいのか、その為には今必要なのは何か、出来る事は何か、考え、その力を付けていかなければいけないと思う。ひとつひとつの家庭においても、本当に必要なサポートは何か、見抜く力を付けていく事が大切であると思う。料理と同じ・・・そのひと手間がその子にとって将来的に大きな力になる事を信じて・・・！！</p>
<p>できるだけ多くの子どもたちが整った環境の中で高い水準の保育を受けるには、やはり企業ではなく公立の中で保護者が安心して子どもを預けられるよう、対応しなければならぬと思う。それには少ない予算でギリギリの保育士の数ではそれらの条件を満たす事はできないのは当たり前。「収容」ではないのもっとゆとりのある保育環境を目標とし、努力して欲しい（行政に望みます）。</p>
<p>私立と公立とで保育の質が違うように思います。保育士自身の質の向上を含め、保育そのものの質の向上を図るのが施設のあり方を考えるより先ではないでしょうか。すべての子どもに質の高い保育を提供することに力を注いでいただきたい。「でかい」「超～」などの言葉が保護者、保育士ともに使われており、言葉の環境整備にも目を向ける必要があると思う。個性を大事にする保育が主流だが、私立では一斉保育で“教育”する園もあり、園を選ぶとき、各園の特色が保護者にはっきり伝わるような努力が必要だと思う。幼児教育に対して確固たる保育観をもって運営していただきたい。</p>
<p>親が子育てをするのはもちろんであるが、近所の人に挨拶をしたり、いけないことをしたら親でない人からも注意されるというような、地域ぐるみでも、子育てを見守っていけるような社会になったらいいと思う。</p>
<p>子育て支援が必要とうたわれ、園も保護者の気持ちにそって考えてきたが、年々お互いに通じ合えないもどかしさを感じる。昔はもっとフランクに子育てについてアドバイスをしたり、その子の今の課題について話し合っていたのだが、なかなか言えなくなり、子どもにとって大事な時期に気持ちを満たされずに育ってしまい、大きくなって人との関わりで問題が出てくるのではないかと不安になる。</p>

<p>生活のリズム全てに言える事だと思うが、食事、睡眠、運動のどれかひとつがずれているという事ではなく、全てが崩れてしまっている。ひとつひとつを立て直すのではなく、全体を見て、繰り返し繰り返し働きかけ、改善されている事を認め、受け入れて行く事が大事であり、これからの保育園の中で進めていく重要課題だと思っている。</p> <p>家庭の中における母親については、特に相談する相手もいず、家の中で暗くなり、子と2人の生活で、精神を病んでいる保護者。病んでいなくても、親子の関わり方に疑問を持っている親。子どもから少しの時間解放されて、一人の自由な時間を作ってあげる事も、行政の中で考えていかななくてはならない。子どもを保育園に預けて安心している親。どこにも預けることの出来ない親の両面から保育を考えていかなければいけない。</p>
<p>21世紀を担う子ども達が、元気にのびのびと育つ場、環境を整えることを忘れないでほしい。大人の就労ばかりを考えずに、まずは、子どもの立場になって進めて守ってほしい。ありとあらゆる新事業には、力を注いでいくことには、賛成できるので、お金がかかってもやってほしい。</p>
<p>「産む」だけの親には、なって欲しくない。保育者は専門的なことだけではなく様々な保護者に対応すべき人間性が必要と感じる。保育士にも預ける保護者同様に“息抜き”の時間を！！相互の思いやる心が欲しい！</p>
<p>今までしてきたこと、今していることを見直すよい機会になったと思うが、アンケートといってもとても重く、記入に時間がかかった。設問によっては、似通っているものもあった。1枚目の協力のお願いの裏が記入のページにすぐなっているのは、おかしい。別につけるべきではないか。年齢は〇〇代ぐらいが記入しやすい。</p>
<p>このアンケートをどのように受け取るのかわかりませんが、質問の内容が難しく、私なりの思いで書かせて頂きました。</p>
<p>子どもにとってを考えるのであれば、今の社会を変えていかなければならないのではないかな。</p>
<p>IT だ、携帯だと便利な物に小さい頃から、たよりすぎている日本の社会。自分の頭で考えることが乏しく、楽な方に流されがち。未来を担う子どもたちもそんな大人を見て育っているのだからこそ、大人一人ひとりがこれでいいのか、マスコミ情報に流されることなく、しっかりとした考えを持って行動しなければいけないのではないだろうか。</p>
<p>このアンケートがどうぞ、子ども達の為に、なりますように。</p>
<p>子育ての条件の中に、やはり親の就労時間の短縮がある。日本の文化水準のレベルアップ。電車のつり広告、TV 番組など、子どもにとって刺激的なことが多い。安全な地域づくり、子どもがむれて小さい子も大きい子も遊べる広場。</p>
<p>〇×では意見を出しきれないところもあるが、記述が多いと思う。 いろいろなアイデア(意見)があっても、区立保育園では実行に移していくことが難しい現状である。</p>
<p>なぜこのアンケートが必要なのですか。何を求めていきたいのか。</p>
<p>幼稚園、保育園というが、生活の基礎を作る同じ時を過ごし、生きる力を育てているのは同じだと感じる。教育と保育を分けて考えているところを感じられるが、乳幼児期に様々な経験や成長を保障して育むのは同じだと感じる。</p>
<p>大人の考えや感覚が大きく変化している。保育士とかみ合わなかったり、ずれていることも多いと感じる。それが子どもにも大きく影響している。このような違い・差を縮めるにはどうすればいいのか…日々頭を抱えている。</p>
<p>待機児を減らすためにあらゆる入所受け入れ対策がとられるようになったが、公に「認定」と名がつけば、太鼓判を押された安心できる施設と利用者は思っている。文京区の保育園は17園と少ないが、公に建設された建物で民間が公立園とは違った運営内容で運営されているものも同じように「区立」と募集案内されているのは住民にわかりにくい。「公設」と表示した方がわかりやすいし、区別しやすい。</p>
<p>このようなすべて文章で答えるアンケートははじめてです。日々の生活や介護に忙しく記入しきれません。できればいくつかから択一するものにしていただければと思います。</p>
<p>保育ビジョン策定になぜ幼稚園が入っていないのか疑問である。文京区の就学前の子どもについて大きな視野で考えてほしい。保育園保護者は権利主張が強く、自分勝手的考えが強すぎるのでは。家庭で子育てをしている人は産休もなく第二子出産をしても一人で育児している。保育園保護者は第二子出産で当たり前第一子をあずけているが、一人で2人も3人も一日中子育てをしている人がいることを知ってほしい。</p>
<p>これからの保育の難しさや、子どものみではなく、保護者とのかわりの重要性を改めて感じました。「子育て」言葉では簡単に口にはできますが、とても大きなものだと思います。しっかり携わっていきたくと思いました。少しでも子どもが子どもらしく生活できるように！！</p>
<p>保育園や幼稚園の保護者は、よく「ひとりでも大変なのに先生方はたくさんの子どもをみれてすごい」などとおっしゃっていただけるけれど、たとえ0歳であっても、子どもは保育園(社会)と家庭をちゃんと使い分けているんです。だから親の言うことは聞かなくても先生の言うことなら聞けるんです(ある意味大人と同じ)。保育園という集団が成り立つのは、子どもがちゃんと外と内とを使い分けてくれているからなんです。だから、現在の保育園集団の中に園児でない親子で参加することだけは、園児たちにとって酷だと思います。自分たちは親から離れた社会でがんばっているのに、要求をそのまま受け止めてもらえる親と一緒に子どもを目の前にしたら、どんな気持ちになるか察してあげてください。</p>
<p>ここまで目を通していただきありがとうございます。最近の子どもをめぐる痛ましい事件を目にするたびに、何もできない無力な大人ではいけないと感じていました。文京区の子どもたちのことを考え、できることから実践していくことが結果的にうまくいくのだと思いますので、文京区保育ビジョンへの動きが今後も気になっています。私は保育士として、責任を感じ、心のある子どもたちの保育にあたっていきたくと、日々感じています。</p>
<p>子育て支援の政策がいろいろに打ち出されているが、どれも将来像がみえず子どもの為になっているかと考えてしまう。子どもが宝となる社会、地域の中で大切に育む子育て力を復活させる為には、就労時間を短くして子どもと向き合えるゆとりができるような支援のあり方が望まれる。又同様に病気の時にも親が休めるシステム作りを企業も考えていけるとよい。</p>
<p>全体でのこのアンケートの結果が、どのように反映されていくのが、やってる意味のあらわれであり、楽しみです。お疲れさまでした。</p>

親の支援をしていながら、それでも保育士として子ども第1にもの事を考えています。今回のアンケートを通して改めて、子どもは親の影響を顕著に受けるものだと感じ、子どもを思うならば親を含めた保育が不可欠なのだと、考えさせられました。ただ、考え方の基本が、親が要求するから…親の為に…というのは、やはり疑問を感じます。どんなに長時間一緒にすごしても、子ども達は親を求めます。どんなに良い保育をしたと思っても親子のきずなの中に、私たちは入れません。その事を、もっとわかってほしいなと思います。アンケート集計、ごころう様です。
このアンケートについて：あまり具体的な事は書けない欄もあった。
文京区の子どもたち、幸せな生活を送って欲しいと思う。保育園での生活が楽しかったと思えるような保育をしていきたい。
いろいろな意味で難しい問題だったと思います。
難しいアンケートでした。もう少し簡単に記入できるものが良かったと思います。
保育園、子育て支援に対しての文京区の予算は、少なすぎるので、なんとかして欲しい。国規模で、少子化をなんとかしたいのならば、予算を付けて欲しい。母親の労働条件も改善して欲しい。そうでないと少子化は止められない。子どもを増せと言う前に育てられる大人を作らなければいけないと思うし、心安らかに安心して育てられる社会にしなければいけないと思う。
アンケートなので、択一にしてほしい。
子どもの育つを連続的に見ていく為に幼保、小学校、中学校との連携がとても大事であると思う。子ども達が安心して遊べる場所、公園作りにもっと力を入れるべきである。1歳児園にも看護師は絶対必要である。
策定検討委員会の中で言ってほしいこと。公立保育園を守ること。公立保育園を増設すること（公設公営）（公設民営にはしない）保育士は正規で補充すること。
どの保育ビジョンに対しても、現時点の保育園の環境の中でこなしていくことに無理があると思う。児童福祉法により、子どもは平等に育成されていくことが望ましいが、今までの保育園の環境ですべてをまかなうことは不可能。子育て支援、子どもの健全育成には、大人の手が必要。無理な環境の中での子育ては、健全育成を逆行させる。福祉から人手をなくす、コスト削減することは、色々な意味で危険を伴う。子育てはもちろんの事、保護者の子育ての意識を高める子育てをする力を養う支援が必要。
文京区の保育の質を低下させないためにも、民営化反対、正規職員を補充（欠員を無くし、確保）することを強く要求します。
人件費削減の為「民間委託」や「認定こども園」を作ったりと、日々保育の世界は変化している。子どもたちにとって民間委託や認定こども園はよりよい、質の高い保育を受けることができるのかと疑問に思う。保育は、サービスではなく、未来ある子どもたちの発達を援助し、子育て支援をする所である。「文のみやこ」といわれている文京区が、しっかりと保育、子どものことを考えると自ずから民間委託ではなく、ちゃんと保育基準が決まっている、そして設備が整っている施設で、正規職員が保育できる、公設公営で保育ができることを望んでいる。子どもは「宝」である。これからの世の中をしっかりと支えてくれる子どもたちの保育を大切にしてほしい。
基本的には、将来を担う子どもが保護者から阻外感を受ける事なく安心して過ごせる環境を整えていく事が大事だと思う。最近の保護者は子どもと一緒に居たいのに、過ごす時間が少ないと思っている方が少なくなったと感じる。まずは、子どもの生活を守ってあげる事が大事である。
年々、色々な問題が多くなり、なかなかすぐに対応出来ないことも多くなっている。保護者が変わらなければ子どもも変わらないが、子どもが変わると保護者も変れるということもあるので、根気よく、様々な子どもに接していくことが、保育園の役割のひとつと考えている。
今の社会に疑問。何が大切か基本が何かが問われず、今、目の前にある事件などをクローズアップしすぎ！虐待、いじめなどもあったことをつづくのではなく、どうしていったらいいのか議論すべき、マスコミの規制を！
公立の悪い所がクローズアップされ、「民営化OKです」という人も多い。私立は、お金が先、になりますし、良いスタッフは、お金もかかるのです。おごりたかぶる保育園、保育士ばかりではありません。ぜひ子どもの生活、守られるべき成長にも目を向けて下さい。「〇〇もしてくれない」「〇〇もやってない」子どもは長時間保育を求めているのでしょうか？私は我が子が「かわいい」です。そう言い切り、子育ての一時を、乗り切れる環境を考えてほしいなと思います。
本当に、価値観が色々あり、現代子育ては難しいと思いますが、本来、子育てというのは、すごく重要な仕事であり、お金に代わるものではないのではないのでしょうか？難しい問題が山積みだと思いますが、子どもが毎日楽しく、うれしい～と色々、遊びを通して、感じたりできる事をいつまでも、大切に！又、大人側がそれをあたたかい目（心）で見守れるようにお互いがんばっていきたいと思います。
母親として持たなければならぬ子育ての知識や常識と言われてきた様々なことが未熟であり、それを見下すことなく、見放すことなく包み込みながら丁寧に教えてあげることが必要になってきた。子どもを育てると同時に親を育てることに重点を置き、保育士ひとりひとりが意識を変えて接することが一番の課題だと思う。各々の施策を展開することも大切であり、受け入れる窓口を広げていきたいと思うが、そのためには受け入れができるゆとりが欲しい。リタイヤした人、資格があっても仕事のない人がたくさんいるのでうまく活用しながら人のぬくもりの多い保育園が増えることを望みます。
同じような内容の（傾向）質問が多く、もっとコンパクトにできないだろうかと思いました。とても長い間いなので、お互い大変、時間がない〇×の方がよいとの意見がありました。
書き込み式アンケートだったので書き込みが多く大変だった。いくつか選ぶ方式（〇×△）を取り入れたアンケートにして欲しかった。子どもの色々な問題を解決するには時間的余裕が必要だと思います。今の親たちは絶対的時間が短い。男の人も女の人も労働時間短縮が一番大事だと思う（世の中全体）。

これをどうまとめるのか、まとめられるのか、全ての意見を把握できるのか、かなりの時間を費やしました。
自由記述が多すぎ、時間がとれなかった。
団塊の世代がいなくなり新人が入ってくるが、人材育成を充分にするには、どんな工夫をしたらいいのか、考えるべき。
子どもたちが笑顔で元気に来て、笑顔で元気に帰る毎日であるようこれからも努力していきたいと思います。
どの設問においても同様だが、子育て支援はまったく大人の立場からのみ見て、考えられている様に思う。育てられる子どもにとっての子育て支援を見直してほしい。現在、いじめなどの問題が後をたたない。大元に親のかかわりを感じる。いじめの方、自殺する方、共ににおいても家庭でのかかわりを考えてしまう。保育園でもその芽を持っている子は見られる。そこでの子育て支援を行っていききたいが、現在は保育園の立場が弱いように思う。
記述式がほとんどのアンケートなのでどのようにまとめられるのかは疑問です。
イライラしている子、周囲に対し言動のキツイ子、気持ちを言葉で伝えられない、すぐに手が出てしまう、食事マナーを知らない etc. 全ては家庭環境、親子関係の反映だと思う。園生活だけではケアできない。子どもに対応していくと共に、保護者へのケアやサポートもしていくことが、子どもの健やかな成長につながる。子どもたちが日々を楽しく幸せな気持ちで過ごせるよう、努めていきたい。
色々と現実の難しい問題を改めて考えさせられたアンケートでした。難しい問題も様々ですが次世代を担う子育て支援は今後とも重大な問題と考えます。ゆとりのある教育だけでなく、ゆとりのある育児へと進めていかなければいけないと思います。自殺する子どもの増加は何を意味しているのでしょうか。自分の気持ちを伝えられない、相談できない、解決できない、など自分の気持ちをコントロールのできない、未熟な子ども達を育ててしまったのはなぜか。改めて乳、幼児期の育ちの大切さについて考えていきたいと思っています。
保育園の給食は7割しか負担されておらず100%登園の日が多いので残りの3割は調理がとて苦勞してやりくりをしている。とても問題だと思う。
保育園の役割や子育て支援にしても私たち現場の保育士から言えるひとつとして、子どもの姿から考えてほしいという思いがあります。
私は、記名はなくてもこのアンケートはほぼ記名されたものに近いと思います。保護者と保育士は子どもの育ちのためによい関係になければいけません。しかし、そうでない文章も多数書きました。それはアンケートで真剣に調査したいというお気持ちに応えなかったからです。このアンケートが原因での微々たるトラブルもおきることのないよう、くれぐれもよろしくお願いします。
思ったまま、とりとめもなく書いてしまいました。これらを集約されるのは大変な作業かと思っています。ご苦勞さまで。いろいろなことを書かせていただきましたが、私達保育士は“子どものために”を第一に考えて保育をしています。失礼な点がございましたら、お許し下さい。
社会的役割の重要さに比べて、評価が低すぎる。子育てというとてもステキな仕事につけてよかったと思っていますが、現実はいきびしすぎて重圧に押しつぶされそうになっています。子どもの命をあずかり、人格形成の基礎を育てる仕事として、現状はリスクが大きすぎる。私たち保育士の保障は何もありません。国家資格になっても責任こそあれ、何のメリットもありません。子育て支援といいながら、社会の制度が変わらなければ少子化問題は進まないように思います。今の保育園は保育の質の向上を望まれています、研修したくても、する時間も費用もありません。予算化されていません(ほとんど)。みんな自分の休暇だったり、夜間だったり自費で行っています。ほとんどサービス残業です。保育園は、あまりにも次々と色々なことをかかえすぎていて、それをまじめに正面から取り組んでいます。休日もとれずサービス残業、ボランティアです。職員はゆとりを持ち豊かな人格を持ってこそいい保育につながると思っていますが、このアンケートをかくのにとて時間を費やしました、大変でした。
現代社会において子育ては保護者だけの個人的な問題でなく、これからの未来を担う子どもたちをどう育てていくのが問題であり、日本の国の子育てビジョンはあまりにも親個人の問題にしすぎていると思う。又、先進国の中で、日本の保育水準や基準はあまりにも低く、保護者個人が子どもにどれだけお金をかけられるかによって、良い保育を受けられるか、受けられないかの方向に進んでいるとも感じる。子育てすることは親の努めであり喜びでもあるが、とにかく忙しくストレスの多い社会で、働く親たちにとっての子育ては負担であり、家庭に居る専業主婦にとっても孤独である事から、育児ノイローゼになり虐待してしまうことがあるということも現実的な問題だ。社会が複雑化した今だからこそ、新しい子育てのあり方を検討していかなければならないと思う。その為には、どんな大人に育てたいかという未来像が不可欠であり、今の年齢の子どもたちには何が必要なのか、大人のすべきことは何なのか、国を挙げて政策を打ち出すべきだと思う。どんな状況でも、全ての子どもは平等により良い保育を受けられるよう、保育士が保護者の子育てのパートナーとして対等に子育てを担って苦勞しあう仲間になれるよう、今現在だけでなく、先のことを考えながら自分に今できることをしていきたいと考えている。
役所の方々は、なかなか、現場の私達の声を聞いてくれない事が多く、大変な毎日です。それでも私達は、日々、子ども達を安全に、楽しく、1日をすごせるよう、努力しています。決してそれで保護者の方にいばってお伝えする事はありません。それはプロだからです。しかし、もっと私達と一緒に協力し子どものために、がんばっていただきたいと思っています。
お迎えの時間を守って欲しい。仕事の都合で遅れるのは仕方がないと思うが、こちらも、子どもの迎えがあったり、体調をこわしたので、病院に行こうと思っても、遅れてこられると行けなくなる。保護者の人だけが働いている訳ではなく、保育士も子育てをしながら働いていると言う事を忘れないで欲しい。
何もかも保育園が請け負って人員はギリギリのまま。ゆとりをもって、子どもや保護者と関わる時間すらもなくなってきている。日々サービス残業をしなければ一日の仕事が終らない。いやサービス残業をしてもおいつかない。職員会でも子どもの育ちについてじっくり話し合う時間もとれない程、雑事のことが中心になってしまう。保育にしても、あれもだめこれもダメとやたらと規制が多く、自由な発想の中で質の高い保育が出来ない。職員は肉体的疲労と精神的ストレスがたまり、以前よりその為の病欠も出ている。病欠や育休の代替えもないまま仕事を続けなければならない状態も多いのが現状である。保育園職員は本当に疲れている。

<p>子どもの人格形成に大きく影響する、大切な生活を育んでいる保育士の社会的な地位が低すぎる。人員が年々削減されるが、保育士は保育の低下を招かない様、子ども達のいる間は保育に当たり、事務や記録は5:30以降になることも多い。研修は時間外か日程をやりくりしなければなかなか行けない(当番が多くて、変わることができない事もある)</p>
<p>いろいろ、思いを書いたが、家庭と園との協力がなくては何も改善されない。このアンケートの集計が今後どのような形で生かされるのか興味深い。</p>
<p>日常の業務に追われる中、このようにアンケートに、時間がとられてしまい厳しかった。できれば、もう少し簡単な方法を考えていただきたかった。また、保育園は子どもの命を預かっており、精神的にも、常に気を張っていなければならない場所なので、事務職の人と同じ給料条件ではおかしいのではないだろうか？サービス残業ばかりで、超過勤務手当もほとんどつかないのはおかしい。</p>
<p>私たちは、人間を育てている仕事である。子どものため、ということなら努力し、“がんばる”ことは否定しない。しかし、数日間の努力ならがんばっても、長時間で労働条件も悪くなるなら体力的にも精神的にもボロボロになるのは予想がつく。何事も新しいことをしようとするのなら職員が働きやすい環境にしてほしい。</p>
<p>毎日のように聞こえてくる“いじめ”“教育問題”子どもの心を育てる一番大事な時期に私達はかかわっている。その重みを痛感する。いろいろな問題にぶつかるたびに悩み、迷い、がんばっていますが、ゆとりのない現実に疲れています。そんな中で保育士も保護者も、そして一番に子どもにとって何が大切なのか、何をどのようにしていけばよいのか、よりよいビジョンが出来ますように。</p>
<p>とり急ぎ書きましたので不備がたくさんあることをお許し下さい。また、31年も保育士を続けていますが、今だこれくらいだという答えをみつけられず悩み、迷い、そして保育の質を上げようとがんばっていますが、働く者だけのがんばりでは限りがあります。保育士も親もゆとりがないのが現実です。国も都も自治体も、子どものことなど考えず、コスト優先の施策作りをしているように思います。国も都も自治体も働く者も保護者も他の方々も、いちばん子どもにとって何が大切で大事なのか、そのためにどんなビジョンを作っていかなければいけないのか、よくよく考えていただきたいと切に思っております。どうぞよろしくお願いたします。</p>
<p>子どもは「3つ子の魂百まで」と昔のことばにあるように3歳までにいるんなことが吸収され、確立し、基盤を形成します。就学前には、能力が備わり、将来がみえてきます。学校へ上がってからでは遅いのです。人との関わりも重要です。教育ではないのです。いかにこの今、起きている子どもの事件、いじめ、自殺など特異現象を少なくするためには、この時期の生活をしっかりみつめ、また見直していくことだと思います。保育園で育つ子ども達はきっとそのような心配がないでしょう。そう願いたい。</p>
<p>難しいですね。お金も人もいない中、保護者の要求は広いですし、一度措置されるとずっといられるシステム。やはり途中、保護者の就労をどこかで確認することが必要なのではないかと。</p>
<p>正直、まだ保育について、未熟でわからないことだらけなので、答えがよくわかりませんでした。これから、現場で子ども達と向き合いながら学んでいきます。</p>
<p>私も子どもをもつ親ですが、子育ての中心は、家庭にあると思います。生活リズム、食生活、人間関係 etc、家庭での親子関係がしっかりしていれば、問題も少なくなるのではないのでしょうか。ただ子育てでの悩みはつきものなので、講演会や子育ての話し合い等を通して親が勉強する場が必要かな…と思います。子どもとしっかりとむきあい、親から愛情をたっぷり受けることが大切だと思います。</p>
<p>親の都合で保育所を作るのではなく、本当に子どもたちのことを考え、安心して子どもを預けられる施設を増やしてほしい…。働いてる人達が安心して働けるよう人員を確保し、余裕を持ってほしい。</p>
<p>“あたり前”“常識”が何なのか、わかりづらい世の中になっているので、親との会話でも言葉が通じないと感じる人が多い→日々疲れを感じるが、あきらめずにやるしかない、と思いがらすごしているの“改善できる提案”があるなら知りたいです。</p>
<p>設問が多すぎて書きにくいです。もっと具体的に設問があったら答え方もちがってくると思います。区民の方の保育や子育てに対する必要意識がどれだけあるのか？その力も大きいと思う。公立だから何でもありという保育園の保護者の方のモラルも問われる(あずけ方、送迎時間など)。</p>
<p>保育園は何でも屋ではありません。</p>
<p>今は割り切り過ぎる親が多くなったような気がします。私も子を持つ親として、気持ちや思いはとてもよくわかりますが、親としての責任を考えると、どんなに辛くても苦しくても、やるしかないと思っています。育児は育自と言われてるように、自分を育てる。育てていくことが育児になり、人は人を育てていくことで、人として完成していくのだと思っています。もちろん、ストレスが爆発しそうになることもあります。親というのは大変なんだとしみじみ思いながら、自分の親に感謝する日々です。</p>
<p>職場で日々、勉強し話し合っていることが今回のアンケートの内容でしたが、改めて文章で答えながら振り返る機会になりました。特に、子育て支援は地域、区民の要望、声を取り入れながら、区としての子育て支援を確立していきたいと思っています。少子化の原因はさまざまですが、中、高校で小さい子との触れ合いの授業を設けるなど、人、命の尊さを学ぶことで育児ってすばらしいことだと感じてほしいと思います。子育ては人育て。子どもが大人になっても一生その関係が続きます。保育園は長く6年間ですが、そのおつき合いの間に私たちの役割を果たし、少しでも子育てのお手伝いをしっかりとしていきたいと思っています。そのため専門性を更に高める努力をしていきます。</p>
<p>日頃、子どもたちをいろいろな角度からとらえ、その都度足りないものを補えるような努力をしている。クラスだけにとどまらず、園全体で子どもを育てる中で、常に話し合いをしたり、適切な対応などを考えているつもりです。</p>
<p>この数年、長時間保育になっている子どもたちがほとんどで、職員も毎日の当番の回数、又子育て支援など、沢山課題がおかれている。やはり勤務時間の面では、私は、とても疑問を感じる。当番制ではなく、勤務体制を1~3種類にしての運営は、できないのではないだろうか。大人も子どもも長時間で疲労していることは確実である。是非とも勤務体制の方法を考えてほしい。</p>

保育ビジョン策定委員会にご出席頂いている皆様、そして、日ごろ保育園にご協力頂いております、18園の保護者の皆様、ありがとうございます。そして、ご苦勞様です。私達保育士は、全ての子どもが元気に生活し、就学までに色々なことを経験し、どの子も健やかに育ってくれること、それには、何をしてあげられるのかを常に考えています。それは、保護者の皆様の子どもへの愛情に届かずとも、負けない位の情熱を持っています。子どもの代弁者として時に保護者の皆様にとっては、厳しいこともあるかも知れませんが、子どもにとって、よりよい方向を探っていることであり、決して保護者の皆様に大変な思いをさせようと考えているのではないことをご理解頂けたら嬉しいです。子ども達の為、ぜひじっくりとビジョンには時間をかけて十分に話し合ってくださいよう、心よりお願い申し上げます。

子育て支援という点で、長時間や夜間、就労以外での受け入れが言われているこの頃です。たしかに、親子だけで向かい合う子育てには、限界もあり、時と場合によって、受け入れも必要とは思いますが、ただし、あまりにもサービス重視で受け入れ過ぎても結局、親が子どもを育て愛情をもつこと（やはり、手をかけて育ててこそ、生まれるものもあると思います）、そして、親が親として育っていく機会を奪ってしまうのではないのでしょうか。親が本当に困っている時には、受け入れ、そして一緒に子育てができるような状態が望ましいと思います。

どのような手立てをとっても、今の社会のあらゆる事件を解決する手段は、早急には、とれないと思いますが、“考えて行動する力”を育てていかなくてはけません。その為には、磐石な家庭という土台が必要です。その上で、“考える力”を失くしてしまう“ゲーム”を失くしていくこと。“変だ”とは気づかない大人も多いです。死んだものは生き返らないこと、他のものと代用はもつての他です。“人間は考える葦である”今はどうでしょう。真剣に取り組んでいかなくてはと思っています。よろしく申し上げます。



## 資料 8

---

# 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告 中間のまとめ

---

### 目次

はじめに — 保育ビジョンの基本的な考え方 .....	323
第Ⅰ 保育ビジョン作成の背景 .....	324
第Ⅱ 文京区保育ビジョンにおける保育とは.....	325
第Ⅲ 保育ビジョンの位置づけ.....	325
第Ⅳ 文京区の保育がめざす将来像 .....	325
(1)子どもたちの豊かな成長と子育て家庭の暮らしを保障するまち.....	325
(2)めざす将来像を実現する方向性.....	326
Vision1 子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障.....	326
Vision2 子育て支援・親の支援.....	332
Vision3 親の就労・多様な生き方の支援.....	337
Vision4 保育機能の中核としての保育園.....	339
第Ⅴ 保育ビジョン実現の推進に向けて.....	344



## はじめに ―― 保育ビジョンの基本的な考え方

子どもは未来の希望です。その子どもたちを豊かにはぐくむまちはまた、だれもが希望をもって生活できるまちでもあります。しかし、私たちを取り巻く現実には厳しいものとなってきました。私たちの希望であるはずの子どもたちは、今、子ども同士や異年齢との交流や、社会性を身につける機会が減少し、かつてよりも社会の一員として育ちにくい環境の中で、児童虐待やさまざまな問題の被害者として、心身ともに傷ついてもいます。また、豊かな人間関係を体験できないまま、いじめや犯罪の加害者となる子どもたちもいます。一方、今の親の暮らしからは、子どもをはぐくむことに喜びを見いだす余裕も失われかねない状況です。経済的、社会的に厳しい状況に直面する親たち、子育てと就労との両立で疲れている親たち、育児の大半を一人で担い、心身の負担に苦しむ親たちもいます。

この現実に対し、子育て力・教育力の低下として親個人や家庭内部の問題にとどめるのではなく、子どもを生み育てることを社会がもっと大切に思い、次代を担う子どもたちや親の子育てを社会全体で支援することを速やかに、そして、強力に推進していかなければなりません。

そこで、今、求められるのは、これまで以上に子どもたちを豊かにはぐくむまちなありようを大胆に描き、その未来像に向けて一歩でも踏み出すことです。また、そこにおいては、いたずらに効率を追い求めることや画一的な家族像、ライフスタイルを強調することであってもならないと考えます。

その認識に立って、私たち文京区保育ビジョン策定検討委員会は、「文の京」にふさわしい子どもを豊かにはぐくむまちなありようを提示することとしました。ビジョンにおいては、思春期へと至るまでの重要なステップである就学前の子どもたちに焦点をあわせ、なおかつ、「保育」を子どもの心身の豊かな育ちを保障する上でのさまざまな機能ととらえ、その具体的な方策をまとめています。

私たち文京区保育ビジョン策定検討委員会はこれら具体的な方策を一日でも早く実現し、全国に先駆けて、子どもたちの豊かな成長と子育て家庭の暮らしを保障する「子どもを最優先するまち」づくりを、区民、地域、企業、行政がそれぞれの責務を果たし、ともに協働することにより達成することを切に願い、ここに区長に答申するものです。

## 第 I 保育ビジョン作成の背景

### (1) 文京区における子ども・子育て関連施策の実施経過

文京区では、地域福祉計画の中で、子育て施策を子育て支援計画と位置づけ、施策の推進を図ってきました。さらに、少子化対策の総合的な取り組みを推進するため、平成 15 年に次世代育成支援対策推進法」が制定されたことを受け、平成 16 年度に、子育てに係る施策を総合・包括・拡充した「子育て支援計画（次世代育成支援行動計画）」を策定し、地域における子育て支援の取り組みをすすめてきています。

しかしながら社会環境の変化のスピードは速く、文京区ならではの施策を十分に実施するまでに至っていないのも現実です。

一方、国においても、少子化の背景にあるさまざまな要因についての分析、それに基づく対策に関する議論がなされるとともに、少子化に歯止めをかけるべく、さまざまな施策が実施されてきています。こうした国の制度も年度によって大きく変化しています。

### (2) 子育てを負担に感じる人の増加

平成 16 年 3 月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査」では、子育てに不安や悩みを持つ人が多いことがわかりました。

就学前児童の保護者からは、「自分の時間がとれず、自由がない」、「子どもの健康、性格や癖などについて心配である」、「子育ては親の責任といわれ、不安と負担を感じる」、「近所に子どもの遊び友達がいない」などが多くあげられています。こうした子育てへの不安や負担の軽減を図ることが求められています。

### (3) 就労支援の充実の必要性

働きながら子育てをする人たちが増えてきています。働き方の多様化に伴い、「延長保育のスポット利用」、「認証保育所の増設」、「病後児保育」などの充実を望む人が増えていきます。

今後とも、保護者の就労を支援しながら子育てを支えていくことが必要となっています。

### (4) 多様な家族支援が必要となってきた

近年、児童虐待に関する相談件数が増えてきています。また、重度の障害だけでなく、軽度発達障害の子ども一人ひとりの課題を把握した個別の支援の充実、さらには、外国籍を持つ子どもたちへの支援などの充実が求められています。

## 第Ⅱ 文京区保育ビジョンにおける保育とは

思春期へと至るまでの重要なステップである就学前の子どもたちに焦点をあわせ、なおかつ、「保育」を子どもの心身の豊かな育ちを保障する上でのさまざまな機能ととらえ、その機能を強化することを、文京区の保育ビジョンとします。

## 第Ⅲ 保育ビジョンの位置づけ

就学前の子どもに係る分野の基本理念・基本目標を示し、文京区地域福祉計画（「文の京」ハートフルプラン）及び文京区子育て支援計画（文京区次世代育成支援行動計画）の具体化及び計画の見直しの際の基本指針とします。

## 第Ⅳ 文京区の保育がめざす将来像

### (1)子どもたちの豊かな成長と子育て家庭の暮らしを保障するまち

子どもを最優先するまちづくりを達成するためのまちのありようを、

**Vision1 子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障**

**Vision2 子育て支援・親の支援**

**Vision3 親の就労・多様な生き方の支援**

**Vision4 保育機能の中核としての保育園**

の4つの方向性から示します。

## (2)めざす将来像を実現する方向性

### Vision1 子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障



子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」を見つめ直そう！

#### 将来像

子どもをあたたく包み込むまちのありかたが問われています。思春期を見通した子どもの育ちを考えると、家庭や地域で基本的な生活習慣を身につける機会が重要です。同様に、文京区ならではの人的資源や施設、ネットワークを最大限生かし、安全安心に子どもたちが遊び、学ぶことのできるまちにすることも必要です。そのためには、その力を生かす工夫がまちづくりにも求められます。

#### 目標

##### 1. 基本目標—子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」をはぐくむ

子どもの心身の健やかな成長にとって、「食事」「遊び」「睡眠」は非常に大切であり、十分な配慮が求められます。子どもにはのぞましい生活リズムがあること、「食事」「遊び」「睡眠」が子どもの心身の成長にとって極めて大切であるということについて、改めて見直し、子どもがのぞましい生活習慣を身につけられるように支援していく必要があります。

また、「しつけ」や「教育」の前提として、まず子ども自身が受け容れられていることを実感できていなければなりません。そのためには、他人とふれあい、交流していくことが重要であり、このことによって思いやりや信じあう関係、いたわりの心や愛情、社会性が芽生えることにつながります。そして、自然の中でのさまざまな体験を通じて、子どもは、本来の姿をみせ、考える力をはぐくみ、感性豊かで心身ともにたくましく育つことができます。このようなふれあいの中から、子どもたちは好奇心や探究心をはぐくみ、さまざまなことを身につけ、学んでいきます。

### (1) 子どもたちに、のぞましい基本的生活習慣を確立していく

- ・自然で安全な「食事」、身体と五感を使ったゆたかな「遊び」、十分な「眠り」を子どもたちに。
- ・早寝・早起き → 朝食摂取 → 身体を使った十分な遊び → 早寝・早起きの、のぞましい「生活のリズム」を確立する。

### (2) 子どもたちに、ゆたかな人間的ふれあいや、自然とのふれあいを保障する

- ・子どもが自分を好きと思える心の土台づくりをすることが大切。そのために、まず、保護者をはじめとする大人とのゆたかなふれあいを通じて、大人に対する基本的な「信頼」（自分は受け容れられているという感覚）を確立する。
- ・同年齢・異年齢の友だちと遊べる環境・ふれあう機会を確保する。
- ・動物や植物など生き物とふれあう機会を確保する。
- ・自然の中で肌のふれあいや声のかけあいのできる外遊び、野外活動体験の機会を確保する。

### (3) 電子メディアの過度の視聴・利用の危険から子どもたちを遠ざける

- ・長時間にわたる電子メディア（テレビ・ビデオ・DVD・テレビゲーム・携帯用ゲーム・インターネット等）の視聴・利用は、生活リズムの乱れ（夜更かし）や運動不足の原因となり、ゆたかな人間的ふれあいを阻み、その結果として言葉の発達の遅れをもたらすともいわれる。

### (4) 子どもたちの日常生活に根ざした、内発的な「知」の成長を支えていく

- ・形式的な「知育」に偏ることなく、日常生活や人・自然とのふれあいの中から自然に湧き出てくる、子どもの自発的で内発的な「知」への欲求を大切にし、それを支える環境を整えていく。

## 2. 「子どもの育ち」に関する定期的な実態調査とそれを踏まえた議論の場を設定する

思春期を見通した子どもの育ちを考えていくためには、文京区で子育てに直接・間接に関わっている主体（行政、家庭、保育園、幼稚園、職場、地域住民等）が、絶えず「子どもの育ち」に対するそれぞれの責任を自覚し、協力しあっていく必要があります。

- ・定期的に（できれば3年くらいごとに）「子どもの育ち」や「子どもの生活習慣・生活環境」に関する実態調査を実施し、その現状を把握するとともに、その都度、問題の解決に向けて、各主体が対策について話し合う場を設定する。
- ・「子どもの育ち」をより長期的な視点から考えるために、この実態調査と議論は小・中学生をも対象に含めたものにすることが望ましい。

### 3. 区の取り組み－長期的で公共的な視点から、子どもの育ちの場の環境整備をしていく

#### 3-1. 公園を遊びとふれあいの場にしていく

文京区には大小さまざまな公園があります。四季折々の自然に親しむ場であり、また、地域の人々が集う場でもあります。そうした公園を一層、子どもたちが地域の人と交流し、楽しめる場として整備していくことが必要です。

子どもの遊びは、親同士のつながり、地域のつながりにも発展します。文京区はビルや住宅が立ち並び、空き地が少なく、交通量も多いため道路での遊びは危険です。子どもが外遊びできる場として、インフラの整備が必要です。区内には児童遊園も多くありますが、遊具自体をもっと小さい子ども遊びやすいもの、子どもがわくわくするような遊具に設置し直すことを検討すべきです。

また、保育園・幼稚園に通わせていない在宅保育の子どもが遊べて、かつ、親同士が交流できる場をつくる必要があります。

##### (1) 公園の整備・改良

- ・公園の一角に、子どもたちが生き生きと遊べる「はらっぱ」型のスペースを設ける。
- ・公園の遊具は、子どもたちがわくわくできるような、発達・安全を考慮したものを設置し、定期的な点検を行う。
- ・専門家と利用者・地域住民の意見を聞き、より良い公園づくりをすすめる。

##### (2) 子どもの遊び場や親同士が交流できる場としていく仕組みづくり

- ・「私の公園」という意識をもてるよう、「ロードサポート」のように近隣住民に公園の清掃や樹木の剪定をしてもらったり、夜は不審者等が入ってこないような工夫や配慮をするなどして管理をし、コミュニティを大事にしようとする意識をはぐくむことにつなげていく。
- ・子育てに関する情報掲示板などを設置して、人が集まる場にする。

#### 3-2. メディアとの関係－「電子メディア漬け」から「絵本好き」な子どもへ

長時間にわたる電子メディア視聴については、生活リズムの乱れ（夜更かし）、運動不足、双方向のコミュニケーションの阻害、言葉の発達の遅れをもたらすなどの危険が指摘されています。

文京区には多くの図書館があります。電子メディアが氾濫している今、幼い子が絵本に親しむことは貴重な経験であり、また、子どものゆたかな心の成長に欠かせません。とくに、絵本の読み聞かせは、子どもに読み手との直のふれあいをもたらし、子どもが他者の話を集中して聞く練習ともなります。そして、絵本に描かれている静止面に親しむことによって、子どもたちの想像力が磨かれます。子どもたちは、お話を聞きながら、絵と絵の間の実際には目に見えない「絵」を、自ずと心に思い描けるようになるのです。

### (1) 電子メディアの過度の視聴の弊害についての啓発

- ・長時間にわたる電子メディア視聴の危険性について保護者・地域住民に情報提供する。
- ・茨城県東海村、鳥取県三朝町、島根県雲南市久野地区で行っている「ノー・テレビ・デイ（ウィーク）」などの取り組みを参考にして、生活習慣の改善・親子のふれあいの時間を呼びかける。

### (2) 図書館の活用

- ・図書館に、親が子どもに読み聞かせをできる専用スペースを設ける。
- ・平日の幼稚園降園後の時間や土・日曜に、親が子どもの年齢別に読み聞かせグループ活動ができるようにする。
- ・地域に読み聞かせボランティアを育成する。
- ・出版社などの協力により、親子向けのブックイベントなどを行う。
- ・平日の午前中など、在宅の親子が利用しやすい時間帯に、子ども向けのイベント（エプロンシアター、人形劇、紙芝居など）を行う。
- ・外国人の親子にも親しんでもらえるよう、英語をはじめ外国語の絵本の読み聞かせや絵本等を充実させる。
- ・児童館においても、図書を活用を図っていく。

## 3-3. 子どもたちが豊かに育ち、育ちあう場としての保育園を大切に守っていく

現在、区立保育園は、子どもたちがゆたかに育ちあえる場を提供しています。保育園で子どもたちは、基本的な生活習慣を身につけ、先生や友だちとのゆたかなふれあいを経験し、母乳を含む安全で自然な食事を提供され、形式的な「知育」に偏ることのない保育園ならではの生活に根ざしたはぐくみを保障されています。この、文京区の「財産」である区立保育園を維持・拡大し、次世代に継承していくことが望まれます。また、それを財政的に支えるために、高額所得者の保育料負担の引き上げなどを検討することも必要でしょう。

また、区立園と同様に、子どもの育ちにとって好ましい保育を実践する私立園や認証園への補助の拡大について検討することも必要です。

(詳細については、「保育機能の中核としての保育園」2(1)、3(1)(3)を参照)

## 3-4. まちの環境整備ー長期的な視点から、子どもの安全安心な育ちを保障する

平成16年3月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査」によると、子どもとの外出の際に困ることとして、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない」(66.6%)、「歩道の段差などがベビーカーや自転車の通行の妨げになっている」(58.7%)など、まちや施設がバリアフリーになっていないことがあげられています。また、「みどりや広い歩道が少ない等、町並みにゆとりとうるおいがない」(40.3%)など、まちの空間に、子どもが安心して過ごせる場が少ないこともあげられています。子どもの安全安心を視野に入れたまちづくり

が急務です。

- ・歩道のバリアフリー化、電柱の地中化、ボーンエルフ・スネーク道路などの設置。
- ・高層建築規制などを中心とした都市計画のあり方の検討。
- ・歩行者天国の実施：子どもたちが集える場の拡大。
- ・禁煙条例の制定。
- ・「子育てにやさしい店」ステッカー運動。

トイレや授乳場所を提供するなどしてもらえる商店等にステッカーを貼ってもらう。

- ・「子どもの安全に配慮したまち」への取り組み。

狭い道路での営業車両（フォークリフト等も含む）の往来・荷さばき・歩道への商品のはみ出し陳列などは、子どもにとっては危険・・・指導を行うとともに、安全への協力・配慮をする企業には「子育てに配慮した事業所」ステッカーを貼ってもらう。

- ・エレベーターの表示の工夫・・・「子育てにやさしいエレベーター」。

公共施設のエレベーターでの実施と、同様の配慮を区内の事業所に協力を呼びかけていく。

＝子育てにやさしい企業

#### 4. 家庭の取り組み

##### ー子どもにとっての第一番目の社会として、現在の子育てのありかたを見直す

子どもにとっては、家庭が第一番目の社会であるといえます。しかし、現実には父親は仕事に追われて、結局母親だけが一人で育児の責任を負わなければならない「密室育児」が、母親の孤立感・負担感を高めているともいわれています。家事や育児に協力できる、もっとも身近な存在としての父親の役割の重要性を訴える必要があります。

また、夜更かしなどで、無意識のうちに子どもを大人の生活につきあわせてしまっていないでしょうか。子どもの成長にとってのぞましい生活習慣を再認識すべきです。

- ・家事・育児負担の夫婦間の偏りを是正し、子どもと父親とのふれあいを確保する。
- ・就労している親（とくに父親）は、自らの働き方（サービス残業などを含む長時間労働や、不必要な「つきあい」など）について見直し、子どもとのふれあいの時間の確保に努める。
- ・「父子健康手帳」を配布し、父親として必要な知識や役割について学ぶ機会をつくる。

（妊娠期間 40 週の赤ちゃんの成長と母親の体の変化にあわせ、父親ができるサポート、家事、妊婦体操、ベビー用品の準備、出産の兆候から産後までの出産のプロセスにそった具体的な夫のサポート、3 歳までの赤ちゃんの心と体の発達、我が子への関わり方等が具体的に書かれているもの）

- ・大人のリズムに子どもをあわせるのではなく、子どもにとってのぞましい基本的な生活リズムを確立する。
- ・子どもの食生活を見直す。とくに、食品添加物の危険を考慮し、過度の間食を見直す。
- ・子どもを、過度の電子メディア視聴・利用の危険から遠ざける努力をする。
- ・薄着での外遊びの励行。現在、快適な環境の中でばかり生活するため、汗をかかず、一日の

うちに体温が1℃以上も変化する子どもが増えている。薄着での外遊び → 四季折々の気候の刺激を経験・体感 → 自律神経の発達 → 体温や血圧の調節機能の獲得、が大切である。

## 5. 職場の取り組み—子どもの育ちに配慮した労働環境を整備する

職場での労働環境の改善なくして、家庭環境の改善はありません。職場にも子どもの育ちを考えた環境整備が必要です。とくに、親（とりわけ父親）と子どもとが十分なふれあいの時間をもてるよう、過度に長い労働時間を是正する（サービス残業の見直し・ワークシェアリングなど）ことは急務です。

また、病児のための看護休暇の充実も重要です。子どもにとって、病気になってつらく心細いときにこそ、親とのゆとりのあるふれあいが必要です。

そして、母乳保育の持続のために、搾乳・昼休みの授乳の容認を職場に求めることも重要です。母乳が乳児にとって重要な役割を持っていることは、科学的にも明らかです。職場の雰囲気によって母乳育児をあきらめてしまう母親がいるとしたら、それは憂うべきことです。

（詳細については、「親の就労・多様な生き方の支援」1（2）を参照）

## 6. 地域住民の取り組み—子どもを育てる地域の一員として、できることから始める

子どもが安全安心に暮らせるまちづくりのためには、行政の取り組みがもっとも重要であるのは当然ですが、そのための住民の自覚も求められます。例えば、子ども連れで外出するとき、狭い道路に侵入してくる自動車や、歩道を猛進する自転車はとても危険です。路上での喫煙も、受動喫煙の危険性を考えれば気がかりです。そして、大人から子どもたちに積極的に挨拶や声かけをすることは、子どもたちが地域とふれあい、地域によって育てられていることを実感できる第一歩にもなります。住民が地域の一員として、お互いに気を配り、ルールやマナーを守って生活していくことも大切です。

また、お寺の多さは文京区の特色です。安全上の配慮は必要となりますが、地域における子どもたちのふれあいの場としての活用も考えられます。

- ・挨拶・注意など、子どもたちに対して声かけを行う。
- ・路上禁煙の実行。
- ・自動車・自転車の運転マナーの改善。
- ・お寺などのスペースを、子どもたちのふれあいの場として活用する。
- ・「団塊の世代」をターゲットにしたネットワークづくり。
- ・さまざまな団体・個人の連携と地域における交流の場づくりの支援。
- ・子育てサロン等、地域資源を活用した取り組みの拡充。
- ・民生・児童委員、NPO、ボランティアなどの制度・活動の周知。
- ・文京区の企業がNPOに助成、協賛する形で支援する仕組みづくり。

## Vision2 子育て支援・親の支援

---

### 将来像

子どもの発達、健康、しつけは子どもの年齢に関係なく、親の不安としてあげられています。平成16年3月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査」では、「子育ては親の責任といわれ、不安や負担を感じる」とする親が、就学前の子どもを持つ親の4分の1にものぼっています。また、さまざまな事情により、緊急の支援を求める家庭も増加しています。

子どもの成長を保障する上で、子育ての負担を個人や家庭だけに押しつけていては、子どもたちが犠牲になってしまうことになりかねません。さまざまな事情で配慮を要する児童、救いを求めている親や家庭を支援することは、子どもの幸せ、子どもの育ちを配慮することの重要な一部分です。未来の社会を担う子どもたちの成長を社会全体で支えることを通じて、親の子育て力の向上を図ることが求められています。子どもの幸せを支援することは、決して親の利便性を優先することではありません。

そこで、親と子どもが豊かな関係を結びあい成長していくために、子育て支援・親の支援を提供できる体制づくりが求められています。

### 目標

#### 1. 利用者の視点に立ったサービスの提供をすすめるー必要なときに必要な支援を

文京区には、さまざまな親子がいます。①妊娠中の女性及び産褥期の母子、②一人親世帯、③子どもが障害や病気等を持っている家族、④親が障害や病気等を持っている家族、⑤DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待の被害にあっている母子（疑いがある場合も含む）、⑥外国籍、日本語を理解できない家族、⑦その他緊急な対応を迫られるケースなどです。

業務が縦割りのために、窓口が散らばっている行政の体制では、こうした親や子どもが必要なサービスを受けるための情報を得ること自体に困難を伴い、手続きの煩雑さのために、必要なときに必要な支援を受けにくくなりかねません。

子育て支援、子育て支援に関するワンストップ・サービスがぜひとも必要です。1か所に足を運べば、専門的な知識を持った職員が相談に応じ、受けられる支援内容をコーディネートしてくれるとともに、一度の手続きで必要な関連作業を終えることができる。そんなサービスが待ち望まれています。

##### (1) 窓口一元化を推進する

- ・緊急に配慮を要するケースへの対応が迅速に行われるよう、複数の課にまたがっている支援について庁内窓口の一本化をすすめる。
- ・相談内容に適切に対応できる専門性を持った職員を配置する。

- ・千代田区の「チャイルド・ケア・プランナー」のように多様なサービスの案内を一元化し、利用者にサービス利用プランを提案する制度を整備していく。
- ・「子ども」や「子育て支援」に関連することをすべて取り扱い、もしくは関係部署と調整を行う部署を創設する（「子ども課」の検討）。

## （２）専門的支援ができる職員の配置・育成をすすめる

- ・相談ごとに適切なサービスをコーディネートできる専門職員を配置する。
- ・児童相談所など他の機関との連携ができる能力を持った人材を採用・育成する。
- ・とくに家庭で育児をしている専業主婦・主夫層向けの、子育て支援・親育ち支援のプログラム策定を行う地域保育士・ファミリーソーシャルワーカーを配置する。

## 2. 子育て情報の効果的な提供

子育てに関する情報誌はたくさん発行されています。しかし、子育て真っ最中の世帯は多忙で、生活している地域の情報が得られることを求めています。そこで、地域の子育て情報がまとまって手軽に入手できるように、情報を集約し、発信していくことが大切です。

- ・1か所に行けば、必要な情報が一括で閲覧できたり、入手できるようにしていく。
- ・子どもの参加できる行事、子どものふれあいの場、子育て支援、離乳食づくり・料理講座などさまざまな「子育て」に関する、区からの情報やNPO等民間からの情報などをまとめた冊子・ペーパー・ホームページなどを作成する。
- ・パソコン・携帯電話で利用できる「子育てメール」により情報を発信する。
- ・だれでも書き込める「子育てかわら版」を作成し、区民の間での情報交換の場を設ける。
- ・役所に関係のないネットワークを活用した情報発信を活用する（メディア、口コミなど）。
- ・さまざまな団体のネットワークを活用した情報発信を支援する。

## 3. 区民との協働・協治による子育て・子育て支援の推進

子育ては家族を中心としつつも、公共的な営みとして位置づけていくことが必要です。そのためには、行政、企業、保育・教育機関、医療機関、地域社会そして区民が、子育て中の家族と一丸となって取り組むべきであるとの共通認識が必要です。

子育ての負担を個人や家庭だけでなく、社会全体で担わなければ、その負担と孤立感に耐えかねた親の子育て力は著しく低下し、子どもたちが犠牲になってしまうことにもつながります。それぞれの家族が必要とする支援に対して、きめ細かに対応できる体制が求められます。

- ・既存の支援体制の連携を強化していく。

地域でのニーズを発見し、適切な支援を行うために、保健師、保護課ケースワーカー等、行政の専門職と主任児童委員（民生・児童委員）等、既に地域で支援に関わっている人々との間での連携を強めるとともに、区民からみてわかりやすい体制とするため、長期的には現行の担当地域割りを見直すことも検討する。

- ・関連する機関のネットワークづくりをすすめていく。  
区内大学の教育、福祉、医療、保健関係の学部・機関のネットワーク化をすすめるとともに、区のサービスの委託などを行う。
- ・既存の区有施設を活用して、子育て活動団体の自主的な活動を支援していく。
- ・子育て支援に関わる団体・個人間の信頼関係の醸成をすすめていく。  
保育園、幼稚園、学校などの子育てに関連する機関、町会などの組織が話し合える場を設け、子育て支援の輪を広げる。そのために情報を共有し、信頼できる関係づくりをすすめる。
- ・子育て・子育て支援に関わるNPOへの計画的かつ継続的な支援の開始。  
一部の大きなNPOや市民活動団体を支援するのではなく、多種多様な区民の活力を利用できるよう、NPOの立ち上げ時の助成や活動継続のために助成などを行う。

#### 4. 養育サポートの充実を図る

核家族化の進展に伴い、子育ての不安を気軽に相談したり、いざというときに助けてもらえることのできる人が身近に少なくなってきました。そこで、地域の中で安心して子育てができるよう、行政をはじめ、さまざまな団体や個人が相談や支援を行う体制を整備していくことが大切です。子どもたちの成長を社会全体で支えることが求められています。

##### ▶ 子育て相談の充実

地域の中で、子育てに関する相談を気軽に受けられる体制を整備していく。

##### ▶ 子育てひろばの拡充

とくに、幼稚園・保育園に通わせていない親子に、安心して子どもを遊ばせることができるとともに、必要な情報提供と相談を受けられる場所として整備していく。

##### ▶ 児童館機能の充実

新たなニーズに対応することで、機能の充実を図っていく。

##### ▶ 緊急一時保育の抜本的拡充

国の予算の拡充状況等を踏まえつつ、全園での実施を検討する。

##### ▶ ショートステイ（短期間の24時間保育）

親と子どもが豊かな人間関係をはぐくみ、安全安心に過ごすために、区の事業として、ショートステイの実施を検討していく。

##### ▶ 病後児保育の拡充・要件の緩和

病後児保育実施施設を増やすとともに、感染性等の病気にかかった家族がいる場合に保育園で預かるというような、多様なニーズへの対応を検討していく。

##### ▶ 産褥期の支援

親に子育てのノウハウがなく、子育てに慣れるまでが非常に大変である出産後3か月くらいまでの時期の支援体制を構築する。

- ▶ 「2人目」を妊娠したときからの支援  
第2子以降を妊娠した際の、親や第1子の子育てに対する支援体制を構築する。
- ▶ 本当に支援が必要な家庭への支援  
4か月健診等の場を、家庭で一人で子育てをしている人への支援・フォローの機会とする。  
また、出張による健診を実施し、同時にカウンセリングも行う。  
看護師による事前カウンセリングにより、支援メニューの提示とサービスの提供を行う。
- ▶ ネグレクトや育児放棄など、問題のある（になりそうな）家庭に対する予防と早期対応  
地域で見守ってくれる人たちやそのネットワークと行政との連携を図るとともに、制度・サービスのPRが行き届いているかのフォローアップについて検討する。
- ▶ 子育て支援施策の実施にあたっては、利用者の声を生かしながら制度の改善を図っていく。  
(ファミリーサポート制度の充実、在宅で子育てしている人でも気軽に預けられるベビーシッター制度など)

## 5. 医療体制の充実

子育て中は、母子ともに医療にかかることが多い時期です。安心して医療を受けられることが、子育て中の不安の軽減につながります。

- ▶ 母親への医療費控除、良質で安価な治療のあっせん  
乳腺炎の保険外治療など、保険がきかない医療費の補助の実施などを検討する。
- ▶ 予防接種の補助  
おたふくかぜやインフルエンザの予防接種への補助は、子育て中の親の支援のみならず、子どもの健康、感染予防にもつながる。
- ▶ 4か月健診、集団予防接種の実施場所の拡充の検討  
健診、予防接種等を、保健センターや小児科以外の場所で行える可能性を追求する。

## 6. 施設の整備

### (1) 大型施設の整備

区の支援サービス一元化のひとつのあり方として、窓口やさまざまな施設が集約された、子育て・子育て支援の核となる新たな総合的施設の整備の検討を行うことも考えられます。

#### ①施設に必要と考えられる主な機能

- ・ 個々の区民のニーズに応じて、子育て支援、子育て支援に関するサービスを総合的に提供できるようにコーディネートできる専門職による相談・支援。
- ・ 必要なサービスの利用登録が一度の手続きで完了するような支援エントリー・システム。
- ・ 年齢にあわせて十分に走り回ったり、遊べたりするような遊戯・運動施設。
- ・ 親同士の交流にも使え、子育て・子育て支援に係る市民活動団体も利用しやすい研修室、

会議室、ホール、事務スペースの配置。

- ・保護者の事情で緊急に保育が必要な場合にも対応できる緊急一時保育、障害児レスパイトサービス。
- ・区内の保育、教育、福祉に関係する専門職やボランティアが区内の大学との連携の下に行う研究・研修機関。

## ②その他考慮すべき点

- ・区内のどこからでもアクセスしやすいこと（十分広く安全な駐車場の確保及びデマンド型交通などによる移動手段の確保）。
- ・建物はバリアフリーや建材の安全性にも十分配慮し、子どもの育ちを支えるような観点からの工夫がされたもの。
- ・基本的には区の直営施設として、個人情報保護に配慮し、一貫したサービスを提供する。

なお、保育園・児童館・子育てひろばなど、従来からある子育てのための施設についても、引き続き充実・整備をすすめていく必要があります。

## (2) 国や都の関連機関の誘致をすすめる

文京区は地下鉄網が充実しているなど、交通アクセスに恵まれた便利な地域です。このような地理的条件を生かして、渋谷区の東京都児童館や江東区東部医療センターなどのような子育てに関する都や国の施設・関連機関の積極的な誘致をすることで、子育て環境の整備を図っていくことも考えられます。

## (3) 子育て支援の視点からの施設整備の取り組み

区が施設を設置する際に、文京区独自のガイドライン（施設設置基準など）をつくることも有用と思われます。

- ・親と子、障害のあるなし、性別の違い等、多様な視点に配慮した施設整備をすすめる。

## Vision3 親の就労・多様な生き方の支援

---

### 将来像

社会の成熟化に伴い、人々の価値観も多様になってきました。しかし、それぞれの価値観に基づいた生き方を選択し、これまでの人生の中で自らが培ってきた経験を生かしながら能力を発揮することは、子どもを持っていては望めないことなのではないでしょうか。

それぞれの置かれた環境の中で、生活を充実させながら働き続けることは、特別なことではなく、だれにでも保障されるべきであり、そのための環境整備とあわせて、再び社会に参加できる道を開くなど、多様な生き方を選択できるよう支援していくことが望まれています。

### 目標

#### 1. 従業員の生活条件を踏まえた雇用・就労のあり方を支援する

だれもが自分らしい生き方ができるような、子育てや家庭生活との両立ができる就労環境が求められています。生活のあり方に応じたさまざまな就労形態や、仕事と生活を両立できるような制度の充実が急務となっています。

##### (1) 特に中小企業が行う取り組みへの支援を充実させる

- ・ 育児休業制度導入などに取り組んでいる企業への補助金や入札制度での優遇措置。
- ・ 就学前の子どもを育てている母親を採用した場合に優遇する制度。
- ・ 先進的な取り組みをしている企業への税制面での優遇等の制度導入の検討。
- ・ 先進企業に対する文京区独自の認定制度や表彰制度の創設。
- ・ 区内企業のみならず区民が勤務する区外企業についての支援の検討。

##### (2) 支援策などの導入に関する積極的な情報提供・啓発を行う

- ・ 国などの助成制度の周知、活用を呼びかける。
- ・ 企業も区民とともに安全なまちづくりをサポートする立場にあり、子育てしやすいまちをいっしょにつくろう・子どもを連れている人にやさしくしよう、手伝おう・・・と呼びかける。
- ・ 長時間労働の解消（サービス残業の見直し・ワークシェアリングなど）を呼びかける。
- ・ 子育てをしている人が働きやすい・仕事と子育てを両立できる環境をつくることで、結果的に企業の利益につながることを周知し、さまざまな制度の導入を呼びかける。  
(病児のための看護休暇、搾乳・昼休みの授乳の容認など)
- ・ 男女の役割分担的考えの払拭・男性が育児に参加することへの意識改革への働きかけを行う。

### (3) 国に対して、一層の支援施策の充実と法令等の整備を求める

- ・子育て支援に関して企業に制約力のある目標を示すよう要請する。
- ・就業規則等の届出について、もっと定期的に申請させ、精査するシステムにしていくよう要請する。

## 2. 働くことへの支援

それぞれの生活条件にあった働き方を選択でき、働き続けられる環境であるとともに、出産・育児等でのブランクを越えて、再び社会に関わりたいと願う人たちが、それまで培ってきた経験や能力を生かすことができるための支援が求められています。親たちがより多くの選択肢を持てるような支援をしていく必要があります。

### (1) もう一度社会に参入したい、接点を持ちたい人を支援する仕組みづくり

- ・技能習得のための講座。
- ・子育て中で短時間働きたい人向けの就職説明会（ハローワーク以外の場づくり）。
- ・企業への情報提供・働きたい人への情報提供。

働きたい人を登録したメーリングリストの作成、説明会やセミナー情報・関連ニュースを流す仕組みづくり、インターネットでの求人状況案内。 など

### (2) それぞれの状況に応じて働ける場を得られる環境づくり

- ・中小企業団体等に働きかけ、再就職を願う親に対して採用等の情報提供を行う。
- ・出版関連業務、大学の仕事（学会誌の編集等）、留学生の通訳・アパート探しの支援等の、文京区ならではのニーズに対応した地域密着型の雇用・ボランティア情報の提供。 など

## Vision4 保育機能の中核としての保育園

---

### 将来像

子どもの心身ともに健やかな成長を保障するまちのあらゆる場所、あらゆる部分に広がるさまざまな保育機能を統括し、中心となるのが保育園です。文京区の保育園はすべての子どもたち、あらゆる子育て家庭に開かれた保育拠点となります。子育てが困難になっている社会で生きる子育て家庭に必要な情報発信、親と子が心豊かな人間関係と暮らしを実感できる多様な支援の提供、都会での地域ネットワークの再構築など、保育機能の中核にふさわしい質と人材、設備を備えることが重要です。同時に、保育機能の中核としての保育園を行政、地域全体でもりたてていくことが必要です。

### 目標

#### 1. これからの保育園の担うべき機能と役割

少子化・核家族化の進展、さらには働く女性の増加に対応するため、従来の「保育に欠ける」状況への対応に加え、子育てをするすべての家庭を対象とした子育て支援を充実していく必要があります。そこで、これまでの、保護者の就労や疾病に対応するという保育園の機能に加え、さまざまな子育てニーズに対応した子育て支援を行うことで、地域の子育ての拠点としての役割を果たすことが必要です。

##### (1) 地域、家庭における子育て支援の拠点としての役割

保育園は、子育てを専門に行う施設です。子育てに関する相談を行うことで、安心して子育てできるまちづくりの役割を担っていきます。

##### (2) 子どもたちの心身ともに健全な発達と成長を保障するための役割

保育とは、子どもが人として生活できる基礎を身につける支援を行うとともに、さまざまな遊びを通して知的な成長を保障することです。こうした視点から、子どもたちの心身ともに健全な発達と成長を保障するための役割を担います。

##### (3) 地域における子育て支援のネットワークの中核としての役割

地域では、町会、民生・児童委員、保健師、子育て支援NPOなど、さまざまな団体や個人が子育て支援の取り組みを行っています。こうした活動がつながりあい、点としての活動から線や面としての活動へと広がっていくことで、効果的な子育て支援の輪を広げていくことが大切です。そこで、地域の保育園がそのネットワークの中核としての役割を担うことが有効です。

#### (4) 親の就労支援のための役割

働く女性の増加に伴い、保育園入園を希望する人が増えています。また、働き方も多様化しています。そこで、延長保育や延長保育スポット利用、年末保育などの都市型保育需要に対応していくことが求められています。

## 2. 保育園の具体的役割

保育園が現在果たしている役割を充実するとともに、新たな子育て支援を効率よく、機能的に行うためには、保育園が現在持っている人的資源・物的資源を活用していくとともに、その充実を図っていくことも大切です。

### (1) 子どもたちに対する責任を果たす

- ・ 家庭、地域の子育て支援と親たちの子育て力を高めていく。
- ・ 入園している子どもたちの「育ち」＝「保育（養護）と教育」に責任を持ってその向上に努める。
- ▶ 基本的な生活習慣の保障  
（生活リズムの維持・ゆたかな遊びの提供・電子メディアからの解放など）
- ▶ 先生や友だちとの、安心できるゆたかな「ふれあい」の場の保障
- ▶ 安全で自然な「食事」の提供
- ▶ 知育に偏ることのない、生活に根ざした保育園ならではの「はぐくみ」の提供
- ・ 産休明けからの子どもたちを対象とした施設であり、子どもたちの命と安全を保障する。
- ・ 保育園が持っている社会的、公共的な人的・物的資源の活用を図る。
- ・ 小学校にスムーズに入学し楽しい学校生活が送れるよう小学校との連携を図る。  
（交流、情報交換、訪問活動、見学、参加など）

### (2) 「子育てと仕事・社会的活動の両立」の支援

- ・ 保護者の就労支援により子育てを支える。
- ・ 待機児童の解消に積極的に取り組む。
- ・ 延長保育などの長時間保育の取り組み（スポット利用）を充実する。
- ・ 病児・病後児保育、年末・年始・祝祭日保育への対応を図る。

### (3) 家庭・地域の子育てサポートの実施

～家庭での子育てを支援し、子育てに関する知識や情報を提供・共有化する～

#### ① 具体的な子育て支援と相談を実施する

- ・ 出産予定者への援助、相談。
- ・ 出産後の相談、援助。
- ・ 子育ての悩みへの相談、援助。
- ・ 母親のリフレッシュへの援助。

- ・乳児を中心とした子育て体験学習（離乳食づくりなどのノウハウの積極的還元）。
- ・園庭の開放・図書の貸し出し。 など

#### ②子育て支援ネットワーク

- ・「ひろば」「支援センター」などとのネットワークづくり。
- ・子育て支援のボランティアのネットワーク。
- ・子育てに関係するサークルのネットワーク。 など

#### (4) 災害時の防災拠点としての位置づけを

現在、災害時の防災拠点については、学校等を避難所として整備をすすめています。しかし、乳幼児にとって、大型の避難所は病気にかかりやすく、成人の避難者との生活リズムの違いからストレスを受けたり、体調に異変をきたしやすくなります。保育園を防災拠点として明確に位置づけ、耐震構造、避難に備えたゆとりのある園舎や職員配置、ミルク・食料・紙おむつなどの保管スペースなどの整備が必要です。

#### (5) 保育園の社会的・公共的資源（役割）としての活用

- ・園庭の開放。
- ・小・中学生の体験学習、ボランティア活動の場とする。
- ・地域の高齢者（施設）との交流と子どもたちが伝統を学ぶ経験活動。
- ・幼児教育大学・専門学校等の学生の乳幼児体験と研究教育へのフィードバック。
- ・行事などを通して、家庭のみで子育てをしている親子と保育園に預けている親子の交流の実施。

#### (6) 地域の文化の伝承 ～子どもを介した地域コミュニティとの接点として～

- ・散歩、園外保育などを通じた地域を知る機会の提供。
- ・伝統的な遊び、地域の伝統行事、文化活動への子どもたちの参加・協力。
- ・地域の人たちが保育園の行事等に協力し、子どもたちに伝承する。
- ・文化伝承のネットワークをつくる。

#### (7) 親が多様な生き方を選択できるような支援

- ・親の就労を支援する。
- ・専業主婦も孤立せずに子育てができるように支援する。

### 3. 保育園の機能を高めるための方策

保育園が行う子育て支援策を有効なものとしていかなければならない一方、子育てをする上で子育て家庭や子どもが抱える課題も複雑になってきています。こうした課題に的確に対応していくためには、文京区全体の保育の質の維持・向上を図っていくことが大切です。

#### (1) 必要な人員の確保と資質の向上

- ・新たな人材の育成をすすめる。
- ・年齢の偏りのない人員配置により、高い「保育の質」を次世代へ継承していく。
- ・保育士、ボランティアなどの研修システムを確立する。

#### (2) 新たな子育て支援の役割を担う体制の強化

- ・ソーシャルワーク体制の確立。
- ・幼稚園・小学校等との連携と地域における支援の場づくり。
  - ▶ 小学校、幼稚園、保育園、町内会、祭りなどとの連携
  - ▶ 小学校の先生、保健師、民生・児童委員など地域の人たちが保育について話し合える場づくり
  - ▶ 小学校と保育園だけでなく、幼・保・小の連絡会の新たな創設 など

#### (3) 受け入れ体制の整備

##### ①希望すれば保育園に入園できる体制を目指す

- ・保育園に入っていないと就労できない、就労していないと保育園に申し込めない、という悪循環を絶つ。
- ・保育園入園の待機児をなくす。
- ・育児休業後に、年度途中でも保育園に入れる制度。
- ・通園距離への配慮、きょうだい別の保育園に通わざる得ない状況の解消。
- ・潜在的な待機児童の解消のために、更なる施設の新設なども検討する。 など

##### ②公設公営保育園の維持

- ・現在 17 園ある公設園については、子育ての拠点として機能する「公設公営保育園」としてより一層大事に維持していく。
- ・保育士が現在定員割れを起こしている状況を早期に改善し、配置基準通りに配置していく。
- ・適切な人員の配置についての検討・目的に則した配置基準の見直しを行う。

(役割の増加に伴う負担への対応)

##### ③良質な民間の保育園・保育施設の参入に対する支援

##### ④幼稚園や小学校等の区有施設の余裕教室や園庭・校庭を保育園が活用できるようにする

##### ⑤「保育の質」の内容と基準の明確化を検討する

##### ⑥保育園の利用に関しては、高所得者については保育料の費用テーブルの改定も、聖域とせず議論の対象にすることも考慮する。ただし、この費用テーブルの改定が、結果的に「保育の質」の低下につながるような変更でないように十分に配慮する。

#### 4. その他、長期的な視点から慎重に検討したい項目

##### (1) 「文京こども園」設置を検討していく

- ①2歳から幼稚園に通わせられる制度
- ②幼稚園と保育園の垣根をなくして、同じ施設の中で育ちながら、長時間、2時までなど、親の生活にあわせて子どもの生活を保障する制度
- ③幼保一元化という既成の概念でなく、①②を実現するための方策について、これまでの事例の検証を踏まえた上での特区申請の可能性
- ④幼稚園と保育園の職員採用時に、保育士・幼稚園教諭両方の資格をもっている人を採用

##### (2) 保育園のクラス人数を減らす

日本のクラスサイズは国際的に常識はずれなくらい、大きいのが現状です（ここでは、先生と園児の割合ではなく、一つの教室で生活をともにする園児数のことを指します）。クラスの園児数を減らすことは、ゆとりある保育につながります。

また、保育園利用者の最大の悩みの一つが、子どもが病気のときの対応です。海外では、1クラスの園児数を少人数にすれば、感染症の予防につながる事が検証されています。クラス人数を減らすことでも、病気にかかる園児が減り、結果として子育て支援につながります。

## 第V 保育ビジョン実現の推進に向けて

1. 保育ビジョンの推進にあたって、具体的な検討を行う場合は、区民参画により検討をすすめていく。
2. (1)妊娠中の女性及び産褥期の母子、(2)一人親世帯、(3)子どもが障害や病気等を持っている家族、(4)親が障害や病気等を持っている家族、(5)DV、虐待の被害にあっている母子(疑いがある場合も含む)、(6)外国籍、日本語を理解できない家族、(7)その他緊急な対応を迫られるケース等の問題を抱えた親子へのきめ細やかで俊敏な対応ができるシステムの構築の検討を行う。
3. 文京区の保育機能の拠点である保育園の機能維持と強化に向けて、保育園職員、保護者、専門家等をまじえて「保育の質」についての検討を行うことにより、文京区としての保育の質に関する指針の策定をすすめていく。
4. 予算措置の確保・予算の適正配分を図っていく。

支援策の質・量両面での充実を図るには、それに伴う負担が、現状の人的資源・物的資源の許容範囲を超えることがないように、人的・物的資源の投入を実現する必要がある。

わが国の子育て予算は、経済の規模との比較(対GDP比等)で見た場合、先進国の中でもっとも少ない方ですが、文京区においては、こうした現状に拘泥することなく、先駆的な取り組みを実現していくことが望まれる。
5. 文京区の内外に対して積極的なアピールをしていく。

文京区において先駆的な試みが実現されるのであれば、そのことを内外に積極的にアピールすべきである。国全体が子育て支援策の充実に向かえば、また、そのスピードが速まれば、それだけ区単独の負担は軽減され、そこでできる余裕を、さらなる施策の拡充に振り向けることも可能となる。そうした実利面のみならず、自分の区にさらに誇りを持てるものとなり、ひいては住民や職員に大いにポジティブな影響を与えることにもつながっていく。
6. 「子どもの育ち」に関する定期的な実態調査とそれを踏まえた議論の場を設定する。
  - ・定期的に(できれば3年くらいごとに)「子どもの育ち」や「子どもの生活習慣・生活環境」に関する実態調査を実施し、その現状を把握するとともに、その都度、問題の解決に向けて、各主体が対策について話し合う場を設定する。
  - ・「子どもの育ち」をより長期的な視点から考えるために、この実態調査と議論は小・中学生をも対象に含めたものにすることが望ましい。

## 7. 地域のネットワークの再生

地域で安心して子育てをしていくために、地域全体で子どもを見守り、子育てを支えてもらえる環境が求められていることから、町会などの従来からの地域活動・ネットワークに加えて、商店や事業所・NPOなどに、積極的に子育て支援の取り組みに加わってもらうよう働きかけ、支援していく。

## 8. 保育ビジョンの見直し

本保育ビジョンも、国、自治体の今後の保育・育児支援政策の変化により、また育児世代が抱える課題の変化により、将来時代にあわなくなっていく部分が出てくることが予想される。そこで、本ビジョンを適宜改訂して、時代の変化に即応できるようにしていくことが望ましい。



## 資料 9

---

# 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告 中間のまとめに向けた議論の整理

---

### 目 次

第1グループ(子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障) .....	349
第2グループ(子育て支援・親の支援).....	352
第3グループ(親の就労・多様な生き方の支援) .....	362
第4グループ(保育機能の中核としての保育園) .....	366

※本資料は、「文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ」の作成に向け、4つのワーキンググループで議論した内容を、とりまとめたものです。



## 第1グループ(子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障)

### 【スローガン】子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」を見つめ直そう！

\*子どもたちに、のぞましい基本的生活習慣の保障を！

- ・ 自然で安全な「食事」、身体と五感を使ったゆたかな「遊び」、十分な「眠り」
- ・ 早寝・早起き→朝食→遊び→早寝・早起きの「生活のリズム」の確立  
(理由：以上のことは、子どもの心身の健やかな成長にとって不可欠な要素)

\*子どもたちに、ゆたかな人間的ふれあいの保障を！

- ・ 自分を好きと思える心の土台作りをするために、ゆたかなふれあいを通じた、大人に対する基本的な「信頼」(自分は受け入れられているという感覚)の確立(理由：これがあるのはじめて、「しつけ」や「教育」も意味をもつ。)
- ・ 同年齢・異年齢の友だちとふれあう機会の確保(理由：これを通じてはじめて、友だちどうしのあいだに、思いやり、信じあう関係が芽生える。)

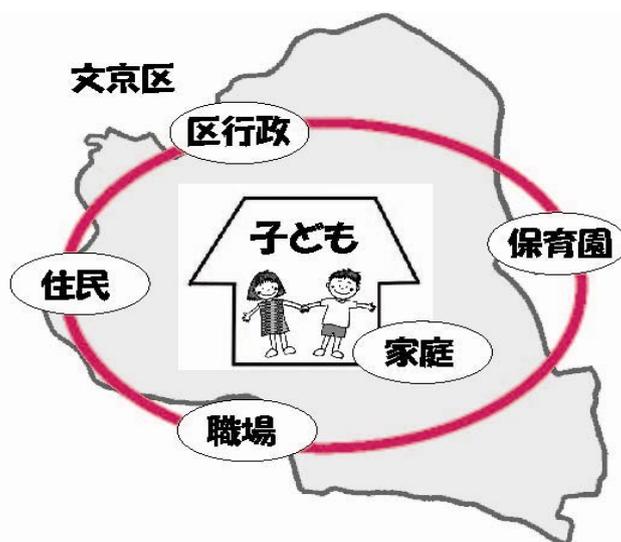
### 【区全体での取り組み】

「子どもの育ち」に関する定期的な実態調査と、それを踏まえた議論の場の設定を！

- ・ 文京区内の子育てに直接間接に関わる主体(区行政、家庭、保育園、幼稚園、職場、地域住民など)が、絶えず(今回限りでなく)、「子どもの育ち」に対するそれぞれの責任を自覚し、協力しあっていく必要がある。
- ・ そのために、①今回限りではなく、定期的に(できれば3年くらいごとに)、「子どもの育ち」や「子どもの生活習慣・生活環境」に関する実態調査を実施し、その現状を把握すること、そして、②その都度、問題の解決にむけて、各主体が対策について話し合う場を設定すること、を提案する。
- ・ なおこれと併せて、「子育て支援策」についての実態調査と議論などが行われることが望まれる。

→WG 2

- ・ また、この実態調査と議論が、小中学生をも対象に含めたものになることが望まれる(「子どもの育ち」をより長期的な視点から考えるために)。



子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」を見つめ直そう！

## 【各主体の取り組み】

### ①区行政：長期的かつ公共的な視点から、「子どもの育ちの場」の環境整備を！

#### (ア) 禁煙条例の制定を！

(理由：受動喫煙の危険性は明らか。子どもたちを受動喫煙の害から守るために必要。千代田区の例を参考。)

#### (イ) 遊びとふれあいの場の確保・拡充を！

- ・公園の整備：観光のためではなく、子どもが楽しく遊べる場として。
- ・図書館での絵本の読み聞かせ：親たちが子どもたちに読み聞かせられるスペース・時間（特に、平日の幼稚園降園後の時間や土日）の確保。
- ・歩行者天国の実施（例えば、播磨坂などから始める）：子どもたちが集える場の拡大。

(理由：とくに未就園児や幼稚園児は家庭で過ごす時間が長い。家の中での長時間にわたる電子メディア視聴は、子どもの健やかな育ちを妨げる大きな要因となる。外に出て、身体と五感を使って遊び、良質の絵本を大人に読んでもらい、多様なふれあいを獲得する機会はとても重要。)

#### (ウ) 現行の区立保育園が担う公共的機能を認識し、区立保育園の維持・拡大を！

(理由：現行の区立保育園は、子どもたちに、望ましい基本的な生活習慣や、豊かなふれあいを保障する重要な場となっており、その意味で高度な「公共的機能」を担っている→③(ア)参照。この文京区の「財産」である質の高い区立保育園を、維持・拡大していくべきである。また、区立園と同等の「公共的任務」を果たす私立園や認証園への補助の拡大も重要である。)

→なお、この目的との関連で、高額所得者の保育料負担の引き上げを検討することも必要である。この「累進制の強化」は、「格差社会」を是正するための一助ともなろう。

#### (エ) 子どもの健やかで安全な育ちを守るための、保護者・地域住民への啓蒙を（長時間にわたる電子メディア視聴の危険性についての情報提供など）！（理由：長時間にわたる電子メディア視聴は、生活リズムの乱れ（夜更かし）、運動不足、双方向のコミュニケーションの阻害、言葉の発達の遅れ、をもたらす。自治体による啓蒙活動により、この問題の改善に効果が現れている例あり。例えば、茨城県東海村・鳥取県三朝町・島根県雲南市久野地区の「ノー・テレビ・デイ（ウィーク）」などが、子どもの「電子メディア漬け」生活の改善に効果を上げている。)

#### (オ) 特に配慮の必要な家庭への積極的支援を！→WG 2

#### (カ) 子どもの安全を視野に入れた街づくりを！

- ・歩道のバリアフリー化、電柱の地中化、ポーンエルフ・スネーク道路などの設置（理由：子どもの交通の安全のために）
- ・高層建築規制などを中心とした都市計画（理由：強いビル風などの危険から子どもを守るため）

### ②家庭：子どもにとっての第一の社会であるという自覚の下に、子どもの育ちにとって望ましい家庭環境を！

#### (ア) 家事・育児負担の夫婦間の偏りの是正し、子どもと父親とのふれあいの確保を！

(理由：母親の密室育児が母親の孤立感、負担感を高めている。協力できるもっとも身近な存在としての父親の役割の重要性を訴えるべきである。)

#### (イ) 大人のリズムに合わせるのではなく、子どもの基本的な生活リズムの見直しを！

(理由：子どもが遅寝になっている原因として、大人と一緒にテレビを見てしまう、父親の遅い帰宅を寝ないで待つなど、大人のリズムに合わせていることがある)

#### (ウ) 子どもとのふれあいの時間の確保を！これ以上の「延長保育」を保育園に求めるのではなく、自らの働き方（サービス残業などを含む長時間労働）の見直しを！

#### (エ) 子どもの食生活の見直しを！→③(イ) ⑤(ア)などの機会も利用

(理由：「食育」は子育ての基本。食べ物が子どもの身体を作る。)

#### (オ) 動物とのふれあいも！（理由：自分が「世話をする」＝「与える」ことを子どもが学ぶために）

③保育園：子どもが育ち、育ちあうとても貴重な場。現在の高度な機能と質の維持を！さらに地域への発信、次世代への継承を！（→WG4）

（ア）現在担っている高度な「公共的機能」の維持を！

- ・基本的な生活習慣の保障（生活リズムの維持・ゆたかな遊び・電子メディアからの解放）
- ・先生や友だちとの、安心できるゆたかな「ふれあい」の場の保障
- ・母乳保育を含む、安全で自然な「食事」の提供（3歳児クラスに上がるまでは、おやつや補食に、既製品のお菓子類を利用しないのが望ましい。）
- ・知育に偏ることのない、生活に根ざした保育園ならではの育みの提供
- ・伝統的な遊びや行事の継承
- ・散歩などを通じた地域を知る機会の提供

（イ）地域への還元・地域との連携を！

- ・子育て、離乳食作りなどのノウハウの地域への積極的還元
- ・小中学生などとの交流（異年齢間のふれあいの促進）

（ウ）高い「保育の質」の次世代への継承を！そのために、年齢の偏りのない人員配置を！

④職場：子どもの育ちを考えた労働環境の整備を！

（ア）労働時間の短縮（サービス残業の見直し・ワークシェアリングなど）を！

（理由：労働環境の改善なくして、家庭環境の改善はありえない。職場にも子どもの育ちを考えた環境整備が必要。）

（イ）病児のための看護休暇の充実を！

（理由：子どもを持ちながら働き続ける親にとって、大きな不安材料が、子どもの病気。このことは、父母連が実施したアンケートの結果にもよく現れており、回答者の約3割がそう記述している。）

→なお、この関連で、「病後児保育の充実」をWG2で盛り込んでほしい。

（ウ）搾乳・昼休みの授乳の容認を！

（理由：母乳が乳児にとって重要な役割を持っていることは、科学的にも明らか。職場の雰囲気によって母乳育児をあきらめてしまう母親がいるとしたら、それは憂うべきことである。）

⑤地域住民：子どもを育てる地域の一員としてできることから！

（ア）「子育て情報誌」の発行により情報交換の機会を！：子どもの参加できる行事、子どものふれあいの場、子育て支援、離乳食作り・料理講座など、「子育て」に関する様々な情報をまとめた情報誌の発行。区に財政的支援をしてもらうことも検討。（理由：現状では、情報の流通が極めて不十分）

（イ）挨拶・注意など子どもたちへの声かけを！

（理由：子どもたちが地域とふれあい、地域によって育てられていると実感できる第一歩。）

（ウ）路上禁煙の実行を！

（理由：上記のとおり、受動喫煙の危険性はあきらか。条例ができて、地域住民が自覚しないと改善はない。）

（エ）自動車・自転車の運転マナーの改善を！

（理由：子ども連れの親子の外出にとって、自動車や、歩道を猛進する自転車は不安材料のひとつ。ちょっとした気遣いで改めることのできる簡単な協力の例として。）

（オ）お寺の、子どもたちのふれあいの場としての活用を！

（理由：お寺の多さは文京区の特徴。子どもたちのふれあいの場としての活用を）

\*注：なお、区立保育園保育士の先生方を対象として行われたアンケート調査（子どもたちの日ごろの様子・生活習慣・生活環境や、保育園のあり方に関するもの）については、現在集約中で、これから分析に入る。その結果については、文京区保育ビジョンに関する最終的な答申に反映させることとなる。

## 第2グループ(子育て支援・親の支援)

### 1. 子育て・親育ち支援における重要な視点・前提条件

子育て・親育ちの支援というと、いきおい、親の視点に立ちすぎて、子どもの育ちを無視してしまうおそれがあります。親が求める支援やサービスは、必ずしも子どもの健全で豊かな育ちを見据えたものとは限らないので、子どもの育ちに不可欠な支援と、大人の都合で「あったらいいな」と思うサービスを区別する必要がありますと思われる。保育園であっても在宅であっても、「子どもの幸せ、子どもの育ち」を大前提とする視点を忘れてはなりません。そうしないと、親寄りのサービスに偏ってしまう危険があるものと思われる。

しかし、他方で、多様化する価値観と働き方を是認せざるを得ない現代社会の中にあっては、「子育てはかくあるべき」といった一定の価値観を示すことはできても、それを押し付けるようなことは避けなければなりません。様々な事情で配慮を要する児童、救いを求めている親や家庭を支援することは、子どもの幸せ、子どもの育ちを配慮することの重要な一部分です。

本WGでは、上記のような考え方のもと、大きく分けて(1)「子育て・親育ち支援一般について」と(2)「要配慮児童およびその家庭への支援」、の二本の柱を立てました。どちらもこどもの幸せ、こどもの育ちを前提といたしますが、(1)では、子育て・親育ちの支援一般について検討し、(2)では、一般的な施策のみではカバーすることができない様々な事情で配慮を要する子どもとその家庭、助けを求めている親や家庭をどのように支援するか、について検討しております。<sup>1</sup>

このような考え方にたち、まずは、個々の内容を検討する前に、子育て・親育ち支援における重要な視点・前提条件を以下に挙げてみました。

#### 1) 子育て支援にも子育ちの視点を

乳幼児期の子どもは、生活のすべての側面において大人に完全に依存している一方で、自らの欲求を大人に完璧に伝える手段を持たない、弱い立場にある。それだけに子どもの利益が損なわれていないかどうか、細心の注意を向け意識しなければならない。

一般的に「子育て支援」は親支援の側面が強い。親が求める支援やサービスは、必ずしも子どもの健全で豊かな育ちを見据えたものとは限らないので、子どもの育ちに不可欠な支援と、大人の都合で「あったらいいな」と思うサービスを区別しなければ、子どもの利益や権利が損なわれかねない。親子の絆を強めることにつながるかどうかの一つの目安となる。

#### 2) 子育ては公共的な営み

**子育てとは** 子育ては私事ではなく公共的な営みであり、行政、企業、保育・教育機関、医療機関、地域社会そして一般市民が、子育て中の家族と一丸となって取り組むべき営みである。この共通認識がなければ、地域に根ざした子育て支援体制を築くのは難しい。

---

<sup>1</sup> なお、必ずしも容易に区分できないものについては、メモにおいては、便宜上以下のように取り扱っています。

① 親や兄弟・姉妹が病気の子どもに対する支援は、要配慮児童に対する支援として扱っています。その子どもに対して、保護者が十分なケアをできない状態に一時的ではあるが陥るため、「要配慮」に分類すべき。そうすることにより、その緊急性・切迫した状態をより反映しやすいものと思われる。

② 親が就労している子どもが病気になった場合も、要配慮児童として扱っています。

子育ての負担を個人や家庭だけでなく、社会全体で担わなければ、その負担と孤立感に耐えかねた親の子育て力は著しく低下し、子どもたちが犠牲になってしまう。とくに0～2歳児のスポット的な一時預かりサービスが文京区では極端に少なく、拡充が求められる。

### 3) 親の育児力アップには、指南役が必要

健全で豊かな育ちを子どもに保障するには、時には大人の意識改革が必要となる。子どもの生活習慣が社会問題となっているが、大人が自分の生活習慣を律することができないことが、多かれ少なかれ原因の一つである。

核家族化が進み、親の指南役をいったい誰が果たすのか。働く親には、保育園という心強い支援体制がある。家庭で育児をする親に対しても、同様な支援体制が求められる。

その機能は、さまざまな主体で果たすことができる。保育園もそうだが、たとえば地域に根ざした子育て支援センターを拡充し、「地域保育士」やファミリーソーシャルワーカーを配置し、専業主夫・主婦世帯向けのプログラムを開発する。また、区内には、事実上、保育園・幼稚園機能や一時保育機能を果たしている民間の英会話教室などが存在する。こういう地域の多種多様な主体との連携を通じて、できるだけ多くの家庭に支援を提供する体制作りが求められる。

### 4) 行政と親・家庭・住民・地域との協働、信頼関係の醸成

行政の縦割りの弊害がこの分野にも深刻な影響を与えていると考えられます。福祉の担当か子育て支援の担当かあるいは教育の担当かを問わず、有機的な連携と専門的な対応が望まれているにもかかわらず、なかなかこれは実現していません。行政側に一元的対応の窓口の設置や専門性の向上が求められています。

### 5) 現状問題点の正確な分析と把握が、施策実施の基本であり前提条件

保育園の待機児は、公式には50名以下と言っていますが、他区の公設園や、区内外の認証保育所・民間園に紹介・斡旋されるケースが多く報告されており、潜在的には非常に多くの待機児がいるものと思われます。特に昨今のマンション建設ラッシュ、再開発によって区内全体の就学前幼児・就学児童の絶対数は明らかに増加しているにもかかわらず、保育所や子育て広場のような子育て関連施設が設置されていないか非常にアクセスが悪い地域が広範囲かつ複数存在する懸念があります。

区は、常に地理情報学や都市計画の専門的手法に基づく人口動態調査を定期的に行い、まずは何よりも問題点を正確に把握し、その上で、問題点の解決策を考えていくという、基本的な政策立案プロセスを愚直に実施することが必要です。

### 6) 支援策の質の向上、量の増大

支援策の内容に関しては、子どもの立場、親の立場、地域社会での重要性などの視点に立って広範に議論され、企画される必要があります。利用者、専門家、現場、多くの人々の声が生かされることが望まれます。

次に、その質の維持・向上のためには、PDCAのサイクルをしっかりと回していくことが重要な課題となります。これを実行することは行政機関では決して容易なことではありませんが、文京区においてもその実現を図ることは、それ自体がチャレンジングなことですが、あきらめることなく、臆することなく、取り組んでいくことが期待されています。

また、量の拡大も重要です。他の様々な施策、とりわけハード面、平たく言えばハコモノへの資源の投入と、子育て関連の施策と、いずれを重要と考えるのか、この点が厳しく問われていることは間違いありません。政策間のプライオリティをどうつけていくのか、そのプロセスを健全なものとするため

には、また、説明責任を果たしていくためには何が必要なのか、こうした点も決して忘れてはならないところです。

#### 7) 予算措置の確保・予算の適正配分

支援策の質・量両面での充実を図るには、それに伴う負担が、現状の人的資源・物的資源の許容範囲を超えることがないように、人的・物的資源の投入を実現する必要があります。

残念なことに、わが国の子育て予算は、経済の規模との比較（対GDP比等）で見た場合、先進国の中で最も少ない方です。文京区においては、こうした現状に拘泥することなく、先駆的な取り組みを実現していくことが望まれています。

人的・物的資源の投入を実現するためには、政策間のプライオリティ付けのメカニズムの改善を行うことが重要と思われます。

#### 8) 文京区の内外に対する積極的なアピール

文京区において先駆的な試みが実現していくのであれば、そのことを内外に積極的にアピールすべきです。それにより、国全体が子育て支援策の充実に向かえば、また、そのスピードが速まれば、それだけ区単独の負担は軽減され、そこで出来る余裕を、さらなる施策の拡充に振り向けることも可能となります。そうした実利面のみならず、自分の区にさらに誇りを持てるものとなり、ひいては住民や職員に大いにポジティブな影響を与えることにつながります。

#### 9) ビジョンの継続性、実効化・施策の検証

今回のビジョン策定の作業は、住民を中心とする多くの人々の真摯な努力により進められてきています。結果として、その内容に誇るべき点が少なからず存在するようになることと考えておりますが、実際の作業時間は、実質的にわずか数ヶ月であり、かつ、資料、データ等の提供は不十分であったことは偽らざるところです。ですので、今回のビジョンはあくまでこの時点での一応のまとめという存在であり、今後の一層の拡充、改善が必要とされていると考えられます。定期的（できれば毎年あるいは二年毎）に、内容の実現度の検証と内容の見直しを不断に行っていくことが大切であると考えられます。それにより、はじめて、実効性のあるビジョンとなることが可能となります。

## 2. 子育て・親育ち支援一般にかかわる提案と施策について

### 1) 専門的・一元的対応の推進、区の子育てに関する窓口の一本化

現状では子育てに関する情報がいろいろな課にまたがっている。使う側からすればみんな区の設備なので、子どもを中心とした情報は一元化すべきと考えます。

たとえば、「子ども課」。「子ども」や「子育て支援」に関連することは全て取り扱い、もしくは関係部署と調整を行う部署を創設したり、また、千代田区の「チャイルド・ケア・プランナー」制度のように多様なサービスの案内を一元化し、「サービス利用プラン」を提案する制度のようなものが参考になります。とにかく、区民が問い合わせを行う窓口を一本化すべきです。

特に、緊急に配慮を要するケースへの対応が迅速に行われるよう、庁内窓口の一本化およびファミリーソーシャルワーカーを配置することが必要です。また、現状での窓口の対外的また対内的な明確化、窓口間の連携の強化、単なる窓口業務という役割ではなく、導入アセスメントをする面接員のような役割を担う人材を現在の散らばっている関係部署に必ず配置するといったことも検討するべきと思われます。

なお、このような一元的な窓口を設ける前提として、部門間の調整を行う権限を認め、かつ、部門間でのたらい回しを避けるために、各部門と調整部門の責任の明確化が必要です。

## 2) 地域や「まち」ぐるみの支援体制、地域・子育てに関するネットワークの構築・積極利用

地域ごとの子育て支援体制の再編が急務です。保健師、保護課ワーカー、民生児童委員、社会福祉協議会、小学校、幼稚園、保育園等すでに地域で支援に関わっている専門職の地域割りを見直し、区民からみてわかりやすい体制で、地域でのニーズ発見と支援に関わってもらうことが必要です。都の所管する児童相談所との連携も必要です。

また、町会の世代交代に伴い、地域によっては町会や住民の地域活動が停滞している現状も報告されています。上記のような地域で支援にかかわっている方々と町会、ひいては住民との関わりを強化することで、防犯や環境面で社会生活上の安全と安心を与えるだけでなく、地域ぐるみの子育て環境を整え、かつ、様々な情報と施策の浸透と共有を向上することに繋がります。公園の整備、夏祭り、各種ボランティア活動、子育ての相談など、様々な子育てに関連する活動が「まち」や地域を基盤にしていることを改めて見直し、積極的に支援することが必要です。

また、町内会等に民生児童委員のノウハウを提供したり、トレーニングするなどして、地域を見守る役割を与えるというアイデアも今後検討すべきです。

また、区内大学の教育、福祉、医療、保健関係の学部・機関のネットワーク化の促進と区サービス委託・共同提供等の実施の是非についても検討を要するところです。

## 3) 子育て情報の効果的提供・情報アクセスの改善

いまの子育て世代は携帯で情報交換しており、情報源としてウェブを活用しております。そこで、電子媒体をもっと活用する努力としくみ、具体的には、一斉メール配信サービス、ホームページや冊子などを活用した子育て支援情報を一元的に提供しつづけることが必要です。

せっかく刷新した文京区のホームページですが、利用者の立場に立ったものとは言い難いようで、さらなる改善が必要です。また、ぶんきょう安心メールのように「子育てメール」は有効な情報伝達手段として早期に導入を検討すべきです。登録者のみに情報発信できるため、区の考えていることや生のこえが区民に伝わり、単なる情報伝達のみならず区と区民との信頼関係向上に繋がります。

他方、区民の中にはホームページにアクセスできない方々も多く、紙媒体の一覧性と伝達力は改めて見直されるべきです。文京区でも子育て情報誌を作成されている中かと思いますが、そもそも存在自体が十分に知られておらず、また、発行部数も極めて少ないようです。そこで、子育てというくくりで何でも載っている情報誌、すなわち、区からの情報に限らず、NPO、民間の情報、必要な情報が全て入るものが有用です。

また、ブログ・くちこみの組織や、役所に関係のないネットワークを活用して情報を発信しようという試みは、区民との距離を縮めることに繋がります。

子育てマップは情報が集まっていた好評でしたが、認知度は必ずしも高いものとは言えなかったようです。このような情報の集約が必要ですが、これと同様の情報がウェブでみられれば、いつでも情報にアクセスできて便利です。

## 4) 専門的支援ができる人材の採用と育成

子育て・子育て支援の成否は、人材如何で決せられると言っても過言ではありません。その意味において企画立案する人材、現場を担う人材の両面において、中核を担う人材として福祉職を計画的に採用し、不断の教育・研修を実施することが不可欠です。

現在、文京区がこのような仕事をする人材として福祉職を採用しているのか判りませんが、児童相談所や様々な関係先との連携・調整ができる能力を持った人材を区としても採用していく必要があります。

## 5) 区民との協働協治による子育て・子育て支援の推進

これまで区が立案し進めようとしてきた施策は、区民にとっても良かれと思って企画されたものかもしれませんが、必ずしも利用者の立場と気持ちを十分に理解したうえで出来たものと評価することは

きません。区民が真に必要とする施策を実施するには、区民から生の声を聞く機会を増やし、また、それを個々の施策に活かすための不断の努力が欠かせません。これは、今回のビジョン委員会や子育て支援策に限る話ではありませんが、今後、区が重要な施策を立案し実行するにあたっては、区民に参加と意見陳述の機会が与えられ、これを個々の施策に反映させるような仕組みを設けることが必要と思われる。区民の参加と信頼関係の醸成は、個々の施策の実効性を高めることは明らかです。

子育て・子育て支援に関わるNPOへの計画的かつ継続的な支援を実施することも、有効な施策となりうるものと思われます。他の自治体と比較しても、この部分は文京区が非常に遅れている部分です。一部の大きなNPOや市民活動団体を支援するのではなく、多種多様な区民の活力を利用できるような、例えば、立ち上げ助成、活動継続助成、多様性対応助成などさまざまな仕掛けが必要と思われます。

## 6) 子どもと親が安心できる遊び場と交流場所の確保、遊べる環境としくみ作り

### (ア) 児童遊園や公園の整備

子どもの遊びは、親同士のつながり、地域のつながりにも発展します。文京区は空き地が少なく、交通量も多く道路では遊ばせられません。子どもが外遊びできる場のインフラの整備が必要です。

現状では、文京区内には児童遊園が多くありますが、極めて老朽化して壊れる危険のある遊具が多く、遊具自体をもっと小さい子ども遊びやすいもの、子どもがワクワクする遊具に設置し直すことを検討すべきです。

保育園・幼稚園に通わせていない在宅保育の子どもが遊べて、かつ、親同士が交流できる場を作る必要があります。また、公園に子育てに関する情報の掲示があれば、情報交換もしやすくなります。

### (イ) 地域の公共財としての公園、その意識付け

公園は、単に行政がハードを作れば自然に人が寄ってくるものではありません。専門家によれば、海外の大都市においては、公園は周辺住民の公共財という意識が高いようですが、日本人の住民の公園（ひいては地域環境）に対する意識は、非常に低いようです。また、子育てしやすいまち作りと地域環境の向上にとって、このような公園に対する意識付けは非常に重要であり、かつ、有用であるようです。

たとえば、周辺住民が定期的に清掃したり剪定をする取り組み、夜間は浮浪者・不審者・不良少年のたまり場にならないように公園にフェンスを設け鍵をかけるなど、住民が自主的に管理していく取り組みなどが紹介されています。

このような住民の取り組みを促すことは、公共財産・コミュニティは宝という意識の植え付けにもなり、かつ、子どもの遊び場や親同士が交流できる場・コミュニティを大事にしようとする意識を育むことに繋がるようです。行政は、このような意識を育むためにも、専門家と利用者・地域住民の意見を聞き、より良い公園作りを進める必要があります。

文京区は、歴史があつてこどもの遊びや親の交流の場を提供する潜在力を持った公園が多くありますが、これらを次々に廃止し、また、これからも廃止しようとしています。子育ての視点をもって見直せば、全く異なる考え方が生まれるのではないかと思います。

また、公園は設置より維持に費用がかかるものと言われてはいますが、このような住民の取り組みを進めることは、維持費用の大幅な削減をすることとなります。

## 7) 異年齢が遊べる環境・しくみ

異年齢が遊べる環境を作ることは、こどもが安心して遊べて、子育てしやすいまち作りに繋がります。このような環境は、それを促すしくみがあつてはじめて出来るものと言えるので、しくみを考え、広げることが必要と思われます。

親同士の関係があることが、異年齢の子どもが仲良く遊ぶことに繋がります。例えば、保育園、幼稚園、育成室などの父母会、PTAなど既存のネットワークだけでなく、子育てひろばやその他施設利用者の相互交流や、各種子育て関連の親睦会や集まりなどを促すしくみ作りも重要と思われます。

また、公園、集会所において、親同士が交流できて、親が子どもを安心して遊ばせられるハード・ソフトが必要です。

## 8) 既存施設の拡充・施設の新設

保育園や幼稚園に通わせているか否かを問わず、子育てに関する情報交換と支援を受けられる場を設置し、拡充することが必要不可欠です。

繰り返しになりますが、保育園の待機児は、公式には50名以下とされていますが、他区の公設園や、区内外の認証保育所・民間園に紹介・斡旋されるケースが多く報告されており、潜在的には非常に多くの待機児がいるものと思われます。

区は、常に地理情報学や都市計画の専門的手法に基づく人口動態調査を定期的に行い、問題点を正確に把握したうえで、適正な施設の配置と定員見直しを行う必要があります。

また、施設の設置について検討する際に、一般的に考慮すべき点として以下のようなものが考えられます。

- a. 区内のどこからでもアクセスしやすい（十分広く安全な駐車場の確保およびデマンド型交通などによる移動手段の確保）
- b. 建物はバリアフリーや建材の安全性にも配慮し、子どもの育ちを支えるような観点から工夫されたものである
- c. 個人情報保護および一貫したサービスを責任を持って提供するため、基本的には区の直営施設とする。

### ① 子育てひろば

特に、幼稚園・保育園に通わせていない親の支援とその子どもの育ちのためには、子育てひろばのように安心して子どもを遊ばせ、また、必要な情報提供と相談を受けられる場所は必要です。現在、文京区には、子育てひろばは3か所しかありませんが、子育てひろばは登録制なので安心、保育園、幼稚園の園長といった子育てのプロに相談できるということで利用ニーズは非常に高く、早急に新設し、そのサービスを拡充すべきです。また現在すでにある施設も、空調の完備、利用時間の延長など、サービスの改善をするべきです。

### ② 子育て支援、子育て支援の核となる総合的な施設の整備

子育て支援、子育て支援に関するワンストップサービス拠点（ここにくれば、一度の手続きで、必要とする関連作業をすべて完了させられ、しかもサービス自体もこの施設内でほとんど受けられるような拠点）として総合的な大型施設を新規に建設することは重要であると考えます。

文京区が子育て支援に力を入れ、子育てしやすい住みやすいまちであることを印象づける意味でも、区において是非検討すべきと思われます。

この総合的な施設においては、以下のような機能を付加することが考えられます。

たとえば、

- 個々の区民のニーズに応じて、子育て支援、子育て支援に関するサービスを総合的に提供できるようにコーディネートできる専門職による相談・支援
- 必要なサービスへの利用登録が一度の手続きで完了するような支援エントリー・システム
- 年齢に合わせて十分に走り回ったり、遊べたりするような遊戯・運動施設
- 親同士の交流にも使え、子育て・子育て支援に関わる市民活動団体も利用しやすい研修スペース
- 保護者の事情で緊急に保育が必要な場合に対応できる緊急一時保育、障害児レスパイトサービス
- 区内の保育、教育、福祉に係る専門職やボランティアが区内の大学との連携の下に行う研究・研修機関

### ③国や都の関連機関の誘致

文京区独自で前記のような子育てに関する総合的施設を建設できないとしても、例えば、渋谷区の東京都児童館、江東区東部療育センターなどのような子育てに関する都や国の施設、機関の積極的な誘致を行うことは出来ないでしょうか。とかく、子育て中の親は、子どもを安心して遊ばせることができ、情報交換やほっと一息つくことが出来る場所を求めています。

### ④児童館の抜本的な見直し、改善

良質なスタッフの厳選、確保（そのための魅力的なパッケージ（待遇））、プログラムの改善（午前中のプログラムの充実）、空間の有効的活用が必要です。

### ⑤例えば、地域活動センターや交流館を子育て支援センターに

地域活動センターを子育て支援センターとして活用する工夫ができないだろうか。赤ちゃん連れには重宝である和室があり、かつ平日昼間の利用がしやすい。出張所時代の名残で、1階は事務所となっているが、その1階をもっと和める雰囲気改装し、地域保育士やソーシャルワーカーを配置し、子どもを持つ親の集いの場にするとか。

子育て関連の情報をここに集約し、かつ住民が自由に掲示できる掲示板を設置すれば、情報の流通にも繋がります。母親学級、4ヶ月健診やポリオの摂取なども、ここで実施すれば、近所に住む仲間づくりに役立つのではないのでしょうか。民生児童委員や地元町会関係者もまめに足を運べば、失われつつある世代間の地域のつながりも再構築できるのではないだろうか。文京区に移り住んできた人が、新しい地元をつくるための足がかりにすることが可能です。

安全で、安心して小さい子どもを連れて集える場所に生まれ変われば、地域に大きな貢献をもたらさず。知り合いのお母さんに「ちょっとだけ子どもをみてもらい」、その間に所要をすませ、住民参加の一時預かり機能を持たせることもできるような気がします。

## 9) 基準・ガイドライン等の策定

区が、施設を設置し、個々の施策を策定する際のガイドラインをつくることも検討に値するものと思われれます。

フィンランドをはじめとする欧米では、行政の個々の施策や施設設置の基準作りが進んでいるとのことであり、子育てに関する分野でもこれらの海外の事例は非常に参考になります。

現実に文京区が施策や施設設置する際、現実の状況や予算と時間の関係上、行動目標に対してハードルを落としたものになるかもしれないが、目標や理想像があるかないかは大違いです。この意味において、文京区独自のガイドライン（施設設置基準や行動目標等でもよいので）を策定することは有用と思われれます。

## 3. 「(広義の)特に配慮を要する子どもおよびその親・家庭への支援」

特に配慮を要する子どもとその親・家庭への支援について、ここでは、子どもを持つ親・家庭であれば、誰にでも起こりうる事態についてどのように対応・支援するべきかという問題として、広く捉えて考えることとしました。このような観点から、この支援を考える際の視点としては、単純に特に一定の特性を持った「方々」に対する支援と考えるべきではなく、単に、子育て中の親・家庭であれば特に配慮が必要な「状況」に対していかに支援をするかということと考え、誰でも陥る可能性のある状況を有する親と家庭に対し、子どもの育ちに十分配慮した、手厚い支援が保障されるべきであると考えます。

もっとも、単なる状況を脱するための物的な支援だけではなく、精神的なケアも含む複合的な支援を要し、また、専門的な知見も必要であり、本ビジョン委員会で深く検討するには限界があることから、専門家が参加する検討委員会を別途設置して、特に重点的に検討すべきものと思われれます。また、これらの問題は、至急の支援が必要な場合でありますので、この検討委員会は、即時に設置、開催すべきです。

特に配慮を必要とする家庭は以下のようなケースです。

- (1) 妊娠中の女性および産褥期の母子
- (2) 一人親世帯
- (3) 子どもが障害や病気等を持っている家族
- (4) 親が障害や病気等を持っている家族
- (5) DV、虐待の被害にあっている母子（疑いがある場合も含む）
- (6) 外国籍、日本語を理解できない家族
- (7) その他緊急な対応を迫られるケース

また、利用者・親の立場から検討が強く要請されている事項としては、以下の事項が挙げられます。

#### 1) 緊急一時保育の受け皿の検討

緊急一時保育の整備は急務です。

全保育園での緊急一時保育、現在すでに行っている区立保育園での緊急一時保育の定員を大幅に増やす、子育て広場、児童館といった保育施設で緊急一時保育を行うといった、これまで文京区で行われてこなかった新しい形の緊急一時保育が必要です。

#### 2) ショートステイ（短期間の24時間保育）

核家族では、親の急病、やむをえない事情があると保育が大きく欠けます。区の事業として、ショートステイの実施が必要ではないでしょうか。（区内で協力会員を募り、厳選、トレーニングを行い適切な人材を確保し、同時に都立の乳児園などへの橋渡しを行う。）

#### 3) 病後児保育の拡充・要件の緩和

病後児保育実施施設を増やすのはもちろん、家族に感染症にかかったものがある場合、幼児への感染防止のために、保育園で預かるといった多様なニーズに答えていく必要があります。また、保育園の利用者が当日いない場合、保育にかける要件の有無にかかわらず、必要に応じて利用を認めてははいかがでしょうか。

#### 4) 産褥期の支援

赤ちゃんが生まれてから3か月くらいは、親に子育てのノウハウがなく、子育てに慣れるまでが非常に大変ですので、特に配慮が必要です。

#### 5) 2人目を妊娠したときからの支援

第2子（第3子以降も同様ですが）がお腹にできたときから、親と第1子の子育てへの配慮と支援が必要です。

また、第2子が保育園に通園できる年齢に達したとき、保育園の入園については特に配慮が必要です。第2子が保育園に入れない場合や別の保育園に通わせざるを得ないケースもあり、核家族では通園と養育が大変で、過大な負担を強いることとなります。

#### 6) 本当に支援が必要な家庭への支援

家庭でひとり子育てをしていて、どこにも出ないで、相談もできなくてという、本当に支援が必要な人がおりますが、そのような状況をどのようにフォローするかは重要な検討課題と思われます。

どのような機会に見出すかについて、例えば、4ヶ月健診等の場（保健所）が挙げられます。また、健診を土曜日の保育園とするなどのアイデアも検討に値します。これによりカウンセリングも可能となります。また、小児科などで、看護師からの事前のカウンセリングがあると有り難いという声もあります。

す。このようなカウンセリングによって、支援メニューの提示とサービスの提供が可能となり、また、鬱積した気持ちや精神的不安のガス抜きにも繋がるものと思われます。また、保健センターの保健師さんなどからの積極的なアプローチも必要です（文京区の保健師さんはフットワークが軽く、機能しているとの評価もあります）。

#### 7) 問題のある（になりそうな）家庭を早めに見つけて対応

ネグレクトや育児放棄などについては、予防の視点が重要であるという指摘がありました。

また、地域のネットワーク、地域を見守る眼や専門家との連携、制度、サービスのPR、広報が行き届いているかのフォローアップ、周知度の調査等が必要であるとの指摘があり、これらの具体策については十分に検討すべきであると思われます。

#### 8) ファミリーサポート制度改革、在宅で気軽に預けられるベビーシッター制度

現在、文京区ではファミリーサポート制度を導入しておりますが、これは十分機能していないとの指摘がありました。理由は、提供会員が少ないし、毎回面接が必要など使いづらい面があるとのこと。

しかし、このような取り組みは、民間だと2000円/時間で3時間単位、1回6000円はかかってしまうこと、また、資格があり相談にも乗ってくれるので有用であることは間違いないようです。

本WGでの議論のなかでは、具体的には、以下のような指摘・提案がありました。

- ・ 有資格で現在は働いていない人を活用して、半官半民型の、ファミサポ以上のものがないか。
- ・ ぴよぴよの一時預かりがもう少し質が高く、利用しやすいシステムづくりが必要。（食事の用意、良質なおやつを用意など）
- ・ 人と質の問題が課題。それなりの報酬が必要。区が一部補助することも考えられる。
- ・ 必ずしも有資格でなくても、経験者を活用できればよい。ボランティアということではなく。
- ・ 行って預けるのではなく、来てくれる、ということも重要。
- ・ 産褥期ヘルパーの派遣。1年間といった長い期間を設けての利用。
- ・ 女性の雇用を確保するためにも、区民を活用できるようにしたらよい。

#### 9) 母親への医療控除、良質で安価な治療のあっせん

たとえば乳腺炎といった、保険がきかない妊婦、乳幼児の母親がかかる特殊な病気があります。民間の治療施設で治療を行うと、治療一回4,000円～5,000円かかり、頻繁に行わなくてはいけない場合もあり、経済的な負担を強いられます。母乳育児を推進すべく、こういった病気にたいする医療控除、区からの良質で安価な治療のあっせんといった支援が必要です。

#### 10) 予防接種の補助

現状、文京区においては、おたふくやインフルエンザの予防接種は自費で補助がありませんが、病気になると親は大変です。これらの費用を補助することは子育て中の親の支援になるのは勿論のこと、子どもの健康、伝染予防にもつながることから、予防接種の補助の拡充が必要です。

#### 11) 地域保育士・ファミリーソーシャルワーカーの採用と配置

家庭で育児をしている親を支援するために、地域保育士やファミリーソーシャルワーカーを採用し、専業主婦・主夫層向けの子育て支援・親育ち支援のプログラム策定を担当してもらうような取り組みも検討に値すると思われます。大阪府吹田市の事例などが参考になります。

## 1 2) その他の取り組みのアイデア

### (ア) 4ヶ月健診、集団予防接種を子育て支援の機会として活用

4ヶ月健診やポリオの予防接種を児童館、保育園、地域センターなどで実施し、他の子育て支援サービスとの連携をはかる機会として活用できないだろうか。たとえば、保育園と同じ建物内の児童館で実施すれば、離乳食の指導がしやすいのではないのでしょうか。

### (イ) 保育園のクラス人数を減らし、子どもの病気の発症・感染自体を予防

保育園利用者の最大の悩みの一つが、子どもが病気の時の対応です。海外では、1クラスの園児数を少人数にすれば、感染症の予防につながる事が検証されています。日本のクラスサイズは国際的に常識はずれなくらい、大きいのが現状です。ここでは、先生と園児の割合ではなく、一つの教室で生活をともにする園児数のことを指します。クラス人数を減らせば、病気にかかる園児が減り、結果として子育て支援につながります。

## 第3グループ(親の就労・多様な生き方の支援)

### 1. はじめに

課題に対して、なぜ出来ないか、を中心に考えるのではなく、どうすれば出来るかを考えていくことを基本的姿勢とする。細かい事情はいろいろあると思うが、ビジョンにそういうことが望ましい、考えるべきと入れていくこととする。直ちに実現すべきということばかりではないかもしれないし、活用するのは簡単ではない場合もあるだろうが、柔軟な工夫はできないか、ということを考えていく。

それと同時に、たんなるお話としてつまみ食い状態にならないように、今回のビジョンは、ビジョン2006として、今後の検証を定期的に行っていくことも大切である。

### 2. 保育園のあり方

- ①親が希望すれば保育園に入園できる体制を目指すということ、理念としてうたうこととする。保育園に入っていないと就労できない、就労できていないと保育園に申し込めない、という悪循環を絶つ。認可園で対応して、待機児をなくすということ。また、育児休業後に、年度途中でも保育園に入れるしくみも必要。
- ②親の多様な生き方を選択できるような社会をつくらうということであろう。専業主婦も孤立せずに社会とつながりをもっていこうという。実際に、緊急一時で預かる子どもは0~2歳児がほとんどだが、1歳児の発達はどうか、言葉が遅れているけど大丈夫か、0歳だとミルクのみが遅い、離乳食をどうしたらいいかなど、保育園からみると初歩的な質問をたくさん受ける。そういうことをなかなか聞く人がいないのであろう。今の状況では難しいだろうが、働いてない人にも保育園で対応していくことは必要。
- ③危険が多いから公園で遊ぶのも親がつきっきり、家に帰るとマンションでは騒ぐと言われる。住宅事情も治安も悪くなっている。小学生でもひとりでお使いにやるなど生活上の訓練をすることが難しくなっている。こういうことでは子どもが大丈夫なのかと不安になる。親が育児に不安をもち、ノイローゼになるのも無理はない。そういう環境ということからも、親が希望した場合には、保育園を利用できることをめざす、ということも、すぐには実現は不可能でも、ビジョンとして理想を掲げてよいのではないか。

### 3. 文京こども園構想

- ①2歳から幼稚園に通わせるようにしても良いのではないかと考える。親の選択もいろいろできる方がいい。少子化、核家族化で親子1対1の時間が多くなると、子どもにとってもよくない。慣らし保育的な意味でもいいのではないか。(区立幼稚園は3年保育がないので、3歳のときは私立、4歳から区立に入れている人もいる。)
- ②幼稚園か保育園かという区切りになってしまうと、2歳児をどちらに入れてもいいのだが、現実的には、幼稚園で2歳児まで受け入れる施設的な設備、職員のノウハウはない。それよりは、やはり幼稚園でも保育園でも同じ子ども。幼稚園と保育園の垣根をなくして、同じ施設の中で育ちながら、長時間、2時までなど、親の生活にあわせて子どもの生活を保障できるのが理想であろう。今の一元化の方法はよくないと思われるが(柳町こどもの森は、あまり成功していない、お母さんたちは評価していない、という話も聞こえてくる。)幼とか保とかいう言葉自体をなくしたい、というところ。
- ③目玉の政策として、幼保一元化という既成の概念でなく、上で述べられていることを実現するための特区申請をすることを提案できないか。厚労省にも文科省にもしぼられないものと考えていく。もっとも、言うのは簡単だが、制度を調べ、財源措置もからめて考えていかないと実現性は低いままなので、特区

申請するにも知恵と時間が必要である。

- ④以上を踏まえて考えてみると、採用のときから両方の資格をもっている人を採用することも必要である。但し、現実には、両資格をもっている人がほとんどだが、意識の問題がある。幼稚園教諭は保育園を低くみていると思われる（幼保一元化のプロジェクトでも、4・5歳は幼稚園児となるため、担任は幼稚園教諭だけで保育士は担任にはなれない。）
- ⑤仮に、労使間の問題（採用職種を変えない等）があるのであれば、相互に併任を掛け合うというような現実的対応策も考えられる。
- ⑥幼稚園や小学校ということではなく、区のもっている施設を有効活用することも検討に値する。空いているリソースをもっと活用して、保育園を充実するべきだと思う。

#### 4. 子育てひろばの拡充

- ①子育てひろば、3か所しかないので拡充すべき。
- ②現在は3時までだが、来年度から4時までに延長する予定である（4時だと、帰って夕飯の準備をするのにもちょうどいいとのこと）。子育てひろばのいいところは登録制なので安心。保育園、幼稚園の園長といった子育てのプロに相談できる。

#### 5. 公園づくり

- ①区の人がハードだけつくってはだめで、周りに住んでいる人の公共財という意識をもってもらうことが重要であるという話を聞いた。まわりが清掃する、夜は浮浪者が入ってこないように鍵をかける、剪定をするなど、住民参加で管理していく取り組みなど。公共財産、コミュニティは宝、という意識の植え付け。
- ②公園に対する意識は住民間でも希薄だし、行政はもっと希薄。新しくしようというときにモダンなものに変えようとするが、人の交流を頭に入れていないという話である。公共の公園はすごく大事。
- ③市民の子どもに対する意識も大事。近くに児童遊園があるが、子どもの声がうるさいでしょ、という人がいる。駐車場よりずっといいと思うが。そういう人がいることにびっくりしたが少なくないかもしれない。その意識は少しずつでも変えられると思う。

#### 6. 働き方について

- ①オランダなどでは、ワークシェアリングがうまくいっていると言われている。女性を職場の中でうまく活用することはできないか。パート志望者というのは、OJTのような気分ですまずパートで働いて、という人も多いし、ドクター、マスターをもっているがためにかえって職業がない人もいっぱいいる。潜在的な希望を吸い上げることができれば、夫の扶養控除も減るから、所得税も増えて、地方税にもはねかえる。
- ②長時間がどれくらいか一概にはいえないが、保育園で夕飯まで食べる夜間保育は、子どもにとってどうなのか、という思いはある。家族で一日の出来事を語り合いながら、楽しく食事をする方がいい。保育園で保育士と食事をするのが毎日という生活で、子どもがどう育っていくのか危惧をもっている。そういうふうにしなないといけない家庭もあるのかもしれないが。それは、もう少し家庭的な雰囲気の中でフォローできる制度、しくみが必要。集団でみるのではなく。
- ③長時間労働を解消しようという目標をたてること自体は間違っていないが、そこに本当に何年間で行けるのかなあ、と考えてしまう。10年、20年かかるのとしたら、その間の子ども達を放っておく訳にはいかない。現実の中で何が一番いいのかを考えないと、変な対立がおきるし、長時間労働をやめさせよう、というスローガンだけになってしまう。企業の立場からいうと、生き残りをかけて正規社員を基本

的には減らしてきたので、残った人の負荷は増えていて、早く帰ろうと思ってもなかなか無理。そのためキャリアを半分あきらめて短時間労働を選択している女性が多い。そこまで踏まえてどう考えるかという視点が必要。

- ④言い続けることはもちろん重要であり、保育時間が長いというのは、親の生活にとっても良くないことであり、何より、一般的に言って子どもにとって良くないことであろうから、その方向性で声を上げていくことには賛成である。但し、ちゃんと9時-5時で勤めて子育てに時間をかけていないのはおかしい、という議論にのみなってしまうことは避けなければならない。無用な対立、論争を生む。フルタイムかパートタイムかということで待遇とかペイが決まらずに、同一労働同一賃金ということの実現が大切。正規というコンセプト自体がゆらいでいかないと、ワークシェアリングは実現しない。文京区で独自にそういうものを出しても悪くないが、文京区がひとつの産業をもっていけばいいが、そうでないとなかなかできないものではある。
- ⑤フェアなバランス感覚が必要ではないか。子育てを最優先で考えましょうということは、目標としては正しいが、それがドグマになってしまうと、親に対する支援をすること自体、長時間預かること自体がいけないこととなってしまう。個別の事情を踏まえた対応が大事であろう。子育てしている親がある程度安定した精神状態、肉体状態であることがまず必要なのだから、それを支えるという視点も考えると、おのずとバランスが取れるのではないだろうか。
- ⑥今回は、日本の社会はこうあるべきだ、ということを示すことにとどめて、それに矛盾しないかたちで施策の種を並べるというのがひとつのまとめ方。深く考えるのもひとつの方向であるが。(文京区の保育は7時15分までで、8時まで延ばそうということは検討していないし、現時点で計画はないと思う。保育園の後、ベビーシッターに預けている家庭もあるので、夜間保育の需要はあるかもしれないが、少数と思われる。)
- ⑦長時間労働をなくす、ワークライフバランスをとるように、と企業に呼びかけることも重要。それと同時に、文部省と厚労省をやめ、子どものための省をつくる、というのはどうか。生き残りをかけて行動している企業に単に呼びかけるより、中央政府に子どものための省を実現してくれ、と言う方が、実現の可能性はあるのではないか。そこから、企業に対するメッセージ、社会に対するメッセージを強く出していく。

## 7. 企業の取り組みの支援・企業による社会貢献の支援

- ①企業に対する支援として、表彰制度は簡単だが、効果があるかどうか不明。企業はメリットがないと取り組まない。区が実施する中小企業向け子育て支援事業も、実際に費用をかけて支援をしないといけないので、申請がない。
- ②区内の企業もそうだが、文京区民が行っている企業なら区外でも支援してもいいのでは。すばらしい取り組みをしていて、区民がその制度を利用していたら通勤費を1万円補助する、等である。但し、こうしたアイデアはありえなくはないが、区に法人税を納めている企業にメリットを与える、というのは頭の整理がしやすいが、このままでは個人が対象になるし、不公平も生じる。一工夫必要ではないか。
- ③第2グループで出た意見：子育てにやさしい店ということでステッカーを貼ってもらう取り組み。トイレや授乳場所を提供するなど。企業による子育て支援活動の啓発になる。
- ④印刷工場のリフトが歩道を往来するので、子ども連れが歩けなくて困るという意見があった。そういうことに対して指導はできないか。あるいは、指導といわずに、子育てに配慮した事業所ですよ、という方向で、ステッカーを貼ってもらうのはどうか。指導と応援を組み合わせればいい。
- ⑤エレベーターの開くと閉まる表示が、メーカーによっても違うし、わかりづらく、ベビーカーを押して乗る人は大変と聞く。一目でわかるように、シールを貼るなどマークを統一するのはどうか。子育てに

やさしいエレベーター。また、公共施設のエレベーターへの実施と、区内の事業所に協力を呼びかけていくことも考えられる。

- ⑥子どもを連れてくる人にやさしく、手伝おう、という啓発活動も必要。企業も安全なまちづくりをサポートする、企業もまちの構成員として、子育てのしやすいまちをいっしょにつくろう、というコンセプトである。
- ⑦民営化という方向性を単純に進めると利益追求型となり、想像もつかないような事件も起こりかねない。企業の税務調査同様、定期的な査察が必要であろう。
- ⑧現状のままでは、企業は多様な雇用を進めることになかなかならないのではないか。やはり行政がルールを作り、負担と助成をうまく組み合わせて、企業が動かざるを得ない状況を作ることが必要。環境問題同様、口ばかりスタイルばかりとなってしまうことを避けるためには、ある程度、制約力のある目標を国として示すことも重要。
- ⑨この関連では、就業規則を労働基準監督署に届出するルールにしても、ルーズすぎて、正直者が馬鹿を見るようなことではシステムとしておかしい。もっと定期的に申請させ、また、精査すべきである。

## 8. 情報へのアクセス

- ①セミナー等のPRは、区報のほか、ホームページ、チラシの配付、ポスター掲示などでPRしているが、残念ながら、チラシは置いてあるだけでは目につきにくい。どこかの窓口にいけば、一括、一覧できるようにしてほしい。(今回の公募委員についても、区報がなんとなく目に入ったから応募したが、他の情報といっしょに羅列されているだけなので、目につきにくかった。ホームページも頭の方であればわかるが。) 区の施設等に行けば分野別に整理されているなど、ホームページに載っているというだけだとわからない。アナウンスメントの仕方が住民に届きにくい。
- ②対策としては、次のようなことが考えられる。
  - ・くちこみの組織をもっと活用すべき。メールを活用するなど。文京区の女性は、文京区で育った人が多い。ちょっとした立ち話、メールなどですぐに広がる。
  - ・役所に関係のないネットワークを活用して発信しようと試みが、区民との距離を縮めることにつながる。広報や政策を認知させるための手段。メディア、草の根、くちこみなど。ファイルがあれば、費用もかからず、メーリングリストに流したり、ホームページやブログに載せることも可能。
  - ・子育てというくくりで、何でも載っているペーパーがあるとよい。区からの情報、NPO等民間からの情報、必要な情報がぼんと入るものがあるとよい。予算はどうするんだ、という問題はあるかもしれないが、あったらいいな、ここをめざすべき、というところから、それを実現するためにはどうしたらいいか、というアイデアを出していく方向で議論したい。
  - ・安心メールのように「子育てメール」があってもいい。限定したグループの中で情報を共有するしくみ。登録者に情報発信できる。そういうものが浸透すると、区の意識が区民にすごく伝わると思う。(混乱を避けるためには、問い合わせの受け皿は別に。URLをつけるなどの工夫をすればいい。)
  - ・健診などの機会で、そういうものがあることをアナウンスするとよい。
  - ・だれでも書き込めるかわら版のようなものも考えられる。

## 第4グループ(保育機能の中核としての保育園)

### 1. 「保育とは何か」について

まず我々は、「保育とは何か」について話し合った。以下のような諸点について、意見の一致を見たところである。

保育と教育が区別され、幼稚園では教育を実施しているが、保育園では教育が行えず、保育のみを行っているという、誤った考えが流布しているのではないか。他方、学校教育法においても、幼児期について「教育」ではなく「保育」という表現を用いているが、その理由は何であろうか。一つの回答は、以下の通りである。

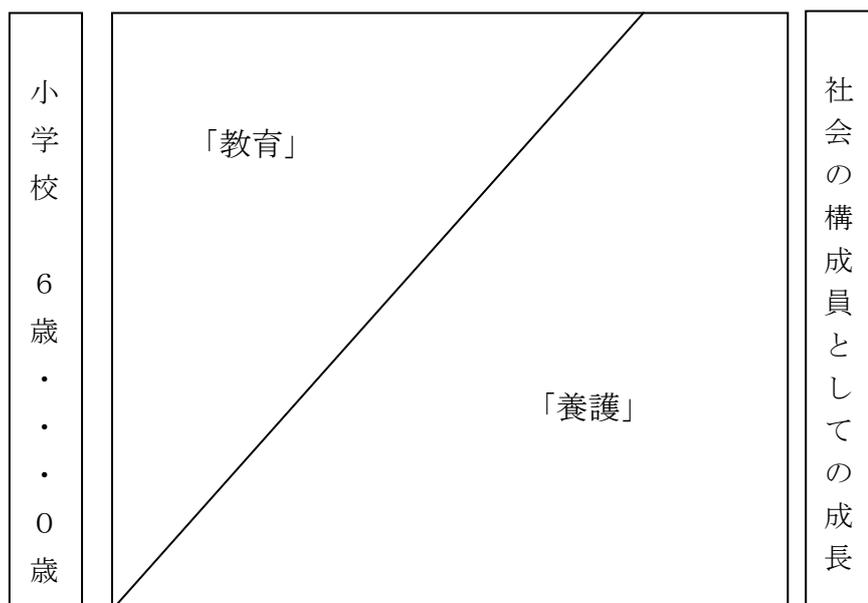
幼児期の子ども達に必要なものは、①基礎的な生きていく力の形成等(即ち、「生活習慣の確立(排泄、食べること、着脱、健康な体、生活力) & 社会性の獲得」=養護)と、②個々はその個性を発揮し社会で活動していくための知力、能力、技術の向上等(=教育)の両者であると考えられているからではないか。

もちろん、この両者は密接かつ有機的に関係しており、それゆえ、幼児期においてこの両者を区分して実施しようとするのは無益ではないか。こうした基本的な問いかけは、就学前児童に関して、人数的に保育園の関与(210万人の子ども達)が幼稚園のそれ(170万人の子ども達)を上回り、その差が拡大の一途をたどっている現状に鑑みても、一層重要な課題となっていると考えられる。

さらには、この両者の重要性は、就学前の乳幼児期に限定されるものではなく、義務教育期、さらには、高校以降においても認識されるべきではないだろうか。

以上の認識は、今回の保育ビジョン2006及び保育園の機能について考えるに際しても、また、より広く、保育方法の形式知化とその受容性のアピール、保育に関連する研究の抜本的拡充、保育所保育指針の位置づけの向上、望ましい幼保一元化の実現等を考えていく際にも、基本とすべきものである。

(概念図)



## 2. 「保育ビジョンの基本となる考え方」

保育ビジョンのエッセンスを現すものとして、こどもを大事にする街、こどもが元気に安全に育つ街、こどもを育てやすい街、安心してこどもを育てられる街などがキーワードとなるのではないか。その具体的な表現に関しては、最終報告までの期間で議論、決定していくこととする。基本的な考え方として、保護者にとっても、地域にとっても、行政にとっても「こども」が大切な存在であるという、合意が出来たことを示す表現が好ましいと考える。

## 3. 「保育園の基本的機能と役割」について

少子化の原因のひとつとして、子育てを行う環境の変化とそれに対する子育てサポートの未整備が考えられる。核家族化の進展が、家庭での子育てを困難なものとし、これが結果的には、少子化の一因となっている可能性がある。少子化による1家庭あたりのこどもの数の減少は、子育て経験の欠落と、一層の核家族化の進展をもたらし、将来世代に渡って、家庭での子育てをより困難なものとしていく、という連鎖も想定されよう。少子化の原因については様々な考え方があるであろうし、また、そもそもこれを問題であると考えべきかどうかについても異なる見方もあり得よう。但し、それはそれとして、待機児童の存在など、設備や態勢に関する問題はもとより、虐待や子供にまつわる様々な事件など、子供を生み育てることを決意する際、躊躇せざるを得ない状況や情報が満ち溢れているように感じられることは事実である。

このような状況の中、こうした問題のいくつかを解決できる、子育てサポートを提供できる場所として保育所に期待する役割は重要であると考えられる。なお、子育ての重要性と子育て支援を対立的な概念ととらえるのではなく、親、保護者が健全でなければ、子どもにとって安心できる環境が実現することは臨みがたいという事実に基づいて、今後について考えていく必要がある。

従来の「保育に欠ける」状況への救済施設とする発想から、様々な子育てニーズに対応した子育てサポートを提供できる拠点としてその役割を考えていくべきであり、保育園の基本的機能と役割について、次の通りの整理を行った。

- (1) 少子化、核家族化の進展の中で家庭での子育てが難しくなっている状況のもと、地域、家庭における子育て支援の拠点としての役割を明確にしていく。
- (2) 子どもたちの心身ともに健全な発達と成長を保障するための保育園の役割を明確にするとともに、保育の質的向上を図る。
- (3) 地域における子育て支援のネットワークの中核としての役割を担っていく。

## 4. 保育園の具体的役割

- (1) 以下の具体的役割を充足していくことにより「地域の子育て力を高め」、「地域の子どもの育ちを見守る保育園」として認知されることを目指す。
- (2) また、これを効率よく、機能的に実現するため「保育園が現在持っている人的資源・物的資源を活用する」ことも重要となる。
- (3) ただし、これら役割の増加に伴う負担が、現状の人的資源・物的資源の許容範囲を超えることなく、施策と紐ついた人的・物的資源のさらなる投下を検討、実施する必要がある。
- (4) また、何をもって許容範囲を超えるかを判断するためにも「保育の質」などの基準を明確にすることが大事である。

(5) 具体的役割の各項目は次の通りである。

①子どもたちに対する責任

- ・家庭、地域の子育て支援と親たちの子育て力を高めていく。
- ・入園している子どもたちの「育ち」＝「保育（養護）と教育」に責任をもってその向上に努める。
- ・保育園が持っている社会的、公共的な人的・物的資源の活用をはかる。
- ・小学校にスムーズに入学し楽しい学校生活が送れるよう小学校との連携を図る。（交流、情報交換、訪問活動、見学、参加など）

②「子育てと仕事・社会的活動の両立」の支援（＝仕事と子育ての両立を支援する保育サービスの提供拠点としての保育園）

- ・保護者の就労を支援しながら子育てを支えていくといった保育園の機能は重要な柱である。
- ・保育所待機児童の解消は当然の目標。として、
- ・潜在的な待機児童の認識とその解消にも努力する必要がある。そのための、十分な保育園の数の確保。
- ・延長保育スポット利用、病後児保育への対応、年末、年始、祝祭日保育等も検討課題となろう。
- ・通園の距離や、兄弟が別の保育所に通わざる得ない状況の解消など、細かい問題、ニーズの調査と具体的な対応策の検討も欠かせない。
- ・月1回くらい先生と親がフランクに議論できる機会ができるとういのではないか。そうしたところから、みんなで子育てをする雰囲気につながっていくのではないか

③「家庭・地域の子育てサポート」の実施

未就学児童では、これから子どもを生む人・家庭のみで子育てをしている人・幼稚園に通わせている（通わせたい）人・保育園に預けている（預けたい）人、を具体的にサポートする施策やしくみが必要になる。これらを的確に捉え、解決策や具体的な子育てサポートのメニューを考えていくことが重要である。例えば、子供を介しての地域コミュニティとの接点の構築や、広義の子育て支援のインフラとして、家庭のみで子育てをしている親と保育園に預けている親との接点や、子供同士の交流などを目的とした、メニュー作りも大切なテーマとなる。より具体的には以下の通り。

A) 具体的な子育て支援と相談

- ・出産予定者への援助、相談 ・出産後の相談、援助 ・子育ての悩みへの相談、援助 ・母親のリフレッシュへの援助 ・子育て体験学習（乳児中心に） ・校庭の開放 ・図書貸し出し

B) 子育て支援ネットワーク

- ・「ひろば、支援センター」などのネットワークづくり
- ・子育て支援のボランティアのネットワーク
- ・子育てに関するサークルのネットワーク
- ・家庭内の子育てサポート機能を援助する拠点としての保育園
- ・子育てに関する安心を提供できる「保育の質」を根拠として運用される保育園
- ・子育てに関する知識や情報を提供、共有化できる場所としての保育園

④保育園を社会的・公共的資源（役割）として活用する 各地域に根ざした保育園

以上の他、高齢者との交流や地域の祭礼などへの参加を通じた文化の伝承、社会教育機能（ボランティア、小中学校職場体験、）さらには、行政と区民との情報交換の場としても今後、重要な役割を果たすと考えられる。

- ・校庭の開放
- ・小中学生の体験学習、ボランティア活動に活用
- ・地域の人たちが保育園の行事等に協力し、子どもたちに伝承する
- ・地域の老人（施設）との交流（老人生き生き運動）と子どもたちが伝統を学ぶ経験活動

- ・ 幼児教育大学（専門学校）等の学生の乳幼児体験と研究教育に生かす地域の文化の伝承
- ・ 地域の伝統行事、文化活動への子どもたちの参加、協力
- ・ 伝統文化のネットワークをつくる

## 5. 保育園の機能を高めるための方策について

以上のような施策を実施するに際して、保育園の役割と機能を高めていくためには、ソーシャルワーク体制の確立、保育士、ボランティアなどの研修システムの確立、ネットワーク、サークル担当、コーディネーター等の講習、研修システムの研修等が重要な課題となる。また、人員の原状回復、増強も喫緊の課題である。

- ① 保育園の機能が拡張されることに伴い、新たな人材の育成や、より多くの人員の保育園への配置を適切に検討していく必要がある。目的に則した配置基準の見直しも必要である。
- ② 子どもたちの成長を保障していくためにも「保育の質」の内容を明らかにし、適切な「子育てサポート」の内容を検討して新たな役割を果たせる仕組みづくりが大切になる。
- ③ 「保育の質」に留意しながら、顕在、潜在的な待機児童の解消のため更なる、施設の新設なども検討する。
- ④ なお、現在17園ある公設園すべては、子育ての拠点として機能する「公設公営保育園」としてより一層大事に維持していく。
- ⑤ 事業の効果を最大限に引き出すために、現在定員割れを起こしている状況を早期に改善し配置基準どおりに保育士を配置していくことが重要である。

## 6. 保育ビジョンを実現するための前提条件について

- ① 「子育てサポート」の具体的内容に関しては、子供の立場、親の立場、地域社会での重要性などの視点に立って広範に議論され、企画される必要がある。
- ② 「保育の質」に関しては、より具体内容とこれを維持していく仕組みも含め、審議、検討し続ける必要がある。
- ③ 今回の委員会内でも「保育の質」を検討していくが検討項目の積み残しが生じる場合は、継続して審議する必要がある。
- ④ これら「子育てサポート」「保育の質」は、専門家と実際の現場の声として、さまざまな立場の保護者や保育園の現場の先生を交えた仕組みの中で話し合われるべきである。
- ⑤ 保育ビジョンに基づき、具体的な施策を実施していく。このとき、必要となる費用の調達に関しては、そのサービスを享受するために、文京区民になろうとする人からの税収などを考慮して、総合的に判断していく。
- ⑥ 保育園の利用に関しては、受益者負担として保育料の費用テーブルの改定も、聖域とせず議論の対象にすることも考慮する。但し、この費用テーブルの改定が、結果的に「保育の質」の低下に繋がるような変更で無いように十分に配慮する必要がある。公立保育園関連予算は既に一般財源化されており、これまでのところは従来の積算基準通りであり、大きく削られているということはないものの、今後、保育料が上がった分の使い方が他の部分に回ることのない様に、きちんと保育にまわるようにしないといけない。そのためには、会計の仕組み等をしっかりとつくる必要がある。また、具体的方向性としては、全体としての保育料値上げということだけでなく累進制をきつくすることで、負担できる人が負担する、という考えが適当ではないか。第2子、第3子がいる場合は、軽減措置を担保すること等を忘れずに、最高額の部分の所得階層と保育料を上方に向けて拡大していくこと等が考えられよう。

## 7. 関連する重要な課題について

- ①保育方法の形式知化等を通じて、その価値、重要性を明らかにしていく。

そのための研究の充実は重要かつ早急に対応が望まれる課題である。また、これは、「保育の重要性のアピール」のみならず、保育の質の維持・向上との関係でも極めて重要なことである。実際、幼稚園に関しては、研究としてまとめられることも少なくないが、保育園に関しては少ない。その一因には、研究機関は文科省の管轄のものが多く、厚労省には系統的にまとめる、という研究機関がなかったということもあるのではないか。

- ②また、保育所保育指針の位置づけは、現状、法律体系上必ずしも明確ではないと考えられる。保育の重要性の確認のため、位置づけの明確化やその向上を実現する。

- ③幼稚園・小学校等との連携、また、地域における場造りと巻き込み

小学校の先生、保健師、民生委員など、地域の人たちが保育について話し合える場を創っていくべきである。小学校と保育園だけでなく、幼・保・小の連絡会を作っていく。さらには、地域の子育て力に課題があると言われる今、もう一度ここで、小学校、幼稚園、保育園、町内会、祭りなどの地域、そういったひとつの地域のコミュニティが連携した協議会をつくっていかないといけない。具体的には、小学校の単位でつくるのが一番良いと考えられる（概ね、1小学校あたり、1保育園、1幼稚園くらいであろうか。）また、小学校の単位を核に、幼・小・保、地域、親が入った場をつくろうという意見を前提とした上で、もう少し小さな、幼・小・保の先生だけが集まる場なども必要であろう。

- ④望ましい幼保一元化の実現を図る。

冒頭で述べたように、教育と保育という用語により不必要な分断がなされることのないようにしていくべきとの考え方に立てば、この両者が「一元化」の対象となっている現状自体が問題であるとされよう。幼稚園関連施策、保育園関連施策は、あくまで手段であり、これらの区分に拘泥することなく、幼児期の子ども達にとって大切なものは何か、そのことを最優先に考え、より良い保育をしっかりと実現することを第一に考えていくべきである。また、文京区内には既に定員割れしている幼稚園もあり、一般に施設面では、幼稚園は保育園より基準も高い。地域で子どもの育ちを考えるのであれば、幼稚園もいっしょのものとして、独自の制度をつくっていくことも可能である。「文京こども園」の特区申請等である。こうした方向性で歩みを続ければ、保育園と幼稚園の先生同士の交流ももっと自然に進んでいくと考えられる。

- ⑤地域の中での保育園の役割

大人の都合でいろいろ考えることも多いが、本当はものを申せない子どもが主役であり、いい保育士さんがいて、いい食事が食べられて、地域と交流して、ということができるようになる中で、保育園を核として地域のコミュニティづくりをしていくべきではないか。但し、それに際しては、議論のなされ方が開かれたもので、関係する多くの人や、せっぱつまった親の立場も考慮したものである必要がある。開かれていてどなたでもきてください、という関係づくりが大事であろう。また、子どもの幸せのためには、親も幸せでないと良い環境で育っていけないので、保育園が親を気持ちの上も支えられるといいのではないか。実際、園庭開放に来ている親も、園庭開放が目的ではなくて、悩みを聞いてほしかった、という事例があった。保育園が開いていくこと、来やすい環境をつくるのが大事であろう。公園でお母さん同士で話しても、同じ世代であり、同じ経験しかしていないが、保育園は多様な経験の宝庫である。経験に基づいた話をしてくれると説得力もあるし、不安の解消につながる。それはとても大切なことであり、親の精神が安定しないと子どもの精神は安定しないので、保育園の質の向上がすごく重要である。

## 資料 10

---

# 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告 中間のまとめに対する区民意見

---

### 目次

1. 区民意見の募集について..... 373
2. 中間のまとめに対する質問・意見・要望..... 374
3. 事務局に対する質問及び質問に対する事務局回答 <区民説明会>..... 407



## 1. 区民意見の募集について

### (1) 区民意見募集の概要

1 意見受付期間	平成 18 年 12 月 25 日～平成 19 年 2 月 28 日
2 意見募集方法	①「中間のまとめ」区民説明会(4 回開催)における意見聴取 ②区報ぶんきょう「保育ビジョン中間のまとめ特集号」添付のハガキ ③電子メール ④「中間のまとめ」区民説明会で配布した意見シート ⑤その他(保育課あてファックス・封書等)
3 意見件数	①区民説明会 24 件 ②区報ぶんきょう添付ハガキ 64 件 ③電子メール 70 件 ④意見シート 9 件 ⑤その他 13 件 合計 180 件

### (2) 区民説明会開催状況

日 程	開催時間	会 場	出席者数
平成 19 年 1 月 14 日(日)	10:05～11:50	シビックセンター4 階 シルバーホール	19 名
平成 19 年 1 月 15 日(月)	10:05～11:10	シビックセンター21 階 2103 会議室	10 名
平成 19 年 1 月 15 日(月)	19:05～20:20	シビックホール地下 1 階 多目的室	14 名
平成 19 年 1 月 16 日(火)	19:15～20:25	汐見交流館 2 階会議室 A・B	10 名

## 2. 中間のまとめに対する質問・意見・要望

### ■ 全体について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	目標としていろいろな項目がアイデアを並べたレベルで並んでいるが、切りわけがまったく不十分である。「こういうものをめざします」と遠くに目標を置くWhatと、「今、こういうアクションをしましょう」「こういう課題を共有しましょう」あるいは「Whatに向かってどうアプローチしていくか」というHowが入り混じっている。遠くに向いているものと、今いる地点からどっちに向くか、という話がごちゃ混ぜで、全体の論理構造がわからない文章になっていると感じる。	説明会
2	目標設定の前提となる事実関係の確認が、どういう前提でそういう話をしているのか、ファクト（事実）があるのかわからないところが散見された。例えば、2頁の背景、就労支援の充実の必要性の中で、「延長保育のスポット利用」「認証保育所の増設」「病後児保育」があげられているが、私の認識では、認証保育所の増設を望む人が本当に多いのか、非常に疑問。認可保育所、公営の保育所の増設と切り分けて認証保育所があがっているのは間違っているのでは。バックデータがあるのなら教えてほしい。	説明会
3	全体的に、子育てに対する見方が暗い。子育ては大変、大変とうたっていて、将来像も大変だから手を打たなくちゃ、というようなところが多い。子育てのポジティブサイド、本来豊かで喜びがあって・・・というところを整理して、ところがそれに対する阻害要因、欠けているところがあるから、そこを補うべく支援する必要がある、というストーリーにしないと、ビジョン全体の構成が暗くなってしまう。ビジョン1の方には基本目標に、ポジティブサイドがかなり書かれているが、この基本目標の内容は目標なのかが疑問で、文章の論理構造がおかしいと思う。	説明会
4	細かい施策に関して、ビジョンに載せてよいものかどうか、疑問がある。細かい施策を実行すればビジョンの指針にのっとって施策を進めた、という安易なとらえ方ができてしまう、という危惧がある。	説明会
5	「子どもを最優先するまち」であれば、まず健康、自動車の排気ガス大幅減（ぜん息の子どもが減る）、高層ビル建設中止（ビル風による歩行危険排除）、路上禁煙完全実施（千代田区のように罰金設定）、歩道自転車乗入制限及び車道減による自転車道確保などやってもらいたいことが山ほどあるが、全く反映させようという意欲のない厚生省系の「たてわりビジョン」であるということが一目瞭然である。 大型施設や国や都の関連機関も不要だし、防災拠点として小中学校、大学、公園があり、文化伝承するには保育園では年齢が低すぎる。保育園後に民間保育に預けたり、ベビーシッターを雇ったり、子育てサービスがもっとあれば・・・という家族はいるはず。区内の子育て世代のニーズを把握後にビジョンを作成して下さい。一部公機関の生き残りのためのビジョンというのが露骨すぎです。 幼稚園との関係は棚上げし、「長期ビジョン」としては全くなっていない。	はがき
6	理念としては良いと思うが、具体像が見えない。「ビジョン」の策定に際しては、実際の施策を明示して、区民にとって納得のいくものかどうか、明らかにした上で進めてほしい。	はがき
7	あらためて当たり前のことをビジョンとしたというのが率直に感じた事です。これをどう実行、実現していくかが一番大変で、大切だと思うので、区民の声を聞きながら実現してほしいです。あの5千円の券みたいに、たいして満足感のないお金の使い方はしないでほしいものです。	はがき
8	理念はわかりますが、結局、何がどうなるのかが見えてきません。保育園もどうしたいのですか？夏休みに働いている親の幼稚園児を受け入れるとか？！（考えるだけでも恐ろしい！）まだ中間ですので仕方ないのかもしれませんが、良いものを作っていただきたいです。	はがき
9	「支援・応援」等の言語が多数出ていますが、具体策はあるのか。要するに予算・マンパワーはどうやって作り出すのか？ 最終まとめでは、具体策の提示、予算編成、目標期限等について明記を！絵に描いたモチに終わらないよう望みます。	はがき

No.	質問・意見・要望	受付方法
10	<p>項目がもりだくさんだが、何をどうしたいのか、具体的に記述されていない。ビジョンとは、その程度のものなのかと、がっかりさせられる。区が実行するためには「金」が必要。どうやって、予算をとるのか。区の中で行われているムダな支出をへらして、こういう有意義な事業がキチンと実行できるようにしてもらいたい。</p> <p>文中の「ワンストップ・サービス」とは何のことか？</p> <p>区長は、このビジョンをどこまで実行するつもりなのか？</p> <p>これを作らせて、区民を安心させておいて、裏では、保育園民営化をすすめているのではないかと思うと腹が立つ。</p>	はがき
11	<p>先日の区民説明会に参加し、「中間のまとめ」の冊子を読みましたが、今後いったいどのように具体的検討がなされ実施されるのか見えてこないのが第一印象。あと、二回の委員会のみで終了としてしまっただけの話しになってしまうのではないかと思う。この三月で終了にはせず、具体化を目指し、検討委員会を継続はしないのでしょうか？</p> <p>また、就学前の子どもたち全てを対象としておきながら、幼稚園について検討されないのは、なぜでしょうか？「保育」という観点から保育園を対象にしたとしても、現在の施設では手狭で、一時保育等を求められても物理的に難しい園もあるのではないかと？幼稚園や他にも区の空き施設を利用するなど、対象を広げるべきでは？</p>	その他
12	<p>とにかく予算がないと“なにも”できないと思います。理想だけでは“なにも”動きません。本気で“子育て”をどうにかするのなら、十分な予算を立て、質の良い人材がこの問題に対応できる体制を構築すべきです。</p>	はがき
13	<p>今回の保育ビジョンについてですが、非常に抽象的な内容であり、もう少し具体化して各論に落ちないと、評価を下しづらと思います。一方で、「総論のみ区民を交えて議論、各論は区の内部で決定」といった状況にせず、各論をも区民を交えて決定していくという意思表明を保育ビジョン自身に入れていただきたいと思っています。(区民参画による検討、ではなく、区民参画による決定、です)</p>	メール
14	<p>①何を作りたいのか良く分からない。完成イメージが湧かない。作っている側にもそれが無いのは大きな問題。</p> <p>②資料を見ると、保育＝保育園だという印象がある。ビジョンなのだから縦割り行政にとらわれず検討に児童館や幼稚園を使う子どもやその施設もきちんと入れて欲しい。</p> <p>③3月までにまとまるとは思えない。日程ありきの進め方は非常に遺憾。区民にもっと興味を持たせ、腰を据えて取り組んで欲しい。例えば幼稚園、保育園、児童館に説明をして歩き、もっと現場や区民の意見も聞いて、地に足のついた、かつ希望のもてるビジョンを作って欲しい。</p> <p>④委員の方々にはとても尽力頂いていると思うが、進め方、完成イメージについては妥協しないで取り組んで欲しい。</p>	メール
15	<p>今回の中間のまとめは、レポートとしての完成度が低いことが大いに不満である。</p> <p>a) 例えば形式的な点だが、会長の名前が記載されていないことからおかしい。また、区報の要約版には、会長名を「委員長」と書いているが、設置要綱には、会長と規定している。</p> <p>b) いたるところに散見される悪文。例えば、「はじめに」の第4段落、「ビジョンにおいては、...まとめています。」の文の意味がわからない。「その具体的な方策」とは、何を指すのか。(p.3) また、「第II 文京保育ビジョンにおける保育とは」。先の文と類似した文で、意味がわかりません。(p.4) 「保育とは」というタイトルからすれば、保育を定義するはずだが、文章は「保育ビジョンとします」と書いてあるので、保育ビジョンを定義しているようでもあります。(また実際には定義されているとは、思えない。)</p> <p>c) 「はじめに」の第2段落 (p.3) や、「第IV 文京区の保育がめざす将来像」では、「まちのありよう」を描く、示す、としているので、ビジョンは、「まちのありよう」なのでしょうか？保育ビジョンとまちのありようとの関係がよくわかりません。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
15	<p>d)12 ページ vision2 目標1. 「文京区には、さまざまな親子がいます。」と書いて、①から⑦までの類型が書いてあるが、大半の家庭が属する類型が抜けているので、おさまりの悪い文章になっている。表現力の問題だと思います。</p> <p>e)13 ページ vision2 目標3. 「既に地域で支援に関わっている人々との間での連携を強めるとともに、」。主語がないので、誰が連携するのかわかりません。</p> <p>f) vision1 将来像「そのためには、その力を生かす」とは、どの力のことでしょうか。「そのため」もどこを指すのか、わかりにくい。</p> <p>g) vision1 の目標 (4) 「子どもの自発的で内発的な「知」への欲求を大切にし、それを支える環境を整えていく。」具体的にどういう環境を整えると、「それを支える」ことになるのか、もっと丁寧に説明してもらわないとコメントできない。</p> <p>h) vision2 目標4「児童館機能の充実 新たなニーズに対応する」新たなニーズとは何のことか。どういう理由で、どういうニーズへの対応が必要という結論を導き出したのか、わかりません。</p> <p>i)10ページ「子育てにやさしいエレベーター」いくら読んでも、意味がわからない。PDF版後半のWGのレポートを読んで、やっと意味がわかった。でも、説明会等で配布の冊子体だけを入手した人には、意味がわからないままである。</p> <p>以上、例示したように、この中間のまとめは何を伝えようとしているのかもよくわからない、難解な文章が多く、説明不足でお粗末な文書である。この完成度でコメントを求めよう、ということ自体に、そもそもの無理があります。区民感情としてはこういうものでコメントを求めるのは失礼ですし、経済的に見れば税金を有効に使っているとは言いがたい。誤解に基づくコメントも多く生じることと思う。</p>	メール
16	<p>裏づけが不明</p> <p>a) 本文 2 ページ 第I 保育ビジョン作成の背景 (3) には、「認証保育所の増設」(中略)などの充実を望む人が増えています。との記載がありますが、これまで、父母連でのアンケートなどを通して得られている認識とは、大幅に異なるものです。認可保育園ではなく認証保育所の増設が望まれているという記載の裏づけを示していただきたい。</p> <p>b) 本文 2 ページ 第I 保育ビジョン作成の背景 (2) も、見出しには「子育てを負担に感じる人の増加」とありますが、そのあとの本文では、1回のアンケート結果で、「不安や悩みを持つ人が多いことがわかりました。」とあります。しかし、どのようなアンケートの設問で得られた結果なのか、また多いとは、どの程度の比率なのか。この結果を何と比較して見出しの「増加」としたのか、具体的な裏づけが不明である。</p> <p>c) vision1 の目標 (3) 「電子メディアの過度の視聴・利用の危険から子どもたちを遠ざける」長時間にわたる電子メディア(テレビ・ビデオ・DVD・テレビゲーム・携帯用ゲーム・インターネット等)の視聴・利用は、生活リズムの乱れ(夜更かし)や運動不足の原因となり、ゆたかな人間的ふれあいを阻み、その結果として言葉の発達の遅れをもたらすともいわれる。」何が長時間なのか、過度なのかというガイドラインも、データソースも示すことなく(「いわれる」)、ただただ親の不安をあおっているだけの文書ではないか? これでは検証不能であり、「目標」にできないのではないか?</p> <p>d) vision2 目標 5「良質で安価な治療のあっせん」今の保険治療の制度下で、「良質で安価な治療」とそうではないものがある、と言っているように読めてしまいます。良質ではない医療も提供されている、という事実があるのでしょうか? また、「乳腺炎など」の「など」の中身として、3つ以上の保険のきかない疾病を具体的に提示できるか?</p> <p>e) vision4 目標 4 (2) 「クラスサイズは国際的に常識はずれなくらい、大きい」「海外では、1クラスの園児数を少人数にすれば、」検証できる形での記載を。また、海外がどうであれ、自分たちで議論して、よいものはよい、ということでビジョンを作るのが筋ではないか。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
17	<p>基本となる子育て観のトーンが暗すぎる。            例えば vision2 の将来像が、「不安」の話から入っている。vision3 でも、将来像に「再び社会に参加できる道を開く」という記載があります。裏をかえすと、就労しないで育児をしていると、「社会に参加していない」と規定しているわけです。これは、あまりに暗い子育て観ではないか、と思います。あるいは、「はじめに」の第1段落も、語りだしこそ明るいですが、その明るさを具体化しないまま、直ちに厳しい現実突き落とされてしまいます。また、vision3 の将来像も、「～生き方を選択し、～能力を発揮することは、子どもを持っては望めないことなのではないでしょうか」とある。生き方の選択や能力の発揮にたいして、子どもが妨げになることが、所与の前提であるような内容であり、このように暗い前提で将来像を描いてほしくない。</p> <p>まずは、子育ての中でどこに喜びがあるのか、何が幸せなのか、どういう子育てが望ましい子育てなのか、理想像や黄金の瞬間のようなものについて語る必要があるのではないのでしょうか。そしてそれに対して、現実の生活の中では阻害要因もあるので、そこに必要な支援によって解決していこう、というふうに話を組み立ててはいかがでしょうか。</p> <p>現状のまとめでは将来像について、ネガティブサイドでしか語っていないので、基本の軸があいまいなままである。そのために中間のまとめ全体が、大変なことは全て支援してほしいという子育て世代のわがままな要求の羅列と受け止められかねない。また、その支援がどうして必要なのか、ということの説得力が弱いものとなっている。</p>	メール
18	<p>提案の整理が不足            各ビジョンの目標という項目の下にアイデアがたくさん並んでいるが、遠くにかかげた目標とするべきことと、直近の取りくみとの仕分けが不十分ではないか。あるいは、何をするかという what とどういう方法ですかという how との整理が不十分ではないか。さらには、そのアイデアは実施可能なのか、効果を検証可能かという視点での議論をするべきではないか。</p>	メール
19	<p>ビジョン 2007 への継続            説明会においても、これはビジョン 2006 として策定、という経緯が紹介されたので、最終報告ではきちんと、ビジョン 2007 への継続を明記されたい。</p>	メール
20	<p>今回の検討項目の名称を「ビジョン策定」と置いたことについて            実は「ビジョン」という名称は、ある目標を共通に理解して作業を進める上では、あまりよい言葉ではないのではないかと、思っている。仕事の上で議論をしても、ビジョンが何を指すのか、人によって指すものが千差万別だなぁ、と思うことがたびたびある。「ビジョン」と「ミッション」とどちらが上位の先に来る概念か？と聞いても、見解はばらばらなので。</p> <p>マスコミにおけるビジョンとミッションの混同の例：  <a href="http://techon.nikkeibp.co.jp/guide/nano_sample.html">http://techon.nikkeibp.co.jp/guide/nano_sample.html</a>  <a href="http://techon.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20061218/125560/?P=2">http://techon.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20061218/125560/?P=2</a>            現在想定しているビジョン 2007 においては、まず「ビジョン」という言葉をどういう言葉に言い換えるとクリアな議論ができるのか、検討することからはじめるべきであろう。</p>	メール
21	<p>斜に構えて読まざるを得ない。下に理由を示します。            1. 保育に関して興味を持つ区民が一番知りたいことは「保育園の民営化」について。今回の内容では現在ある園の民営化は無い？と取れますが、さんざん話し合いを重ねた民営化についての結果をこんなわかりにくい形で報告するのか？「保育ビジョンは民営化が最終目標ではないので」という回答が予想されるが話し合いに時間を費やした区民に対して失礼極まりない。常識から外れている。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
21	<p>2. すばらしい構想は理解できた。では具体的にどこに何を造るのか、そのプロセスはどんなものなのか、民営化の際に区の財政難を理由に挙げた文京区であるが、この素晴らしい構想のために一体何ができるのか。具体案が挙がるまでは意見が出しづらい。</p> <p>最後に。私は文京区を愛しています。文京が将来良い方向に向かってゆける明確なビジョンがあるならば、たとえ少しの痛みを味わおうとも区と協力して前進させて行きたい。保育や環境の転換期で我が子が負ってしまうであろうマイナス影響も、親である私が100%サポートしていこうという決意を持っています。検討委員会の方、区役所の方にはそんな決意が感じられない。良いものを創り上げる自信が本当にあるのだろうか？区民が「なんとなく」反対ムードをとるのはそんな頼りの無さからである。（保育園民営化・小中学校の合併どちらにも共通する意見です）</p>	メール
22	<p>区報ぶんきょうを拝見しましたが、かなり細かな内容となっており、ビジョンというものはこのような具体的な内容となるものでしょうか。</p> <p>特に、路上禁煙の実行など、この中でうたうような内容とは思えませんし、仮にうたっても効果のほどは疑問です。このような問題は別の場所で議論したり考えるべき問題ではないでしょうか。</p>	メール
23	<p>全体的にいえることだが、具体的なことが記載されていなく、イメージがわからない。つまり、何が言いたいのがわからない。</p>	メール
24	<p>保育ビジョンの中間のまとめを拝見しました。少子化の時代、子育てに力を入れるべきということは理解できますが、このビジョンが文京区のさまざまな施策と整合性をもった「ビジョン」とすると、子育てをしている人だけ（特に保育園を利用している人たち）のためだけのビジョンのように感じます。たとえば「子どもを最優先するまち」とありますが、高齢者や障害者はどうなのでしょう。そもそも、行政で誰が「最優先」ということはあるのでしょうか？たとえば公園や大型施設の整備など、子どものためだけにお金を惜しみなく使ってしまったらいいのでしょうか？また、行政に「やってもらう」あるいは「やらせる」、地域のひとに「みってもらう」「やってもらう」という部分が多く、子育てしている人同士の協働という視点が弱いのではないかと感じます。細かく具体的な要望ばかりが目立つのが気になります。子育てをしていない人にも「なるほど」と共感できるビジョンにまとめてください。</p>	メール
25	<p>子供が二人いる親ですが、報告書をざっと読みました。色々なことが書いてありますが、やることを羅列している感じです。基本指針と書いてある割には、長期的な視点を感じません。もっと大きい観点から考えをまとめるのが、ビジョンというものだと思いますが？</p>	メール
26	<p>子供が小学校の高学年になり、やっとゆとりがでて来ました。二人とも働いているので、たいへんでしたが、子育てということで充実していました。今回のまとめを読むと、たいへんだから、助けるということばかりです。検討委員会というのはそういうことばかりを話しているのでしょうか。もっと子育てが喜びだということをはっきりさせる、親はもちろん周りの人にとっても子供の声がするということが楽しい、ということを出しては、どうでしょうか。子育ての楽しさを、親や住民が共有する。その前提で、一人一人が努力をしていく。役所がやるのがメインというビジョンには賛成できません。</p>	メール
27	<p>名称が「保育」ビジョンとうたっているのが変ではないか。保育園についてのビジョンととらえてしまう。「未就学前の子ども」を対象としているのだから、「子供ビジョン」「子育てビジョン」とうたうべきではないのか。「子供」とすると範囲が広範になるというのであれば、副題で未就学児対象とでも入れればよい。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
27	<p>そもそも「就学前のすべての子供」を対象としていると言っているにもかかわらず、実際の対策は、保育園児、未就園児（0から2歳の家庭で保育されている子供）に対してしか示されておらず、幼稚園児はこのビジョンの中から省かれていると思う。特に vision4 は保育園のことだけに触れており、なぜ幼稚園については触れないのか。これでは幼稚園保護者の反発を招くのではないか。「保育園が子育て家庭に開かれた保育拠点となる」とあるがどうやって幼稚園に通わせている家庭を取り込むのか。完全に矛盾している。幼稚園児の親が保育園に育児相談に行くのか。ビジョンの中で保育園の役割が書かれているのと同様に「幼稚園の役割」をしっかりと位置づけなければ幼稚園児に対する政策が抜け落ちてしまうと思う。そうでなければビジョンの目的は達成されないのではないか。保育園に通う子供たちに対してだけ子育て政策を行っても十分に機能するとは言えないと思う。幼稚園は教育機関だから保育の点から論ずるのは意味がないと考えているのか。健全な発達の保証がなされなくて良いと考えているのか。それともすでに保証がされているから必要がないと考えているのか。教育機関である幼稚園、福祉施設である保育園という枠組みを乗り越えて保育（こども）ビジョンが語られなければ実効性がないものになってしまう。別々の施設であっても統一した目的で政策がなされているなら効果は上がると思うがこれでは意味がない。子どもの数が減っている今、わざわざ別の部署で、別々の予算をつけて子どもに対する政策を別々に行うのは本当に非効率的であり、将来的には保育園幼稚園が融合していくことを望んでいる。</p>	メール
28	<p>保育ビジョンで取り上げる項目があまりにも広範にわたっているため、どこから手をつけるのか分かりづらい。すべてを実現するのは難しいだろうから優先順位はあるのだろうが、予算の都合上すべては実現できないので、とりあえず、皆さんの要望が多かった「認証保育所」を作ってみました、入所人数を増やすために民営保育所を増やしてみました、なんてことには絶対にしないで欲しい。うがった見方をすれば、そうするために手順を踏んでビジョンを作っているだけなのかと疑いたくなる。</p> <p>保育ビジョンがうたうもの、その方向性にはとても共感し、子供に優しいまちづくりを望んでいる1人として委員の皆さんが相当な力を注いで作られたものがより良いものになるようがんばっていただきたい。</p>	メール
29	<p>書いてあることをやるためのお金をどこから持ってくるのか。子供最優先とは、子供にしかお金を使わないことか。民営化とかやることはやっているのか。バランスがとれていない。</p>	メール
30	<p>時々5階の会議室を利用しています。</p> <p>昨年、文京を作る区民検討会（名称に自信はありません。24階の部屋だったと思います）を傍聴しました。ゆっくりながら行財政改革が進んでいるとの感想を持ちました（不十分という人もいましたが）。しかし、この報告書を見て驚きました。官が金と人をかけてやることのオンパレードです。このような内容がでることが改革を遅らせているのでしょうか。大型施設整備だの、公設公営保育園維持だのは時代錯誤です。特定分野の専門家をまとめ役として利害関係者を中心とした検討会で議論したということですが、その結果、「就学前の子供にかかわる基本理念」のまとめでなく、「保育園の親がやって欲しいこと」のまとめになっています。このようなやり方で、各分野の人が要求を出していけば、我々文京区民はどれだけ税金を取られるのでしょうか。指針というなら、保育の分野でも官の仕事を質を高める民（公益団体、企業、NPOなど）に渡すということを明記すべきです。ビジョンというのは要求の羅列でなく、多くの人を受け入れられる考え方をまとめたものです。今回の内容は参考資料程度のものでしょうか。また、最初に書いた区民検討会との合同会合などの、すり合わせもしてください。保育園にかかわりのない親、子供を持たない住民など、いろいろな人が受け入れられるものを望みます。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
31	この保育ビジョンは文京区として策定するのですか。もしそうであるならば、文京区はいつから子どもを最優先するまちになったのですか。少子化が叫ばれている昨今、子育ての大切さは分からないではありませんが、偏りすぎていると感じます。 また、保育ビジョンとは就学前の子どもに係る分野の基本理念・基本目標を示すと書いてありますが、内容は具体的な施策であり、ビジョンとは程遠いように思うのは私だけでしょうか。	メール
32	ビジョンに対する優先順位がなく、まるっきり空想の話にしかみえない。本当に実現できる項目、するものがあるのかが、ドキュメントからみえなかった。	意見シート
33	人間は「義務」と「権利」があると思います。人間生まれてきた以上、子孫を残すことは「義務」、よって大変かもしれないがやるべきこと、また、それをいきがいにすることだと思います。それに対して、公としてよりよくするための手助けが「権利」だと考えます。その明るい権利がわかるようにしてもらいたい。	意見シート
34	様々なアイデアが並べられていて、全部実現できたら面白いだろうと思うが、そのへんの実現可能性をどう考えているのかが疑問。この先 vision を実現していく道すじもある程度示していただけないと、このままおわるのではないかと不安が残る。	意見シート
35	“基本的な考え方”に疑問を感じます。区長はどのように考えられているのでしょうか。ビジョンができた後、それに基づいて区政が行われるのか、誰が計画するのか、誰がチェックするのが不明です。行政中での位置づけを明確にしてください。	意見シート
36	保育園関係者による、保育園利用者のためのまとめになっている。子どものいない独身の納税者にも税金を還元してもらいたい。	はがき
37	今回の中間のまとめは、保育園関係者の既得権を守るためにつくったのではないか。お金のかかる要求ばかり並べ立てており、福祉予算を全部自分たちの思いどおりに使いたいというわがままな気持ちでつらぬかれている。高齢者は寿会館の風呂をなくされても、区がお金がないのがまんしている。医療費がかかるのは子どもより高齢者の方なのだから、あまりわがままばかり言わないで皆でゆずり合っていく気持ちをもってほしい。	はがき
38	保育園の父兄は、払っている税金以上の恩恵を受けているのに、まだお金をよこせというのか。こんな一部の人たちだけで税金を使うのは反対。いい加減にしろ。	はがき
39	保育園の民間委託は新行革の区民会議で決まったはずなのに、保育ビジョンの中で議論するのは筋違いな話だと思う。見直すのであれば新行革の区民会議に議題としてあげてから行うべきである。保育ビジョンの検討会は、その役割を超えている。高層建築の規制は都市計画の会議だと思うし、禁煙の問題は安全安心条例で歩きタバコの禁止区域を設けてやったと新聞にのっていた。何でもかんでも保育ビジョンの検討会で決めるのはおかしい。ビジョンなら将来像をまとめるだけでよい。	はがき
40	保育ビジョンは区の保育行政のあり方を示すはずなのに、個別の要望や具体的な方法まで決めてしまっている。これではビジョンではなく、要求や苦情の一覧表であり、区民共通のビジョンとはいえない。もっと大局的・長期的な立場からまとめないと、一般の区民はついていけない。要求した者勝ちになってしまう。ちゃんとした形で作り直してほしい。	はがき
41	①「子どもを最優先するまち」を達成するためのあり様を、“保育園”“福祉”の側からだけ検討され、答申されるのはおかしい。	はがき

No.	質問・意見・要望	受付方法
41	<p>②保育ビジョン策定委員が主に保育園の立場の人で構成されている。文京区には幼稚園や幼稚園に在園する幼児が保育園以上にいます。“保育機能の中核”が“保育園”とはいえません。文京区の子どもの保育のあり様を語る時、幼稚園のメンバーをはずしては考えられません。幼稚園と保育園が共に意見を出し合っこそ、“文京の子どものあり様”が真に検討できると思います。委員の中に幼稚園教諭や幼稚園の保護者、PTAも是非加えてほしい。</p> <p>③答申内容がハードにかたよっている。子どもを優先するまちづくりをめざすのであれば、何よりもまず、“どんな子どもを育てるのか”という求める幼児像についてもっと検討を深め、明らかに明示してほしい。その上で、それを達成するために何が必要かを考えるべき。</p>	はがき
42	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実効性の伴わない単なる夢の羅列のビジョンでは意味がないと思います。ぜひとも実現に向けた道を模索してください。それには、現状の把握と、的確なニーズ分析、人口動態の認識が不可欠になると思います。</li> <li>・働く親たちは「認証保育所」の増設を求めています。保育の質の伴わない保育所ばかりが増えても安心して働きません。多少の費用負担が増えたとしても、あくまでも質の伴う保育施設と、何よりも、質が高く、相応に処遇されている経験豊かな保育士さんたちが十分な人数いることが必要だと思います。それには、予算の確保が欠かせません。</li> <li>・箱もの行政は必要ありませんが、現状の保育園は、園庭も教室も狭いのが実情です。あいている幼稚園園舎を利用するなど、柔軟な対応を求めます。(なお、就学前児童すべてが対象になるといいながら、幼稚園関係者が今回のビジョン策定に関与していないのは不十分です。)</li> <li>・今後のビジョンの実現遂行に際しては、ぜひとも保護者を含む一般区民の共同参画の道を確保してください。</li> </ul>	メール
43	<p>子育て環境をより充実させるために、区が先頭に立ち、保育ビジョンを策定することは良い試みであると思います。我が家は共働きのため、これまでに3人の子は、社会福祉法人運営の保育園を利用してきました。公設の園と比較した場合、はじめはサービス面での不安がありましたが、実際には公設園よりも融通が効き、対応も早く、サービス面では恵まれていると思います。育成室の民営化も保護者にとって良くなったという話を耳にしております。よって、今後も、区認可という形で良いので、民間の力も積極的に取り入れて、子どもたちのことを第一に考えたビジョンにして頂けたらと思います。</p>	はがき
44	<p>子育て支援で何ですか？保育園を増やすだけですか。では、学校教育の面はどこへ行ったのでしょうか。学校を統廃合し、保育園を増設する。学校教育の切り捨てとも受け取れます。保育園は乳幼児を預かります。でも幼稚園という幼児教育の機関もあります。保育ビジョンの充実なら、幼稚園も取り入れないと不十分だと思います。まず幼保の一元化があってこそその保育ビジョンではないでしょうか？子どもの立場、これからの人材育成を考えるとこのなら、まず、乳幼児教育機関としての一本化がなされてから言って欲しい。今のままでは子育ては教育機関でなく、福祉機関になってしまう。学校は子育て福祉なのか？！我が子を我が手で育てようと頑張っている世の母親には、幼稚園にも目を向けて欲しい、我が子を我が手で育てられる幼児期だけでも、母親の子育て時間を子ども達に返して欲しい。</p>	はがき
45	<p>何故幼稚園について今回のビジョンで議論されないのか？子どもが育つ公共施設は保育園だけか？</p> <p>今回の保育ビジョンは「就学前の子どものに係る分野の基本理念・基本目標」を示すものとされているが、その中で議論されている保育の拠点が保育園に限定され、幼稚園が対象になっていないのは何故か？夢を語るビジョンを謳うのであれば、行政の縦割りを前提とした議論は不適切と思われる。従来からの「保育園は福祉で幼稚園は教育」という考え方や、今回のビジョン策定検討委員会の事務局が文京区役所のどの課か、などということは「就学前の子どものに係る分野の基本理念・基本目標」という高次元の議論をするのであれば、一旦はおいて議論すべきではないか。</p>	その他

No.	質問・意見・要望	受付方法
45	<p>例えば中間のまとめVision1の3-3の冒頭で示されているような機能は、幼稚園ももっているもののはず。Vision4「将来像」でいうところの「保育機能」とは何か定義し、それを担う主体を特定していくことが必要ではないか？また、Vision4の3(3)①で述べられているように、「希望すれば保育園に入園できる体制を目指し、「就労していないと保育園に申し込めない、という悪循環を断つ」のであれば、幼稚園と保育園の差異は尚更無くなってゆくはず。また、現在、文京区の認可保育園の地域的分布には偏りがあり、かつ、人力的・施設的に余裕がない状況と思われる。そうした中で、「すべての子どもたち、あらゆる子育て家庭に開かれた保育拠点（Vision4「将来像」）として、保育園だけにVision4全般で述べられているような様々な機能を担わせることに、どれだけの実現性があるのかは疑問。また、Vision4の1(3)で述べられているように、「地域における子育て支援のネットワークの中核としての役割」を保育園に担わせるのであれば、現在、一部の保育園で実施している子育て相談などについて、現状の総括が必要ではないか？現時点で保育園のこうした機能が子育て家庭・保護者に良く活用されているとは、必ずしもいえないのではないか？であるとすれば、それが活用されていない要因をまず分析しないと、今後の試みも絵に描いた餅になってしまうリスクが高いのではないか？</p>	その他
46	<p>子供を預けて働きつづけるために、文京区に引越してきました。その際、品川区なども考えました。区が子供の育成について分かりやすく宣言していたからです。今回保育ビジョンを作る際は、区が主体となって子供の育成について実行する、ということについての宣言を盛り込んでほしい。子供を育てる環境を探し求める親達、今そこで育てている親達にとって安心感があります。保育園の安易な民営化はほししないと明確に断言してほしいと思います。</p>	はがき
47	<p>保育ビジョン策定検討委員会の趣旨がよくわかりません。</p>	メール
48	<p>なぜ、3月末までにまとめなくてはいけないのでしょうか？</p>	メール
49	<p>まず、今現在の保育、育児環境においての問題点のピックアップがどのように行われたのか、疑問です。「就学前の子ども」とひとくちに言っても、乳児と幼児、親の就労形態、家族構成、経済状況など様々で、種々の立場・経験からの悩みやニーズをどのように感じて「保育ビジョン」というものを策定しようということになったのでしょうか？いろいろと理想や夢を語っても画餅に終わってしまいませんか。私たち区民の日々の生活は止まってはくれません。税金を納めているものとしては具体的な施策につながっている確かなものが欲しいです。また、委員会の事務局は「保育課」で、委員構成も「保育園」関係者が多く、文京区全体として、子どもたちの将来を考えるならば、教育、福祉各方面からの委員構成が必要ではないでしょうか。問題点をピックアップしてから、今後何十年も先につながるビジョンを考えるには、委員会の設置方法、検討期間、区民への広報など、拙速の感がぬぐえません。文京区は、交通の便も良く、寺院や公園などの史跡も多く、病院や教育機関も充実しており、住みやすい環境にあると思いますが、「子育て」においては、施設も行政サービスもまだまだという感があります。</p>	メール
50	<p>委員会のメンバーが圧倒的に保育園関係者が多いですが、文京区の保育ビジョンを策定するのであれば、幼稚園の先生や保護者、入園前の保護者などもメンバーに入っていないとバランスを欠いていると思います。</p>	メール
51	<p>この「中間のまとめ」や「保育ビジョン策定検討委員会」を理想論や形式だけで終わらせないでください。 説明会で「今年度中に報告書をまとめなくてはいけないから～」という事務局からの説明がありましたが、終わり有りきで議論するだけでなく、もっと時間をかけて充実したものができあがることを希望します。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
52	<p>子どもの育ち、保育園のすばらしさなど、保育ビジョンにかかわることを語り始めると一冊の本にもなりそうなボリュームです。文京区の保育園との出会いが、私たちの家族にそれほどまでも豊かなものをもたらしてくれ、ただただ感謝しています。</p> <p>このようなことをパブコメにはとても収容しきれません。そこでビジョンに欠けていると思われる重要な要素に焦点をあてて意見を述べます。</p> <p>今回の「中間のまとめ」は、現状のままではアイデアやメニューの寄せ集めに過ぎないと多くの方が指摘しています。森の中の水にとらわれすぎて、森全体の様子がまったく見えてこないのです。そもそも、森の現状がどうなっているのかがわからないまま、将来の森の姿を描くことにどれほど意味があるのでしょうか。</p> <p>今、文京区で子育て・保育環境は危機的な状況に直面しています。その現状がどれほど深刻なのかをまず、見極めないことには、ビジョンを策定する意味がないような気がします。人口動態、生活実態、需要調査など、データに裏づけされた現状分析をしないまま、ビジョンの策定がどんどん進んでいくことに強い懸念をもっています。第1回委員会を除き、すべての委員会を傍聴し、ワーキンググループに2回、代理出席しましたが、データに基づいた議論がなされていません。</p> <p>現状分析の過程で、「子育て危機はない」ということが明らかになれば、私たちも安心することでしょう。しかし、公開されたデータを素人の私が分析しても、現実には甘くないことがわかります。そうでなければ豊かな育ちを保障されないまま、子どもたちは成長し、小・中学校でさらなる問題に発展しかねないと心配です。</p> <p>2005年国勢調査一つをとっても、区のお寒い現状が見えてきます。1月末に発表された2次集計の結果は、区内の働く女性を落胆させる内容です。文京区は、全国に比べて「仕事と家庭を両立しにくいまちになってしまった」という状況がはっきりと表れているからです。両立のしやすさの主たる指標の一つに、女性の労働力率があります。労働力率が高いほど、女性の社会進出が活発で、両立が実現できていることになります。</p> <p>女性の労働力率が下がる最大の要因は、子育てによる退職です。文京区の場合、1995年、2000年の国勢調査では全国を上回る女性の労働力率を維持していました。ところが、2005年に全国の女性労働力率が上昇する中、文京区はほぼすべての年齢区分で逆に低下、全国平均（15～64歳）の60%を3ポイント下回る57%に落ち込みました。</p> <p>しかも、文京区の場合、30～34歳の年齢区分は、前回調査に比べて4.2%ポイント低下しています。全国的にはこの年齢層の女性でもっとも顕著な上昇がみられたにもかかわらずです。</p> <p>就労に対する日本の女性の意識もここ10年あまりで急激に変化しています。2006年の労働経済白書によると、「子どもができてみずと職業をつづけたい」と思う女性は1992年、26%でした。それが2004年には42%に達し、初めて「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい（同37%）を上回りました。つまり、女性の8割が子育て中でも仕事をしたいということです。もともと文京区は保育園や保育サービスの絶対量が東京の中では少ない区です。保育園の整備率は東京の平均を下回り、就学前児童の4人に1人しか入園できません。しかも、文京区では98年以来、乳幼児人口がほぼ一本調子で増えています。女性の就労意識の変化と重ねると、認識されている以上に深刻な保育サービス不足に陥っている可能性があります。例えば、こんな試算ができます。上記の統計では、子どもが生まれても働きたい女性が全体の4割を占めています。2006年の乳幼児人口は7416人（1月1日現在）。その4割に相当する約3000人が、保育の潜在需要を示しているともいえます。これに対して保育園の定員は認証、私立、区立とあわせて約1900人強です。幼稚園に子どもが通いながら働くお母さんや父子家庭などを考慮しないで単純計算すると、1100人が潜在的に保育園を利用したい人数です。正式な待機児童数49人（2006年4月）とのギャップがいかにか激しいかわかると思います。これらの数字は何を意味しているのか。専門家ではないので何ともいえませんが、少なくとも保育サービスの整備が遅れて、就労したくともできない女性が、大勢存在していることが統計上、見て読めます。</p> <p>今のペースで保育園の定員を増やしても、待機児童は一向に減らず、むしろ増えていくと推測されます。さらなる調査・分析が必要なのは言うまでもありません。保育需要の地域的な偏在も問題です。保育施設は区の外周に点在する、いわゆるドーナツ型の配置になっているため、地域によって保育園不足はさらに深刻さを増しています。水道や春日地域では、近くの保育園に入れず、遠くまで通わざるを得なかったり、兄弟姉妹を異なる園に預けざるを得ない家庭が急増しています。</p>	その他

No.	質問・意見・要望	受付方法
52	<p>こういう事態を放置するとどうなるのでしょうか。間違いなく、区民の間に「子育て格差」が生まれます。外勤の正社員同士の共働き世帯は、質の高い、保育料が相対的に安価な認可保育園を利用できます。入園審査でも最も点数が高く有利だからです。一方、経済的に余裕のないパート労働者や病気や介護などで保育園を利用したい家庭は、入園審査で点数が低く、外勤世帯で枠が埋まってしまい入園が難しくなります。保育料が割高で、職員の離職率や利用者の回転率が高い認証あるいは民間保育サービスを利用するか、極端な場合は区から転出するしかありません。保育に欠ける子どもは保育を受ける権利があるのに、その権利を行使できず、結果的に子どもの育ちに悪影響が及びかねません。</p> <p>少子化も進みます。女性の労働力率は、少子化と密接な関係があります。猪口前少子化担当大臣が文京区で開催した「子育てシンポジウム」で発表した資料によると、15～64歳の労働力率が65～70%くらいに達すると、少子化が止まり、出生率が上昇に転じることが各国の事例で検証されています。国内でも労働力率が高い都道府県ほど出生率が高く、正の相関関係が存在します。</p> <p>文京区の水準では、現在のような他地域からの人口流入が続かない限り、少子化は確実に進みます。実際、文京区内の乳幼児人口は98年以降、増え続けているのに、出生率は低下しています。国勢調査が実施された2005年時点では0.79と、前回調査の2000年の0.85からさらに後退し、過去最低水準で推移しています。</p> <p>保育サービスの量を増やす中で、質を犠牲にするわけにはいきません。その保育の質について、保育ビジョンで触れていないことにも疑問を持ちます。</p> <p>保育と託児は違うということを、文京区の認可保育園に子どもを預けて初めて思い知りました。文京区の認可保育園は、世界に誇れる保育園です。子どもが現在、2人区立保育園に通っています。入園前は「保育」と「託児」の違いを考えたこと子どもの利益を最優先し、子どもの育ちを見据えた保育を子どもたちに享受させたく、仕事をやめたくてもやめるわけにはいきません。</p> <p>保育の質は、決して特色の質ではありません。つまり、延長保育や一時保育、そのようなメニューをたくさん用意している保育園が質の高い保育園ではないのです。「保育の質は生活の質。生活の質は人間関係の質である」と保育の質の研究者である大宮教授は語っています。その保育の質を維持・向上するには、条件の質、つまり保育園で働く保育士などの労働環境などが極めて大事であることは、日本内外の研究者が唱えています。</p> <p>ところが、ここでも文京区の保育政策には疑問があります。財政悪化で退職者不補充策を一時期とったため、区立保育園の場合、調理師や栄養士を含む正規職員（産休、育児休業取得者は除く）1人あたりの園児数は2000年の1対4人から、2005年には1対6人に増えていきます。それでも質が大きく低下していないのは、先生方が休みなどを削って精一杯がんばっていらっしゃるからです。</p> <p>保育園の民営化問題で最大の焦点となったのが、保育の質です。お金をかけなければ、質は担保できません。ならば、区民を納得させ、その財源を探していかなければなりません。また、保育園だけでなく、幼稚園の有効利用をも視野に入れなければ、需要に追いつくことは到底無理です。</p> <p>「文京区は子育てによさそうだから引越してきたけど、保育園に入るのも大変だし、入っても民営化されてしまうかもしれない。しかも、小学校も大変なことになっているから、引越そうかな」と真剣に考えている人がにわかに増えています。若い世代と子どもが住民として定住しなければ、区は活力を失うことはいまでもありません。仮に財源が不足するならば、保育料の見直しも必要です。質を担保するためならば、保育料の引き上げもやむをえないと感じている保護者は大勢、存在します。保育の質に関する保護者のアンケートでもこのことは明らかになっています。せつかくの危機を見逃すのはもったいないです。当該利害者のみならず、区民の豊かな生活を20年、30年保障するためにも、真剣に保育改革に取り組んでほしいと思います。保育園保護者が活動がんばっているのは、自分の子どもたちの権益を守るためだけではありません。文京区にずっと住みたいから、そして文京区のすばらしい保育園をもっと多くの人に利用してほしいからこそ、自分の子どもとの貴重な時間を削ってでも活動を展開してきました。ただ、ここにきて文京区の行政には落胆することが多すぎます。我が家もそろそろ真剣に転出先を模索し始めています。</p>	その他

■ はじめに～第三について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	<p>「子どもを最優先するまち」このビジョン10文字に反感。特にセンターポジションをとっている3文字最・優・先に関しては疑問符！</p> <p>区民として存在する人間に等しく〈最優先〉してほしいし、それが筋では??</p> <p>未だ結果として(周囲の大人のねがい、思い、期待はあれど)何も・何ひとつ区民・区に対して残していない、やっていない人間(子どもたち)に、最優先の恩恵を与えるのはいかなものか。むしろ、文京区に区民として何十年も存在し、納税義務を果たし、区に貢献し続けている人間にこそ、その恩恵は提供されて然るべきではありませんか?!</p> <p>長年、何十年も区民として存在し、区の財政に貢献している人間こそ、本当の区民、結果を出している有難い人間でしょう。</p> <p>子どもは未知、せつかく多大なる税をつかっても、何の財政貢献もせず、他所の人間になることもあり、文京区というふるさとの存在に何一つ貢献しないことも当然のことながら推測すべきでしょう。</p> <p>子ども最優先はあやまり、さっかくでしょう。長年働いて貢献している功労者をもっと大切にすべきです!真に大切に有難い存在、区が区として存在していただける訳を、委員の方はもっと自然に考えるべき。</p>	はがき
2	<p>「子どもを最優先するまち」という表現について</p> <p>なぜ「子ども」だけが最優先されなければならないのか。「障害者」や「高齢者」は後回しでよいのか。どうして平等に尊重されなければならない区民の間に順位づけを行わなければならないのか疑問です。これでは到底全文京区民が共有すべき「文京区」子育てビジョンであるとは言えない。将来を担う子どものことを考えることはよいと思うが、表現としては「子育てに優しいまち」とか「子育てを区民全体で見守るまち」ぐらいの表現で十分だと思う。</p>	メール
3	<p>「保育ビジョン作成の背景」にある「認証保育所の増設」を望む人が増えている…と言う文章には、違和感を感じた。認可ではなくあえて認証を求めるのはどうなのか?本当に調査を行なった上での「望む意見」なのか説明願いたい。</p>	その他
4	<p>保育ビジョン作成の背景(3)就労支援の充実の必要性 「認証保育所の増設」、…などの充実を望む人が増えています。→なぜ「認証」保育所か。増えているとする根拠となるデータやアンケートがあれば出して欲しい。そうでなければビジョンとしてうたうのだから現在のところ一番保育の質が高いであろう「認可保育所」と書くべきではないか。この一文を根拠にして「認証保育所」を作るなどという政策を打ち出すつもりなのかと思ってしまう。絶対に削除して欲しい。</p>	メール
5	<p>文京区では、なぜ子どもを最優先するまちをめざすのですか。寿会館の廃止や介護保険料の値上げなどは冷たい仕打ちです。子どもだけにお金を使うのではなく、高齢者や障害者にも目をむけてください。</p>	はがき
6	<p>「保育ビジョン作成の背景」について</p> <p>背景とされているものの根拠が示されるべきではないか?例えば「認証保育所の増設」を望む人が増えていると言い切るのであれば、その根拠は何か?この点に関して言えば、良質の保育施設の増設を望むが、それは認証保育所に限ったものではない、というのが一般的意見ではないか?(※これの統計的根拠もないが、私を知る限りの保護者の意見として)</p>	その他

■ Vision1 「子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障」について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	6頁「公園を遊びとふれあいの場にしていく」に公園の整備という項目があるが、現実的には、公園の数を減らしているのでは。また、はらっぱ型のスペースを設ける、という具体的な中身を知りたい。	説明会
2	「公園を遊びとふれあいの場にしていく」をモットーにしているが、新大塚公園の問題など、公園は少なくなってしまうと聞く。保育園の散歩コースにもなっている公園が無くなる、茗荷谷周辺の桜の木が伐採されてしまう。それでこんないいことをうたっているのか、と思った。	説明会
3	公園が減らされている現状がある。ふやしたり、なくす園の代替案が明らかにされていないのに、“公園の整備・改良”と示されている。現実をもっとみてほしい。	はがき
4	公園について（須藤公園の現状） 犬をはなしている人がいる。ゴルフの練習をしている人がいる。具体的な対策が必要。	はがき
5	公園の整備・改良を議論するより、まず公園の廃止を撤回する方が先です！公園の絶対数が減っては、残る公園を多少改良しても、マイナスの方が遥かに大きいはず。うちの3歳の子供は新大塚公園が大好きですが、こういう子供に、大好きな公園はなくなってしまう、そこに今は別のところにある学校が引っ越してくる、その学校の跡地は子供に全然関係ない建物（マンション？オフィスビル？）が建つ、なんていう無茶苦茶な話を、いったいどうやって説明しろというのですか？ビジョンに書かれているような方針で、本気で公園を整備するというのなら、どうせつぶす公園なのだから新大塚公園の既存施設をグラウンド含めて全部潰して「はらっぱ型」の公園に作り直すくらいの気合を区側に見せて欲しい。	メール
6	公園をより良いものにしてゆきたい、というのは賛成ですが、それより現在ある公園の廃止を撤回させることの方が先決だと思います。今ある公園を維持する、というのも、是非ビジョンに入れていただきたいと思います。だいたい、いまだ公園を減らそうなんていう素頓狂な計画が真顔で進められている区は23区内でも数少ないはずで（たぶん文京区だけ）、選挙を控えた区長の見識を問いたいです。	メール
7	「公園の整備・改良」（6ページ）について 公園は区民全体の財産であり、子どもだけが排他的・独善的に使用できるものではありません。高齢者が増えているのは明らかですので、むしろ、高齢者が筋トレできるようなものも必要になってくると思います。あまり「子ども」ばかり強調すると、子育て世帯以外の大多数の区民の共感は得られないのではないかと。また、公園の近くの人がすでに公園の自主管理を行っているので、子育て世帯の人たちもこうした活動に積極的に関わることで、地域とのかかわりを大切にしたいと思っています。	メール
8	母子家庭の助成金がカットされたり、定率減税廃止など、子育てにはますます厳しい現実がやって参ります。家族形態も変化していく中で、共働きが当たり前になり、子どもが孤立しがちになってきますが、保育園がそれを補えるかといえば答えはノーです。保育というと単純に子どもに関わる施設に資金投入しがちですが、やはり核家族化が当然の時代にあっては、社会的な広範囲な視野に立って、極力他人任せにしない、特に子育てを商業的ベースに巻き込まないことなども肝要と存じます。町内の老人との接点を設けてみるのも一役となると思います。	はがき

No.	質問・意見・要望	受付方法
9	<p>かつての地域社会では、子どもたちは親や先生ばかりでなく、近隣の大人たちに「ほめられ」「はげまされ」「叱られ」「教えられ」て育ちました。</p> <p>子育ては家庭や学校教育の改善、保育施設の充足ばかりでなく、住みよい街づくりに対する大人社会の意識改革こそ大切と考えます。</p> <p>「うっかり注意できない」大人たち、「よその大人はこわい」と思う子どもたちの社会は不幸です。</p> <p>保育ビジョン策定についてぜひ上記視点を盛り込み、「ほめ方、叱り方」上手のセミナーやキャンペーンを具体策に取り入れ、「ありがとう」が交わされる地域社会を目指してください。</p>	はがき
10	<p>I-1 (2) について</p> <p>統廃合によって産出する広大な土地を、公園にしたりする努力が必要。安易にマンション団地にはしないよう。</p>	はがき
11	<p>I-5 について</p> <p>取り組む職場に対して、予算や病児保育施設の設置。その保育士・看護師をあっせんしたりする事が必要。旗ふってガンバレというだけでは何もならない。</p>	はがき
12	<p>文京区には、行政としてビジョン I 3-4 にある「まちの環境整備ー長期的な視点から子どもの安全安心な育ちを保障する」を目に見える形で実行してほしい。それは道路を整備してガードレールをつけることではなく、子どもが育つ街なみを保存することである。ゼネコン偏重の建築ではなく、古い家、歴史のある公園や樹木の保存である。今の区長は新しいものをつくることに偏っている。今あるものは、壊してしまえば、そこにあった歴史もなくなってしまう。今の区に欠けているのは、落ち着いた安心感。子どもに必要なのは、のびのびと遊べる環境である。無理な小中の統廃合計画などもビジョンの検討にいれてほしい。管轄違いで扱われなければ、結局このビジョンも無になってしまう。</p>	はがき
13	<p>「高層建築規制などを中心とした都市計画のあり方の検討」とありますが、土地の高い都心にある文京区ではある程度高度利用もやむを得ないと思います。現実に高層マンションで子育てしている家庭も多くいます。また、防災の観点からも木造が建て込んでいる地域の対応は必要と思います。</p> <p>もっと文京区全体を見据えたまちづくりの視点を持つべきではないでしょうか。</p>	メール
14	<p>食品添加物、メディア、生活リズムなど、家庭にあった提案、指針のような、戻れる場所がほしい（本などを参考にしているが、かたよりがでてしまっているように思う為）。</p>	意見シート
15	<p>私は私立幼稚園5年、社会福祉法人の保育園で10年働いているものです。</p> <p>(3-3) 子どもたちが豊かに育ちあう場としての保育園を守っていくという所で、“区立保育園は子どもたちがゆたかに育ちあう場を提供しています”とありますが、私が働いている社会福祉法人の園でも子ども達一人ひとりの事を考え、豊かに成長できるように職員は努力しています。ですので、この場で“区立保育園”とだけ書くのではなく、社会福祉法人も含めた書き方をしていただきたいと思います。区立保育園だけでなく、社会福祉法人園も文京区の大きな財産ではないかと思ひます。</p>	はがき
16	<p>公園を強化するという一方で公園が減るのは何故か？</p> <p>現在、新大塚公園の廃止も議論されているが、そうした中で公園機能を強化することはできるのか？まず公園廃止の計画を撤回するのが大前提ではないか？まずそこに公園がある、ということが何より大事であり、残る公園の機能強化で失われた公園を超えて余りある機能が提供される、というのは詭弁ではないか？都心部ではバブル崩壊以来初めての本格的な地価上昇局面を迎え、マンション業者ですら開発コストがカバーされるか逡巡する状況で、一度失われた公園と同等の規模・機能の公園が区内の別の場所で将来確保されるとは到底思えない。区の財政改革を考えるのであれば、こうした、失われた戻らない「資産」に手をつけるより、まず「コスト」の圧縮を徹底して考えるべきではないか？また、本ビジョンの中でも大型施設の導入なども想定されているが、そうした大金のかかる事業を検討する前に、今あるものを大事にしてほしい。</p>	その他

No.	質問・意見・要望	受付方法
17	電子メディアからの解放。絵本好き。具体案を期待します。 外国人の問題ですが、彼らにはまず日本での慣習を教えるべき。生活習慣をまったく変えろと言ってもムリな話ですが、こっちで生活していくならそれなりに努力してもらわないと。その手助けもしてあげるべきだし。本とか用意するなんて言葉があったように思いますが、そんな必要はない（ニューカマーのコミュニティはしっかりしているの）。いろんな意味で迷惑している人もいるし、逆にこまっている人もいるはず。もちろん日本の子たちも「外国人」を差別しないようにするし。	はがき
18	3-3の本文より。「現在、区立保育園は（以下省略）」とありますが、私立保育園でも同等かそれ以上の豊かに育ちあえる場を提供しています。「区立保育園は」と限定しない方が良いです。たとえば「現在、文京区の保育園は…」との文章に変更を希望します。	メール

## ■ Vision2「子育て支援・親の支援」について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	10 頁の窓口の一元化の中身を、もう少し説明してほしい。地域保育士やファミリーソーシャルワーカーについて、具体的にどのようなことを考えているのか。	説明会
2	ビジョン 2 の目標 3 の協働・協治。ここでうたわれている内容は、これまで議論されてきた協働・協治とはかなり違う内容で違和感がある。ワーキンググループのまとめの文章を読むと、ここに書いてある協働・協治とはかなり違う協働・協治が書いてあって、どうしてまとめの文章をつくる時に変わってしまったのか疑問。その内容について委員がオーソライズしているのかが気になる。	説明会
3	協働・協治について 協働・協治についての記載（vision2 目標 3）が、これまで言われていた協働・協治から変質してきている。中身が 5 項目ぐらい書いてあるが、修飾として動詞だけ並べると、 + 連携を強め、地域割りを見直します + ネットワーク化をすすめ、サービスの委託を行う + 子育て活動団体の自主的な活動を支援 + 話し合える場を設け、子育て支援の輪を広げる。情報を共有し、信頼できる関係づくりをすすめる。 + NPOへの計画的かつ継続的な支援の開始 となっている。これが、「区民との協働・協治」でしょうか？PDF版でついているWGでの議論内容とも乖離しているように見えます。37 ページ (4)、39 ページ (5) の議論内容などを参照。	メール
4	13 頁「施設の整備」に、大型施設の整備とあるが、これは新たにつくると捉えてよいのか。なぜ大型施設が必要なのか。小さなものがあちこちにある方が子育てには必要ではないかと思う。保育園に入れていないお母さんからは、気軽に行ける場所、という声をよく聞く。いくら交通の便がいい文京区であっても、あえてこれを出してきたところが、この説明ではわかりにくい。	説明会
5	施設の整備について。大型施設の整備を考えていこうというところで、それは時間もかかるので、代替的に国や都の関連機関の誘致を進める、というご説明だったが、直感的に関連機関の誘致を進める方がよほど時間がかかるのではないかという気がする。代替手段にはならないのではないかと思うがいかがか。 14 頁に 2 行だけある内容が、今あるものをどう使っていくか、ということで、時間もコストもかからない部分。バランスとして、お金のかかることに集中していて、本当にやるべきことがたった 2 行なのはおかしいのではないか。	説明会

No.	質問・意見・要望	受付方法
6	相談窓口が一元化されるのは非常にありがたいが、相談して使わせてもらうサービスは、どこか区に1か所ある大きな施設にあるというよりは、地域にないと使えないと思う。窓口の一元化の議論とサービスを提供する場の一元化の議論はまったく別で、後者は、時間・お金がかかって、結局使い勝手のよくないものになってしまうのではないかという懸念をもっている。	説明会
7	大型施設について。こういうサービスは必要で、センター機能的なものがあり、なるべく1か所で利用できるというと思うが、ハコをつくらないとサービスを受けられない、ハコがないからサービスはできない、というのは逆転している。また、まず大型施設があつて、あまったら、従来からある子育てのための施設の整備もした方がいい、という書き方になっているが、これは逆だと思う。まずはサービス機能が使いやすいといい。区役所の会議室や図書館など、小さい子どもがいっしょに集まれるような整備を考えるのはいいと思うが、大型施設ありきというのは違和感がある。大型施設のサービスは必要だが、ハコがないとできない、でなく、まずサービスを充実した方がうれしい。 国や都の関連施設の誘致を進める、とある。都の児童館は老朽化しているので建て替えもあるかもしれない。東部医療センターは、東部療育センターのことか？これは重症心身障害児の施設であり、誘致を進めるというのはアイデアかもしれないが、順番としては最後だと思う。	説明会
8	大型施設の建設が検討されていますが、ハコの建設にかかる費用よりも、サービスの充実にお金をかけていただきたい。文京区でもその施設に近い人ばかりでなく、メリットを享受しづらい。医療体制、保育園の受け入れ体制、親の就労支援など、（施設への移動をしなくても）区民として誰もが享受できるシステムづくりを優先してほしいです。	はがき
9	「大型施設の整備」は新たにつくるのか、現実の施設を活用できるようにするのか、不明確である。新たに作ることには疑問がある。	はがき
10	大型施設の整備が必要なのかも疑問。区内でアクセスしやすい・・・などあっても、所詮、交通機関を使って行かなくては無理な場所では、利用者は限られる。小さな子どもを連れて、電車やバスに乗るだけでも大変なのに、日常的に通うなど考えられない。窓口が一本化されるのはいいが、日常的施設が一本化されるのは困る。「従来からある子育て施設も充実・整備を進めていく必要…」ということのほうが、より身近で具体化しやすいはず。是非、今回集まった意見を踏まえ、委員会を継続して欲しい。早急な結論を出しても、絵に描いた餅になってしまっただけでは意味がない。せつかく、委員の皆さんが時間と労力を費やし協議しているものであるからこそ、実りあるものになることを望む。	その他
11	何か（特に大型施設）をつくりたいというように受け取れる箇所がいくつか見当たる。予算を確保されていると聞いてないが、現実的になるのか？シビックセンターそのものの建設だけでも、区民にしわ寄せがきているのに、それ以上に負担がかかると非常に困惑する。	メール
12	大型施設の建設の必要性について 現段階で、大型施設を区内に建設するよりは、なお書きにもあるように、従来からある施設を充実整備し、あるいは現在児童を対象とはしない施設を整備して子育て支援に活用できるようにしたほうが実効性があると思います。どんなにすばらしい施設であっても、実際に小さな子供をつれて乗り物を使って利用することは大変困難です。必要とされるのは、身近にあつて、多機能の使いやすい施設ではないでしょうか。もちろん、この大型施設で提供すると提案されたサービスについては実施する必要があるとしても、それと、大型施設を建設することは別の問題だと思います。あたかも、大型施設を建設しなければ上記サービスが実施できないとすれば、かえって、子育て支援サービスの充実を遅らせることになりかねません。さらに、文京区の財政状況を鑑みれば、大きな建物をこれ以上建設することはよほど慎重に検討すべきだと思います。	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
12	また、国や、都の施設の誘致については、相手方から要望があればともかく、区に求められる機能を考慮すれば、そんなに優先度が高いとは考えられません。そのような施設は広大な敷地を要するので、それだけの場所があれば、他の施策との比較の上で、利用方法を検討するべきでしょう。	メール
13	「大型施設の整備」(vision2 目標 5) 何で箱物行政が出てくるのか、理解できません。将来にわたって区財政に一定の負担を及ぼす大型施設の整備については、極めて慎重に議論すべきと考える。区内の交通機関の接続形態を考えても、どこか1箇所に大型設備を整備することで、区内どこからもアクセスが容易で小さな子どもを連れての移動が便利な施設にはならない。例えば、緊急一時保育などは、公共交通を使わなければいけないような場所では不十分。	メール
14	6. 施設の整備 (1) 大型施設の整備 大型施設の必要性が理解できない。文京区は下町方面から山の手方面へのアクセスが悪く(今度バスが通り少しは良くなりますが)たとえば区役所方面に大型施設ができて少しも子育て支援になるとは思えないし、行かない。子育て支援施設は近所であって、アクセスが良く、地域とつながっているからこそ有効に働くと思うので、大型施設などは全く必要がないのではないかと。何億もかけて大型施設を作るより、子育て支援の専門の職員を何人か雇う方がよっぽど有効に機能すると思う。子育てひろば、地域の交流館など既存の施設を拡充する方向で考えた方が無駄な税金が使われずに済むと思う。	メール
15	「施設の整備」として「大型施設の整備」とあるが、新たに大型施設を整備することはいかがか。ハコモノを新たに作ることに税金(税金)をかけるのではなく、現在あるサービスを有機的に結びつけ、必要なサービスを的確に提供できるような「ソフト」を構築することが一番必要だし、現実的なのではないか。ネットワークは大きく、施設は身近に、というほうが「地域を巻き込んだ子育て」には近道になるのではないかと。	メール
16	ショートステイについて。ショートステイの需要は非常に少ないし、使わない方がいいと思うが、必要となるときに使えないというのは、逆に非常に不安が高い。現状でいえば、親が入院したときや、子どもの入院の場合も小児科病棟は親がつきそうように、ということが多く、兄弟がいたらどうなるか。祖父母も働いていたり、その親の介護という場合もある。安心して子どもを育てるためには、万一のときにはいつでもバックアップします、ということがあると、大丈夫だと、負担感がものすごく小さくなると思う。もし今、文京区の子どもがショートステイが必要になった場合、0~1歳だと乳児院に措置になるが、乳児院は都内にいくつもないし、どこも満員。どうしてもという場合には町田、東青梅、ということもある。2歳以上だと石神井か立川で、満杯だったら足立、八王子という場合もある。これでは安心して、とはいえないと思う。 「区の事業としてショートステイの実施を検討していく」では、ずっと先の話に思える。区内に乳児院や養護施設があればベッドを借り上げればよいが、施設がない文京区で具体的にどうしていくか。難しい問題と思うが、実施を検討でなく、すぐにでも実施できる、という施策を何とか考えていただければ、今子育てしているお母さんたちの重荷を軽くすることができ、それだけ文京区が本気であることがよくわかると思う。	説明会
17	ショートステイの早期実施について まとめでは「実施を検討していく」とありますが、すぐにでも実施すべき事業だと思います。現状では、主たる養育者、特に母親は、病気になっても十分療養できず、入院することもできない事例もあります。家族の病気等ばかりでなく、二人以上の子供がいて一人が入院した場合、家族の付き添いを求める病院も多く、その際子供の病気以外にも保護者に多大な負担がかかります。安心して子育てするためには、万一の場合の保障が必要で、例え数は少なくとも是非早急に事業を実施してください。 実施方法としては、独立した施設を設置できなくても、取りあえず、区外の施設との契約、区内の日中保育施設(保育ママ等を含む)のサービスの拡大、子供の自宅への保育者の派遣等々考えられます。	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
18	<p>ショートステイ（短期間の24時間保育）（vision 2 目標 4）</p> <p>ショートステイを24時間保育でおこなわなければならない理由、またコストとベネフィットのつりあいがわからない。個人的には区の事業として行う必要はない、と考える。</p>	メール
19	<p>私は9歳、4歳、3歳の3人の子どもを育てている。一番上の子を育てているときシングルマザーだった。当時つきあっていた人にDVにあい、保育園関係には相談できず、区役所の福祉課等、いろいろ相談できるところを訪れたが、たらいまわしだった。結局、男女平等センターのカウンセリングルームで相談をしたが、その後もDVは収まらず、最終的には相手は警察に逮捕されてしまった。そのとき、娘はそういう事件があったにもかかわらず保育園に行きたがり、私は事情聴取があり、仕事も24時間体制のフリーのために1度断ると2〜3か月は入ってこないし営業もしないといけない、とパニックになってしまうという状態が娘が5歳になるまで続いた。</p> <p>今は結婚しているが、下の4歳、3歳の子が熱を出したりすると、どうしても仕事を休まないといけない。フリーが仕事を休む際は代役が必要で、その代役との打ち合わせに行かなければならない。文京区は病後児保育の施設が少なく、いつ問い合わせても利用できず、結局、茨城の離れた実家から母を呼んで見てもらう、という手段になってしまう。病後児保育のできるところがあるといいな、と思う。</p>	説明会
20	<p>他区に比べ、一時保育をする施設が少ないと思います。フルタイムで働いているお母様方以外にも、保育園に預けられるような支援をお願いします。</p>	はがき
21	<p>私は現在のところ主婦として育児をいたしております。数年前、流産のため緊急入院する際に、当時の「目白台緊急一時保育所」に3歳の子どもを預けましたが、職員不足のため、午前中に誰かが迎えに来るように言われました。私共夫婦は地方から大学進学で上京し、その後文京区に住所を定めましたので、大切な子どもを託せるほど信頼できて、かつ時間の余裕のある知人は近くにおりません。だからこそ、公的施設に頼むしかなくて連絡しているのに、何のために高い住民税を払っているのかと、流産の悲しみと合わせ、涙が止まらないほどの情けない思いを致しました。結局、夫が職場を午後早い時間に早退することができ、職員の方も待っていてくださったので、本当にありがたいことでした。</p> <p>2006年秋から、同所は「目白台一時保育所」となり、職員の方々の体制は整いましたが、「利用日の3日・までに書面で利用申請」「利用時間は4時間または8時間の固定制」と、非常に使いにくいシステムになっています。親の通院やそれこそ流産等の緊急時に役に立ちません。せめて「利用当日までに利用申請」にするなど、改善をお願いいたします。</p>	はがき
22	<p>産後の主婦に介護保険からヘルパーを派遣してください。特に核家族で体のあまり丈夫でない人をお願いします。</p>	はがき
23	<p>理想的な目標が掲げられているが、それでは目標を実現するために実際何をするのか、というところまで話が進んでいないので、実現はまだまだ先のことになりそうだと思ってしまう。公園や保育園を充実させる試みは期待できるし、現在行われている公立幼稚園の園庭開放や児童館・図書館の幼児教室には私も大いに助けられている。ただ、乳幼児をもつ母親は、外出するのも困難であることも考慮に入れてほしい。離乳食やお昼寝等のタイミングがうまく合わないと、外遊びもできずに家にこもってしまう。この“母子カプセル”を解消できる支援も考えてほしい。</p>	はがき
24	<p>母親学級を土日開催してほしい。</p>	はがき
25	<p>夜7〜8時くらいまで開いている産婦人科医院を地域に1つは設置してほしい。</p>	はがき
26	<p>施設の整備として、年長児には安全な遊具がそろった公園を、赤ちゃん世代にはスウェーデン方式ともいわれる子育てシェルターを作ると、親同士の交流も深められ、孤独な子育てをしている親子の心のよりどころとなるのではないのでしょうか。ポーネルンドが安全性にも優れていると感じます。</p>	はがき

No.	質問・意見・要望	受付方法
27	<p>「NPOや市民活動団体を支援」(vision 2 目標 3)</p> <p>NPOや市民活動団体にも、ピンからキリまであって、しかも制度的に質や客観的な評価が担保されているわけでもないと考える。NPOだから、という理由で支援するのは、おかしいのではないかと考える。どう評価するかが、重要と考える。また、ここでいうNPOは、広義のNPOなのか(であれば、保育園の父母会も該当)それとも、NPO法人のことなのか不明。なぜ、NPOを支援するのか、論じてください。</p>	メール
28	<p>vision2 子育て支援・親の支援 将来像のなかにある、「子どもの幸せを支援することは、決して親の利便を優先することではありません」という一文は、親自身、忙しい生活の中で楽なことを考えがちで、ふと忘れてしまうのですがとっても大事なことだと思うのでもっと強調していただきたい。そして、区としても「多様なニーズに応えるという」ということを理由に親の利便だけを考えた政策を決めてしまう傾向があるので、「子どもの幸せを最優先する」ことを忘れないでいただきたい。</p> <p>目標(2)は保健所をもっと有効に活用できないか。保健師の方などフットワークも軽く専門職員としても適していると思う。</p>	メール
29	<p>4. 養育サポートの充実 「子育てひろばの拡充」</p> <p>利用した経験から、利用が時間がもう少し長く、4時くらいまであいてると良いと思う。児童館などでやっているような「ふれあい遊び」といったイベントのようなものも行われると良いと思う。アクセスが悪い人もいるのでもう少し数が増えるとよい。</p>	メール
30	<p>病児看護休暇を会社が与えることも重要ですが、病児保育施設をもっと用意して頂きたいと思います。</p>	メール
31	<p>家庭で保育していると、他のこどもたちとの接触、遊びが少なく、これでよいのかと不安に思ってしまう。こどもどうしのフレイイの場、もまれる場を提供してあげたいが、こどもにとって良い、あう方法がわからなくて、悩んでしまうことがある。こどもとずっと一緒にいたい、につまってしまうことがある。</p>	意見シート
32	<p>幼稚園、保育園に通園していないこどもの定期的に集まれる場所を増やしてほしい(定員制の為入れないこともある為)。</p>	意見シート
33	<p>大型施設の整備と書いてあるが、ゼネコンと癒着したハコ物行政はごめんこうむる。そんな金があるなら障害者や高齢者のためにもっと使ってほしい。だいいちゼロ歳児の保育には1人当たり何百万円かかっているのか明らかにしてから話しを進めてもらいたい。税金は区民に公平に使ってほしい。</p>	はがき
34	<p>子育て相談について</p> <p>積極的に外に働きかけができる人とそうでない人がいると思います。後者は相談を受けられる体制が整っても独り悩み続けるのではないのでしょうか。その方策はありますか。</p>	はがき
35	<p>大型施設の整備は必要か?</p> <p>Vision2の6(1)で述べられているような大型施設の導入が必要かは、コスト面も考えれば慎重に検討すべきではないか?支援サービスの一元化にあたり、まず支援を求める保護者・子どもが相談できる窓口が幅広い機能について対応できることは重要であり、それに関して中央集約的な組織・施設を配置することの意義は理解できるが、一方で、日常的・恒常的なサービスは、出来る限り自宅に近いエリアで受けたいのが実際ではないか?窓口の一本化とサービスを実施する場所の一本化は、別の議論。保育機能を担う中核施設である保育園保育士の削減すら最近とってよい過去において議論されたような厳しい財政状況を考えれば、まずは相談窓口を一本化し実際のサービス提供については今ある施設をどのように強化・活用していくかを考えるのが、コストを抑えながら必要なサービス水準を確保するために取るべき本筋のアプローチではないか?6(1)の末尾に、従来からある施設の充実・整備について一文のみ付加されているが、それまでの大型施設設備の議論とのバランスがおかしいのではないかと?第2ワーキンググループの「議論の整理」には、こうした既存施設の拡充が相当に議論されたことが記載されているが、これと中間のまとめ本文のVision2の内容の間には乖離があるように思われる。</p>	その他

No.	質問・意見・要望	受付方法
36	<p>まずは、策定委員会の皆様、お疲れ様です。中間報告を拝見して、これが全部実現したら、ものすごく子育てしやすい社会になるだろうなあ…、と思いました。Vision2に掲げられた、区役所の窓口の一元化はぜひとも実行していただきたいもののひとつです。区役所の窓口で、専門的な相談ができる保育士さんやプランナーさんが常駐してくれると、母子手帳をいただくとき、出生届を出すとき、保育園の申し込みのとき…、と折々に相談ができそうです。</p>	メール
37	<p>現在の専業主婦の立場から言えば、乳幼児が午後でも安心してあそべる施設をもっとつくって欲しいです。児童館は午前しか利用できないので困っています。ピョピョ広場のような小さい子ども専用のあそび場があれば、子育てのネットワークも広がります。つい自宅にこもりがちになるママの味方になってください。お願いします。</p>	はがき
38	<p>残念ながら、今後の保育ビジョンでは具体策は何も見えてきません。ここで文京区が早急に取り組むべき課題をあげます。</p> <p>ビジョンでは何も挙げられていませんが、仕事をもつ母親にとって最も必要なのは病児保育であることをはっきり申し上げます。保育園、ベビーシッターは37.5℃以上の熱では預けられません。しかし一方、その間、仕事を休める訳でもありません。保育ママは発熱時に対応できないため、現実の要求に応えるものとなっていません。文京区にはたしかに病児保育はありますが、区全体で定員が4名とは絶望的です。毎日ウェイティングリストには、希望者のお名前がずらりとならんでいます。もっと現実を直視した区政を行ってください。</p>	はがき
39	<p>「親の育ち、子の育ち」の観点から区立保育園全園での緊急一時保育を実施して下さい。そして在宅ママ達が生きていく上で語り合える場を提供して下さい。</p> <p>親が子育ての中で育つとはどういうことなのか？現在二歳になる息子を持つ在宅ママの視点から述べさせて下さい。今までの短い子育ての経験から感じた事は、時の流れるままに親も子も如何様にも育つという事です。</p> <p>私が今まで出会った文京区在住のママ達は一様にまじめで責任感のある方が多く、子育てにも真剣に取り組んでいる印象が強いです。なんと文京区では0歳～3歳までの子供達の七割以上が家庭内養育されているらしいので、まだ会っていない在宅ママは区内にはたくさんいるんですね。</p> <p>子供が生まれて二カ月の頃、家に二人っきりで閉じこもっているのが苦痛で、保健所のおしゃべりルームに参加しました。これはとても有意義でした。ただ同じ月齢の子供を持つママ達とおしゃべりするだけなんです、グチや不満を言い合えたり、情報交換などもできたりして、楽しかったです。帰り道はタクシーも使わず、子供をスリングに入れて鼻歌まで歌って帰りました。</p> <p>次に参加したのは、先のおしゃべりルームで仕入れた目白台図書館での「はじめのいっぽ」。乳幼児対象の読み聞かせの会でした。未知の世界の絵本…これにはとても惹かれました。早速図書館で年齢別対象の絵本冊子を頂き、今では毎日の読み聞かせは我が家の日課となりました。読み聞かせの後はまたまたおしゃべりタイム。ここで近くに住むママ友達をゲットする事ができました。</p> <p>六ヶ月頃には新宿区にある榎木町の児童館に、知り合いのママ達と連れ立ってよく通いました。ここは各階ごとにフロアが別れていて、それぞれ乳幼児、就学児と使用する部屋が違っているので、安心して子供を遊ばせる事ができます。施設も清潔で、安全な部屋づくりも成されていて、何よりも居心地がいいのです。</p> <p>この場所でまだ知り合っていないママ達と、育児の悩み事以上にいろんな話をしました。よくみんなで大声で笑って話していました。そんな中で子育てに順調そうなお母さんが意外な悩みを抱えていたりしてビックリした事があります。自分も含めて結構みんな悩んでるんだな～と度々感じました。</p> <p>子供が元気に遊んでる側で、ホントよく朝から夕方まで語り合いました。そういえばこの頃から育児雑誌は買わなくなりました。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
39	<p>ちょうどこの頃、二ヶ月頃から始まった息子の湿疹がピークを迎えます。病院に行っても一向に改善されず本当に毎日悩みました。もしかしたら自分の母乳のせいなのではないかと、ストイックなまでに食べるものを制限したり、石鹸・水・ハウスダスト・空気清浄など肌に良いと聞くとすぐに生活に取り入れたりしました。</p> <p>今思い返してみると自分の世界の中だけでどんどん落ち込んでいくという感じでした。そんな時あるサークルに参加していたところ、あるお母さんから息子がしんどそうな顔をしていると言われました。そこでハッと我に返りました。息子の湿疹しか見ていなかったの、体の状態まで目がいってなかったんです。きっとこの頃は一生懸命に私に笑顔に向けていた息子の顔も見逃していたに違いありません。肌のきれいな他の子と息子を比べたりして、彼のあるがままの発達や姿を見ていなかったんです。</p> <p>二歳になると突然息子はイヤイヤボーイに変身しました。私も負けじとダメダメママに変身です。ある年配の方から「これは正常に発達している証拠です」と言われて少し気持ちが楽になりました。でも自分が精神的にゆとりがない時は息子を怒鳴りつけたり、時には手が出たり・・・そして大きな後悔の波がきた後自分の育児に自信がなくなっていきます。何で私ばかり～が心の中でこだまします。主人に話してもこちらの気持ちがヒートアップしていたり、無気力に陥っていたりで、素直に意見を聞くことができません。そんな時、今よく通っている豊島区の児童館でママ友に相談すると、明るく笑われて言われました。「うちもそうだったよ。でも怒る前に10数えるの。はじめはできないけど段々と気持ちが落ち着いてくるから」。その言葉でその時を乗り越えれたと思います。なぜなら息子の笑顔が確実に増えたから。以上は私自身の親として少しでも階段を上れた瞬間の中のいくつかです。先述の通り、子供の成長に沿って親も親として育ちます。しかし親がどのように育っていくかで子供の育ちは大きく変わっていくと思います。もちろん何が良くて悪いのかなんて言うつもりはありません。自分の子供の成長や発達を喜んだり、他の子供と我が子を比べて喜びを感じたり、反対に不安を感じたり、自分の子育てに自信が持てた時や反対に行き詰まって先が見えなくなったり、友人に相談に乗ってもらったり、グチを言い合ったり、しんどい時は子供とゆっくりお昼寝したり、子供の笑顔で元気になったり、年配の人に自分の育児の件で意見されて憤りを感じたり、病気でフラフラになりながら子供の相手をしていたり、泣いている子供を怒鳴ったり無視したり…これすべて育児です。そして親育ちの瞬間です。そしてその横には親を信頼している子供がいるんです。</p> <p>在宅ママの抱えてる悩みは思いのほか深刻です。私は育児とは悩んで当たり前と思えるまで二年かかりました。中には問題を抱えたままで、以前の私のように自分の中でだけでどんどん沈んでいく人も多いです。まじめで責任感のあるお母さん程、自分で解決しようとするので無理がたたって反動がきます。</p> <p>自分だけでは解決できない問題が育児にはたくさんあります。だって子供の身体の成長や心のあり方なんてまだまだ先の事だから。ママは可哀想なくらい毎日毎日一生懸命です。でも子供と正面から向き合っているから安心です。子供と向き合えなくなった時、そしてあるがままの子供の姿を見れなくなった時、子供はどう成長していくのでしょうか。</p> <p>子供って誰が育てるものなのでしょう？</p> <p>文京区の保育園の保育士さんはとても質の高い保育をなさると聞いています。ぜひ緊急一時保育ができる園を一園でも増やして下さい。親の利便性だけでいいものではありません。理由はどうであれ本当に困っているママを助けてあげてください。そして子供を救ってください。</p> <p>たまたまその日に一時預かりできた子供とそして親と本音で話してあげてください。プロの目で本質を見てあげてください。そして親の育つ力を引き出してあげてください。</p> <p>子供って誰が育てるものなのでしょう？</p> <p>ママが子供と気軽に行ける、安全で清潔で居心地のよい場所をいっぱいつくって下さい。子育てについて悩みや不安、喜びを語れる場をつくって下さい。子供が安心して遊べて、楽しめる場をつくって下さい。頑張るママはそんな場所があれば遠くでもお隣の区まで自転車で行くんです。なぜ隣の区にあって文京区にはそんなすばらしい施設がないんでしょう。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
39	<p>子供って誰が育てるものなのでしょう？おじいちゃん・おばあちゃん・保育園の先生・隣のおばさん・病院の先生・保健センターの保健士さん・飼っている猫・ママ友・パパの会社の人・今日道であったおじさん・犬の散歩をしている人・図書館の人・大好きなお友達・ちょっと苦手なお友達・八百屋のおばさん・児童館の方々・管理人さん…。日々いろんな人から息子は育てられています。どうか親が親としての育ちができる空間と場所をいっぱい提供してください。どうか親が子供の周りにいる人とコミュニケーションを取れる場を増やして下さい。親が子供と向き合い、そしてそれを見守る人たちと子育てに限らず本音でいろんな事を語り合えた時本当に良い意味での親育ちが実現されるのではないのでしょうか。そして育った子供は社会の財産となるのではないのでしょうか。最後に親の利便性について現在では子育てにおける親の利便性というのは必要不可欠な問題ではないのでしょうか。「利便性」にもいろいろな意味合いがあると思いますが、子育てを本当に頑張っているママたちにとってはとても大切なことです。どうか親の利便性を追求してください。それによって子育てに日々頑張っているママは救われますし、子供に目を向けずに自分の利便性だけを追求しているママを社会の中で見つけることができます。</p> <p>子供に温かいお弁当を食べさせたい。夏や冬に遠くの児童館まで自転車で行きたくない。自分がノロウイルスに襲われた時、子供のために緊急一時に預けたい。子供を緊急一時に預けてパチンコに行きたい。</p> <p>親の考える利便性は様々だと思います。子供の幸せに繋がる利便性とそうでない利便性。それは利便性を訴える親の考え方の問題です。どうか親の利便性を追求してあげてください。そして子供と向き合わないで、自分の利便性だけ考えている親を見つけたら、親育ちの観点から気づいた人が語りかければとよいと思います。例えば緊急一時保育で一人でもそんなママが見つけられたら、その親子を救えるのではないのでしょうか。</p>	メール
40	<p>いつもお世話になります。育児中の意見を言わせて頂ける場があるという事に、とても感謝いたします。ありがとうございます。</p> <p>私は、在宅で子育てとフリーランスの仕事をしておりませんが、両立の厳しさを感じています。</p> <p>出産してから、仕事を減らしたり、逆に（子供がいるという理由で）仕事を断られたりと、出産前の仕事の仕方では対応できず、仕事も育児も一から始めるといった感じですが、子育てがあるからこそ、仕事ができる喜びはとても大きいものになりました。</p> <p>しかし、夫は平日は深夜まで仕事をし、土日出勤も多く、両親は遠方なので協力は得られず、子育てと仕事を1人でこなすのですが、自分1人では体力的にも精神的にも限界を感じています。</p> <p>また、時間通りにできない子供に対して強く叱ってしまう事、テレビを見せつづけるなど、子供にとってもよくない状況になりがちです。仕事中は「子供を一時的にでも預かっていただけたら」と、保育施設等を探しますが、仕事が急に来たり変更になったりと変則的で、対応して頂ける施設を探すのに苦心しています。</p> <p>わがままな望みかもしれませんが、「柔軟に一時保育をしてくれる施設やサービスがあれば、どんなにいいか」と仕事の度に感じてしまいます。</p> <p>これだけ多くの会社が集中する文京区だからこそ、ここに住んでフリーランスで働く人は、私を含めたくさんいるのではないのでしょうか。子供を産んだからという理由で仕事ができないのは、これだけ仕事の間がある文京区に住んでいて、とても残念でなりません。育児は今一番大切な事ですが、自分の技能を生かし築いてきた仕事も失いたくありません。思い切り仕事ができないとしても、仕事につなげるための、何かできる事を（キャリアアップのための講座参加、資格取得など）育児中の今だからやってみたいと感じます。色々な状況にあった、子供を一時的に預かってもらえるシステムがあればどんなにいいかと感じます。もう一つの理由として、共稼ぎをしないと、生活が苦しいという経済状況もありますが、子供と一緒にいても働きたい母親への支援を、どうぞよろしくお願い致します。</p>	メール

■ Vision3 「親の就労・多様な働き方の支援」について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	ビジョン3の将来像の文章の中に「再び社会に参加できる道を開く」とある。子育てをしていると社会に参加していない、という文章になっているが、それはありえないと思う。子育てしていても社会に参加していると思うが、そういう議論があったのかどうか、非常に疑問。	説明会
2	働く妊婦・母親への支援をより充実させていただきたいです。	はがき
3	III-1 ①育休中の看護師や保育士が、本格的に職場復帰する前のトレーニングとして、病児ルームや保育ママ、学童保育等への短時間パートとしての雇用はどうか。 ②たとえば、準保育士などの育成を区が行う。	はがき
4	親の就労・多様な生き方の支援 今の社会では、女性が男性と同じように働くと、子どもを誰がみるのか。10年後、将来像のようになると思えるといいが、変わると思えないのはなぜか。	はがき
5	vision3はとても大事だと思う。母親の孤立感や不安感といったものが一番強いのが未就園児の保護者だと思う。しかし、保育園や幼稚園に通わせていればその保護者は育児に対する悩みがないのか、子育ては困難でなくなったのかと言えばそうではないであろう。保育園にしる、幼稚園にしる、平日（中に週末も）は育児のほとんどを母親がみているといった状況が改善されなければ 母親の負担感といったものは減らないのではないか。たとえ将来的に保育園の数が増えて希望する人がみな入所できたとしても今の働き方が見直されなければ子育ての困難な状況はいつこうに改善されない。現在の長時間労働が是正され、女性も男性も家庭責任を果たせるような社会に変えていかなければ子育てしやすいまち、社会にはならない。 区単独では限界がある項目だが、子育て支援のためには絶対に欠かすことのできない項目であると思われる。 労働者が安心して働ける社会を作ることは、安心して子育てをできる社会だと思うのでその観点から以下の要求も入れていただければと思う。 ・短時間勤務制度のさらなる拡充。 ・短時間労働＝パートという位置づけをなくし、同一価値労働同一賃金の原則を徹底する。 ・これから子供を持つ人たちのために、不安定雇用者を減らす。	メール
6	職場の取り組みについて 時短や看護休暇などの制度ができていても取得しにくいのが現状です。職場の意識改革が必要であると思います。	はがき

■ Vision4 「保育機能の中核としての保育園」について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	<p>ビジョン4「保育機能の中核としての保育園」に、「保育園に入っていないと就労できない、就労していないと保育園に申し込めない、という悪循環を絶つ」、とあるが、そうなると幼稚園と保育園の差は何なのか、というところに議論がいくと思う。ビジョン策定検討委員会が始まる前の説明会でも、なぜ今回、幼稚園が議論の対象にならないのか、という質問があったと思うが、いよいよ幼稚園もある程度視野に入れていかないといけないのではないか。保育園に期待される機能がどんどん増えている一方で、文京区の公設の保育園は地域的な分布に偏りがあるし、人員面・施設面でもリソースに限りがある。その中で、これだけいろいろな機能を盛り込んでいくときに、保育園だけを対象としていって本当にできるのかが疑問。文京子ども園については、やはり中長期的な問題で時間がかかるだろうから、その間どうするかについて何らかのアイデアが示されないと、結局絵に描いた餅になってしまう。</p>	説明会
2	<p>文京区で育ち、子ども2人を育てた。その際、保育園には大変お世話になり、保育園が単なる預け業ではなく、親への支援も基本にしていることを実感した。私が子育てをした25年、30年前は、働いている親以外は入れなかったもので、逆にこういうサービスを働いている親だけが独占してよいのかと思った。保育のベテランである保育士に子どもの育て方について、子どもの毎日をみてもらいながらアドバイスしていただけたことはありがたかった。</p> <p>保育園を子育て支援の場とする発想は大変よいことだと思う。親たちも望んでいる。文京区は子育てがしやすい、教育環境がいいということで転入者も増えていると思うので、区のやっているよい試みを外に発信することで、区の人口も維持・発展できるのではないか。こういう方向はよいことだと思う。安ければいい、という発想で保育園を運営したために大混乱、という区もあることを知っているの、そこのところは維持してもらいたい。</p>	説明会
3	<p>利用者の視点に立ったサービスをすすめるなら、働く/働こうとしている母親の要望をもっと汲み取ってください。出産のため退職しなければならなかった人が、出産後就職しようとして一番困っているのは、就職してからでないと公立保育園に入れられないことです。そのため認可外に入れざるを得ないのです。働きはじめてから申請がやっとでき、次の4月から入園できればラッキーな方。預ける側にとって兄弟等がいた場合、同じ保育園でなければ預けられません。公務員は出産後、育児休暇をとるのは簡単ですが、私企業に勤める人は休暇後も働き続けられる保障はないのです。目標を掲げるのはけっこうですが、その・に現状を早くなんとかしてください。まず「申請すればすぐ保育園に入れられる」体制をつくって下さい！</p>	はがき
4	<p>希望すれば保育園に入園できる体制をめざす。早期実現を！！</p>	はがき
5	<p>保育園は入園する条件をゆるめるべきです。例えば、アルバイトの母親は、1日4時間しか働かないので子どもが入園できない。0～3歳の小さい子どもをもつ母親には厳しすぎる条件でした。母親の1日4時間のバイトでも、社会に大きな貢献です！これからの高齢化社会に欠かせない労働力です。主婦自身も社会に進出した方が子育てにプラスが多くて、孤立の防止にもなります。その上に、経済の面でも少し楽になります。</p>	はがき
6	<p>働き方が多様化したとはいえ、それがまっすぐ「認証保育所の増設」という要望につながっていないと考える。まずは区立保育園が増やされることであり、その保育園が様々な保育要求を受け入れる母体となった方がよい。職員は区職員であることも明記してほしい。</p>	はがき
7	<p>ビジョンに書かれていないので安心しましたが、他区などで行っている保育園の民間委託は絶対行わないでください。区が区立としてしっかり運営してください。お願いします。</p>	はがき

No.	質問・意見・要望	受付方法
8	<p>保育ビジョンに本来必要な大きな論点にまったく触れられていないことに違和感を覚えます。それは「区立保育園の民営化」です。</p> <p>「新行財政改革推進計画」において議論されてきたものですが、今回の委員会報告では「論点としてすら」記載されていないようです。たとえ一部の区民による反対があったとしても、文京区で保育ビジョンの議論をするときに「区立保育園の民営化」にまったく言及しないという態度は、行財政改革に対する区当局の決意を疑わせるものです。コスト意識のない委員会がまとめた、誰からも反対されない奇麗事だらけの「中間のまとめ」に多くの区民の支持が集まるはずはありません。是非とも、民営化についての前向きな記述を追加して頂きますよう期待しております。</p>	はがき
9	<p>保育園の質については、ぜひお金と労力をかけて保ち、維持向上させていく必要があると考えます。保育士さんの教育や、意欲の増進に努める、保育士さんの経験を生かすような人事的な制度も必要と考えます。</p> <p>保育を担当してくれる人への信頼がなくては、保育業は成り立ちません。ハード面のみならず、ソフトの面もぜひ重点を置いてほしいと、親の1人として希望します。効率や経済的効果も大切ですが、それで切り捨てられてしまう面についてあるのでは、と今後の方向について危惧しています。</p>	はがき
10	<p>どんなに立派なビジョンがあっても、それを受け入れる場（保育園）がなくては話になりません。子供が今いて働く事を諦めている人がどれだけいるか、現状の改善（待機児童、延長枠等）を早急に願う日々です。</p> <p>そして地域での子育てをビジョンとするならば、保育園として区切らず、育成室のない4年生の受入れを夕方5時以降にするなど広い視野で考慮すべきだと思います（園で5時頃までお迎えに来る人もいるので不可能ではないと考えます）。</p> <p>保育園、育成室に預けて、お迎えが2~3か所になったり、自宅に高学年の子が待つ親が悩んでいる現実をもっと知っていただきたくて書かせていただきました。将来の区の子育てが、よりよくなる事を願いながらも、それまで待てない私は来年退職する予定です。</p>	はがき
11	<p>保育料は値上げしないでください。税金や保険料が上がって大変です。</p>	はがき
12	<p>ビジョン4の4(2)、保育園のクラス人数を減らしゆとりを持たせるのは結構だと思いますが、その・に待機児童を解消するようにお願いします。</p>	はがき
13	<p>保育ビジョン策定検討委員の皆様、中間のまとめの作成お疲れ様でした。「夢」が盛りだくさんで、本当にこの通りの将来像が実現したら素晴らしいと思いましたが、いくつか気がついた点について意見を述べさせていただきます。</p> <p>1. 「保育の質の維持向上」に関する項目を独立させてください。</p> <p>現状では「保育園の機能を高めるための方策」の中に散見されるのと、Vの「実現の推進に向けて」に指針の策定についての記述が見られます。Vにあるのはいいとしても、保育の質は、公立保育園に限らず、幼稚園、これから登場するであろう認定こども園、認証保育所などすべての施設において保たれるべき重要な項目です。すでに保育園に関しては、第三者評価のための国や都の「基準」が示されており、幼稚園にも自己評価の制度があり、また認定こども園も評価基準策定の動きがあると聞きます。こうしたものに準じてもいいし、あるいは文京区独自に、区ならではの保育の質の指標化、基準の明確化をまずは行うべきでしょう。そのうえで、自己評価、利用者アンケート、第三者の専門家による実地調査など、必ずしも現在ある第三者評価制度でなくても、できる範囲で現在の質を評価する。そして改善する。目標を立てる。次世代に継承する。そういうしくみを整える必要があると思います。ビジョンとしてどこかに「保育の質の維持向上」を高らかにうたっておく必要があると思いました。それは保育園だけに限ったことではないので、ビジョン4の保育園の項に入るものではないと思います。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
14	<p>2. 「第三者支援体制の構築」の項目の追加を 前記の保育の質にかかわりますが、すでに3年前と現在では、人員削減の影響で公立保育園の保育の質が低下しているとも言われています。応急処置的に導入された人材派遣保育士はどう評価されているのか。あるいは「柳町こどもの森」の保育の質はどうか。あるいは、保育士の入れ替わりが多いという公設民営園や認証保育所の保育はどうなっているのか。PCDAサイクルを促進するためのしくみが必要です。どのような支援体制が文京区として望ましいかを検討することも必要です。そしてそれは、公立保育園保護者と区のこれまでの協議の中での合意事項であったはずで、検討する場を設ける、という文言もどこかに入れてほしいです。</p>	メール
15	<p>3. その他、慎重に検討したい項目、になると思いますが、「既存の保育園・幼稚園の改革の必要が生じた場合、客観的事実に基づく明確な理念、目的を提示して利用者と協議の場を持ち、十分な合意形成のもとで進める」といった項目をたてていただきたいと思えます。</p> <p>区長はじめ現在の区の方々はお忘れになったようですが、区と公立保育園保護者が平成16年から約2年間、45回もの会合（通称「あり検」）を重ねたことはまぎれもない事実です。そこでは、客観的データに基づくシミュレーションで、民営化によるコスト削減効果はないこと、団塊の世代の保育士退職により、改革をしなくても今後20年、コストは右肩下がりの傾向にあること、むしろそれによる保育ノウハウの断絶が懸念されることがわかりました。横浜における保育園民営化に関する裁判では、行政側の主張する「多様なニーズにこたえる」は理由にならず、保護者との合意形成が十分にされない拙速な民営化は違法との判決が出ています。あり検で行った他自治体における民営化園の視察では、「成功」の鍵は保護者の合意と協力であることも明らかになりました。</p> <p>民営化は改革の一手法に過ぎません。今後、保育士の人数の削減、認定こども園の設置といった幼稚園の改革も、必ず課題にあがってくると思います。行政と利用者（区民）の協働は欠かせません。ぜひとも、ビジョンの中に盛り込んでいただきますよう、よろしくお願いします。</p> <p>以上長文となりましたが、ご参考にしていただけたら幸いです。よりよい「まとめ」になることを期待しております。</p>	メール
16	<p>vision4 保育機能の中核としての保育園 「保育園はすべての子どもたち、あらゆる子育て家庭にひらかれた保育拠点となります。」とあるが、幼稚園に通う子ども、家庭をどう取り込んでいくのか。ここに挙げられた方法では取り込みは困難と思う。</p> <p>また、子育て相談や緊急一時保育も何でもかんでも保育園へという流れにも危惧を感じる。これはそれに対応する人員、物的スペースがちゃんと補充されるということが大前提となると思う。個人的には、保育園にも一日、一週間、一ヶ月単位で保育の流れや行事があると思うので、一時保育所と通常の保育所は別にした方がよいのではないかと考える。狭い園舎で緊急一時の子のためのスペースも格段あるわけではないのにかなり無理がある事業だと思っている。</p> <p>区がすすめている保育園政策と全く相容れないと感じる vision4 であるが、安易な実現（認証保育所増設、公立保育園の民営化など）にならないよう望む。 区立幼稚園での預かり保育の実施は検討されていないが可能性はないのか。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
17	<p>区立保育園・5歳児クラスに子どもを通わせている保護者です。先日、日頃はあまり会うことのない、他のクラスの保護者のかた数名と、保育について話をする機会がありました。その中に、二人目を生むことに対しての不安について話をされているお母さんがいたのですが、そのときの数名での結論は、「保育園の力を借りれば、二人目・三人目がいても大丈夫！」ということでした。子どもたちは、家の中では「一人」かもしれませんが、保育園では「大勢のお兄さん・お姉さん、弟・妹」に囲まれている大家族の一員なのです。自分よりも年上の子どもたちを見ていつかは自分もあんなふうになろうと憧れ、自分よりも年下の子どもたちには、自分がこれまでしてもらったように親切にしようと思う、そういう気持ちがわずか1歳児クラスの子どものにも生まれる、そういう素晴らしい教育が作為なくなされる場、それが今の保育園の果たしている「子どものため」の役割であると思います。保育園というと、いきおい親の就労支援という観点から語られがちですが、子どもの育ちにとって、これは大きな財産です。子どもの育ちを定量的に測定することは難しい(*)というのは分かりますが、効率優先でそういったことがないがしろにされることのないよう、今後も公立保育園を大事に守り、さらに、現状の保育士の欠員状態も元に戻してくださるよう、強くお願いしたいと思います。ひいては、「親の就労にかかわらず、誰であっても希望すれば保育園に入ることができる」というくらいの施策があってもよいと思います。そうなれば、さすが文教のまち文京区、ということにも繋がると思います。(*)子どもの育ちと保育園との関連性を追跡調査する試み等があってもよいと思います。</p>	メール
18	<p>「かごまち保育園」を利用させていただいています。「中間まとめ」を拝見し、文京区が乳幼児の保育に積極的に取り組んでいこうとされている姿勢が分かり、大変嬉しく思います。同時に、壮大な計画を練ることに時間をかけすぎることなく、現状改善が少しずつでも確実に進むことを切実に願っています。</p> <p>初めに書きましたように、かごまち保育園を利用させていただいておりますが、園を利用する保護者が何年間も区にお願いし続けていることがあります。①保育スペースの拡充、②小学校の校庭開放です。</p> <p>当然ご存知とは思いますが、ベネッセが運営する同保育園は、駕町小学校敷地内に併設されており、保育園自身の園庭はないという特徴を持っています。園の雰囲気はとてもよく、園長先生はじめ先生方には大変感謝しておりますが、上記①②の問題は是非とも改善をお願いしたい状況です。</p> <p>駕町小学校は各学年1クラスですので余剰教室もあろうかと思われませんが、再三の保育園保護者からのお願いの甲斐なく、園庭・体育館などは保育園側はほとんど利用できない状況です。</p> <p>区からの回答では、安全確保が難しいなどの理由を挙げられたとも聞きますが、校庭・体育館・音楽室などを年度始めの時間割編成の段階で保育園利用枠を割り当てていただくことはできないのでしょうか？例えば1学年3クラスある小学校でも時間割を組むことが可能であることを考えれば、決して難しいことではないとおもいます。やはり、全ては管轄官庁が違うということで進まない問題なののでしょうか。しかし、保護者としては、そのような理由では納得できるものではありませんし、今回の「中間まとめ」に掲げていただいた取組みが進むとも思えません。</p> <p>幼保小の連携した保育への取組みを本当にお考えいただいているのでしたら、是非先進事例として「かごまち保育園」「駕町小学校」の連携から示していただけたらと思います。私事ですが、長女を保育園に預け、家族のサポートを受けながら何とか育休前の仕事を続けることが出来ました。第2子出産後もできれば文京区に住み続け、仕事に復帰したいと考えていますが、正直、本当に両立していけるか不安を感じています。</p> <p>そんな時期にこの文京区保育ビジョンを知り、今後どうなるのかと楽しみにしております。そして何よりも、「計画」より1日も早い「実行」を願っています。かごまち保育園と小学校の連携の件、是非ご検討お願いいたします。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
19	<p>vision4 4.その他、長期的な視点から慎重に検討したい項目</p> <p>(1) 子どもが少なくなるこれから、保育園希望者が増え、幼稚園は存在意義がだんだんと減ってくると思う。親の就労、不就労で別々に預かる意義が無くなりつつあるのではないか。</p> <p>(2) クラスの人数を減らすというのはとても良い。海外の具体的な数字を載せて欲しい。その根拠も海外が「その基準だから」「感染症の予防になるから」というよりも1人1人の子どもの目が行き届き、よりよい保育ができるということを理由にして欲しい。現在の保育園の幼児クラスの人数は多すぎると思う。担任と園児1人1人と接する機会が少ないのでもっと時間が取れるよう1クラスの人数を減らす必要があると思う。</p>	メール
20	<p>現在の保育園の1クラスの人数を減らすのは、入園できている人たちが自分達だけじゃなければいいということでしょうか。保育園入園を待っている者のことも考えて欲しい。子どもを大切にすることは理解するが、入園を希望する者がたくさんいる状況で、とても現実的な提案には思えない。保育園に入れない保護者の視点からぜひ、話し合ってもらいたい。また、民間企業では様々な工夫をして努力をしていることをもっと考え、効率的な運営をして、今の保育園でのサービスをもっと増やして、子育てに困っている人に対応していくべきだ。</p>	メール
21	<p>保育園は就労支援のための施設だが、家庭で育児をしている人たち（両親とも働いていない世帯）にも、子育てに関する支援をする施設であってほしい。孤独な子育てをせざるを得ない人たち（核家族で夫が仕事、妻が育児というようなケース。こういうところが実態としては多いと思う）への支援もする施設として、位置づけてほしい。</p>	メール
22	<p>近くに区立保育園がありますが、気軽に遊びに行ける雰囲気ではありません。通園している人たちには、いいのですが、同じに子育てをしていて、何か気軽に利用できるようなにはならないのでしょうか？文京区の保育園の質は高いと聞きます。通園していない子育てをする私たちにも、保育園のノウハウを提供してください。</p>	メール
23	<p>私は私立保育園を2か所経験してきた保育士です。このビジョン1の3-3で「区立保育園は、子どもたちがゆたかなに育ちあえる場を提供していきます」や「文京区の『財産』である区立保育園を維持・拡大し、次世代に継承していく」などとあり、それを受け、「公設公営保育園」を推奨していくというようなことが書かれていますが、文京区には、区立保育園だけでなく、私立保育園も存在します。私立保育園には私立保育園の良さがあり、臨機応変に対応できたり、色々な親のニーズに応えることが特徴でもあると私は考えます。私立の良さをもっとわかっていたいただきたいと思います。とてもすばらしいビジョンではありますが、ご再考願います。（私立＝社会福祉法人など）</p>	はがき
24	<p>保育園の必要な人員確保について 現状では不足を感じます。保育士はいつも忙しそうに相談したくてもできません。職員に余裕のない状態が続けば、将来的に安全面や育ちに不安を感じます。</p>	はがき
25	<p>保育園配置の地域的偏りをどのように是正するのか？ 現在、文京区の認可保育園の地域的分布には偏りがあるが、「待機児をなく」し、「通園距離への配慮」を行い、「きょうだい別の保育園に通わざるを得ない状況の解消」を目指すのであれば、細かくエリア分けを行った上で、現在の保育園に対する潜在的な需要を持つ家庭・児童の実数と、区内の大型開発なども踏まえた将来の需要予測を行い、保育園の適正配置をどのように実現するのか具体的に議論する必要がある。こうした議論は、今後、どのタイミングでどのような場で行われるのか？こうした情報は、どのように一般に公開されるのか？なお、平成16年3月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査報告書」において、文京区を5つの地区に分割した情報は公開されているが、実際に通園する場合の日常的な負担を考えれば片道15分を超える通園時間は大きな負担となるため、もう少し細かいエリア設定を行ったうえで保育園の適正配置を考えるべきものと思われる。</p>	その他

No.	質問・意見・要望	受付方法
26	<p>Vision4の「2. 保育園の具体的役割」に掲げられた(3) 家庭・地域の子育てサポートの実施については、保育園に子供を通わす親としては、できれば保育園とは別の支援施設を設立して欲しいなあ、と思います。確かに、保育園には保育の専門家が常にいらっしゃり、また、園庭やおもちゃといった保育には欠かせないものが揃っているため、地域の子供をもつ方にとっては、頼りにしたい場所だと思います。ですが、果たして、常に正規の先生が欠員状態で運営している保育園で、そこまでやる余力があるのだろうか、とってしまいます。ただでさえ、厳しい状況の保育園に、地域サポートまで任せたとして、本来保育の必要な親が就労している我が子のような子達は、これまでどおりの手厚い保育を受けることができるのでしょうか？心配になってしまいます。できれば、地域サポートのための施設を新たに作っていただければ、と思います。区役所内にある、ピョピョ広場のような形がよいのではないのでしょうか？また、児童館にそのような機能を持たすことはできないのでしょうか？</p> <p>また、(4) 災害時の防災拠点には大賛成です。確かに、乳幼児を連れて学校で避難生活を送るよりは、保育園のほうが子供生活に向いていると思います。</p> <p>以上、簡単ですが、中間報告に意見を述べさせていただきました。最終報告を楽しみにしております。委員会の皆様、どうぞよろしくお願い致します。</p>	メール
27	<p>現在10ヶ月の子どもの母親です。来春から再び働きはじめる予定です(保母です)。非常勤(フルタイムでない)の為に、区の認可園に入るのは難しいと区役所の担当の方に言われました。自分は認可園で働きながら、子どもは無認可なんて切ないです。区の保育園に入れるのは、選ばれたごく一部の方だけです。毎年のように保育園は増えていますが、現状に満足しないで欲しいです。質はもちろん大切ですが、それを利用する人が少数では意味がありません。</p>	はがき
28	<p>保育園の機能を高めるという所で、区有施設の余裕教室や校庭などを使えるようにというのがありました。長女が入園当時、運動会はホールで行うため年長さんは限られた演技しかできませんでしたが、汐見小の校庭をお借りできるようになり、本当に有難く思いました。進級お祝い会は相変わらず参観の父兄でいっぱいになりますが、のびのびした子供を育てるためにも、空いているスペースをたまの行事の時に使わせてもらえると助かると思います。</p>	メール
29	<p>ビジョン4に関わる問題として、認証保育への補助金の充実をあげます。現在の多様な働き方のニーズに答えているのは認可保育園ではなく認証保育所です。しかし認証保育は土地を所有せず補助金も少ないため、高額な保育料を払うこととなります。保育の質は認可保育園や幼稚園よりも勝るものであります。これら2つとの補助金の格差を縮小化していくべきです。</p> <p>保育ビジョンが掲げているように、文京区が子育てで支援と親の就労支援等で真に先駆的な試みを内外にアピールするならば、是非とも実現してゆくよう切に願います。</p>	はがき
30	<p>「公設公営保育園の維持」とありますが、「文京区全ての保育園の維持」に変更を希望します。私立保育園、認証保育園についても「子育ての拠点として機能する保育園として、よりいっそう大事に維持していく」との一文を加えてください。文京区の全ての子ども達に目を向けてください。</p>	メール
31	<p>保育料が聖域ということですが、誰が決めたのですか。保育の充実を掲げるのであれば、1人あたり、現状いくらの経費がかかり、負担額はどのくらいかを示してほしい。また、それが保育の充実によりどう経費が増えるのかを示してほしい。民営化をせず、保育の質を維持するのであれば、保育料を上げるべきです。受益者負担の原則は、保育でも例外とすべきではないと考えます。一方で保育に頼らず子育てをしている世帯は多く、日本の雇用環境からは、その世帯の生涯収入は、継続して働く世帯とは大きな格差があるのが現実であり、生涯収入の視点から保育を利用する世帯と利用しない世帯とのバランスを考慮し、保育料の負担額を検討すべきと考えます。</p>	はがき
32	<p>「公設公営保育園の維持」は絶対にそうして欲しいです。</p> <p>文京区以外の保育園や区内の認証保育園を利用したこともあり、文京区の公設公営保育園を8年近く利用してきて、十分に良さを実感しています。</p>	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
32	<p>数年前から民営化するという話も出てきていましたが、何のためにするのか、することによってどういう影響が出てくるのかを十分に検討していただきたいです。</p> <p>また、現在の保育士の定員割れの早期解決をよろしくお願いします。</p> <p>2階建て要員の撤廃による保育士削減以降、目に見えて、先生方の忙しさが増えています。朝夕は特に正規職員より非常勤職員が圧倒的に多く、話をしたくても、忙しそうで声をかけていいものかとためらってしまいます。</p>	メール
33	<p>先日2/23の傍聴も致しました。極めて遺憾な最終報告への流れの為、区民として以下のとおり意見を提出致したく存じます。</p> <p>1. 待機児童数について 添付資料にあった待機児童は基本的に「断られても必要性が高く待ち行列に並ぶ緊急性の高い要請」の数です。表どおりに読んでも保育を受ける権利を得られない待機児童が3割居る現状がああビジョンまとめでは区長に届かないと思います。 区役所窓口行政手順では、待機しても意味のない（保育を受けられる可能性が低い）場合は待機待ちさせていません。従ってその現状を基準に考慮すれば、半数以上の保護者が不満に思っている状況で、「美しい日本」ならぬ美しい「夢の文京区政」を繰り広げる事自身が行政への信頼を失わせます。ああビジョンのままでは、住民と区政の乖離はさらに大きくなります。本来の緊急保育も用意できず、ああ認識のままですら進められるなら、文京区で「赤ちゃんポスト」を設置したほうが良いと思います。</p> <p>2. 税収基本の姿勢 出産者がたとえニートであれ脱税者であれ、子は親を選ぶ事はできません。そして、子には人権があります。本来受けられる保育が十分でない場合、将来の納税者（子）は区政のみならずすべての行政に対して大きく失望すると思います。何卒、論ずる相手の気持ちを考えてみてください（母親のみではありません）。また、行政に救い（保育）を求めに来た区民で「待機」と言われる時点で、そして、言葉を信じて「緊急保育」を受けようとして「事前登録」にぶつかった場合、著しく行政への不信が高まります。言葉遊び・単語による偽装でしかない「緊急保育の提供」だの「十分でない保育所」の現状を現区長や新着任区長に報告するのが御委員会の勤めであると最後の信頼を致しております。 生と死は人間の意図通り予定できないものです。焼き場は冷凍して待機させる事があるうとも予測できない「生」に対する保育の提供は行政の最低要件です。十分な保育が提供できない自治体（待機児童が居る時点）が語るどのような美しいビジョンも区民には逆効果だと意見させて戴きます。 また上述のとおり、実質の伴わない緊急保育（擬政）も区長の意図したいものとは思いません。委員会のメンバーの皆様が、事実・実態を報告しない限り悪循環が進行すると考えています。皆様の本当の保育の理念が「政」に反映されます事を期待しております。</p>	メール

## ■ 第V「保育ビジョンの推進に向けて」について

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	<p>「保育ビジョンの推進にあたって、具体的な検討を行う場合は、区民参画により検討を進めてゆく」とありますが、「具体的な検討を行う場合は」と書いてあるということは、今すぐ具体的な検討は行わず、今後このビジョンのうちの何かを検討する場合に限って区民参画が実現されるということですか？実際に区民参加の下で実現されるはずのビジョンが、なんだか最後のところで骨抜きにされているような気がしてなりません。</p>	メール
2	<p>子育て予算の増額は、国にこそ要求していくことではないでしょうか？文京区の高齢者がいきいき健康で暮らすためにも、予算を使ってほしい。子どもにたくさん配分するというのは納得できません。寿会館のおフロをなくすなど高齢者も少ない予算の中でガマンしていることをわかって欲しい。予算の適正配分というが、子どもに予算をたくさん使えということにしか読み取れません。高齢者も大切にしてほしいです。</p>	はがき

No.	質問・意見・要望	受付方法
3	保育ビジョンの推進にあたっての「具体的検討」とは何を指すのか？ 保育ビジョンの推進にあたっての「具体的検討」とは何を指すのか？今回の保育ビジョンは、「就学前の子どもに係る分野の基本理念・基本目標を示し、文京区地域福祉計画（「文の京」ハートフルプラン）及び文京区子育て支援計画（文京区次世代育成支援行動計画）の具体化及び計画の見直しの際の基本指針」とされており、子育てに関する様々な事柄が議論されている。言うまでもなく現在でも文京区において子育て支援に関する行政が形で行われているのであるから、この保育ビジョンの具体化は現在進行中の事柄のはず。どのような形態で、区民参画により検討を進めるのか、今すぐ具体的な枠組みを決定する必要があるのではないかと懸念される。これを文理的に読めば「具体的な検討を行わない場合もありえる」とも読める点が懸念される。前述の通り、この保育ビジョンの具体化は現在進行中の事柄であり、具体的な検討を行わない場合、というのはいり得ない。また、保育ビジョンが実現されるのかを継続的にモニタリングできる枠組みを確保することが、保育ビジョンの実現に必須と思われるので、保育ビジョンの策定と同時にその実現の具体的な枠組みが決定されることを期待する。	その他
4	「保育の質に関する指針の策定」の進め方 どのように策定するのか、具体的な提示が期待される。現時点で具体案はあるのか？	その他
5	「保育ビジョンの見直し」の具体的な手続きは？ 保育ビジョンが将来において見直される場合も、今回の保育ビジョン策定検討委員会と同様の審議を経て、見直されるのか？	その他

## ■ 区報・区民説明会・パブリックコメントについて

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	区民説明会の流れとして、区民側の意見を区が聞き、それを委員会の委員に伝えるという段取りになっているが、委員の方と区民が直接話すことができれば、話が早いのでは。より密度の濃い話し合いができるのではないかと思います。	説明会
2	今日の説明会で、事務局としてできること、委員でないから答えられないことが強調されていることに違和感を感じる。それでは伝言ゲームになってしまうし、通常このような報告書の文章は事務局がつくるのであるが、事務局がつくるプロセスと座長にオーソライズして連携して進めていくプロセスがどのくらい真面目だったかが見えにくくなってしまふ。	説明会
3	説明会はシビックばかりでなく、もっと全区的に行ってください。遠いに行かれませんか。お願いします。	はがき
4	区報の配付について この区報のみ、なぜ新聞折込みなのか説明する事。新聞の契約者のみ配付されるのは疑問だ。その他の家には報じる必要がないという事か。	はがき
5	パブリックコメントとして意見募集をするという話が委員会の場で事務局からもあったのを聞いた覚えがありますが、パブリックコメントで寄せられた意見には公開資料の上で個別の回答がされるのが常識だと思いますがいかがですか？	メール
6	もう少し説明会の回数を増やして欲しい。説明会の目的は何なのか、ただ説明会を開いたという既成事実を残すだけなのか。3月までに本ビジョンを形式のみでもいいからまとめることしか意識しておらず、何が最大のゴールなのかまったく無視しているような気がする。内容を是非重視して欲しいので、引続き検討委員会を続行して欲しい。	メール
7	意見の書込みフレームが小さすぎて記入しづらいので大きくしてください	メール

No.	質問・意見・要望	受付方法
8	説明会の意味がわかりません。何で事務的なのですか。もっとビジョン作成に対して前向きにしてほしい。例えば、事務局で説明できない部分は、委員会の方から説明できるように用意していただければよかったですのではないですか。	意見シート
9	2か月の乳児を持つ母です。本日は報告を聞かせて頂き、どうもありがとうございました。区報の記事、「中間のまとめ」もそうなのですが、全体的にわかりにくいです。「わかりにくさ」＝「とっつきにくさ」があげられ、今回の説明会の参加者の人数のように、利用者の声を集めることが難しいのではないのでしょうか？ 「区民の声を聞きたい」とのことですが、いったいどのような声が聞きたいのかもわかりません。区・事務局がどのような声を求めているのか、また、他の区民がどのような意見を出しているのかがわかれば、区民も声をあげやすいと思います（たとえばアイデアを求めているのか、要望を求めているのか、苦情を求めているのか）。	意見シート
10	本パブリックコメントの取り扱いについて 区報においては「お寄せいただいた意見は、整理したうえで、個人情報を除き公開します。」となっているが、想定されているのはどのような「整理」か？また、保育ビジョン策定検討委員会の議事録などを読むに、今回の意見聴取は「パブリックコメント」として行われたものと考えられるが、一方で文京区ホームページ上の「文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめについてのご意見」のページに「個別の回答はいたしません」とあるのは大いに疑問。パブリックコメントに寄せられた意見は公序良俗に反するものでない限り全て公開され、それに対して何らかの回答が為されるべきであり、意見聴取から回答までのプロセスに意見を聴取した側の忖度が介在するのは不適切。また、今回は、議論されているトピックそのものが多岐にわたりかつ相互に関連するものであり、加えて、自由記述で意見が聴取されているため、寄せられた意見を今回の保育ビジョンの構成に合わせて分類することすら難しいはず。似たような意見が重複することも当然想定されるが、そうした場合は、「～については意見X番に対する回答をご参照ください」などとすれば、意見を整理せずとも回答内容の整理は可能と思われる。	その他
11	区民説明会に参加しましたが、回数も少なく、告知からも日が浅かったためか、参加者も少なく、区民への周知不足を感じました。 説明会で、メールやはがきでも意見が届いているので、十分に意見は集まるようなことを事務局の方はおっしゃっていましたが、委員会としても同じ意見なのではないでしょうか。	メール

## ■ その他

No.	質問・意見・要望	受付方法
1	3人子どもがいると子育てに追われてしまい、なかなかこういうところに来る機会もなかったが、昨日の第1回の説明会では、あまり幼稚園のお母さん方が来ていなかったという話を聞いた。娘の幼馴染のお母さん方から、幼稚園の集まりで煙山さんが来た新年会があったという話を聞き、煙山さんは保育園には関心をもっただけなのに、私立・公立幼稚園のお母さん、役員の方々には甘いのかなとも感じた。 親としていい保育ができるよう望んでいるので、子どもたちのためにいいビジョンをつくってほしい。	説明会
2	認証保育について。委員会を傍聴しているが、発言した方は認証保育を望んでいるといった訳ではなく、民営でもいいので良質な保育園を増やすべき、という発言をしていたと思うので、事実を確認してほしい。	説明会
3	0・1・2歳で保育園に通っていない家庭にどのような支援をするかが大きな課題、ということであるが、その方々の意見を聞くためには、幼稚園に行かれている方に0・1・2歳の頃はどうかを聞くのが、普通のストーリーではないかと思う。	説明会

No.	質問・意見・要望	受付方法
4	<p>密室育児をしている。家で絵を描く仕事をどうしても続けたくて、育児をしながら家でもできるのではと言われたが、実際に出産をしてみると、まったくできる状況ではなかった。親を呼び寄せることをせずに、家で何とか仕事を続けることができないか、自分なりにいろいろ試してみたが、現実にはうまくいっている状況ではない。フリーで絵を描く仕事は、いったん仕事が途絶えると、次の仕事が来なくなる現実があり、なるべく少しでも仕事をして実績を残したい、という気持ちだけで今はやっている。仕事はどんどん減り、このまま今まで自分がやってきたことがなくなってしまうのではないかという不安がある。仕事がいつくるかわからない場合でも、子どもを預けられるところがないか考えているが、結局すごく難しく、無理なんじゃないかと思っている。保育所に申し込み、ファミリーサポートにも申し込んでいる。不安はあるが、それでもチャレンジして、何年か先でも、復帰したときに仕事を続けていけるんじゃないかという夢をもちながら子育てをしている。</p>	説明会
5	<p>子どもとの時間が長いので、外でどのようなことが起こっているか、実際、よくわかっていない。社会の中で子育てをしようという感覚が、ビジョンを読んで逆にすごく新鮮に感じた。どのように社会と関わっていけばいいのか、社会にお世話になったらいいのか、自分以外の密室で子育てしているお母さん方も思っていると思う。児童館では、みんなが一時保育やファミリーサポートなどの噂をしているが、実際に、上手に試したり、上手に使っている、という声は実はあまり聞いたことがない。上手に使っている人はいるのかな、という感じ。</p>	説明会
6	<p>世田谷区の小学校では、放課後に事前申し込みも費用の負担もなく、毎日17時まで学校で遊べる「ポップ」というシステムがあるそうです。文京区でも是非同様のシステムを早急に開始していただきたいです。</p>	はがき
7	<p>保育園卒園後の支援事業として、また地域の保育機能として、児童館と育成室は重要な位置を占めている。この点についても一節を設けて言及し「ビジョン」を示すべき。その場合には、小学校校内での育成事業の展開と、6年生までに対応した育成室機能の強化を盛り込んでほしい。</p>	はがき
8	<p>厚労省から支給されていた母子家庭に対する援助金が段階を経て削られるが、そのような国の政策のケアなども自治体で取り組んで欲しい。</p>	メール
9	<p>学童保育も、保育園同様、時間延長を検討していただきたい。</p>	メール

### 3. 事務局に対する質問及び質問に対する事務局回答 <区民説明会>

No.	質問	事務局回答
1	区報ぶんきょうには、意見を2月16日までにお寄せくださいとあるが、2月1日に意見をとりまとめるというのはどういうことか。詳しいスケジュールが決まっていたら教えてほしい。	次回の委員会が2月1日開催なので、1月中に出された意見については、そこで報告する。それ以降に出た意見については、随時とりまとめの期間を定め、最終のまとめに反映できるよう、委員に報告する。 最終のまとめは3月中に作成の予定であり、日程は調整中。
2	1月のいつまでに意見を出すと、2月1日に開催される策定委員会で反映されるのか。	資料を委員に事前送付する期間を考えると、1月25日くらいが一定の目安と考える。
3	中間報告のまとめの文章に、会長の名前がどこにも書いていないが何故か。	区報特集号では冒頭示している。最終のまとめで明記したい。
4	率直に、まとめのレベルが低くて非常に不満なのだが、会長とのやり取りの中で、このレベルで出しているという議論があったのかどうか。この内容で会長はオーソライズしているのか。	会長のお考えは、中間のまとめの時点ではワーキングで出た意見をできる限り生かす、ということであった。4つのグループでまとめた中間のまとめを元に、区民の意見を反映し、最終のまとめにしていこう、と提案を受けている。
5	中間のまとめの公表が12月25日で、区民説明会は4回開催されるが、すべて周知から1か月以内である。子どもを2人保育園に預けていて小学生もおり、保育室は就学前しか利用できないとなると、今日しか時間がとれなかった。今日のことも気が付いたのが先週で、調整してやっときた。日程もすごく少ないと思うし、内容も保育園だけでなく、区民全体の保育に関わることで、すべての保育園・幼稚園で説明会をするような内容ではないかと感じている。このような日程を設定した理由を教えてください。	日程については、年末年始をはさんだため、1月初めを避けて落ち着いたところで、ということで、14～16日に設定をした。遅くなると委員への情報提供が遅れてしまうため、この時期に設定した。説明会の回数が少ないことについては、ホームページ等でも内容を公表し、メールやファックス、ハガキ等で意見を募集していく。
6	ビジョンは「文京区地域福祉計画、文京区子育て支援計画の具体化及び計画見直しの際の基本指針」となっている。ビジョンに対して、戦術・戦略として、現状がどうなっていて、目標はこうで、達成可能性はどうか、問題点は何かあって、最低限何ができるか、いつまでにやるのか、予算はどうするかという、具体的なプランまで落とし込んでいかないと、漠然としていて、指針としても活用の仕様がなと思う。そのようなことを3月までにしようとしているのか。 22頁「保育ビジョン実現の推進に向けて」に予算措置の確保・予算の適正配分、とあるが、ここは、具体的に実現への道筋を明らかにしてほしい。それがなされないのに3月にビジョンが策定されると、指針としても使いようがないと思う。	文京区では、基本構想の実施計画が、唯一、予算を伴った計画として策定されている。ビジョンは計画の指針となるもので、プラン、実施計画をどうするかということについては、計画で策定する、という仕分けになると考えている。ビジョンは、計画を方向づけて、区民の方と共通理解に立つ、という性格のものとしてご検討をいただいていると考えている。

No.	質問	事務局回答
7	<p>そもそも委員のメンバーに幼稚園の関係者が入っていない。結果的に保育園に対する過大な責務が負わされていると思うが、幼稚園については何も言及されていない。ビジョンは、就学前のすべての子どもに関わるものであるし、幼稚園もすばらしいところがたくさんあるので、幼稚園に関して何も議論されていないのは不十分だと思う。バランスを欠いているので、最初から考え直すべきではないか。</p>	<p>公募委員にはお子さんを幼稚園に通わせている方々があり、そこで意見をいただけるということでメンバー選定をしたところもある。幼稚園の責務については、最終のまとめの中で検討していきたい。</p>
8	<p>幼稚園関係者は、委員選定の段階から入っていなかったと思う。それはなぜか。</p>	<p>0・1・2歳児の保護者の負担感は切実なものがあり、そこへの支援のあり方や、保育の中心を担う保育園のあり方、という部分では、幼稚園とも連携は必要であるが、という認識であった。幼稚園の機能も変わりつつあり、果たすべき役割も高まっているという認識はもっている。</p>
9	<p>区が委員会の事務局として説明するときに、委員会の意見を代弁できることが十分に可能である立場として住民に対応していくのか、それとも事務局はあくまで事務局であって、今日の説明会のようにできる範囲で説明する、あるいは委員に伝えるだけのつもりなのか。今後文京区はどちらの説明を続けていくのか、区としての統一見解を伺う。</p>	<p>区としての統一見解は私が答弁するところではない。保育ビジョンについては、区民の方のワーキングを中心に検討がなされ、そこに事務局が入って意見をとりまとめているという位置づけである。今回の説明会では、このような性格の中で、事務局がきちんと皆さんの意見をうかがい、委員会に報告をする、という位置づけを明確にした方がよいだろう、と考えているところ。最終のまとめをどのような形で示すかは今後の課題と考えている。</p>
10	<p>パブリックコメントはどのような形で区民に開示されて、まとめられるのか。最終のまとめに添付された形になるのか、提出されたパブリックコメントがいつでも検索できるような形で、ホームページなりで公開されるのか。その扱いを教えてください。今回、1月末、その後2月16日までと2段階で扱うという話があったので、その扱いが区別されることなく最終のまとめに反映されるかが不安。</p>	<p>説明会等で区民の方々からいただいたご意見については、個人情報を除いて委員会へ全て報告する。その後、ホームページや公共施設に配備するなどして公開する形を考えている。時期によって意見の扱いを区別することは無い。最終的な報告書にどのような形で添付をするのかについては、今後検討する。</p>
11	<p>23頁の最後、保育ビジョンの見直しのところで、「適宜改訂して時代の変化に即応できるように」とあるが、適宜改訂していくときに、区だけで改訂していくのか、またこういう委員会を立ち上げて改訂していくのか、教えてください。ビジョンの策定検討にあたっては、できるかできないかわからないけど夢を語ってください、ということであったが、全部ができるとは思っていないが、できる部分に関しては、ピックアップされたものが出てくるのか、それとも区民にはわからず、区の方だけで進めていくのか。</p>	<p>ビジョンに限らず、区は区民参画を進めてきているし、今後も進めていくことが基本となるので、区の独断で何かを進めることはない。</p>

No.	質問	事務局回答
12	私は子どもを保育園に通わせているので、保育という保育園をイメージするが、この内容は、保育園に通っている子どもだけでなく、就学前児童のことについてとなっている。しかし、委員の構成をみると保育園の関係者が偏っていて、幼稚園の先生や児童相談所の方も入っていない。ビジョンの構成をみても、3や4はいわゆる保育園の親や子どもを中心に据えた内容にみえる。対象や検討内容、委員構成、すべてがアンバランスな気がする。	委員構成は、各種団体については保育園に限らず、幅広い視点で団体推薦をお願いしているし、公募委員については保育園にお子さんを預けている方は対象外にした。事務局サイドとしては保育園関係者に偏った人選という認識は持っていない。DV、児童虐待等については、関連部署の意見を聞くことが十分可能と考えているし、公募委員でお子さんを幼稚園に預けていらっしゃる方もいる。
13	今後保育ビジョンの具体化をどのように進めていくのか。22頁に「保育ビジョンの推進にあたって、具体的な検討を行う場合は、区民参画により検討をすすめていく」とあるが、この文章は非常に幅の広い意味がある。ビジョンができた後、違うことが起きた場合は、その時々に応じて検討するという意味にとれる一方、保育ビジョンが地域福祉計画や子育て支援計画の具体化を図る際の基本指針という位置づけがされている以上、子育て支援行政が日常的に行われているのであれば、今日この日も保育ビジョンを実現しているとも解釈できる。ビジョンの具体化の音頭をとるのは保育課が中心となると思うので、現時点で想定されている具体的な検討を行う場合というのはどういう場合なのか、どういう形で区民参画を行うことが想定されるのかを教えてください。	保育行政は現在進行中であるので、どのような形で事業に力を入れていくべきなのか、保育行政を担う我々が真摯に受け止めて施策をつくっていく、もしくは計画にない事業についても、予算要求に反映させていくことが、大事な姿勢になると認識している。検討を行う場合どのような形で、ということについては、これまでの区民参画の手法を踏まえ、区民の皆さんに納得いただける形での進め方をしていきたい。
14	パブリックコメントの取り扱いについて。募集された意見は、公序良俗に反するものを除き、原則的には公開され、それに対して個別に回答がなされる、という通常のパブリックコメント的な取り扱いになると理解してよいか。	個人情報を除いてすべて委員に示すので、委員会資料として、ホームページや公共施設への配備により公表する。保育ビジョンは策定検討委員会がまとめたものに対して区民意見を募集し、それをもとに最終のまとめを検討するという位置づけになっているので、個々の提案・意見に対してコメントを付すという形にはならないと考えている。
15	保育ビジョンは、どのように委員会ができて、検討が始まったのか。	24頁の要綱のとおり、文京区の保育行政全般に係る指針となる文京区保育ビジョンに規定する内容を検討するため。なぜ今、保育ビジョンなのか、ということだが、例えばいわゆる密室育児などにより子育ての負担感が高まっていることや、子育て支援の充実が区が掲げている重点施策の1つであるとともに、この5年間は少子化対策に重点的に取り組むべき、というのが全国的にも共通認識ともなっているため、改めて小学校入学前の子育てにとって重要といわれている時期に、どのような支援を行っていくのかの指針をビジョンとして策定しよう、というところ。

No.	質問	事務局回答
16	<p>ビジョン1は、子どもの視点に立って子どもの育ちを保障するという内容で、18頁は親の就労支援のための役割として、都市型保育需要に対応する、とあり、これは親の都合。4つのグループで検討したということだが、視点がばらばら。これが、保育行政全般に係る指針となるものなのか、非常に疑問がある。4つのグループにわかれて検討した結果というのはわかるが、それをとりまとめる必要があるのではないか。</p> <p>文京区が子育てをいっただいどういうふうにしていくのか。まちはこう、子どもにとってはこう、親の支援はこう、企業にとってはこう、とばらばらに出てくるだけで、全体を通して、いっただい子どもをどう育てていくまちなしていこうとしているのか、その一番大事なところが抜けている気がする。そういう意味でまだまだ検討する必要があると思うが、どうしても3月までにまとめをする必要があるのか。</p>	<p>中間のまとめに対しては、こういった視点で検討をしたらどうか、こういった内容をいれたらどうか、というご提案をいただければと思う。</p> <p>3月までというのは、委員会の中でオーソライズされている。中間のまとめは委員の皆さんに時間がない中で大変な作業を担っていただきまとめたものだ。まとまっていない部分については、今後検討・整理をしていければと考えている。</p>
17	<p>区長は中間のまとめに目を通してしているのか。</p>	<p>庁議で中間のまとめを区長に報告しており、目を通してしている。今後区民の皆さんの意見をもとに最終のまとめをするということであるので、ひとつひとつのことに対しては意見はいただいていない。</p>
18	<p>・2頁の(3)「就労支援の必要性」で、認証保育所の増設を望む人が増えている、とあるが、個人的には、認証保育所と認可保育園の違いをわかっている親が、認証保育所の増設を求めることはありえないと思う。委員会もほとんど傍聴したが、認証保育所を増設してほしいという声は一切聞いた記憶はない。この記述はどこから、どのようにして、どなたがおっしゃって、どなたが記述したのか。</p>	<p>中間のまとめは、4つのワーキンググループでの検討内容を事務局が整理し、まとめている。2頁は会長、副会長を含めて事務局が作成し、委員の皆さんにご確認いただいたもの。事務局が整理している段階で、この文言を入れたということになる。委員ひとりひとりがこの文言を認めているかどうかは、確認をしていないが、事務局として、中間のまとめについて了解をいただく手続きはとっている。</p> <p>今のご意見は、策定検討委員会にあげて検討していきたい。</p>
19	<p>対象が就学前の子どもとなっていながら、子どもビジョン、子育てビジョンというタイトルにならなかったのはなぜか。</p>	<p>子どもというと一般的には18歳までであり、就学後の放課後の問題、居場所づくりの問題も含め、幅広くなってしまう。また、子育ては就学前の時期は非常に大事といわれており、就学前の子どもの健やかな成長を考えていこう、ということ。幼稚園にも保育園にも行っていない保護者が子育てにとっても不安・負担感を持っているということで、そうした方々に、保育の視点からの支援を掲げることが大事、ということで就学前の子どもを対象にすることで、保育ビジョンとした。</p>
20	<p>就学前の子どもが使う公共施設として、児童館、幼稚園などある中で、保育園が中核として定義されたのはなぜか、説明してほしい。</p>	<p>委員会での議論で、幼稚園は3～5歳の子どもに教育的な役割を果たすところで、0～2歳児への支援は難しいという話もあり、保育所が中核機能を果たすことが大事だという議論があった。また、保育については大きな柱の1つであり、保育の機能の充実・拡大という視点で検討いただいた、ということもある。</p>

No.	質問	事務局回答
21	<p>中間のまとめ特集号は新聞折り込みで案内をいただいたということだが、学校の将来ビジョンのときは、折り込みでなかったように記憶している。区の中で、配達の方法に違いがあったのはなぜか。</p>	<p>区報は10日と25日発行の通常号は町会に委託して配布している。特集号の場合は、新聞折り込みで配布する形になっている。教育ビジョンも新聞折り込みで配布した。</p> <p>区内施設にも配備はしているが、最近、新聞をとっていない家庭も増えているということで、今後は、区民の皆さんすべての手元に届くようなあり方を徹底していきたい。</p>
22	<p>保育ビジョンの取り上げている内容が広すぎる。親の就労のことや公園のことは、保育のあり方からずれているという気がする。もう少し具体的に、子育てに関して掘り下げて検討したのかと期待していた。これに関して意見を、といわれても、何の意見をどう言っているのかかわからない。区の中で、特に何を優先的に、という優先順位、目標があれば教えてほしい。</p>	<p>委員会では、現実的に子育てをする中で必要な施策やニーズからの議論が多かったことから、こうした内容とした。区民の皆さんからの意見を踏まえて、どういう形で大きな目標にしていくか、今後取り組んでいく必要があると思う。</p>
23	<p>3月末までにとりまとめをすることは、時間的に可能なのか。</p>	<p>委員会でも日程についての議論はあったが、3月までということ委員の合意を得ているので、3月の最終的なとりまとめに向けて努力していきたい。</p>
24	<p>今日の説明会に、事務局以外に、会長、副会長、区職員である大角部長以外の委員がいらっやっていないのは、どのような理由からなのか。</p>	<p>事務局の立場から、区報特集号と同じ位置づけで、こうした説明会を開催して、ご意見をうかがっていく形で設定をしたものである。今回は、中間のまとめに対して広く区民の意見を募集し、最終的なものを検討するということが、会長、副会長の意向でもあり、こういった説明会を事務局として開催した、ということである。</p>
25	<p>この報告を4月までにまとめるということで、4月から何かしらのことを実行していくことも含んでいると解釈したいと望んでいるが、ビジョンに対する予算はどのくらい含む予定なのか、今後公表するところがあるのか、教えてほしい。</p>	<p>ビジョンは保育に対する指針、ということで検討いただいているものであり、保育ビジョンの予算という形では明確には定まっていない。但し、どのような施策に力を入れていくのかという方向性を示すものであるもので、計画にない事業でも実施が必要な場合は、年度ごとの予算の中で予算要求をし、議会で審議していただき、実施をしていく形になると考えている。ビジョンは、こういった施策を実行するのか、ということに対して、方向付けをするもののご理解いただければと思う。</p>
26	<p>22頁の1「具体的な検討を行う場合は、区民参画によりすすめていく」とあるが、具体的な検討とは、例えばどういうことなのか。区民参画とは、具体的にどのような形で区民が参画するのか。</p>	<p>具体的な検討の内容については、これからの議論を待ちたい。</p> <p>区民参画の仕方については、画一的な形態はない。区民の方のご意見を何らかの形で取り込んでいくために、これまでも区民との協働で区政運営をすることを基本に掲げている。公募委員を募るなど、その都度相応しい区民参画の手法を取り入れて、検討する形になると思う。</p>
27	<p>中間のまとめということで全体的に詰めきれていないのだけれど、整合性がとれていないところがある。その部分に関して、2か月の期間でまとめることができるのかという疑問がある。</p>	<p>整合性をどのようにとったらよいか、といったご意見をいただければと思う。</p>

No.	質問	事務局回答
28	<p>指針としての位置づけがよくわからない。ビジョンの内容を読むと、具体的な項目まで提案としてあげられている。これは、何か施策を提案するものなのか。それとも子育て支援計画等の計画の優先順位付けをしていくものになるのか。</p>	<p>施策レベルの提言をいただいている部分もあるが、2～3頁にあるように、子育て支援計画の方向性、重点的に何をするかを示すものとなる。</p>
29	<p>子育て支援計画において、この指針に基づいて優先順位がつけられるとしたら、それはどのような形で検証ができるのか。ビジョンだけでは検証できないのではないのか。</p>	<p>単年度ごともしくは次期の計画策定の際に区民の皆さんに示し、検討していく。また議会にも報告する。そういった場面で、ビジョンがどのような形で生かされているかが検証できると考えている。</p>
30	<p>最終のアウトプットのイメージがまだないようだが、最終のまとめの後も、今回のような会やパブリックコメントをとるのか。いろいろな経緯を経て、最終的にどのようにまとめたのかを示していただけるとよいと思う。</p>	<p>今後の方向性については、会長、副会長と詰めて進めて参りたい。</p>

## 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告書

～子どもたちの豊かな成長と子育て家庭の暮らしを保障するまちへ～

---

平成 19 年 3 月

発 行：文京区男女協働子育て支援部保育課

〒112-8555 東京都文京区春日一丁目 16 番 21 号

電 話：03-5803-1189（ダイヤルイン）

印刷物番号：D0106054

---